

吉野ヶ里遺跡 古代編 2

—官道及び遺跡南半部—

令和 6 (2024) 年 3 月

佐賀県

序

吉野ヶ里遺跡の発掘調査は、工業団地計画に伴い昭和61年5月から開始しましたが、国内最大規模の環壕集落跡や豊富な副葬品が出土した墳丘墓の発見などにより、平成元年2月以来大いに注目されてきました。その後、遺跡を取り巻く環境は、平成元年3月の遺跡保存の決定、平成2年の史跡指定、平成3年の特別史跡指定、平成4年の国営歴史公園設置の閣議決定、平成7年11月の公園整備工事着手という急速な展開を遂げ、平成13年4月23日には第1期開園を迎えました。現在、公園整備はほぼ完了しており、多くの来園者でにぎわっています。

さて、吉野ヶ里遺跡の発掘調査では弥生時代のみならず、奈良・平安時代においても重要な成果が得られています。なかでも、官道や郡衙・駅家に関連する建物群、寺院に関する調査が特筆され、古代の神埼地域さらには佐賀県の官衙関連遺構の研究に欠くことのできない資料となっています。

本書は、文化庁の補助を受け、吉野ヶ里遺跡の古代に関する調査成果を総括する報告書の第2冊目になります。本書を学術資料としてお役立ていただければ幸甚です。

最後になりましたが、これまでの発掘調査にあたり、適切な御指導をいただいた文化庁、調査指導委員会はじめ関係各位、多大な御協力をいただいた地元市町教育委員会、国土交通省九州地方整備局国営海の中道海浜公園事務所をはじめ関係機関の方々には、心より厚くお礼申し上げます。

令和6（2024）年3月

佐賀県地域交流部

文化・観光局長 中尾 政幸

例 言

- 1 本書は、佐賀県教育委員会が実施した佐賀県神崎市大字志波屋・鶴・田道ヶ里、吉野ヶ里町大字田手・大曲に所在する吉野ヶ里遺跡の発掘調査報告のうち、古代総括編の第2冊目で、遺跡南部の調査報告書である。
- 2 本書の作成は、文化庁の了承を得て国庫補助事業として実施したが、報告の対象は昭和61～63年度に実施した神埼工業団地計画に伴う発掘調査、平成元～23年度に実施した国庫補助事業による発掘調査、平成9～24年度に実施した国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う発掘調査とする。
- 3 発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり、神埼町（現：神崎市）教育委員会、三田川町・東脊振村（現：吉野ヶ里町）教育委員会の協力のもと実施した。
- 4 吉野ヶ里遺跡の範囲については、現行の『佐賀県遺跡地図』に従った。
- 5 報告書作成に係る整理作業は吉野ヶ里遺跡発掘調査事務所で実施したが、一部を業者に委託した。
- 6 本書の執筆・編集は塩見恭平が行った。
- 7 吉野ヶ里遺跡の出土遺物・記録類は、吉野ヶ里遺跡発掘調査事務所で保管・管理しているが、一部の写真類や出土品は佐賀県文化財調査研究資料室、佐賀県立博物館で保管している。
- 8 吉野ヶ里遺跡の発掘調査は、文化庁、佐賀県文化財保護審議会や調査指導委員会の先生方をはじめ多くの研究者の御指導・御助言、発掘・整理作業員をはじめ地元の方々や関係機関の御協力いただき、心から感謝申し上げます。

本書の記載方法

1 吉野ヶ里遺跡の調査では、神埼工業団地計画に伴う発掘調査開始時において、当時の遺跡地図に基づく遺跡名を使用しており、遺跡の略号についてもそれぞれに与えていた。その後、それらの遺跡を統合し吉野ヶ里遺跡として登録しているが、当初の遺跡名を地区名として使用しており、混乱を防ぐため、略号の変更を行わず、当時と同じ英大文字3字の略号を使用して、実測図・写真等の記録類や出土遺物の注記に利用している。吉野ヶ里遺跡の各地区・遺跡の略号は、次のとおりである。

SSO：志波屋三の坪（乙）地区 SYT：志波屋四の坪地区 YGK：吉野ヶ里丘陵地区
YNG：吉野ヶ里地区 TDN：田手二本黒木地区

2 個々の遺構名は、遺構記号と4桁の算用数字の組み合わせで示す。番号は、地区ごとに通し番号で数字を付している。今回用いた遺構記号は、次のとおりである。

SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SF：道路跡 SH：竪穴建物跡 SK：土坑 SP：土坑墓
SX：その他・不明遺構

3 出土遺物の○○形土器は、○○とのみ表現する。例）甕形土器→甕

4 実測した遺物には8桁の佐賀県遺物登録番号を1点ずつ付し、挿図では本書内の小節ごとに通し番号を付した。

5 平成14年4月に改正測量法が施行されたが、調査時の記録はすべて日本測地系による旧国土座標であることから、混乱を回避するため、吉野ヶ里遺跡の発掘調査では今のところ世界測地系による座標を使用していない。

本書で示す方位は、国土地理院の旧国土座標第Ⅱ系の座標北である。

6 遺物実測図のうち、断面塗り潰しは須恵器、器面網伏せは黒色土器を示す。

7 表で示した各項目の計測値は、復元値に*、残存値に+を付けて表現する。

8 神埼工業団地計画に伴う調査以降、佐賀県教育委員会が主体となって発掘調査を実施した吉野ヶ里遺跡関係の調査報告書は以下の通りである。この一連の報告書は、本書全体で頻りに引用・参照されるため、本文中などで引用・参照する場合は、佐賀県文化財調査報告書の番号を用いて、『100集』『113集』と表記し、各章などの文献一覧では省略している。

- 佐賀県教育委員会（1990）『吉野ヶ里遺跡－佐賀県神埼郡三田川町・神埼町に所在する吉野ヶ里遺跡の確認調査報告書－』佐賀県文化財調査報告書第 100 集
- 佐賀県教育委員会（1992）『吉野ヶ里－神埼工業団地計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』佐賀県文化財調査報告書第 113 集
- 佐賀県教育委員会（1997）『吉野ヶ里遺跡－平成 2 年度～ 7 年度の発掘調査の概要－』佐賀県文化財調査報告書第 132 集
- 佐賀県教育委員会（2001）『杉籠遺跡－国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書 1－』佐賀県文化財調査報告書第 146 集
- 佐賀県教育委員会（2002）『吉野ヶ里銅鐸－吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区発掘調査概要報告書－』佐賀県文化財調査報告書第 152 集
- 佐賀県教育委員会（2003）『吉野ヶ里遺跡－平成 8 年度～ 10 年度の発掘調査の概要－』佐賀県文化財調査報告書第 156 集
- 佐賀県教育委員会（2004）『吉野ヶ里遺跡－平成 11 年度～ 12 年度の発掘調査の概要－』佐賀県文化財調査報告書第 160 集
- 佐賀県教育委員会（2005）『吉野ヶ里遺跡－田手二本黒木地区弥生時代前期環壕出土の土器と石器－』佐賀県文化財調査報告書第 163 集
- 佐賀県教育委員会（2007）『吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区・枝町遺跡－県立吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書－』佐賀県文化財調査報告書第 172 集
- 佐賀県教育委員会（2007）『吉野ヶ里遺跡－国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書 2－』佐賀県文化財調査報告書第 173 集
- 佐賀県教育委員会（2008）『吉野ヶ里遺跡－田手二本黒木地区の弥生時代中期の石器－』佐賀県文化財調査報告書第 177 集
- 佐賀県教育委員会（2015）『吉野ヶ里遺跡－弥生時代の集落跡－』佐賀県文化財調査報告書第 207 集
- 佐賀県教育委員会（2016）『吉野ヶ里遺跡－国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書 3－』佐賀県文化財調査報告書第 211 集
- 佐賀県教育委員会（2016）『吉野ヶ里遺跡－弥生時代の墓地－』佐賀県文化財調査報告書第 214 集
- 佐賀県教育委員会（2018）『吉野ヶ里遺跡－弥生時代の墳丘墓－』佐賀県文化財調査報告書第 219 集
- 佐賀県教育委員会（2019）『吉野ヶ里遺跡－平成 13～23 年度の発掘調査－ 弥生時代の墓地総括・補遺編－』佐賀県文化財調査報告書第 222 集
- 佐賀県教育委員会（2020）『吉野ヶ里遺跡－弥生時代総括編 1－』佐賀県文化財調査報告書第 227 集
- 佐賀県（2021）『吉野ヶ里遺跡 古代編 1－辛上廃寺跡－』佐賀県文化財調査報告書第 229 集

目次

本文目次

第1章 序説	1
1 はじめに	1
2 調査の経過	1
(1) 神埼工業団地計画に伴う調査	1
(2) 遺跡保存後の確認調査	4
(3) 古代の概要	8
(4) 古代総括編の経過	10
第2章 位置と環境	13
1 遺跡の位置	13
2 地理的環境	13
3 歴史的環境	16
(1) 旧石器・縄文時代	16
(2) 弥生時代	18
(3) 古墳時代	22
(4) 古代	24
(5) 中世	28
第3章 官道とその周辺	36
1 志波屋四の坪地区 I 区南部	36
(1) 概要	36
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	36
(3) 志波屋四の坪地区 I 区南部の古代の遺構について	121
2 志波屋三の坪(乙)地区南部	133
(1) 概要	133
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	133
(3) 志波屋三の坪(乙)地区南部の古代の遺構について	138
3 吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区	143
(1) 概要	143
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	143
(3) 吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区の古代の遺構について	154

第4章 遺跡南半部の遺構と遺物	156
1 吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区	156
(1) 概要	156
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	156
(3) 吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区の古代の遺構について	185
2 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区	186
(1) 概要	186
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	186
(3) 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区の古代の遺構について	196
3 吉野ヶ里地区Ⅴ区	198
(1) 概要	198
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	198
(3) 吉野ヶ里地区Ⅴ区の古代の遺構について	225
4 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区	230
(1) 概要	230
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	230
(3) 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区の古代の遺構について	237
5 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	238
(1) 概要	238
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	238
(3) 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区の古代の遺構について	240
6 田手二本黒木地区Ⅱ区	245
(1) 概要	245
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	245
(3) 田手二本黒木地区Ⅱ区の古代の遺構について	247
7 田手二本黒木地区Ⅲ区	252
(1) 概要	252
(2) 遺構と遺構に伴う遺物	252
(3) 田手二本黒木地区Ⅲ区の古代の遺構について	267
第5章 まとめ	269
(1) 吉野ヶ里遺跡における古代官道について	269
(2) 官道周辺および遺跡南半部の遺構について	271
(3) その他、特筆すべき遺物について	271

挿図目次

図 1	古代肥前国における吉野ヶ里遺跡の位置 (1/400,000)	3
図 2	吉野ヶ里遺跡北部の地区分けと周辺の遺跡 (1/5,000)	5
図 3	吉野ヶ里遺跡南部の地区分けと周辺の遺跡 (1/5,000)	7
図 4	吉野ヶ里遺跡の主な調査区の位置 (1/7,500)	9
図 5	古代の主要地区 (1/10,000)	11
図 6	吉野ヶ里遺跡周辺の地形分類	15
図 7	旧石器・縄文時代の遺跡分布 (1/100,000)	17
図 8	弥生時代前期の遺跡分布 (1/100,000)	19
図 9	弥生時代中期の遺跡分布 (1/100,000)	21
図 10	弥生時代後期の遺跡分布 (1/100,000)	23
図 11	古墳時代の遺跡分布 (1/100,000)	25
図 12	古代の遺跡分布 (1/100,000)	27
図 13	中世の遺跡分布 (1/100,000)	29
図 14	志波屋四の坪地区 I 区 調査区の位置 (1/4,000)	37
図 15	志波屋四の坪地区 I 区 遺構の分布 (1/3,000)	38
図 16	志波屋四の坪地区 I 区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,000)	39
図 17	志波屋四の坪地区 I 区 古代の遺構分布 (1/1,000)	40
図 18	志波屋四の坪地区 I 区 遺構分布詳細図 1 (1/400)	41
図 19	志波屋四の坪地区 I 区 遺構分布詳細図 2 (1/400)	42
図 20	志波屋四の坪地区 I 区 遺構分布詳細図 3 (1/400)	43
図 21	志波屋四の坪地区 I 区 遺構分布詳細図 4 (1/400)	44
図 22	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 1 (1/80)	45
図 23	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 2 (1/80)	46
図 24	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 3 (1/80)	47
図 25	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 4 (1/80)	48
図 26	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 5 (1/80)	49
図 27	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 6 (1/80)	50
図 28	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 7 (1/80)	51
図 29	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 8 (1/80)	52
図 30	志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 9 (1/80)	53
図 31	志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 1 (1/3)	55
図 32	志波屋四の坪地区 I 区 溝の土層 (1/40)	57
図 33	志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 2 (1/3)	59
図 34	志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 3 (1/3)	60
図 35	志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 4 (1/3)	62
図 36	志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 5 (1/3)	63
図 37	志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 6 (1/3)	64

目次

図 38	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 7 (1/3)	65
図 39	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 8 (1/3)	67
図 40	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 9 (1/3)	69
図 41	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 10 (1/3)	71
図 42	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 11 (1/3)	73
図 43	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 12 (1/3)	75
図 44	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 13 (1/3)	76
図 45	志波屋四の坪地区 I 区	井戸 1 (1/40)	77
図 46	志波屋四の坪地区 I 区	井戸 2 (1/80)	78
図 47	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 14 (1/3)	80
図 48	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 15 (350 は 1/2、他は 1/3)	81
図 49	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 16 (364 は 1/2、他は 1/3)	82
図 50	志波屋四の坪地区 I 区	竪穴建物 1 (1/80)	84
図 51	志波屋四の坪地区 I 区	竪穴建物 2 (1/80)	85
図 52	志波屋四の坪地区 I 区	竪穴建物 3 (1/80)	86
図 53	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 17 (1/3)	88
図 54	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 18 (1/3)	89
図 55	志波屋四の坪地区 I 区	土坑 1 (1/60)	90
図 56	志波屋四の坪地区 I 区	土坑 2 (1/40)	91
図 57	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 19 (1/3)	92
図 58	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 20 (1/3)	94
図 59	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 21 (1/3)	96
図 60	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 22 (1/3)	98
図 61	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 23 (1/3)	99
図 62	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 24 (1/3)	100
図 63	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 25 (1/3)	102
図 64	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 26 (585 は 1/2、他は 1/3)	103
図 65	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 27 (1/3)	104
図 66	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 28 (1/3)	106
図 67	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 29 (1/3)	108
図 68	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 30 (1/3)	109
図 69	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 31 (1/3)	110
図 70	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 32 (1/3)	112
図 71	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 33 (1/3)	113
図 72	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 34 (1/3)	114
図 73	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 35 (1/3)	115
図 74	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 36 (1/3)	117
図 75	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 37 (1/3)	119
図 76	志波屋四の坪地区 I 区	出土遺物 38 (1/3)	120
図 77	志波屋三の坪 (乙) 地区	調査区的位置 (1/2,000)	134

図 78	志波屋三の坪（乙）地区	遺構分布詳細図の位置（1/1,000）	135
図 79	志波屋三の坪（乙）地区	古代の遺構分布（1/1,000）	136
図 80	志波屋三の坪（乙）地区	遺構分布詳細図 1（1/400）	137
図 81	志波屋三の坪（乙）地区	遺構分布詳細図 2（1/400）	138
図 82	志波屋三の坪（乙）地区	溝の土層 1（1/80）	139
図 83	志波屋三の坪（乙）地区	溝の土層 2（1/80）	140
図 84	志波屋三の坪（乙）地区	出土遺物（1/3）	141
図 85	吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区	調査区の位置（1/2,000）	144
図 86	吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区	遺構分布詳細図の位置（1/1,000）	145
図 87	吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区	古代の遺構分布（1/1,000）	146
図 88	吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区	遺構分布詳細図 1（1/400）	147
図 89	吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区	遺構分布詳細図 2（1/400）	148
図 90	吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区	遺構分布詳細図 3（1/400）	149
図 91	吉野ヶ里丘陵地区 I区	掘立柱建物（1/80）	149
図 92	吉野ヶ里丘陵地区 I区	出土遺物（1/3）	150
図 93	吉野ヶ里丘陵地区 IV区	掘立柱建物 1（1/80）	151
図 94	吉野ヶ里丘陵地区 IV区	掘立柱建物 2（1/80）	152
図 95	吉野ヶ里丘陵地区 IV区	掘立柱建物 3（1/80）	153
図 96	吉野ヶ里丘陵地区 IV区	竪穴建物（1/80）	154
図 97	吉野ヶ里丘陵地区 IV区	出土遺物（1/3）	155
図 98	吉野ヶ里地区 I～IV区	調査区の位置（1/2,000）	157
図 99	吉野ヶ里地区 I～IV区	遺構分布詳細図の位置（1/1,250）	158
図 100	吉野ヶ里地区 I～IV区	古代の遺構分布（1/1,250）	159
図 101	吉野ヶ里地区 I～IV区	遺構分布詳細図 1（1/400）	160
図 102	吉野ヶ里地区 I～IV区	遺構分布詳細図 2（1/400）	161
図 103	吉野ヶ里地区 I～IV区	遺構分布詳細図 3（1/400）	162
図 104	吉野ヶ里地区 I区	土坑（1/40）	162
図 105	吉野ヶ里地区 I～IV区	遺構分布詳細図 4（1/400）	163
図 106	吉野ヶ里地区 I区	土坑・土坑墓（1/40）	163
図 107	吉野ヶ里地区 I～IV区	遺構分布詳細図 5（1/400）	164
図 108	吉野ヶ里地区 I地区	出土遺物（1/3）	164
図 109	吉野ヶ里地区 I～IV区	遺構分布詳細図 6（1/400）	165
図 110	吉野ヶ里地区 II区	出土遺物 1（1/3）	167
図 111	吉野ヶ里地区 II区	出土遺物 2（1/3）	168
図 112	吉野ヶ里地区 II区	出土遺物 3（1/3）	170
図 113	吉野ヶ里地区 III区	掘立柱建物（1/80）・井戸（1/40）	174
図 114	吉野ヶ里地区 III区	出土遺物 1（1/3）	177
図 115	吉野ヶ里地区 III区	出土遺物 2（1/3）	178
図 116	吉野ヶ里地区 IV区	掘立柱建物（1/80）	181
図 117	吉野ヶ里地区 IV区	井戸・土層（1/40）	182

目次

図 118	吉野ヶ里地区Ⅳ区 出土遺物 (1/3)	184
図 119	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 調査区の位置 (1/2,000)	187
図 120	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,000)	188
図 121	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 古代の遺構分布 (1/1,000)	189
図 122	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 遺構分布詳細図 1 (1/400)	190
図 123	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 遺構分布詳細図 2 (1/400)	191
図 124	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 土坑 (1/60)	192
図 125	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 出土遺物 1 (1/3)	193
図 126	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 出土遺物 2 (1/3)	194
図 127	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 出土遺物 3 (80 は 1/2, 他は 1/3)	195
図 128	吉野ヶ里地区Ⅴ区 調査区の位置 (1/2,000)	199
図 129	吉野ヶ里地区Ⅴ区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,500)	200
図 130	吉野ヶ里地区Ⅴ区 古代の遺構分布 (1/1,500)	201
図 131	吉野ヶ里地区Ⅴ区 遺構分布詳細図 1 (1/400)	202
図 132	吉野ヶ里地区Ⅴ区 遺構分布詳細図 2 (1/400)	203
図 133	吉野ヶ里地区Ⅴ区 遺構分布詳細図 3 (1/400)	204
図 134	吉野ヶ里地区Ⅴ区 遺構分布詳細図 4 (1/400)	205
図 135	吉野ヶ里地区Ⅴ区 遺構分布詳細図 5 (1/400)	206
図 136	吉野ヶ里地区Ⅴ区 遺構分布詳細図 6 (1/400)	207
図 137	吉野ヶ里地区Ⅴ区 遺構分布詳細図 7 (1/400)	208
図 138	吉野ヶ里地区Ⅴ区 掘立柱建物 1 (1/80)	209
図 139	吉野ヶ里地区Ⅴ区 掘立柱建物 2 (1/80)	210
図 140	吉野ヶ里地区Ⅴ区 掘立柱建物 3 (1/80)	211
図 141	吉野ヶ里地区Ⅴ区 掘立柱建物 4 (1/80)	212
図 142	吉野ヶ里地区Ⅴ区 井戸 1 (1/60)	213
図 143	吉野ヶ里地区Ⅴ区 井戸 2 (1/60)	214
図 144	吉野ヶ里地区Ⅴ区 井戸 3 (1/40)	215
図 145	吉野ヶ里地区Ⅴ区 竪穴建物 (1/80)・土坑 (1/40)	217
図 146	吉野ヶ里地区Ⅴ区 出土遺物 1 (1/3)	218
図 147	吉野ヶ里地区Ⅴ区 出土遺物 2 (36 は 1/1, 他は 1/3)	219
図 148	吉野ヶ里地区Ⅴ区 出土遺物 3 (1/3)	220
図 149	吉野ヶ里地区Ⅴ区 出土遺物 4 (1/3)	221
図 150	吉野ヶ里地区Ⅴ区 出土遺物 5 (1/3)	224
図 151	吉野ヶ里地区Ⅴ区 出土遺物 6 (1/3)	226
図 152	吉野ヶ里地区Ⅴ区 出土遺物 7 (1/3)	227
図 153	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 調査区の位置 (1/2,500)	231
図 154	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,000)	232
図 155	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 古代の遺構分布 (1/1,000)	233
図 156	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 遺構分布詳細図 1 (1/400)	234
図 157	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 遺構分布詳細図 2 (1/400)	235

図 158	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区	竪穴建物 (1/80) ……………	236
図 159	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区	出土遺物 (1/3) ……………	237
図 160	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	調査区の位置 (1/2,000) ……………	239
図 161	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	遺構分布詳細の位置 (1/1,000) ……………	240
図 162	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	古代の遺構分布 (1/1,000) ……………	241
図 163	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	遺構分布詳細図 1 (1/400) ……………	242
図 164	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	遺構分布詳細図 2 (1/400) ……………	243
図 165	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	土坑 (1/40) 出土遺物 (18 は 1/2、他は 1/3) ……………	244
図 166	田手二本黒木地区Ⅱ区	調査区の位置 (1/2,000) ……………	246
図 167	田手二本黒木地区Ⅱ区	遺構分布詳細の位置 (1/1,500) ……………	247
図 168	田手二本黒木地区Ⅱ区	古代の遺構分布 (1/1,500) ……………	248
図 169	田手二本黒木地区Ⅱ区	遺構分布詳細図 1 (1/400) ……………	249
図 170	田手二本黒木地区Ⅱ区	遺構分布詳細図 2 (1/400) ……………	249
図 171	田手二本黒木地区Ⅱ区	出土遺物 (1/3) ……………	250
図 172	田手二本黒木地区Ⅲ区	調査区の位置 (1/2,000) ……………	253
図 173	田手二本黒木地区Ⅲ区	遺構分布詳細図の位置 (1/1,400) ……………	254
図 174	田手二本黒木地区Ⅲ区	古代の遺構分布 (1/1,400) ……………	255
図 175	田手二本黒木地区Ⅲ区	遺構分布詳細図 1 (1/400) ……………	256
図 176	田手二本黒木地区Ⅲ区	遺構分布詳細図 2 (1/400) ……………	257
図 177	田手二本黒木地区Ⅲ区	遺構分布詳細図 3 (1/400) ……………	257
図 178	田手二本黒木地区Ⅲ区	土坑・土坑墓 (1/40) ……………	258
図 179	田手二本黒木地区Ⅲ区	出土遺物 1 (1/3) ……………	259
図 180	田手二本黒木地区Ⅲ区	出土遺物 2 (1/3) ……………	260
図 181	田手二本黒木地区Ⅲ区	出土遺物 3 (1/3) ……………	261
図 182	田手二本黒木地区Ⅲ区	出土遺物 4 (1/3) ……………	262
図 183	田手二本黒木地区Ⅲ区	出土遺物 5 (51 は 1/2、他は 1/3) ……………	264
図 184	田手二本黒木地区Ⅲ区	出土遺物 6 (1/3) ……………	265
図 185	田手二本黒木地区Ⅲ区	出土遺物 7 (1/3) ……………	266
図 186	古代官道周辺の遺構配置 (1/1,200) ……………		270
図 187	遺跡南半部の古代の遺構配置 (1/6,000) ……………		272
図 188	古代の特筆すべき遺物の出土位置 (1/6,000) ……………		273

写真図版

写真図版 1

吉野ヶ里遺跡全景（南から）

写真図版 2

志波屋三の坪地区、志波屋四の坪地区Ⅰ区 古代官道 全景（西から）

写真図版 3

志波屋四の坪地区Ⅰ区 古代官道とその周辺 全景（上が北）

写真図版 4

志波屋四の坪地区Ⅰ区 南部 全景（上が北） 志波屋四の坪地区Ⅰ区 南部1（上が北）

写真図版 5

志波屋四の坪地区Ⅰ区 南部2（上が北） 志波屋四の坪地区Ⅰ区 南部3（上が北）

写真図版 6

SYT SB0791（北から）	SYT SB0792（北から）
SYT SB0793（北から）	SYT SB0794（東から）
SYT SB0795（北から）	SYT SB0796（北から）
SYT SB0797（東から）	SYT SB0798（東から）

写真図版 7

SYT SB0799（北から）	SYT SB0800（東から）
SYT SB0803（東から）	SYT SB0804（東から）
SYT SB0805（東から）	SYT SB0806（東から）
SYT SB1022（南から）	SYT SB1023（北から）

写真図版 8

SYT SB1024（東から）	SYT SB1025（北から）
SYT SB1026（西から）	SYT SD1006 西アゼ土層（西から）
SYT SD1007 1アゼ土層（西から）	SYT SD1021・1028（北から）
SYT SD1043（北から）	SYT SE0807（左）・SE0808（右）（東から）

写真図版 9

SYT SE1039（北から）	SYT SE1040（北から）
SYT SE1119 全景（北東から）	SYT SE1119 近景（北東から）
SYT SE1119 井戸枠（北東から）	SYT SE1119 井戸枠取り上げ後（北から）
SYT SH1013（西から）	SYT SH1017（東から）

写真図版 10

SYT SH1018（北から）	SYT SK1004（西から）
SYT SK1046 木器出土状況（西から）	SYT SK1115 出土状況1（東から）
SYT SK1115 出土状況2（東から）	SYT SX1015（東から）
SYT SX1019（西から）	SYT SX1020（西から）

写真図版 11

SYT SX1029（西から）	SYT SX1036（西から）
SSO SD0157（西から）	SSO SK0164（北から）
YGK-Ⅰ SB0040（東から）	YGK-Ⅰ SK0029（南から）
YGK-Ⅰ SK0031（西から）	YGK-Ⅰ SK0042（南から）
SSO SD0157（西から）	SSO SK0164（北から）

写真図版 12

YGK-Ⅰ SK0043（東から）	YGK-Ⅰ SK0044（南から）
YGK-Ⅰ SP0021（西から）	YGK-Ⅰ SP0022（北西から）
YGK-Ⅳ SB0553（南から）	YGK-Ⅳ SB0554（西から）
YGK-Ⅳ SB0555（北から）	YGK-Ⅳ SB0556（北から）

写真図版 13

YGK-Ⅳ SH0543（北から）	YGK-Ⅳ SH0544（西から）
YGK-Ⅳ SK0568（西から）	YGK-Ⅳ SK0569（西から）
YNG-Ⅰ SK0181（北から）	YNG-Ⅰ SK0191（北から）
YNG-Ⅰ SK0704（西から）	YNG-Ⅰ SP0148（西から）

写真図版 14

YNG-Ⅱ SB0473（北から）	YNG-Ⅱ SB0474（東から）
YNG-Ⅱ SB0475（北から）	YNG-Ⅱ SB0476（東から）
YNG-Ⅱ SB0477（南から）	YNG-Ⅱ SB0478（東から）
YNG-Ⅱ SB0479（東から）	YNG-Ⅱ SB0488（南から）

写真図版 15

YNG- II SD0418 (東から)	YNG- II SE0470 (北から)
YNG- II SE0471 (北から)	YNG- II SE0470 土層
YNG- II SE0472 (西から)	YNG- II SE0471 土層
	YNG- II SK0387 (東から)

写真図版 16

YNG- II SK0389 (西から)	YNG- II SK0390 (西から)
YNG- II SK0393 (北から)	YNG- II SK0395 (西から)
YNG- II SK0397 (西から)	YNG- II SK0416 (東から)
YNG- II SK1415 (東から)	YNG- II SP0381 (東から)

写真図版 17

YNG- III SB0618 (北から)	YNG- III SB0619 (北から)
YNG- III SB0620 (南から)	YNG- III SB0621 (東から)
YNG- III SB0622 (西から)	YNG- III SB0623 (西から)
YNG- III SB0624 (東から)	YNG- III SE0630 (北から)

写真図版 18

YNG- III SE0675 出土状況 (南から)	YNG- III SE0675 最下層出土状況 (西から)
YNG- III SK0645 (東から)	YNG- III SP0631 (南から)
YNG- IV SB0660 (北から)	YNG- IV SD0659 (北から)
YNG- IV SE0147 (北から)	YNG- IV SE0147 土層

写真図版 19

YGK- VI SK1154 出土状況 (西から)	YGK- VI SK1192 出土状況 (北東から)
YGK- VI SP1142 出土状況 (北から)	YGK- VI SP1151 出土状況 (北東から)
YGK- VI SP1152 出土状況 (北東から)	YGK- VI SP1187 出土状況 (北から)
YGK- VI SP1220 (西から)	YNG- V SB1083 (北から)

写真図版 20

YNG- V SE1024 (北から)	YNG- V SE1049 (北から)
YNG- V SE1117 (北から)	YNG- V SE1126 (西から)
YNG- V SE1129 (北から)	YNG- V SE1132 (東から)
YNG- V SE1135 (東から)	YNG- V SH1080 (北から)

写真図版 21

YNG- V SH1191 (北から)	YNG- V SH1192 (北から)
YNG- V SH1250 (北から)	YNG- V SH1251 (北から)
YNG- V SK0870 (東から)	YNG- V SK0915 (東から)
YNG- V SK0918 (北から)	YNG- V SK0919 (西から)

写真図版 22

YNG- V SK0987 (東から)	YNG- V SK1073 (南から)
YGK- III SH0647 (東から)	YGK- III SH0860 (北から)
YGK- III SK0627 (南から)	YGK- III SK0631 (北から)
YGK- III SK0842 (西から)	YGK- III SK0858 (西から)

写真図版 23

YGK- VII SK2493 (東から)	TDN- III SD1533 土層 (南から)
TDN- III SK0608 (西から)	TDN- III SK0614 (北から)
TDN- III SK0663 (西から)	TDN- III SK0720 (南から)
TDN- III SP0384 (南から)	TDN- III SP0384 出土状況

写真図版 24

SYT SK1004 集合 (墨書土器、転用碗)

写真図版 25

SYT SK1115 集合 (墨書土器、転用碗)

写真図版 26

SYT SE1119 集合
YGK- VI SP1151 集合

写真図版 27

YGK- VI SP1152 集合
YGK- VI SP1187 集合

目次

写真図版 28

SYT SD1007	42	SYT SD1028	127
SYT SD1007	62	SYT SD1043	136
SYT SD1007	75	SYT SD1043	158
SYT SD1021	93	SYT SD1043	180
SYT SD1028	118	SYT SD1043	227

写真図版 29

SYT SD1043	240	SYT SD1043	288
SYT SD1043	255	SYT SD1043	304
SYT SD1043	256	SYT SD1043	308
SYT SD1043	266	SYT SE0808	318
SYT SD1043	274	SYT SE1040	333

写真図版 30

SYT SF1008 検出面	351	SYT SK1004	409
SYT SF1008 検出面	361	SYT SK1004	415
SYT SF1008 検出面	362	SYT SK1004	416
SYT SF1008 検出面	363	SYT SK1004	422
SYT SF1008 検出面	364	SYT SK1004	423
		SYT SK1004	424

写真図版 31

SYT SK1004	430	SYT SK1004	437
SYT SK1004	431	SYT SK1004	444
SYT SK1004	432	SYT SK1004	456
SYT SK1004	434	SYT SK1004	457
SYT SK1004	436	SYT SK1004	476

写真図版 32

SYT SK1004	478	SYT SK1004	488
SYT SK1004	485	SYT SK1004	489
SYT SK1004	486	SYT SK1004	492
SYT SK1004	487	SYT SK1004	493

写真図版 33

SYT SK1004	506	SYT SK1011	531
SYT SK1004	514	SYT SK1011	534
SYT SK1004	515	SYT SK1011	540
SYT SK1004	516	SYT SK1011	544
SYT SK1004	517	SYT SK1011	546
SYT SK1011	530	SYT SK1011	547

写真図版 34

SYT SK1011	551	SYT SK1046	600
SYT SK1011	558	SYT SK1115	606
SYT SK1011	560	SYT SK1115	608
SYT SK1012	569	SYT SK1115	609
SYT SK1012	570		
SYT SK1012	575		

写真図版 35

SYT SK1115	611	SYT SK1115	642
SYT SK1115	615	SYT SK1115	647
SYT SK1115	617	SYT SK1115	648
SYT SK1115	621	SYT SK1115	651
SYT SK1115	628	SYT SK1115	663

写真図版 36

SYT SK1115	664	SYT SK1115	665
SYT SK1115	667-1	SYT SK1115	668-1
SYT SK1115	667-2	SYT SK1115	668-2
SYT SK1115	685	SYT SK1115	709
SYT SK1115	686		

写真図版 37

YGK- I SK0044	7	YNG- II SE0472	24-1
YGK- IV SK0568	3	YNG- II SE0472	24-2
YGK- IV SK0569	4	YNG- II SK0416	51
YNG- I SK0191	2	YNG- II SK0416	52
YNG- I SP0148	5	YNG- III SE0630	10
YNG- I SP0148	6		

写真図版 38

YNG- III	SE0630	12	YNG- III	SE0675	28-2
YNG- III	SE0630	13	YNG- III	SE0675	34
YNG- III	SE0675	20	YNG- III	SE0675	40
YNG- III	SE0675	24	YNG- III	SP0631	49
YNG- III	SE0675	27	YGK- VI	SK1155	23
YNG- III	SE0675	28-1			

写真図版 39

YGK- VI	SK1155	32	YNG- V	SE1105	10
YGK- VI	SK1192	67	YNG- V	SE1105	11
YGK- VI	124 トレンチ	91-1	YNG- V	SE1105	12
YGK- VI	124 トレンチ	91-2	YNG- V	SH1251	24
YNG- V	SE1105	8	YNG- V	SK0870	51
YNG- V	SE1105	9	YNG- V	SK0870	54

写真図版 40

YNG- V	SK0987	97	TDN- II	SK0131	5
YNG- V	SK0987	98	TDN- III	SK0366	40
YGK- III	SK0858	14	TDN- III	SK0608	47
YGK- VII	SK2151	2	TDN- III	SK0608	51
YGK- VII	包含層	18			

写真図版 41

TDN- III	SK0724	69	TDN- III	SK0724	74
TDN- III	SP0384	82			

表目次

表 1	志波屋四の坪地区Ⅰ区	掘立柱建物	54
表 2	志波屋四の坪地区Ⅰ区	井戸	79
表 3	志波屋四の坪地区Ⅰ区	竪穴建物	87
表 4	志波屋四の坪地区Ⅰ区	土坑	116
表 5	志波屋四の坪地区Ⅰ区	出土土器	122
表 6	志波屋三の坪地区	土坑	142
表 7	志波屋三の坪地区	出土土器	142
表 8	吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区	掘立柱建物	150
表 9	吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区	土坑	150
表 10	吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区	土坑墓	150
表 11	吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区	出土土器	150
表 12	吉野ヶ里丘陵地区Ⅳ区	掘立柱建物	153
表 13	吉野ヶ里丘陵地区Ⅳ区	竪穴建物	154
表 14	吉野ヶ里丘陵地区Ⅳ区	土坑	154
表 15	吉野ヶ里丘陵地区Ⅳ区	出土土器	155
表 16	吉野ヶ里地区Ⅰ区	土坑	160
表 17	吉野ヶ里地区Ⅰ区	土坑墓	161
表 18	吉野ヶ里地区Ⅰ区	出土土器	165
表 19	吉野ヶ里地区Ⅱ区	掘立柱建物	170
表 20	吉野ヶ里地区Ⅱ区	井戸	170
表 21	吉野ヶ里地区Ⅱ区	土坑	170
表 22	吉野ヶ里地区Ⅱ区	土坑墓	170
表 23	吉野ヶ里地区Ⅱ区	出土土器	173
表 24	吉野ヶ里地区Ⅲ区	掘立柱建物	176
表 25	吉野ヶ里地区Ⅲ区	井戸	176
表 26	吉野ヶ里地区Ⅲ区	土坑	176
表 27	吉野ヶ里地区Ⅲ区	土坑墓	176
表 28	吉野ヶ里地区Ⅲ区	出土土器	180
表 29	吉野ヶ里地区Ⅳ区	掘立柱建物	181
表 30	吉野ヶ里地区Ⅳ区	井戸	182
表 31	吉野ヶ里地区Ⅳ区	出土土器	185
表 32	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区	竪穴建物	192
表 33	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区	土坑	192
表 34	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区	土坑墓	192
表 35	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区	出土土器	196
表 36	吉野ヶ里地区Ⅴ区	掘立柱建物	212
表 37	吉野ヶ里地区Ⅴ区	井戸	216

表 38	吉野ヶ里地区Ⅴ区	竪穴建物	217
表 39	吉野ヶ里地区Ⅴ区	土坑	217
表 40	吉野ヶ里地区Ⅴ区	出土土器	228
表 41	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区	竪穴建物	235
表 42	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区	土坑	235
表 43	吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区	出土土器	236
表 44	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	出土土器	241
表 45	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	土坑	242
表 46	田手二本黒木地区Ⅱ区	土坑	251
表 47	田手二本黒木地区Ⅱ区	出土土器	251
表 48	田手二本黒木地区Ⅲ区	土坑	258
表 49	田手二本黒木地区Ⅲ区	土坑墓	258
表 50	田手二本黒木地区Ⅲ区	出土土器	267
表 51	各地区	出土石製品・鉄製品	268
表 52	佐賀県内道路跡一覧(1995『古代官道・西海道肥前路』を一部改変)		269

第1章 序説

1 はじめに

吉野ヶ里遺跡は、佐賀県神埼市・吉野ヶ里町に所在する縄文時代～中世の遺跡で、「ムラ」から「クニ」へという弥生時代の社会変化を一つの遺跡で追うことができる唯一の遺跡として特別史跡に指定されている。さらに、日本で2番目の国営歴史公園として整備されており、多数の建物、環壕などが復元整備され、弥生時代終末期の集落の様子が体感できる。

しかしながら、吉野ヶ里遺跡では弥生時代のみならず、これまでの調査で古墳時代、古代、中世の遺跡としても重要な成果が得られている。このうち、古代では官道や官衙的建物群、古代寺院など、古代の神埼郡を知るうえで欠かすことのできない成果となっている。

ところが、弥生時代を含め、これまでの調査成果をまとめ、総括することができていない状態が続いていた。これは、遺跡保存決定後も遺跡の範囲・内容確認のための発掘調査を継続するとともに、史跡整備としては異例の規模・速さで事業が進展することへの対応が必要となり、膨大な出土資料の整理・検討が進まなかったという事情があり、報告は概報にとどまらざるをえなかった。

その整備も、特別史跡・佐賀県史跡範囲にあたる国営公園部分については、平成24年度にその大部分が開園することとなった。それに伴って、これまでの調査成果を総括することが課題となり、文化庁と協議を重ねたうえ、発掘作業を平成25年度からいったん休止して、時代ごとに総括報告書を順次作成していくこととした。まず、もっとも重要な成果が得られた弥生時代の総括報告書を作成し、その後に古代、古墳時代、中世と続ける予定としている。

弥生時代の総括報告書は、平成26年度に集落編、平成27～30年度に墓地編、令和元年度に弥生時代全体の総括報告書を作成した。しかしながら、弥生時代については、未整理資料も多く残されており、まだ十分に解明できていない点が多くあることから、今後も整理作業を継続していく必要がある。

さて本書は、弥生時代総括報告に続く古代の総括報告書の第2冊目にあたる。前述したように、これまでの奈良～平安時代の発掘調査では重要な調査成果が得られているが、詳細な報告、総括がなされていない。そこで、吉野ヶ里遺跡の古代について、これまでの調査成果を順次報告し、総括する報告書を作成する予定である。

本書では吉野ヶ里遺跡の官道とその周辺及び、遺跡南半部の地区について調査成果を報告する。

2 調査の経過

(1) 神埼工業団地計画に伴う調査

昭和56年度に神埼郡神埼町（現：神埼市）、東脊振村・三田川町（現：吉野ヶ里町）にまたがる志波屋・吉野ヶ里段丘が、その立地条件の良さから、工業団地開発の最優先・有力候補地として内定した。この段丘一帯は戦前から「吉野ヶ里遺跡」として考古学界でも知られていた遺跡であったが、発掘調査がほとんど行われていないことから、遺跡の内容については不明な点が多く、保存協議を進めたものの、開発計画を白紙に戻すまでには至らず、工業団地計画は当初の予定どおり進められることとなった。

そこで、昭和57・60年度に確認調査を行い、その結果を基に文化財保護の協議を進め、工業団地予定地のうち約

6 ha を文化財保存緑地とし、約 30ha については佐賀県土地開発公社からの受託事業として本調査を実施することとなった。調査期間は、昭和 61 ～ 63 年度に発掘作業、その後の 2 年間に整理・報告書作成作業を行う計画を立てた。

なお、発掘調査に至る経緯、調査の経過の詳細については、『吉野ヶ里』（『113 集』）や『吉野ヶ里遺跡—弥生時代の集落跡—』第 1 分冊（『207 集』）を参照にされたい。

また、遺跡名や地区名について本書では現在の『佐賀県遺跡地図』に基づき、吉野ヶ里遺跡を志波屋四の坪地区・志波屋三の坪（乙）地区・吉野ヶ里地区・田一本松地区（以上、神崎市）、大曲一の坪地区、吉野ヶ里丘陵地区・田手二本黒木地区・田手一本黒木地区・杉籠地区（以上、吉野ヶ里町）に区分して記述する。

昭和 61 年度の調査

志波屋四の坪地区 I 区、志波屋三の坪（乙）地区、吉野ヶ里地区 I 区について発掘作業を行った。

志波屋四の坪地区 I 区では、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落・墓地などを確認した。古代関連では、奈良・平安時代の多数の掘立柱建物や井戸・土坑等を検出したが、掘立柱建物には規格的に配置されたものもあり、特徴的な遺物として木簡や須恵器硯などが出土している。また、以前から官道ではないかと推測されていた段丘を東西方向に横断する切通しの西側において、切通しラインに沿った 2 条の溝を確認し、官衛的な性格を帯びた地区であることが考えられた。なお、調査は昭和 62 年度へ継続した。

志波屋三の坪（乙）地区では、独立低丘陵上の調査を行い、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落・墓地などを確認した。古代関連では、奈良時代の掘立柱建物などを検出し、掘立柱建物群が主軸を南北方向に揃えて配列されていることが判明し、官衛の様相をうかがうことができた。

吉野ヶ里地区 I 区では、弥生時代の集落・墓地、平安時代の土坑を確認した。なかでも調査区南部を南北方向にのびる弥生時代後期の溝は、集落全体を囲む大規模な環壕である可能性が考えられた。

昭和 62 年度の調査

志波屋四の坪地区 I 区、志波屋三の坪（乙）地区、志波屋三の坪（甲）遺跡、志波屋六の坪（甲）遺跡、志波屋五の坪遺跡、吉野ヶ里丘陵地区 I・II・III 区、吉野ヶ里地区 II・III・IV 区について発掘作業を行った。一部の地区は、昭和 63 年度初めまで調査を実施した。

志波屋四の坪地区 I 区では、地区南部の水田域周辺について調査を行い、弥生時代の土坑、古墳時代の集落などを確認した。古代関連では、奈良・平安時代の掘立柱建物・竪穴建物・井戸・土坑・柵などを検出し、また前年度に確認した 2 条の溝は道路の側溝であることが明確となり、発掘調査で確認された官道としては県内での初見となった。さらに、玉砂利敷きの流路が設けられた奈良時代の石組井戸を確認するなど、遺構・遺物の面からこの地区で確認した遺構群が官衛的施設である可能性が高まった。このほか、古墳時代後期の土坑からは木製馬鞍の前輪・後輪未成品が揃って出土した。また、志波屋五の坪遺跡に南に隣接する最北部では、奈良時代の大型掘立柱建物などを確認した。

志波屋三の坪（乙）地区では、南部と西部の水田部について調査を行った。南部では古墳時代の土坑、溝、奈良時代の道路、中世の墓地・道路などを確認した。奈良時代の道路は、志波屋四の坪地区 I 区で確認した道路の西側延長部分にあたり、官道と考えられた。西部では室町時代の土坑墓群が確認され、副葬品として中国の銅銭や輸入陶磁器、土師器小皿などが出土した。

志波屋三の坪（甲）遺跡では、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落、古代～中世の掘立柱建物・井戸・土坑・柵などを確認した。古代関連では、奈良・平安時代の掘立柱建物・土坑を数多く検出し、掘立柱建物には企画的に配置されたものがあり、土坑や井戸からは木簡や墨書土器、木製機、須恵器硯・水滴、篋書土器などが出土していることから、官衛群の一部であった可能性が高い。

志波屋六の坪（甲）遺跡では、弥生時代の集落、古墳時代の集落、奈良・平安時代の井戸・土坑、中世の集落など

を確認した。また、志波屋五の坪遺跡の調査では、古墳時代の土坑、奈良・平安時代の溝、中世の掘立柱建物・土坑などを確認した。

吉野ヶ里丘陵地区のうち、Ⅰ区では、弥生時代の集落・墓地、奈良・平安時代の掘立柱建物・土坑墓などを確認した。Ⅱ区では、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落・墓地、中世の溝・土坑を確認し、弥生時代後期の環壕、中期初頭～後期前半の大規模な甕棺墓がこの地区の特徴である。Ⅲ区では、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の墳墓、奈良・平安時代の掘立柱建物、中世の溝などを確認し、南内郭の一部がこの地区に位置している。全体的に古代関連の遺構が少ない地区である。

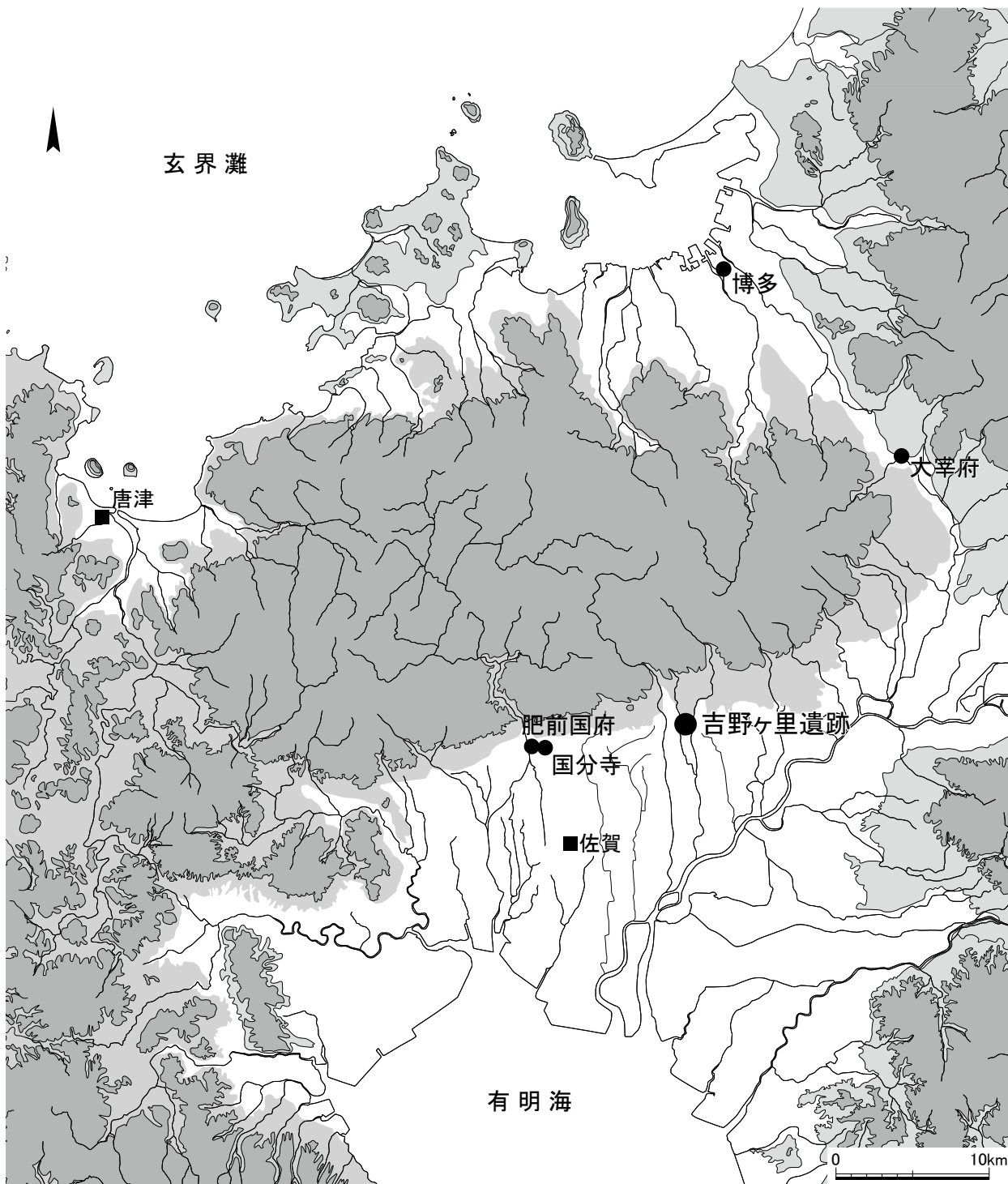


図1 古代肥前国における吉野ヶ里遺跡の位置 (1/400,000)

吉野ヶ里地区Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区では、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落、古代の掘立柱建物・井戸などを確認した。古代関連では、志波屋四の坪地区Ⅰ区で確認された奈良時代を主体とする建物群と異なり、平安時代前期に属する遺構が多いことが注目された。

昭和63年度の調査

志波屋六の坪（乙）遺跡、志波屋四の坪地区Ⅰ区、吉野ヶ里丘陵地区Ⅳ・Ⅴ区、吉野ヶ里地区Ⅴ区、田手二本黒木地区Ⅱ区について調査を行った。

志波屋六の坪（乙）遺跡では、弥生時代の集落、古墳時代の集落、奈良時代の集落、中世の集落などを確認した。弥生時代後期の集落が主体の地区であるが、奈良時代の竪穴建物を検出している。

志波屋四の坪地区Ⅰ区では、段丘上北部の調査を行い、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落などを確認した。古代関連では、奈良時代の掘立柱建物などを検出した。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅳ区では、弥生時代の墓地、古墳時代の集落などを確認した。古代関連では、奈良・平安時代の掘立柱建物などを検出し、西側に隣接する志波屋四の坪地区Ⅰ区南端部の建物群の広がりを確認することができる。

吉野ヶ里地区Ⅴ区では、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落、古代の掘立柱建物、中世の溝などを確認した。弥生時代について、Ⅴ区東部は東側に隣接する吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区と合わせて南内郭を構成しており、外環壕の一部、Ⅴ区西部は高床倉庫群が特徴的な地区である。古代関連では、Ⅴ区西部で平安時代を中心とした掘立柱建物・井戸などを検出した。

田手二本黒木地区Ⅱ区では、弥生時代の集落・墓地、中世の道路状遺構などを確認した。古代関連の遺構は確認していない。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区では、弥生時代の集落・墳墓、古代の掘立柱建物、中世の溝などを確認した。古代関連では、奈良時代の掘立柱建物を検出し、数棟のみ段丘上に位置していることは、志波屋四の坪地区などとは状況を異にしている。

さて、平成元年2月下旬、南内郭や大規模環壕集落などの調査が、新聞・テレビ等によって大々的に報道され、吉野ヶ里遺跡は一躍全国的な注目を浴びた。そのような中、北墳丘墓の調査が行われ、有柄式銅剣やガラス管玉が副葬された甕棺墓を始めとして、次々と甕棺墓から副葬品が出土し、さらに注目を集めることとなった。発掘現場に連日1万人を超える見学者が来訪するという大きな社会現象となったこともあり、調査成果の重要性から遺跡主要部の保存が決定されることとなった。

なお、神埼工業団地計画に伴う本調査についての概要報告書は、平成4年3月に刊行した（『113集』）。

（2）遺跡保存後の確認調査

遺跡保存の決定を受け、吉野ヶ里遺跡の全体的な規模の把握と、未調査区域の内容把握を目的として、平成元年度からは国庫補助事業による遺跡全体の確認調査を行うこととした（吉野ヶ里遺跡発掘調査事業）。国庫補助事業による発掘作業は、平成23年度まで継続して実施した。その後、平成4年10月に国営吉野ヶ里歴史公園の設置が閣議決定されたことを受け、約54haに及ぶ国営公園の整備に伴う発掘調査を建設省（現：国土交通省）からの受託事業（国営吉野ヶ里歴史公園区域内文化財発掘調査事業）として平成9年度から開始し、平成24年度まで発掘作業を継続した。さらに、平成9年度から国営公園と合わせて設置されることが決定した県立吉野ヶ里歴史公園整備に伴う調査を県土木部（現：県土整備部）からの再配当事業（県営吉野ヶ里歴史公園区域内文化財発掘調査事業）として開始し、平成15年度まで発掘作業を実施した。以下、発掘調査に係る予算の違いに基づき、国庫補助事業による調査は「補助事業」、建設省からの受託事業による調査は「受託事業」、県土木部からの再配当事業による調査は「県再

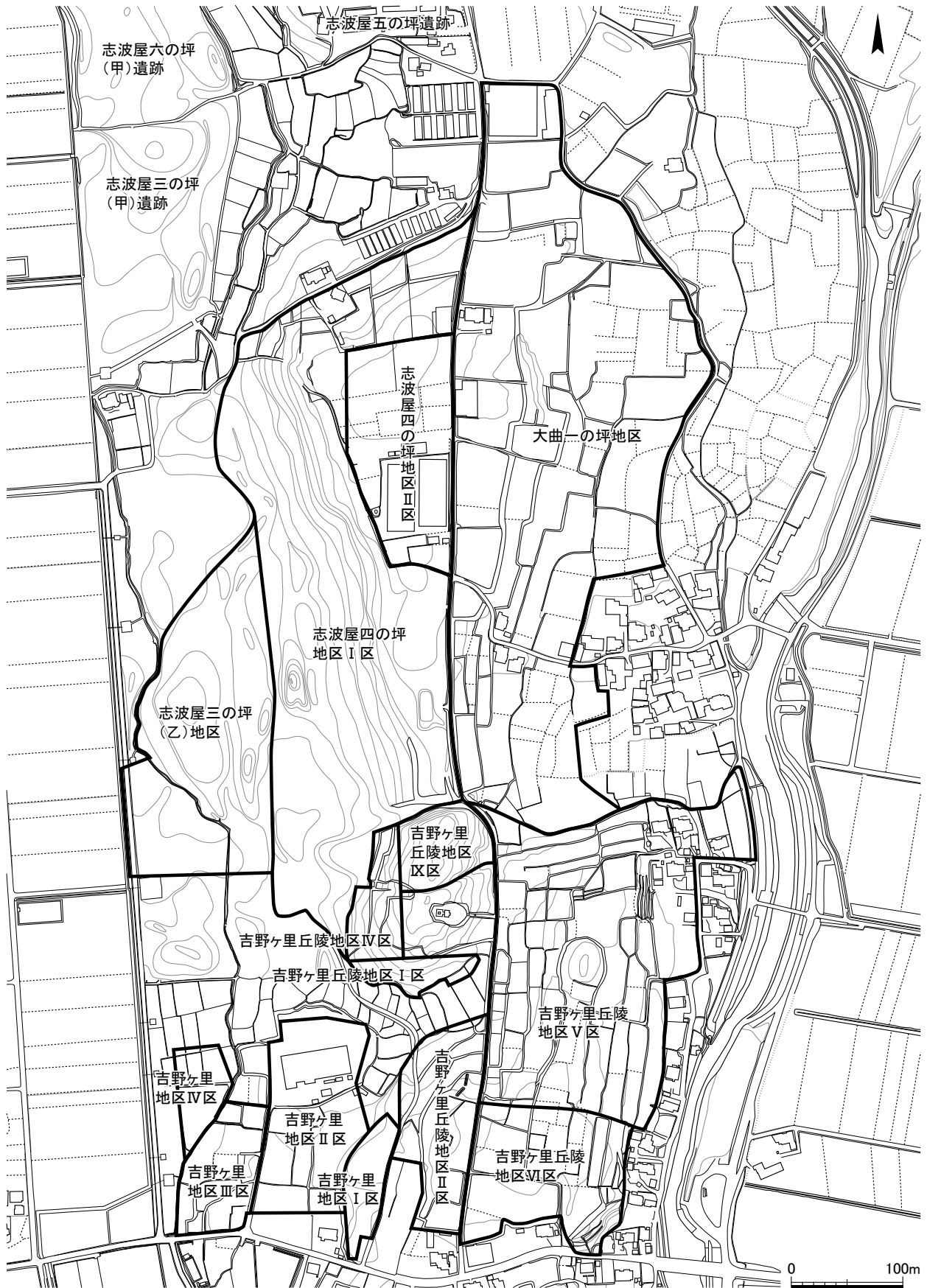


図2 吉野ヶ里遺跡北部の地区分けと周辺の遺跡 (1/5,000)

配当事業」とする。

以上の3事業の住み分けとして、補助事業では、遺跡の全体像を把握するため遺跡全域を対象とし、公園整備に対し遺跡情報を提供するとともに、公園整備に関わらない緊急的な発掘調査を行った。受託事業及び県再配当事業では、国営公園区域（特別史跡・県史跡）及び県立公園区域（無指定地区）における園路やトイレといった便益施設及び復元建物等の恒久的施設や、極端な盛土を施す区域を発掘調査の対象とし、整備工事の実設計策策定前に地下遺構の状況を緊急に把握し、遺跡保護の観点から設計協議を行ってきた。

なお、平成元～24年度の調査体制などは、『吉野ヶ里遺跡－弥生時代の集落跡－』第1分冊（『207集』）を参照にされたい。

平成元～8年度の調査

平成元年度は、主に遺跡の範囲確認を目的として調査を実施した。その結果、弥生時代後期の環壕集落の規模をうかがい知ることができるようになり、そのほか青銅器鑄造関連の遺構や墳丘墓状の土層などを確認した。ただ、古代関連では、確認できた遺構・遺物は少なく、吉野ヶ里丘陵地区V区で竪穴建物、吉野ヶ里地区V区で井戸などを検出した程度である。また、1～89調査区までの調査成果について、平成2年3月に報告書を刊行した（『100集』）。

平成2・3年度には、未調査区域の内容把握の調査も開始した。弥生時代では、田手二本黒木地区Ⅲ区で青銅器鑄造関連遺構、田手一本黒木地区Ⅰ区で北墳丘墓と同様の盛土遺構、吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区で甕棺墓地などを確認したが、古代関連の遺構などはほとんど確認されなかった。なお、約22haが平成2年5月に史跡、平成3年5月に特別史跡に指定された。

平成4～8年度は、補助事業による遺跡の内容を把握する調査を継続した。弥生時代では、吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区での北内郭の発見、吉野ヶ里丘陵地区V区の北墳丘墓の再調査により新たな甕棺墓が確認され、また、遺跡南西部の低地部の調査で多数の木製品が出土するなど重要な調査成果が得られた。古代関連では、吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区で平安時代の土坑墓などを確認したが、全体的には遺構・遺物は少ない。また、平成2～7年度の調査成果の概要について、平成9年3月に報告書を刊行した（『132集』）。

平成9～15年度の調査

平成9年度からは、補助事業による遺跡の内容を把握する調査を継続するとともに、前述のように、受託事業・県再配当事業を開始した。このうち、平成9年度の受託事業により、国営吉野ヶ里歴史公園センター建設に伴う本調査を遺跡東側に位置する杉籠遺跡において実施した。古代関連では、奈良・平安時代の土坑群を確認し、土師器・須恵器が多量に出土するものがあり、廃棄土坑群と考えられる（『146集』）。

平成9～15年度の3事業の確認調査によって、弥生時代では、九州初出土の銅鐸、前期初頭の溝、遺跡最古の首長墓など、また古墳時代前期の新たな前方後方墳の発見などの重要な成果が得られた。古代関連では、吉野ヶ里地区V区で平安時代の掘立柱建物・井戸（『160集』）、大曲一の坪地区で寺院（『172集』・本書）、田手二本黒木地区Ⅲ区で奈良・平安時代の土坑（『222集』）、平安時代の道路状遺構とみられる溝（『211集』）、^{えだまち}枝町遺跡で奈良時代の土坑（『172集』）などを確認した。また、補助事業については、平成8～10年度の調査成果概要を平成15年3月に（『156集』）、平成11・12年度の調査成果概要を平成16年3月に刊行した（『160集』）。

県再配当事業で実施した大曲一の坪地区の調査概要については、古代瓦の出土や塔心礎と考えられる礎石の存在などから、辛上廃寺の存在が推定されていた。大曲一の坪地区は、吉野ヶ里歴史公園の県立公園部分にあたり、佐賀県土木部（現：県土整備部）が公園整備を担当しており、公園整備と遺跡保存の調整については、県土木部と県文化財保護部局で行っている。県立公園区域は文化財指定範囲ではないものの、歴史公園であることから、調整のうえ、地下遺構に影響を与えない形での整備が進められている。

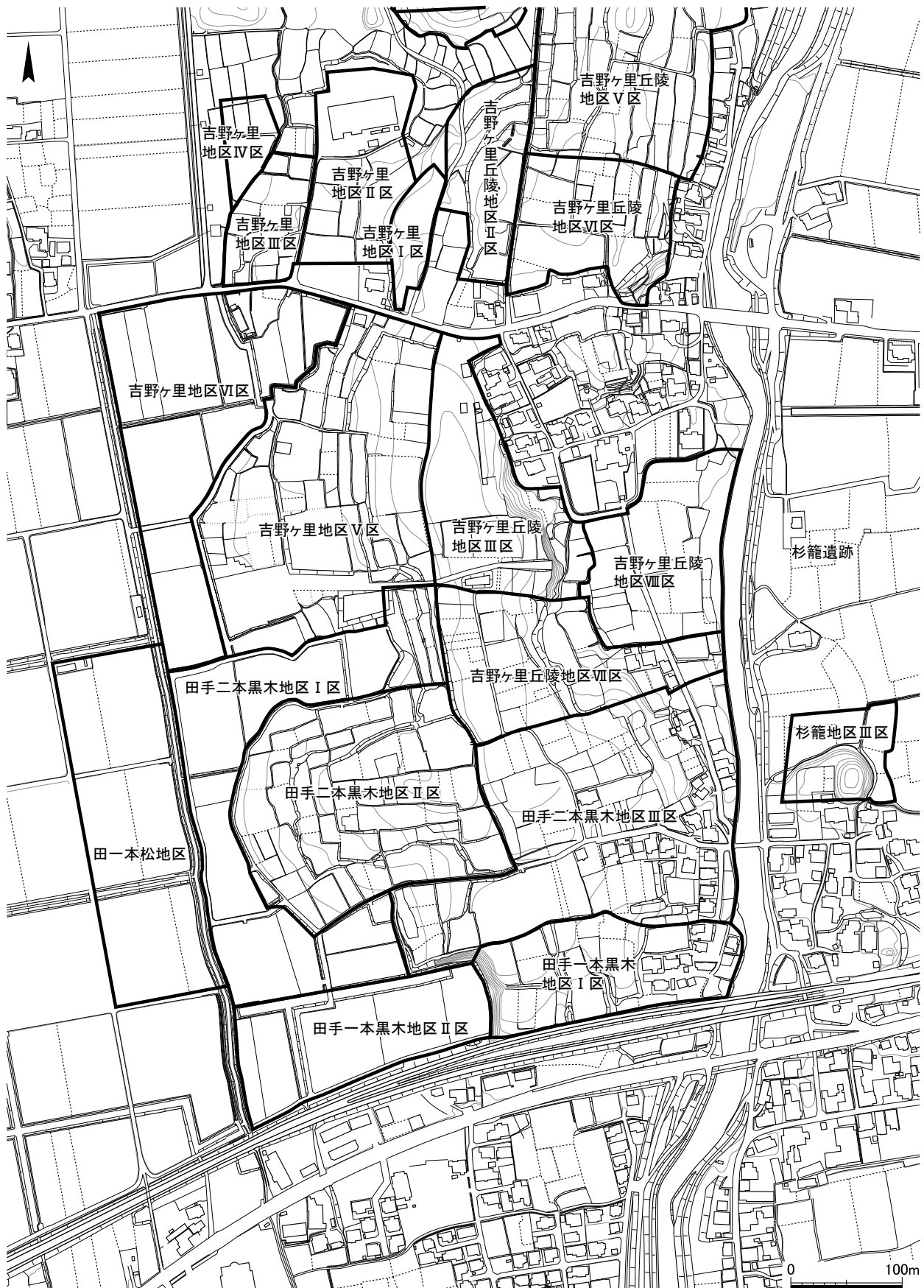


図3 吉野ヶ里遺跡南部の地区分けと周辺の遺跡 (1/5,000)

しかしながら、大曲一の坪地区では公園整備以前に調査が行われておらず、地下遺構の状況が不明であったため、公園整備との調整を図るため、前述した県土木部からの再配当事業として、平成10年度にトレンチによる確認調査を実施した。

この確認調査によって、九州初となる福田型銅鐸が出土し（『152集』）、大きな注目を集めたが、平成11年度まで継続した確認調査により、寺院に関連するとみられる古代の遺構も良好に遺存していることが判明した。そのため、遺跡の内容をさらに詳しく確認するため、県土木部からの再配当事業を継続して、平成12～15年度に広範囲の調査区7箇所を設定して、確認調査を実施した。

調査にあたっては、遺構の内容を知るための確認調査であることから、発掘による遺構の損害を最小限にとどめ、現時点の調査水準よりも進歩した調査・分析技術を用いた将来的な再検証調査のための遺構保存という観点から、調査では基本的に遺構内埋土を完全に掘削することは避けている。そのため、検出した遺構の掘削は半分にとどめる、土層観察用の畦を残すなどといった措置を取っている。

調査の結果、古代の寺院関係としては、塔基壇、金堂や門と推定される掘立柱建物、寺域を区画する溝などが確認され、伽藍配置がある程度判明する貴重な例となり、その概要を報告している（『172集』）。

平成16～24年度の調査

平成16年度には、吉野ヶ里丘陵地区Ⅸ区での補助事業による調査において、前漢鏡・イモガイ製腕輪が副葬された弥生時代中期末の甕棺墓を確認した。

さらに、平成16～22年度は、遺跡北側の志波屋四の坪地区Ⅱ区を中心に、遺跡北部の遺跡内容や北方への遺跡の広がりを確認する調査を補助事業・受託事業により実施した。弥生時代では、志波屋四の坪地区の甕棺墓地の様相がより詳細に判明するようになった。古代関連では、志波屋四の坪地区Ⅱ区で掘立柱建物・竪穴建物・土坑（『211集』）、吉野ヶ里遺跡北方の志波屋五の坪遺跡^{ながたに}・長谷遺跡で柱穴・土坑・溝・土坑墓（『222集』）などを確認した。

平成23・24年度には、補助事業・受託事業により遺跡南東部の杉籠地区Ⅲ区の確認調査を実施し、弥生時代前期の環壕跡、中期の甕棺墓地などを確認した。

（3）古代の概要

調査の経過については、以上のようなものであるが、吉野ヶ里遺跡の古代に関するこれまでの調査成果を簡単にまとめておく。おおよそ、古代官道跡より北側に奈良時代を主体とする遺構・遺物、南側に平安時代を主体とする遺構・遺物が確認されている。

官道跡は、志波屋四の坪地区南部と志波屋三の坪（乙）地区南部で確認した。志波屋四の坪地区東部では、段丘を掘削した大規模な切通しとなり、西部と志波屋三の坪（乙）地区の低地部では、路面は明確ではないが、側溝を検出した。側溝の出土遺物からみて、奈良時代に機能していた道路である。

奈良時代の中心的地帯は、志波屋四の坪地区・志波屋三の坪（乙）地区・大曲一の坪地区、志波屋三の坪（甲）遺跡である。このうち、大曲一の坪地区では前述のように寺院を確認した。

志波屋四の坪地区では、段丘西斜面から低地部にかけて100棟以上の掘立柱建物を確認している。小型のものが多いものの、大型で庇がつく建物なども認められる。建物の詳細な時期や配置状況、性格などは今後検討することになるが、駅家の厩舎と推定されている建物（篠崎2010）もある。井戸・土坑も多数確認されており、なかには官道側溝に玉石敷きの溝によって水が流れ込むように配置され、周囲に方形の石敷きをもつ井戸がある。主な遺物としては、木簡・墨書土器・篋書土器・転用硯などが出土した。

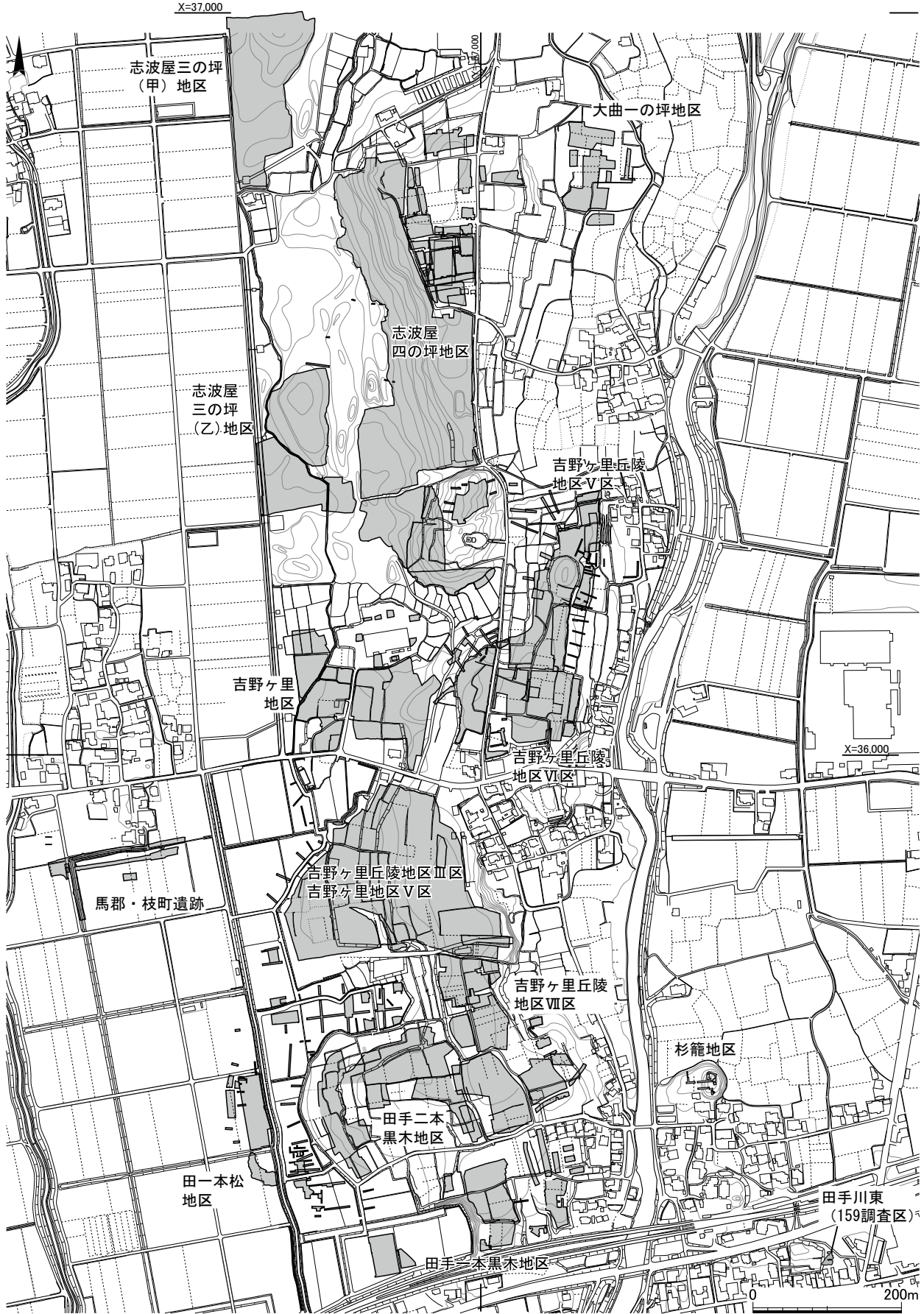


図4 吉野ヶ里遺跡の主な調査区の位置 (1/7,500)

志波屋三の坪（乙）地区では、低段丘上で企画的に配置された掘立柱建物を確認している。

志波屋三の坪（甲）遺跡では、低段丘上から低地部にかけて掘立柱建物を多く確認している。規格的に配置されたものもみられ、その配置から複数の時期の建物群であることが推定されている。土坑・井戸も多数確認されており、木簡・墨書土器・円面硯・水滴などが出土した。

このように、奈良時代の遺構のほとんどが斜面部・低段丘上から低地部にかけて確認されているが、志波屋四の坪地区や吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区では、中段丘上に位置する掘立柱建物も少ないが認められる。

平安時代の中心的な地区は吉野ヶ里地区Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区とⅤ区で、ともに掘立柱建物や井戸などを確認している。このほか、土器類などを副葬した土坑墓が吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区などで、田手二本黒木地区Ⅲ区で道路状遺構などを検出している。

（４）古代総括編の経過

吉野ヶ里遺跡のこれまでの調査成果をまとめる総括報告は、前述のように弥生時代から始め、次に古代を対象とすることとした。弥生時代の総括報告については、令和元年度に総括報告書 1（『227 集』）を刊行したが、古代については、平成 29 年度から準備を始めている。

平成 29～30 年度は、大曲一の坪地区の基礎整理を行い、令和元年度には本格的な整理作業を行った。令和 2 年度に古代編 1（『229 集』）を刊行した。

令和 3～5 年度については本書の刊行を進めた。

調査指導委員会

各時代の総括を行うにあたり、平成 28 年度に弥生時代の調査に関する調査指導委員会の設置に続き、古代の調査について専門的見地から指導助言を行うことを目的とする「吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員会」を平成 29 年度に設置した。

指導委員 七田 忠昭（佐賀県立佐賀城本丸歴史館長）

亀田 修一（岡山理科大学教授）

重藤 輝行（佐賀大学教授）

柴田 博子（宮崎産業経営大学教授）

河上 麻由子（大阪大学准教授）

平成 30 年 2 月 23 日 第 1 回吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員会開催。

平成 31 年 2 月 14 日 第 2 回吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員会開催・遺物検討会の実施。

令和 2 年 2 月 6 日 第 3 回吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員会開催。

令和 3 年 10 月 10 日 講演会「辛上廃寺跡 - 奈良・平安時代の吉野ヶ里」の実施。

令和 4 年 2 月 15 日 第 4 回吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員会開催（オンライン）。

令和 4 年 3 月 24 日 亀田委員による現地指導。

令和 5 年 2 月 7 日 第 5 回吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員会開催。

令和 5 年 2 月 13 日 河上委員による現地指導。

令和 5 年 9 月 7 日 第 6 回吉野ヶ里遺跡古代調査指導委員会開催。

※令和 2 年度は新型コロナウイルスの蔓延に伴い委員会開催を中止。



図5 古代の主要地区 (1/10,000)

調査体制

吉野ヶ里遺跡の調査については、佐賀県教育委員会に置かれた文化財保護部局が平成30年度まで担ってきたが、令和元年度に知事部局に移管され、現在は佐賀県地域交流部文化・観光局文化課文化財保護・活用室として担当している。

令和元～4年度

佐賀県 文化課文化財保護室

室長 川内野 修（元）
 白木原 宜（2～4）
 参事 白木原 宜（元）
 副室長 古川 直樹（元～4）
 山川 史（元・2）
 右寺 直樹（3・4）
 細川 金也（3・4）
 主幹 今泉 和孝（元・2）
 係長 北原 清子（3・4）
 主査 松井 美穂（元）
 主事 松尾 さつき（元）
 大塚 小百合（2～4）

【調査担当】文化財保護室 吉野ヶ里遺跡担当

参事 白木原 宜（元）
 副室長 古川 直樹（元～4）
 細川 金也（2～4）
 係長 渋谷 格（元～3）
 川副 麻理子（2・3）
 長崎 浩（4）
 主任主査 熊谷 吉朗（3）
 村松 洋介（4）
 主査 吉本 健一（元・2）
 主査 渡部 芳久（元）
 主事 塩見 恭平（2～4）
 吉田 健祐（4）

調査担当

主査 小松 讓（4）

令和5年度

佐賀県 文化課文化財保護・活用室

室長 白木原 宜
 副室長 古川 直樹
 右寺 直樹
 細川 金也
 係長 北原 清子
 主事 大塚 小百合

【調査担当】文化財保護・活用室 吉野ヶ里遺跡担当

室長 白木原 宜
 副室長 古川 直樹
 細川 金也
 係長 長崎 浩
 主事 塩見 恭平
 吉田 健祐
 林田 卓也

調査担当

主査 小松 讓

第2章 位置と環境

1 遺跡の位置

吉野ヶ里遺跡は、佐賀県神埼市神埼町大字鶴字日吉・下ノ辻、大字田道ヶ里字田一本松、大字志波屋字三の坪乙・四の坪と、神埼郡吉野ヶ里町大字田手字三本杉・四本杉・一本黒木・二本黒木・杉籠・二本松、大曲字一の坪に所在する。神埼市・吉野ヶ里町は九州島北西部の一角を占める佐賀県の東部に位置し、市域が南北約22.6km・東西約13.4km、面積125.01km²である神埼市が西側に、町域が南北約16.1km・東西約5.1km、面積43.94km²である吉野ヶ里町が東側にあり、ともに南北に細長い市域・町域が並列するように隣接している。両市町の東には三養基郡上峰町・みやき町、西には佐賀市が隣接し、北は福岡県福岡市・筑紫郡那珂川町、南は福岡県久留米市・大川市との県境となっている。

なお、神埼市は平成18(2006)年3月20日に神埼郡神埼町・千代田町・脊振村が、吉野ヶ里町は平成18(2006)年3月1日に神埼郡三田川町・東脊振村がそれぞれ合併して誕生しており、合併以前の行政区分で言えば、遺跡は神埼町・三田川町・東脊振村の3町村にまたがっていたことになる。また、吉野ヶ里遺跡の範囲については、平成22年3月に改訂された『佐賀県遺跡地図』に拠っているが、地形的に比較的明瞭に区分できる妥当なものと考えられる。

吉野ヶ里遺跡の位置は、南北方向で遺跡の中心付近である北内郭でいえば、北緯33°19'25"、東経130°23'18"で¹⁾、平面直角座標系第Ⅱ系では、おおよそX=+35,200～+37,000m、Y=-56,600～-57,300mの範囲にある(図2)。

2 地理的環境

神埼市・吉野ヶ里町のおおよその地勢は、北部の山地と南部の平野に区分される。北部は佐賀・福岡県境をなす春振山地の東西脊梁の南斜面にあたり、脊振山地の最高峰である脊振山(標高1,054.6m)は神埼市と福岡市早良区との県境にある。ただし、吉野ヶ里町最北部の小川内地区は東西脊梁北側の那珂川上流域となる。この北部の山地には、おおよそ南流する河川によって開析された小規模な谷底平野や河岸段丘が点在している。

両市町の南部は、有明海の湾奥に臨む九州最大の沖積平野である筑紫平野の西半部を占める佐賀平野の東部にあたる。広義の佐賀平野は、「筑紫次郎」と称される筑後川以西の白石・佐賀両地域をいうが、狭義には東方を筑後川、西方を牛津川で挟まれた平野を指す²⁾。佐賀平野の北部には、脊振山地南麓からのびる台地である洪積段丘が認められるが、神埼市のほぼ中央を南流する城原川以東の地域で河成段丘が特に発達している。その段丘の間には田手川、井柳川、切通川などの河川が南流しており、複合扇状地を形成している。これらの河川はいずれも筑後川に流れ込み、さらに有明海へと通じている。

佐賀平野南部は、「有明海北岸低地」と呼ばれる非常に平坦な臨海低地で、神埼市・吉野ヶ里町ではおおよそJR長崎線から南側の地域にあたる。この低地は非常に傾斜が緩やかであることに加え、干満の差が大きいことで知られる有明海の潮汐作用の影響を強く受けており、満潮時に多量の降水があると広い範囲で冠水するが、干潮時には比較的早く排水される。したがって、この地域での生活や農業には、水をいかに管理するかが重要になるが、それに対して大きな役割を果たしているのが、村落や田を網目状に囲んでいる「クリーク」又は「堀」と呼ばれる溝渠網であり、これにより佐賀独特の景観が形成されている。

両市町の表層地質は、北部の脊振山地は主に中生代白亜紀に生成した花崗岩からなっている。山地南麓に発達する洪積段丘は、高位・中位・低位段丘の3群に区分されている（有明海研究グループ 1965）。高位段丘は、立石層と呼ばれる風化が著しく進んだ砂礫層からなる。両市町では吉野ヶ里町と上峰町の町境に「^{ふたつかやま}二塚山」と通称されていた高位段丘があったが、佐賀東部中核工業団地建設に伴ってほとんど削平されており、現在では吉野ヶ里町三津地区にわずかにみられる程度である。なお、長期間の浸食によって著しく開析され、砂礫層の堆積面が残っていない尾根状の丘陵を含めて高位段丘とよぶ場合もある。中位段丘は中原層と呼ばれる砂礫層からなるが、阿蘇4火砕流堆積物に覆われている場合が多く、吉野ヶ里町横田地区や三津・吉野ヶ里地区にかけて分布している。吉野ヶ里町西隣の上峰町八藤遺跡下層では、阿蘇4火砕流によってなぎ倒された多数の樹木や樹根が発見されている。低位段丘は三田川層と呼ばれる砂礫層からなり、山地南麓から中位段丘周辺に広く分布している。低平地の泥質層は、非海成層である蓮池層と海成層である有明粘土層からなっている。

気候は、近隣の佐賀市の平年値（1980～2010年）を参考にすると、平均気温 16.5℃、平均最高気温 21.4℃、平均最低気温 12.2℃、平均降水量 1,870.1mm、平均相対湿度 70%、平均日照時間 1969.0時間となっている。やや古いデータではあるが『三田川町史』によると、三田川町は佐賀市と比べ気温が高く、降水量が多い傾向があり、脊振山系の気流の関係だろうと考えられると述べられている。また、北部の山地では平野部に比べ平均気温が低く、降水量が多い。このように、南部の平野部では夏の蒸し暑さは厳しいものの、全般的に暮らしやすい気候であるといえる。

吉野ヶ里遺跡周辺の地形についてやや詳しく見ていくと、遺跡は南北に細長い志波屋・吉野ヶ里段丘の南部に立地しており、同じ段丘上に三津永田遺跡や下三津西古墳などが所在している。この段丘から西側には発達した段丘はみられず、佐賀から北東方面に行くと、最初にみられる明瞭な台地となる。志波屋・吉野ヶ里段丘は、遺跡でいうと吉野ヶ里遺跡志波屋四の坪地区と神崎市志波屋五の坪遺跡の間に比較的大きな鞍部があり、遺跡の分布状況と合わせて、遺跡を区分することができよう。段丘南端部には JR 長崎線・国道 34 号線が東西に走っており、おそらく線路敷設に伴うとみられる地形の改変が著しいこともあり、南側の水田部との段差など地形の詳細が判別しにくくなっている。

遺跡が立地している段丘は中・低位段丘に分類され、段丘面の標高はおおよそ 20～25 m で、周辺の水田面との比高差は 10 m 前後である。中位段丘上では阿蘇4火砕流堆積物が厚く堆積しており、良好な部分では上部に褐色系統の「おがくず状ローム」、その下に黄灰～灰白色系統の八女粘土層という典型的な地層を見ることができる。

段丘の東側、特に吉野ヶ里遺跡の東側では段丘直下を田手川が南流しているが、元々は段丘が南東方向にのびている杉籠地区の東側を段丘に沿うように蛇行して流れていたものを、人工的に段丘鞍部を掘削して南北方向にほぼ真っ直ぐの流路に付け替えたことが推定されている。鎌倉時代末期の状況が描かれたと考えられている「東妙寺并妙法寺境内絵図」には現在とほぼ同じ流路で田手川が描かれており、古代に流路の付け替えが行われたようである。

段丘の約 1.8km 西側を南流している城原川と志波屋・吉野ヶ里段丘の間には、平野が広がっており、^{かい}貝川や^{さんぼん}三本松川といった小規模な河川が南流している。この平野部は標高 7～16 m ほどで、有明海の潮汐作用の影響を受けにくいと考えられ、古来より水田経営に適した土地であったことは明らかであろう。

このように、吉野ヶ里遺跡は居住しやすい丘陵、周辺の広々とした平野、豊かな水や温暖な気候などから、古代人の生活に適した土地柄であり、また山も近いことから山の幸、田手川などの水運を利用すれば、海の幸も入手しやすい場所であったことが推測される。さらに有明海を通じた海上の交通路も利用しやすいことも重要であろう。

なお、図 3 は、経済企画庁総合開発局国土調査課（1965・1966）と佐賀県企画室（1978）が刊行した『土地分類基本調査』（佐賀・脊振山）の「地形」を元に作成した図である。作成主体と年が異なっているため、南北で異なる分類となっており、その境界を破線で示している。

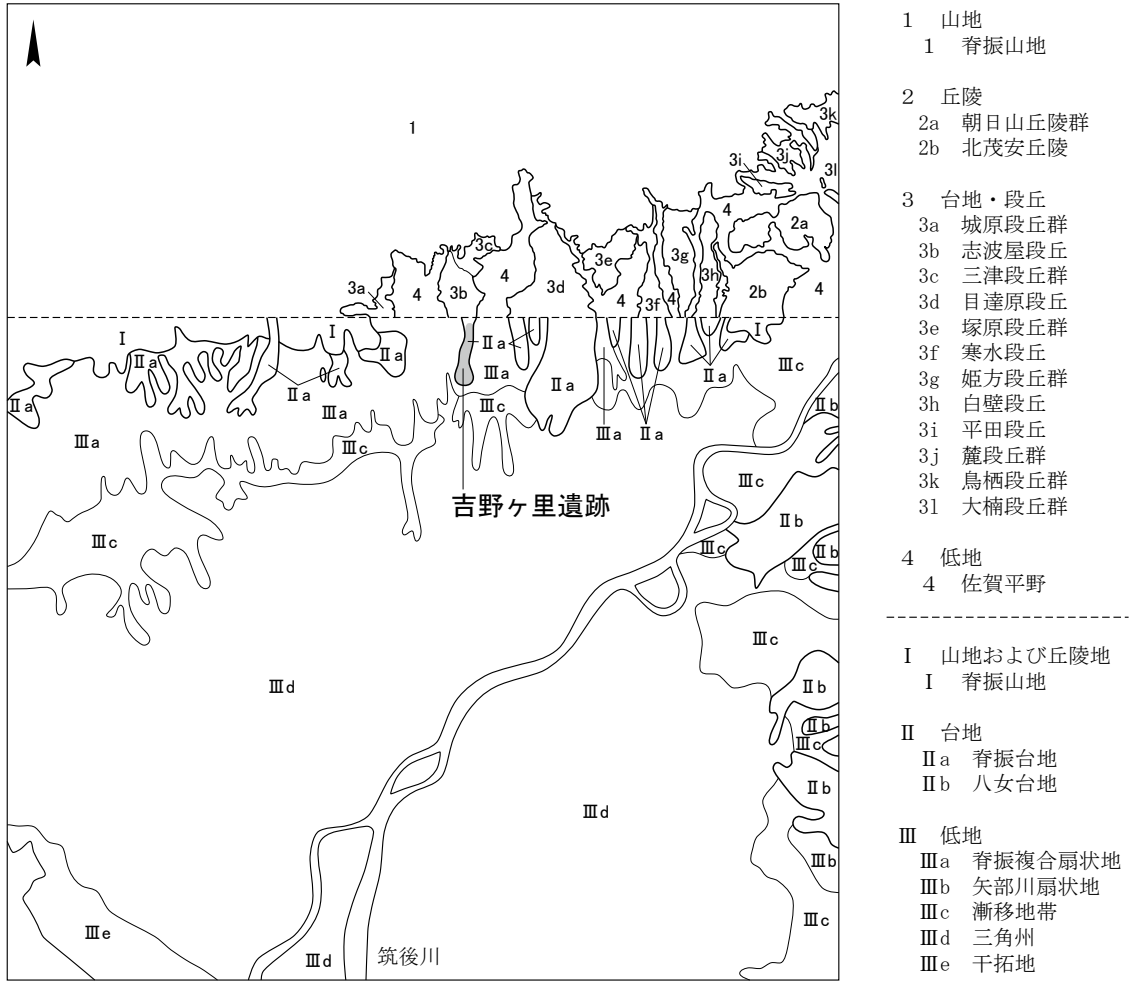


図6 吉野ヶ里遺跡周辺の地形分類

3 歴史的環境

歴史的環境については、神崎市・吉野ヶ里町の遺跡の調査で得られた考古学的な成果を中心に述べ、全般的な歴史的環境は町史などを参照にさせていただきたい。なお、参考文献としての調査報告書は、煩雑さを避けるために本文中には記さず、市町村ごとにこの項の最後にまとめた。

(1) 旧石器・縄文時代

旧石器時代については、断片的な採集資料が多く、また調査例も少ないため、不明な部分が多い。そうした中、神崎市船塚遺跡では二つの文化層を検出し、瀬戸内系の技術・形態の特徴を持つ石器群と在地的なナイフ形石器等が出土しており、注目される。その他に、吉野ヶ里遺跡、吉野ヶ里町山古賀遺跡などからナイフ形石器や角錐状石器、台形状石器が出土している。

縄文時代になると、旧石器時代に比べ調査事例は増加する。遺跡の多くは脊振山系南麓の段丘や丘陵上に立地する。ただし、縄文時代草創期の遺跡はみられない。

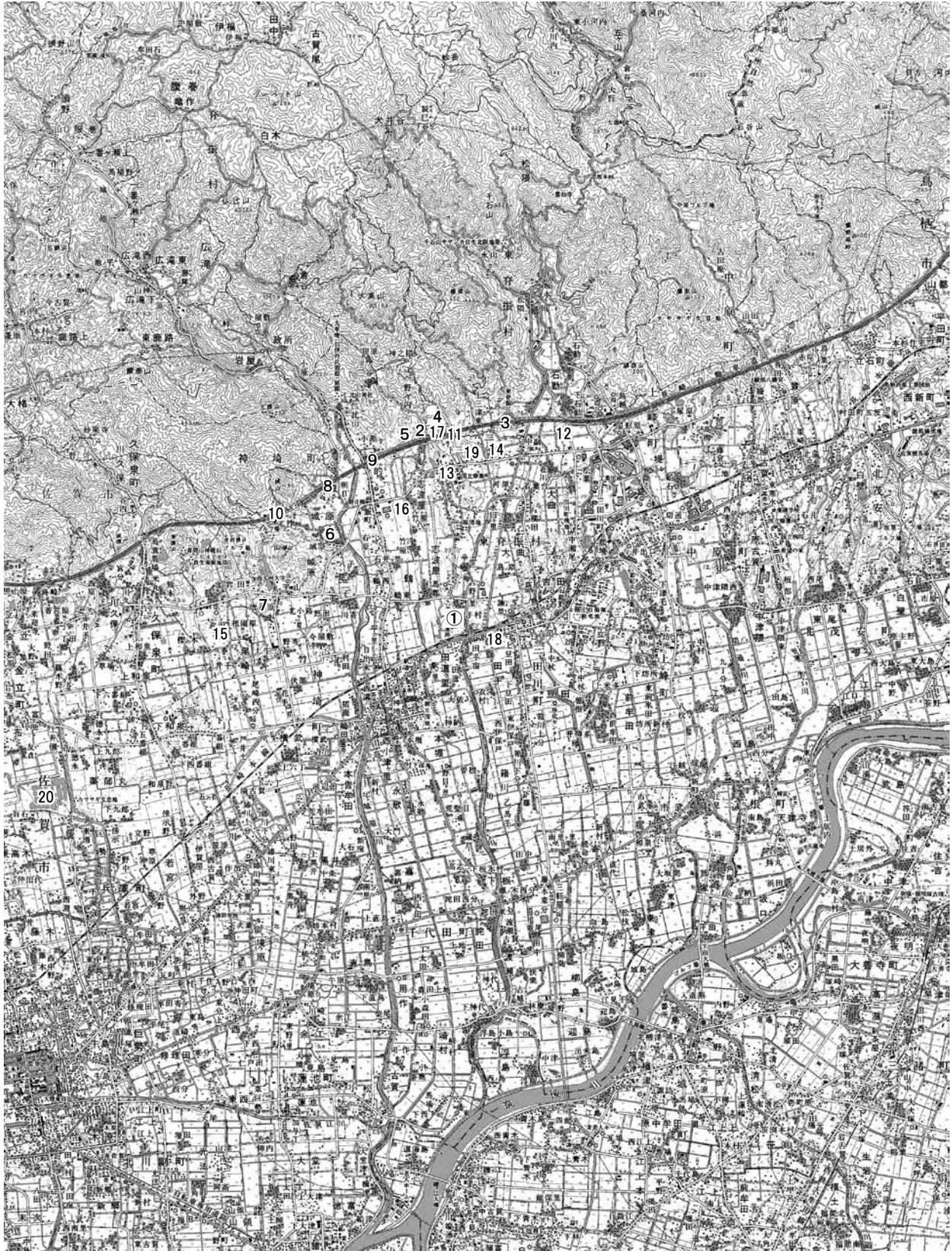
縄文時代早期の遺跡としては、学史上著名な吉野ヶ里町戦場ヶ谷遺跡をはじめ、吉野ヶ里遺跡、神崎市志波屋六本松遺跡・的遺跡・切畑遺跡・猿嶽 A 遺跡・城原一本松遺跡・唐香原遺跡、吉野ヶ里町浦田遺跡・石動四本松遺跡などがある。これらの遺跡では、当該期の土器や石器が採集されており、志波屋六本松遺跡や戦場ヶ谷遺跡、吉野ヶ里町三津永田東遺跡などでは集石遺構も確認されている。また、大規模な湿地性貝塚などが確認された佐賀市東名遺跡の調査成果によって、早期の遺跡が現地表面より深い位置に埋没して存在することが明らかとなり、今後神埼地域でも同様の遺跡が発見される可能性がある。

縄文時代前・中期の遺跡は、早期の遺跡と重複している場合が多く、船塚遺跡・切畑遺跡・猿嶽 A 遺跡・城原一本松遺跡、戦場ヶ谷遺跡・浦田遺跡などがあり、吉野ヶ里遺跡田手一本黒木地区でも、阿高式土器が出土している。ただ、遺構や遺物は全般的に少なく、詳細な様相については不明確な部分が多い。

なお、上記の遺跡は脊振山系南麓部に立地しているが、脊振山地内の河川沿いの平坦地にも点々と小規模な縄文時代の遺跡が確認されている。いずれも未調査のため詳細は不明であるが、同様の立地にある佐賀市富士町などでの調査成果からみて、狩猟などのために一時的に居住した集落の存在が推測される。

縄文時代後期になると、前・中期に比べ遺構や遺物が増加する。戦場ヶ谷遺跡・猿嶽 A 遺跡・城原一本松遺跡などで確認されており、志波屋六本松遺跡では後期前葉～中葉の竪穴建物 3 棟、後期後葉の竪穴建物 1 棟などが検出されており、この時期の集落の様相を知る上で重要な資料が得られている。また、吉野ヶ里町夕ヶ里遺跡（現：庄尾分遺跡）でも後期中葉の竪穴住居が検出されている。

縄文時代晩期も、後葉を中心として遺跡が確認されている。晩期前葉～中葉では、神崎市迎田遺跡で埋甕 1 基が調査され、切畑遺跡から土器が出土している。晩期後葉（弥生時代早期）では、船塚遺跡で竪穴建物 1 棟が検出され、神崎市上志波屋七ノ坪遺跡で溝跡から土器が出土し、吉野ヶ里町寺ヶ里遺跡で土坑 7 基が調査されている。このほか、猿嶽 A 遺跡などで刻目突帯文土器が出土している。これらの遺跡は、いずれも晩期以前の遺跡と同じく脊振山系南麓部に立地するが、この時期には沖積平野部にも遺跡が出現している。吉野ヶ里町田手二本松遺跡は志波屋・吉野ヶ里段丘南東側の標高 8～9 m の平野部に位置し、明確な遺構は検出されなかったが、遺物包含層が確認され、低地部でも開発が行われていたことを示す遺跡である。



- 1. 吉野ヶ里遺跡 2. 船塚遺跡 3. 山古賀遺跡 4. 戦場ヶ谷遺跡 5. 志波屋六本松遺跡 6. 城原一本松遺跡 7. 唐香原遺跡
- 8. 切畑遺跡 9. 的遺跡 10. 猿嶽A遺跡 11. 浦田遺跡 12. 石動四本松遺跡 13. 三津永田遺跡 14. タヶ里遺跡 15. 迎田遺跡
- 16. 上志波屋七ノ坪遺跡 17. 寺ヶ里遺跡 18. 田手二本松遺跡 19. 三津永田東遺跡 20. 東名遺跡

図7 旧石器・縄文時代の遺跡分布 (1/100,000) 国土地理院の数値地図25000 (地図画像)『福岡・熊本』を使用

(2) 弥生時代

弥生時代前期

前期については、初頭～前半は遺跡数が少なく、詳細な様相は不明であるが、後半には遺跡が増加し、立地もより低地に拡大している。

前期初頭～前半では、吉野ヶ里遺跡で溝や竪穴建物が出現し、集落が営まれ始める。この他の集落はほとんど確認されていないが、神崎市志波屋六の坪（甲）遺跡で前半と推定されている竪穴建物が検出され、神崎市田道ヶ里田二本松遺跡では前期初頭～前半の土器が出土している。墳墓としては、神崎市八子四本黒木遺跡で祭祀土坑の出土土器から前期前半には埋葬が始まると考えられる墓地が確認された。このほか、吉野ヶ里町戦場古墳群1区で前期前半～後半の甕棺墓、戦場古墳群6区で前期前半とみられる支石墓1基が調査されている。

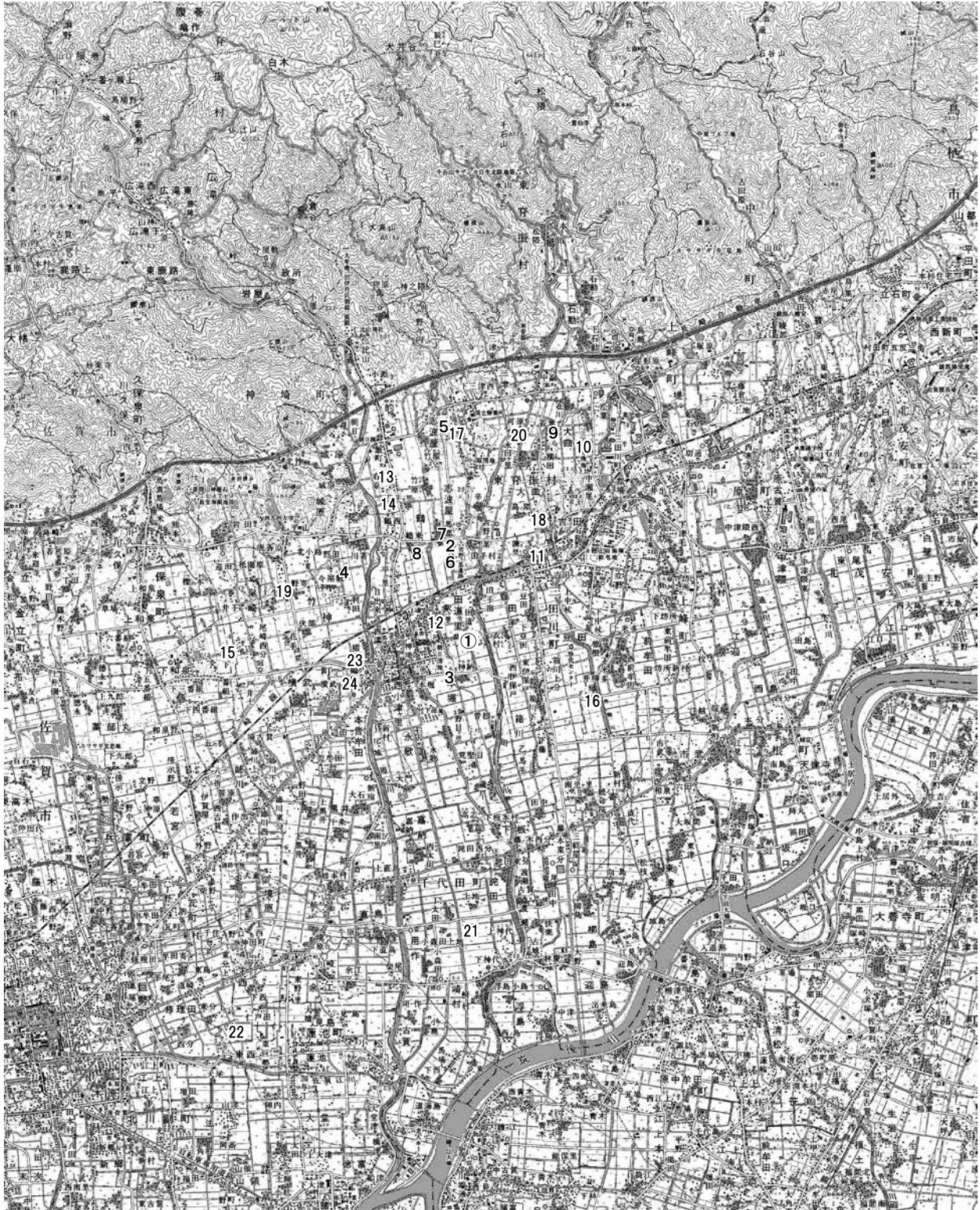
前期後半～末では、吉野ヶ里遺跡南部で大規模な環壕集落が形成される。この他の集落としては、神崎市志波屋三の坪（甲）遺跡・志波屋六の坪（乙）遺跡・志波屋一の坪遺跡、吉野ヶ里町西石動遺跡・石動四本松遺跡・瀬ノ尾遺跡で竪穴建物が確認され、神崎市枝町遺跡・的遺跡・的五本黒木遺跡・迎田遺跡、吉野ヶ里遺跡下中杖遺跡・戦場ヶ谷遺跡で溝跡や土坑などが検出されている。吉野ヶ里町松原遺跡では環壕が形成されていた可能性がある。墳墓としては、八子四本黒木遺跡で木棺墓・甕棺墓からなる墓地が継続しており、神崎市志波屋一の坪遺跡・日の尺池古墳群、吉野ヶ里町山古賀遺跡1区でも甕棺墓が調査されている。これらの遺跡は、主に段丘上に立地しているが、この時期には有明海北岸低地に遺跡が確実に出現している。神崎市詫田西分遺跡・貴別当神社遺跡などで遺構が確認され、集落が形成されていたことが判明しており、またこのような遺跡には貝塚を伴う場合が多い。このほか、利田柳遺跡では前期末から甕棺墓地が展開し始め、利田黒木遺跡で土器が出土している。

弥生時代中期

中期になると、前期に比べ遺跡の数は飛躍的に増加する。前期の集落が主に立地する段丘上でも遺跡が増加しているが、特に中期前半～後半には神埼地域南部の沖積平野部に立地する遺跡が多く確認されているのが特徴である。墓地では、甕棺墓が主体となる大規模な墓域が形成されており、中期前半を中心に列状に埋葬される場合が多く、主に銅剣を副葬する有力者層が出現していることが認められる。また、青銅器を製作した遺跡が確認されている。

吉野ヶ里遺跡では、前期から引き続き遺跡南部がその中心的な集落となるが、それ以外の地区でも中期初頭～前半の集落が確認されている。遺跡南部の田手二本黒木地区では青銅器を鋳造したことを示す遺構・遺物が確認されている。また、志波屋四の坪地区を代表として、甕棺墓を主体とする墓地が各地区で形成され、中期前半には列状に埋葬される場合が多い。副葬品をもつ墓としては、田手一本黒木地区I区で細形銅剣を副葬した中期初頭の甕棺墓が最古例である。中期前半新相には吉野ヶ里丘陵地区V区で墳丘墓が築造され、中期後半までに14基の甕棺墓が埋葬され、そのうち8基には銅剣やガラス製管玉が副葬されている。遺跡周辺では、志波屋六の坪（乙）遺跡で竪穴建物と貯蔵穴からなる集落、枝町遺跡で中期前半～末の甕棺墓地、三津永田遺跡で甕棺墓が調査されている。

中期初頭～前半の集落は、段丘上などの遺跡では竪穴建物と貯蔵穴から構成される例が多い。この時期で主に段丘上に立地する集落としては、神崎市志波屋六の坪（乙）遺跡・切畑遺跡・八子六本黒木遺跡・八子一本黒木遺跡・熊谷遺跡、吉野ヶ里町夕ヶ里遺跡・西前田遺跡・下石動遺跡・松原遺跡・瀬ノ尾遺跡・大曲遺跡などで確認されている。これらの遺跡では、これまでの調査成果から環壕が検出された明確な例はみられない。中期初頭～前半の甕棺墓を主体とする墓地は、神崎市志波屋三の坪（甲）遺跡・八子四本黒木遺跡・八子二本黒木遺跡・八子六本黒木遺跡・八子三本黒木遺跡・伏部大石遺跡・熊谷遺跡・西田遺跡、吉野ヶ里町松葉遺跡・西前田遺跡・西石動遺跡・松原遺跡などで多数確認されている。また、詳細な時期は不明であるが、吉野ヶ里町瓢箪塚古墳下層で細形銅剣を副葬した甕棺墓



1. 吉野ヶ里遺跡 2. 志波屋六の坪(甲)遺跡 3. 田道ヶ里田二本松遺跡 4. 八子四本黒木遺跡 5. 戦場古墳群 6. 志波屋三の坪(甲)遺跡
 7. 志波屋六の坪(乙)遺跡 8. 志波屋一の坪遺跡 9. 西石動遺跡 10. 石動四本松遺跡 11. 瀬ノ尾遺跡 12. 枝町遺跡 13. 的遺跡
 14. 的五本黒木遺跡 15. 迎田遺跡 16. 下中杖遺跡 17. 戦場ヶ谷遺跡 18. 松原遺跡 19. 日の尺池古墳群 20. 山古賀遺跡
 21. 詫田西分遺跡 22. 貴別当神社遺跡 23. 利田柳遺跡 24. 利田黒木遺跡

図8 弥生時代前期の遺跡分布 (1/100,000) 国土地理院の数値地図25000(地図画像)『福岡・熊本』を使用

が検出されている。

中期初頭には、沖積平野部での遺跡の増加が著しい。これらの遺跡は、段丘上の遺跡とは異なり、竪穴建物が確認されておらず、明確な検出例はほとんどないものの、掘立柱建物が住居として利用されたものと思われる。また、この時期から井戸が検出されるようになり、平野部の集落は掘立柱建物・井戸・貯蔵穴で構成されると考えられ、姉遺跡で確認されているように主に排水が目的と推測される環濠が巡っていた可能性がある。中期初頭～前半の集落として、神崎市詫田西分遺跡・高志神社遺跡・姉遺跡・黒井遺跡・黒井八本松遺跡・貴別当神社遺跡・利田柳遺跡などがある。姉遺跡では、銅矛鑄型と銅剣鑄型が出土し、鑄造遺構などは発見されていないが、青銅器を鑄造していたものと考えられる。このほか、姉遺跡や黒井遺跡などで朝鮮系無文土器やその影響を受けたと推測されている土器が出土している。墳墓も、高志神社遺跡・利田柳遺跡などで甕棺墓地が確認されており、定住していたことを示している。高志神社遺跡では、中期前半新相の甕棺墓で寛骨に銅剣切先が陥入した成年男性に細形銅剣を副葬しており、注目される。

中期後半になると、遺跡の立地がやや変化しはじめ、中期末～後期前半には沖積平野低地部で集落があまり確認されなくなる。集落では貯蔵穴が少なくなり、貯蔵形態は掘立柱建物に交代していくことをうかがわせる。墓地で甕棺墓が主体となることは、中期前半と変わらない。

吉野ヶ里遺跡では、集落が減少する傾向がみられるが、墓地には減少はみられないと考えられる。吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区では密集する甕棺墓地が確認され、中期末の甕棺墓に前漢鏡が棺外、イモガイ製貝輪が棺内に副葬されていた。遺跡周辺では、三津永田遺跡で中期後半から本格的に甕棺墓が営まれ始めたようで、後期前半まで副葬品をもつものがみられる。

中期後半～末では、集落としての遺跡・的五本黒木遺跡・切畑遺跡・八子六本黒木遺跡・八子一本黒木遺跡・川寄吉原遺跡・利田柳遺跡・迎田遺跡・尾崎土生遺跡・尾崎利田遺跡、吉野ヶ里町西前田遺跡・松原遺跡・東外遺跡などがある。このうち、松原遺跡で環濠が形成されていたとみられ、八子一本黒木遺跡・尾崎土生遺跡でも環濠の可能性のある溝が確認されている。沖積平野部の遺跡では、詫田西分遺跡・高志神社遺跡・姉遺跡・黒井遺跡・黒井八本松遺跡・柴尾遺跡・貴別当神社遺跡・利田柳遺跡など柴尾遺跡を除き、中期前半から集落が継続しているが、中期末になると詫田西分遺跡・黒井遺跡・黒井八本松遺跡・柴尾遺跡・貴別当神社遺跡などと集落が少なくなり、これらの遺跡でも遺構数は減少している。

墓地は変わらず多く認められ、志波屋六本松乙遺跡・朝日北遺跡・八子四本黒木遺跡・八子二本黒木遺跡・八子三本黒木遺跡・熊谷遺跡・西田遺跡・唐香原遺跡・塚原遺跡、吉野ヶ里町松原遺跡・瀬ノ尾遺跡・松の内遺跡・下中杖遺跡などで甕棺墓を主体とする墓地が確認されている。吉野ヶ里町と上峰町にまたがる二塚山遺跡では、中期後半に本格的に甕棺墓が展開し始め、後期前半を中心に豊富な副葬品が出土しているが、立岩式期の甕棺墓にも前漢鏡が副葬されている。また、志波屋六本松乙遺跡では中期後半の甕棺墓に鉄剣が副葬されていた。沖積平野部では墓地がほとんど確認されておらず、利田柳遺跡・野田遺跡で認められる程度である。

弥生時代後期

後期になると、後期前半の遺跡は多くないが、後期後半～終末期の集落が多数確認され、大規模な集落も認められるようになり、この地域の弥生時代集落の最盛期となる。集落は基本的に、竪穴建物と掘立柱建物で構成されるものが段丘上を中心に、掘立柱建物と井戸で構成されるものが沖積平野部に立地している。また、特徴的な環濠が掘削されている遺跡がみられる。墳墓は、後期前半には甕棺墓や土坑墓からなる墓地が確認されるが、それ以降は単発的に検出される場合がほとんどである。

吉野ヶ里遺跡では、後期前半に外環濠が掘削され始め、再び集落が増加・拡大している。墓地は、中期末から継続して甕棺墓や土坑墓などが確認されている墓域が多い。また、吉野ヶ里地区Ⅴ区の外環濠跡から青銅器鑄型が出土し



- 1. 吉野ヶ里遺跡 2. 志波屋六の坪(乙)遺跡 3. 枝町遺跡 4. 三津永田遺跡 5. 切畑遺跡 6. 八子六本黒木遺跡 7. 八子一本黒木遺跡
- 8. 熊谷遺跡 9. タケ里遺跡 10. 西前田遺跡 11. 下石動遺跡 12. 松原遺跡 13. 瀬ノ尾遺跡 14. 大曲遺跡 15. 志波屋三の坪(甲)遺跡
- 16. 八子四本黒木遺跡 17. 八子二本黒木遺跡 18. 八子三本黒木遺跡 19. 伏部大石遺跡 20. 西田遺跡 21. 松葉遺跡 22. 西石動遺跡
- 23. 瓢箪塚古墳 24. 詫田西分遺跡 25. 高志神社遺跡 26. 姉遺跡 27. 黒井遺跡 28. 黒井八本松遺跡 29. 貴別当神社遺跡 28. 利田柳遺跡
- 29. 的遺跡 30. 的五本黒木遺跡 31. 川寄吉原遺跡 32. 迎田遺跡 33. 尾崎土生遺跡 34. 尾崎利田遺跡 35. 東外遺跡 36. 柴尾遺跡
- 37. 志波屋六本松乙遺跡 38. 朝日北遺跡 39. 唐香原遺跡 40. 塚原遺跡 41. 松の内遺跡 42. 下中杖遺跡 43. 二塚山遺跡 44. 野田遺跡

図9 弥生時代中期の遺跡分布 (1/100,000) 国土地理院の数値地図 25000 (地図画像)『福岡・熊本』を使用

ており、巴形銅器などを生産していたものと推測される。周辺では、志波屋六の坪（乙）遺跡で集落が形成され始めたと思われる。

後期前半の遺跡として、低位段丘から複合扇状地に立地する集落である五本黒木遺跡・切畑遺跡・祇園原遺跡・尾崎土生遺跡、西前田遺跡などで竪穴建物や掘立柱建物などが確認されている。中位段丘上の松原遺跡では集落が展開していたようである。沖積平野部では、詫田西分遺跡・姉遺跡・黒井遺跡・崎村遺跡・川寄吉原遺跡などで集落が調査されている。ただ、この時期の集落は全体的に数が少なく、詳細は不明な点が多い。墓地については、熊谷遺跡・西田遺跡・唐香原遺跡・横山遺跡、三津永田遺跡・石動四本松遺跡・瀬ノ尾遺跡・松の内遺跡・二塚山遺跡で甕棺墓や土坑墓からなる墓域が確認されている。このうち、二塚山遺跡で舶載鏡などの豊富な副葬品を出土した墓地、三津永田遺跡で舶載鏡や素環頭大刀が副葬された甕棺墓などが調査され、三津永田遺跡から出土した甕棺は甕棺編年において後期前半の標識となっている。また、石動四本松遺跡では破碎した舶載鏡、横山遺跡では鉄剣が甕棺墓の棺外に副葬されていた。このほか、吉野ヶ里町目達原から埋納されたとみられる中広形銅矛4本が出土している。

後期後半になると、前半に比べて集落が増加している。吉野ヶ里遺跡では、約40ha以上を取り囲むと考えられる外環壕が完成し、その内部をさらに環壕で区画する南内郭が成立している。また、外環壕西側には高床倉庫群が形成されている。このほか、志波屋四の坪地区でも竪穴建物と掘立柱建物で構成される集落が確認されている。墓地は、後期後半以降ほとんど認められなくなる。吉野ヶ里遺跡周辺では、志波屋六の坪（乙）遺跡・志波屋六の坪（甲）遺跡・志波屋一の坪遺跡でこの時期の集落が確認されている。

後期後半の遺跡として、八子六本黒木遺跡・祇園原遺跡、吉野ヶ里町タケ里遺跡・西前田遺跡・松原遺跡・瀬ノ尾遺跡・亀作遺跡・東外遺跡などで、主に段丘上に立地する集落が確認されている。沖積平野部では、詫田西分遺跡・姉遺跡・黒井遺跡・黒井八本松遺跡・直鳥四本松遺跡・柴尾遺跡などで集落が調査されている。墓地はこの時期以降、集団墓を形成する例はほとんどなくなり、尾崎利田遺跡でみられるように数基の甕棺墓などが確認されるのみとなる。

終末期も後期後半と同様に遺跡が多数確認され、多重の環壕が巡る集落がみられるようになる。吉野ヶ里遺跡では、2重環壕で区画された北内郭が形成され、南内郭は掘り直される。北内郭内には、総柱構造で大型の掘立柱建物が検出され、吉野ヶ里遺跡の最盛期であることが明らかとなっている。また、内郭の環壕には外側に突出する部分があり、その内側に掘立柱建物が検出されている。周辺では、志波屋六の坪（乙）遺跡・志波屋一の坪遺跡で集落が継続し、志波屋二本松（乙）遺跡でも竪穴建物が調査されている。

終末期の遺跡として、八子六本黒木遺跡・迎田遺跡・祇園原遺跡・尾崎土生遺跡・タケ里遺跡・西前田遺跡・松原遺跡・瀬ノ尾遺跡・亀作遺跡などで集落が認められる。このうち、松原遺跡では多重の環壕の中心に四隅にわずかに突出をもつ小規模な方形環壕が二つ並列していることが明らかとなっている。このほか、八子六本黒木遺跡・迎田遺跡では吉野ヶ里遺跡でみられた環壕突出部が検出されている。沖積平野部では、黒井八本松遺跡・直鳥四本松遺跡・柴尾遺跡・貴別当神社遺跡で集落が確認されている。墓地としては、石動四本松遺跡で列状に埋葬された石棺墓群が調査されている。また、詳細な時期や出土状況は不明であるが、横田遺跡（現：松原遺跡）から副葬されたとみられる舶載鏡・素環頭鉄刀が出土している。

（3）古墳時代

古墳時代前期では、弥生時代終末期から継続して古墳時代初頭まで存続する集落として吉野ヶ里遺跡、志波屋六の坪（乙）遺跡・志波屋一の坪遺跡・八子六本黒木遺跡・祇園原遺跡・柴尾遺跡、タケ里遺跡・瀬ノ尾遺跡があり、このほかに神崎市志波屋二本松（乙）遺跡・本堀朝日遺跡・尾崎土生遺跡・尾崎利田遺跡・黒井遺跡・姉遺跡、吉野ヶ里町松の森遺跡・石動四本松遺跡などがある。神崎市右原祇園町遺跡では居館跡と考えられる前期初頭の方形区画溝



1. 吉野ヶ里遺跡 2. 志波屋六の坪(乙)遺跡 3. 的々本黒木遺跡 4. 切畑遺跡 5. 祇園原遺跡 6. 尾崎土生遺跡 7. 西前田遺跡
 8. 松原遺跡 9. 詫田西分遺跡 10. 姉遺跡 11. 黒井遺跡 12. 崎村遺跡 13. 川寄吉原遺跡 14. 熊谷遺跡 15. 西田遺跡 16. 唐香原遺跡
 17. 横山遺跡 18. 三津永田遺跡 19. 石動四本松遺跡 20. 瀬ノ尾遺跡 21. 松の内遺跡 22. 二塚山遺跡 23. 志波屋六の坪(甲)遺跡
 24. 志波屋一の坪遺跡 25. 八子六本黒木遺跡 26. タヶ里遺跡 29. 亀作遺跡 30. 東外遺跡 31. 黒井八本松遺跡 32. 直鳥四本松遺跡
 33. 柴尾遺跡 34. 尾崎利田遺跡 35. 志波屋二本松(乙)遺跡 36. 迎田遺跡 37. 尾崎土生遺跡 38. 貴別当神社遺跡

図10 弥生時代後期の遺跡分布 (1/100,000) 国土地理院の数値地図25000(地図画像)『福岡・熊本』を使用

が検出され、詳細は不明であるが、中園遺跡で前期の竪穴建物が多数確認されている。この時期の墳墓としては、吉野ヶ里遺跡で前方後方墳4基や方形周溝墓、枝町遺跡・八子三本黒木遺跡・横山遺跡で方形周溝墓、突出部を持つ不整円墳である吉野ヶ里町西一本杉ST008古墳、山古賀遺跡で石棺墓や土坑墓からなる墓地、志波屋六本松古墳群・朝日北遺跡・朝日遺跡で箱式石棺墓や土坑墓を内部主体とする低墳丘の古墳群などが確認されている。吉野ヶ里遺跡の前方後方墳は、北から吉野ヶ里丘陵地区ST0942（全長約20m）・ST0941（推定全長26m）・ST2200（全長30m）、田手二本黒木地区ST0568（全長40m）と段丘上に展開しており、ST0568は九州で最大規模の前方後方墳である。

このように初頭を中心とした集落・墳墓が確認されているが、継続性に乏しいものが多い。前～中期にかけては、志波屋二本松（乙）遺跡・岩田芦ノ元遺跡・寺山古墳群で集落、墳墓として全長24mの前方後円墳である朝日ST006古墳などがあるが、前期後半～中期の様相は不明な点が多い。

その中で吉野ヶ里町と上峰町にまたがる目達原段丘上には、7基の前方後円墳と1基の円墳からなる目達原古墳群が展開している。このうち瓢箪塚古墳がもっとも古いものと推定されているが、内容が不明であるため、正確な年代は不明である。その後、上のびゅう塚古墳（全長49mの前方後円墳）→目達原大塚古墳（全長55mの前方後円墳）→塚山古墳（全長48mの前方後円墳）→古稻荷塚古墳（径35mの円墳）→稲荷塚古墳（全長50mの前方後円墳）という5世紀前半～6世紀前半の首長墓系譜が認められる。

古墳時代後期になると、中期とは異なる様相がみられる。集落として、吉野ヶ里遺跡・浦田遺跡・三津永田東遺跡・タヶ里遺跡・下石動遺跡・石動四本松遺跡・西前田遺跡・瀬ノ尾遺跡・下中杖遺跡・切畑遺跡・志波屋六本松遺跡・船塚遺跡・志波屋六の坪（乙）遺跡・右原祇園町遺跡・八子二本黒木遺跡・尾崎土生遺跡・花手遺跡などがあり、段丘上を中心に数多くの集落が展開していることが判明している。これに対応するように、脊振山系南麓部には後期の群集墳が密集している。

また、首長墓が中期にはみられなかった神埼地域で認められるようになる。石動四本松遺跡4区ST217前方後円墳は、墳丘は全て削平されているものの、周溝が確認され、全長約50mと推定されている。円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪（人物・馬・鳥）などが出土し、5世紀末～6世紀初頭の築造と考えられている。志波屋段丘上では、下三津西古墳→伊勢塚古墳という6世紀後半代の首長墓系譜が認められる。下三津西古墳は全長53mの前方後円墳であるが、横穴式石室はほとんどの石材が抜き取られており、詳細は不明である。伊勢塚古墳は全長78mの前方後円墳で、同時期の佐賀平野では突出した規模を誇り、石室も県内最大級の巨室・巨石墳である。玄室奥壁には赤色顔料で円文が描かれていたとされる。このほか首長墓として、神崎市二子山古墳（全長18mの前方後円墳）・岩田丸山古墳（全長28mの前方後円墳）などがある。

（4）古代

律令期になると、官道や官衙的な建物群、寺院など律令体制に密接に関わる遺跡が数多く確認されている。肥前国における古代官道については、空中写真を利用して道路痕跡を認めてゆく歴史地理学的方法により、佐賀市大和町からみやき町に至る直線約17kmが木下良氏によって復元されていた。発掘調査においては、吉野ヶ里遺跡志波屋四の坪・三の坪（乙）地区で丘陵の切通しとなった部分から西側の低地にかけて、県内で初めて道路が確認された。吉野ヶ里町鳥ノ隈遺跡でも切通しとなっている部分で道路が調査されている。このほか、神崎市中園遺跡・鶴前田遺跡・鶴籠遺跡・野島遺跡・迎田遺跡で道路やその痕跡が確認されている。また、発掘調査では明確な道路状痕跡などは認められなかったが、祇園原遺跡・唐香原遺跡には切通しがあり、官道の痕跡と考えられている。このように、歴史地理学的方法によって復元された直線道路は、奈良時代の官道であることが発掘調査によって確認されている。

この官道の周辺には、官衙的な建物群が多数確認されている。吉野ヶ里遺跡では、掘立柱建物200棟以上、井戸



- 1. 吉野ヶ里遺跡 2. 志波屋六の坪(乙)遺跡 3. 志波屋一の坪遺跡 4. 八子六本黒木遺跡 5. 祇園原遺跡 6. 柴尾遺跡 7. タケ里遺跡
- 8. 瀬ノ尾遺跡 9. 志波屋二本松遺跡(乙)遺跡 10. 本掘朝日遺跡 11. 尾崎土生遺跡 12. 尾崎利田遺跡 13. 黒井遺跡 14. 姉遺跡
- 15. 松の森遺跡 16. 石動四本松遺跡 17. 右原祇園町遺跡 18. 中園遺跡 19. 枝町遺跡 20. 八子三本黒木遺跡 21. 横山遺跡
- 22. 西一本杉遺跡 23. 山古賀遺跡 24. 志波屋六本松古墳群 25. 朝日北遺跡 26. 朝日遺跡 27. 岩田芦ノ元遺跡 28. 寺山古墳群
- 29. 瓢箪塚古墳 30. 上のびゅう塚古墳 31. 目達原大塚古墳 32. 塚山古墳 33. 古稲荷塚古墳 34. 稲荷塚古墳 35. 浦田遺跡
- 36. 三津永田東遺跡 37. 下石動遺跡 38. 西前田遺跡 39. 下中枝遺跡 40. 切畑遺跡 41. 志波屋六本松遺跡 42. 船塚遺跡
- 43. 八子二本黒木遺跡 44. 花手遺跡 45. 下三津西古墳 46. 伊勢塚古墳 47. 二子山古墳 48. 岩田丸山古墳

図 11 古墳時代の遺跡分布 (1/100,000) 国土地理院の数値地図 25000 (地図画像)『福岡・熊本』を使用

50基以上などが確認され、「日下部烏甘」「□五月十日稲」「大嶋一斗二升」などと判別できる木簡9点や円面硯、墨書土器、へら書き土器などが出土している。中園遺跡を始めとする馬郡・竹原遺跡群では、掘立柱建物、柵列、井戸、溝などが多数検出され、帯金具（鉸具）や「神人」と記された墨書土器、「厨鉢」「神埴厨」と書かれたへら書き土器などが出土している。また、上峰町坊所一本谷遺跡でも、官衙的な建物群が確認されており、注目される。

寺院としては、吉野ヶ里町辛上廃寺、上峰町塔の塚廃寺がある。辛上廃寺からは鴻臚館系の瓦が出土し、本格的な塔心礎も付近に存在している。開墾により削平されたと考えられていたが、吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区の確認調査によって伽藍配置が明らかとなった。南北約110m、東西約80mの築地に囲まれた寺域の内部に、門・金堂・僧坊と考えられる掘立柱建物や、塔基壇などが確認され、本格的な寺院であったことが判明した。塔の塚廃寺は南北36尺、東西36尺のおおよそ方形の塔土壇が残り、礎石も原位置を保っていたらしいが、飛行場建設のために消滅した。百済系単弁軒丸瓦が採集されている。周辺の状況から1堂塔のみの寺院の可能性が想定されている。

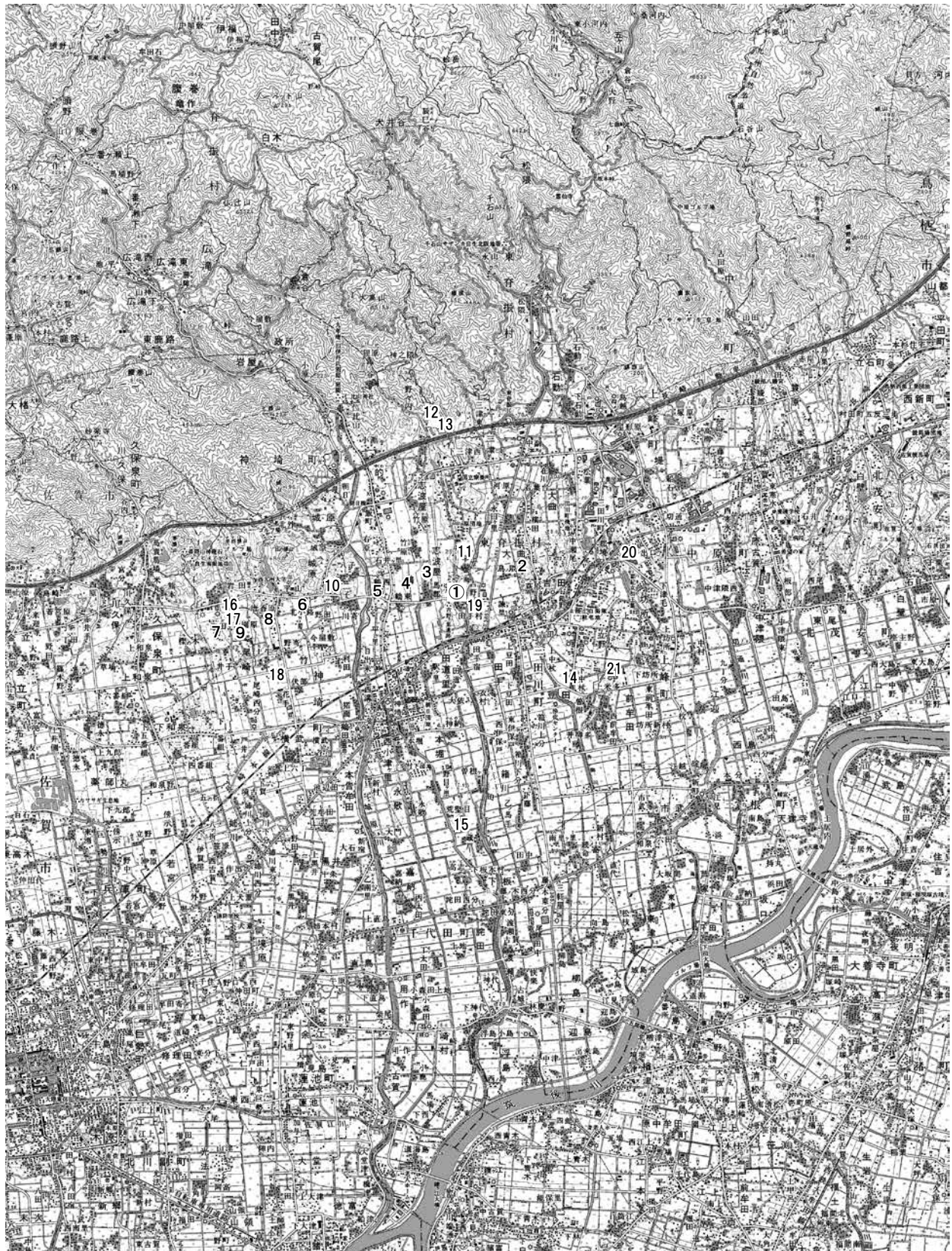
佐賀県内の古代寺院として佐賀市肥前国分寺・肥前国分尼寺・大願寺廃寺、小城市寺浦廃寺についてふれておく（図2）。肥前国分寺は、確認調査で確認された築地や内外の溝、西門基壇などによって約218m×約218m（方二町）にほぼ確定された。寺域内は中央に金堂、その北側に講堂、南東に塔という伽藍配置で、塔の基壇は大規模であり、七重塔に推定されている。創建時の古瓦としては、鴻臚館系軒丸瓦・平瓦、鬼瓦、複弁蓮華文軒丸瓦、均正唐草文軒平瓦がある。一方、肥前国分尼寺跡は国分寺より西に約三町の場所に大昌尼寺跡伝承地に推定されているが、発掘調査が行われていないため、詳細は分かっていない。推定地周辺からは大宰府系鬼瓦や布目瓦が採集されている。

大願寺廃寺は大願寺集落内の五社明神境内を中心に広く礎石が分布しており、その数はおよそ50個を数える。境内内には建物基壇が残存し、条里制の遺構と遺物の分布状況から約218m×約218m（方二町）と肥前国分寺と同規模だと推定されている。伽藍配置は明らかでないが、五社明神地区に柱座の造り出しをもつ礎石が多く、基壇が存在することから、この地区に中心的な建物である金堂又は講堂が、その東方約180mに東門に関係すると思われる2孔を穿った礎石1個が残存する。百済系単弁軒丸瓦や三重弧文軒平瓦、鴻臚館系丸瓦、老司系軒平瓦が採集されており、寺浦廃寺や基山町基肆城と同範の瓦があることから、同時期における関係性が読み取れる。また、千葉県成田市で発見された宝亀五年（774年）銘梵鐘に記された「佐賀郡椅寺」に比定される可能性が高い。

寺浦廃寺は、発掘調査によって寺域が東西約63.3m×南北約71.8mの規模になることが判明している。回廊や中門、塔土壇が確認され、回廊内中央に金堂の存在が推定される。調査の結果、回廊内中央に金堂を配置した後、回廊を廃絶し金堂の西側に塔を造営する法隆寺系の配置になるという伽藍配置の変遷が判明している。創建時の古瓦には唐草文縁単弁八葉軒丸瓦や重弧文軒平瓦、鴻臚館系軒丸瓦、扁行唐草文軒平瓦がある。なお、寺浦廃寺より北東に約400mの山の斜面に寺浦瓦窯があり、窯で出土する瓦と寺浦廃寺で出土した古瓦が同じような組成であることから、寺院の瓦をここで焼いていたことが分かっている。

神崎市・吉野ヶ里町は、肥前国神埼郡の範囲に含まれる。『肥前風土記』神埼郡条には「郷玖所、里廿六、驛壹所、烽壹所、寺壹所僧寺」とあり、「烽」は神崎市日の隈山、「寺」は辛上廃寺と推定されている。また、風土記には三根郡が神埼郡から分かれて成立したことが記されており、もともとの神埼郡が上郡の規模であったことがうかがえる。これまでの調査の状況から、神埼郡衙については馬郡・竹原遺跡群が有力であり、七田忠昭氏は推定竹原里14・15・22・23坪をその候補地として具体的にあげている。また、吉野ヶ里遺跡で確認された建物群の一部は駅家に関係する可能性がある。以上のように、吉野ヶ里遺跡周辺は奈良時代において神埼郡の中心的地域であったことが明らかにされつつある。

平安時代になると、吉野ヶ里遺跡などの調査結果から、直線道路は少なくとも「官道」としての役割は終わっており、主要な交通路は奈良時代の官道から2里南に路線を替えているようである。この交通路に隣接する吉野ヶ里町下



1. 吉野ヶ里遺跡 2. 鳥ノ隈遺跡 3. 中園遺跡 4. 鶴前田遺跡 5. 鶴籠遺跡 6. 野島遺跡 7. 迎田遺跡 8. 唐香原遺跡
 9. 祇園原遺跡 10. 熊谷遺跡 11. 辛上廃寺跡 12. 戦場古墳群 13. 戦場ヶ谷遺跡 14. 下中杖遺跡 15. 荒堅目遺跡 16. 塚原遺跡
 17. 小林遺跡 18. 尾崎土生遺跡 19. 田手二本杉遺跡 20. 坊所一本谷遺跡 21. 塔の塚廃寺跡

図12 古代の遺跡分布 (1/100,000)

国土地理院の数値地図25000(地図画像)『福岡・熊本』を使用

中杖遺跡では、平安時代前期を中心として中世に至る掘立柱建物・井戸が多数確認されている。平安時代の主な出土遺物として、越州窯系青磁や刑窯系白磁、木製馬鞍、新羅製青銅製箸などがあり、その内容から後述する神崎荘の中心的な集落であった可能性がある。神崎市荒堅目遺跡では溝・柵列などが確認され、溝から木簡が出土している。このほか、主に掘立柱建物から構成される集落として、神崎市熊谷遺跡・塚原遺跡・小林遺跡・尾崎土生遺跡などがあり、吉野ヶ里町田手二本杉遺跡でも溝などが確認されている。これらの遺跡からはやはり越州窯系青磁、長沙窯系水注などが出土している。また、坊所一本谷遺跡では竪穴建物を中心とする平安時代前期の集落が確認されている。

『類聚国史』によれば、承和3（836）年に神崎郡の空閑地 690 町が勅旨田となり、『御堂関白記』には「神崎御庄」の名称が初めてみられ、11 世紀初頭には皇室領荘園、神崎荘が成立していたことが知られる。『御堂関白記』や『百鍊抄』には中国宋との対外交渉をうかがわせる記述があり、このような文献記録と多くの遺跡から輸入陶磁器が出土することとは無関係ではないであろう。なお、神崎郡域のほとんどは神崎荘に含まれていると考えられるが、ほかに三津荘、太宰府安楽寺領としての石動荘が所在していた。

（5）中世

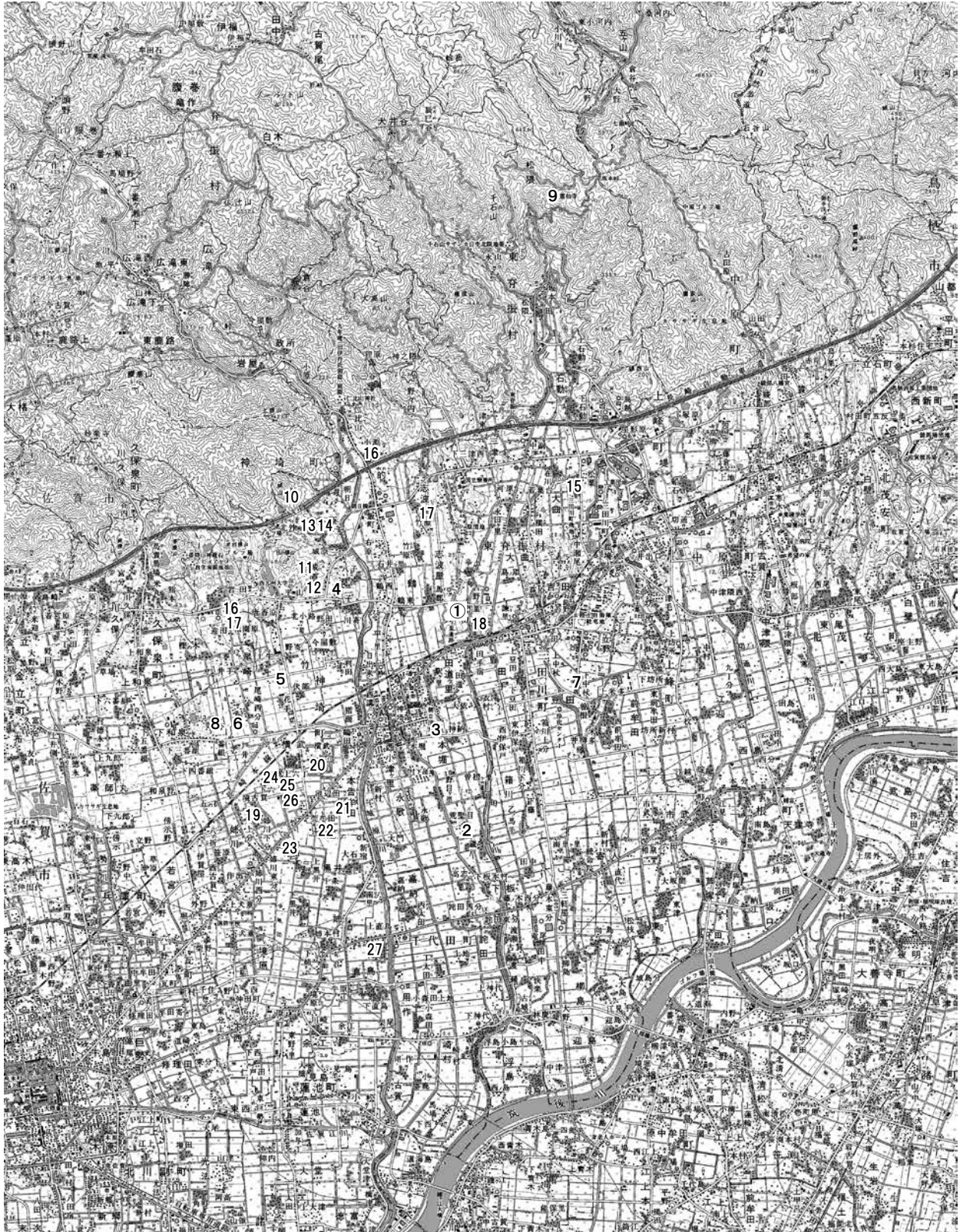
中世前期の遺跡として、荒堅目遺跡・本堀朝日遺跡・熊谷遺跡・尾崎土生遺跡・尾崎利田遺跡、下中杖遺跡、佐賀市本村遺跡などが確認されている。このうち、本村遺跡では溝で区画された集落が検出され、名主など荘村内有力者層の屋敷地と推定されている。荒堅目遺跡では、井戸から銅製帯金具が出土している。これらの遺跡からは輸入陶磁器が数多く出土しており、対外交渉が盛んであったことをうかがわせる。『長秋記』には平忠盛が神崎荘での対宋貿易を独占しようとしたことが記述されており、有明海を通じたルートも対外交渉の一つの窓口であったことを示している。神崎郡域は、大部分が引き続き皇室領、院の荘園であり、鎌倉幕府成立後も地頭が置かれず、院が一円支配していた。しかし、承久の変（1221 年）後に三浦泰村が地頭に任じられ、幕府の支配力が及ぶようになったと考えられる。宝治合戦（1249 年）で三浦泰村が滅ぶと、以後地頭は置かれていないものの、幕府の影響力は残されていたようである。

元寇（文永の役：1274 年・弘安の役：1281 年）は、神崎荘にも様々な変化をもたらすことになった。恩賞地として弘安 8（1285）年河野通有に小崎郷（神崎市尾崎）が与えられたのを契機に、肥前の御家人を中心とした 400 人あまりに神崎荘内の地頭職が配分されている（『櫛田神社文書』）。

また、異国降伏祈願のため弘安年間（1278～1287 年）、吉野ヶ里遺跡の南東側に西大寺の末寺である東妙寺が建立され、それ以前（正嘉年間か？）に建立されたと伝えられる妙法寺が田手川を挟んで西側にあった。その様子は「東妙寺并妙法寺境内絵図」に描かれており、当時の寺院の規模・伽藍配置などを具体的に伝える貴重な史料となっている。この二つの寺社には、神崎荘が小規模に恩賞地として分配されたこともあって、多くの土地が寄進・売却されており、『東妙寺文書』などによれば、その勢力が盛んであったことが知られる。建武 2（1335）年の「東妙・妙法両寺寺領坪付注文」によれば、両寺の寺領は、田地 91 ケ所（49 町 9 反）、畠地 13 ケ所（1 町 7 反 4 丈）、屋敷 10 ケ所、荒地 6 ケ所となっている。吉野ヶ里遺跡田手一本黒木地区では、妙法寺の寺域を区画すると推定される溝が検出され、ベトナム産白磁鉢などが出土している。東妙寺・妙法寺の北側には、やはり勅願祈祷寺として建立されたとされる石塔院が所在しており、両寺との関連が深い。寺内には五輪塔や板碑などが残されている。

このほか、脊振山では山岳信仰が盛んで、「脊振千坊」と俗称される多くの寺・坊が並び、上宮を東門寺、中宮を靈仙寺、下宮を積翠寺（のち修学院）と総称していたと考えられている。このうち、靈仙寺では坊跡・経塚・墓地などが調査されている。

中世後期の遺跡として、山麓部に佐賀県の代表的山城の一つである神崎市勢福寺城をはじめとして松崎城・横大路



- 1. 吉野ヶ里遺跡 2. 荒堅目遺跡 3. 本掘朝日遺跡 4. 熊谷遺跡 5. 尾崎土生遺跡 6. 尾崎利田遺跡 7. 下中杖遺跡 8. 本村遺跡
- 9. 霊仙寺跡 10. 勢福寺城跡 11. 松崎城跡 12. 横大路城跡 13. 城原三本谷北遺跡 14. 城原二本谷西遺跡 15. 大曲遺跡 16. 的小洲遺跡
- 17. 志波屋六の坪(乙)遺跡 18. 杉籠遺跡 19. 姉川城跡 20. 横武城跡 21. 本告城跡 22. 莞牟田遺跡 23. 野田城跡 24. 下六丁遺跡
- 25. 横武四本黒木遺跡 26. 柳郷城跡 27. 直鳥城跡

図 13 中世の遺跡分布 (1/100,000)

国土地理院の数値地図 25000 (地図画像)『福岡・熊本』を使用

城などの山城が多数所在している。勢福寺城の南麓一帯では城原三本谷北遺跡・城原二本谷西遺跡で溝によって区画された町割りの存在が確認され、城下町の状況が明らかにされつつある。

段丘上では、大曲遺跡において溝で区画された集落が確認され、屋敷地と耕地との関係を知ることができるものと推測されている。また、的小淵遺跡・志波屋六の坪（乙）遺跡・杉籠遺跡においても溝で囲まれた屋敷地が確認されている。

沖積平野部においては、佐賀平野東部で特徴的にみられるクレークにより囲まれた「環濠集落」の構造をもつ城館が数多くみられる。神崎市姉川城・横武城・本告城跡・莞牟田遺跡・野田城・下六丁遺跡・横武四本黒木遺跡・柳郷城・直鳥城などで調査が行われており、その内容が明らかになってきている。

神埼郡域は南北朝期になると、南朝側の菊池氏、九州探題、足利直冬の三つ巴の勢力争いの場になり、南北朝統一後も肥前国人層に担がれる少弐氏と中国地方の大内氏の支援を受ける九州探題渋川氏の争いを基軸として混乱が続いた。このような状況の中で、東妙寺や妙法寺などの寺社勢力は衰退していく。勢福寺城は少弐氏最後の居城として知られているが、少弐氏が拠点とした時期と15世紀末～16世紀前葉に盛期があるという城下域の発掘成果が合致することが指摘されている。

室町時代になると、地域勢力（国人・在地領主）が台頭してくるが、吉野ヶ里遺跡周辺の有力国人として江上氏があげられる。江上武種は少弐氏の重臣として活躍し、永禄2（1559）年に少弐冬尚の敗死により事実上少弐氏が滅亡した後、勢福寺城の城主となった。元亀元（1570）年に江上武種は、大友宗麟から神埼郡内800町余の所領と神埼郡の郡職を与えられている（『武雄鍋島家文書』）。しかし、同年の今山合戦の勝利によって大友勢を撤退させた龍造寺隆信は、元亀2（1571）年に武種を降伏させ、隆信の次男家種が武種の養子に入り、江上家家督を継ぐこととなった。武種は「日吉城」に隠居したと伝えられ、吉野ヶ里遺跡田手二本黒木地区には武種夫妻の墓所がある。現存する五輪塔は、地・水・火輪ともに16世紀後半の様式のもので、戦国期の領主級の墓塔として貴重である。

江上家種は勢福寺城を拠点に「城原衆」を率い、天正12（1584）年に龍造寺隆信が沖田畷合戦で敗死した後も一門の重鎮であったが、天正17（1589）年に鍋島直茂の佐賀移転と交替して、その旧城である蓮池（現：佐賀市）に入っている。家種は文禄2（1593）年2月に朝鮮出兵先で病没するが、その家督は大幅に縮小されており、この時点で江上氏の神埼地域における統治権は消滅したと考えられている。その後、鍋島藩政の開始に伴い、神埼地区ほぼ全域が佐賀本藩領に編入された。

第2章 注

- 1) 国土地理院のHPの地図閲覧サービスから世界測地系で北緯 33° 19′ 37″、東経 130° 23′ 10″の値を得て、Web版 TKY2JGD Ver.1.3.79 パラメータ Ver.2.1.1 で日本測地系に変換した。
- 2) 以下、佐賀平野という場合は狭義の範囲を指す。

第2章 参考文献

- 有明海研究グループ (1965) 「有明・不知火海域の第四系」『地団研専報』第 11 号
- 小田富士雄 (1995) 「肥前の奈良時代寺院跡」『風土記の考古学 5 肥前風土記の巻』同成社
- 鏡山猛・松垣元吉 (1938) 「肥前國分寺」『國分寺の研究』考古学研究会
- 金関丈夫・坪井清足・金関恕 (1961) 「佐賀県三津永田遺跡」『日本農耕文化の生成』
- 上峰町教育委員会 (1994) 『佐賀平野の阿蘇 4 火砕流と埋没林』上峰町文化財調査報告書第 11 集
- 蒲原宏行 (1992) 「佐賀県」『前方後円墳集成』九州編
- 神埼町史編さん委員会 (1972) 『神埼町史』神埼町役場
- 木下之治 (1967) 「考古学〈弥生時代〉—神埼郡東春振村横田遺跡」『新郷土』20—1
- 木下良 (1976) 「空中写真に認められる想定駅路」『びぞん』64
- 経済企画庁総合開発局国土調査課 (1965・1966) 『土地分類基本調査』佐賀
- 佐賀県企画室 (1978) 『土地分類基本調査』脊振山
- 佐賀県教育委員会 (1997) 『佐賀県の地質鉱物』佐賀県文化財調査報告書第 134 集
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター (2010) 『佐賀地域の地質』
- 七田忠昭 (1976) 「文様のある銅矛について」『九州考古学』第 52 号
- 七田忠昭 (1987) 「三津永田」『探訪弥生の遺跡 (西日本編)』
- 七田忠昭 (1988) 「肥前神埼郡における駅路と周辺の官衙的建物群の調査」『条里制研究』4
- 七田忠志 (1934) 「佐賀県戦場ヶ谷出土弥生式有紋土器について」『史前学雑誌』6 卷 2 号
- 七田忠志 (1934) 「その後の佐賀県戦場ヶ谷遺跡と吉野ヶ里遺跡について」『史前学雑誌』6 卷 4 号
- 七田忠志 (1935) 「肥前風土記神埼郡の條に於ける僧寺に関する一考察」『上代文化』13
- 七田忠志 (1937) 「肥前晴気庵寺址と九州地方に於ける古瓦の一様式に就いて」『考古学』8-4 東京考古学会
- 七田忠志 (1953) 「東春振村三津の石蓋甕棺と内行花紋明光鏡」『佐賀県文化財発掘調査報告書』第 2 集
- 坪井清足・金関恕 (1954) 「肥前永田遺跡弥生式甕棺伴出の鏡と刀」『史林』37 卷 2 号
- 徳富則久 (1994) 「平坦低地における弥生～古墳時代集落の立地と動向 (佐賀平野の集落 I)」『佐賀考古』第 1 号、佐賀考古談話会
- 鳥栖市教育委員会 (2005) 『鳥栖市誌 第 1 巻 自然地理編』鳥栖市
- 東春振村史編さん委員会 (1982) 『東春振村史』東春振村
- 松尾禎作 (1936) 「東春振村辛上庵寺址の調査」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第 5 輯
- 松尾禎作 (1938) 「肥前國分寺及尼寺」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第 6 輯
- 松尾禎作 (1938) 「寺浦庵寺址の調査」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第 6 輯
- 松尾禎作 (1940) 「塔の塚庵寺址」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第 7 輯
- 松尾禎作 (1940) 「大願寺庵寺址」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第 7 輯
- 松尾禎作 (1949) 「塔の塚庵寺について」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第 9 輯
- 松尾禎作 (1950) 「目達原古墳群調査報告」佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第 9 輯
- 三田川町史編さん委員会 (1980) 『三田川町史』三田川町
- 森貞次郎 (1968) 「弥生時代における細形銅剣の流入について」『日本民族と南方文化』
- 吉野ヶ里町誌編纂委員会 (2008) 『吉野ヶ里町誌』

報告書 佐賀県

- 佐賀県教育委員会 (1977) 『四本黒木遺跡発掘調査報告書』佐賀県文化財調査報告書第 38 集
- 佐賀県教育委員会 (1976) 『寺浦庵寺跡』佐賀県文化財調査報告書第 34 集
- 佐賀県教育委員会 (1979) 『二塚山』佐賀県文化財調査報告書第 46 集
- 佐賀県教育委員会 (1980) 『下中杖遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 54 集
- 佐賀県教育委員会 (1980) 『尾崎利田遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 55 集
- 佐賀県教育委員会 (1981) 『川寄吉原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 61 集
- 佐賀県教育委員会 (1983) 『西原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 66 集
- 佐賀県教育委員会 (1983) 『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 1』佐賀県文化財調査報告書第 69 集

位置と環境

- 佐賀県教育委員会 (1983) 『松の森遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 70 集
佐賀県教育委員会 (1985) 『筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書 1』 佐賀県文化財調査報告書第 80 集
佐賀県教育委員会 (1987) 『下石動遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 86 集
佐賀県教育委員会 (1989) 『寺浦瓦窯跡』『老松山遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 92 集
佐賀県教育委員会 (1989) 『筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書 2』 佐賀県文化財調査報告書第 93 集
佐賀県教育委員会 (1990) 『西石動遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 97 集
佐賀県教育委員会 (1991) 『本村遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 102 集
佐賀県教育委員会 (1991) 『志波屋六本松乙遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 103 集
佐賀県教育委員会 (1992) 『朝日北遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 110 集
佐賀県教育委員会 (1993) 『切畑遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第 116 集
佐賀県教育委員会 (1994) 『筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書 4』 佐賀県文化財調査報告書第 123 集
佐賀県教育委員会 (1998) 『筑後川下流用水事業に係る文化財調査報告書 5』 佐賀県文化財調査報告書第 136 集
佐賀県教育委員会 (1999) 『戦場古墳群』 佐賀県文化財調査報告書第 140 集
佐賀県教育委員会 (2002) 『佐賀県内遺跡確認調査報告書 20』 佐賀県文化財調査報告書第 151 集
佐賀県教育委員会 (2013) 『佐賀県の中近世城館—第 2 集 各説編 1 (三養基・神埼・佐賀地区) 一』 佐賀県文化財調査報告書第 201 集
佐賀県教育委員会 (1995) 『古代官道・西海道肥前路』

報告書 神埼町

- 神埼町教育委員会 (1969) 『帯隈山神籠石 天童山東部調査概報』
神埼町教育委員会 (1969) 『天神尾古墳群調査概報』
神埼町教育委員会 (1979) 『山崎古墳』 神埼町文化財調査報告書第 4 集
神埼町教育委員会 (1980) 『利田柳遺跡Ⅲ区』
神埼町教育委員会 (1980) 『四本黒木遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 6 集
神埼町教育委員会 (1981) 『馬郡遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 7 集
神埼町教育委員会 (1983) 『志波屋六本松遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 9 集
神埼町教育委員会 (1984) 『船塚遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 10 集
神埼町教育委員会 (1985) 『的五本黒木遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 11 集
神埼町教育委員会 (1985) 『荒堅目遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 12 集
神埼町教育委員会 (1986) 『本告牟田遺跡・の小淵遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 13 集
神埼町教育委員会 (1987) 『の小淵遺跡 12 区・中園遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 14 集
神埼町教育委員会 (1987) 『横山遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 15 集
神埼町教育委員会 (1990) 『塚原一の角遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 21 集
神埼町教育委員会 (1990) 『花浦古墳群』 神埼町文化財調査報告書第 22 集
神埼町教育委員会 (1990) 『吉野ヶ里遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 23 集
神埼町教育委員会 (1990) 『船塚遺跡Ⅱ』 神埼町文化財調査報告書第 24 集
神埼町教育委員会 (1990) 『姉川城跡』 神埼町文化財調査報告書第 25 集
神埼町教育委員会 (1990) 『馬郡・竹原遺跡群』 神埼町文化財調査報告書第 26 集
神埼町教育委員会 (1991) 『迎田遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区』 神埼町文化財調査報告書第 27 集
神埼町教育委員会 (1991) 『井手遺跡・迎田遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 28 集
神埼町教育委員会 (1991) 『本堀朝日遺跡Ⅲ区』 神埼町文化財調査報告書第 29 集
神埼町教育委員会 (1992) 『本堀朝日遺跡 4・5 区』 神埼町文化財調査報告書第 30 集
神埼町教育委員会 (1992) 『中園遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区』 神埼町文化財調査報告書第 32 集
神埼町教育委員会 (1993) 『的五本黒木遺跡Ⅳ区』 神埼町文化財調査報告書第 33 集
神埼町教育委員会 (1993) 『横武城跡 (XⅡ区)』 神埼町文化財調査報告書第 34 集
神埼町教育委員会 (1993) 『城原二本谷西遺跡・城原三本谷北遺跡Ⅲ区・城原三本谷南遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 35 集
神埼町教育委員会 (1993) 『城原三本谷北遺跡・城原三本谷南遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 36 集
神埼町教育委員会 (1993) 『森の木遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 37 集
神埼町教育委員会 (1994) 『城原二本谷西遺跡Ⅰ・Ⅱ区・城原三本谷北遺跡Ⅲ区・城原三本谷南遺跡Ⅰ区』 神埼町文化財調査報告書第 38 集
神埼町教育委員会 (1994) 『城原三本谷北遺跡・城原三本谷南遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 39 集
神埼町教育委員会 (1994) 『本堀朝日遺跡Ⅳ区』 神埼町文化財調査報告書第 40 集
神埼町教育委員会 (1995) 『花手遺跡』 神埼町文化財調査報告書第 41 集

- 神埼町教育委員会（1995）『本堀朝日遺跡7・8区』神埼町文化財調査報告書第42集
- 神埼町教育委員会（1995）『塚原遺跡・小林遺跡 他』神埼町文化財調査報告書第46集
- 神埼町教育委員会（1995）『志波屋六本松古墳群』神埼町文化財調査報告書第47集
- 神埼町教育委員会（1996）『城原一本松遺跡』神埼町文化財調査報告書第48集
- 神埼町教育委員会（1996）『志波屋一ノ坪遺跡Ⅰ・Ⅱ区 姉川十三本松遺跡Ⅱ区 岩田芦ノ元遺跡Ⅱ区』神埼町文化財調査報告書第49集
- 神埼町教育委員会（1996）『姉川城跡』神埼町文化財調査報告書第50集
- 神埼町教育委員会（1996）『熊谷遺跡』神埼町文化財調査報告書第51集
- 神埼町教育委員会（1996）『右原祇園町遺跡』神埼町文化財調査報告書第52集
- 神埼町教育委員会（1996）『上志波屋七ノ坪遺跡』神埼町文化財調査報告書第53集
- 神埼町教育委員会（1996）『田道ヶ里田二本松遺跡』神埼町文化財調査報告書第54集
- 神埼町教育委員会（1996）『尾崎利田遺跡』神埼町文化財調査報告書第55集
- 神埼町教育委員会（1996）『城原三本谷南遺跡』神埼町文化財調査報告書第56集
- 神埼町教育委員会（1997）『横武城跡』神埼町文化財調査報告書第57集
- 神埼町教育委員会（1997）『尾崎土生遺跡Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ区』神埼町文化財調査報告書第58集
- 神埼町教育委員会（1997）『早稲隈山 天神尾古墳群 寺山古墳群』神埼町文化財調査報告書第59集
- 神埼町教育委員会（1997）『志波屋二本松（乙）遺跡』神埼町文化財調査報告書第60集
- 神埼町教育委員会（1998）『小淵遺跡』神埼町文化財調査報告書第61集
- 神埼町教育委員会（1998）『本告牟田遺跡Ⅰ区』神埼町文化財調査報告書第62集
- 神埼町教育委員会（1998）『姉川城跡』神埼町文化財調査報告書第63集
- 神埼町教育委員会（1998）『利田柳遺跡』神埼町文化財調査報告書第64集
- 神埼町教育委員会（1999）『尾崎土生遺跡』神埼町文化財調査報告書第65集
- 神埼町教育委員会（2000）『西田遺跡』神埼町文化財調査報告書第66集
- 神埼町教育委員会（2000）『船塚遺跡 縄文・弥生・古墳時代編』神埼町文化財調査報告書第67集
- 神埼町教育委員会（2000）『荒堅目遺跡Ⅱ区』神埼町文化財調査報告書第68集
- 神埼町教育委員会（2001）『唐香原遺跡Ⅱ区』神埼町文化財調査報告書第69集
- 神埼町教育委員会（2001）『馬郡遺跡Ⅲ区』神埼町文化財調査報告書第70集
- 神埼町教育委員会（2001）『利田柳遺跡』神埼町文化財調査報告書第71集
- 神埼町教育委員会（2001）『城原一本松遺跡Ⅱ区』神埼町文化財調査報告書第72集
- 神埼町教育委員会（2002）『馬郡遺跡』神埼町文化財調査報告書第73集
- 神埼町教育委員会（2002）『猿嶽古墳群』神埼町文化財調査報告書第74集
- 神埼町教育委員会（2002）『花浦古墳群』神埼町文化財調査報告書第75集
- 神埼町教育委員会（2002）『八子三本黒木遺跡Ⅱ区』神埼町文化財調査報告書第76集
- 神埼町教育委員会（2003）『八子三本黒木遺跡Ⅰ区』神埼町文化財調査報告書第77集
- 神埼町教育委員会（2003）『尾崎土生遺跡16区』神埼町文化財調査報告書第78集
- 神埼町教育委員会（2003）『尾崎土生遺跡』神埼町文化財調査報告書第79集
- 神埼町教育委員会（2003）『唐香原遺跡Ⅲ区』神埼町文化財調査報告書第80集
- 神埼町教育委員会（2003）『小淵遺跡13区』神埼町文化財調査報告書第81集
- 神埼町教育委員会（2004）『八子一本黒木遺跡Ⅰ・Ⅱ区』神埼町文化財調査報告書第82集
- 神埼町教育委員会（2004）『日の尺池古墳群』神埼町文化財調査報告書第83集
- 神埼町教育委員会（2005）『八子六本黒木遺跡』神埼町文化財調査報告書第84集
- 神埼町教育委員会（2005）『的遺跡』神埼町文化財調査報告書第85集
- 神埼町教育委員会（2006）『八子二本黒木遺跡』神埼町文化財調査報告書第86集
- 神埼町教育委員会（2006）『八子六本黒木遺跡14区』神埼町文化財調査報告書第87集
- 神埼町教育委員会（2006）『八子一本黒木遺跡Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ区』神埼町文化財調査報告書第88集
- 神埼町教育委員会（2006）『八子四本黒木遺跡Ⅲ』神埼町文化財調査報告書第89集

報告書 千代田町

- 千代田町教育委員会（1981）『崎村遺跡』千代田町文化財調査報告書第1集
- 千代田町教育委員会（1983）『詫田西分貝塚』千代田町文化財調査報告書第2集
- 千代田町教育委員会（1985）『姉遺跡Ⅰ』千代田町文化財調査報告書第3集
- 千代田町教育委員会（1986）『黒井八本松遺跡』千代田町文化財調査報告書第5集

位置と環境

- 千代田町教育委員会（1987）『黒井遺跡』千代田町文化財調査報告書第6集
千代田町教育委員会（1988）『柴尾遺跡Ⅰ 川崎遺跡』千代田町文化財調査報告書第7集
千代田町教育委員会（1988）『柴尾遺跡Ⅱ』千代田町文化財調査報告書第8集
千代田町教育委員会（1989）『藤ノ木西分遺跡Ⅰ 直島四本松遺跡』千代田町文化財調査報告書第9集
千代田町教育委員会（1990）『下西八本松遺跡Ⅰ』千代田町文化財調査報告書第11集
千代田町教育委員会（1991）『貴別当神社遺跡Ⅰ』千代田町文化財調査報告書第13集
千代田町教育委員会（1991）『貴別当神社遺跡Ⅱ』千代田町文化財調査報告書第14集
千代田町教育委員会（1992）『貴別当神社遺跡Ⅲ』千代田町文化財調査報告書第15集
千代田町教育委員会（1992）『貴別当神社遺跡Ⅳ』千代田町文化財調査報告書第16集
千代田町教育委員会（1993）『貴別当神社遺跡Ⅴ』千代田町文化財調査報告書第17集
千代田町教育委員会（1994）『柳島遺跡』千代田町文化財調査報告書第18集
千代田町教育委員会（1995）『本村五本柳遺跡』千代田町文化財調査報告書第19集
千代田町教育委員会（1996）『託田西分遺跡Ⅱ区の調査』千代田町文化財調査報告書第20集
千代田町教育委員会（1999）『直島城跡』千代田町文化財調査報告書第22集
千代田町教育委員会（1999）『詫田西分遺跡Ⅲ区の調査』千代田町文化財調査報告書第23集
千代田町教育委員会（1999）『詫田西分遺跡Ⅳ区の調査』千代田町文化財調査報告書第24集
千代田町教育委員会（1999）『詫田西分遺跡Ⅵ区の調査』千代田町文化財調査報告書第25集
千代田町教育委員会（2000）『高志神社遺跡』千代田町文化財調査報告書第27集
千代田町教育委員会（2000）『姉遺跡（ⅧⅢ区の調査）』千代田町文化財調査報告書第28集

報告書 神崎市

- 神崎市教育委員会（2007）『姉川城跡』神崎市埋蔵文化財調査報告書第1集
神崎市教育委員会（2008）『八子六本黒木遺跡18区』神崎市埋蔵文化財調査報告書第4集
神崎市教育委員会（2009）『八子六本黒木遺跡』神崎市埋蔵文化財調査報告書第8集
神崎市教育委員会（2009）『熊谷遺跡 八子六本黒木遺跡』神崎市埋蔵文化財調査報告書第9集
神崎市教育委員会（2009）『八子一本黒木遺跡 八子六本黒木遺跡』神崎市埋蔵文化財調査報告書第10集
神崎市教育委員会（2010）『西田遺跡』神崎市埋蔵文化財調査報告書第11集
神崎市教育委員会（2010）『熊谷遺跡7・8・9区 西田遺跡4区』神崎市埋蔵文化財調査報告書第13集
神崎市教育委員会（2011）『野田遺跡 利田柳遺跡 利田黒木遺跡』神崎市埋蔵文化財調査報告書第15集
神崎市教育委員会（2011）『野田遺跡 利田柳遺跡』神崎市埋蔵文化財調査報告書第16集
神崎市教育委員会（2013）『伏部大石遺跡』神崎市埋蔵文化財調査報告書第20集

報告書 三田川町

- 三田川町教育委員会（1986）『下中杖遺跡（J区・H区の調査）』三田川町文化財調査報告書第1集
三田川町教育委員会（1989）『田手一本杉遺跡・田手二本杉遺跡』三田川町文化財調査報告書第2集
三田川町教育委員会（1990）『田手二本黒木遺跡』三田川町文化財調査報告書第3集
三田川町教育委員会（1998）『下中杖遺跡』三田川町文化財調査報告書第4集
三田川町教育委員会（2000）『吉野ヶ里遺跡』三田川町文化財調査報告書第5集

報告書 東春振村

- 東春振村教育委員会（1977）『松原遺跡』東春振村文化財調査報告書第1集
東春振村教育委員会（1978）『春振山霊仙寺遺跡』東春振村文化財調査報告書第2集
東春振村教育委員会（1979）『霊仙寺跡発掘調査概報』東春振村文化財調査報告書第3集
東春振村教育委員会（1980）『霊仙寺跡』東春振村文化財調査報告書第4集
東春振村教育委員会（1981）『西前田遺跡』東春振村文化財調査報告書第5集
東春振村教育委員会（1982）『西前田B遺跡』東春振村文化財調査報告書第6集
東春振村教育委員会（1983）『東外遺跡』東春振村文化財調査報告書第7集
東春振村教育委員会（1984）『大曲遺跡群Ⅰ』東春振村文化財調査報告書第8集
東春振村教育委員会（1985）『大曲遺跡群Ⅱ』東春振村文化財調査報告書第9集
東春振村教育委員会（1989）『亀作A遺跡』東春振村文化財調査報告書第15集
東春振村教育委員会（1990）『やしろ山遺跡』東春振村文化財調査報告書第18集

東春振村教育委員会（1995）『石動四本松遺跡』東春振村文化財調査報告書第19集
東春振村教育委員会（1997）『松原遺跡7区』東春振村文化財調査報告書第20集
東春振村教育委員会（1997）『平成6・7年度東春振村文化財調査報告書』東春振村文化財調査報告書第21集
東春振村教育委員会（1998）『松原遺跡10区』東春振村文化財調査報告書第22集
東春振村教育委員会（2000）『松原遺跡8区』東春振村文化財調査報告書第23集
東春振村教育委員会（2001）『瀬ノ尾遺跡』東春振村文化財調査報告書第24集
東春振村教育委員会（2003）『松原遺跡4・5・6区』東春振村文化財調査報告書第25集
東春振村教育委員会（2004）『西石動古墳群第3地区』東春振村文化財調査報告書第26集
東春振村教育委員会（2005）『石動二本松遺跡第5地区』東春振村文化財調査報告書第27集
東春振村教育委員会（2005）『石動四本松遺跡第4地区』東春振村文化財調査報告書第28集

報告書 吉野ヶ里町

吉野ヶ里町教育委員会（2006）『松本遺跡第4地区』吉野ヶ里町文化財調査報告書第1集
吉野ヶ里町教育委員会（2006）『石動四本松遺跡第5地区』吉野ヶ里町文化財調査報告書第2集
吉野ヶ里町教育委員会（2006）『石動西一本杉遺跡第4地区』吉野ヶ里町文化財調査報告書第3集
吉野ヶ里町教育委員会（2006）『大曲A遺跡第3地区』吉野ヶ里町文化財調査報告書第4集
吉野ヶ里町教育委員会（2007）『町内遺跡確認調査報告書』吉野ヶ里町文化財調査報告書第5集
吉野ヶ里町教育委員会（2008）『町内遺跡確認調査報告書1』吉野ヶ里町文化財調査報告書第6集
吉野ヶ里町教育委員会（2010）『松原遺跡14区』吉野ヶ里町文化財調査報告書第7集

報告書 その他の市町

小城町教育委員会（1989）『寺浦廃寺』小城町文化財調査報告書第7集
小城町教育委員会（1991）『寺浦廃寺』小城町文化財調査報告書第8集
佐賀市教育委員会（2004・2009）『東名遺跡群Ⅰ』佐賀市文化財調査報告書第150集
佐賀市教育委員会（2009）『東名遺跡群Ⅱ』佐賀市埋蔵文化財調査報告書第40集
佐賀市教育委員会（2014）『東名遺跡群Ⅲ』佐賀市埋蔵文化財調査報告書第85集
佐賀市教育委員会（2016）『東名遺跡群Ⅳ』佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集
大和町教育委員会（1976）『肥前国分寺跡』大和町文化財調査報告書第1集
大和町教育委員会（1989）『肥前国分寺跡』大和町文化財調査報告書第8集
大和町教育委員会（1990）『肥前国分寺跡－第4次発掘調査－』大和町文化財調査報告書第11集

第3章 官道とその周辺

1 志波屋四の坪地区 I 区南部

(1) 概要

志波屋四の坪地区 I 区は、神崎市神崎町大字志波屋字四の坪に所在する。I 区は、ほとんどが神埼工業団地造成に伴い発掘調査が行われた場所で、発掘調査面積は 75,000㎡に及ぶ。これまでの報告では地区内での区分けを明示していなかったが、主として工業団地部分を I 区、国営吉野ヶ里歴史公園整備及び吉野ヶ里遺跡範囲確認調査に伴い平成 16 (2004) ~ 23 (2011) 年に発掘調査を実施した部分を II 区、工業団地造成に伴い発掘調査を行い、『113 集』で「最北部」として報告している。

I 区は南北に延びる丘陵上から西斜面部、さらに水田となっている低地にかけて（標高 11.1 ~ 25.2 m）立地している。I 区の南東部には奈良時代の官道跡を挟んで吉野ヶ里丘陵地区 IX 区が、西側の低丘陵上には志波屋三の坪（乙）地区が、東側には大曲一の坪地区が位置している。

調査の結果、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落・墓地、奈良時代の官道・井戸、奈良～平安時代の掘立柱建物群などが確認されている。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

ここでは、古代と判断した遺構と、その遺構に伴う遺物のうち、遺構の時期を示すと考えられる須恵器・土師器などを報告する。また、本書では官道付近より南側を対象とし、志波屋四の坪地区 I 区の官道より南側について報告する。

A 掘立柱建物

古代の掘立柱建物は 19 棟あり、その内総柱建物が 16 棟、側柱建物が 2 棟確認された。

SB0791 掘立柱建物（図 22）

建物の構造は梁行 3 間（4.95 m）、桁行 5 間（7.2 m）、梁行柱間は 1.6 ~ 1.8 m、桁行柱間は 1.2 ~ 1.8 m で、主軸方位が N11.5° W の南北棟である。柱掘方は方形や円形を基調とする。他の建物群と構造や規模が異なるため、8 世紀以降の建物の可能性も考えられる。

SB0792 掘立柱建物（図 22）

建物の構造は梁行 2 間（3.6 m）、桁行 2 間（3.75 m）の総柱建物である。梁行柱間は 1.8 m、桁行柱間は 1.8 ~ 1.9 m で、主軸方位は N37.5° E である。柱掘方は円形を基調とする。

SB0792 出土遺物（図 31）

1 は須恵器環で、高台が低く底面が内側に向かって低くなる。焼成不良である。体部外面は回転ヘラケズリ、底部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。

SB0793 掘立柱建物（図 23）

建物の構造は梁行 2 間（3.6 m）、桁行 2 間（3.6 m）の総柱建物である。梁行柱間は 1.8 m、桁行柱間は 1.8 m で、主軸方位は N13.5° E である。柱掘方は円形を基調とし、柱掘方がいずれも大きいことが特徴として挙げられる。断

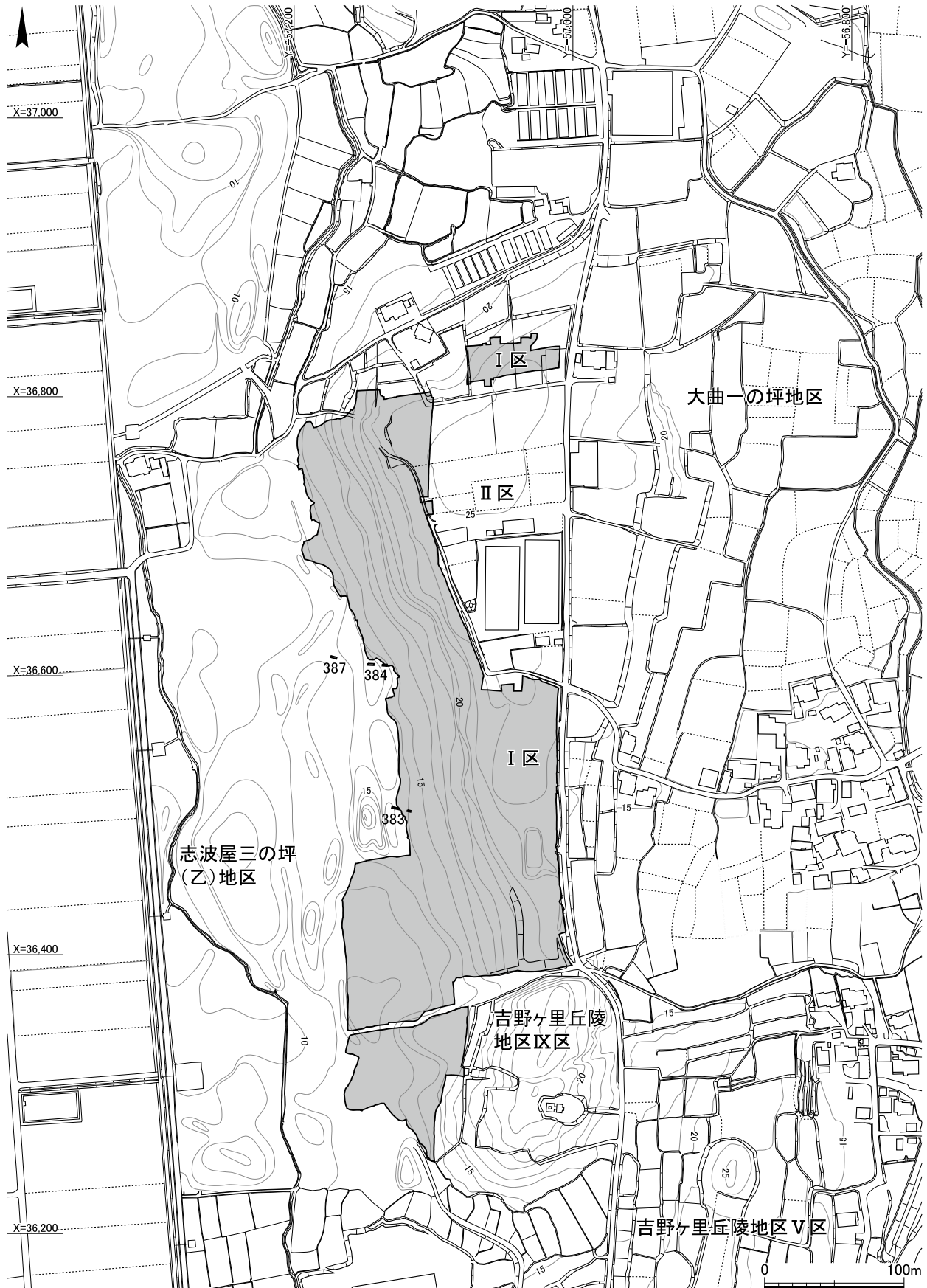


図14 志波屋四の坪地区Ⅰ区 調査区の位置 (1/4,000)

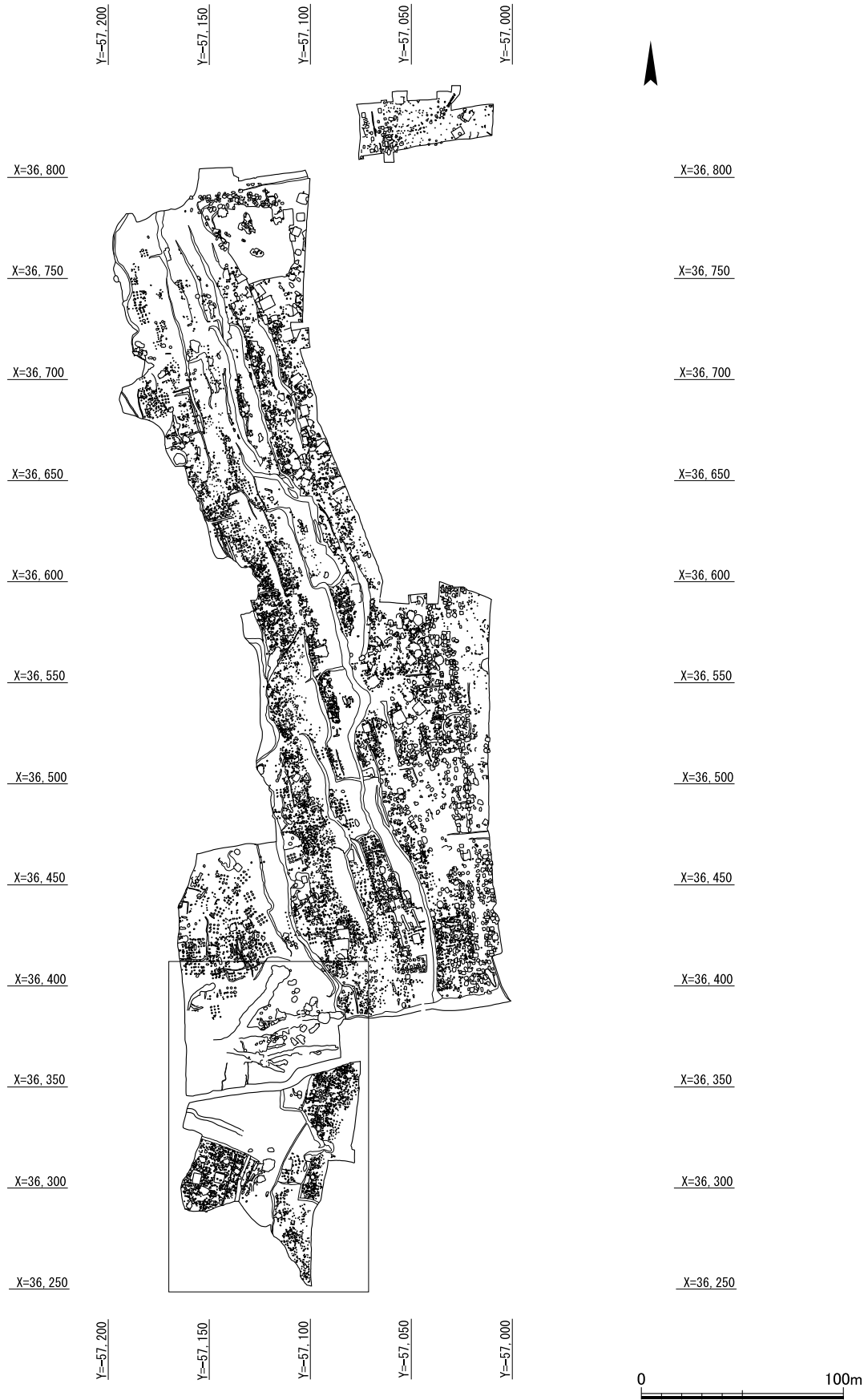


図 15 志波屋四の坪地区Ⅰ区 遺構の分布 (1/3,000)

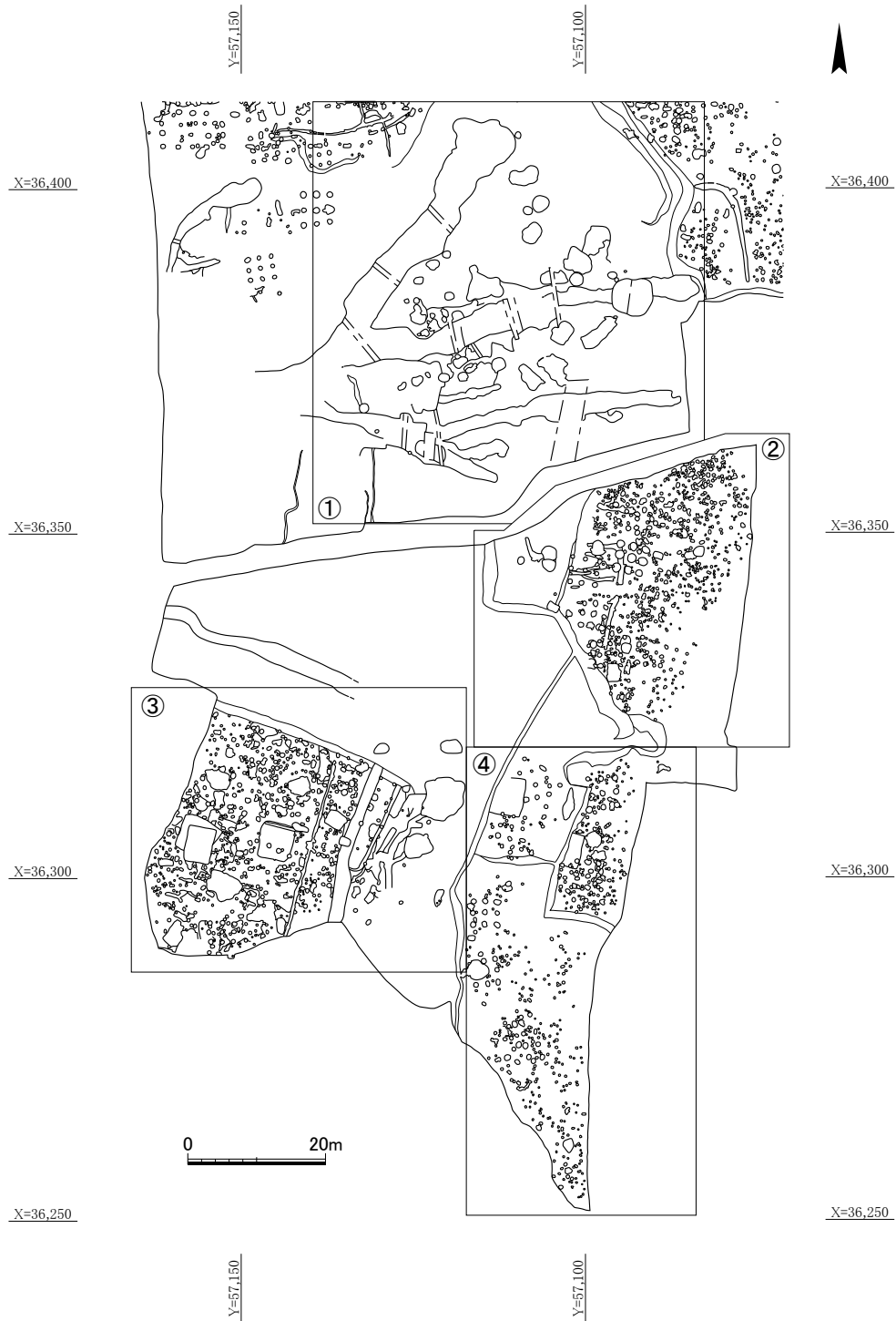


図 16 志波屋四の坪地区Ⅰ区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,000)

面からも分かる通り、この建物遺構の上面は大きく削平されている。

SB0793 出土遺物 (図 31)

2 は土師器鉢で、体部から口縁部にかけて外側に大きく開き、口縁端部はやや内湾する。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

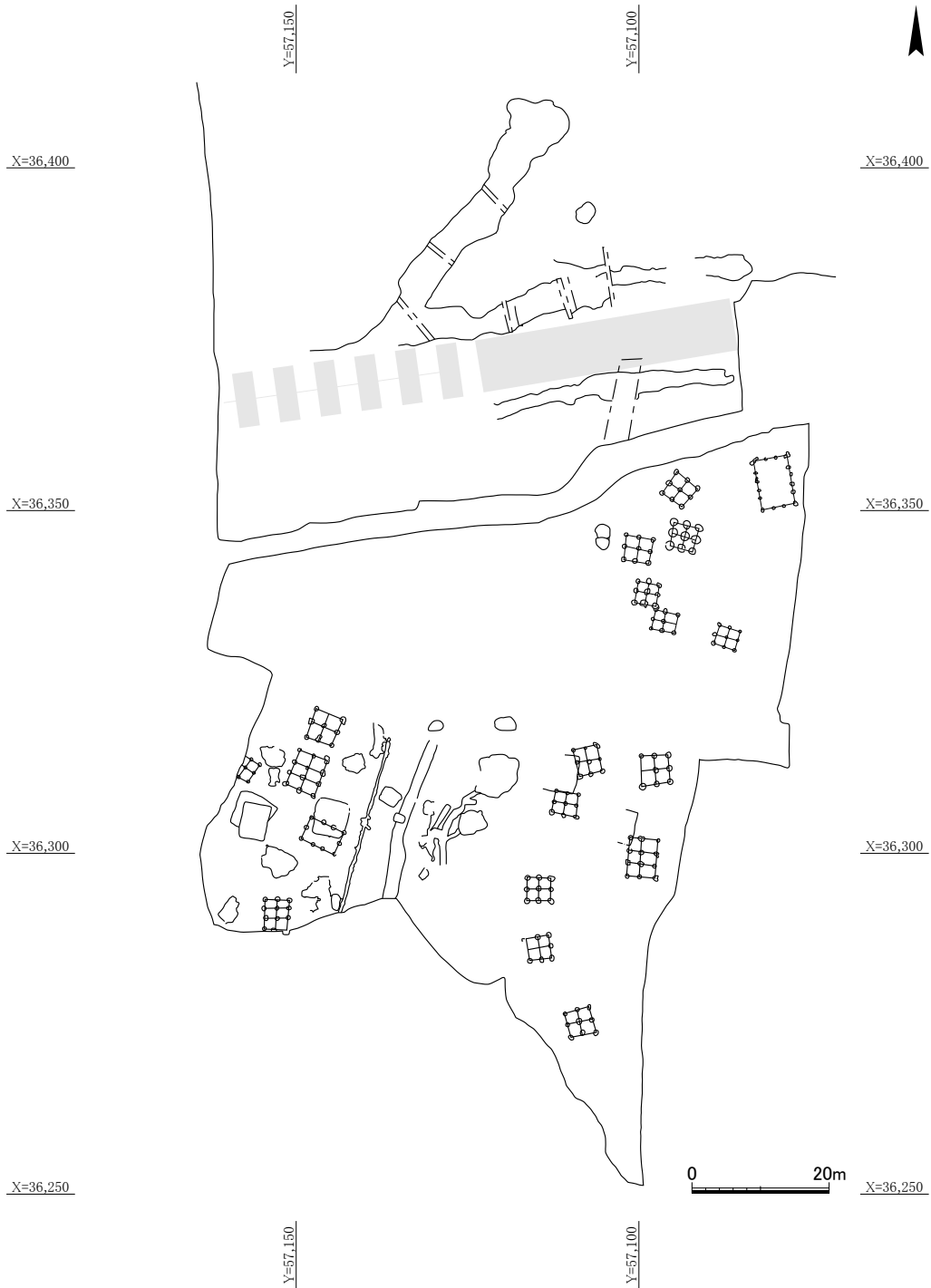


図 17 志波屋四の坪地区Ⅰ区 古代の遺構分布 (1/1,000)

SB0794 掘立柱建物 (図 23)

建物の構造は梁行 2 間 (3.6 m)、桁行 2 間 (3.75 m) の総柱建物である。梁行柱間は 1.8 m、桁行柱間は 1.8 ~ 1.9m で、主軸方位は N10° E である。柱掘方は円形を基調とする。南北方向の柱穴の底面のレベルは揃えられており、東西方向の柱穴の底面のレベルは西側へ地形が傾斜しているため、その方向に向かって緩やかに低くなる。

SB0794 出土遺物 (図 31)

3 は須恵器蓋で、口縁部が水平に開くタイプである。破片であるため、皿の可能性も考えられる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。

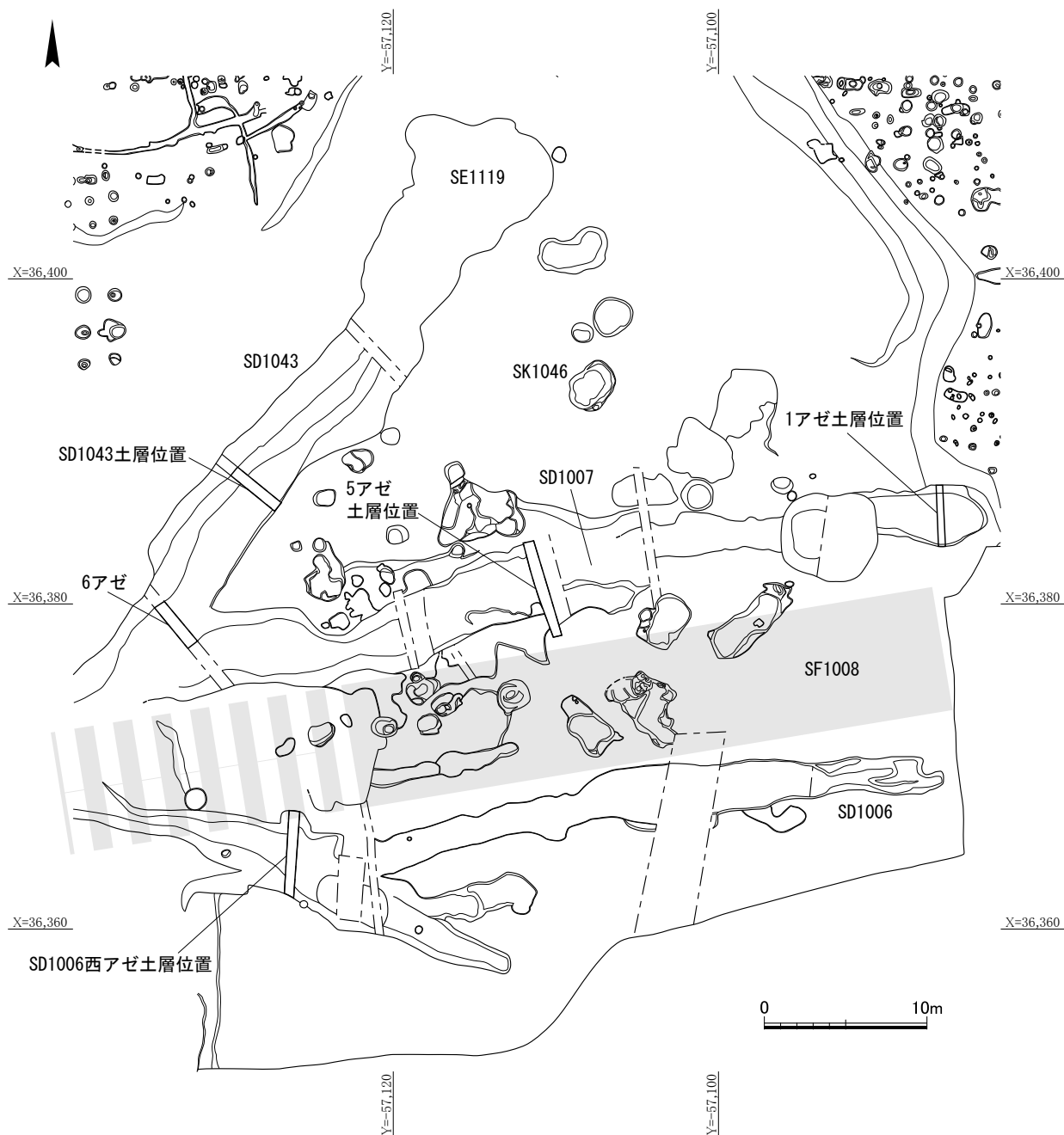


図18 志波屋四の坪地区Ⅰ区 遺構分布詳細図1 (1/400)

SB0795 掘立柱建物 (図24)

建物の構造は梁行2間(3.0m)、桁行2間(3.0m)の総柱建物である。梁行柱間は1.5m、桁行柱間は1.5mで、主軸方位はN9.5°Eである。柱掘方は方形や円形を基調とする。南東隅の柱穴がSB0796の柱穴を切る。

SB0796 掘立柱建物 (図24)

建物の構造は梁行2間(2.7m)、桁行2間(3.4m)の総柱建物である。梁行柱間は1.3~1.4m、桁行柱間は1.6~1.9mで、主軸方位はN13.2°Eである。柱掘方は円形を基調とする。北西隅の柱穴がSB0795の柱穴に切られる。



図 19 志波屋四の坪地区Ⅰ区 遺構分布詳細図2 (1/400)

SB0797 掘立柱建物 (図 25)

建物の構造は梁行 2 間 (2.85 m)、桁行 2 間 (3.4 m) の総柱建物である。梁行柱間は 1.4 ~ 1.5 m、桁行柱間は 1.7 m で、主軸方位は N16.2° E である。柱掘方は円形を基調とする。

SB0798 掘立柱建物 (図 25)

建物の構造は梁行 2 間 (3.9 m)、桁行 2 間 (4.2 m) の総柱建物である。梁行柱間は 1.8 ~ 2.0 m、桁行柱間は 2.1 m で、主軸方位は N6.5° E である。柱掘方は円形を基調とする。

SB0798 出土遺物 (図 31)

4 は土師器甕で外面はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。

SB0799 掘立柱建物 (図 26)

建物の構造は梁行 2 間 (3.3 m)、桁行 2 間 (3.9 m) の総柱建物である。梁行柱間は 1.6 ~ 1.7 m、桁行柱間は 1.7 ~ 2.1 m で、主軸方位は N15° E である。柱掘方は円形を基調とする。柱穴が SH0801 の一部を切る。断面からも分かる通り、この建物遺構の上面は大きく削平されている。



図 20 志波屋四の坪地区Ⅰ区 遺構分布詳細図3 (1/400)

SB0800 掘立柱建物 (図 26)

建物の構造は梁行 2 間 (3.3 m)、桁行 2 間 (3.3 m) の総柱建物である。梁行柱間は 1.4 ~ 1.8 m、桁行柱間は 1.6 ~ 1.7 m で、主軸方位は N11.5° E である。柱掘方は円形を基調とする。北辺の柱穴が SH0801 の一部を切る。この建物遺構の上面は大きく削平されている。

SB0803 掘立柱建物 (図 27)

建物の構造は梁行 2 間 (4.1 m)、桁行 3 間 (5.55 m)、梁行柱間は 1.7 ~ 2.4 m、桁行柱間は 1.8 ~ 2.0 m で、主軸方位が N7° E の南北棟である。柱掘方は円形や方形を基調とする。北西隅の柱穴が SH0802 の一部を切る。

SB0803 出土遺物 (図 31)

5 は土師器皿である。体部がやや内湾気味に開き、体部と底部に明確な稜を持たない器形である。6 は土師器甌である。体部から口縁部にかけて欠損しており、甌の底部と推測される。

SB0804 掘立柱建物 (図 27)

建物の構造は梁行 2 間 (3.3 m)、桁行 2 間 (3.6 m) の総柱建物である。梁行柱間は 1.4 ~ 1.8 m、桁行柱間は 1.8 m



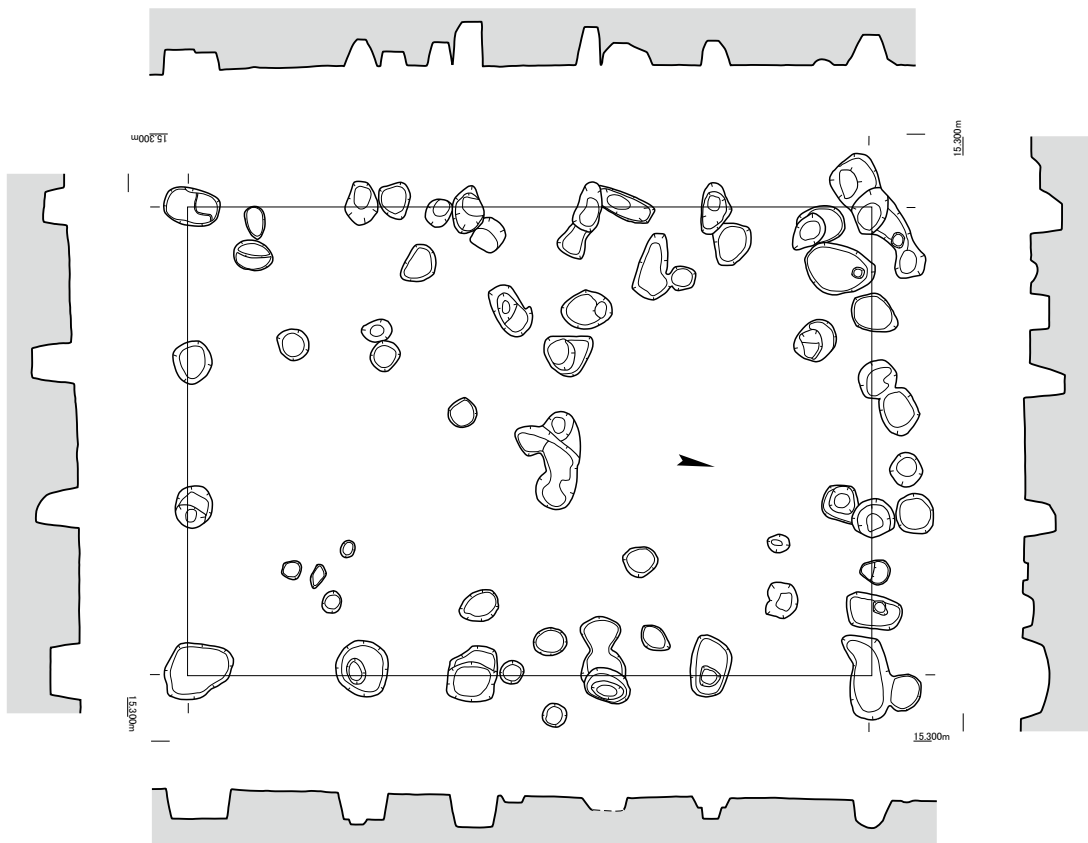
図 21 志波屋四の坪地区Ⅰ区 遺構分布詳細図 4 (1/400)

で、主軸方位は $N0^\circ$ である。柱掘方は方形や円形を基調とする。

SB0805 掘立柱建物 (図 28)

建物の構造は梁行 2 間 (3.3 m)、桁行 2 間 (3.3 m) の総柱建物である。梁行柱間は 1.6 ~ 1.7 m、桁行柱間は 1.6

SB0791



SB0792

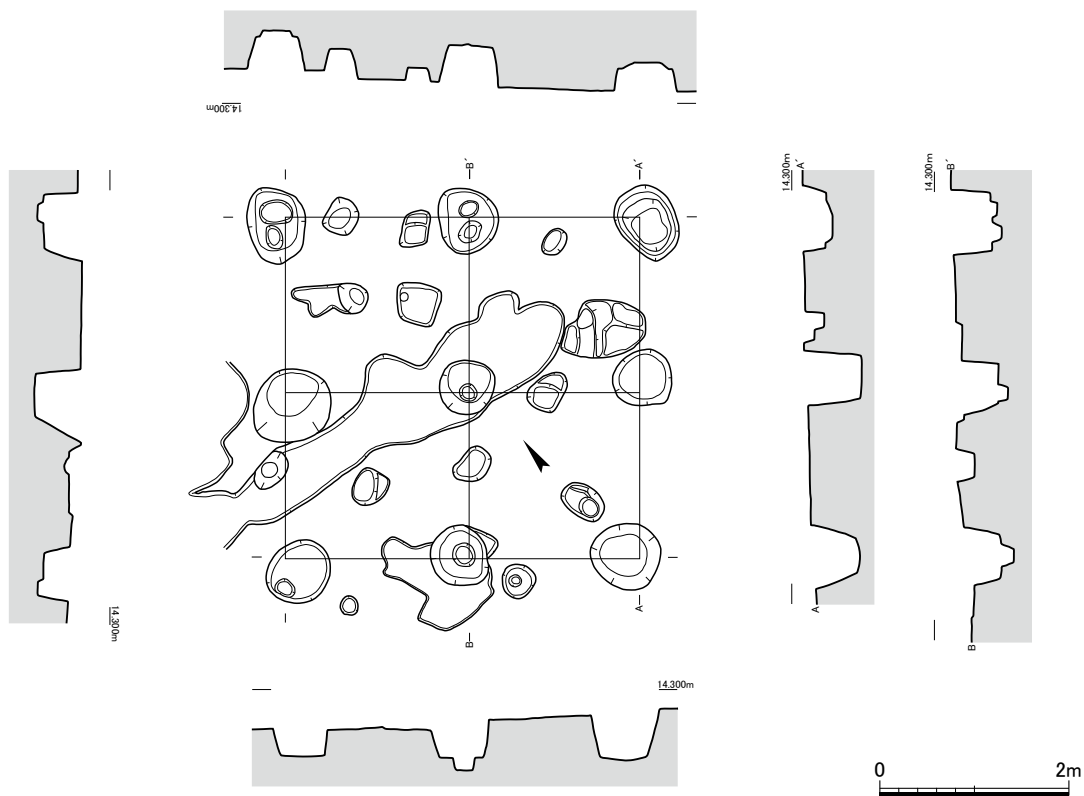
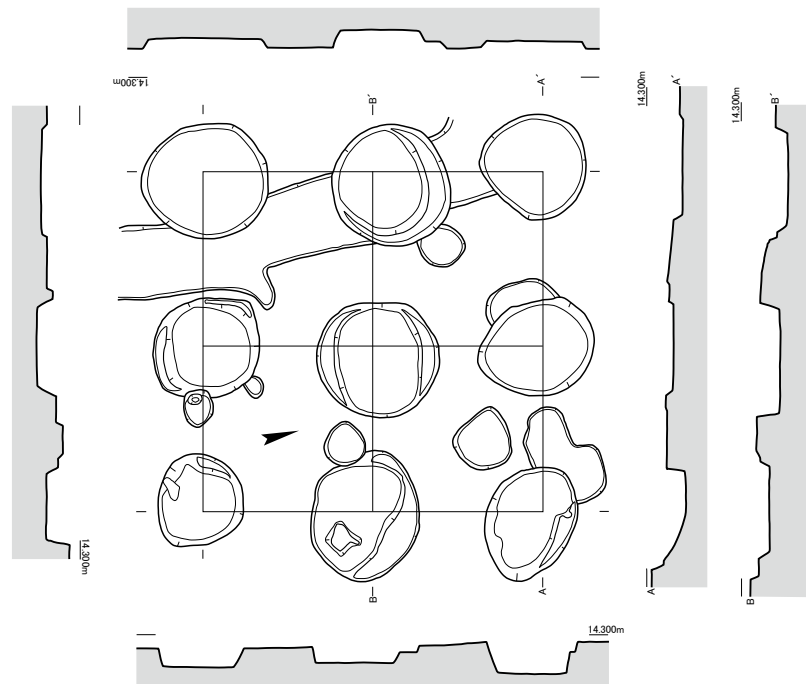


図22 志波屋四の坪地区I区 掘立柱建物1 (1/80)

SB0793



SB0794

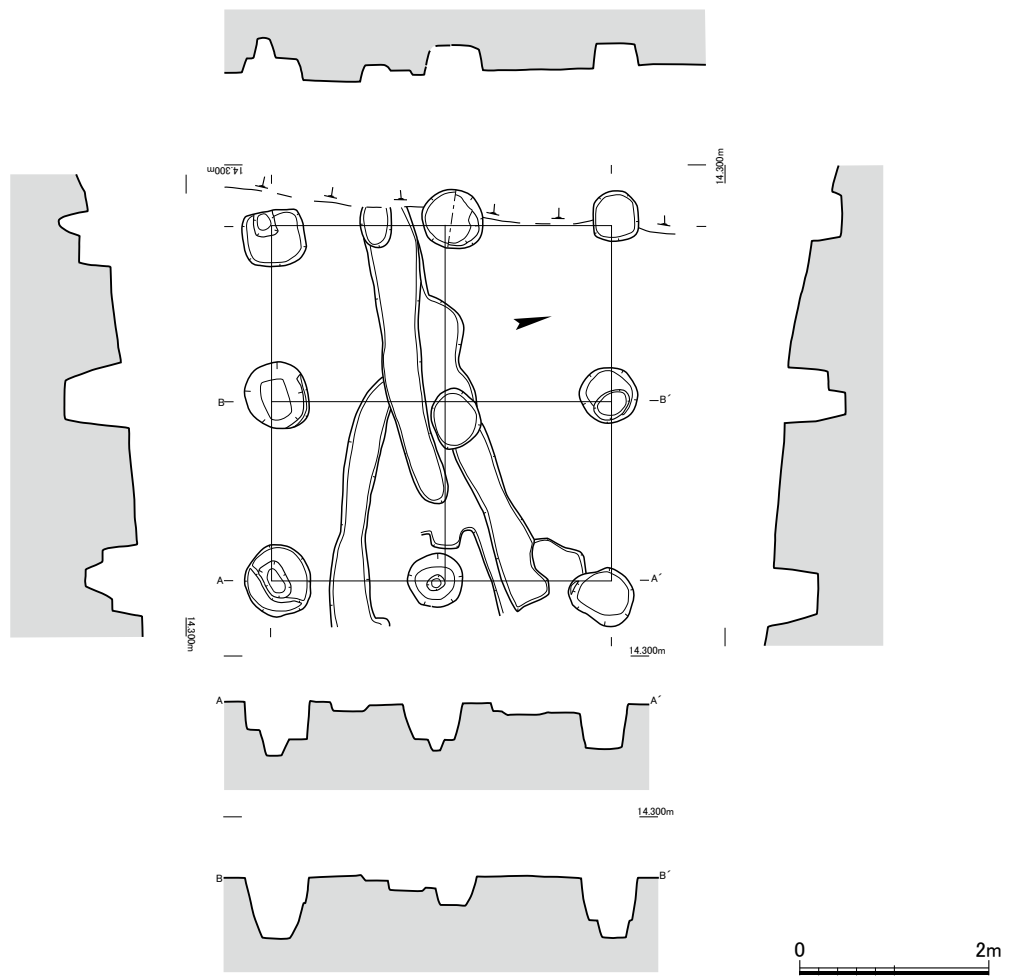
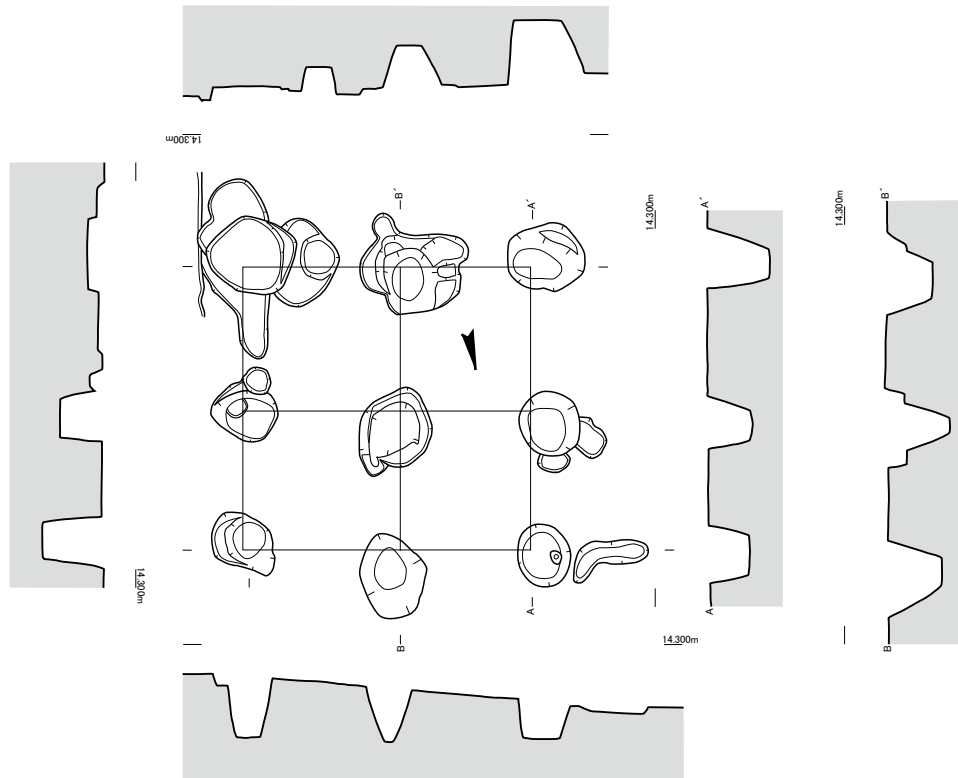


図 23 志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 2 (1/80)

SB0795



SB0796

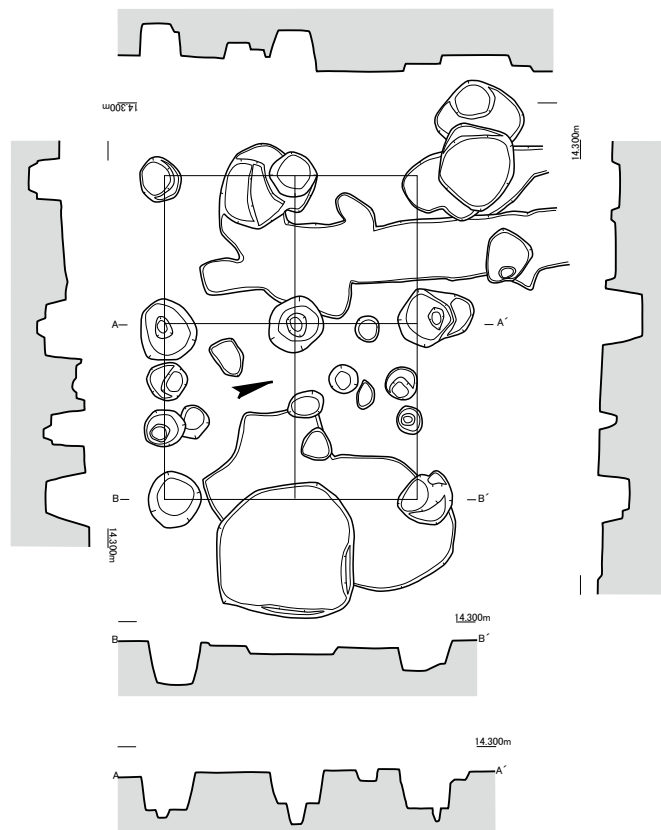
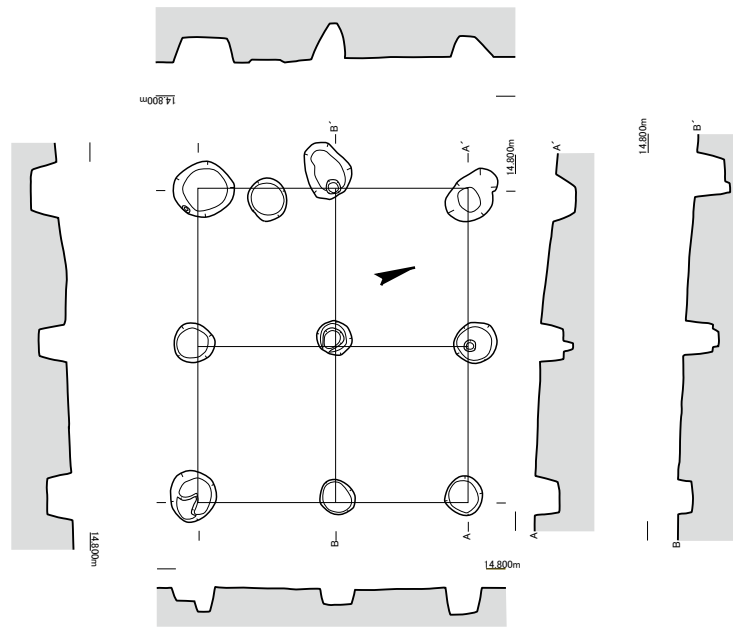


図24 志波屋四の坪地区I区 掘立柱建物3 (1/80)

SB0797



SB0798

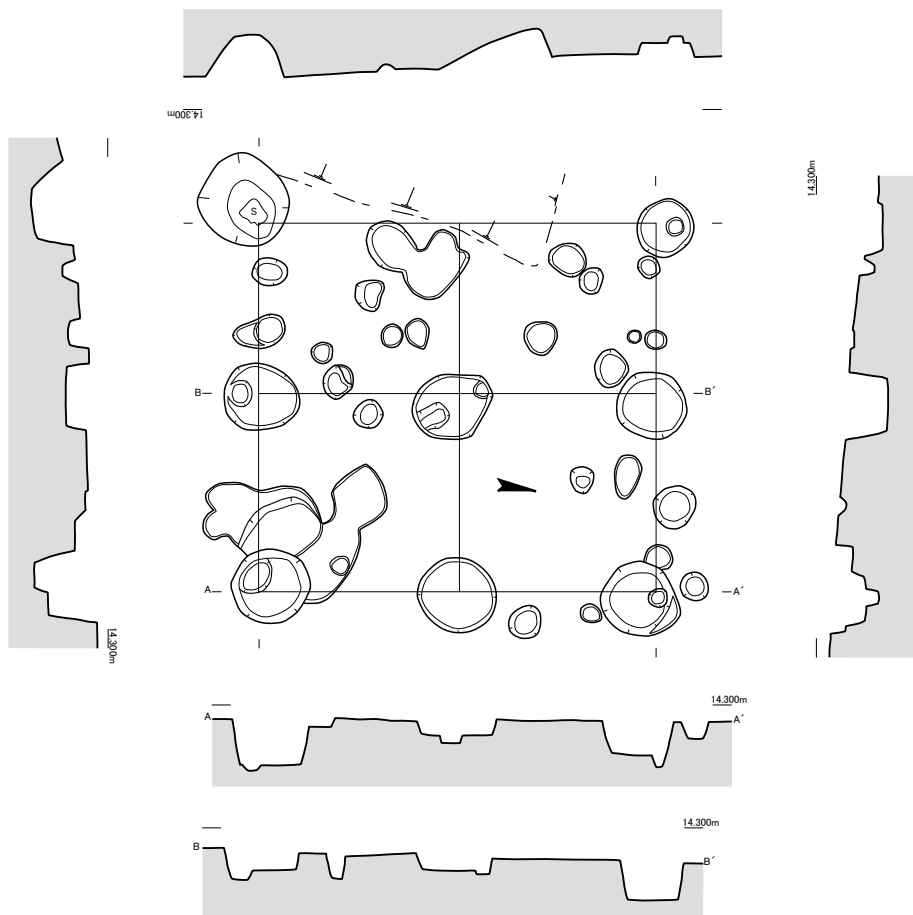
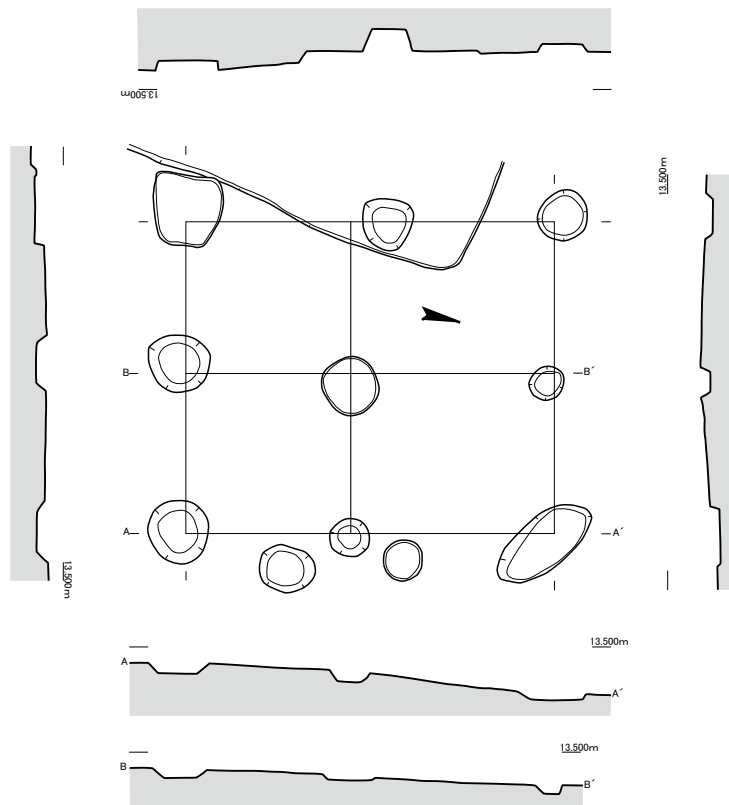


図 25 志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 4 (1/80)

SB0799



SB0800

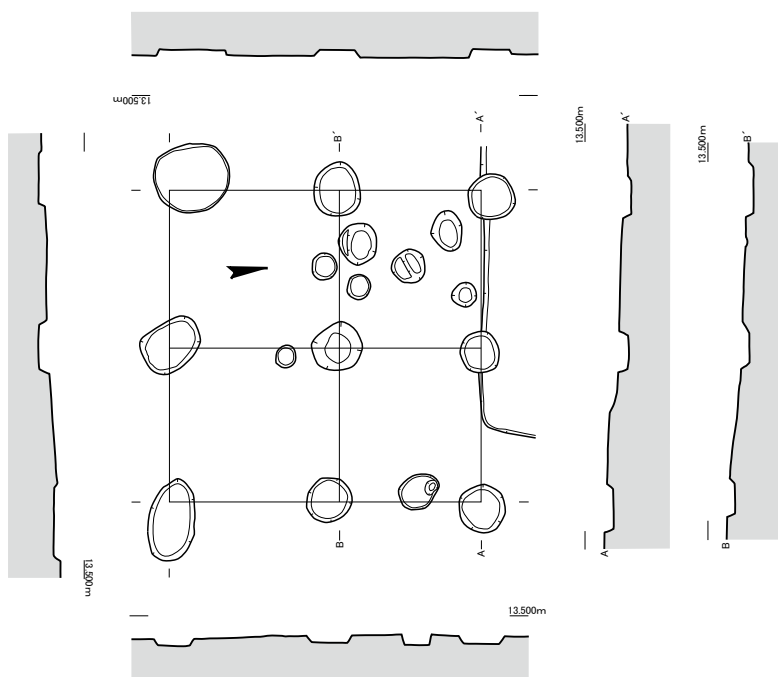
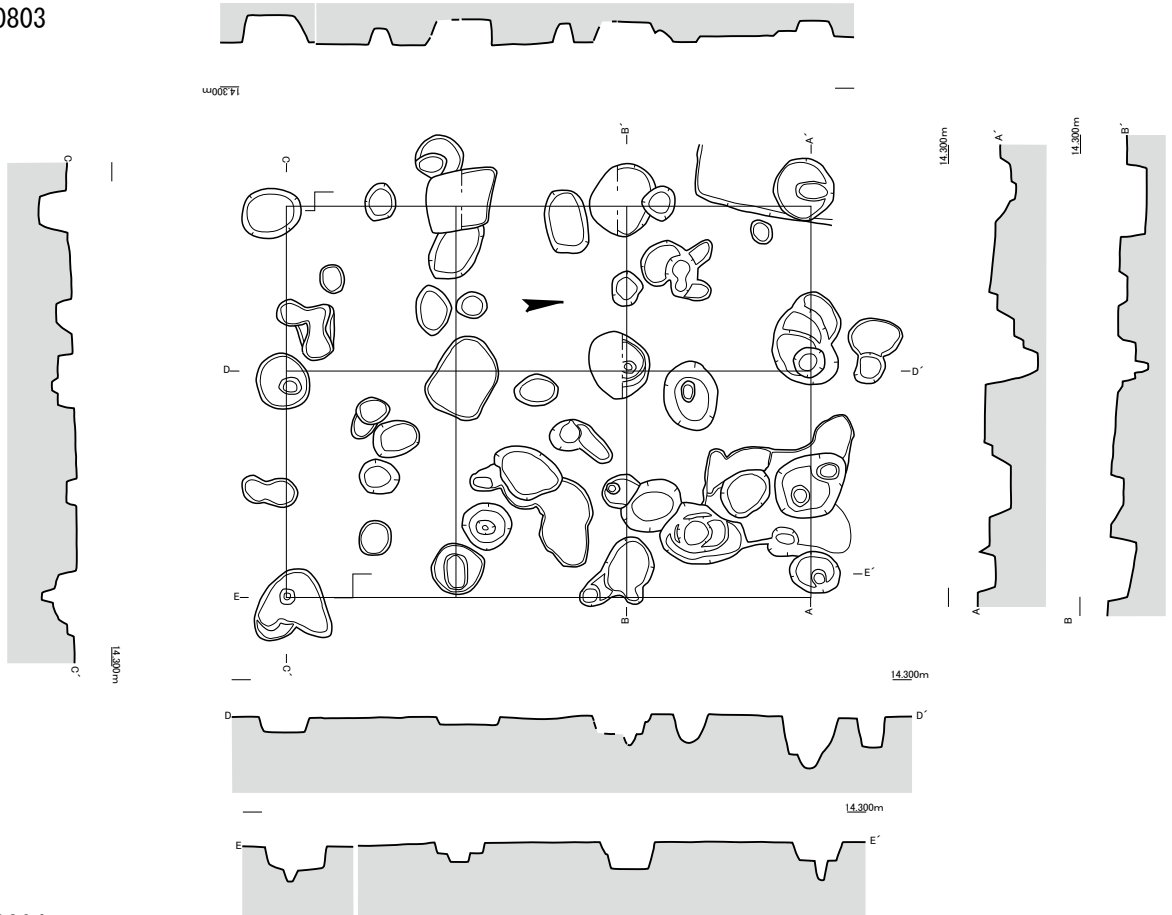


図26 志波屋四の坪地区I区 掘立柱建物5 (1/80)

SB0803



SB0804

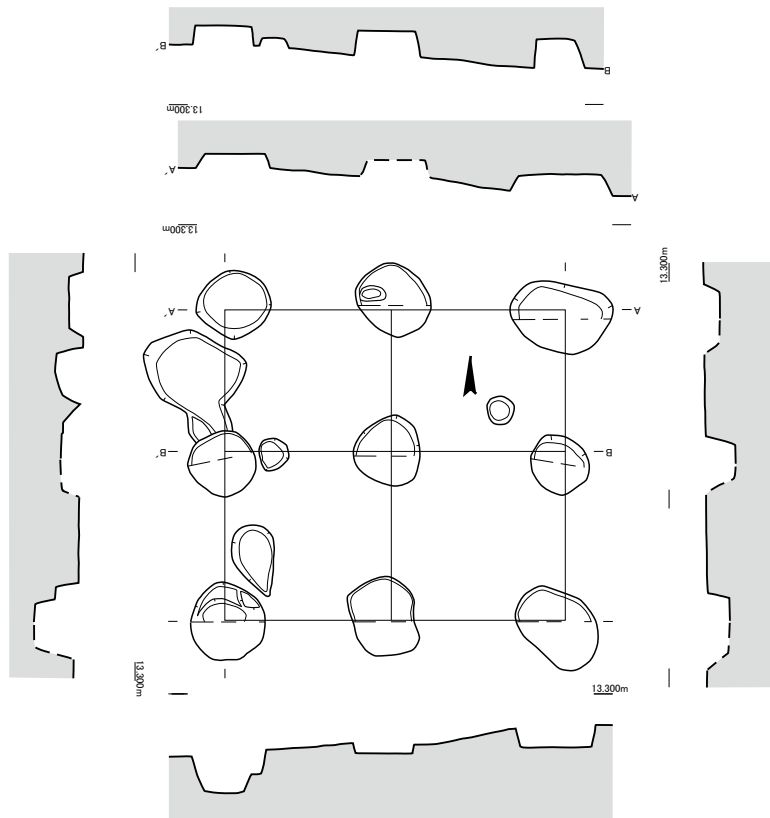
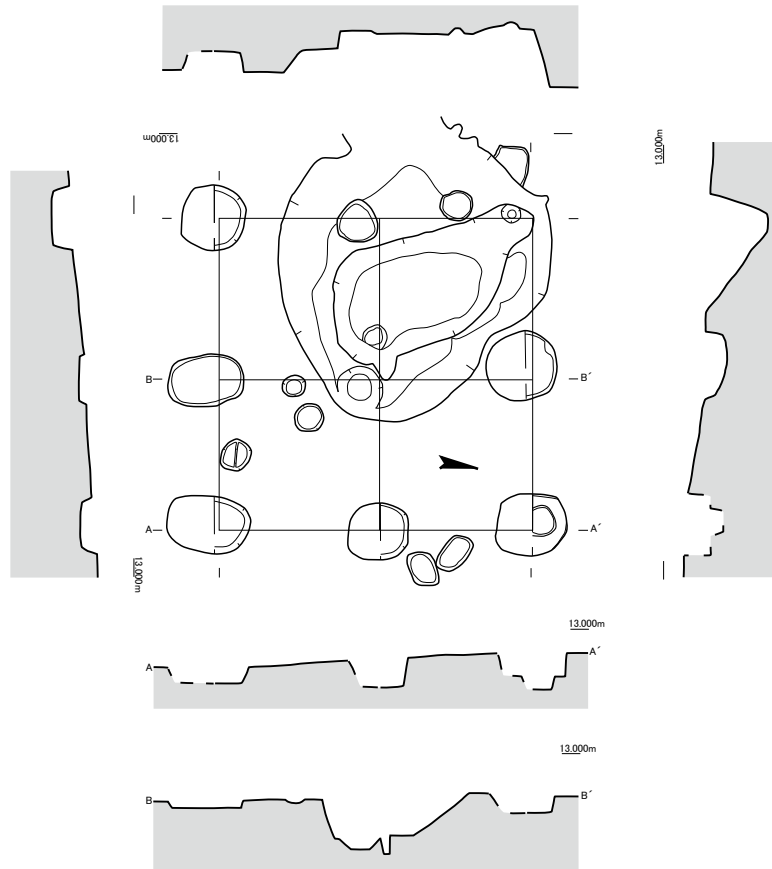


図27 志波屋四の坪地区I区 掘立柱建物6 (1/80)

SB0805



SB0806

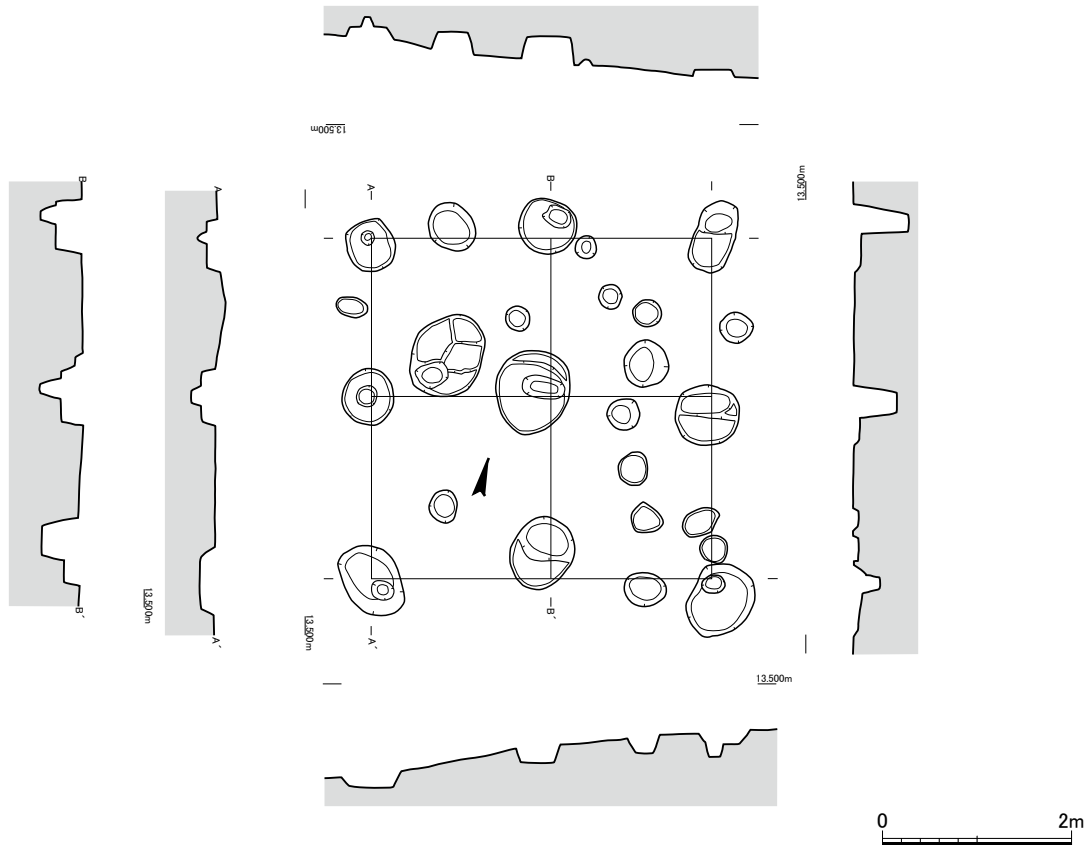
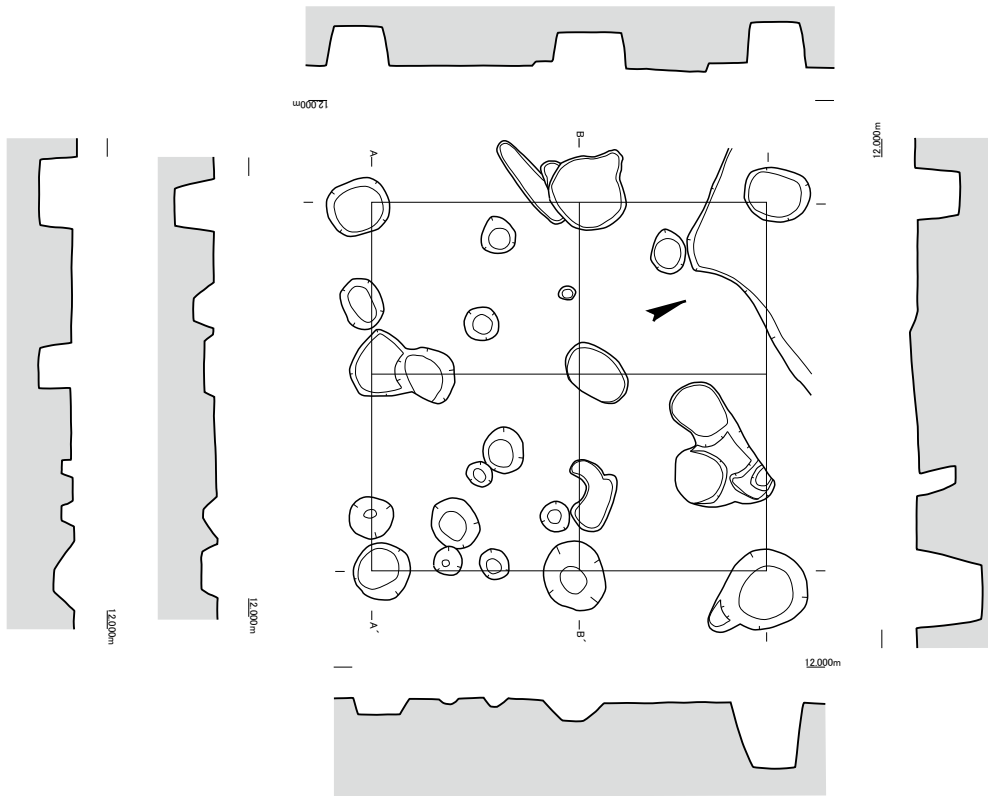


図28 志波屋四の坪地区I区 掘立柱建物7 (1/80)

SB1022



SB1023

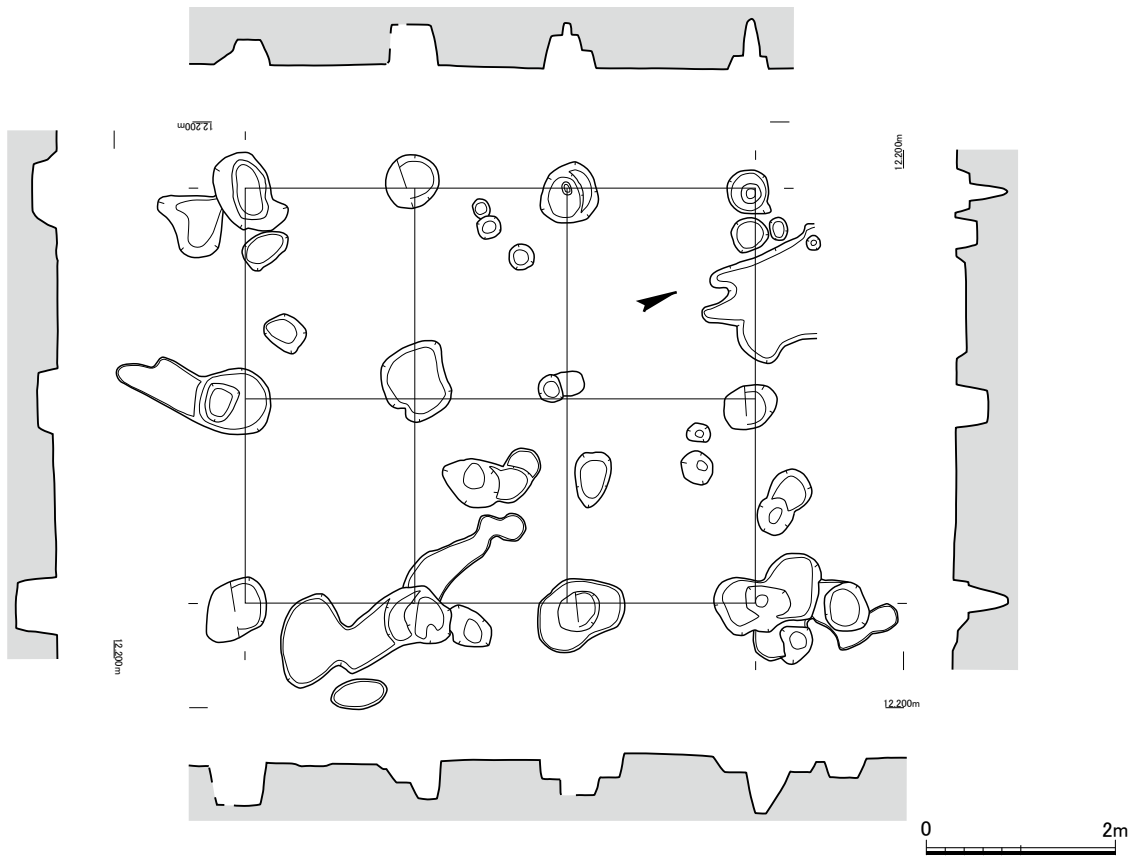
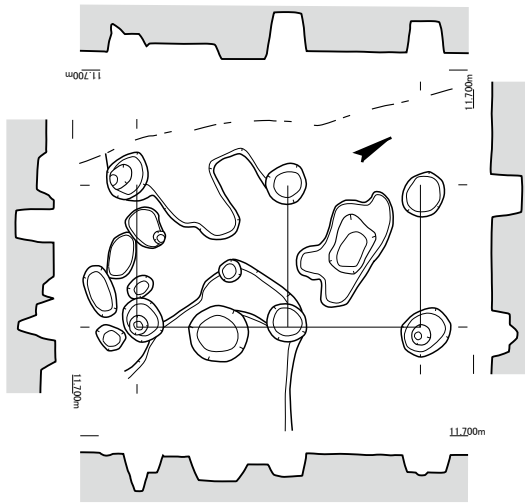
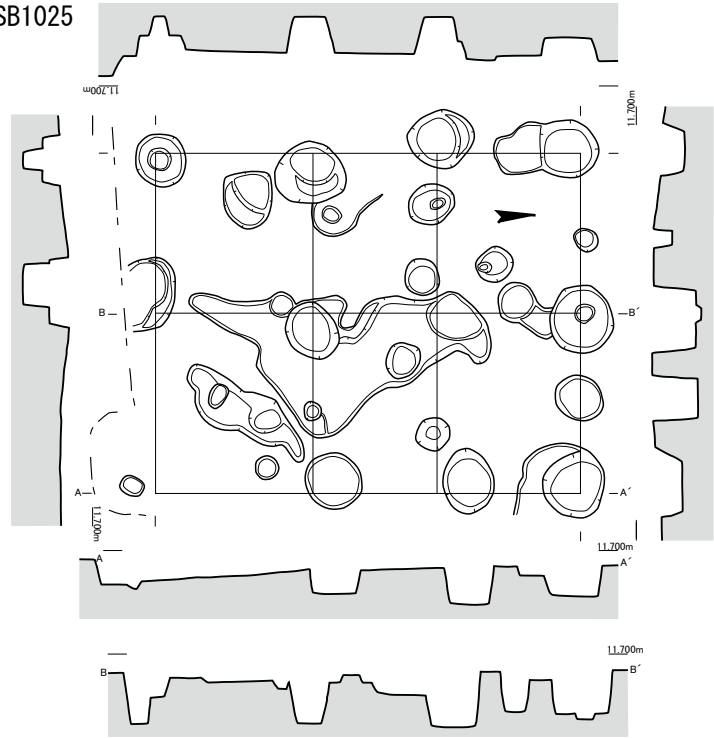


図 29 志波屋四の坪地区 I 区 掘立柱建物 8 (1/80)

SB1024



SB1025



SB1026

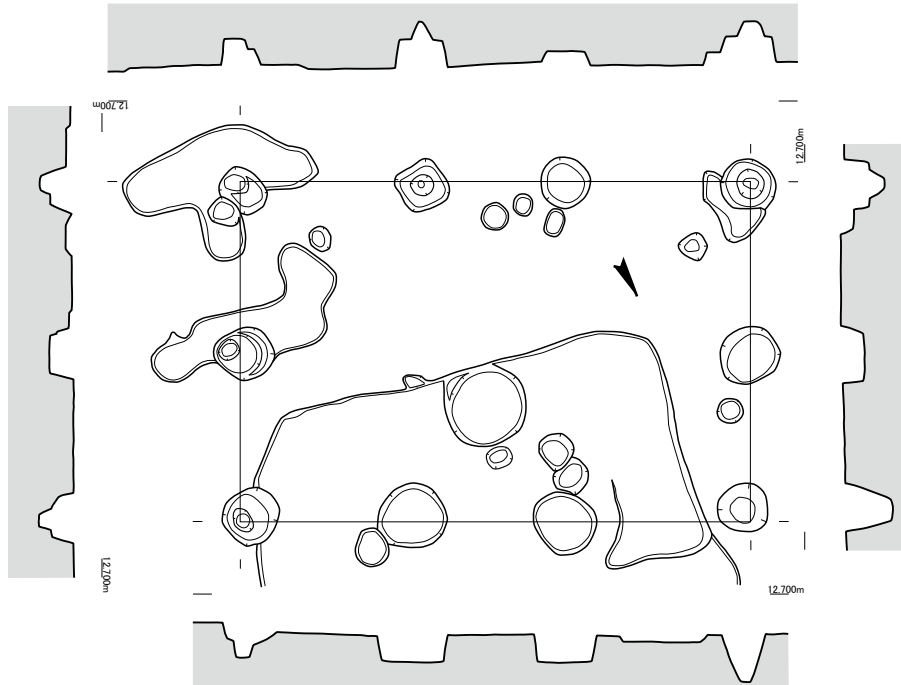


図30 志波屋四の坪地区I区 掘立柱建物9 (1/80)

表1 志波屋四の坪地区I区 掘立柱建物

遺構番号	間数	梁行 (m)		桁行 (m)		主軸方位	平面積 (㎡)	柱穴 (m)		新旧関係		時期	特記事項
		全長	柱間	全長	柱間			平面形	規模	旧	新		
SB0791	3×5	4.95	1.6～1.8	7.23	1.2～1.8	N11.5° W	35.64	方・円	0.44～0.90			8c以降	側柱
SB0792	2×2	3.6	1.8	3.75	1.8～1.9	N37.5° E	13.5	円	0.56～0.76			8c	総柱
SB0793	2×2	3.6	1.8	3.6	1.8	N13.5° E	12.96	円	0.94～1.28			8c?	総柱
SB0794	2×2	3.6	1.8	3.75	1.8～1.9	N10° E	13.5	円	0.48～0.74			8c?	総柱
SB0795	2×2	3.0	1.5	3.0	1.5	N9.5° E	9.0	方・円	0.60～0.90	SB0796		8c?	総柱
SB0796	2×2	2.7	1.3～1.4	3.4	1.6～1.9	N13.2° E	9.18	円	0.48～0.62		SB0795	8c?	総柱
SB0797	2×2	2.85	1.4～1.5	3.4	1.7	N16.2° E	9.4	円	0.36～0.62			8c?	総柱
SB0798	2×2	3.9	1.8～2.0	4.2	2.1	N6.5° W	16.38	円	0.60～0.98			8c?	総柱
SB0799	2×2	3.3	1.6～1.7	3.9	1.7～2.1	N15° W	12.87	円	0.38～1.16	SH0801		8c?	総柱
SB0800	2×2	3.3	1.4～1.8	3.3	1.6～1.7	N11.5° E	10.89	円	0.44～0.86	SH0801		8c?	総柱
SB0803	2×3	4.1	1.7～2.4	5.55	1.8～2.0	N7° E	9.65	円・方	0.50～0.94	SH0802		8c後半	総柱 段掘り
SB0804	2×2	3.3	1.4～1.8	3.6	1.8	N0°	11.88	方・円	0.62～1.06			8c?	総柱
SB0805	2×2	3.3	1.6～1.7	3.3	1.6～1.7	N7° W	10.89	方	0.62～0.84			8c	総柱
SB0806	2×2	3.6	1.7～1.9	3.6	1.7～1.9	N12.5° W	12.96	方・円	0.52～0.90			8c?	総柱
SB1022	2×2	3.9	1.8～2.1	4.2	2.0～2.2	N21.5° E	16.38	円	0.61～0.94			7c後半	総柱
SB1023	2×3	4.4	2.2	5.4	1.6～2.0	N23° E	23.76	円・方	0.46～1.18			7c後半?	総柱
SB1024	1以上×2	1.48+	1.5	3.0	1.4～1.6	N32° E	—	円	0.48～0.52			7c後半	総柱?
SB1025	2×3	3.6	1.7～1.9	4.9	1.3～1.7	N3.5° E	17.64	円	0.56～0.70			7c後半～ 8c前半	総柱
SB1026	2×3	3.6	1.8	5.4	1.6～2.0	N26° E	19.44	円・方	0.52～0.64	SH1013		8c後半	側柱

～1.7mで、主軸方位はN7°Wである。柱掘方は方形を基調とする。

SB0805 出土遺物 (図31)

7は須恵器環で体部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ調整を行う。8は須恵器壺の破片で内外面ともに回転ナデ調整を行う。9は須恵器環の高台である。高台は外側に張り出し、接地部分は面をなす。内外面ともに回転ナデ調整を行う。10は須恵器壺の口縁部破片である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。11～13は土師器甕で、内外面ともに摩耗のため調整不明である。14は土師器の把手である。

SB0806 掘立柱建物 (図28)

建物の構造は梁行2間(3.6m)、桁行2間(3.6m)の総柱建物である。梁行柱間は1.7～1.9m、桁行柱間は1.7～1.9mで、主軸方位はN12.5°Wである。柱掘方は方形や円形を基調とする。南北方向の柱穴の底面のレベルはある程度揃えられており、東西方向の柱穴の底面のレベルは西側へ地形が傾斜しているため、その方向に向かって緩やかに低くなっている。

SB1022 掘立柱建物 (図29)

建物の構造は梁行2間(3.9m)、桁行2間(4.2m)の総柱建物である。梁行柱間は1.8～2.1m、桁行柱間は2.0～2.2mで、主軸方位はN21.5°E棟である。柱掘方は円形を基調とする。南側に位置するSB1023と構造は異なるが、主軸方向を同一にするため同時期の建物と考えられる。

SB1022 出土遺物 (図31)

15は須恵器蓋で、内面にかえりを有し、天井部が高くなる形状と考えられる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。

SB1023 掘立柱建物 (図29)

建物の構造は梁行2間(4.4m)、桁行3間(5.4m)の総柱建物である。梁行柱間は2.2m、桁行柱間は1.6～2.0mで、主軸方位がN23°Eの南北棟である。柱掘方は円形や方形を基調とする。北側に位置するSB1022と構造は異なるが、主軸方向を同一にするため同時期の建物と考えられる。

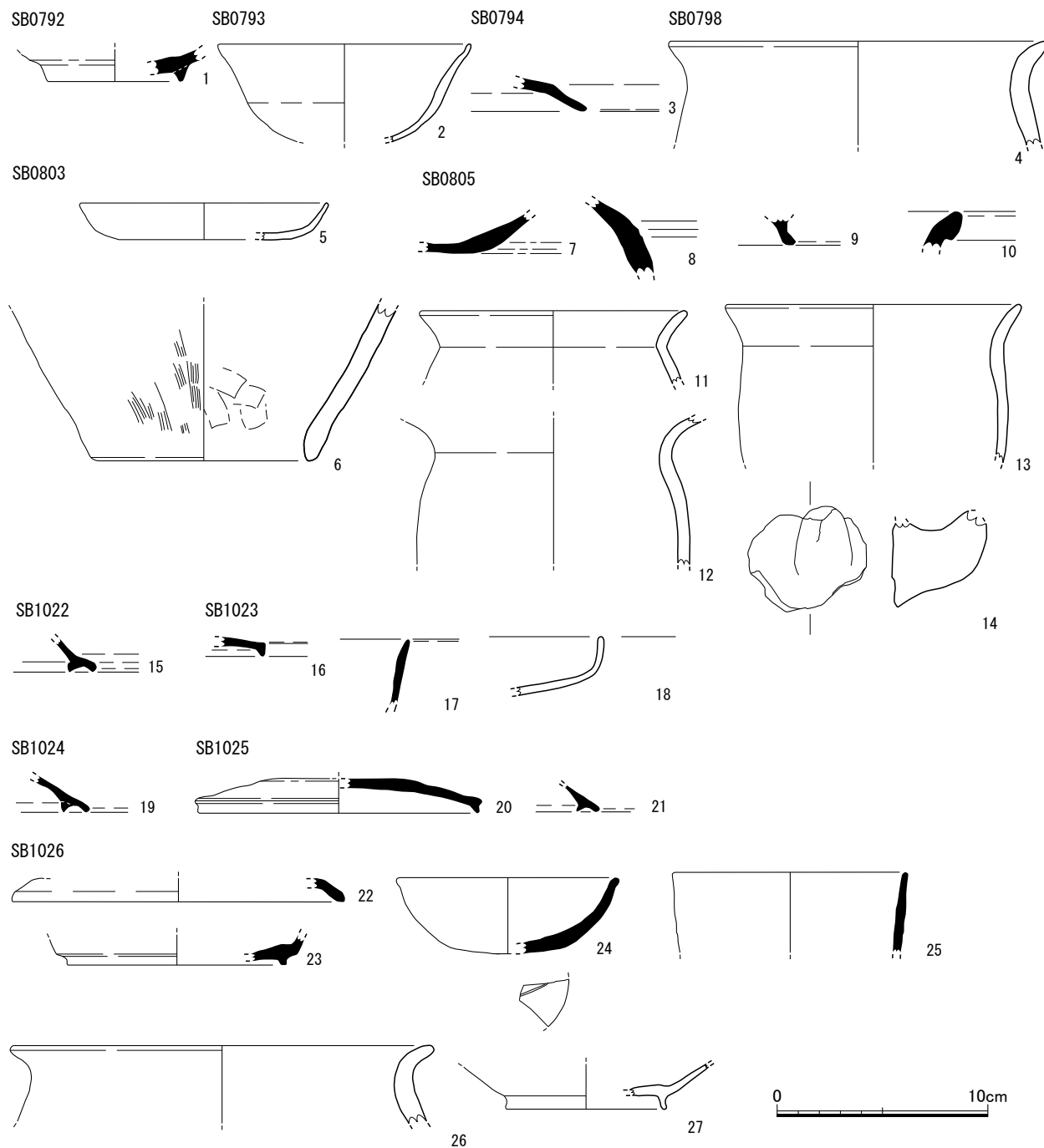


図 31 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 1 (1/3)

SB1023 出土遺物 (図 31)

16 は須恵器蓋の口縁部で、端部が下方に短く屈曲し、天井部が低く水平に近く開いた形状と推定される。17 は須恵器環の口縁部である。内外面ともに回転ヨコナデ調整を行う。18 は土師器環の口縁部である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SB1024 掘立柱建物 (図 30)

建物の構造は一部調査区外にかかっているため、全体の把握はできないが梁行 1 間以上 (1.48m 以上)、桁行 2 間 (3.0 m)、梁行柱間は 1.5 m、桁行柱間は 1.4 ~ 1.6m で、主軸方位は N32° E である。柱掘方は円形を基調とする。

SB1024 出土遺物 (図 31)

19 は須恵器蓋で内面にかえりを有し、天井部が高くなる形状と考えられる。赤焼きである。内外面ともに回転ナデ調整を行う。

SB1025 掘立柱建物 (図 30)

建物の構造は梁行 2 間 (3.6 m)、桁行 3 間 (4.9 m) の総柱建物である。梁行柱間は 1.7 ~ 1.9 m、桁行柱間は 1.3 ~ 1.7 m で、主軸方位が N3.5° E の南北棟である。柱掘方は円形を基調とする。

SB1025 出土遺物 (図 31)

20 は須恵器蓋で口縁端部が下方に屈曲し尖り、外面に段を有する。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部には回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。21 は須恵器蓋で内面にかえりを有し、天井部が高くなる形状と考えられる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。

SB1026 掘立柱建物 (図 30)

建物の構造は梁行 2 間 (3.6 m)、桁行 3 間 (5.4 m)、梁行柱間は 1.8 m、桁行柱間は 1.6 ~ 2.0 m で、主軸方位が N26° E の東西棟である。柱掘方は円形や方形を基調とする。北辺の柱穴が SH1013 を切る。

SB1026 出土遺物 (図 31)

22 は須恵器蓋で、口縁端部は外へ伸びる。天井部は低く水平に開く形状と推測される。内外面ともに回転ナデ調整を行う。23 は須恵器環で、高台が低く底部外面のやや内側に付く。体部と底部の境に稜をもつ。内外面ともに回転ナデ調整を行う。24 は須恵器環で、丸みを帯びた形状で口縁端部がやや外反する。内外面ともに回転ナデ調整を行い、底部外面にヘラ記号が認められる。25 は須恵器鉢で、体部から口縁部にかけて垂直に開く形状である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。焼成不良である。26 は土師器甕で、頸部に明確な稜を持たず、緩やかに開く。内外面ともに摩耗のため調整不明である。27 は土師器環で、高台が細くなる。体部は外側に大きく開く形状と推測される。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

B 溝

古代の溝は官道の側溝も含めて 8 条確認されている。

SD1006 溝 (官道南側溝) (図 32)

SF1008 の南側を平行にはしる溝で、官道に伴う側溝と考えられる。この溝は東側へは続かず、西へと延びるが、西端は別の溝に切られその先は不明である。土層図 (図 32 SD1006 西アゼ西壁) から 1 層が SD1006 の埋土と考えられ、別の溝状遺構の 2 層に切られている状況である。

SD1006 出土遺物 (図 33)

28 は須恵器蓋で丸みを帯び、器高が高い形状である。天井部外面に一部灰かぶりがみられる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。29 は須恵器蓋で器壁は厚く、天井部は低く水平に開く形状と推定される。つまみは低く平たいが、中央部分が尖っている。内外面ともに回転ナデ調整を行う。30 は須恵器環で、高台は低く接地部分が断面逆三角形になる。外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。31 は須恵器環で、復元底径より小型の高台付環と推定される。底部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。32 は須恵器甕で、口頸部から口縁部は欠損し、体部はやや扁平な形状である。体部外面上位は回転ナデ、穿孔より下は回転ヘラケズリ、内面は不明である。底部外面には「キ」のようなヘラ記号が認められる。33 は土師器甕

である。外面はヨコナデ、内面は頸部付近にケズリ、他はヨコナデ、ナデ調整を行う。34は土師器高坏の脚部である。外面はハケメ、回転ナデ、内面はナデ調整を行う。35は土師器の把手である。内外面ともにナデ調整を行う。

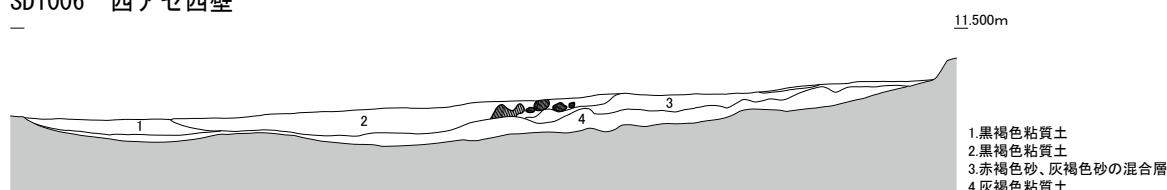
SD1007 溝（官道北側溝）（図 32）

SF1008の北側を平行にはしる溝で、官道に伴う側溝と考えられる。この溝も東側へ続かず、西へと延びるものである。また、SD1007の調査区西端ではSD1043と合流する。1アゼ西壁土層図1～3層や4アゼ東壁土層図1～3、5～7層、5アゼ西壁土層図1～5層はSD1007の埋土と考えられる。SD1043と合流する6アゼ南壁では、切り合い関係を確認することはできない。

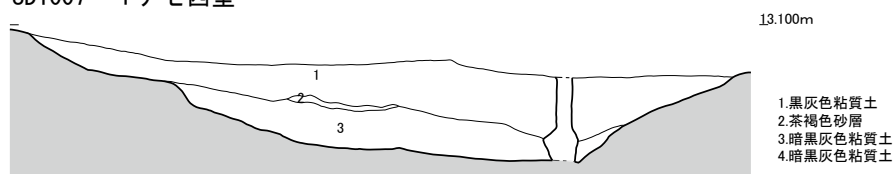
SD1007 出土遺物（図 33～35）

36～41は須恵器蓋である。36～38は坏蓋である。36は天井部は回転ヘラケズリが残り、口縁部との境に沈線を施し、口唇部には列点文のような施文がみられる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。37は体部から口縁部にかけて稜をもち、開く形状である。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。38は口縁端部をやや折り曲げる形状である。天井部外面は回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。39は皿の可能性もあるが、口縁部と体部の境に沈線を持ち、口縁端部がやや外反する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。40は体部から口縁部にかけて外反し、口縁端部は下方に屈曲する。焼成不良である。天井部外面は回転ヘラケズリ、回

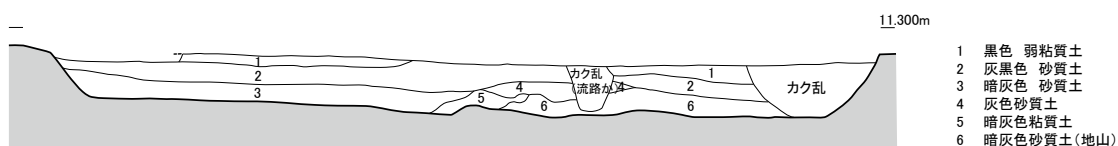
SD1006 西アゼ西壁



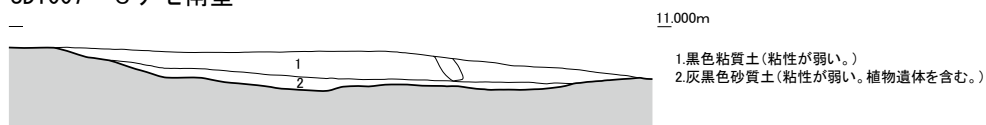
SD1007 1アゼ西壁



SD1007 5アゼ西壁



SD1007 6アゼ南壁



SD1043 南壁

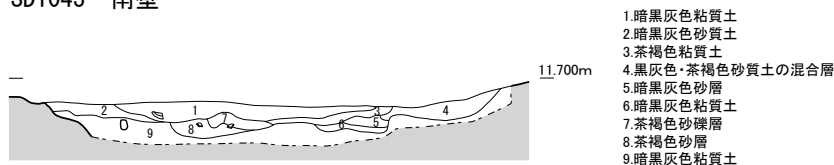
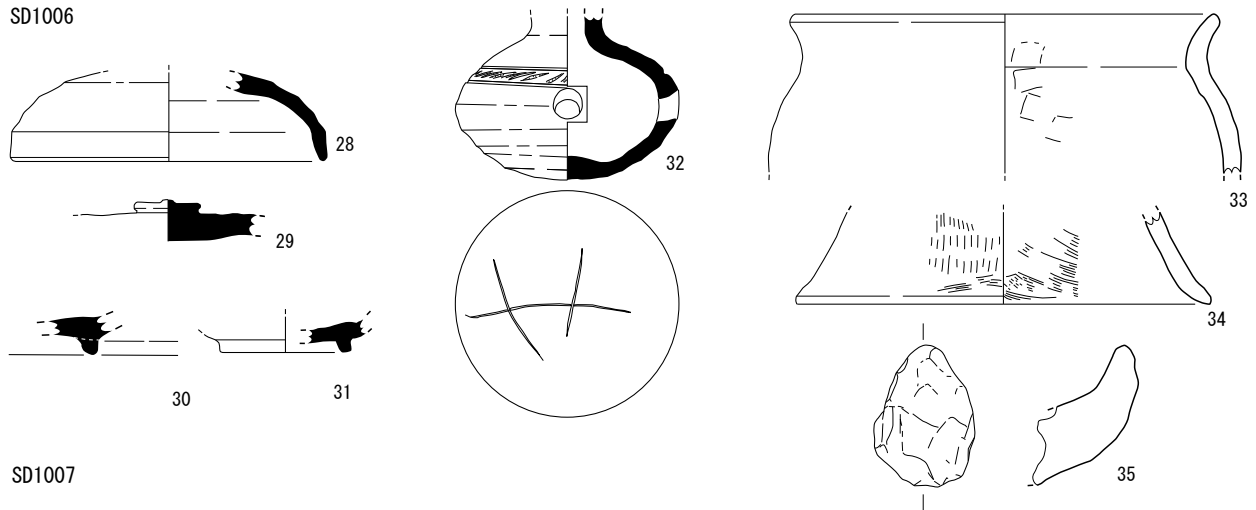


図 32 志波屋四の坪地区Ⅰ区 溝の土層 (1/40)

転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。41 は天井部は低く、口縁端部は短く屈曲する。天井部外面は回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。42～55 は須恵器環である。42～46 は蓋環の身である。42 は小型品である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部から口縁部にかけて回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。43 は体部から受部にかけて直線的に開く器形で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。44 は丸みを帯びた器形で、底部外面に回転ヘラケズリ、体部から口縁部にかけて回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。赤焼きである。45 は体部から受部にかけて直線的に開き口径が大きい。内外面ともに回転ナデ調整を行う。46 は受部の基部が無い。焼成不良である。底部外面に回転ヘラケズリ、体部から口縁部にかけて回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。47 は体部から口縁部にかけて直線的に開き、口縁端部が若干外反する形状である。外面は回転ナデ調整、内面はナデ調整を行う。48 は体部から口縁部にかけてやや外反しながら開く器形である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。49～55 は高台付環と考えられる。49 は高台は台形状を呈し、接地部分は面をなす。高台とその付近は回転ヘラケズリ後ナデ、その他はナデ調整を行う。50 の高台は丸く成形され、接地部分の面は小さい。高台とその付近は回転ヘラケズリ後ナデ、その他はナデ調整を行う。51 は体部と底部の境に稜を持ち、高台端部がやや肥厚する。底部外面に回転ヘラケズリ後ナデ、高台周辺は回転ナデ、体部内面は回転ナデ調整を行う。52 は体部と底部の境に明瞭な稜を持ち、高台は低く、接地部分は面をなす。高台とその付近は回転ヘラケズリ、底部外面はナデ、内面は回転ナデ調整を行う。53 は高台は高く、外側に張り出す。底部から体部にかけては稜を持たず、丸みを帯びた器形と推定される。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。54 は高台は低く、底部中央に向かって低くなる。また、底部外面にはヘラ記号を施す。内外面ともにナデ調整を行う。55 は体部と底部の境に稜を持ち、高台は低く、細い。焼成不良である。高台とその付近は回転ヘラケズリ後ナデ、その他の部分はナデ調整を行う。56 は須恵器高環の脚部である。焼成不良である。脚部は滑らかに広がり、脚部内部はシボリ痕、外面はナデ調整を行う。57 は須恵器壺で、底部に糸切状にみえる調整が確認される。焼成不良である。体部外面、内面は回転ナデ調整を行う。58 は須恵器壺で口縁部の形状から小型の壺と推定される。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。59 は須恵器壺で、体部が張り頸部径が大きい。外面上部にはカキメ調整、その他内外面ともに回転ナデ調整を行う。60 は須恵器壺で、底部に低い高台を持ち、体部は細長く延びるものと推定される。内外面ともに回転ナデ調整を行う。61 は須恵器壺の底部で、高台を持たず、厚く平たい底の形状をしている。内外面ともにナデ調整を行う。62 は須恵器平瓶で、体部は丸みを帯びており頸部から口縁部にかけて大きく開く形状である。外面の口縁部から体部上部までは回転ナデ、体部下部分から底部はナデ、内面は回転ナデ調整を行う。63 も須恵器平瓶で、体部は丸みを帯び、頸部が絞られ口縁部が直線的に開く。体部外面中ほどから下部にかけて回転ヘラケズリを行い、体部下部分に1条の沈線を施す。体部上部から口縁部にかけて回転ナデ、内面はナデ調整を行う。64、65、66 は須恵器甕で、体部下部分に最大径をもち下膨状の形態をもつ。64 は頸部付近から口縁部にかけて、65、66 は体部のみ残っている。64 の口縁部外面下半にはカキメを施し、内面は回転ナデ調整を行う。65 の体部外面上半は回転ナデ、沈線より下半は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ調整を行う。66 の体部外面上半には浅いカキメを施し、胴部が最も張る部分に櫛状工具による刺突文を施文している。内面は回転ナデ調整を行う。67～72 は須恵器甕で全て口縁部破片である。67、69 は口縁端部を突帯状に仕上げる。67 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。69 の外面は回転ナデ後タタキ、内面は回転ナデ調整を行う。68 の口縁部は外反し、端部が肥厚する。強い回転ナデにより口縁端部は突帯状の稜をなす。70 の口縁端部は外側に向かって肥厚し、稜を形成する。口縁部下半には斜方向の線刻を施す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。71 の口縁部は二重口縁となり、内外面ともに回転ナデ調整を行う。72 は口縁部を大きく開く大型の甕である。口縁端部は外側に向かって肥厚し、稜を形成する。口縁部下半には斜方向の線刻を施す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。73 は須恵器甕で肩が丸く張り、口縁部は直口して開く形状である。焼成不良である。外面は平行タタキで内面は平

SD1006



SD1007

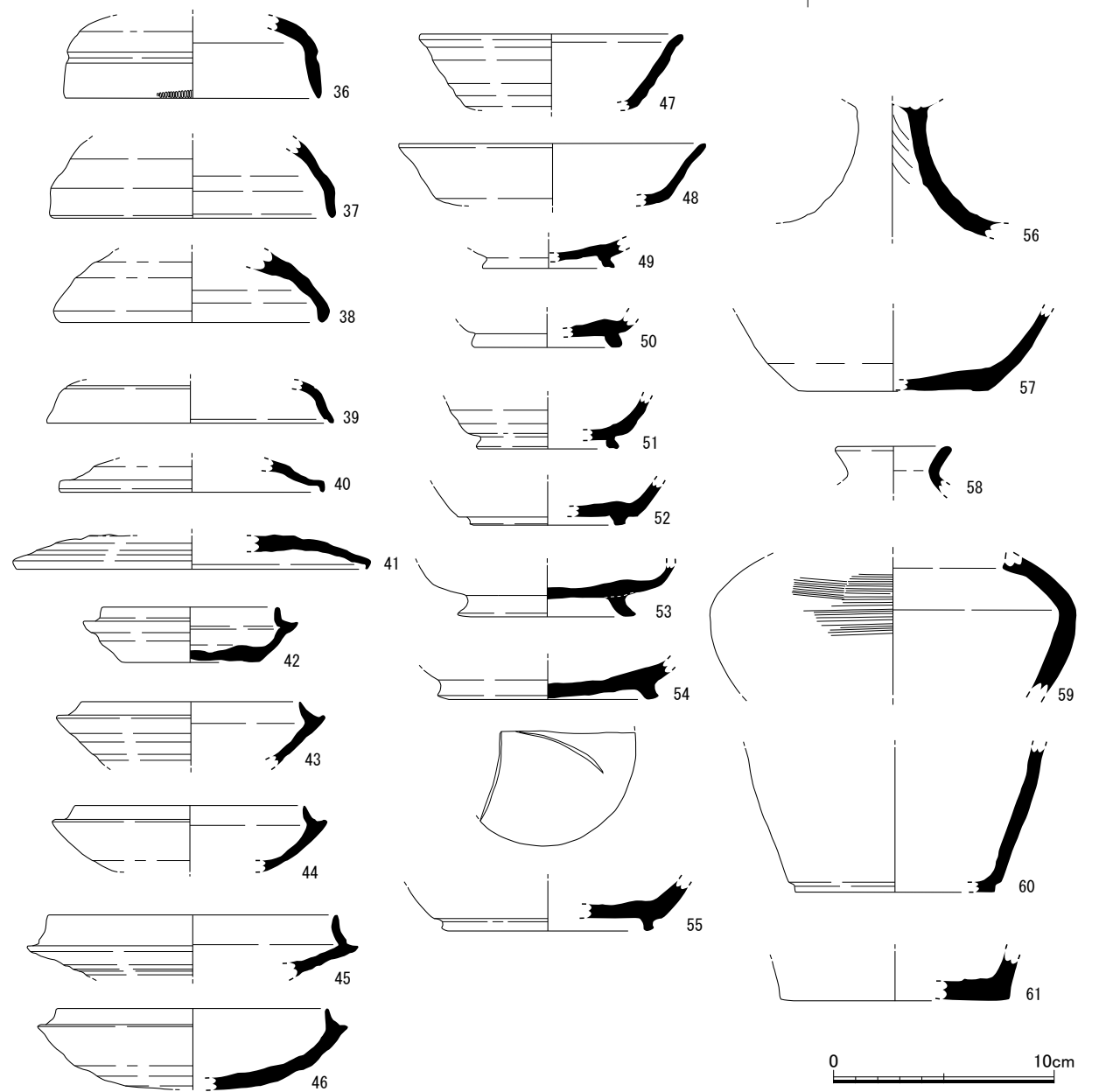


図33 志波屋四の坪地区1区 出土遺物2 (1/3)

SD1007

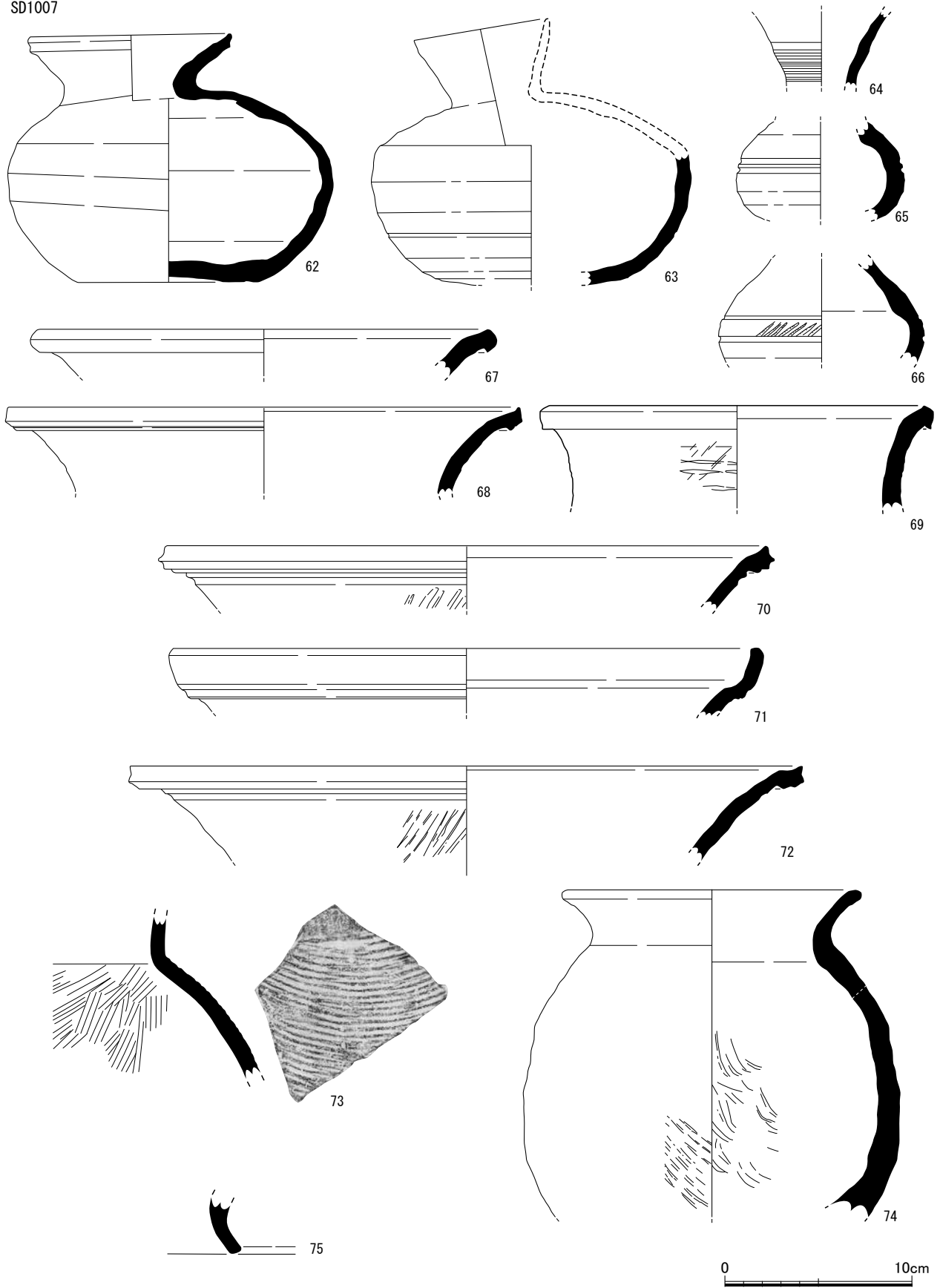


図34 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物3 (1/3)

行タタキ似た工具を使用したオサエがみられる。74は須恵器甕で肩が丸く張り、口縁部は外反して開く形状である。焼成不良である。全体的に凹凸が多く粗い作りで、焼成不良で白色に近い色調だが、外面下半部に平行タタキや内面に同心円当て具痕があることから須恵器甕と判断した。75は須恵器碗で、円面碗の脚部破片と考えられる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。

76は土師器坏で口縁部が内傾する立上りをもつ。内外面ともに回転ナデ調整を行い、内外面に僅かだが丹塗りの痕跡がある。口縁部外面は回転ナデ、胴部は摩耗のため調整不明で、内面はわずかにミガキ調整がみられる。77土師器坏では明瞭な稜を持たない丸みを帯びた器形である。内外面ともにナデ調整を行う。78は土師器皿である。口縁部と底部との明確な境は無く、口縁端部は肥厚する。内外面ともに摩耗のため調整不明である。79は土師器鉢である。器形全体は同じ厚さとなっており、内面から口縁部外面まではミガキ、外面カブはナデ調整を行う。80は土師器高坏である。脚部は接地付近で開き、坏部は水平に広がる器形となる。脚部内面はケズリ、外面はナデ調整を行う。81は土師器皿で、口縁部から体部にかけて丸みを帯びた形状である。全体的に摩耗しており、調整不明である。82は土師器坏又は鉢である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。83は土師器甕である。口縁部は頸部より屈曲して短く開く。外面はハケメ、内面はケズリ調整を行う。84は土師器甕である。口縁部は頸部より強く屈曲して開く。外面はハケメ、内面はケズリ調整を行う。85は土師器甕で、底部が残る。外面はハケメ、内面はナデ調整を行う。86は土師器で把手付きの甕である。厚い把手を有し、全体的に丸みを帯びた形状である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。87は土師器の把手である。外面にハケメ調整を行う。

SD1021 溝

調査区南西部に位置し、北東-南西方向に延びる浅い溝である。西側にあるSB1022、1023、1026に平行するように位置しており、区画溝のようにみえる。

SD1021 出土遺物 (図 36)

88～90は須恵器蓋である。88は口縁端部が短く屈曲し、断面は逆三角形形状、天井部は平坦である。つまみはやや高く上面は平坦である。天井部外面に重ね焼きの痕がみられる。つまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。89は鳥嘴状の口縁部をつくり、天井部付近で器壁が厚くなる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。90は口縁端部でやや肥厚し、下方へ屈曲し、断面は逆三角形形状で天井部は低く、水平に近い形状である。天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。91～93は須恵器坏である。91は坏蓋の身である。体部は丸くやや深い器形で、小型である。底部外面は回転ヘラケズリ、体部より口縁部にかけて回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。底部外面に二本のヘラ記号が認められ、交差するものと考えられる。92は高台付坏で、高台は断面が台形状で外へ開く。体部は直線的に開く。外面は回転ヘラケズリ、ナデ調整を行っているが、体部と底部の境あたりに回転ヘラケズリがわずかに残り、高台周辺は回転ナデ、内面も回転ヘラケズリ、ナデ調整を行う。93は高台を持たない坏で体部から口縁部にかけて直線的に開き、口縁端部がやや外反する。焼成不良である。内外面ともにナデ調整を行う。94は須恵器皿で、底部から口縁部にかけて直線的に大きく開く。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。95は須恵器高坏の脚部破片である。脚部は低く、脚端部は外側へ開くと思われる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。96は底径が小さく、体部下端付近が厚いことから小型壺の底部と考えられる。外面は回転ヘラケズリ、ナデ調整を行っているが、体部と底部の境あたりに回転ヘラケズリがわずかに残り、内面も回転ヘラケズリ、ナデ調整を行う。97は須恵器鉢である。体部は直線的に開き、口縁端部がやや肥厚する形状である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。98は須恵器壺である。高台は高く大きく、底部から体部にかけて丸みを帯びる形状で

SD1007



図 35 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 4 (1/3)

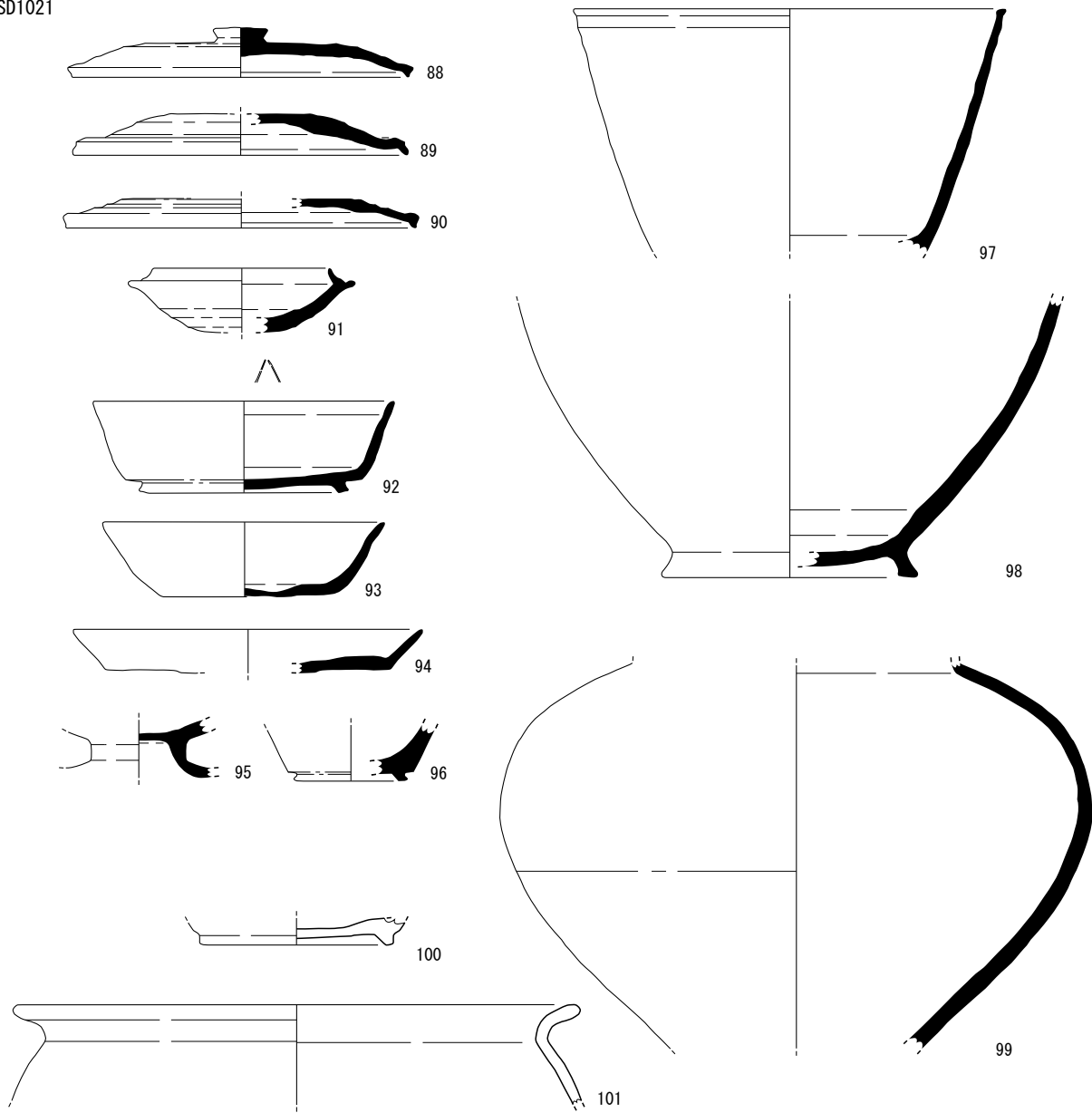
ある。外面全体に回転ヘラケズリ、高台は回転ナデ、胴部内面上位は回転ナデ、底部はナデ調整を行う。99は須恵器壺である。口縁部や底部が欠損しており、大きく張る体部が残っている。体部外面上位は回転ナデ、下位は回転ヘラケズリ、体部内面上位は回転ナデ、底部は回転ナデ調整を行う。

100は土師器坏である。高台は低い。内外面ともに摩耗のため調整不明である。101は土師器甕である。頸部で屈曲し、「く」の字状に開き、口縁端部がやや肥厚する。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SD1028 溝

調査区南西部に位置し、全長5.2mで、幅は1.2～1.8mの南北方向の溝である。北側へ伸びると考えられるが、

SD1021



SD1028

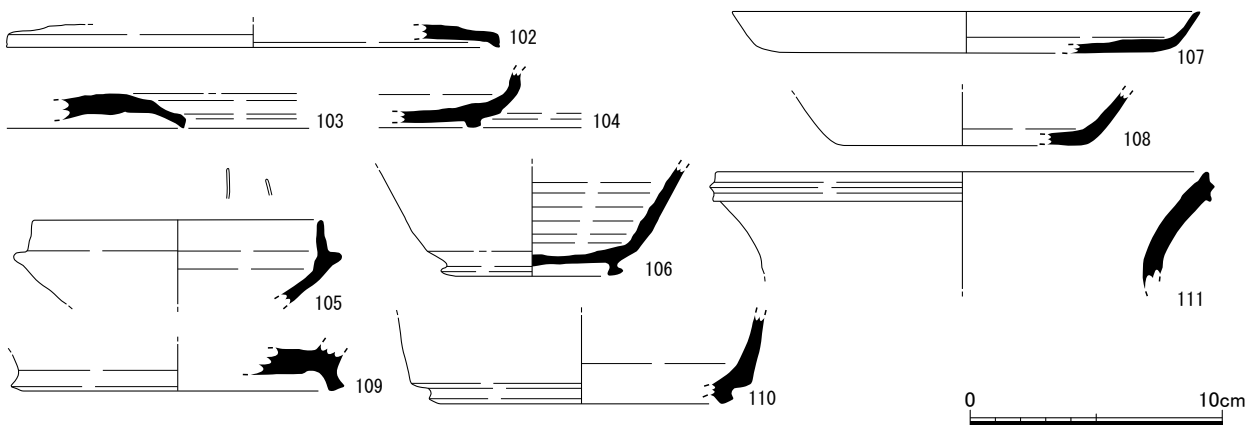


図36 志波屋四の坪地区I区 出土遺物5 (1/3)

SD1028

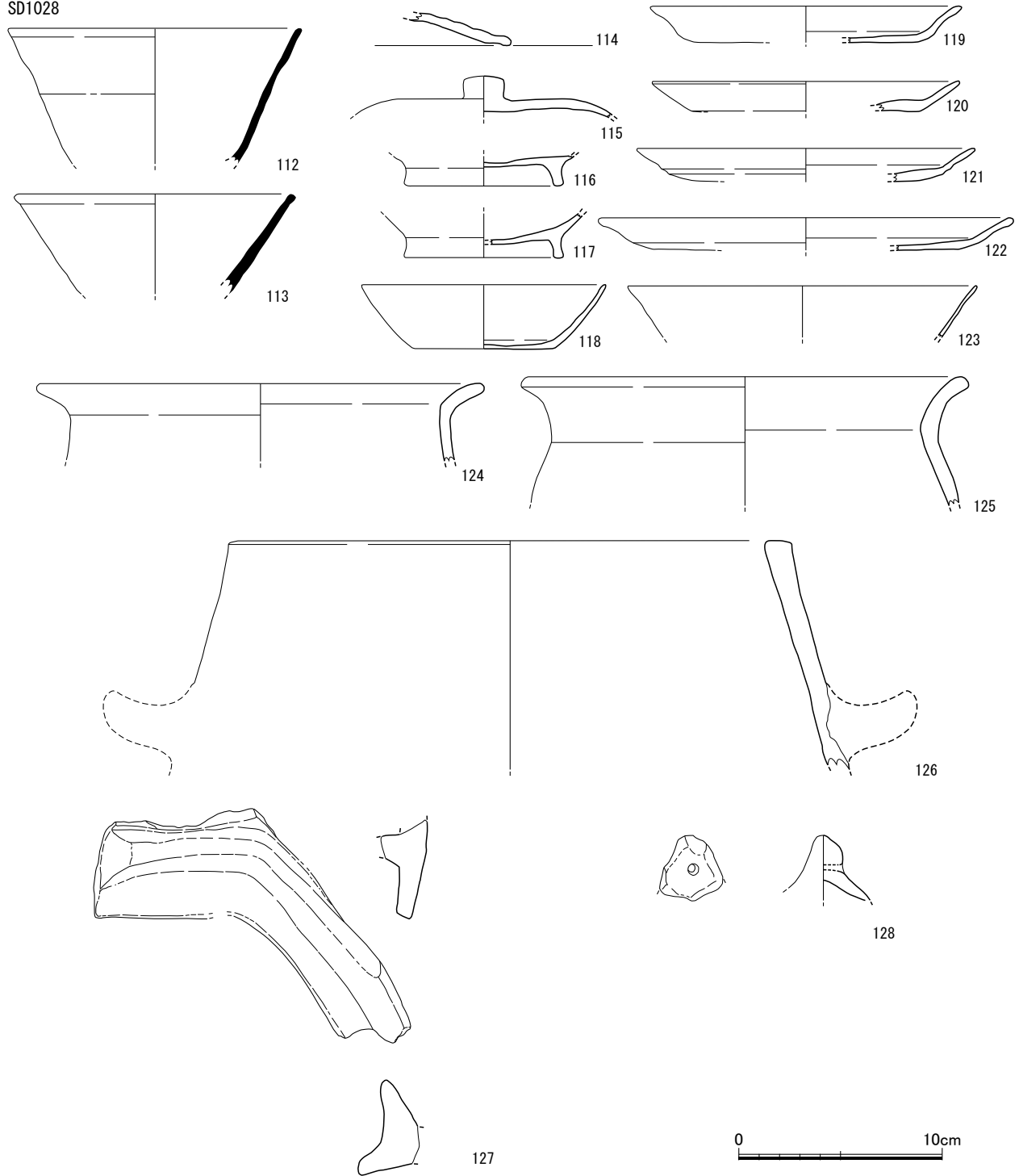


図 37 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 6 (1/3)

削平によって不明である。

SD1028 出土遺物 (図 36,37)

102 は須恵器蓋である。口縁端部が短く屈曲し、断面は逆三角形形状である。天井部は低い。焼成不良である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。103 は須恵器蓋の破片である。口縁端部は逆三角形形状で天井部がやや肥厚する形状である。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。104 ～ 106 は須恵器坏である。104 は高台は低く、断面は台形状で体部はやや屈曲する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。

SD1043

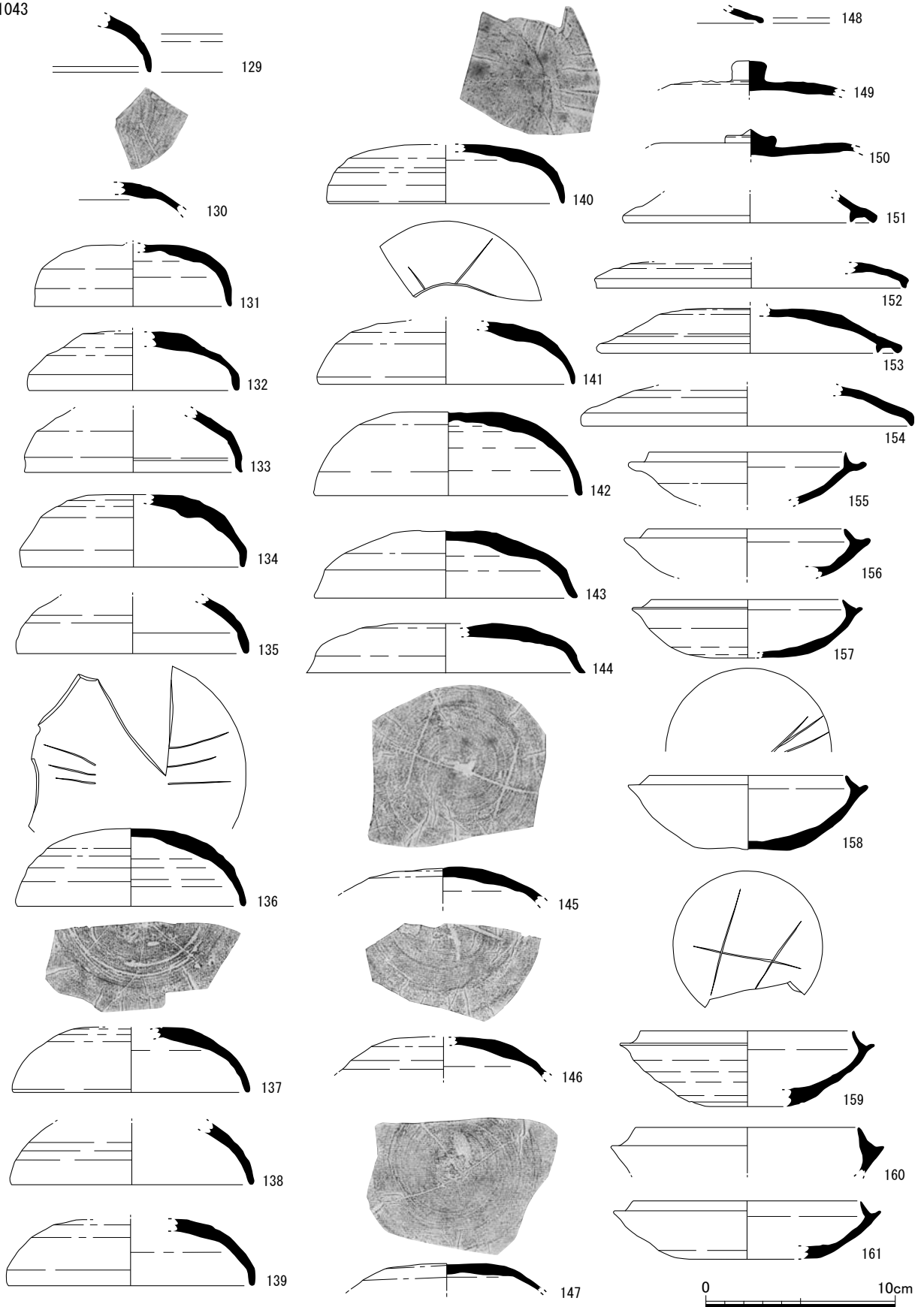


图38 志波屋四の坪地区I区 出土遺物7 (1/3)

105 は蓋環の身で口縁部は垂直にやや長く立上り、受部は水平に伸びる形状である。内外面ともに回転ナデ調整を行い、内面の一部に2本のヘラ記号がある。106 は高台付坏で、高台端部が肥厚する。焼成不良である。体部内面はロクロ成形痕が残る。外面は回転ナデ調整を行っているが、体部と底部の境あたりに回転ヘラケズリがわずかに残り、高台周辺は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。107 は須恵器皿である。体部と底部がやや丸みを帯びた形状である。外面は回転ナデ、ナデ調整、内面は回転ナデ調整を行う。108 は須恵器鉢の底部である。外面はナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。109、110 は須恵器壺や瓶系の底部と考えられる。109 の高台は高く断面は台形状を呈し、外側に張り出す。底部は中央に向かって厚くなる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。110 は高台は低く、体部と底部の境に稜をもつ。焼成不良である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。111 は須恵器甕の口縁部破片で外面に突帯状の稜をもつ。内外面ともに回転ナデ調整を行う。112、113 は須恵器鉢である。体部から口縁部にかけて直線的に開く形状である。112 は体部外面下半に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。113 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。

114 は土師器蓋である。体部から口縁端部まで同じ厚さで開く形状である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。115 は土師器蓋である。天井部には釦形のやや高いつまみをもつ。つまみはナデ、体部外面はヨコナデ、内面はナデ調整を行う。116、117 は土師器椀で底部付近の破片である。高台を持ち、外側に開き接地部分は面をなしている。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。118 は土師器坏である。体部は内湾気味に開く。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。119～122 は土師器皿である。いずれも体部が外反しながら開く形状である。119、121、122 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。120 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。123 は土師器鉢である。器壁が非常に薄く、直線的に開く形状である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。124、125 は土師器甕で、内外面ともに摩耗のため調整不明である。126 は土師器の把手付きの甌である。体部より口縁部にかけて直線的に開き、口縁端部はやや肥厚する。体部には把手の剥離痕が確認できる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。127 は土師器甕の罅部破片である。短く開く。128 は土鈴である。鈕の部分に穴が開き、下部がやや膨らんでいる。

SD1043 溝 (図 32)

調査区北部、全長 23.2m、幅 3.9～5.9m の官道北側溝 (SD1007) に接続する形で北東-南西方向に流れる溝である。また、北東方向には石敷きの井戸 (SE1119) が位置しており、井戸 (SE1119) より官道北側溝 (SD1007) へ向かって約 2°傾いているため、北側溝へ流れる溝と考えられる。

SD1043 出土遺物 (図 38～43)

129～154 は須恵器蓋である。131～147 が蓋環、151、153 は内面にかえりを有する蓋である。129 は口縁部破片で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。130 は天井部破片である。天井部外面に放射状に伸びる2本のヘラ記号が認められる。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ調整を行う。131 は天井部に接合の痕跡があることからつまみを有する壺類の蓋と考えられる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、口縁部内面は回転ナデ、天井部はナデ調整を行う。132 は天井部、口縁部は厚く、体部は薄くなる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整である。133 は天井部が高く、口縁端部はやや外反しながら開く。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。134 は天井部が厚く、口縁部はやや内傾する。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。135 は口縁部はやや肥厚し、屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。136 は全体的に丸みを帯びた形状で、天井部外面に平行した3本を1単位としたヘラ記号が2箇所認められる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は

SD1043

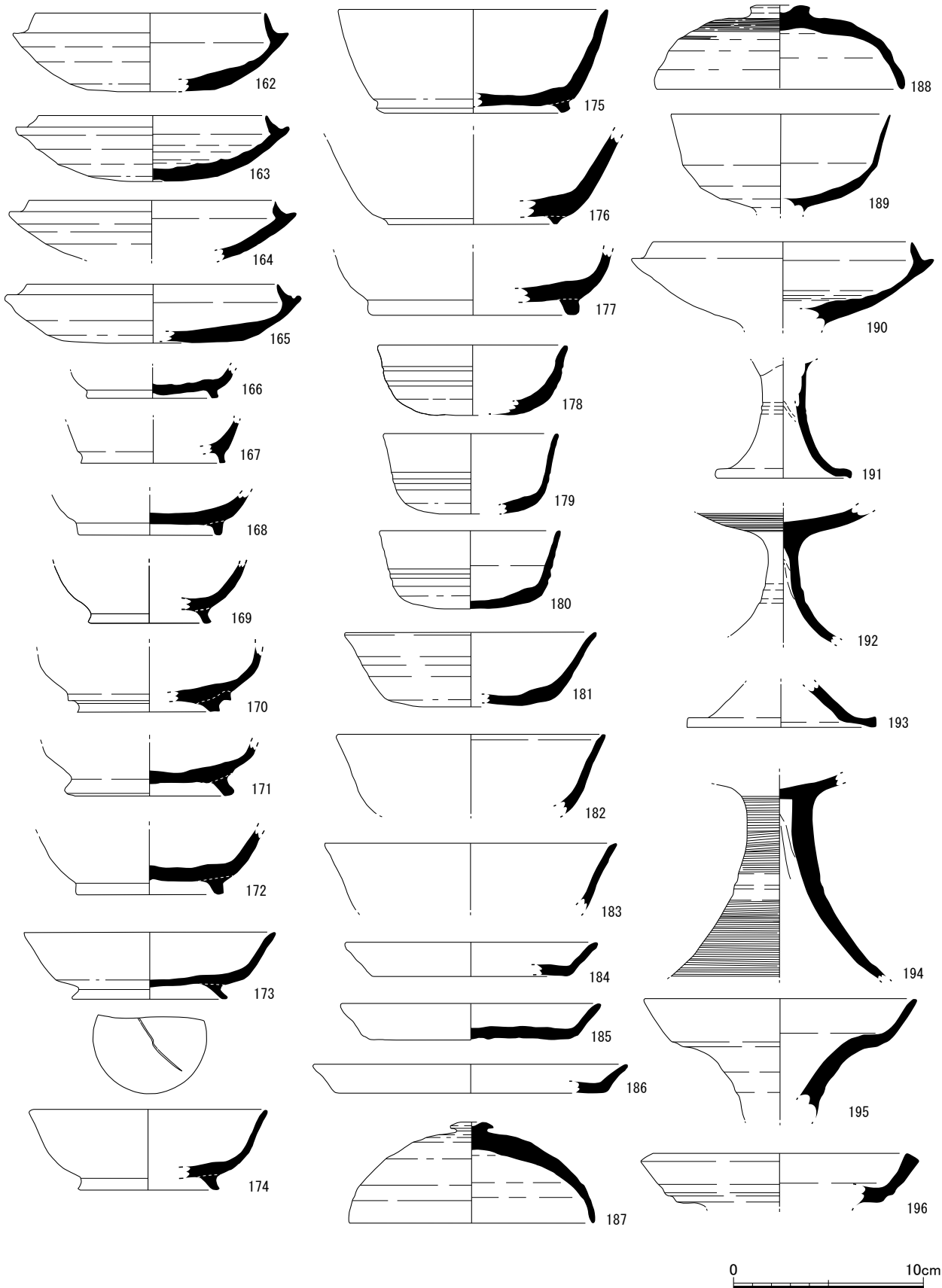


図39 志波屋四の坪地区I区 出土遺物8 (1/3)

回転ナデ、ナデ調整を行う。137は全体的に丸みを帯びた形状である。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。また天井部外面に交差するであろうヘラ記号が認められる。138は体部から口縁部にかけて緩やかな形状である。焼成不良である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。139は天井部は丸く、口縁端部でやや屈曲する。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。140は天井部は低く、体部から口縁部にかけて明確な稜を持たない。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。また天井部外面に1本のヘラ記号が認められる。141は全体的に丸みを帯びた形状で、天井部外面に交差するであろうヘラ記号が認められる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。142は全体的に丸みを帯びた形状である。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。143は天井部がやや高く、口縁部はやや外反しながら開く。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。144は天井部が低く、口縁部はやや外反し接地部分は面をなす。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。145は3本の「キ」、146、147は交差する2本の直線のヘラ記号が天井部外面に認められる。いずれも天井部外面は回転ナデ、つまみはナデ調整、内面は回転ナデ調整を行う。148は口縁部破片で、わずかに屈曲している。内外面ともに回転ナデ調整を行う。149は円柱状のつまみをもつ蓋である。天井部外面は回転ナデ、つまみはナデ調整、内面は回転ナデ調整を行う。150は低い宝珠状のつまみをもつ蓋である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。151は内側にかえりをもつ蓋である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。152は器高が低く、水平に開く形状である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。153は内側にかえりが収まる蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。154は口縁端部が緩やかに下方へ屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。

155～183は須恵器坏である。155～165は坏蓋の身である。155は口径は小さく、受部が強く外反する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。底部外面に灰かぶりがみられる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。156は器壁が厚く、立上りがやや内傾する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。157は放射状に伸びる3本の直線、158は「キ」の字状のヘラ記号が底部外面に認められる。157は外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。底部外面に灰かぶりがみられる。また、口縁部端部を連続して打ち欠く。158は底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。159は体部と底部の境にやや段を有する。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。口縁部端部を連続して打ち欠く。160は立上りは基部が厚く長い。受部は短く伸びる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。161の立上りは細い。内外面ともに回転ナデ調整を行う。162は立上りが長く、受部は短い。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。163は底部より受部にかけて緩やかに開く形状である。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。164の口縁端部は一部欠けている。内外面ともに回転ナデ調整を行う。165は底部が平たく、立上りと受部の境は沈線状をなす。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。166～177は高台付坏である。このうち166～172、176、177は口縁部を欠く。166は高台は低くやや外側に張り出し、接地部分は面をなす。内外面ともに回転ナデ調整を行う。167は高台が矩形をなし、底部破片で、体部から直線的に広がる形状である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。168は高台が垂直に立つ。内外面ともに回転ナデ調整を行う。169は高台が外側にやや張り出し、接地部分は面をなす。外面の一部に回転ヘラケズリが残り、高台は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。170は体部下端に突帯が巡り、体部は緩やかに立ち上がり丸みを帯びる。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。171は高台が厚く、外側に張り出す形状である。底部外面はナデ、高台から体部にかけて回転ナデ、内面も回転ナデ調整を行う。172は器壁が厚く、高台の接地部

SD1043

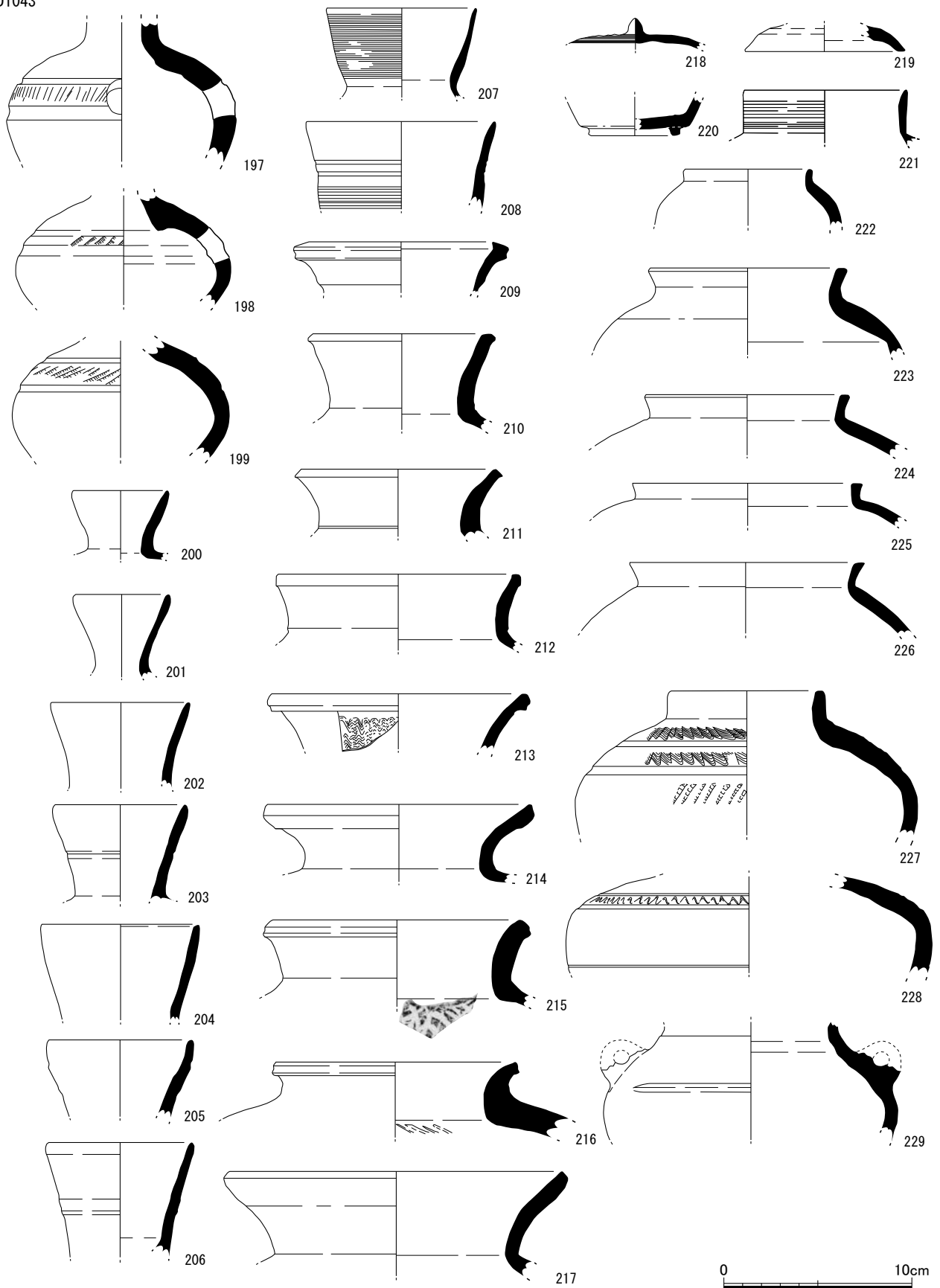


图40 志波屋四の坪地区I区 出土遺物9 (1/3)

分は面をなす。内外面ともにナデ調整を行う。173は高台が高く外側に強く張り出し、体部は大きく開き口縁部はやや外反する形状である。底部外面に1本のヘラ記号が認められる。底部外面はナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。174は体部と底部の境に明瞭な境を持たず、口縁部はやや外反する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。175は高台は低く、外側に張り出し、体部から口縁部にかけてやや内傾しながら立ち上がる。底部外面はナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。176は高台は低く断面は逆台形状を呈し、器壁は厚い。177の高台端部で丸みを帯びる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。178、179、180は深い形状で外面に沈線をもち、178、179の口縁部はやや外反する。いずれも底部外面に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。180の底部外面にヘラ記号が認められる。181は無高台の坏で、底部と体部の間に明瞭な境を持たず、口縁部はやや外反する。底部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。182、183は体部から口縁部にかけて直線的に開く形状である。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。184～186は須恵器皿で体部と底部の境は明瞭である。口縁部は短くやや外反する。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。187、188は須恵器有蓋高坏の蓋である。187は中央が窪む円盤状のつまみをもち、器高が高い。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。188は中央が大きく窪むつまみをもつ。つまみはナデ、天井部外面はカキメを施し、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。190～194は須恵器高坏である。189は無蓋高坏の坏部で器壁が薄く口縁部が直線的に立ち上がる。体部外面に一部薄いカキメを施し、内面には一部自然釉の痕跡がみられる。190は有蓋高坏の坏部で内面にロクロ成形痕が残る。内外面ともに回転ナデ調整を行う。191は脚端部は鉤状に下方へやや屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。192は坏部外面にカキメを施し、脚部は回転ナデ、坏部内面はナデ調整を行う。193は脚端部が肥厚し、外側は面をなす。内外面ともに回転ナデ調整を行う。194は脚部全体にカキメを施し、脚部中央部に沈線を有する。坏部内面はナデ、脚部内面は回転ナデ調整を行う。195～199は須恵器甗である。195、196は頸部から口縁部にかけての破片であり、いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。197、198、199は体部の一部が残る。いずれも外面上部に櫛描文を施す。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。200～208は平瓶の口縁部である。この内、200は提瓶、201は壺の口縁部である可能性もある。207は外面全体に、208は外面下部にカキメを施す。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。209～217は須恵器壺である。209の口縁端部は強い回転ナデ調整により、断面がM字状を呈す。内外面ともにナデ調整を行う。210、211は口縁端部が外側に肥厚し、211の頸部には沈線がみられる。210の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。211は内外面ともにナデ調整を行う。212の口縁端部はやや肥厚する。内外面ともにナデ調整を行う。213の口縁端部は強い回転ナデにより口縁端部は突帯状の稜をなす。外面の一部に櫛描波状文を施し、他の内外面ともに回転ナデ調整を行う。214は頸部より口縁部にかけて強く外反し、口縁端部は肥厚する。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。215は頸部から口縁部にかけて器壁が厚い。外面は回転ナデ、内面上部は回転ナデ、頸部より下部は同心円当て具痕が認められる。216は頸部から口縁部にかけて器壁が薄くなる。外面は回転ナデ、内面上部は回転ナデ、頸部より下部は同心円当て具痕が認められる。217は頸部より口縁部にかけて外反し、口縁端部はやや肥厚する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。

218、219は大きさから須恵器壺類の蓋と考えられる。218のつまみは長い菱形状を呈し、天井部外面にカキメがみられる。つまみは回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。219の口縁端部は面をなす。内外面ともに回転ナデ調整を行う。220は底径の大きさから小型の壺類の底部と考えられる。高台周辺は回転ヘラケズリが残り、底部はナデ、体部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。221～228は須恵器短頸壺である。221は直口の口縁部破片であり、直口壺に近い口縁部をもつ。外面にはカキメがみられる。内面は回転ナデ調整を行う。222は小型の

SD1043

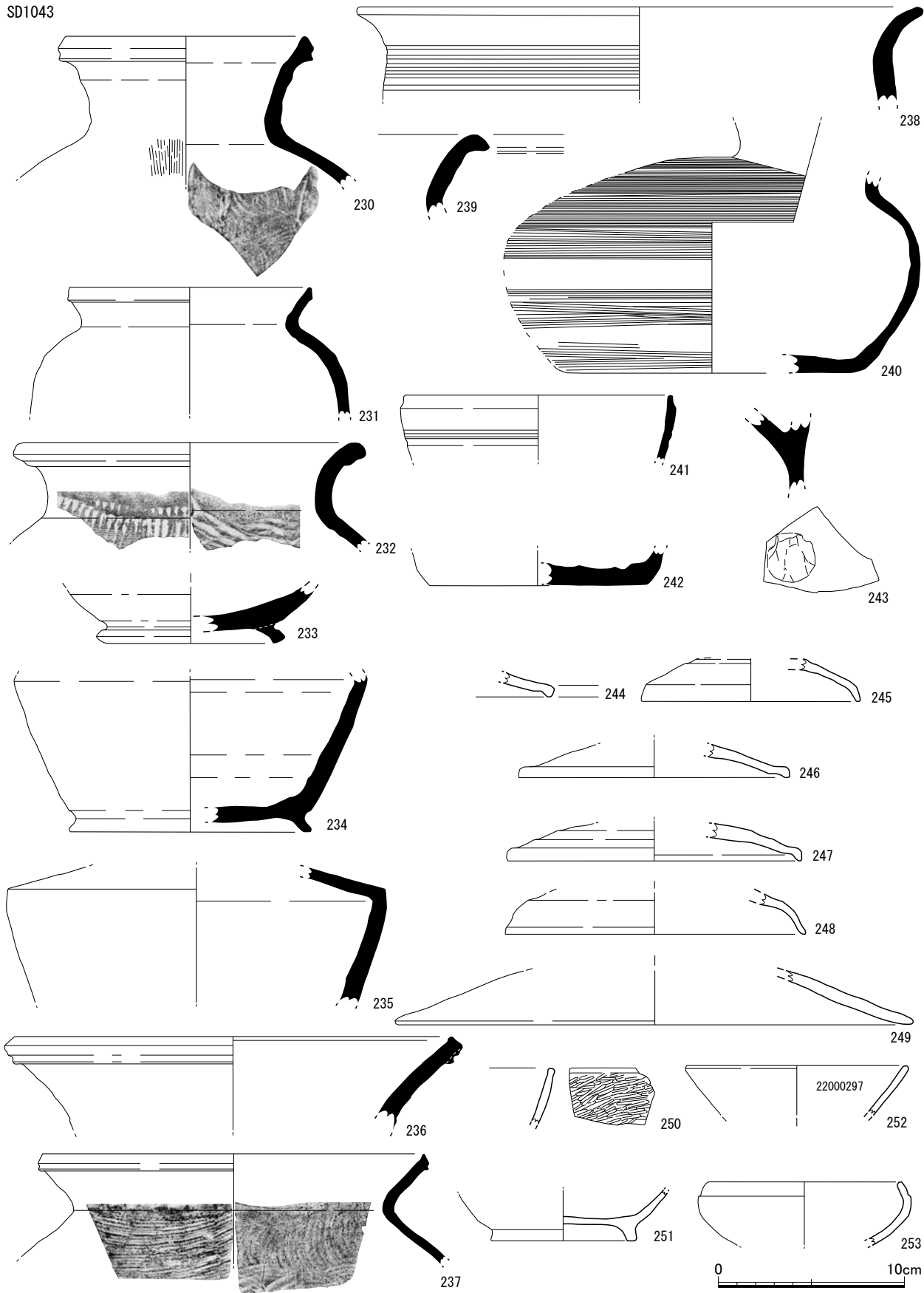


图 41 志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 10 (1/3)

短頸壺であり、口縁部はわずかに立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。223、224、225は頸部から口縁部にかけてやや肥厚しながら立ち上がる。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。227は肩が丸く張り口縁部は短く直立する。外面上部を2段に分けて櫛描波状文を、下部に刺突文を施す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。228は肩部が張る形状をしており、肩部には緩やかな櫛描波状文を施す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。229～233は須恵器壺である。229は須恵器の円環状の把手をもつ壺である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。230は強いヨコナデにより口縁端部は突帯状の稜をなす。体部外面には平行タタキ、体部内面には同心円当て具痕が認められる。口縁部は内外面ともに回転ナデ調整を行う。231は頸部より直線的に開く形状である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。232の口縁部はナデ調整による緩やかな段を有しており、体部外面は平行タタキ、内面は当て具痕が認められる。口縁部は内外面ともに回転ナデ調整を行う。233は底部の一部で器壁は厚く、高台は端部が肥厚し、外側に強く張り出す。体部外面の一部に回転ヘラケズリ、底部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。234、235は長頸壺である。234は低い高台を有し、外側に張り出す底部破片である。高台の接地部分は面をなす。内外面ともに回転ナデ調整を行う。235は体部上半部で屈曲し、肩部が張る形状となる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。体部外面上半は回転ヘラケズリ、他は調整不明である。236～239は須恵器甕である。236は強い回転ナデ調整により口縁端部を突帯状に作り出す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。237は強い回転ナデ調整により口縁先端部は尖る。体部外面は平行タタキ、内面は同心円当て具痕が認められる。口縁部は内外面ともに回転ナデ調整を行う。238は土師器の甕形土器のように頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。体部外面にカキメがみられる。口縁部外面、内面は回転ナデ調整を行う。239は須恵器甕の口縁部破片で、口縁端部は外側に強く張り出し、断面三角状を呈す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。240は須恵器平瓶と思われる。胴部は横長に張り、外面全体にカキメを施す。241は須恵器鉢の口縁部破片で、外面の一部にカキメを施す。内外綿ともに回転ナデ調整を行う。242は須恵器壺の底部破片である。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ調整を行う。内面に一部墨の付着が認められる。243は須恵器の把手である。上向きの鈎状の把手をつくると考えられる。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。

244～249は土師器蓋である。244、246は口縁端部をわずかに下方へ折り曲げる。245、248は天井部の高い須恵器蓋に似た形状である。247の外面はやや強い回転ナデによる段を有する。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。248は天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。249は体部から口縁部にかけて直線的に開く形状である。口径の大きさから皿または盤に使用される蓋と考えられる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。また、内面には煤が付着し、内外に丹塗りがみられる。裏表ともに表面を丁寧に仕上げる。244、245、246は内外面ともに回転ナデ調整を行う。250～267は土師器坏である。250は口縁端部を丸く仕上げ、外面は丹塗りをしており、ミガキを行う。内面は回転ナデ調整を行う。251の高台は台形状を呈し、接地部分は面をなす。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。253、254、257、259は口縁部から体部にかけて受部のような箇所をもち、古墳時代の須恵器坏によく似た形状である。253は内外面ともに回転ナデ調整を行う。254は体部外面に一部回転ヘラケズリ、他は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。257は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。259は内外面ともに回転ナデ調整を行う。内外面には丹塗りの痕跡がみられる。255、256、258、260は全体的に丸みを帯びた器形である。255は内面に放射状に暗文がみられる。外面にナデ調整を行う。256は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。258の口縁部外面は回転ナデ、体部から底部にかけて静止ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。260は内外面ともに摩耗のため調整不明である。底部外面に丹塗りの痕跡がわずかにみられる。261は坏底部で、底部外面はヘラ切り後未調整で板状圧痕が認められる。内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。

SD1043

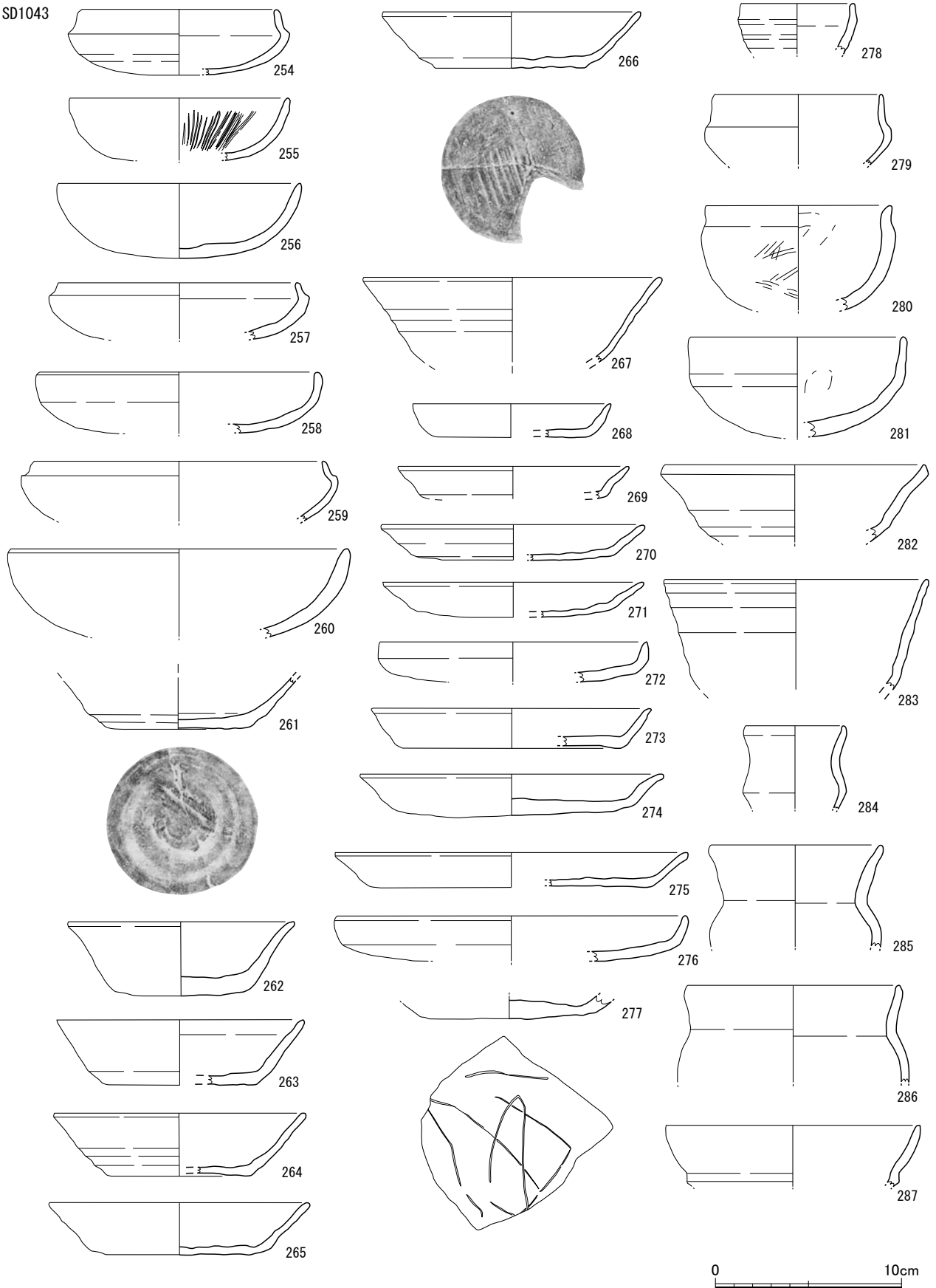


図 42 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 11 (1/3)

262 は底部の器壁が厚く、体部から口縁部にかけてやや外反しながら開く形状である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。263、264、265、266 の底部は平坦で体部から口縁部にかけて直線的に開く形状である。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。266 の底部外面に板状圧痕がみられる。267 は口縁部が直線的に開く器形であり、内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。

268 ～ 277 は土師器皿である。268、269、276 は口縁部がやや立ち気味に開き、先端がやや尖る形状である。268、278 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。276 は底部外面は静止ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。269、270、271、273、274、275 は口縁部がやや外反しながら開く形状である。269 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。270、271、273、274、275 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。274 は内外面に丹塗りがみられる。277 は皿の底部と考えられる。底部外面に不規則なヘラ記号が認められる。278 ～ 283 は土師器鉢である。278 の体部はやや強い回転ナデによる段を有する。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。内外面に丹塗りがみられる。279 は口縁部から体部にかけて受部のような箇所をもつ。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。280 は体部上部でわずかに屈曲し、開く形状である。体部外面にはハケメがみられ、口縁部はナデ、内面はナデ調整、ケズリを行う。281 は丸みを帯びた形状である。体部外面はケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ユビ押さえによる調整を行う。282 は底部より口縁部が大きく開く形状である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。283 はやや器壁が薄く、調整による段がみられる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。284 ～ 287 は土師器壺である。284、285、286 は頸部をあまり絞らず、屈曲部分から緩やかに開く形状である。いずれも外面一部にケズリ、内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。287 は口縁部から頸部の破片である。内外面ともにミガキ、丹塗りをを行う。288 ～ 294 は土師器高坏である。288 の坏部はやや傾きがあるものの外反しながら開き、脚部は緩やかに広がる形状である。坏部内面はナデ、口縁部外面はナデ、ケズリ、脚部外面はケズリ、ナデ調整を行う。289 は脚部で、裾部はやや屈曲し外に広がる。外面にはわずかに丹塗りの痕跡がみられる。また、内面にはヘラ記号のような線が残る。外面はケズリ後ナデ調整を行う。290 は裾部に向かって緩やかに広がる。外面に丹塗りがみられる。内外面ともにヨコナデ、ナデ調整を行う。291 は口縁部が直線的に開く坏部である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。292 は坏部が緩やかに広がり、上部で内側に屈曲する。壺状の袋部のような形態の可能性もある。外面はハケメ、内面はナデ調整を行う。293 の坏部は緩やかに広がり、坏部上部に段を有する。外面上部はヨコナデ、下部はケズリやナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。294 は内外面にシボリ痕が残り、ヨコナデによる調整を行っている。内面はヨコナデ調整を行う。295 ～ 303 は土師器甕である。295、298、300 は頸部より屈曲し、口縁部がやや外反しながら開く形状である。296、297、299、302 は頸部に明確な屈曲部を持たず、緩やかに口縁部が開く形状である。301 は口縁部が強く外反しながら開く形状である。303 は口縁部が外反せずほぼ垂直に開く形状である。295、298、299、300 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。296 は内外面ともにヨコナデ調整を行う。297 の外面はハケメ、ナデ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。298 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。301 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はナデ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。302、303 の外面はハケメ、ナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。304 は土師器坏で底部外面に墨書が確認できるが、判読できない。底部外面はヘラ切り離し後ナデ、回転ナデ、内面はナデ調整を行う。

SD1116 溝

調査区南西部に位置し、全長 23.0m、幅 1.2 ～ 2.2m の北東 - 南西方向に延びる溝である。西側には SD1021 が平行にはっており、同時期に存在していた可能性がある。北側は削平、南側は調査区外のため、その先は不明である。

SD1043

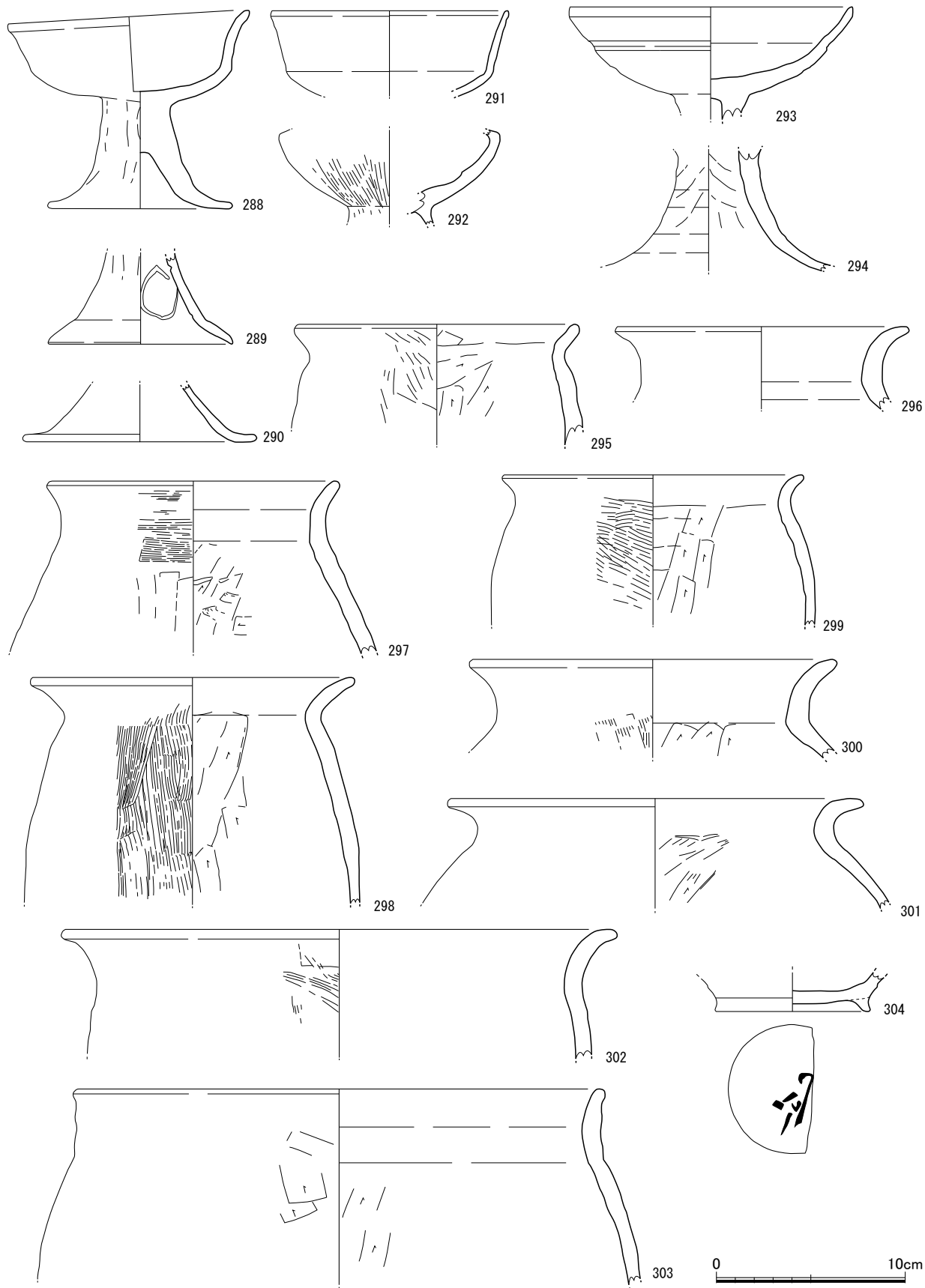


図43 志波屋四の坪地区I区 出土遺物12 (1/3)

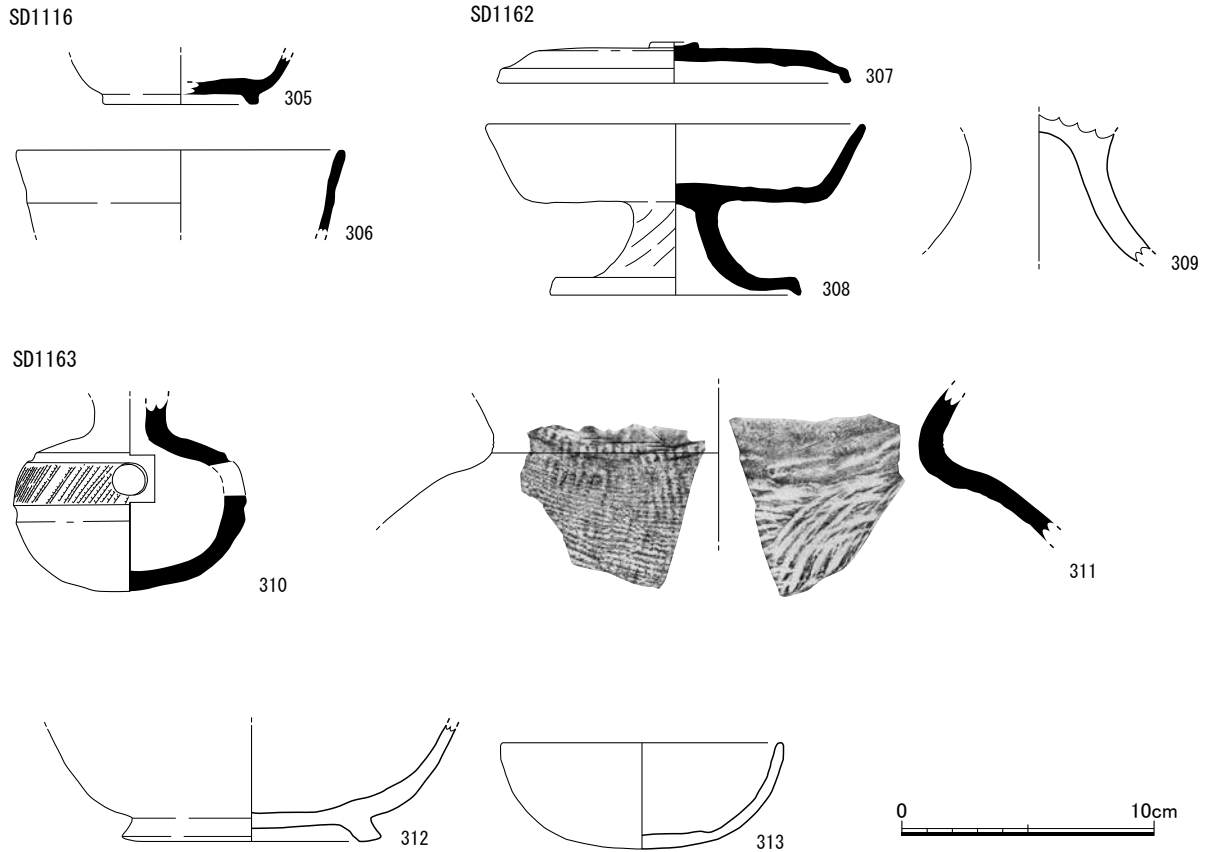


図 44 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 13 (1/3)

SD1116 出土遺物 (図 44)

305 は須恵器環で、高台は短く底径がやや小さい。内外面ともに摩耗のため調整不明である。306 は須恵器鉢の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。

SD1162 溝

調査区南西部に位置し、全長約 11.0m、幅 0.4 ~ 1.0m の溝である。枝分かれた先では SK1004、1115 に切られる。

SD1162 出土遺物 (図 44)

307 は須恵器蓋で、口縁端部は下方へ屈曲し、つまみは低く中央がくぼむ。天井部外面はヘラケズリ、つまみ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。308 は須恵器高坏で、坏部は直線的に広がり口縁部はわずかに外反する。脚部は低く外反して大きく開き、端部は下方に屈曲する。坏部外面は回転ナデ、ナデ、脚部はシボリや回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。309 は土師器高坏の脚部で、脚部の大きさから器高が高い器形と考えられる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SD1163 溝

調査区南西部、全長 4.7m、幅 0.8m の北東 - 南西方向の溝である。南側は SD1163 に切られる。

SD1163 出土遺物 (図 44)

310 は須恵器甕で、口縁部～頸部を欠いている。体部は最大径を中位にもち、その部分に櫛状工具による刺突文を帯状に施文している。体部上部は回転ナデ、下部は回転ヘラケズリを行う。311 は須恵器甕で、外胴部は格子状に平行タタキ行い、内面は同心円当て具痕が認められる。312 は土師器碗で、断面台形状の高台をもち、外側に張

SE0807・0808

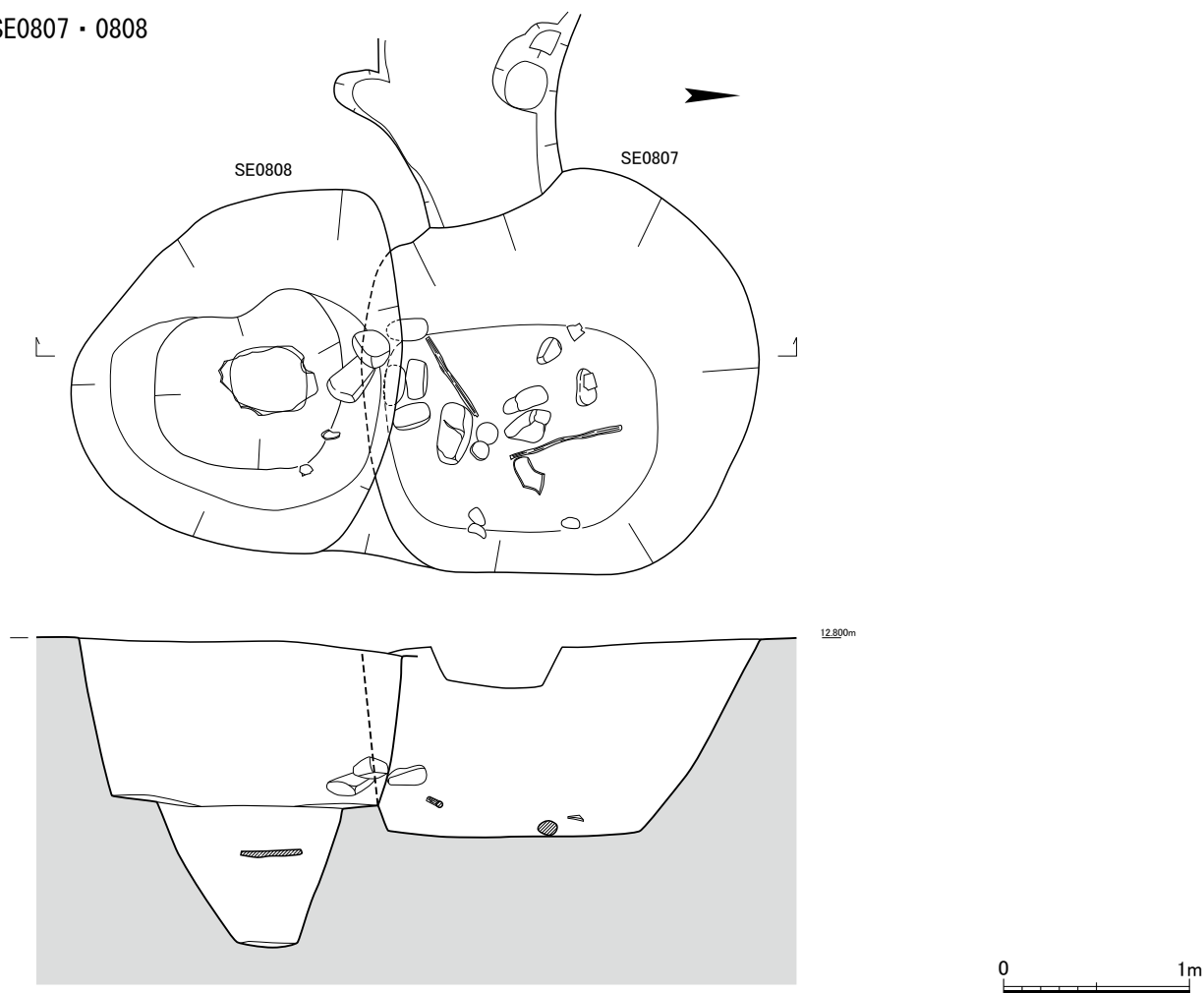


図45 志波屋四の坪地区I区 井戸1 (1/40)

り出す。内外面ともに摩耗によるため調整不明である。313は土師器坏で、口縁部は内湾しながら開き、全体的に丸みを帯びた器形となる。

C 井戸

古代の井戸は5基確認されている。

SE0807 井戸 (図45)

調査区南東部、SB0794の西側に位置し、SE0808に南側の一部を切られる。井戸内からは須恵器や土師器のほか、約20～30cm大の礫や木材が出土している。

SE0807 出土遺物 (図47)

314は須恵器甕で、口縁部は外反し、端部が肥厚する。強いヨコナデにより口縁端部は突帯状の稜をなす。内外面上部は回転ナデ、胴部外面は格子目タタキ、内面は同心円当て具痕が認められる。315は土師器の把手である。内外面ともにナデ調整を行う。

SE0808 井戸 (図45)

調査区南東部、SB0794の西側に位置し、SE0807の南側を切る。2段掘りを行い、底面には、平たい石材を置く。須恵器や土師器のほか、約30cm大の礫が出土している。

SE1119

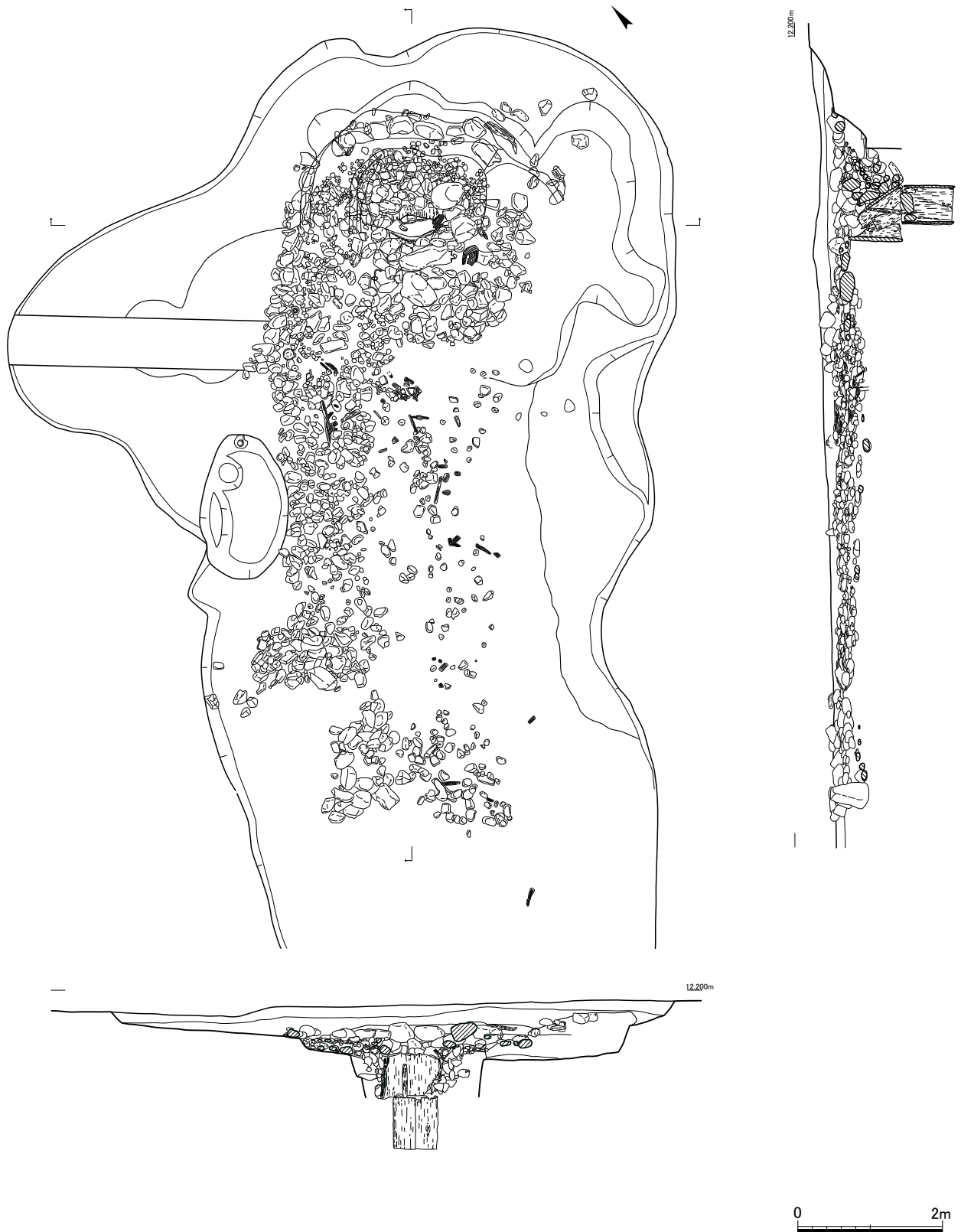


図46 志波屋四の坪地区Ⅰ区 井戸2 (1/80)

表2 志波屋四の坪地区I区 井戸

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SE0807	隅丸長方形	2.2	2.1	台	1.0	0.7	0.6		SE0808	8c	
SE0808	不整形	2.0	0.9	台	0.8	0.3	0.2	SE0807		8c 後半	
SE1039	不整形	1.3	1.1	台	1.5	0.1	0.1			8c 前半	
SE1040	楕円	2.3	1.5	台	0.3	1.8	0.8			7c 後半～8c 前半	
SE1119	不整形	0.8	0.8	台	1.8	0.6	0.5			8c 末～9c 初頭	上面・底面は井戸枠のみ計測

SE0808 出土遺物 (図 47)

316 は須恵器環である。ロクロ成形痕が顕著に残る。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。317 は土師器環で、体部が直線的に開く器形となる。外面は回転ナデ後ナデ調整、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。また、底部外面には板目痕が認められる。318 は土師器皿で、体部が直線的に開く器形となり、体部と底部に稜を持たない。

SE1039 井戸

調査区南西部、SK1004 の北側に位置する。平面は楕円形状を呈し、垂直気味に掘りこむ。

SE1039 出土遺物 (図 47)

319 は須恵器蓋で、口縁端部が下方に屈曲し、断面形はやや丸くなっており、天井部が低く水平に近く開いた形状である。つまみは中央が窪む。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。320～323 は須恵器環である。320 は体部が直線的に開く器形となり、口縁端部は丸みを帯びている。内外面ともに回転ナデ調整を行う。321 は高台は低く接地部分は面をなす。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。322 は体部が直線的に開く器形となっている。内外面ともに回転ナデ調整を行う。323 は高台を持たない環の底部と推定される。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。324 は須恵器甕で、その器形より大甕と推定される。内外面上部はナデ調整を行い、胴部外面は平行タタキ、内面は同心円当て具痕が認められる。

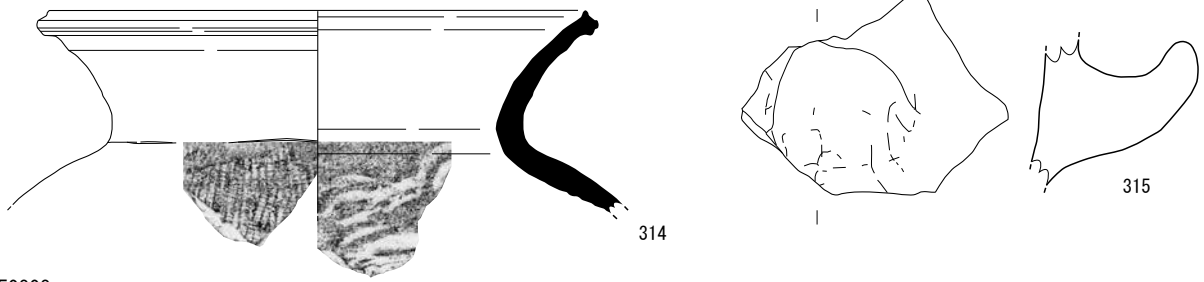
SE1040 井戸

調査区南西部、SD1116 の北側に位置する。

SE1040 出土遺物 (図 47,48)

325～330 は須恵器蓋である。325 は内面にかえりを有し、天井部は低い形状と推測される。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。326 は高さのあるつまみをもつ蓋で、天井部から口縁部を欠く。天井部外面は回転ヘラケズリ、つまみは回転ナデ、内面はナデ調整を行う。327 は天井部が水平で、口縁端部は下方にやや内傾気味に屈曲する。つまみは確認できない。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。328 は内面にかえりを有し、天井部が高くなる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。329 は内面にかえりを有し、天井部は平坦な形状である。かえりは口縁端部の内側におさまる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。330 は天井部が歪みにより中央に向かって窪んでいる。つまみは中央部分が尖り、周囲が凹む形状で、口縁端部は下方に屈曲し、断面三角形となる。天井部外面は回転ヘラケズリ、つまみと口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。331～333 は須恵器高台付環である。331 は高台が外側に張り出したような形状となり、体部が直線的にやや外へ開く器形となる。外面は体部下半に回転ヘラケズリ、口縁部、底部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。332 は高台がやや外側に張り出したような形状で、接地部分は面をなす。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。333 は高台端部が外側に張り出したような形状で、接地部分は面をなす。体部は直線的に開いており、口縁部がやや外反する。外面は回転ナデ、底部にヘラ切り離し後末調整、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。334、335 は須恵器の二重口縁甕である。口縁部の屈曲部分

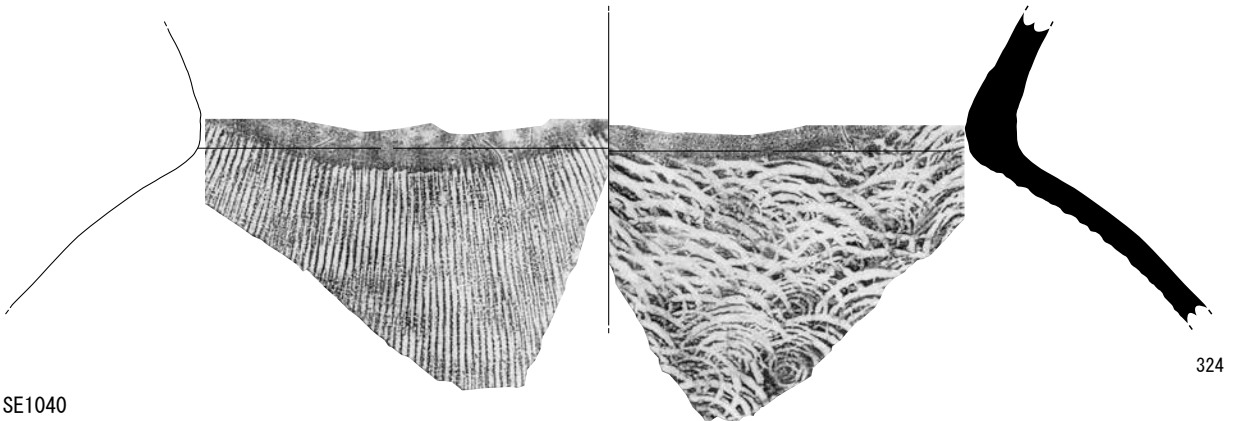
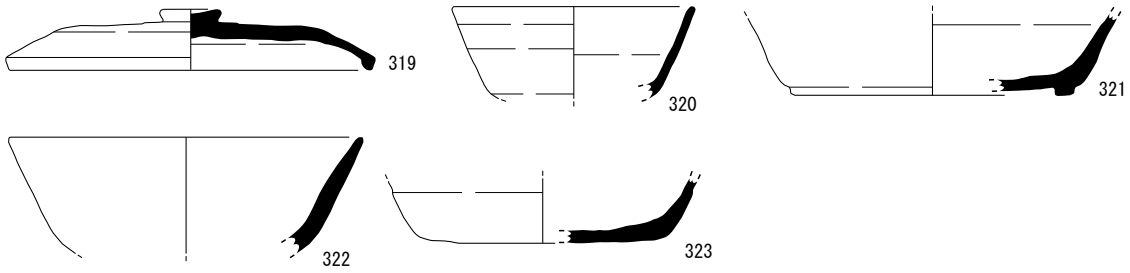
SE0807



SE0808



SE1039



SE1040

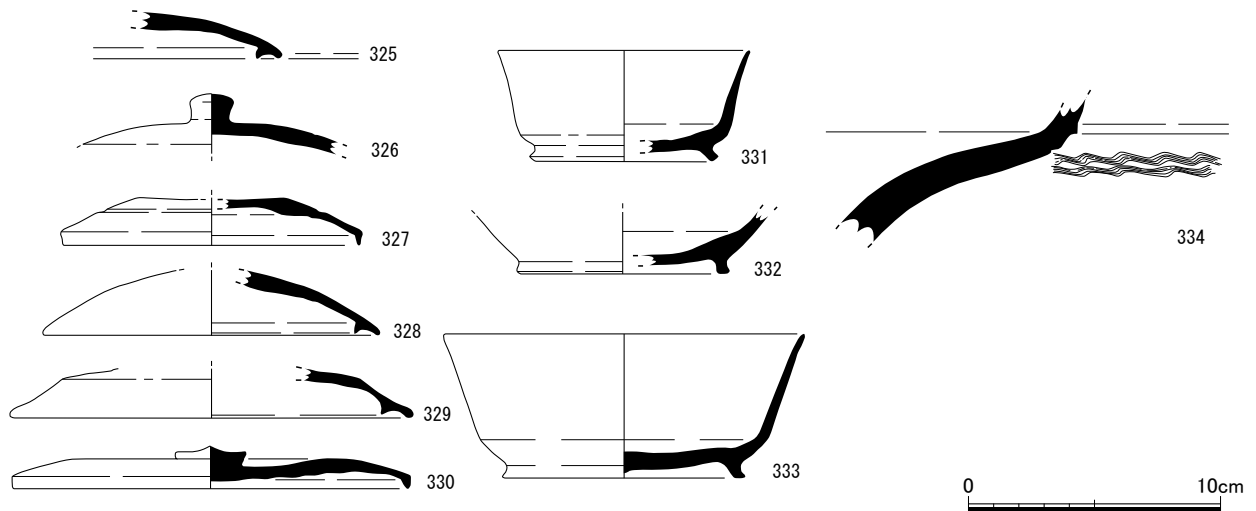
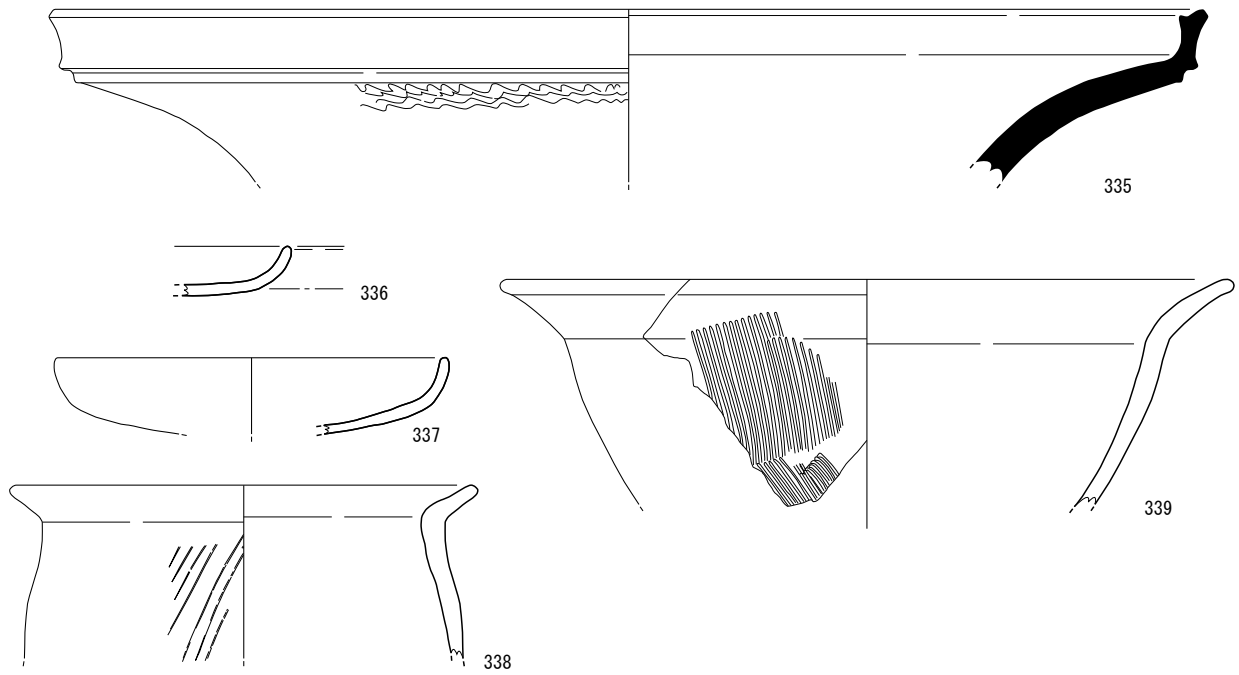


図 47 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 14 (1/3)

SE1040



SE1119

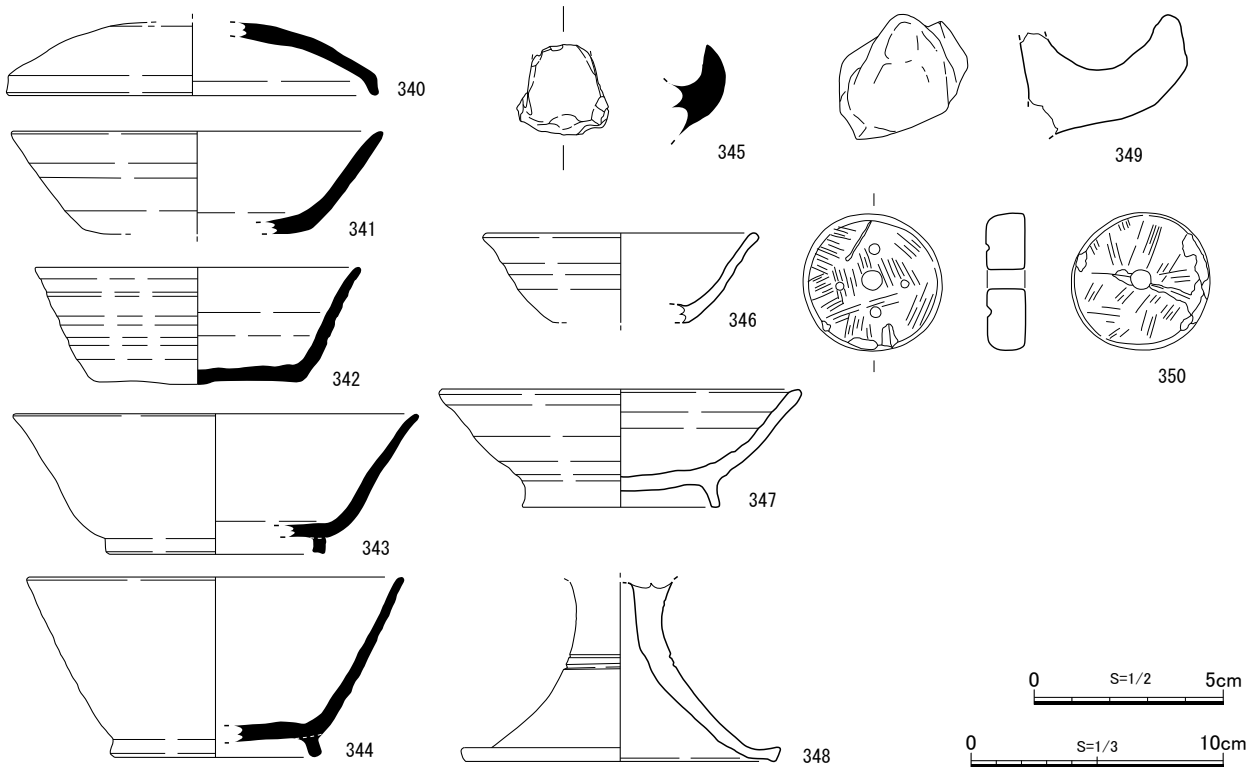
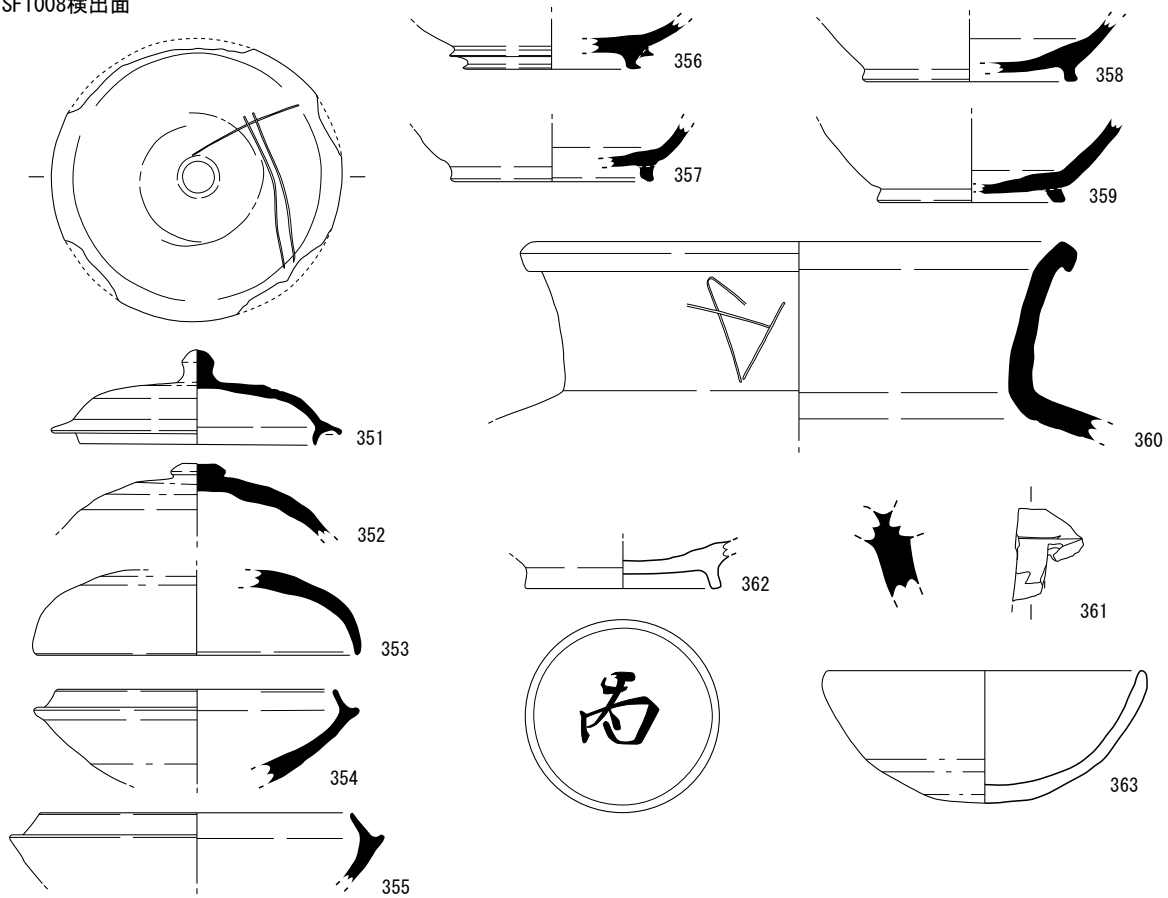


図48 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物15 (350は1/2、他は1/3)

より下半に櫛描波状文がみられる。頸部から口縁部にかけて大きく開く大型の甕と推定される。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。336、337は土師器坏で丸みを帯びた形状である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。338は土師器甕である。外面にハケメが見られ、回転ナデを行う。内面は回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ調整を行う。339は土師器鍋である。

SF1008検出面



官道南 包含層

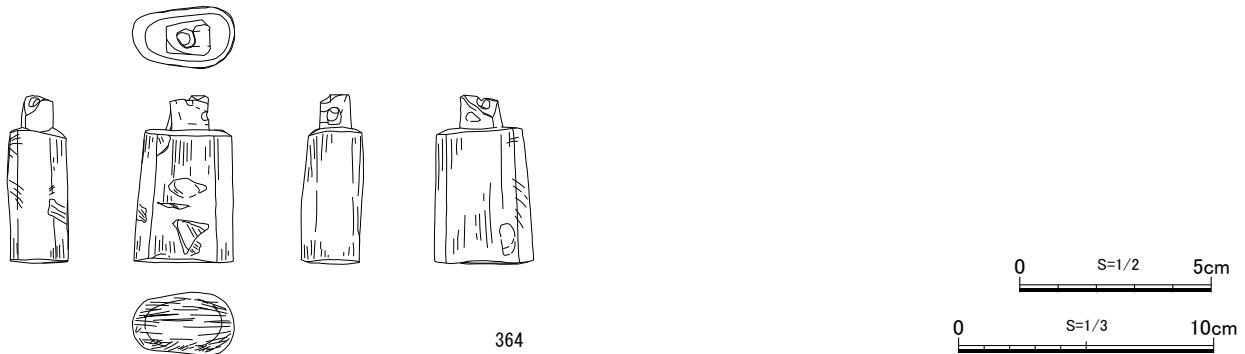


図49 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 16 (364は1/2、他は1/3)

SE1119 井戸 (図46)

調査区北側、段丘の裾で官道北側溝 (SD1007) に繋がる SD1043 の北東側の延長線上に位置する。井戸枠周辺も含め、一帯には約 10～30cm の川原石が敷き詰められている。井戸枠は割竹形に刳り抜かれており、出土当時は周囲の礫の重みで歪んでいた。古代の井戸で、このように井戸の周辺を礫で敷き詰める例は県内にはない。

SE1119 出土遺物 (図48)

340 は須恵器蓋である。天井部は高く、口縁端部を折り曲げ、断面は台形状になる。天井部は回転ヘラケズリ、口縁部にかけて回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。341～344 は須恵器坏である。341 の体部は外側に直線的に開く器形となる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。342 は高台を持たない須恵器坏である。底部は平坦で、体部は外側に開き、口縁部が体部外面にはロクロ成形痕が顕著に残る。343 は高台がやや高く断面が四

角形で接地部分は面をなし、体部はやや外反する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。344は高台がやや高く接地部分は丸みを帯びており、やや外側に張り出す。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。345は須恵器の把手である。346は土師器坏である。体部は直線的に開き、口縁部がやや外反し、口縁端部が肥厚する。内外面ともに回転ナデを行う。347は土師器坏である。高台は高く、接地部分は面をなしてあり、器壁は全体的に厚く、体部はやや内湾しながら開く形状である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。348は土師器高坏の脚部である。裾部が大きく開き、端部が肥厚し、脚部中央に2条の沈線をもつ器形である。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。349は土師器の把手である。内外面ともにナデ調整を行う。350は石製の紡錘車でほぼ完形品で、全体的に厚手である。中央の孔の周辺に貫通しない4つの小孔が認められるが、どのような意図であけたのかは不明である。

D 道

古代の道路は1条確認されている。

SF1008 官道

詳細については第5章のまとめにて記述する。

SF1008 検出面出土遺物 (図49)

ここでは遺構検出面より出土した遺物を掲載するため、遺構の上限を示す資料と考える。

351～353は須恵器蓋である。351はかえりが口縁端部より下に出ており、宝珠状のつまみをもつ蓋である。赤焼きである。つまみは回転ナデ後ナデ、天井部は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。天井部外面に3本の「キ」の字状のヘラ記号が認められる。352はボタン状の低いつまみをもつ。つまみはナデ、天井部は回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。353は全体的に丸みを帯び、天井部がやや肥厚する器形である。天井部外面は回転ナデ、口縁部はナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。354～359は須恵器坏である。354、355は蓋坏の身で底部を欠く。354は立上りと受部の間に明瞭な境は持たない。底部外面付近は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。355はやや内傾しながら立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。356は端部が外側に張り出す高台をもつ。体部下端に断面三角形の突帯が付く。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。357の高台は外端で接地する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。358、359はやや外側に張り出す断面台形状の高台をもつ。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。359の底部の一部に板状圧痕がわずかに残る。360は須恵器甕である。口縁端部が肥厚する。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、胴部に当て具がみられる。また、口頸部に線刻が認められる。361は須恵器碗の脚部片である。圈足碗と考えられ、脚部に透かしが確認できる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。

362は土師器坏である。底部外面に「丙」という墨書がみられる。外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。

363は土師器坏で、全体的に丸みを帯びた器形である。底部外面は回転ヘラケズリ、ナデ、口縁部はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。

364は長さ4.4cm、幅2.6cm、厚さ1.7cm、重量26.0gの石製の榧である。扁平な楕円柱状の体部と、方柱状の鈕として明確な作り出しをもつ。鈕の右側面に0.6cmの孔と上部に0.45cmの孔を有する。体部の正面と裏面は面取り加工されており、側面も面取り加工の連続により曲線を描いている。鈕の部分は右側面と上部のみに孔があり、紐を通して吊るすには不便なあげ方である。石材は暗灰色頁岩である。SF1008(官道)南側の包含層からの出土であるため、時期を絞ることは難しいが周辺の遺構の状況から古代に属するものと判断した。

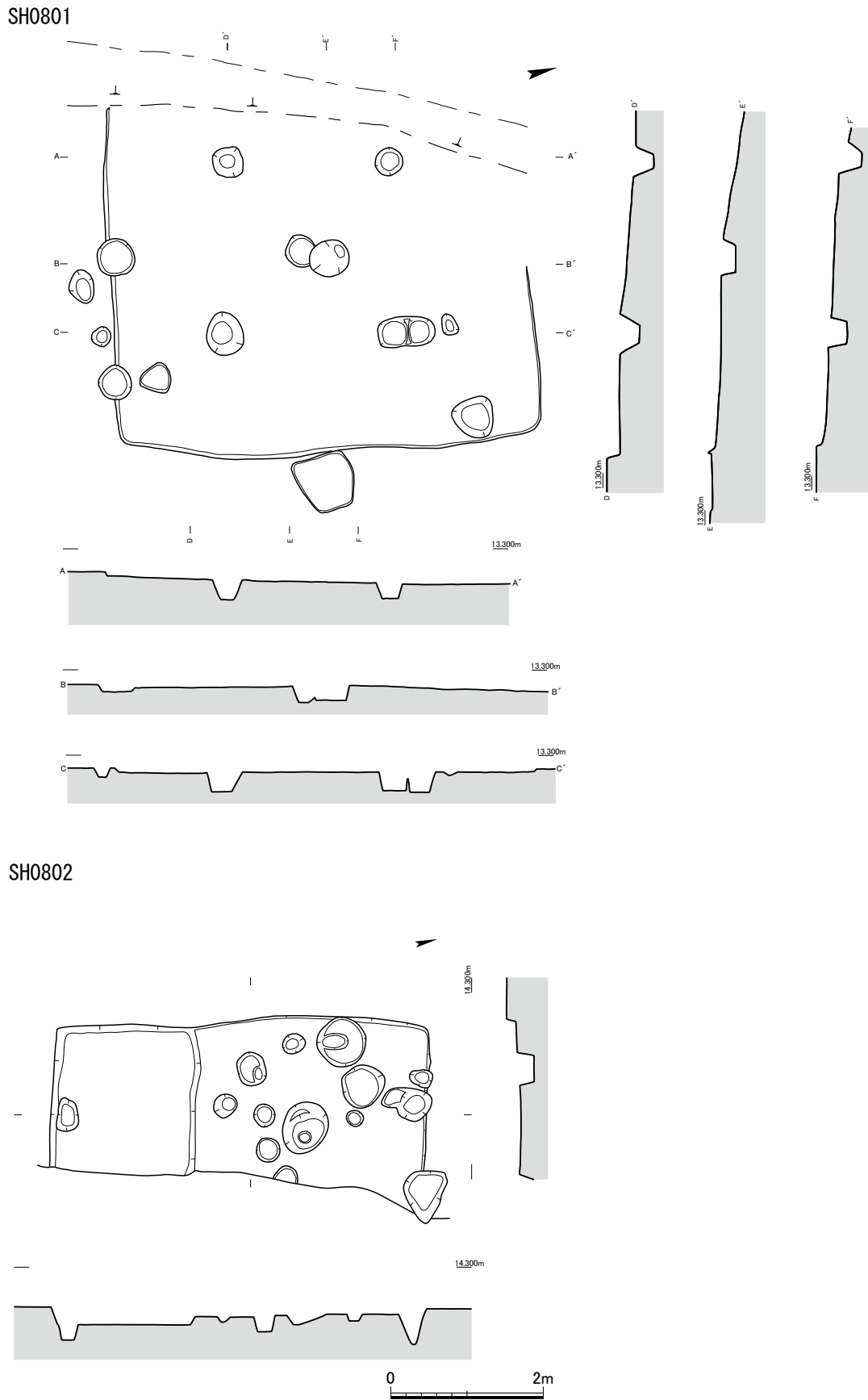
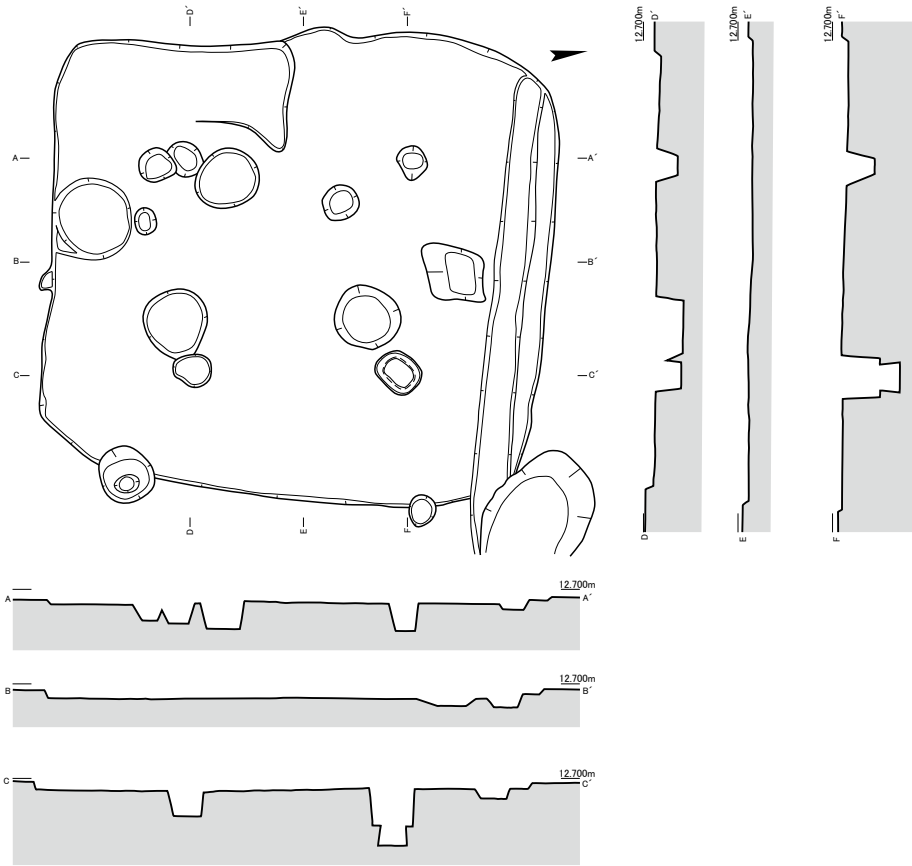


図 50 志波屋四の坪地区 I 区 竪穴建物 1 (1/80)

SH1013



SH1016

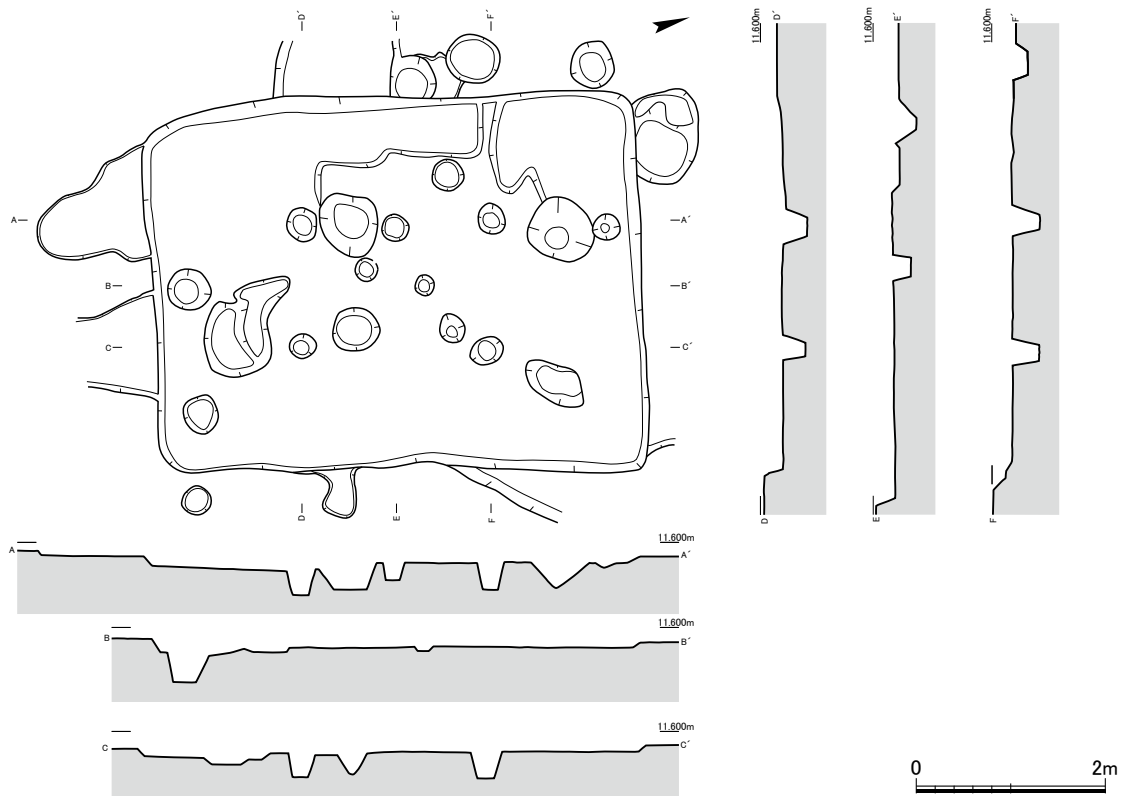
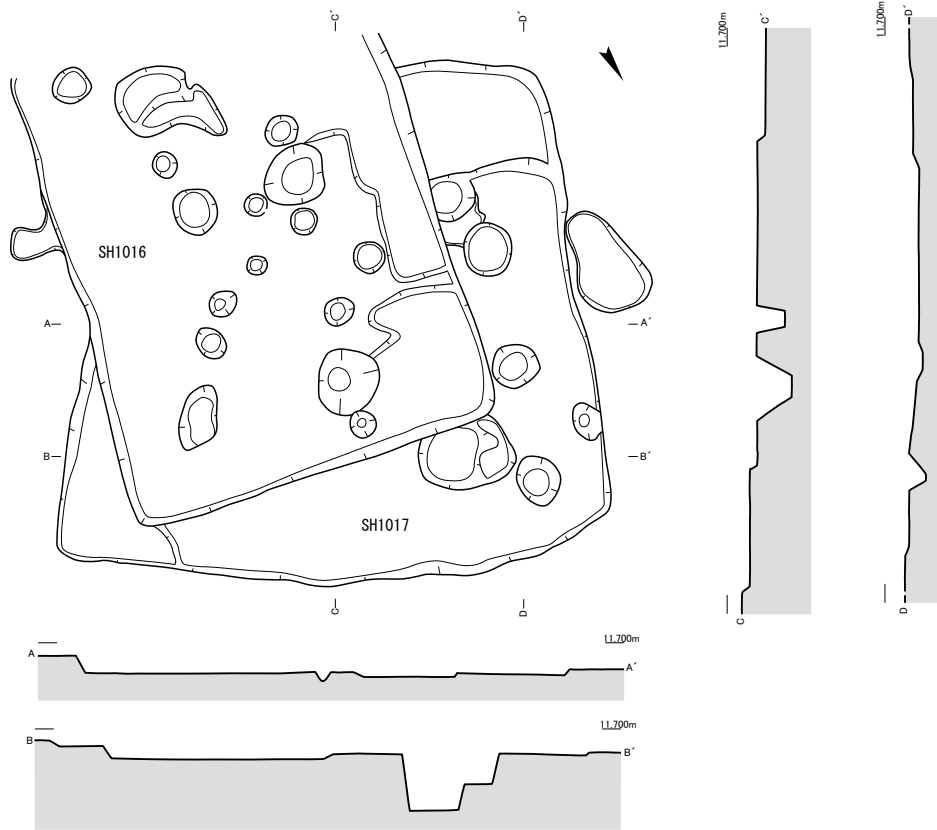


図51 志波屋四の坪地区I区 竪穴建物2 (1/80)

SH1017



SH1018



図 52 志波屋四の坪地区 I 区 竪穴建物 3 (1/80)

表3 志波屋四の坪地区I区 竪穴建物

遺構番号	構造		規模 m		屋内施設	新旧関係		時期	特記事項
	平面形	支柱穴	長軸	短軸		旧	新		
SH0801	方	4	5.9+	5.6			SB0799 SB0800	8c 以前	
SH0802	方		2.2+	4.9			SB0803	8c 中～8c 後	
SH1013	方	4	4.9	5.2			SB1026	8c 前半	
SH1016	長方	4	3.9	5.1		SH1017		8c	
SH1017	方		5.3	5.5	ベッド		SH1016	8c 以前	
SH1018	長方?		3.0+	5.0+				8c 前～8c 中	

E 竪穴建物

古代の竪穴建物は6軒確認されている。

SH0801 竪穴建物 (図50)

調査区北東部、1辺が6m近くもある竪穴建物である。SB0799、0800に切られる。

SH0802 竪穴建物 (図50)

調査区北東部に位置し、南側は一段低くなり、平坦面をつくる。SB0803に切られる。

SH0802 出土遺物 (図53)

365は須恵器蓋環の蓋で、天井部が高い。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。天井部外面に一部ヘラ記号が認められる。366は須恵器の蓋で、天井部が低く、口縁端部は短く屈曲する。内外面ともに回転ナデを行う。367～370は須恵器環である。367、368は直線的に開く口縁部破片である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。369は低い底部破片で器壁は厚く、高台をもつ。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。370の高台はやや内傾し、接地部分は面をなす。口縁部は直線的に外へ開き、端部付近でやや外反する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。

SH1013 竪穴建物 (図51)

調査区北西部に位置し、南西部にベット状遺構のような箇所がみられる。SB1026に切られる。

SH1013 出土遺物 (図53)

371は土師器蓋で口縁端部は下方へ短く屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。372は土師器甕で、外面は摩耗のため調整不明で、内面は一部ナデ調整を行う。

SH1016 竪穴建物 (図51)

調査区北西部に位置し、SB1023の南西側に位置する。SH1017を切る。

SH1016 出土遺物 (図53)

373は土師器環または盤の底部で、底径の大きさから盤の可能性も考えられる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。374は土師器甕の口縁部で、内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SH1018 竪穴建物 (図52)

調査区北西部、SH1016、1017の南側に位置し長方形または不定形の竪穴建物である。

SH1018 出土遺物 (図53,54)

375～380は須恵器環蓋である。375はつまみを欠く。器高は低く、口縁端部が外反気味に屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。376は低く扁平なボタン状のつまみを持ち、口縁端部は下方へ屈曲し断面三角形状を呈す。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。377

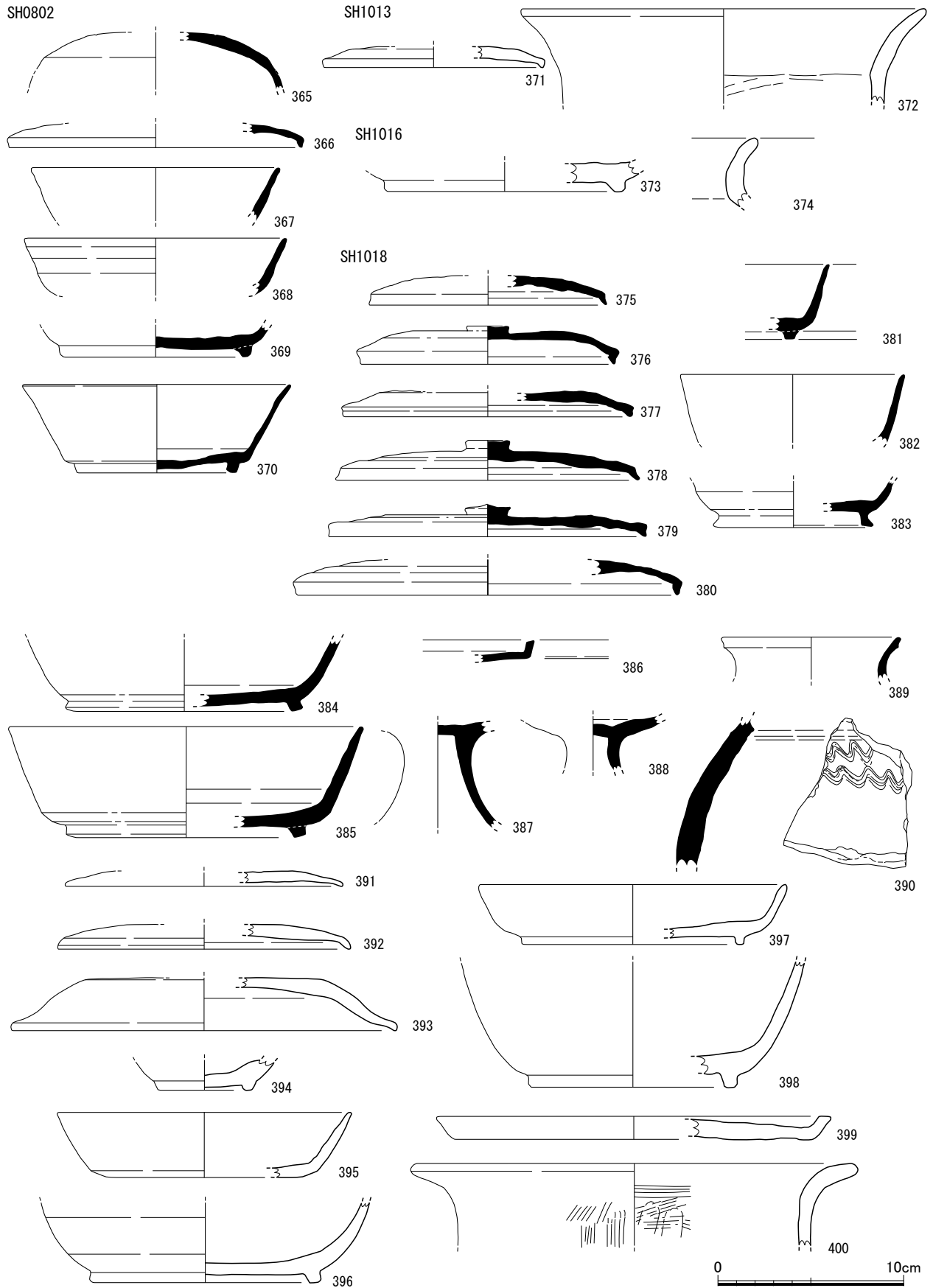


図 53 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 17 (1/3)

SH1018

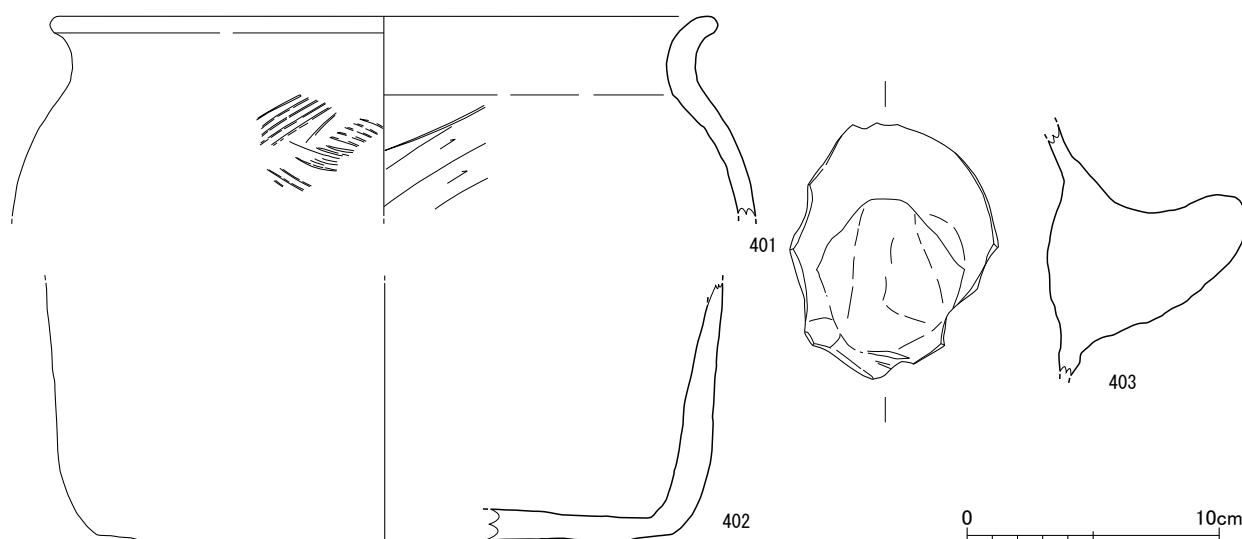
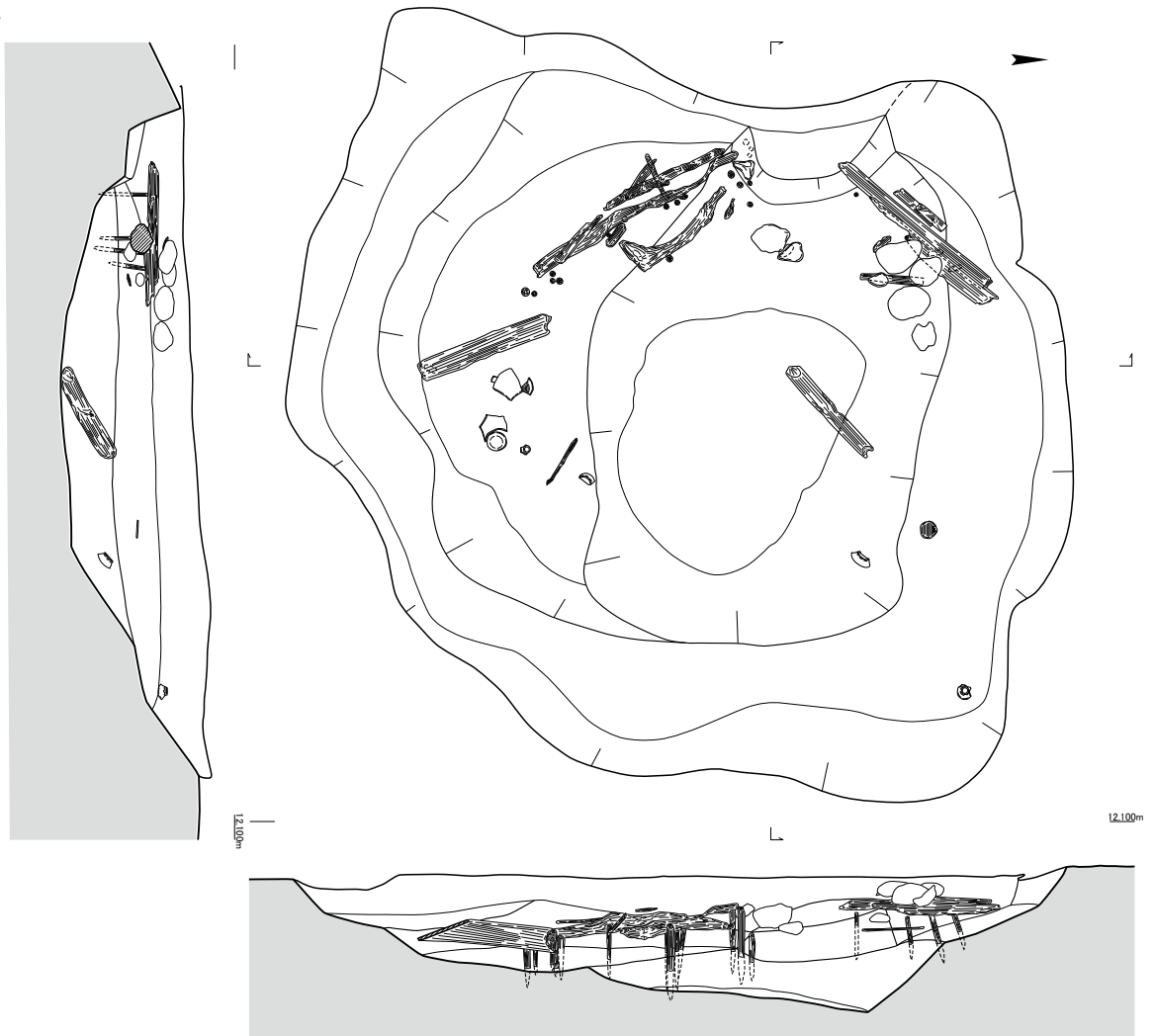


図54 志波屋四の坪地区I区 出土遺物18 (1/3)

は口縁端部が短く下方へ屈曲する。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。378は低く扁平なボタン状のつまみを持ち、口縁端部は375と同様、外反気味に屈曲する。つまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。379は低い宝珠状のつまみをもち、天井部が水平に近い形状をする。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。380は口縁端部がやや内傾気味に屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。381～385は須恵器坏である。381は体部下端が丸く高台はやや内側に付き、断面が逆台形状を呈す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。382は直線的に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。383の高台は端部に向かって肥厚する。底部外面に一部回転ヘラケズリが残り、ほかは内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。384、385はやや大型品で、高台は低く外側に開く。断面は台形状を呈す。385は口縁部が直線的に開く。いずれも底部外面に一部回転ヘラケズリが残り、ほかは内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。386～388は須恵器高坏である。386は口縁部破片で、直立気味に強く屈曲し短く立ち上がる。口縁上端部は面をなす。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。387、388は坏底部から脚部にかけての破片で、内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。388は焼成不良である。389は須恵器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。390は須恵器甕の頸部の破片で、外面は回転ナデ、上部には櫛描波状文がみられ、内面はナデ調整を行う。

391～393は土師器蓋である。391は天井部が低く水平に開く器形である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。392は口縁端部が緩やかに下方へ屈曲する。内外面ともに摩耗のため調整不明である。393の天井部は高く、鳥嘴状の口縁部をつくる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。394～397は土師器坏である。394は底径が小さく高台は低い。内外面ともに摩耗のため調整不明である。395の高台は無く、口縁部が直線的に開く器形である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。396は高台は低く、接地部分は面をなす。底部から体部にかけて丸く立ち上がる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。397は体部と底部の境より内側に高台が位置する。口縁端部に向かってやや肥厚する。内外面ともに摩耗のため調整不明である。398は土師器碗で、高台は高く体部が直立気味に立ち上がる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。399は土師器高坏で、口縁部は直立気味に短く立上り、口縁上端部は面をなす。底部は内側に向かって肥厚する。内外面ともに摩耗のため調整不明である。400、401は土師器甕である。400は口縁部から大きく外反しながら開く。内外面ともにヨコナデ、ハケメ調整を行う。401は体部から口縁部にかけてS字状に開く。体部外面はハケメ、内口縁部外面はヨコナデ、体部内面はケズリ調整を行う。

SK1004



SK1046

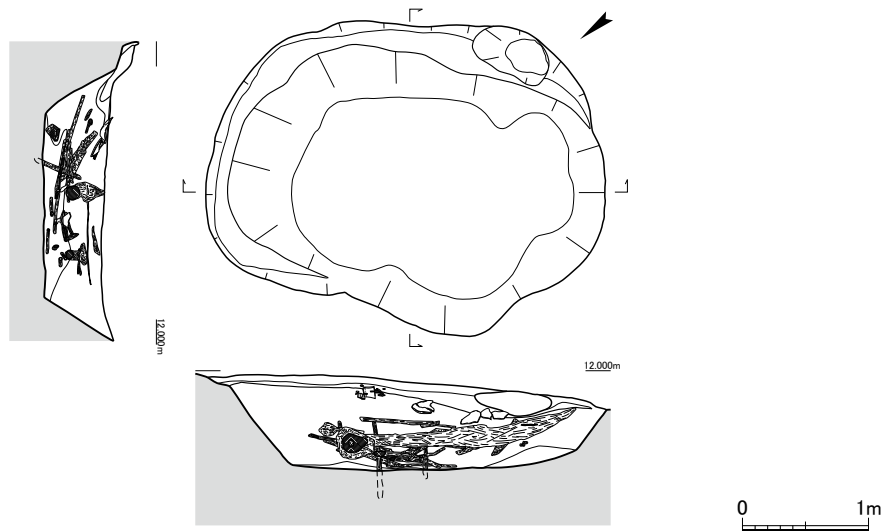


図55 志波屋四の坪地区I区 土坑1 (1/60)

SK1115

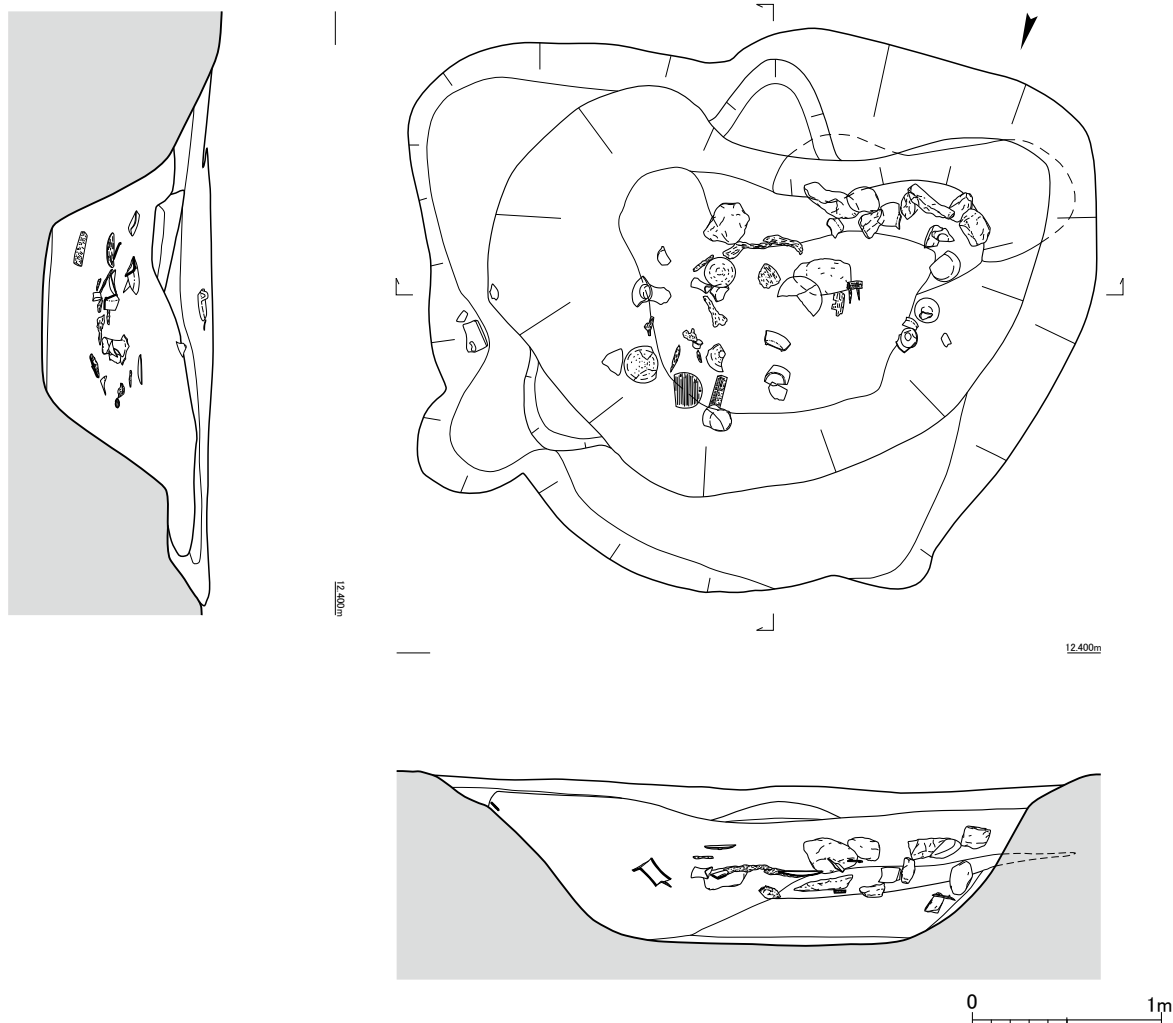


図 56 志波屋四の坪地区Ⅰ区 土坑 2 (1/40)

402 は土師器鉢で、底は平たく底径から大型の鉢と考えられる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。403 は土師器の把手である。

F 土坑

古代の土坑は 9 基確認された。

SK1004 土坑 (図 55)

調査区南西部、SK1115 の北側に位置する。土坑としては非常に大型で、豊富な須恵器や土師器のほか、多くの墨書土器や転用碗、木筒なども出土している。出土遺物から 7 世紀前半～9 世紀初頭の時期幅をもつが、その出土量から 8 世紀後半に使用された廃棄土坑と考えられる

SK1004 出土遺物 (図 57～62)

404～417 は須恵器蓋である。404～407 は内面にかえりをもち、409、411～416 はつまみをもつ蓋である。404 は天井部が高く、かえりは内側に収まる蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。405 はかえりと口縁端部が同じ高さに位置する。また天井部外面に沈線が認められる。焼成不良である。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。406 はかえりや口縁端部が厚く、同じ高さに位置する。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。407 はかえり

SK1004

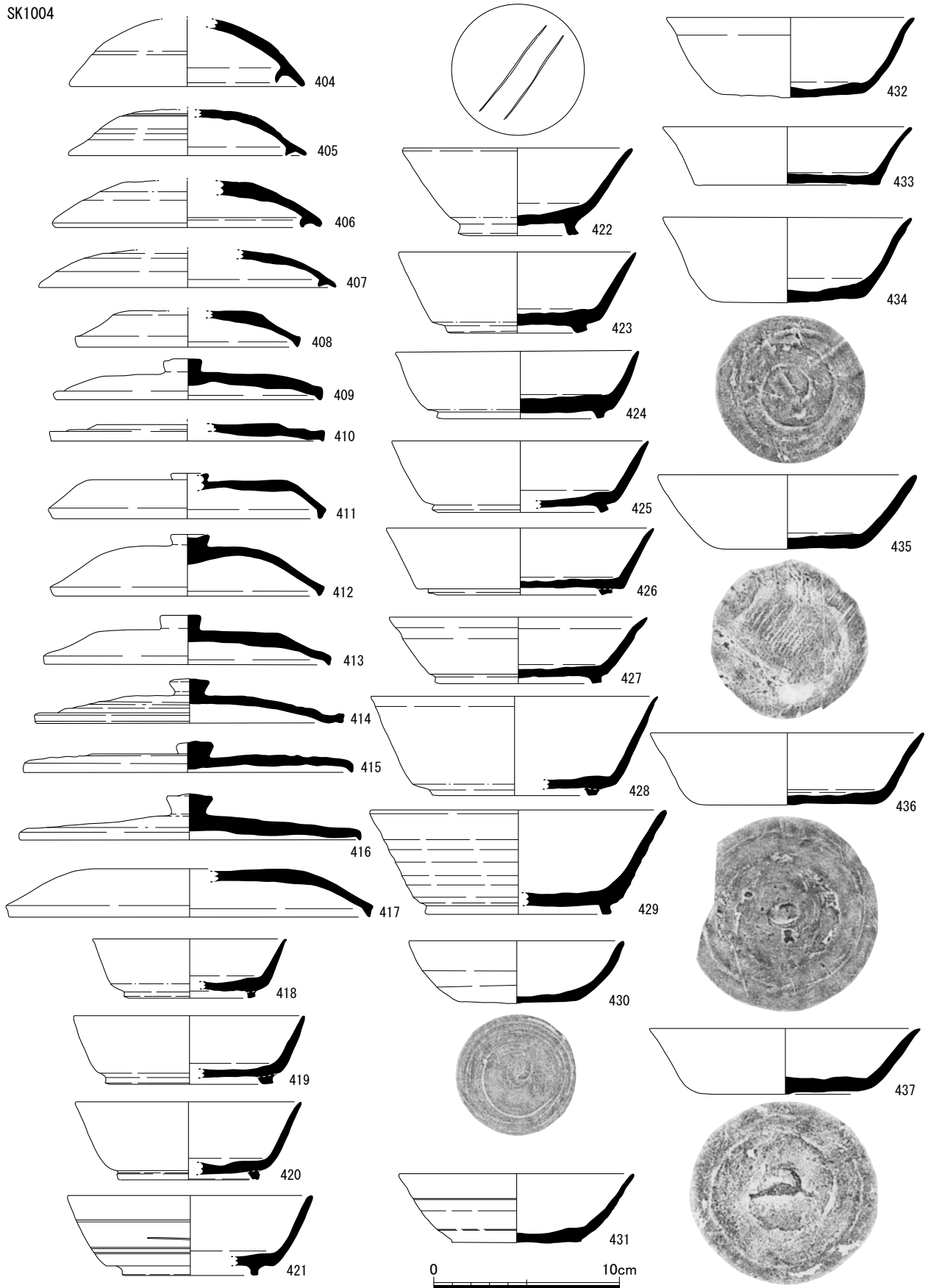


図 57 志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 19 (1/3)

と口縁端部が同じ高さに位置する。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。408は口縁端部が肥厚する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。409は低平でつまみが円柱状を呈し、口縁部は短く垂下する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。内外面にはそれぞれ径が異なる重ね焼きの痕がみられる。410は低平な形状を呈し、天井部が低く水平に口縁部に至る。口縁端部は断面三角形をなし、短く屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。411は低く扁平なつまみを持ち、天井部は平たく、口縁部にかけて直線的に開く。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。412は器高が高い。つまみは中央がやや窪む。全体的に丸みを帯びた器形となる。内外面ともに摩擦のため調整不明である。413は円柱状のつまみを持ち、鳥嘴状の口縁部をつくる。つまみはナデ、外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。414は宝珠状のつまみをもち、口縁部はやや外反し端部は強い回転ナデによる段を有する。焼成不良である。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。415は宝珠状のつまみをもち、天井部から口縁部にかけて水平に開く蓋である。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。416は宝珠状のつまみをもち、天井部から口縁部にかけて低く直線的に開く蓋である。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。417はつまみを欠く。天井部が高く、端部は断面三角形形状を呈す。天井部外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。418～440は須恵器環である。418～429は高台付環、430～440は高台をもたない。418～421、424は体部下端が丸みを帯び、緩やかに広がる。423、425～428は体部と底部の境が稜をなす。426、427は高台が低く、口縁端部はやや外反する。423、428、429は体部が直線的に立ち上がる。422は底径が小さく、体部が外へ大きく開く形状を呈す。418、422、426、427、428、429は口縁部や口縁端部が外反し、419、424はやや内傾し、420、421、423、425は直線的に開く器形である。421は体部外面に3本の沈線がみられ、422は底部内面に2本の長い直線のヘラ記号がみられる。418、421、423、424、426の底部外面はナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。423は焼成不良である。419は内外面ともに回転ナデ調整を行う。420、427、429は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。420は焼成不良である。422は底部外面は回転ナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。425の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。428の体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。焼成不良である。430、431、432、433、434、436、437、438は口縁部や口縁端部が外反し、435はわずかに内傾し、439、440は直線的に開く器形である。また、430、431、432、435は底部から口縁部にかけて内湾しながら立上り、433、434、436、437、438、439、440は箱型のような形で直線的に立ち上がる。430は内傾して立ち上がる。底部がヘラ切り離し後未調整、体部から口縁部にかけて回転ヘラケズリ後ナデ、内面はナデ調整を行う。焼成不良である。431は丸みを帯びて立ち上がる。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。体部の一部に浅い沈線が見られる。蓋環の蓋の可能性もある。432、434、437はやや深い器形で、口縁端部がやや外反する。433は外反気味に立ち上がる。435は内傾気味に立ち上がる。436～440はやや浅い形状を呈す。432、433、438、439の底部外面は調整不明で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。439は焼成不良である。434、436は底部がヘラ切り離し後未調整、体部から口縁部にかけて回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。434の内面には重ね焼きの痕がみられる。焼成不良である。435、437の底部はヘラ切り離し後未調整、体部から口縁部にかけて回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。底部には板状圧痕がみられる。440は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。焼成不良である。441～448は須恵器皿である。441～444、447は体部下端が丸みを帯びる。442～448は体部が外傾して立ち上がるが、441は垂直気味に立ち上がる。また、442、443、447は底部や口縁部が厚く、442、447は口縁端部を丸く仕上げる。441、448は内外面ともに回転ナデ調整を行う。442、446は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。442の外面には重ね焼きの痕、内面の

SK1004

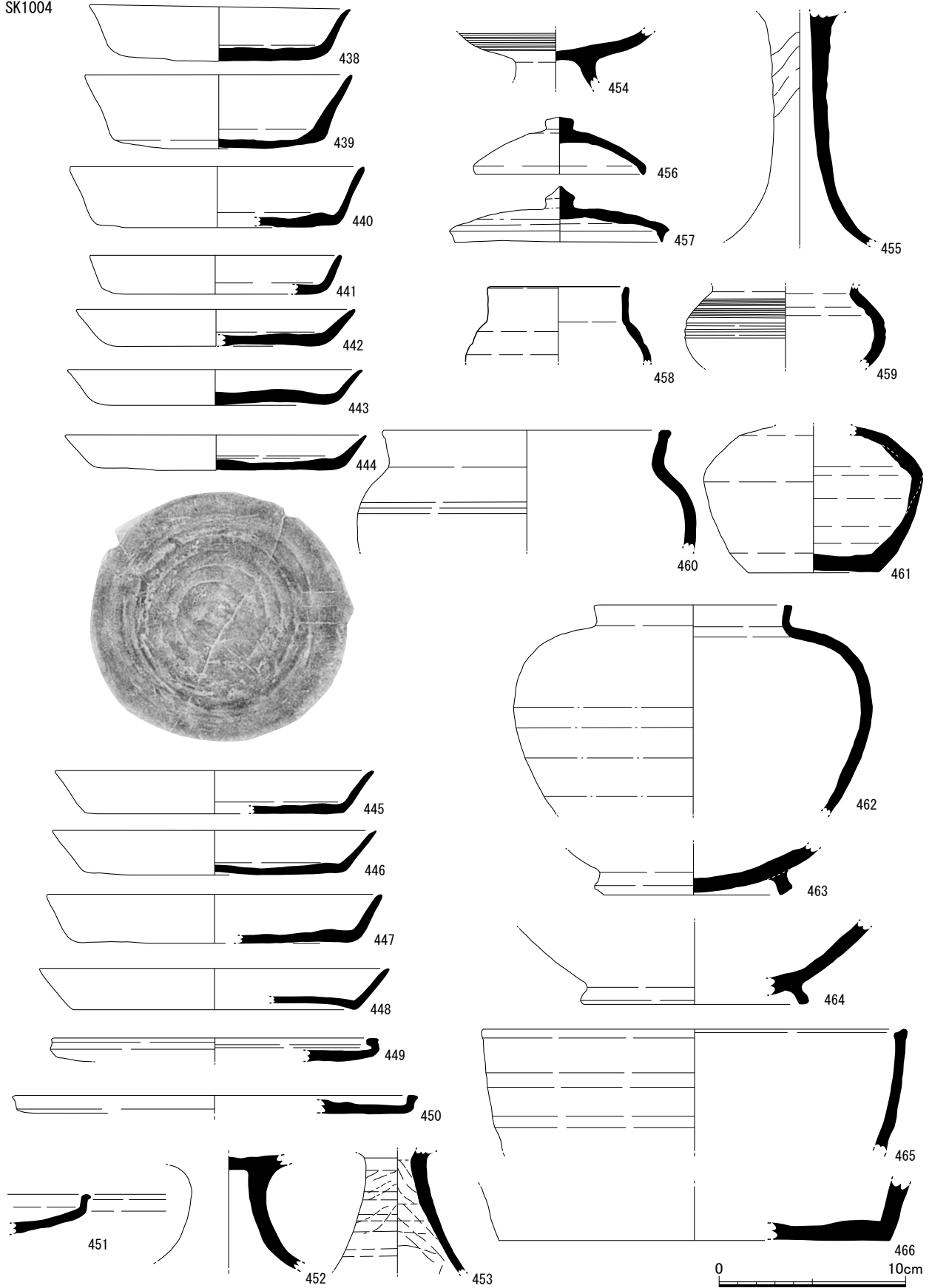


図 58 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 20 (1/3)

一部には付着物がみられる。446は焼成不良である。443、447の底部はヘラ切り離し後未調整、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデを行う。444の底部はヘラ切り離し後未調整、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデを行う。底部外面に3本の平行するヘラ記号が認められる。内外面には重ね焼きの痕がみられる。445の底部外面はナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。449～455は須恵器高坏である。449、450坏部が浅い。口縁部は449が短く立ち上げ、端部は肥厚させ丸く仕上げる。外面は調整不明で、内面は回転ナデ調整を行う。450は垂直に立ち上げる。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。451は口縁部破片で端部を肥厚させ丸く仕上げる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。452、453、454、455は脚部破片で、454は坏部外面にカキメがみられる。452は内外面ともに回転ナデ調整を行う。453、455は内外面ともにシボリ後回転ナデ調整を行う。455は焼成不良である。454は坏部外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。焼成不良である。456、457は形状から須恵器短頸壺の蓋と考えられる。456はつまみをもち、天井部から緩やかに開く蓋である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。焼成不良である。457は宝珠状のつまみをもち、断面三角形の口縁端部は下方へやや長く屈曲する。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。458～464は須恵器壺である。458は直口壺の口縁部から肩部である。外面は調整不明で、内面は回転ナデ調整を行う。459は胴部の残欠である。胴上半部にカキメを施し、胴部中央には沈線が2本巡る。外面はナデ、内面はヨコナデ調整を行う。460の口縁端部はやや肥厚し、上面は面をなす。内外面ともに回転ナデを行う。461は胴部が張り、底部は平たくなる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。内面に付着物がみられる。462は短頸壺で口縁部が短く垂直に立上り、肩部は強く張る。口縁部外面は回転ナデ、体部上半は回転ヘラケズリ後回転ナデ、下半は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ調整を行う。463、464は底部破片である。463、464の外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。465、466は須恵器鉢である。465は口縁部が緩やかに立上り、端部を肥厚させ丸く仕上げる。466は底部破片で器壁は厚く平たい。内外面ともに回転ナデ調整を行う。底部外面にハケ状の工具痕が一部みられる。467～474は須恵器甕である。467は口縁部が大きく外反しながら開く。内外面ともに回転ナデ調整を行う。468は全体的に器壁は厚く、端部に向かってやや肥厚する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。469は口縁部外面に複数の稜を有する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。470、471、472は口頸部破片で、いずれも頸部上半に波状文を施す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。473は口縁端部を肥厚させる。内外面ともに回転ナデ調整を行い、外面の一部にハケメ状の工具痕が残る。474は口縁端部を垂直に立ち上げ、上面はやや肥厚し面をなす。内外面ともに回転ナデ調整を行い、体部に波状文がみられる。475は壺の肩部破片で、端部を丸く仕上げ露先状に屈曲する。この特徴は福岡県大牟田市や熊本県下益城郡で出土する壺に一部類例がある。内外面ともに回転ナデ調整を行う。476は須恵器壺の底部破片である。内面には漆が残り底部断面にも付着していることから、壺を割った後も漆を余すことなく使用したことがうかがえる。底部外面はナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。

477～498は須恵器の墨書土器、ヘラ描き土器または転用硯である。477は少し歪んだ須恵器蓋でつまみは低平な形を呈しており、緩やかに口縁部に向かって開く器形である。内面に墨の痕跡が認められる。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。478は須恵器蓋で口縁端部を折り曲げている。内面には「阿米」という墨書がみられる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。479は須恵器蓋で、口縁端部が短く屈曲する。天井部外面に判読不能であるが、墨書がみられる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。480は須恵器高台付坏で、高台はやや高く外側に張り出す。底部外面には墨の痕跡が認められる。底部外面は回転ナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。481は須恵器高台付坏で、体部から口縁部にかけて大きく開く器形である。底部外面に墨の痕跡が認められる。底部外面は回転切り離し後ナデ、口縁部は回転

SK1004

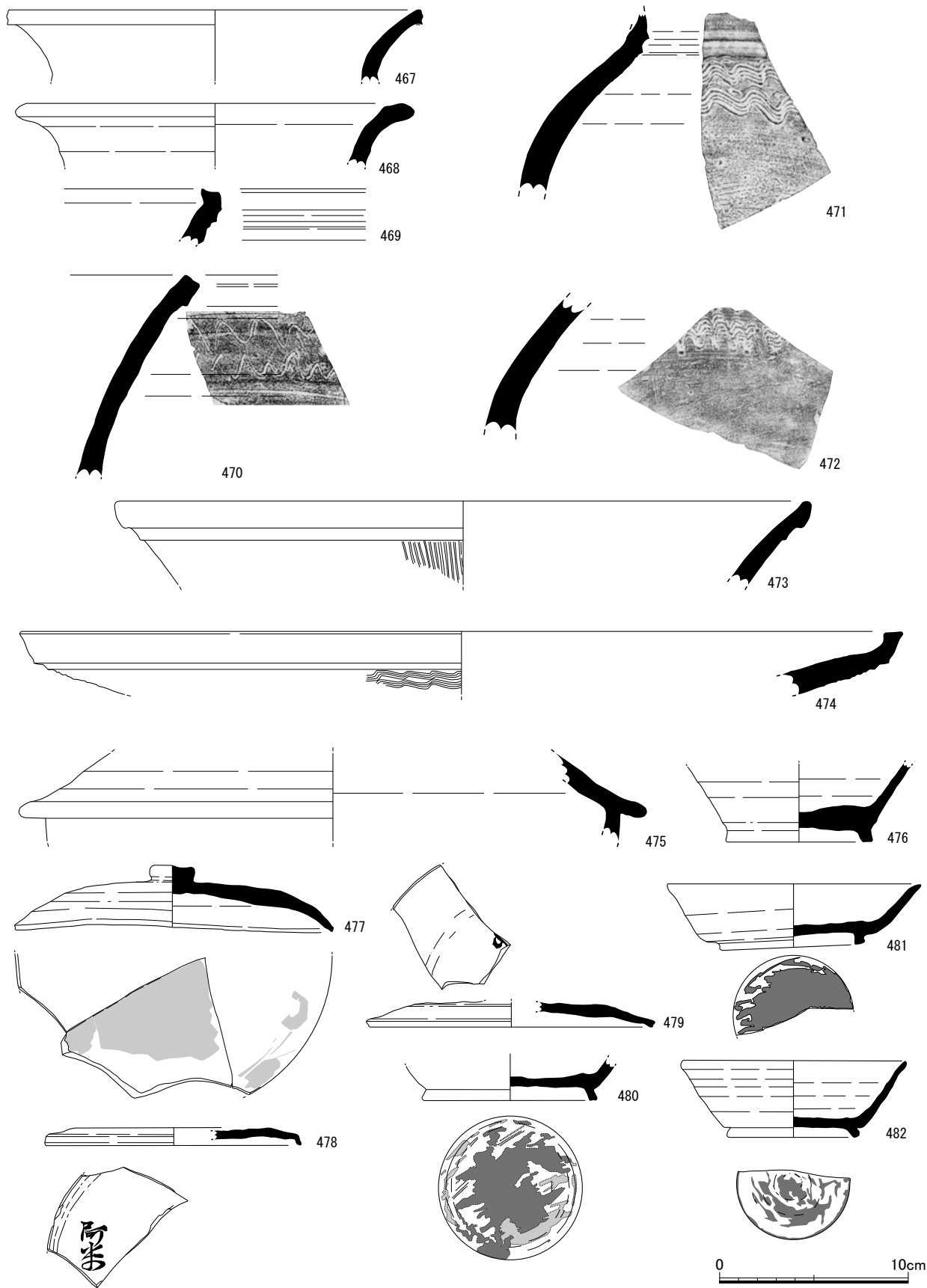


図 59 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 21 (1/3)

ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。482は須恵器高台付坏で、高台は外側に開く。底部外面に墨の痕跡が認められる。底部外面は回転ナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。483は須恵器坏で、口縁部内面に墨の痕跡が認められる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。484は須恵器高台付坏で、底部と体部には明瞭な境を持たず、仕上げる。底部外面に「丙殿」という墨書がみられる。底部外面はヘラ切り離し後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。485は須恵器高台付坏で、高台は低く底部の外縁に付く。体部から口縁部にかけてやや内湾しながら開く。底部外面には「糖」という墨書がみられる。底部外面中央はヘラ切り後未調整、高台周辺はナデ、体部下端に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。486は須恵器高台付坏で、底部の器壁が厚く体部は薄い。底部外面には「山田」という墨書がみられる。底部外面はヘラ切り離し、高台周辺はナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。487は須恵器高台付坏の底部である。底部内面に「弟(第)君」という墨書がみられる。底部外面はナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、内面はナデ調整を行う。488は須恵器壺の底部破片である。底部外面にヘラや筆のような道具で書いた痕が確認できるが、判読できない。底部外面は回転ナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、内面はナデ調整を行う。489は須恵器高台付坏で、低く小さい高台をもち、体部から口縁部にかけてやや内湾しながら立ち上がる。底部外面に3文字の墨書があり、「乙廊」という文字がみられる。図上右側の文字は判読できない。底部外面は回転ナデ、体部の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。内面の一部にひだすきの痕が残る。490は高台を持たない須恵器坏で、口縁部に向かってやや肥厚する。底部外面に墨書のような文字が確認できるが、判読できない。底部外面はヘラ切り離し後未調整、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。焼成不良である。491は焼成不良の須恵器坏で、口縁端部がわずかに外反する。底部外面に「○」という墨書がみられる。底部外面はナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。492は須恵器皿で、口縁端部が外反する。底部外面に文字の一部を欠損しているが、「真(真)人」という墨書がみられる。底部外面はヘラ切り離し後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。493は須恵器皿で、底部がやや丸みを帯び、口縁部はやや直立気味に立ち上がる。底部外面に「丑殿」という墨書がみられる。底部外面はヘラ切り離し後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。494は須恵器皿で、体部下端が丸く、やや内湾気味に立ち上がる。底部内面に墨の痕跡が認められる。底部外面はヘラ切り離し後未調整、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。495は須恵器壺の底部破片である。底部内面に墨の痕跡が認められる。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。496は焼成不良の須恵器蓋である。外面は赤く塗られ、内外面ともに非常に丁寧な仕上げをしている。内面には墨の痕跡が認められる。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。497は須恵器皿と推定され、底部外面に「大」という墨書がみられる。底部外面はヘラ切り離し後未調整、内面はナデ調整を行う。498は須恵器壺や瓶系の底部破片と推定され、底部外面に墨書が確認できるが、判読できない。底部外面は回転ヘラケズリ、体部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。499は須恵器壺や瓶系の底部破片と推定され、底部外面には「井」のようなヘラ記号、内面には墨の痕跡が認められる。内外面ともにナデ調整を行う。500は須恵器皿の底部破片で、内面に墨の痕跡が認められる。底部外面はヘラ切り離し後未調整、内面はナデ調整を行う。501は須恵器皿の底部破片で、内面に墨の痕跡が認められる。底部外面はヘラ切り離し後未調整、回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。502は焼成不良の須恵器壺や瓶系の底部破片と推定され、内面に墨の痕跡が認められる。外面は調整不明で、内面はナデ調整で、丁寧に仕上げる。

503～505は土師器蓋である。503は口縁端部を下方へ緩やかに折り曲げる。口縁部内面の一部にヨコナデがみられ、他は内外面ともに摩耗のため調整不明である。504は天井部と口縁部の境に明瞭な段をもち、口縁部は下方へ伸びる。口縁部外面に一部ヨコナデがみられ、天井部は摩耗のため調整不明で、内面はヨコナデ調整を行う。505

SK1004

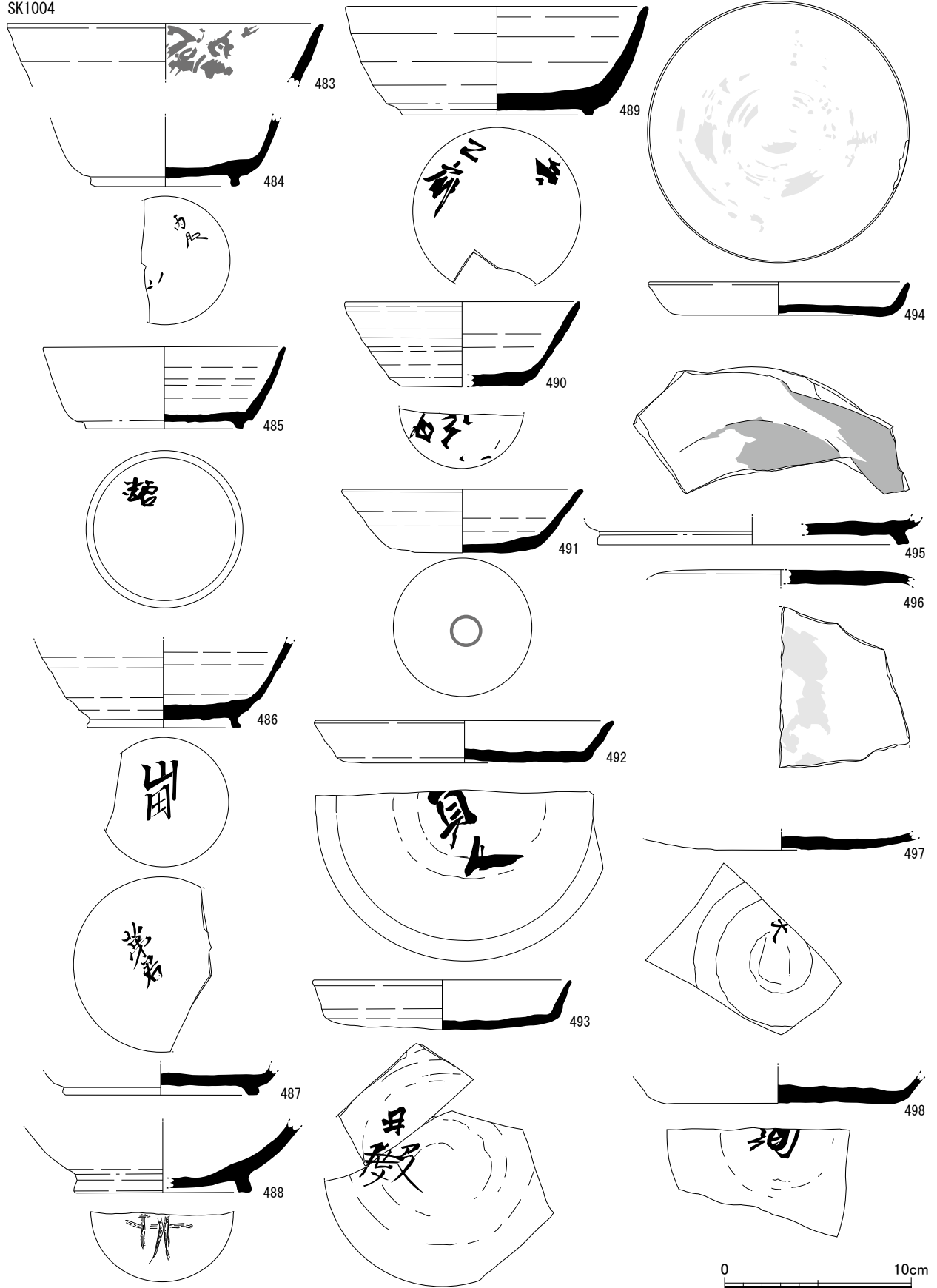


図 60 志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 22 (1/3)

SK1004

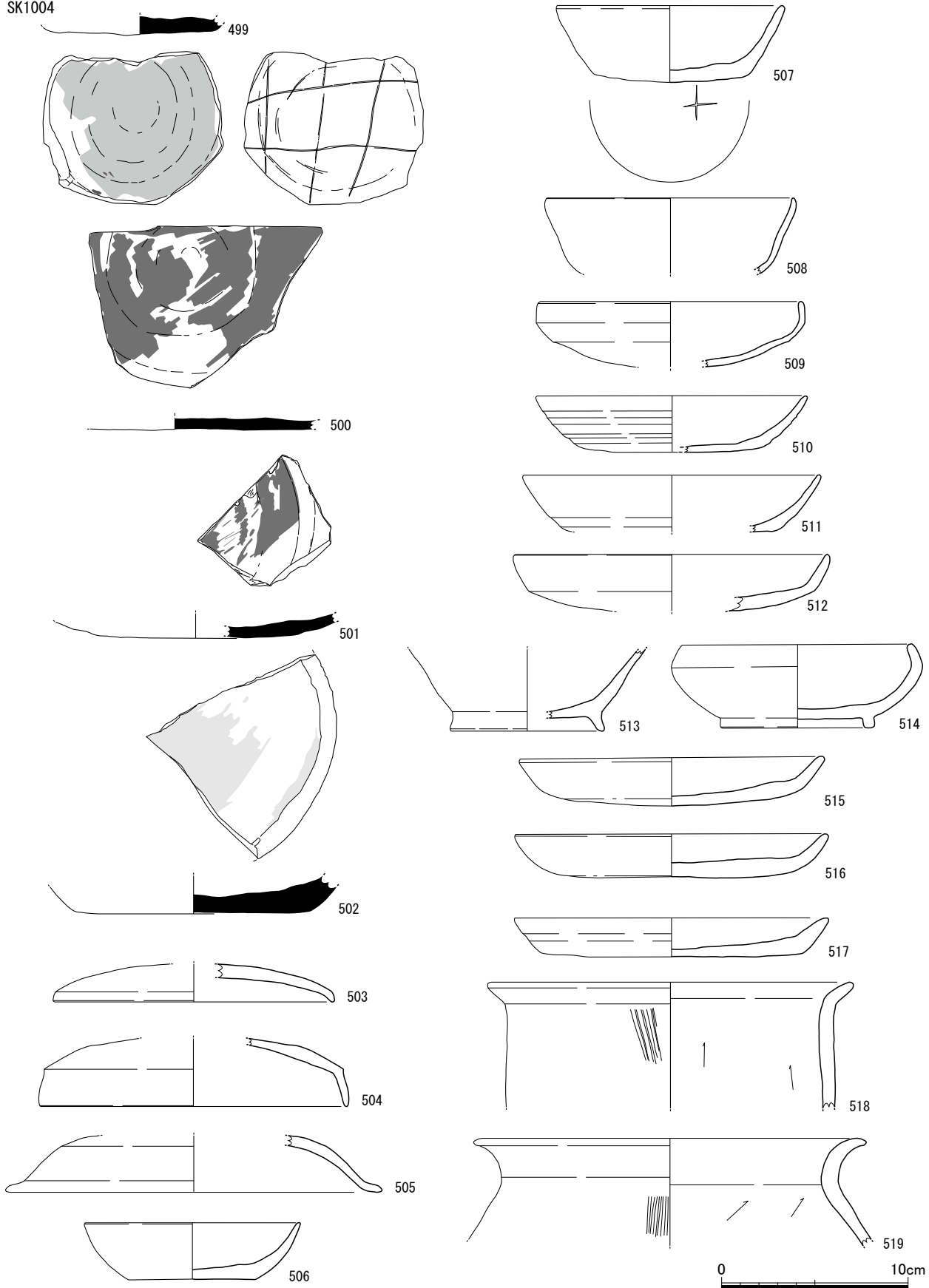
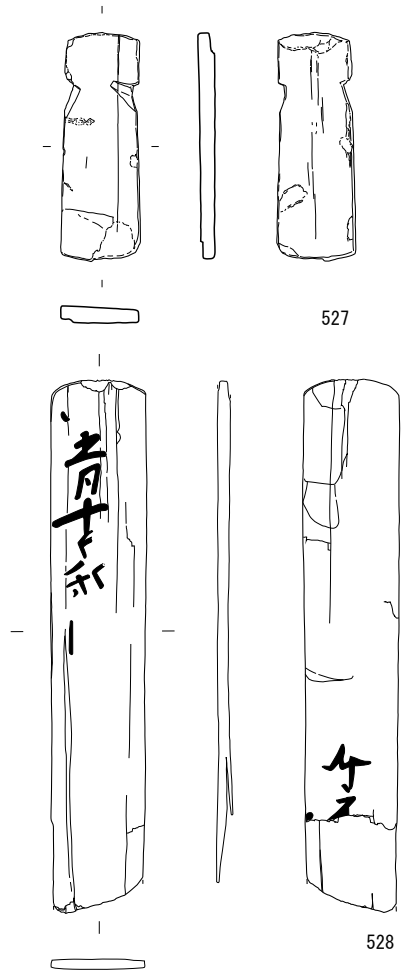
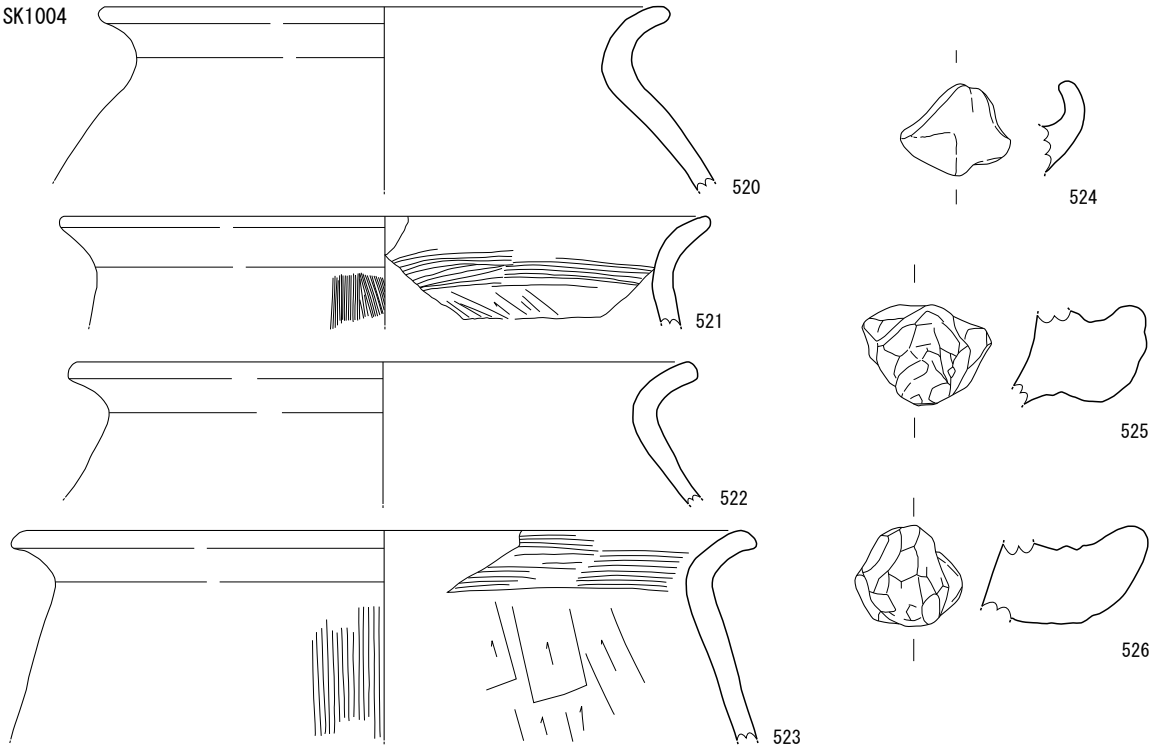


図 61 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 23 (1/3)

SK1004



SK1011

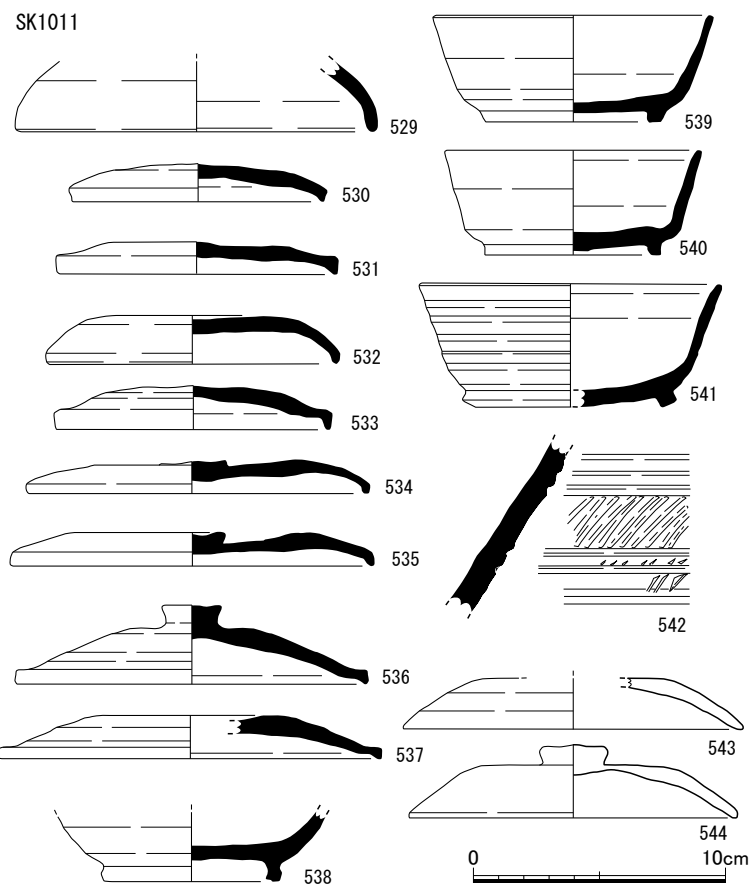


図 62 志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 24 (1/3)

は口縁部が外反し、裾のように伸びる。天井部外面はケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。506～514は土師器坏である。507は焼成不良の須恵器の可能性もある。506の底部は平坦で口縁部に向かって器壁が薄くなる。内外面ともに回転ナデ調整を行い、丁寧なつくりを行う。外面に丹塗りがみられる。507は全体的に器壁がやや厚い。底部外面に十字のヘラ記号が認められる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。508は体部から口縁部にかけて少しうねりながら立ち上がる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。509は丸みを帯びた器形である。底部外面に工具痕がみられ、口縁部はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。510、511は体部から口縁部にかけてやや内湾しながら開く。510の外面はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。511は内外面ともにヨコナデ調整を行う。512は底部が丸くなる器形である。底部外面は工具痕がみられ、口縁部はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。513は高台は高く、体部から直線的に開いていく。体部外面は回転ナデ、他は摩耗のため調整不明である。514は高台は低く、体部から口縁部にかけて袋状に内湾する器形である。内外面ともに丁寧な作りをしている。底部外面はヘラ切り離し後未調整、体部はミガキ後ナデ、内面はミガキ後ナデ、ミガキを行う。515～517は土師器皿である。そのうち515、516は焼成不良の須恵器の可能性もある。いずれも器壁は厚く、口縁端部は丸く仕上げる。515の底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部はミガキ後ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。焼成不良の須恵器皿の可能性もある。516は底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。焼成不良の須恵器皿の可能性もある。517は内外面ともに回転ナデ調整を行う。518～523は土師器甕である。518、521は緩やかに外反しながら開く。519、520、522、523は強く外反しながら開く。518の外面はハケメ後ナデ、ヨコナデ、内面はヨコナデ、ケズリ調整を行う。519、521の外面はハケメ、ヨコナデ、内面はヨコナデ、ケズリ調整を行う。520の外面の一部にハケメ、他は摩耗のため調整不明である。522の外面はヨコナデ、内面はヨコナデ、ケズリ調整を行う。523の外面はハケメ、口縁部内面にハケメ、胴部はケズリ調整を行う。524～526は土師器の把手である。524は薄く丁寧な作りをしているが、525、526は厚手である。527、528は木簡である。527は上部を笠状に作り出し、両側面を平坦に仕上げる。表裏面に墨書は認められない。528は板目材を使用し、方頭で全体的に薄く、下部は欠損する。表面には「□五月十□□□」と書かれており、日付を記したものであると思われる。裏面にも認められるが判読できない。

SK1011 土坑

調査区北西部、SB1022、1023の東側に位置し、SK1012と同規模の土坑である。

SK1011 出土遺物（図62,63）

529～537は須恵器蓋である。529は蓋坏の蓋で口縁端部が丸く仕上げられる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。530～533はつまみを持たない蓋である。530、531、533の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。532は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。534は低く扁平なつまみを持ち、全体的に歪んでいる。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。535は蓋の中央部分に向かって窪む歪んだ器形である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。536は器高が高く上端が広がる柱状のつまみを持ち、天井部から口縁部へ直線的に伸びる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。537は天井部の器壁が厚く、口縁端部に向かって薄くなる。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。538～541は須恵器高台付坏である。538の高台は少し内傾する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。539は高台は低く、体部がやや内湾気味に立ち上がる。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。540の高台は逆台形状で接地部分は面をなし、口縁部が直線的に開く。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。541の底部は中央に向かって低くなり、高台は低く外側に張り出す。口縁部はわずかに外反し、外面はロクロ成形痕が残る。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。

SK1011

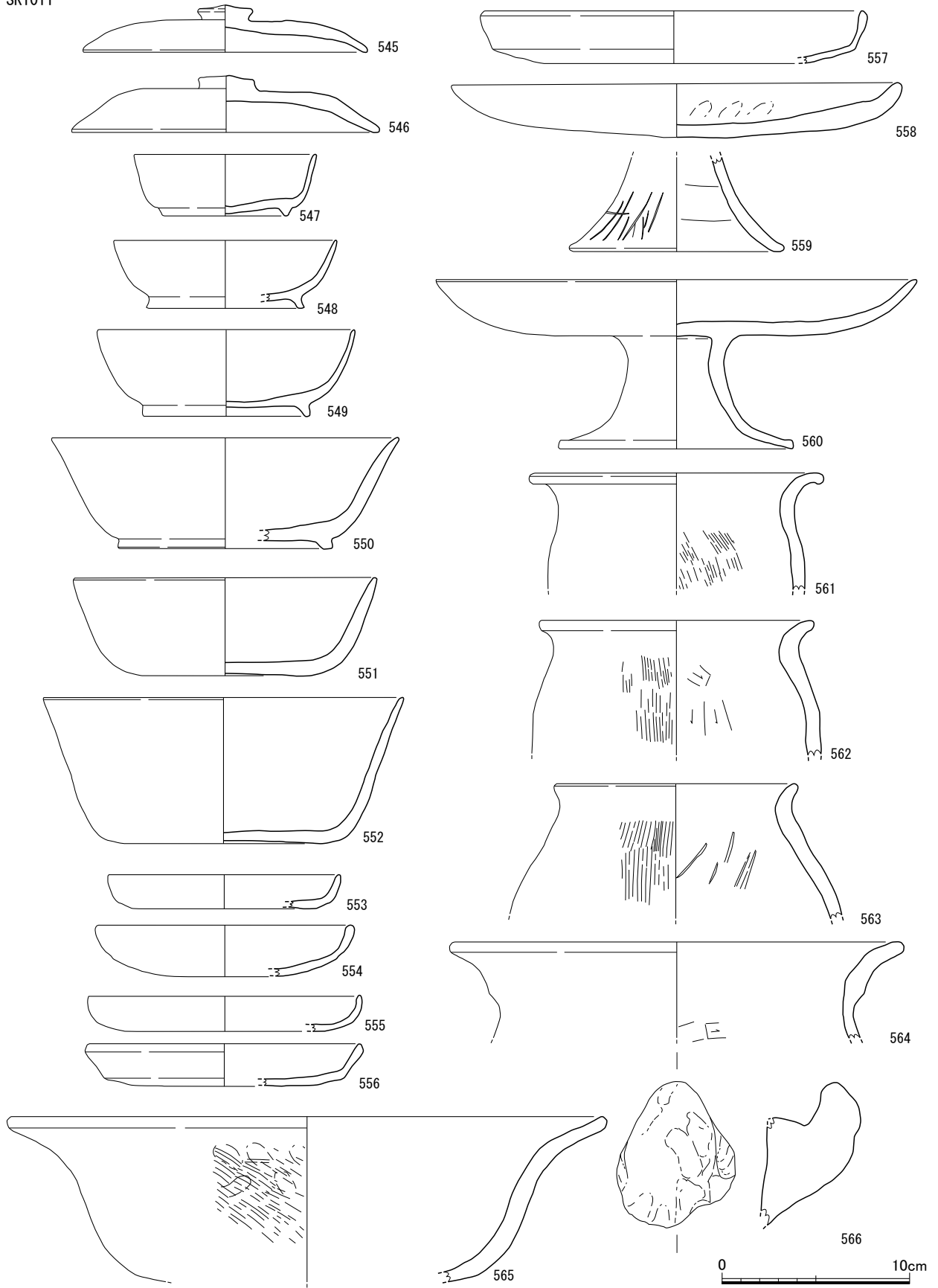


図 63 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 25 (1/3)

SK1012

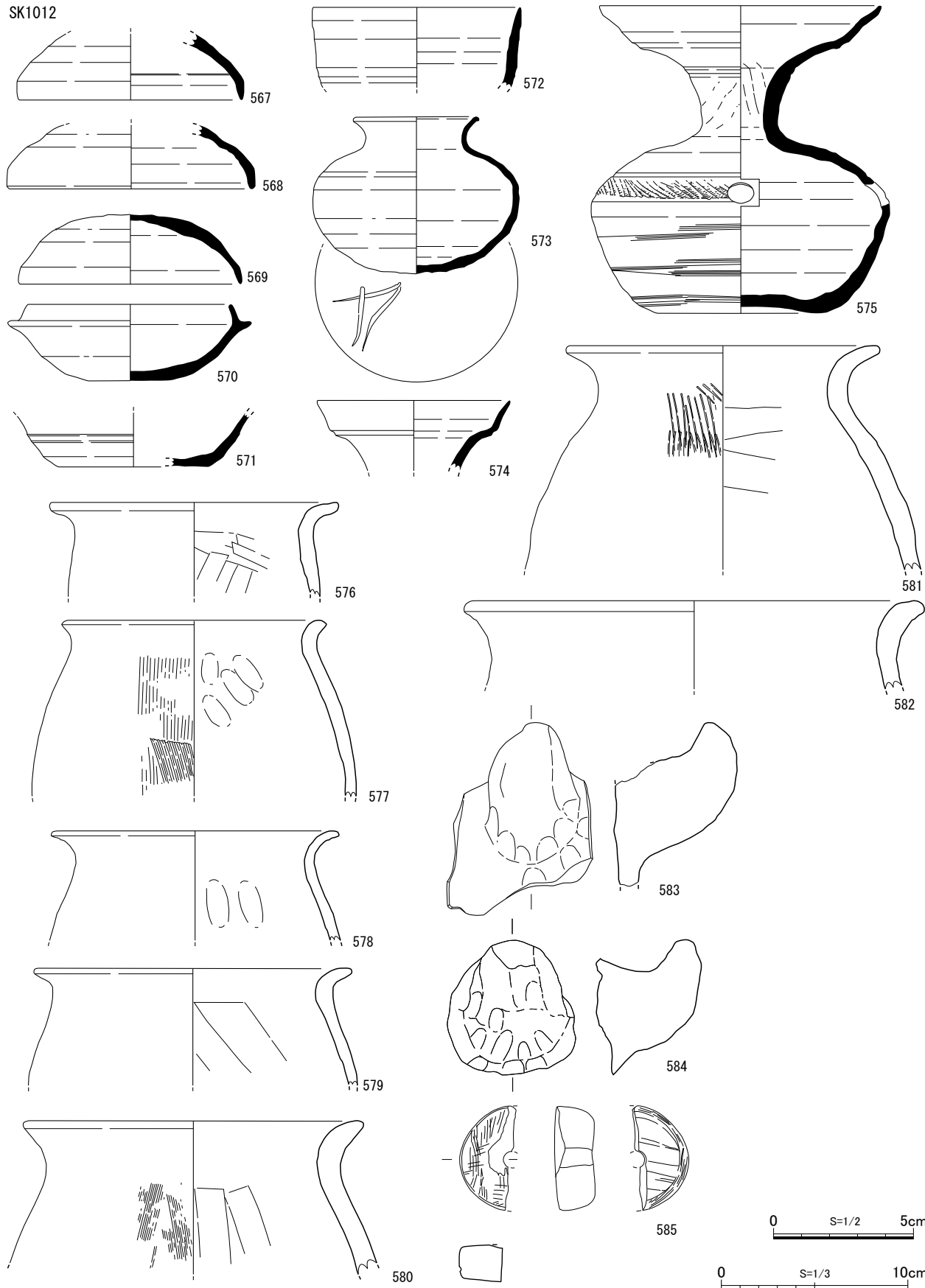
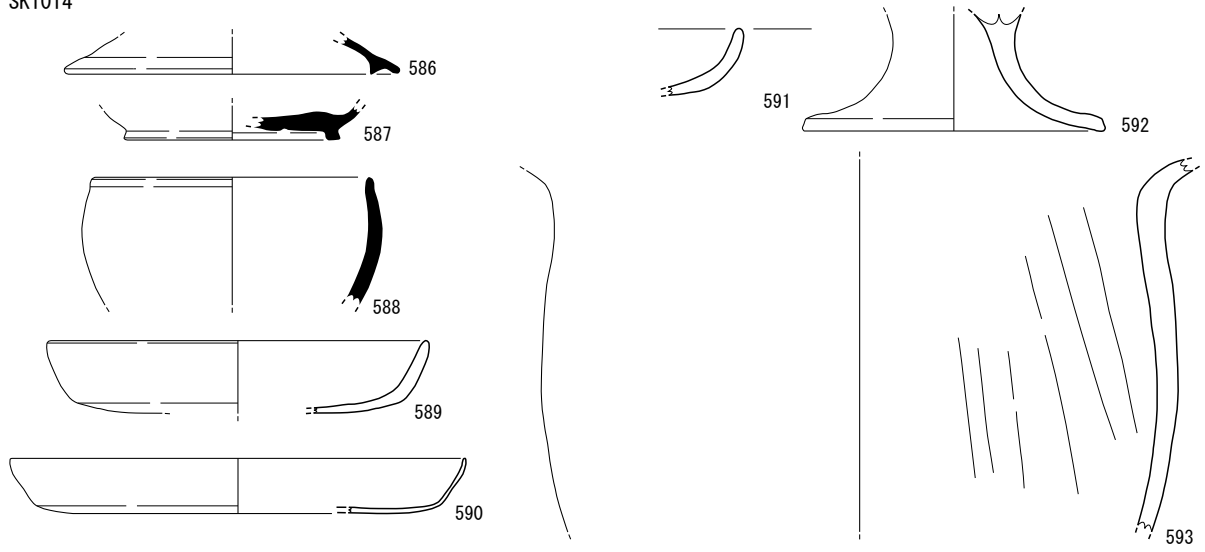


図64 志波屋四の坪地区I区 出土遺物26 (585は1/2、他は1/3)

SK1014



SK1046

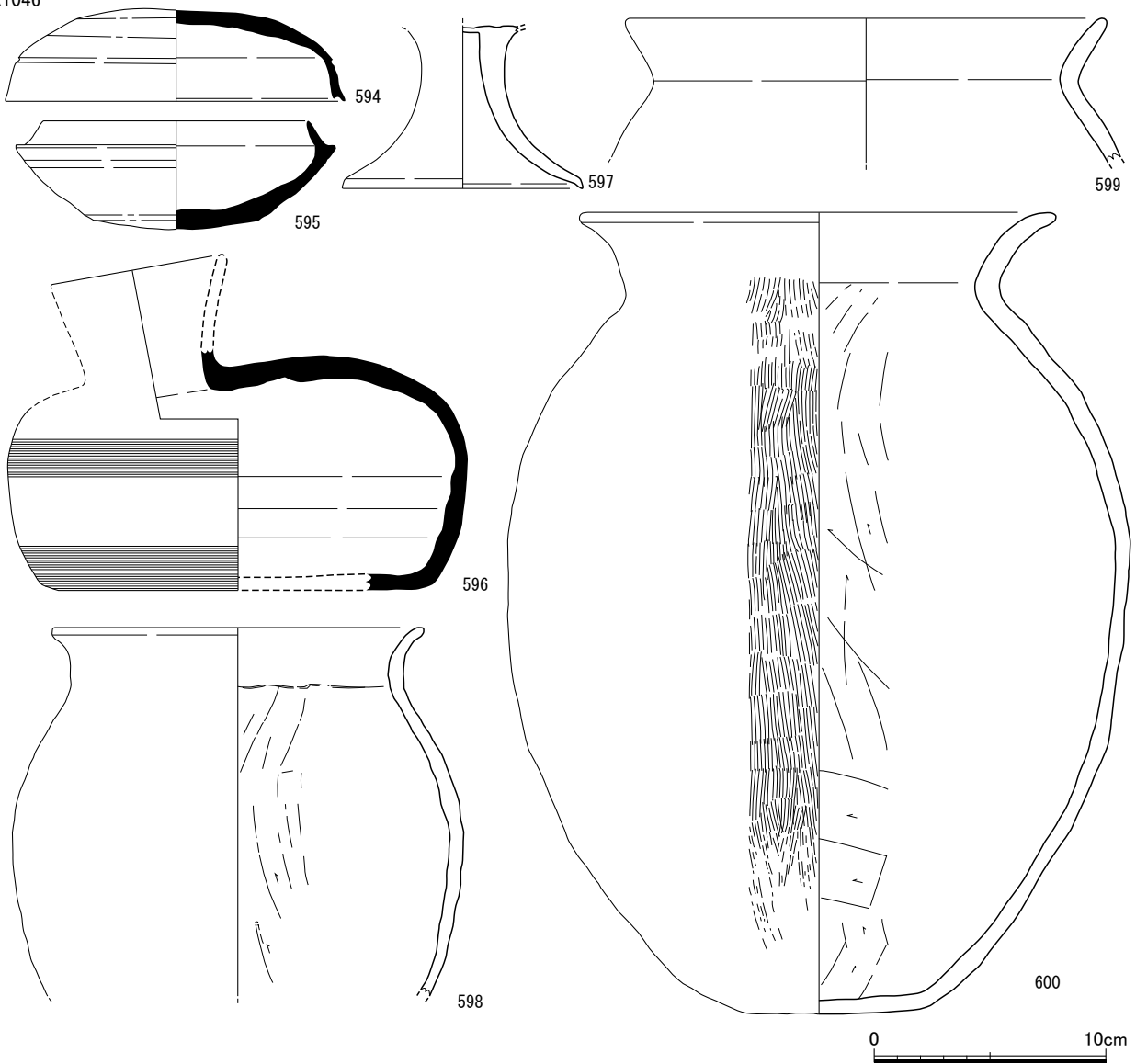


図 65 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 27 (1/3)

542 は須恵器甕の頸部の破片である。外面には沈線が認められる。内面はナデ調整を行う。

543～546 は土師器蓋である。544～546 は中央がやや膨らむつまみをもち、天井部が高い蓋である。須恵器の蓋のように下方へ折り曲げず、直線的に口縁部が開く形状である。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。547～552 は土師器坏である。その内、548～550 は焼成不良の須恵器の可能性もある。547 は高台は逆三角形を呈し、口縁部は垂直気味に立ち上がる。548、549 は高台は外側に張り出し、口縁部は内湾しながら開く。550 の高台は低く接地部分は面をなす。口縁端部はやや外反しながら開く。551 は高台を持たず、底が平坦な坏である。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。552 は土師器鉢で、底部は平坦で、口縁部は直線的に開く。外面は摩耗のため調整不明で、口縁部内面は回転ナデ、底部はナデ調整を行う。553～558 は土師器皿である。553、556、557 は底部と口縁部の境に稜を持ち、立ち上がる。554、555 は緩やかに口縁部が広がる。558 は全体的に器壁が厚く、大型の皿である。553～555 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。556、557 は内外面ともにナデ調整を行う。558 の外面は摩耗のため調整不明で、内面は一部に指圧痕、ヨコナデ、ナデ調整を行う。559、560 は土師器高坏である。559 は脚部破片で、外面に沈線が裾部に向かって引かれている。560 の脚部内面はヨコナデ、ナデ調整、他は摩耗のため調整不明である。561～564 は土師器甕である。561 は口縁部が強く外反し、端部を丸く仕上げる。563 の口縁部は短く立ち上がる。561 の胴部内面はケズリ、他は摩耗のため調整不明である。562 の外面はヨコナデ、ハケメ、内面はケズリ調整を行う。563 の外面はヨコナデ、ハケメ、内面はヨコナデ調整を行う。564 は内外面ともにヨコナデ、ナデ調整を行う。565 は土師器鍋である。体部外面にハケメ調整を行い、他は摩耗のため調整不明である。566 は土師器の把手である。

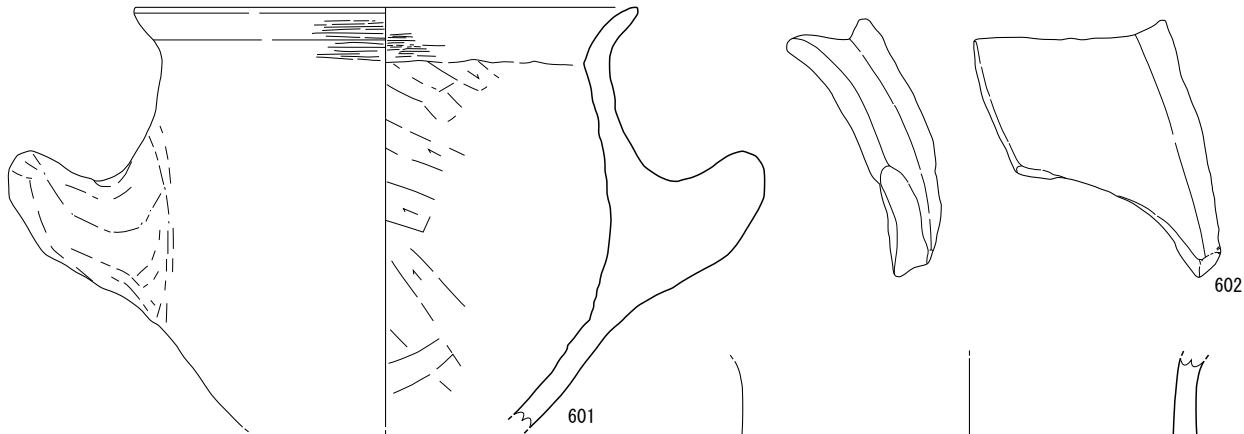
SK1012 土坑

調査区北西部、SD1021 に東側に位置し平面は隅丸形状を呈す。出土遺物は古墳時代から幅をもつものであるが、575 の出土事例から古代に属する遺構と判断した。

SK1012 出土遺物 (図 64)

567～569 は須恵器蓋坏の蓋である。いずれも天井部が高く、丸みを帯びた形状で口縁端部に段を持たない。567 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。焼成不良である。568 の天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。569 は天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。570、571 は須恵器坏である。570 の口縁部は同じ器壁の厚さで立上り、受部は横へ短く延びる。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。571 は高台を持たない坏で、外面に浅い沈線が見られる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。572 は須恵器鉢又は坏で、体部が直線的に広がる深い形状である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。573 は小型の須恵器壺で、胴部がかなり膨らむ。口縁部外面から胴部中位まで回転ナデ、胴部下半より底部は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ケズリ調整を行う。底部外面に太い3本のヘラ記号が認められる。574、575 は須恵器甕で、574 は口縁部破片である。575 の口縁部は大きく開き、頸部にシボリ痕がわずかに残り、体部がやや扁平で底部は平底をなす。胴部最大径の箇所穿孔し、孔部より帯状に櫛描文を施す。体部全体にカキメが確認できる。頸部から口縁部にかけて内外面ともに回転ナデ調整を行う。佐賀市金立開拓遺跡 ST013 (6世紀末～7世紀代) 周溝出土の高台付き須恵器甕の形状に類似する。576～582 は土師器甕である。577 の口縁部は短く立上り、その他の甕の口縁部はやや長く、外反する。576 の外面は摩耗のため調整不明で、内面はヨコナデ、ケズリ調整を行う。577 の外面はヨコナデ、ハケメ、内面はヨコナデ、ユビ押さえ後ナデ調整を行う。578 の外面は摩耗のため調整不明、内面はユビ押さえ後ナデ調整を行う。579 の外面は摩耗のため調整不明、内面はケズリ調整を行う。580 の外面はヨコナデ、ハケメ、内面はヨコナデ、ケズリ調整を行う。581 の

SK1046



SK1115

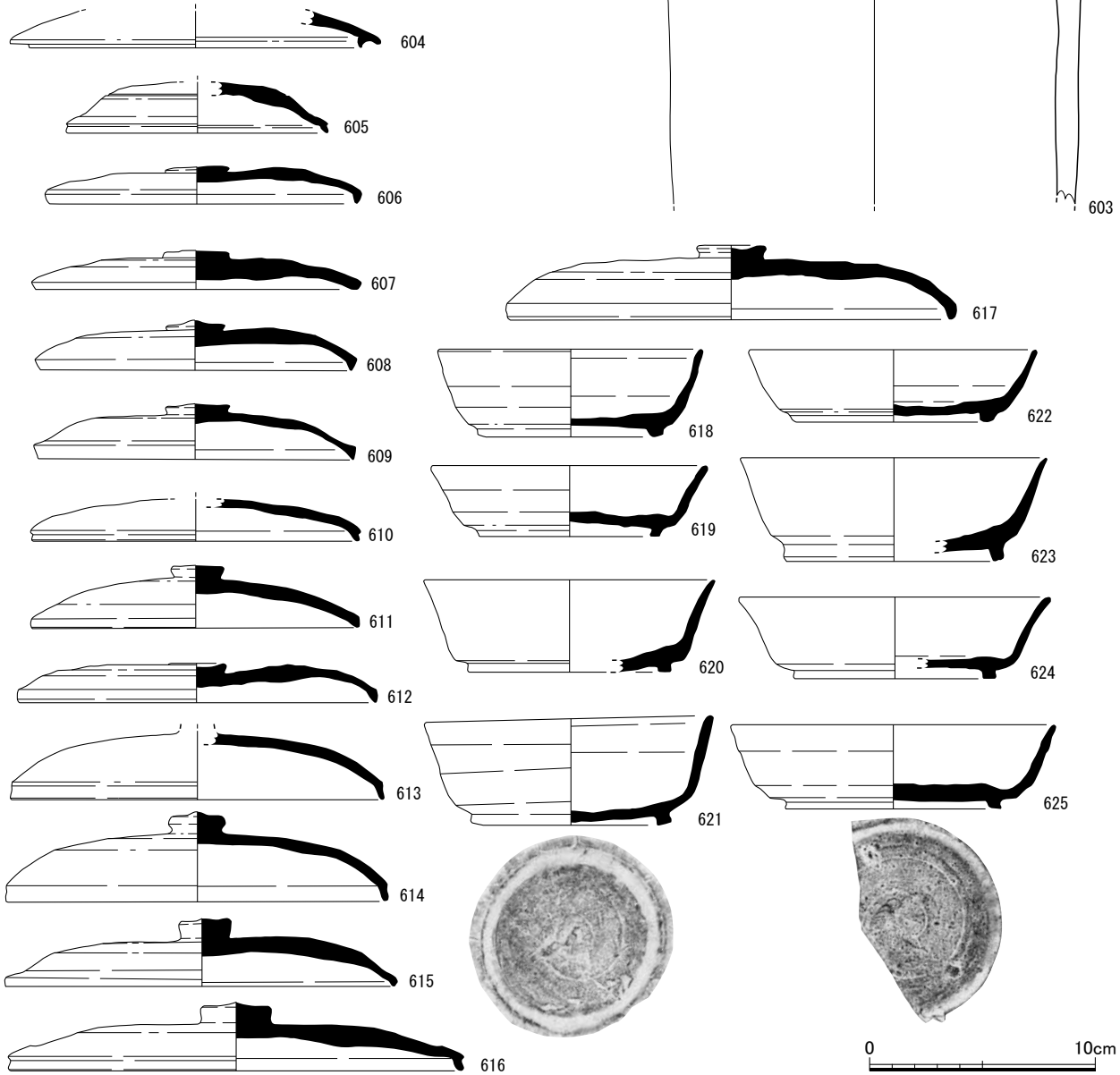


図 66 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 28 (1/3)

外面頸部にハケメ、内面の胴部の一部にケズリ、他は摩耗のため調整不明である。582 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。583、584 は土師器の把手である。585 は半分が欠損する石製の紡錘車である。

SK1014 土坑

調査区北西部、SB1023 の西側に位置し、SK1115 と同規模の土坑である。

SK1014 出土遺物 (図 65)

586 は須恵器蓋で、かえりと口縁端部が同じ高さに位置する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。587 は須恵器高台付坏で、高台は低く接地部分は面をなす。体部外面の一部に回転ヘラケズリ、底部は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。588 は須恵器鉢で、口縁部から胴部にかけてやや内湾する形状である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。589～591 は土師器皿である。589 はやや丸みのある緩やかな底部で、590 は全体的に器壁が非常に薄い造りである。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。592 は土師器高坏の脚部破片で、裾部に向かって大きく広がる。内外面ともにヨコナデ調整である。593 は土師器甕の胴部である。外面は摩耗のため調整不明で、内面はケズリ調整を行う。

SK1046 土坑 (図 55)

調査区北部、SD1007 と SE1119 の間に位置し、出土遺物から時期幅はあるものの奈良時代に属する可能性がある。

SK1046 出土遺物 (図 65,66)

594 は須恵器蓋環の蓋で、口縁端部内面に明瞭な段を有し、口縁部と天井部の境に沈線をもつ。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。595 は須恵器蓋環の身で、短い受部もつ。焼成不良である。口縁部外面は回転ナデ、底部の一部に回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。596 は須恵器平瓶で口頸部を欠く。肩部は強く張り出し、底は平坦である。体部外面にカキメを施し、他は回転ナデ調整を行う。597 は土師器高坏の脚部破片で、裾部に向かって緩やかに広がり、端部はやや下方へ屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。598～600 は土師器甕である。598 の胴部外面は摩耗のため調整不明で、口縁部内外面ともにヨコナデ、胴部内面はケズリ後ナデ調整を行う。599 は内外面ともにヨコナデ調整を行う。600 の口縁部外面はヨコナデ、胴部の上部から中ほどまでハケメ、下部はハケメ後ナデ、内面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてケズリ調整を行う。601 は土師器の把手付きの甕である。把手は胴部中ほどに付いており、把手が付いている箇所から底部に向かってすぼまる。外面はヨコナデ、ナデ、内面はヨコナデ、ケズリ後ナデ調整を行う。602 は土師器甕の鏝部破片である。鏝部破片は長く開いている。603 は胴部が直線的であることから土師器甕と考えられる。外面にわずかであるがタタキがみられ、内面は摩耗のため調整不明である。

SK1115 土坑 (図 56)

調査区南西部、SK1004 の南側に位置する。SK1004 より小さいが、他の土坑と比べると大型の土坑の部類に入る。SK1004 と同様、豊富な須恵器や土師器のほか、墨書土器が出ている。また、須恵器の中でも大型の蓋と高坏に「養父」という共通する地名が書かれ、書き方も似ていることから同一の人物が書いた墨書土器が出土しており、吉野ヶ里遺跡と肥前東部地域との関係性が窺える資料である。出土遺物から概ね 8 世紀代に収まる時期ではあるが、主体は 8 世紀後半と考えられる。

SK1115 出土遺物 (図 66～図 72,)

604～617 は須恵器蓋である。604 はかえりが口縁端部より下に出ている。605 は口縁端部を鳥嘴状につくり、

SK1115

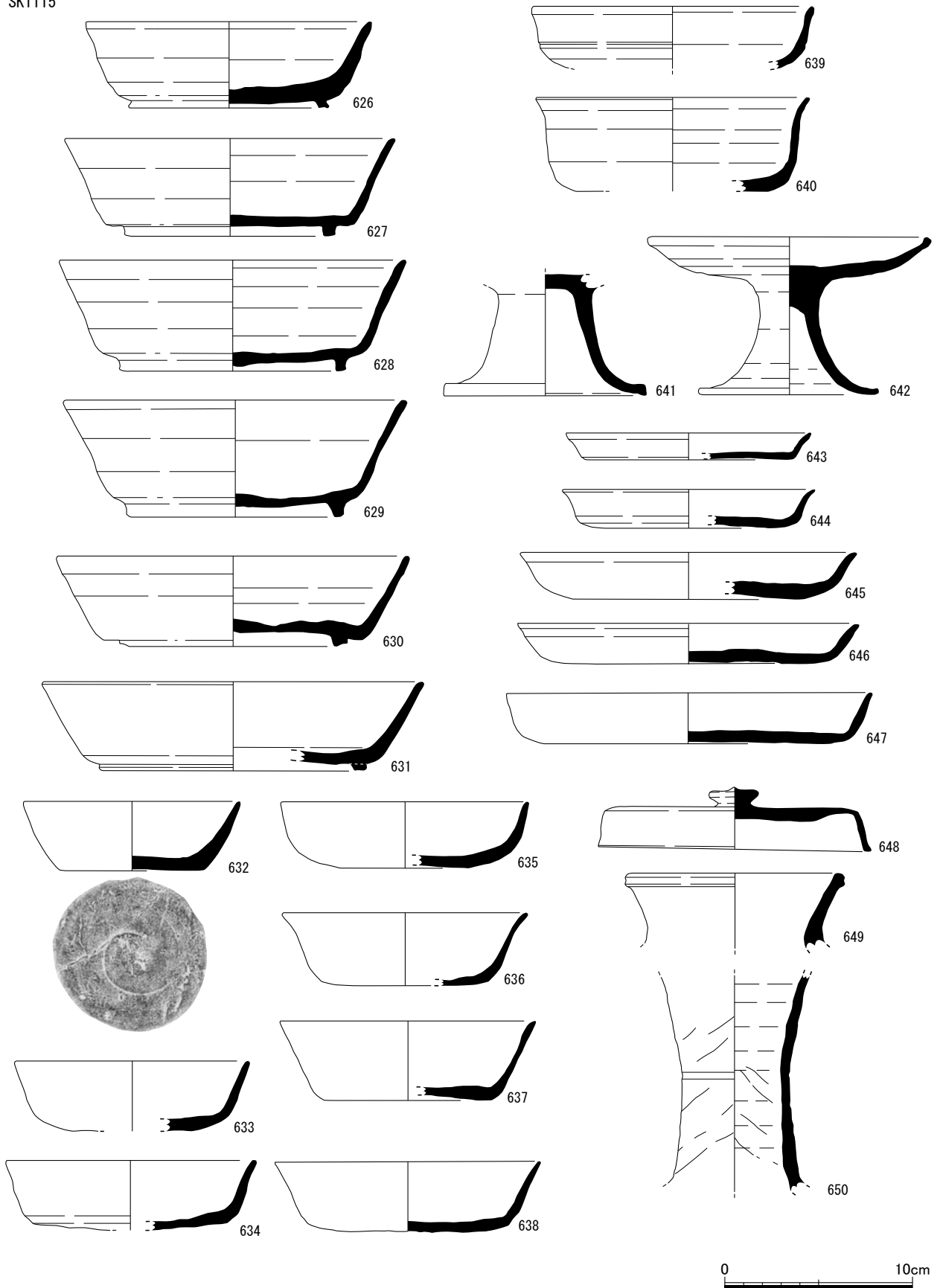


図 67 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 29 (1/3)

SK1115

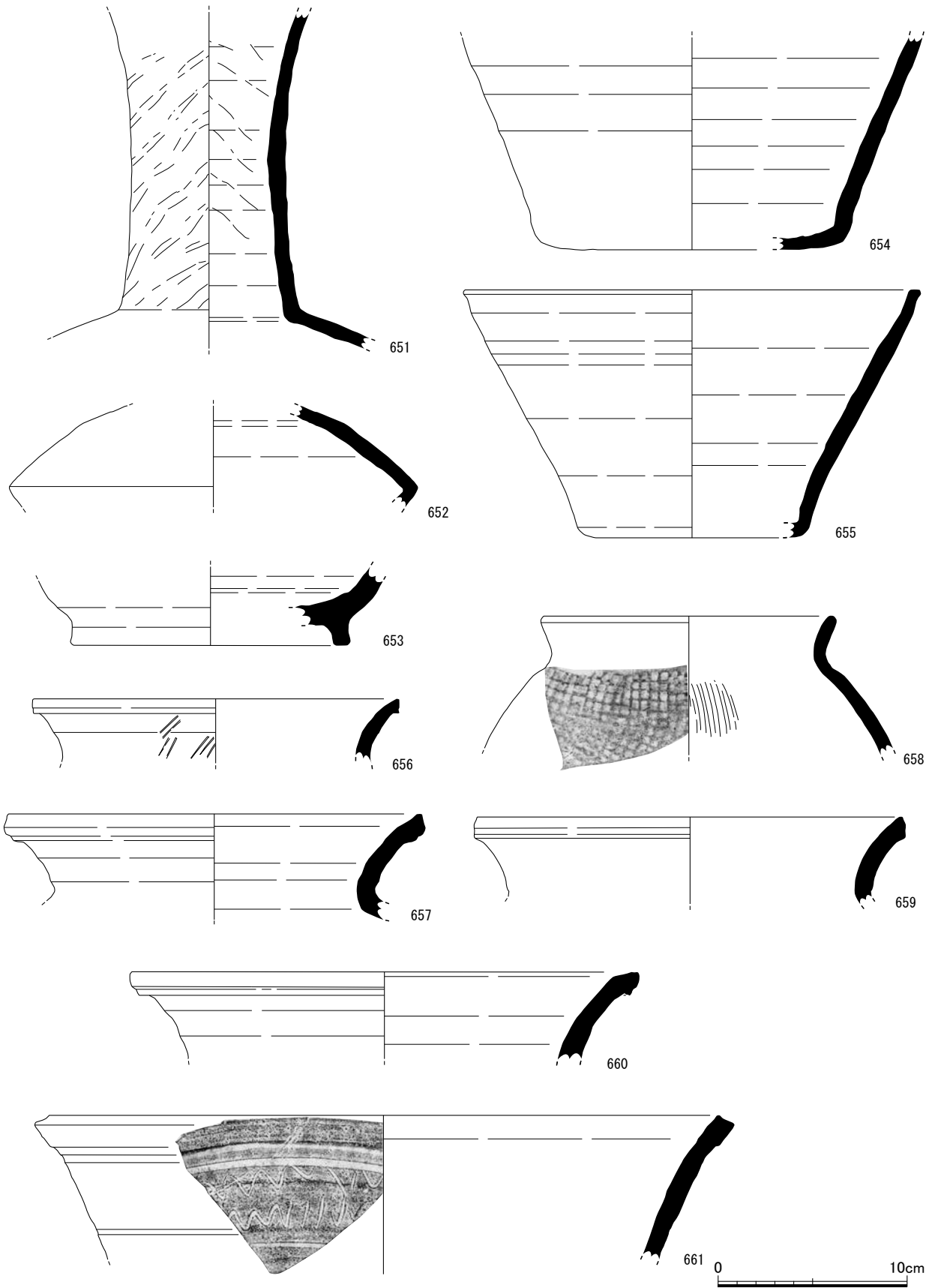


図 68 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 30 (1/3)

SK1115

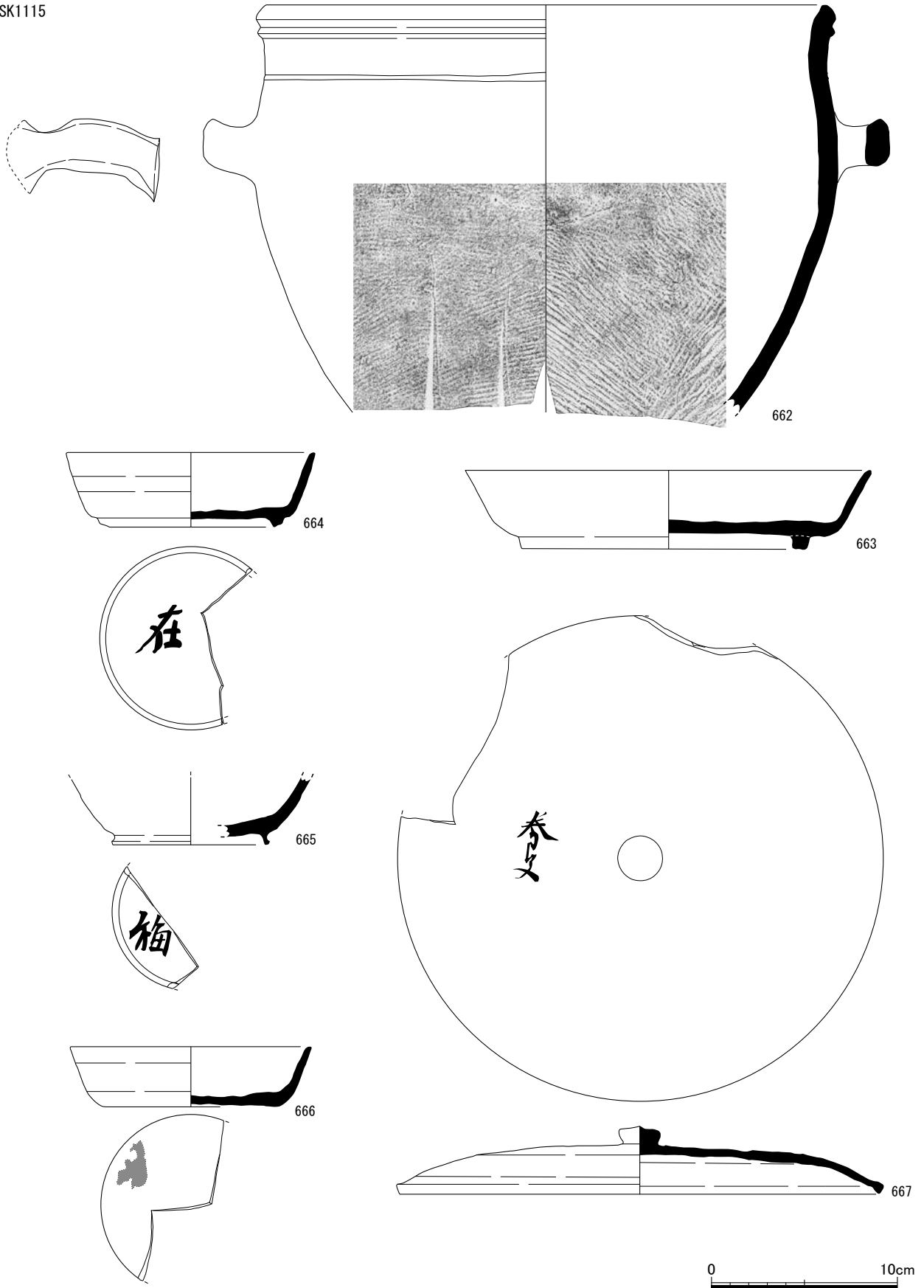


図 69 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 31 (1/3)

天井部付近で器壁が厚くなる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。606は扁平で低いつまみをもち、口縁端部を下方へ屈曲させる。天井部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面はナデ調整を行う。外面には灰かぶりがみられる。607は扁平で低いつまみをもち、器壁が厚く、口縁部に向かってやや薄くなり、端部の屈曲はみられない。焼成不良である。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。608は低く、中央がやや尖るつまみをもつ。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、他は摩耗のため調整不明である。外面は灰かぶりがみられる。609は低く、中央がやや尖るつまみをもち、口縁端部を肥厚させる。610は口縁部に段を有し、端部は短くやや外側に屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。611はやや高いつまみをもち、天井部から口縁部にかけて緩やかに伸び口縁端部は短く屈曲する器形である。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。焼成不良である。612は焼き歪みにより、中央が窪んでいる。つまみは低く、中央が凹む形状である。613、614はやや器高が高く、口縁部は長い。全体的に丸みを帯びた形状である。焼成不良である。614は宝珠状のつまみを有する。外面は回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面はナデ調整を行う。内外面ともに丁寧な仕上げをしている。615はやや高いつまみをもち、天井部が厚い蓋である。口縁端部は短く屈曲する。616は中央が尖る高さのあるつまみをもち、口縁端部は明瞭に下方へ屈曲する。617は天井部が高く、器壁がほぼ均一である。607、609、612、615、616、617のつまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。618～640は須恵器坏である。体部の立ち上がりは618、622、625、626はやや内湾し、619、621、627～631は直線的、620、624はやや外反しながら立ち上がる。623はやや深い形状をなし、口縁部がやや外反する特徴をもつ。高台は底部外縁に付く。また、618、622は高台が隅丸形状で、その他は台形状、逆台形、方形の高台をもつ。618、619、622、626、627、628、629、630の底部外面はナデ、高台直上には回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。620、623、624、625の底部外面はナデ、高台直上に一部回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。621、625の底部外面はヘラ切り後未調整、高台直上に一部回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。631は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。焼成不良である。632～640は高台を持たない坏である。636、637はやや深い形状を示す。立ち上がりは632はやや内湾し、633、637は直線的に、634、636、638、639は口縁部や端部が外反しながら開く形状である。634は焼成不良である。635は底部と口縁部に境を持たず、丸みを帯びた形状である。632の底部外面はヘラ切り後未調整、底部と口縁部の境に一部回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。633、634、635、636、637、638、640は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。639は内外面ともに回転ナデ調整を行う。641、642は須恵器高坏である。641は高坏脚部で、裾部がやや下方へ屈曲する。焼成不良である。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。642の坏部は皿状に開き、口縁端部が内傾する。脚部は裾部に向かって緩やかに開く。坏部外面は回転ナデ、内面はナデ、脚部内外面ともに回転ナデ調整を行う。643～647は須恵器皿である。643、644は口縁部が外反し、643は底部と体部の境が明瞭である。647は直線的に開く形状である。645～647は体部下端が丸い。643は内外面ともに回転ナデ調整を行う。644、647は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。645の底部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。焼成不良である。646の底部外面はナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。648は壺類の須恵器蓋と考えられる。扁平な宝珠状のつまみをもち、口縁部が下方へ長く伸びる。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。649～653は須恵器壺である。649は口縁部破片で、端部を肥厚させ段を有する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。650、651、652は長頸壺で、650は内外面ともにシボリ後回転ナデ調整を行う。口頸部中央に沈線1条がまわる。651の口頸部は内外面ともにシボ

SK1115

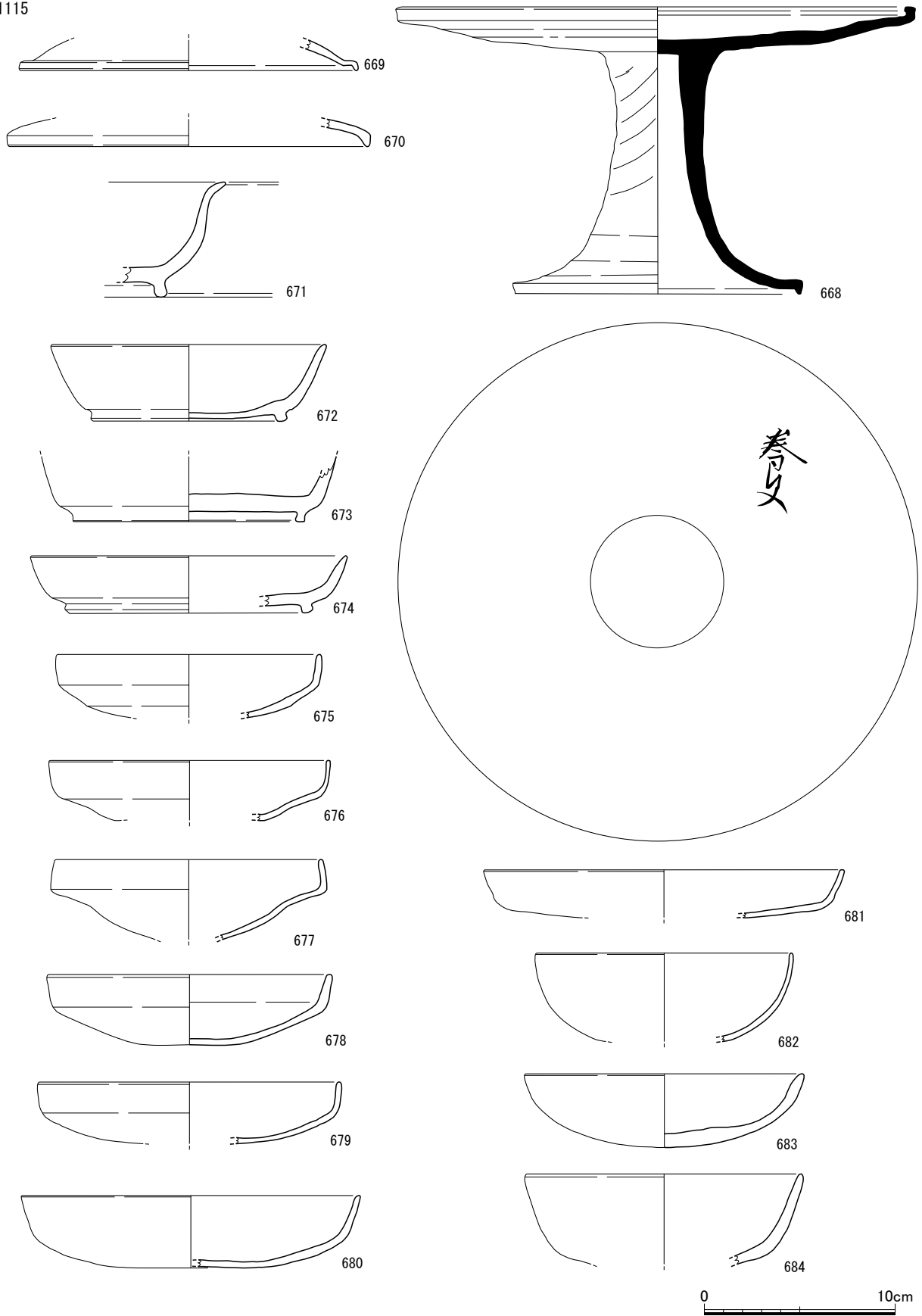


図 70 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 32 (1/3)

SK1115

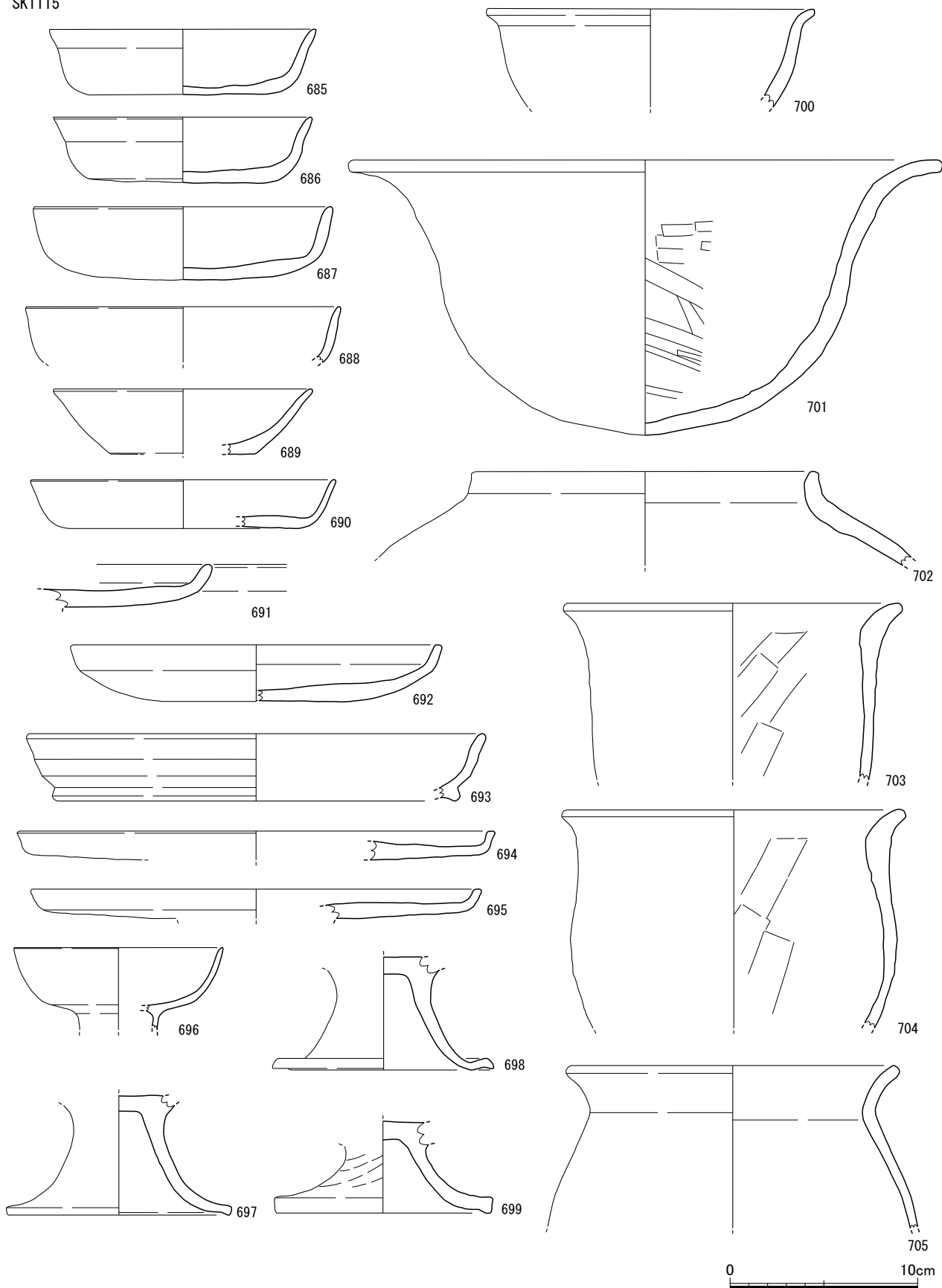


図 71 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 33 (1/3)

SK1115

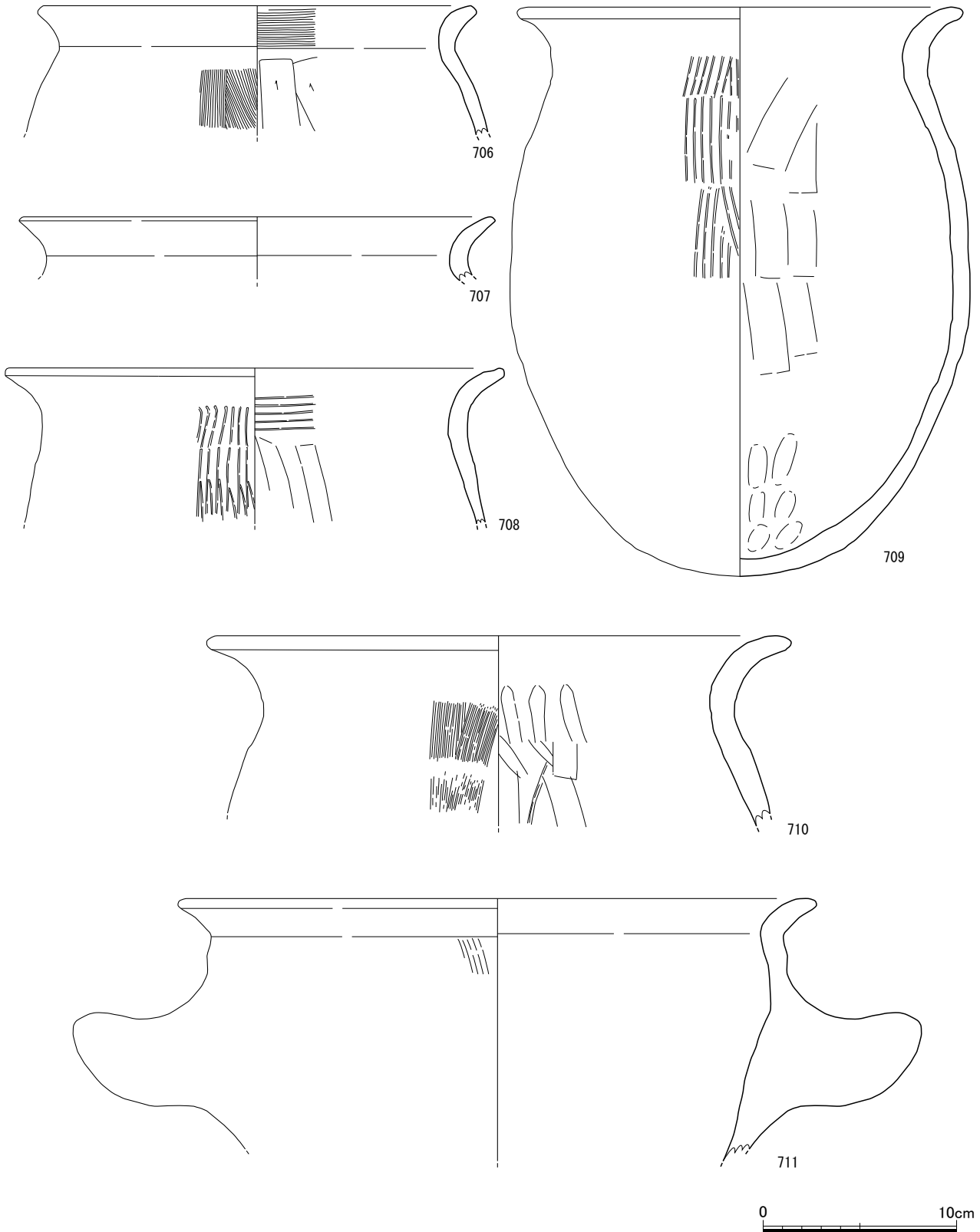
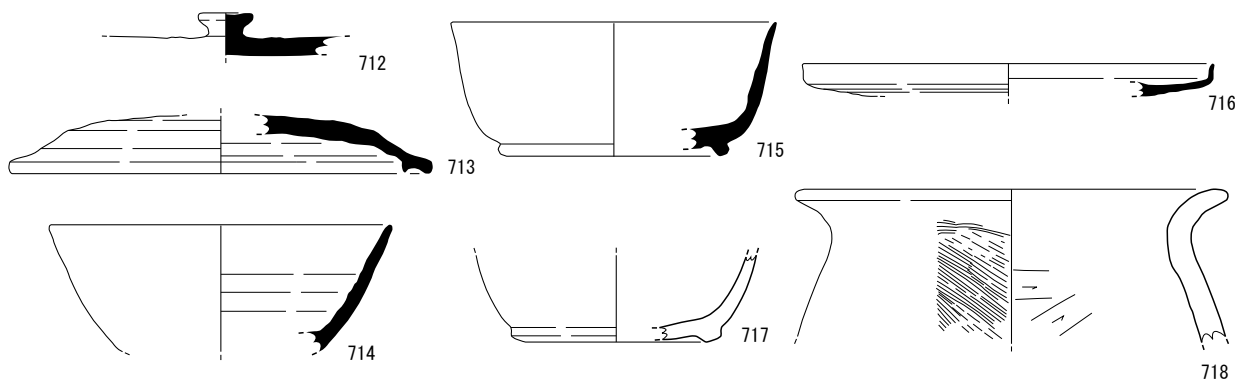
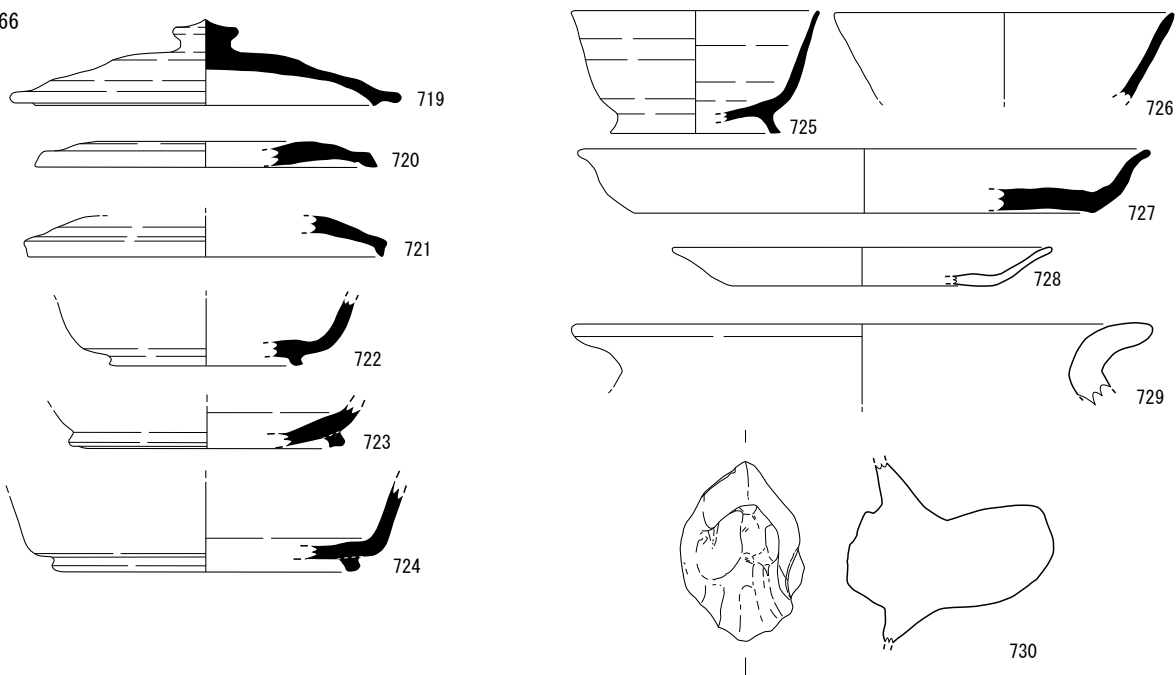


図 72 志波屋四の坪地区 I 区 出土遺物 34 (1/3)

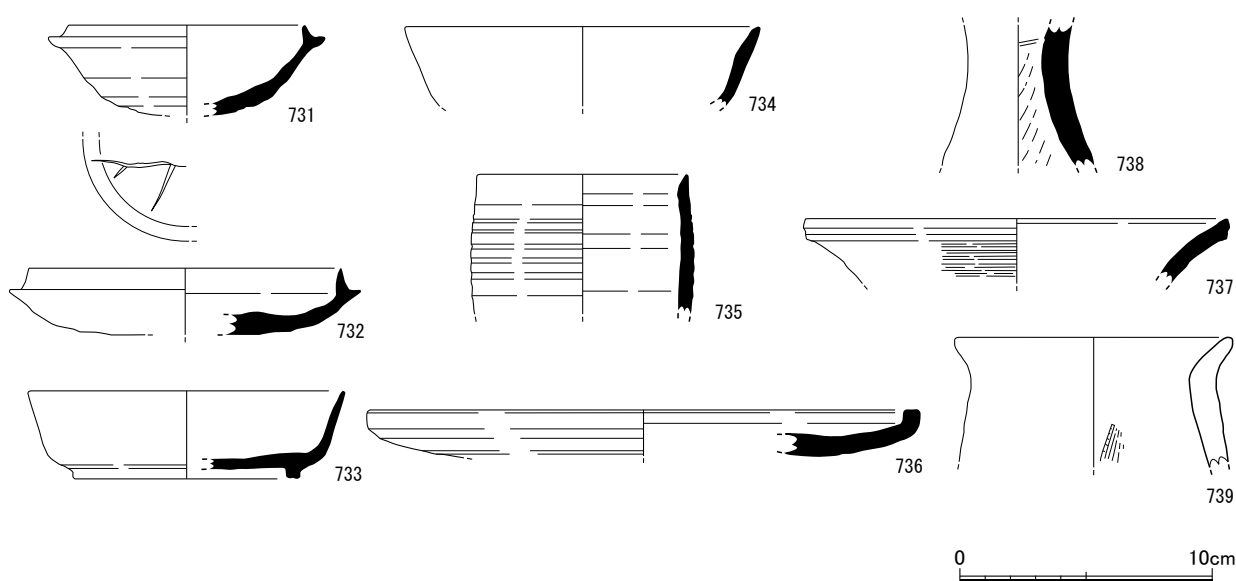
SK1165



SK1166



SK1167



0 10cm

図73 志波屋四の坪地区I区 出土遺物35 (1/3)

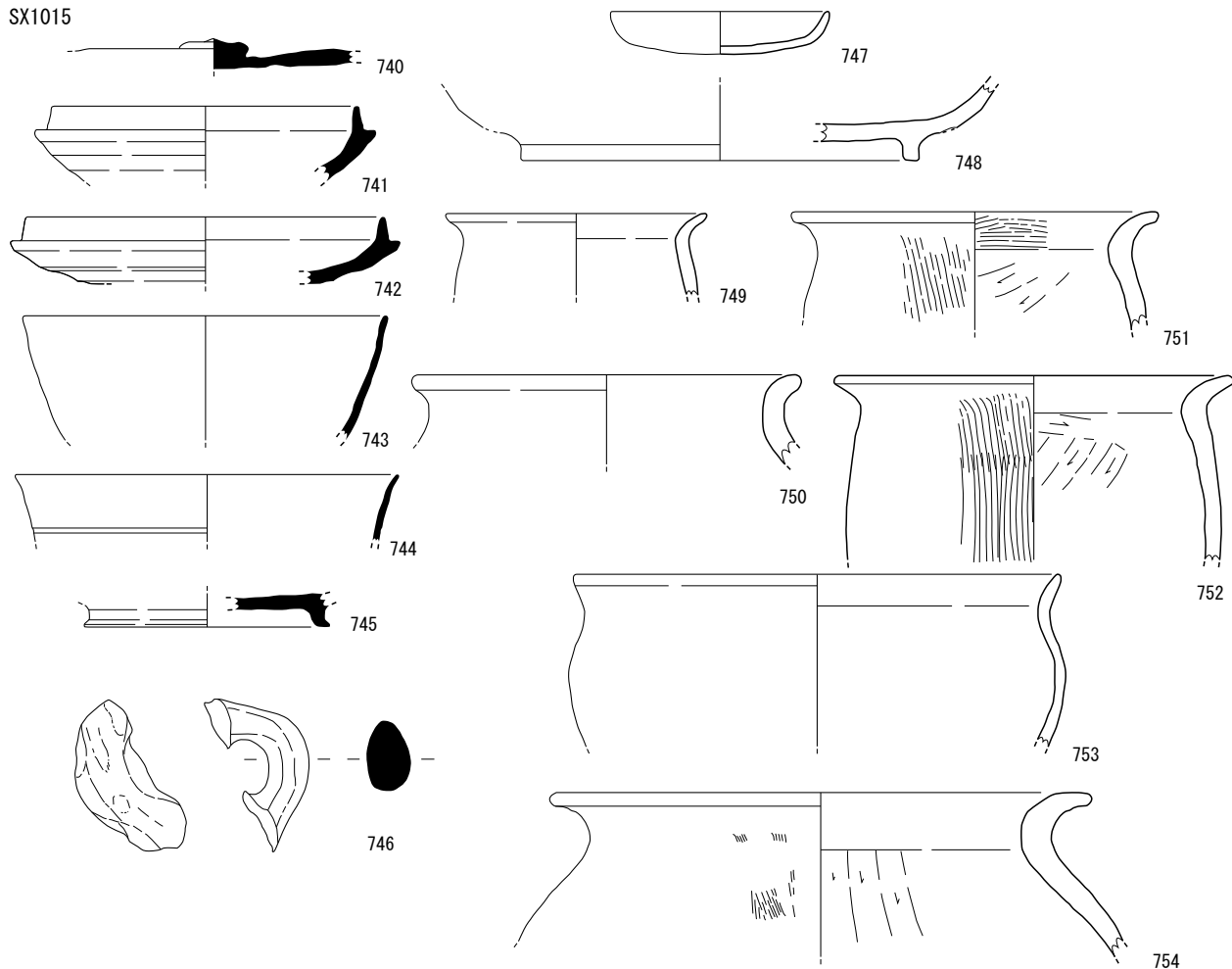
表 4 志波屋四の坪地区 I 区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK1004	不整形	7.7	6.2	台	1.1	2.2	1.7	SJ1162		8c 前半～9c 初頭	
SK1011	不整形	3.3	1.2 上 2.5 下	方	0.6	2.9	2.5			8c 後半	
SK1012	隅丸長方形	2.8	2.4	方	0.7	2.6	2.2			7c 前半	
SK1014	不整形	4.2	2.9	台	0.4	2.6	1.8			7c 前半	
SK1046	楕円形	3.2	2.4	台	0.7	2.6	1.6			7c	
SK1115	不整形	4.4	3.6	台	1.0	2.1	1.8	SJ1162		8c	
SK1165	隅丸長方形	1.6	1.2	方	0.4	1.5	1.1	SD1116		7c～8c	
SK1166	不整形	2.0	1.4+	方	0.1	2.0	1.3			7c～8c	
SK1167	長方形に近い	1.5	1.1	台	0.4	1.1	0.7			7c～8c	

り後回転ナデ、胴部は回転ナデ調整を行う。652 は胴部が張り、屈曲する。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。653 は壺系の底部で、高台や底部の器壁が厚い。内外面ともに回転ナデ調整を行う。654、655 は須恵器鉢で、底部より直線的に口縁部へ向かって開く。654 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。655 は底部付近に一部回転ヘラケズリ、内外面ともに回転ナデ調整を行う。656～661 は須恵器甕である。656 は口縁部破片で、口縁部側面を平坦につくる。外面はハケ状の工具痕が残り、内面は回転ナデ調整を行う。657、659 は口縁部を肥厚させ、やや強い回転ナデによる段を有する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。658 は焼成不良で、頸部から口縁部は短く開き、端部を丸く仕上げる。内口縁部外面は回転ナデ、体部外面は目が粗い格子状のタタキ、内面はハケ状の工具痕が残る。660、661 は口縁部を突帯状に仕上げる。660 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。661 の口縁部外面は回転ナデ、口頸部に櫛描波状文、その上下には浅い沈線を施す。662 は須恵器鉢で、口縁下部には断面三角形の突帯を付け、胴部中位には半円状の横位の把手を貼り付ける。口縁部外面は回転ナデ、把手より下部は平行タタキ、口縁部内面は回転ナデ、工具ナデ、胴部下部は平行タタキ状のオサエを行う。663 は須恵器脚付きの盤である。高台は方形で接地部分は面をなし、底部のやや内側に付く。口縁部は直線的に開く。焼成不良である。内外面に重ね焼きの痕がみられる。口縁部外面は回転ナデ、体部下端から底部にかけてヘラ切り離し後回転ヘラケズリ、高台周辺は回転ナデ、内面口縁部は回転ナデ、底部はナデ調整を行う。664、665、667、668 は須恵器杯の墨書土器、666 は転用硯である。664 の高台は外側に張り出し、口縁部は直線的に開く。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。底部外面に「在」という墨書がみられる。665 の高台は薄く、底部と口縁部に明瞭な境を持たない。内外面ともに回転ナデ調整を行う。666 は高台を持たない杯である。内面に墨が残るため転用硯とした。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。667 は大型の須恵器蓋で、やや小型の宝珠状のつまみをもち、口縁部は肥厚する。つまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。外面の一部にひだすきの痕が残る。天井部外面に「養父」という墨書がみられる。668 は大型の須恵器高杯で、杯部は水平近くに開き、口縁部は垂直に短く立ち上がる。脚部は裾部で大きく開き、端部は鳥嘴状に屈曲する。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部外面は回転ナデ、杯部内面は回転ナデ、ナデ、脚部内外面ともにシボリ後回転ナデ、回転ナデ調整を行う。底部外面には「養父」という墨書がみられる。

669、670 は土師器蓋である。669 は鳥嘴状に口縁部をつくる。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。670 は口縁部を下方へ屈曲させる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。671～690 は土師器杯である。685、686 は焼成不良の須恵器の可能性が有る。671 の口縁部は如意形を呈し、高台は丸く仕上げる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。672、673、674 の高台は低く、672、674 の口縁部は直線的に開き端部を薄くする。672 の底部外面は回転ナデ、他は摩耗のため調整不明である。673 は底部外面は回転ヘラケズリ、高台周辺は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。体部は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。674 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。675～678 は底部は丸く、口縁部との境で屈曲し、直口する杯である。特に677 はその特徴が顕著に表れている。675 の外面はナデ、内面は回転ナデ調整を行う。676 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。677、678 の底

SX1015



SX1019

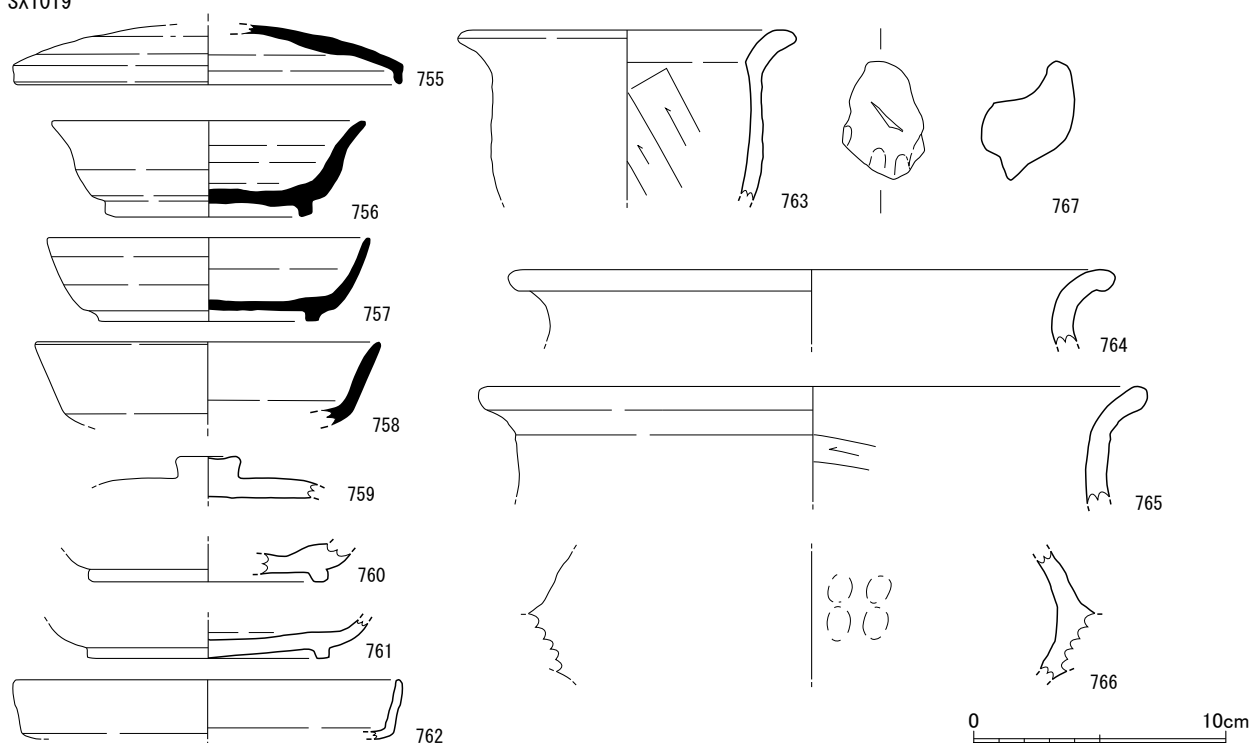


図74 志波屋四の坪地区I区 出土遺物36 (1/3)

部外面は静止ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。679、680、683、684は底部から緩やかに開く器形である。679、680の底部外面は静止ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。683の外面は摩耗のため調整不明で、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。684は内外面ともに摩耗のため調整不明である。681は皿状に開いた坏である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。682は全体的に丸みを帯び、器壁が薄い器形である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。685～687、690は箱型に近い形状をする。685、686、687、690は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。688は内外面ともに回転ナデ調整を行う。691～693は土師器皿である。691は口縁部破片で、外面にわずかにミガキがみられ、回転ナデ、内面はミガキ調整を行う。692は内外面ともに摩耗のため調整不明である。693は高台付きの口径が20cmを超える大型の皿である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。694～699は土師器高坏である。699は焼成不良の須恵器の可能性ある。694、695は高坏の坏部で水平近くを開き、口縁端部は垂直に短く立ち上がる。696の坏部は丸く立ち上がる形状をもつ。697～699は脚部破片で、698の脚端部は鳥嘴状を呈し、下方へ屈曲させる。699は内外面の色調は白色系で、調整方法が須恵器に似ているため、焼成不良の須恵器の可能性ある。694、695、696、698は内外面ともに摩耗のため調整不明である。697は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。699は外面はシボリ後回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。700は土師器鉢で、口縁端部を外反させる。内外面ともにナデ調整を行う。701は土師器鍋である。底部は半球対を呈し、口縁部は緩やかに外反する。外面はナデ、体部内面はケズリ、口縁部はナデ調整を行う。702は土師器壺で、口縁部は頸部より短く立上り、頸部より下は大きく広がるものと考えられる。外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。703～711は土師器甕である。703、704、705の胴部外面はナデ、口縁部はヨコナデ、内面はケズリ調整を行う。706、708の胴部外面はハケメ、口縁部はヨコナデ、口縁部内面の一部にハケメ、ヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。707は内外面ともに摩耗のため調整不明である。709の口縁部外面はヨコナデ、胴部上位にはハケメ、下位は摩耗のため調整不明で、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ、底部は指オサエがみられる。710は胴部外面はハケメ、口縁部はヨコナデ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。711は把手付きの甕で、口縁部外面はヨコナデ、頸部直下にハケメ、口縁部内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。

SK1165 出土遺物 (図 73)

712、713は須恵器蓋である。712は高いつまみをもつ。外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。713はかえりが口縁部の内側におさまる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。714、715は須恵器坏である。714は直線的に立ち上がる。715は直立気味に立ち上がり、やや深い器形をなす。高台は低く、外側に張り出す。口縁部は端部で細くなり、わずかに外反する。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。716は須恵器高坏の坏部で、平坦で浅い。口縁部は垂直に短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。717は土師器坏で、高台がかなり低く、外側を向く。内外面ともに摩耗のため調整不明である。718は土師器甕で、胴部外面にハケメ、内面はケズリ、他は摩耗のため調整不明である。

SK1166 出土遺物 (図 73)

719～721は須恵器蓋である。719はやや低い宝珠状のつまみをもち、かえりは口縁部より下に突出する。720は中央が窪み、口縁部は外傾する。721は口縁部を下方へ強く屈曲させる。719の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。720、721は内外面ともに回転ナデ調整を行う。722～726は須恵器坏である。722～725は高台付坏である。722～724の高台は低く、外側に張り出す。725は小型で直線的に立ち上がるやや深い形

SX1020

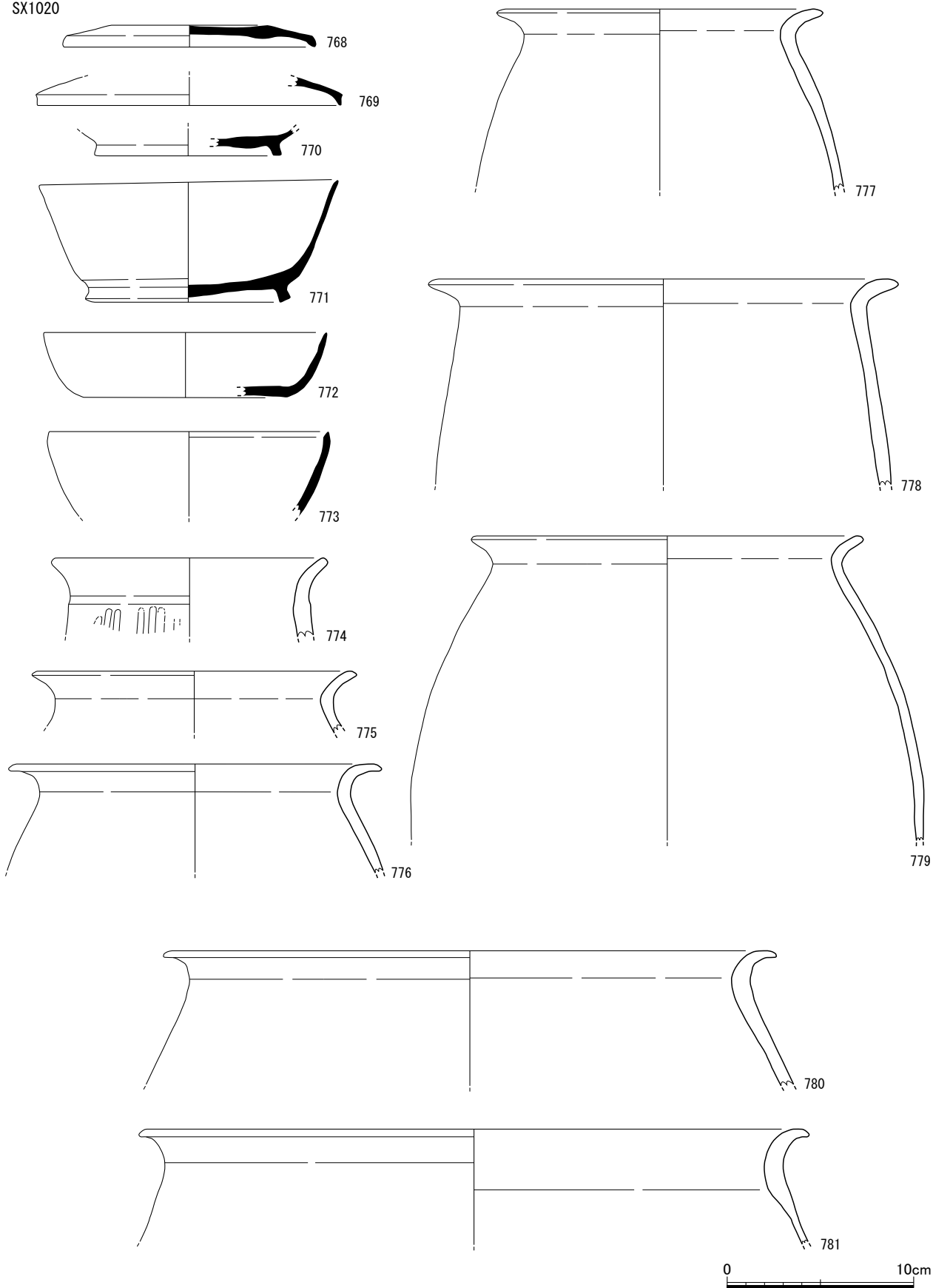


図75 志波屋四の坪地区I区 出土遺物37 (1/3)

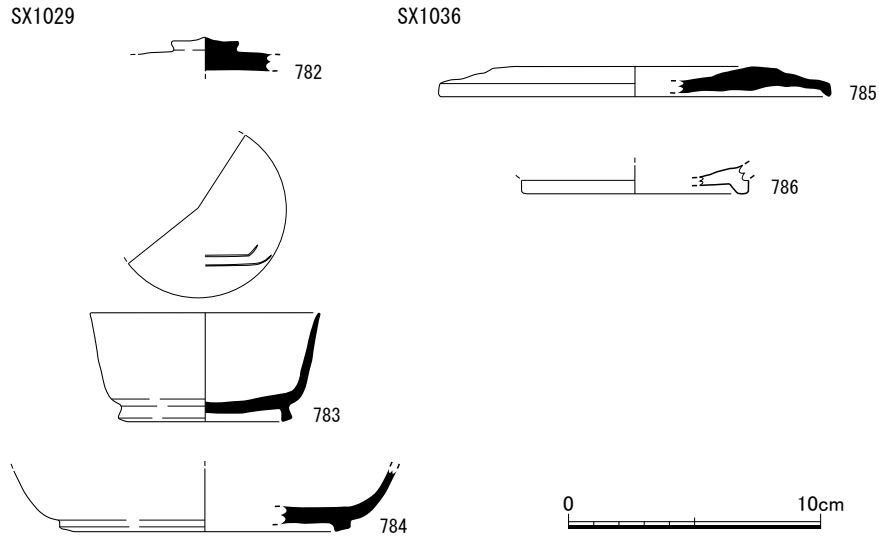


図 76 志波屋四の坪地区Ⅰ区 出土遺物 38 (1/3)

状をなす。高台は高く接地部分は面をなし、口縁部は端部に向かって薄くなる。726 は直線的に立ち上がる口縁部付近の破片である。いずれも内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。727 は須恵器皿で、底部は厚く、口縁部は外反しながら開く。内外面ともに回転ナデ調整を行う。728 は土師器皿で、全体的に器壁が薄い。729 は土師器甕である。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。730 は土師器の把手である。

SK1167 出土遺物 (図 73)

731～734 は須恵器杯である。731、732 は蓋杯である。731 はやや深く小型品である。底部は丸く、口縁部の受部が短い。底部外面に交差する 2 本のヘラ記号がみられる。732 は底部は平たく、口縁部は垂直に立ち上がる。733 の高台は低く、口縁部は直線的に立ち上がる。731～733 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。734 は口縁部破片である。内外面ともに回転ナデ調整を行う。735 は須恵器鉢で、口縁端部に向かって薄くなり、体部に 5 本の沈線がみられる。736、737 は須恵器高杯である。736 は器壁が厚く、杯部は浅く水平に開き、口縁端部は垂直に短く立上り、端部を平坦に仕上げる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。737 は脚部破片で、外面は回転ナデ、内面にはシボリがみられる。738 は須恵器壺の口縁部で、口縁端部に段をもつ。内外面ともに回転ナデ調整を行い、外面の一部にカキメがみられる。高杯の脚部の可能性も考えられる。739 は土師器甕である。内外面ともに摩耗のため調整不明であるが、内面の一部にハケメがわずかに確認できる。

G 不明遺構

古代の不明遺構は 5 基確認された。

SX1015 出土遺物 (図 74)

740 は須恵器杯蓋で、低く中央がやや膨らむつまみをもつ。内外面ともに回転ナデ調整を行う。741～745 は須恵器杯である。741、742 は古墳時代の受部をもつ杯身で、どちらも受部は短い。743、744 は口縁部で、いずれも器壁は薄く、744 の端部はやや外反する。745 は底部に高台をもつ。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。746 は須恵器の把手で、半円状のつくりとなる。747 は土師器皿で、丸みを帯びた形状である。748 は土師器杯または高台付きの皿である。高台はやや高く、接地部分は面をなす。747、748 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。749～754 は土師器甕である。749、750、753 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。751 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、口縁部内面の一部にハケメ、胴部はケズリ調整を行う。752、754 の口縁部外面は

ヨコナデ、胴部はハケメ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。

SX1019 出土遺物（図 74）

755 は須恵器蓋で、つまみをもつかは不明である。天井部から口縁部にかけて直線的に開き、口縁部は下方へ屈曲させる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。756～758 は須恵器坏で、756 は丸い体部をもち、口縁部は外反する。高台は低く、内側で接地する。断面台形状を呈す。全体的に器壁が厚い。757 は内湾気味に立ち上がる。高台の接地部分は面をなす。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。759 は土師器蓋で、高く中央が少し窪む。760～762 は土師器坏で、761 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。762 は底部より、口縁部が直角に立ち上がる箱型を呈す。759、761、762 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。763～766 は土師器甕で、766 は把手が張り付いていた痕を残す。763、765 は外面は摩耗のため調整不明で、内面はケズリ調整を行う。764、766 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。767 は土師器の把手である。

SX1020 出土遺物（図 75）

768、769 は須恵器蓋である。768 はつまみをもたない蓋である。口縁部はやや外傾する。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。769 は鋭く屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。770～772 は須恵器坏である。770 は高台付坏で深い。高台は内側で接地する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。771 の口縁部の器壁は薄く、高台はやや高く、外側へ張り出す。772 は高台をもたない坏である。やや内湾気味に立ち上がりやや浅い。口縁端部を薄く仕上げる。771、772 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。773 は須恵器鉢である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を平坦に仕上げる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。774～781 は土師器甕である。774 の胴部外面には太いハケ状の工具痕が残る。他は摩耗のため調整不明である。775～781 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SX1029 出土遺物（図 76）

782 は須恵器蓋のつまみ付近の破片である。低く中央がやや尖る。つまみはナデ、天井部は回転ヘラケズリ、内面はナデ調整を行う。783、784 は須恵器高台付坏で、783 はほぼ直立して立ち上がり深い形状をもつ。小型品である。底部内面に平行する 2 本のヘラ記号が認められる。784 は低く扁平な高台をもつ。いずれも内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。

SX1036 出土遺物（図 76）

785 は須恵器蓋で、中央が窪む。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。786 は土師器坏である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

（3）志波屋四の坪地区 I 区南部の古代の遺構について

志波屋四の坪地区 I 区(南部)では、7 世紀前半から 9 世紀初頭にかけての遺構を確認した。掘立柱建物 19 棟、溝 9 条、井戸 5 基、道路 1 本、竪穴建物 6 軒、土坑 9 基に及んだ。

7 世紀代の遺構は調査区南西部に集中しており、8 世紀代の遺構は東側に寄っている。本調査区は南北に長くその中央よりやや南側に SF1008 官道が位置する。SF1008 官道を挟むように SD1007 北側溝、SD1006 南側溝がはしる。また SD1007 北側溝から接続するように北東へ SD1043 溝が延び、SE1119 井戸へと繋がる。

掘立柱建物が集中する東側は2×2間の総柱建物が中心で、側柱建物は1棟である。また、いずれの掘立柱建物も主軸方向を揃える群は確認できないが、SB0791はSF1008官道に向けて主軸方向を合わせている。どの掘立柱建物も規模や掘方の大きさから8世紀代の建物と推定され、SB0791だけ異なるため、後出する建物の可能性がある。これに対し南西部の掘立柱建物のSB1022とSB1023は主軸方向を揃えており、周辺のSB1024やSB1025も同時期の建物と考えられる。SB1022、1023、1024、1025、1026掘立柱建物の辺りは周辺に比べ約50cm高く、その東側には7世紀前半から8世紀後半までのSD1021溝がSB1022とSB1023の主軸方向に並行する形で位置している。確認されている建物や溝が一部であるため全容は掴めないが、何らかの形で基壇状に高くなり、この建物群を区画しているようにも考えられる。時期的にも7世紀代の遺構が南西部に偏っており、官道敷設時との関連性が指摘される。これらの建物群を両側に調査区南部に大型の土坑(SK1004とSK1115)があり、SK1004土坑は7世紀前半から9世紀初頭、SK1115土坑は7世紀後半から8世紀後半という時期幅をもつが、遺物の出土量から両土坑の主体的な時期は8世紀後半と推定される。東側の掘立柱建物群は地形的に標高が高い場所に位置しており、官道との標高差は1.8m前後と官道をやや見下ろす形で建物群が存在していたと考えられる。

竪穴建物は概ね8世紀代に建てられ、平面形は正方形や長方形を呈し、1辺が約5mのものが多く、調査区南西部と南東部に位置する。SH1013、1016、1017、1018は8世紀以降の掘立柱建物が建てられた後に造られる。

表5 志波屋四の坪地区I区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 31-1	88002318	SB0792	須恵器	坏		6.4*	1.5+	灰	灰	
図 31-2	88002319	SB0793	土師器	鉢	12.0*		4.6+	明褐	明褐	
図 31-3	88002320	SB0794	須恵器	蓋	16.0*		1.6+	灰	灰	
図 31-4	88002321	SB0798	土師器	甗	18.0*		4.8+	褐	褐	
図 31-5	88002322	SB0803	土師器	皿	11.8*	10.4	1.7	明黄	明黄	
図 31-6	88002324	SB0803	土師器	甗		10.8*	7.1+	明褐	明褐	
図 31-7	88002390	SB0805	須恵器	坏			1.8+	灰・灰白	灰・灰白	
図 31-8	88002391	SB0805	須恵器	壺			3.6+	暗灰・黒	暗灰・黒	
図 31-9	88002392	SB0805	須恵器	坏			1.1+	灰	灰	
図 31-10	88002393	SB0805	須恵器	壺			1.7+	暗灰	暗灰	
図 31-11	88002395	SB0805	土師器	甗	12.8*		3.2+	暗橙	暗橙	
図 31-12	88002396	SB0805	土師器	甗			6.9+	褐	褐	
図 31-13	88002394	SB0805	土師器	甗	14.0*		7.5+	暗赤茶	暗赤茶	
図 31-14	88002399	SB0805	土師器	把手			4.0+	赤橙	赤橙	
図 31-15	88002400	SB1022	須恵器	蓋			1.5+	灰	灰	
図 31-16	88002407	SB1023	須恵器	坏			0.9+	灰	灰	
図 31-17	88002401	SB1023	須恵器	坏			3.1+	灰白	灰白	
図 31-18	88002402	SB1023	土師器	坏			2.7+	橙・赤橙	橙・赤橙	
図 31-19	88002403	SB1024	須恵器	蓋			1.9+	暗灰・赤紫	暗灰・赤紫	
図 31-20	88002405	SB1025	須恵器	蓋	13.6*		1.6+	灰	灰	
図 31-21	88002406	SB1025	須恵器	蓋			1.3+	暗灰	暗灰	
図 31-22	88002327	SB1026	須恵器	蓋	15.8*		1.1+	灰	灰	
図 31-23	88002328	SB1026	須恵器	坏		10.4*	1.2+	灰	灰	
図 31-24	88002325	SB1026	須恵器	坏	10.6*		3.6+	黒灰	黒灰	底部外面にヘラ記号
図 31-25	88002326	SB1026	須恵器	鉢	11.2*		3.7+	淡灰	淡灰	
図 31-26	88002329	SB1026	土師器	甗	20.2*		3.5+	黄褐	黄褐	
図 31-27	88002330	SB1026	土師器	坏		7.6*	2.0+	橙	橙	
図 33-28	88003949	SD1006	須恵器	蓋	12.4*		3.5+	灰	灰	
図 33-29	88003947	SD1006	須恵器	蓋			1.6+	淡灰	淡灰	
図 33-30	22000277	SD1006	須恵器	坏			1.6+	灰	灰	
図 33-31	88003948	SD1006	須恵器	坏		5.2*	1.4+	灰	灰	
図 33-32	88003946	SD1006	須恵器	甗			6.4+	暗灰	暗灰	底部外面にヘラ記号
図 33-33	88003951	SD1006	土師器	甗	16.6*		6.2+	淡橙	淡橙	
図 33-34	88003953	SD1006	土師器	高坏		16.4*	3.6+	淡褐	淡褐	
図 33-35	88003952	SD1006	土師器	把手			5.5+	淡褐	淡褐	
図 33-36	88003979	SD1007	須恵器	蓋	11.4*		3.7+	暗灰	暗灰	
図 33-37	88003978	SD1007	須恵器	蓋	12.0*		3.5+	暗灰	暗灰	
図 33-38	88003973	SD1007	須恵器	蓋	12.0*		3.2+	暗灰	灰	
図 33-39	88003977	SD1007	須恵器	蓋	13.0*		1.9+	灰	灰	
図 33-40	88003976	SD1007	須恵器	蓋	12.0*		1.4+	灰	灰	
図 33-41	88003996	SD1007	須恵器	蓋	16.0*		1.5+	暗灰	暗灰	

図 33-42	88003969	SD1007	須恵器	坏	8.0*		2.5	灰	灰	
図 33-43	88003970	SD1007	須恵器	坏	10.0*		2.8+	暗灰	暗灰	
図 33-44	88003972	SD1007	須恵器	坏	10.4*		3.0+	紫灰	紫灰	
図 33-45	88003971	SD1007	須恵器	坏	13.0*		2.8+	灰褐	灰褐	
図 33-46	88003968	SD1007	須恵器	坏	12.2*		3.7	灰	灰	
図 33-47	88003974	SD1007	須恵器	坏	12.0*		3.4+	灰	灰	
図 33-48	88003975	SD1007	須恵器	坏	14.0*		2.8+	暗灰	暗灰	
図 33-49	88003987	SD1007	須恵器	坏		6.0*	1.3+	暗灰	暗灰	
図 33-50	88003985	SD1007	須恵器	坏		6.8*	1.5+	灰	灰	
図 33-51	88003986	SD1007	須恵器	坏		6.4*	2.3+	灰	暗灰	
図 33-52	88003984	SD1007	須恵器	坏		7.0*	2.0+	灰	灰	
図 33-53	88003982	SD1007	須恵器	坏		8.0*	2.3+	青灰	青灰	
図 33-54	88003983	SD1007	須恵器	坏		10.0*	1.7+	暗灰	暗灰	底部外面にヘラ記号
図 33-55	88003962	SD1007	須恵器	坏		9.3*	2.2+	黄灰	黄灰	
図 33-56	88003955	SD1007	須恵器	高坏			6.1+	橙	橙	
図 33-57	88003961	SD1007	須恵器	壺		8.7*	3.6+	黄灰	黄灰	
図 33-58	88004001	SD1007	須恵器	壺	5.2*		2.1+	灰	灰	
図 33-59	22000279	SD1007	須恵器	壺			6.2+	黄灰	黄灰	
図 33-60	88003980	SD1007	須恵器	壺		9.0*	6.6+	灰	灰	
図 33-61	88003981	SD1007	須恵器	壺		10.4*	2.2+	暗灰	暗灰	
図 34-62	88003989	SD1007	須恵器	平瓶	10.8*	9.6	13.3	暗灰	暗灰	
図 34-63	88003988	SD1007	須恵器	平瓶	7.0*		13.1+	灰	灰茶	
図 34-64	88004000	SD1007	須恵器	罍			4.0+	灰	灰	
図 34-65	88003998	SD1007	須恵器	罍			5.2+	暗灰	暗灰	
図 34-66	88003999	SD1007	須恵器	罍			5.5+	灰	灰	
図 34-67	88003995	SD1007	須恵器	甗	24.0*		2.5+	暗灰	暗灰	
図 34-68	88003991	SD1007	須恵器	甗	27.6*		4.5*	暗灰	暗灰	
図 34-69	88003992	SD1007	須恵器	甗	21.0*		5.5+	暗灰	灰	
図 34-70	88003994	SD1007	須恵器	甗	32.0*		3.3+	暗灰	灰	
図 34-71	88003997	SD1007	須恵器	甗	31.8*		3.4+	淡灰	淡灰	
図 34-72	88003993	SD1007	須恵器	甗	36.0*		5.0+	灰	暗灰	
図 34-73	22000281	SD1007	須恵器	甗			8.7+	灰白	灰黄褐	
図 34-74	88003990	SD1007	須恵器	甗	16.0*		17.5+	淡灰	淡灰	
図 34-75	22000278	SD1007	須恵器	碗			3.0+	灰	灰	
図 35-76	88003958	SD1007	土師器	坏	11.0*		3.8+	赤褐	赤褐	
図 35-77	88003957	SD1007	土師器	坏	11.6		4.2+	明褐	明褐	
図 35-78	88003959	SD1007	土師器	皿	13.0*		2.0+	明褐	明褐	
図 35-79	88003956	SD1007	土師器	鉢	12.2*		5.5+	暗橙	暗橙	
図 35-80	88003954	SD1007	土師器	高坏		10.9*	5.4+	淡褐	淡褐	
図 35-81	88003960	SD1007	土師器	皿	19.6*		3.0+	明褐	明褐	
図 35-82	22000280	SD1007	土師器	鉢		12.6*	2.4+	浅黄橙	浅黄橙	
図 35-83	88003963	SD1007	土師器	甗	12.2*		5.1+	褐	褐	
図 35-84	88003964	SD1007	土師器	甗	22.2*		6.4+	黄褐	褐	
図 35-85	88003965	SD1007	土師器	甗		17.8*	10.0+	黒褐	明褐	
図 35-86	88003966	SD1007	土師器	甗			17.6+	明褐	明褐	
図 35-87	88003967	SD1007	土師器	把手			8.9+	褐	褐	
図 36-88	88004012	SD1021	須恵器	蓋	14.6*		2.2	灰	灰	
図 36-89	88004011	SD1021	須恵器	蓋	14.6*		1.8+	暗灰	暗灰	
図 36-90	88004010	SD1021	須恵器	蓋	15.2*		1.3+	灰	灰	
図 36-91	88004013	SD1021	須恵器	坏	7.6*		2.8	灰褐	紫灰	底部外面にヘラ記号
図 36-92	88004007	SD1021	須恵器	坏	13.2*	8.4*	4.0	灰・暗灰	暗灰	
図 36-93	88004008	SD1021	須恵器	坏	12.4*	7.2*	3.3	灰	黄灰・灰	
図 36-94	88004006	SD1021	須恵器	皿	15.2*	12.6*	1.9	暗灰	暗灰	
図 36-95	88004015	SD1021	須恵器	高坏			2.6+	灰白	灰白	
図 36-96	88004009	SD1021	須恵器	壺		5.0*	2.2+	暗灰	灰	
図 36-97	88004019	SD1021	須恵器	鉢	19.0*		10.6+	暗灰	青灰	
図 36-98	88004018	SD1021	須恵器	壺		11.2*	12.0+	暗灰	灰	
図 36-99	88004020	SD1021	須恵器	壺			15.9+	暗灰	灰	
図 36-100	88004017	SD1021	土師器	坏		8.4*	1.0+	淡茶・橙	淡茶	
図 36-101	88004016	SD1021	土師器	甗	24.8*		4.2+	黄褐	黄褐	
図 36-102	88004031	SD1028	須恵器	蓋	19.6*		0.9+	灰白	灰白	
図 36-103	88004032	SD1028	須恵器	蓋			1.4+	青灰	青灰	
図 36-104	88004022	SD1028	須恵器	坏			2.2+	暗灰	灰	
図 36-105	88004024	SD1028	須恵器	坏	11.4*		3.3+	褐	灰	内面にヘラ記号
図 36-106	88004021	SD1028	須恵器	坏		7.2*	4.5+	灰褐	灰褐	
図 36-107	88004026	SD1028	須恵器	皿	18.6*	15.0*	1.7+	淡灰褐	淡灰褐	
図 36-108	88004025	SD1028	須恵器	鉢		10.0*	1.9+	灰	灰	
図 36-109	88004033	SD1028	須恵器	壺		12.5*	1.4+	褐	青灰	
図 36-110	88004023	SD1028	須恵器	壺		12.0*	3.4+	灰白	灰白	
図 36-111	88004030	SD1028	須恵器	壺	19.4*		4.0+	灰・暗灰	褐	
図 37-112	88004028	SD1028	須恵器	鉢	14.4*		6.7+	暗灰	暗灰	
図 37-113	88004027	SD1028	須恵器	鉢	13.8*		4.9+	暗灰	灰	
図 37-114	88004041	SD1028	土師器	蓋			1.6+	淡黄褐	淡橙	
図 37-115	88004042	SD1028	土師器	蓋			1.9+	明淡茶	淡褐	

官道とその周辺

図 37-116	88004036	SD1028	土師器	椀		7.8*	1.5+	淡黄褐	淡黄褐	
図 37-117	88004035	SD1028	土師器	椀		7.8*	2.0+	淡黄褐	橙	
図 37-118	88004034	SD1028	土師器	杯	12.0*	6.9*	3.2+	淡黄褐	淡黄褐	
図 37-119	88004047	SD1028	土師器	皿	15.2*	11.1*	1.8+	茶白	茶白	
図 37-120	88004040	SD1028	土師器	皿	15.2*	11.4*	1.8+	明淡茶	明淡茶	
図 37-121	88004039	SD1028	土師器	皿	16.6*	11.1*	1.6+	淡橙	橙	
図 37-122	88004046	SD1028	土師器	皿	20.4*	15.0*	1.6+	明褐	淡黄褐	
図 37-123	88004037	SD1028	土師器	鉢	17.2*		2.5*	明褐	明褐	
図 37-124	88004044	SD1028	土師器	甗	22.0*		3.8+	淡茶	淡茶	
図 37-125	88004045	SD1028	土師器	甗	21.3*		6.2+	明褐	明褐	
図 37-126	88004051	SD1028	土師器	甗	28.0*		11.2+	淡黄褐	淡褐	
図 37-127	88004050	SD1028	土師器	甗			11.4+	淡黄褐	淡黄褐	
図 37-128	88004043	SD1028	土師器	土鈴			3.2+	褐	褐	
図 38-129	88004103	SD1043	須恵器	蓋	14.4*		3.0+	紫灰	紫灰	
図 38-130	88004196	SD1043	須恵器	蓋			1.6+	灰	灰	天井部外面にヘラ記号
図 38-131	88004107	SD1043	須恵器	蓋	10.4*		3.3+	灰	灰	
図 38-132	88004102	SD1043	須恵器	蓋	11.2*		3.1+	黒灰	黒灰	
図 38-133	88004098	SD1043	須恵器	蓋	11.5*		3.3+	暗灰	暗灰	
図 38-134	88004265	SD1043	須恵器	蓋	11.8*		3.8+	黒	黒	
図 38-135	88004095	SD1043	須恵器	蓋	12.2*		3.0+	灰	灰	
図 38-136	88004100	SD1043	須恵器	蓋	12.2*		4.1+	紫灰	紫灰	天井部外面にヘラ記号
図 38-137	88004188	SD1043	須恵器	蓋	12.6		3.4+	暗灰	暗灰	天井部外面にヘラ記号
図 38-138	88004106	SD1043	須恵器	蓋	13.0*		3.2+	淡灰	淡灰	
図 38-139	88004101	SD1043	須恵器	蓋	13.2*		3.5+	暗灰	暗灰	
図 38-140	88004187	SD1043	須恵器	蓋	12.4*		3.1+	灰	灰	天井部外面にヘラ記号
図 38-141	88004099	SD1043	須恵器	蓋	13.6*		3.3+	青灰	青灰	天井部外面にヘラ記号
図 38-142	88004108	SD1043	須恵器	蓋	14.0*		4.4	暗灰	暗灰	
図 38-143	88004096	SD1043	須恵器	蓋	13.8*		3.5	灰	灰	
図 38-144	88004097	SD1043	須恵器	蓋	14.8*		2.6+	暗灰	暗灰	
図 38-145	88004192	SD1043	須恵器	蓋			1.8+	紫灰	紫灰	天井部外面にヘラ記号
図 38-146	88004189	SD1043	須恵器	蓋			2.0+	灰	灰	天井部外面にヘラ記号
図 38-147	88004191	SD1043	須恵器	蓋			1.6+	暗灰	暗灰	天井部外面にヘラ記号
図 38-148	88004210	SD1043	須恵器	蓋			0.8+	明褐	明褐	
図 38-149	88004263	SD1043	須恵器	蓋			1.8+	灰	灰	
図 38-150	88004261	SD1043	須恵器	蓋			1.4+	暗灰	暗灰	
図 38-151	88004259	SD1043	須恵器	蓋	13.6*		1.5+	黒灰	黒灰	
図 38-152	88004258	SD1043	須恵器	蓋	16.4*		1.4+	暗灰	暗灰	
図 38-153	88004256	SD1043	須恵器	蓋	16.2*		2.4+	灰	灰	
図 38-154	88004257	SD1043	須恵器	蓋	17.6*		2.1+	灰	灰	
図 38-155	88004240	SD1043	須恵器	坏	10.4*		2.7+	灰	灰	
図 38-156	88004243	SD1043	須恵器	坏	10.4*		2.5+	灰	灰	
図 38-157	88004235	SD1043	須恵器	坏	10.2*		3.1+	灰	灰	底部外面にヘラ記号
図 38-158	88004239	SD1043	須恵器	坏	10.4		3.9	灰	灰	底部外面にヘラ記号
図 38-159	88004234	SD1043	須恵器	坏	11.2*		4.0+	黒灰	黒灰	
図 38-160	88004237	SD1043	須恵器	坏	11.8*		2.5+	灰	灰	
図 38-161	88004244	SD1043	須恵器	坏	12.2*		3.0+	灰	暗灰	
図 39-162	88004242	SD1043	須恵器	坏	12.2*		4.1+	灰	灰	
図 39-163	88004236	SD1043	須恵器	坏	12.0*		3.5	灰	灰	
図 39-164	88004241	SD1043	須恵器	坏	12.9*		3.2+	灰	灰	
図 39-165	88004238	SD1043	須恵器	坏	13.2*		3.1+	灰	灰	
図 39-166	88004251	SD1043	須恵器	坏		7.0*	1.6+	暗灰	暗灰	
図 39-167	88004253	SD1043	須恵器	坏		7.6*	2.2+	暗灰	暗灰	
図 39-168	88004250	SD1043	須恵器	坏		7.6*	2.0+	暗灰	暗灰	
図 39-169	88004221	SD1043	須恵器	坏		6.4*	3.0+	暗灰	暗灰	
図 39-170	88004248	SD1043	須恵器	坏		7.2*	3.4+	黒褐	黒褐	
図 39-171	88004247	SD1043	須恵器	坏		8.8*	2.8+	灰	灰	
図 39-172	88004246	SD1043	須恵器	坏		7.8	3.6+	灰	灰	
図 39-173	88004249	SD1043	須恵器	坏	13.2	8.2	3.2	暗灰	暗灰	底部外面にヘラ記号
図 39-174	88004220	SD1043	須恵器	坏	12.6*	7.6*	4.2	暗褐	暗褐	
図 39-175	88004245	SD1043	須恵器	坏	14.2*	10.2*	5.4	灰	灰	
図 39-176	88004219	SD1043	須恵器	坏		8.8*	4.4+	黄褐	黄褐	
図 39-177	88004217	SD1043	須恵器	坏		11.0*	3.2+	灰	灰	
図 39-178	88004110	SD1043	須恵器	坏	10.0*		3.7+	灰	灰	
図 39-179	88004111	SD1043	須恵器	坏	9.0*		4.3+	灰	灰	
図 39-180	88004112	SD1043	須恵器	坏	9.6*		4.2+	黒灰	黒灰	
図 39-181	88004109	SD1043	須恵器	坏	13.4*	5.7*	3.8	暗灰	暗灰	
図 39-182	88004254	SD1043	須恵器	坏	14.2*		4.2+	灰	灰	
図 39-183	88004255	SD1043	須恵器	坏	15.4*		3.6+	灰	灰	
図 39-184	88004268	SD1043	須恵器	皿	13.4*	10.2*	1.8	灰	灰	
図 39-185	88004266	SD1043	須恵器	皿	13.8*	10.2*	1.9	灰	灰	
図 39-186	88004267	SD1043	須恵器	皿	16.6*	13.8*	1.5+	灰	灰	
図 39-187	88004105	SD1043	須恵器	蓋	13.0*		5.2	暗灰	暗灰	
図 39-188	88004104	SD1043	須恵器	蓋	13.2*		4.4	暗灰	暗灰	
図 39-189	88004077	SD1043	須恵器	高坏	11.5*		5.2+	灰	暗灰	

図 39-190	88004076	SD1043	須恵器	高坏	13.6*		4.6+	灰	暗灰	
図 39-191	88004083	SD1043	須恵器	高坏		7.1*	6.2+	灰	灰	
図 39-192	88004082	SD1043	須恵器	高坏			7.2+	灰	灰	
図 39-193	88004079	SD1043	須恵器	脚		10.0*	2.2+	暗灰	暗灰	
図 39-194	88004084	SD1043	須恵器	高坏			10.8+	褐	黄褐	
図 39-195	88004078	SD1043	須恵器	甗	14.4*		6.4+	暗灰	暗灰	
図 39-196	88004080	SD1043	須恵器	甗	13.6*		2.1+	灰	灰	
図 40-197	88004270	SD1043	須恵器	甗			7.4+	灰	灰	
図 40-198	88004269	SD1043	須恵器	甗			5.4+	灰	灰	
図 40-199	88004271	SD1043	須恵器	甗			6.6+	灰	灰	
図 40-200	88004090	SD1043	須恵器	平瓶	5.0*		3.3+	灰	黒灰	
図 40-201	88004088	SD1043	須恵器	平瓶	5.0*		4.2+	灰・暗灰	灰	
図 40-202	88004086	SD1043	須恵器	平瓶	7.4*		4.6+	暗灰	暗灰	
図 40-203	88004087	SD1043	須恵器	平瓶	7.0*		5.1+	灰		
図 40-204	88004092	SD1043	須恵器	平瓶	8.4*		5.0+	灰	青灰	
図 40-205	88004093	SD1043	須恵器	平瓶	7.6*		4.1+	紫灰	紫灰	
図 40-206	88004091	SD1043	須恵器	平瓶	7.6*		6.1+	灰・黒灰	灰・黒灰	
図 40-207	88004085	SD1043	須恵器	平瓶	8.0*		4.7+	暗灰	灰・青灰	
図 40-208	88004081	SD1043	須恵器	平瓶	10.0*		4.7+	明褐	明褐	
図 40-209	88004120	SD1043	須恵器	壺	11.4*		2.7+	暗灰	暗灰	
図 40-210	88004122	SD1043	須恵器	壺	10.0*		5.1+	暗灰	暗灰	
図 40-211	88004123	SD1043	須恵器	壺	11.0*		3.6+	暗灰	暗灰	
図 40-212	88004119	SD1043	須恵器	壺	13.0*		4.0+	暗灰	暗灰	
図 40-213	88004124	SD1043	須恵器	壺	14.0*		3.0+	紫灰	紫灰	
図 40-214	88004116	SD1043	須恵器	壺	14.4*		4.1+	黒灰	黒灰	
図 40-215	88004117	SD1043	須恵器	壺	14.2*		4.6+	紫灰	紫灰	
図 40-216	88004118	SD1043	須恵器	壺	12.9*		4.1+	暗灰	暗灰	
図 40-217	88004115	SD1043	須恵器	壺	18.2*		5.5+	灰	灰	
図 40-218	88004262	SD1043	須恵器	蓋			1.6+	灰	灰	
図 40-219	88004260	SD1043	須恵器	蓋	8.6*		1.4+	黒	灰	
図 40-220	88004252	SD1043	須恵器	壺		4.8*	2.1+	灰	灰	
図 40-221	88004128	SD1043	須恵器	壺	8.8*		2.9+	暗灰	暗灰	
図 40-222	88004129	SD1043	須恵器	壺	7.0*		3.0+	灰	灰	
図 40-223	88004126	SD1043	須恵器	壺	10.6*		4.6+	暗灰	暗灰	
図 40-224	88004127	SD1043	須恵器	壺	11.0*		3.2+	青灰	灰	
図 40-225	88004130	SD1043	須恵器	壺	12.2*		2.3+	暗灰	暗灰	
図 40-226	88004131	SD1043	須恵器	壺	12.4*		3.8+	灰	灰	
図 40-227	88004132	SD1043	須恵器	壺	8.2*		7.6+	灰	灰	
図 40-228	88004133	SD1043	須恵器	壺			5.1+	灰	灰	
図 40-229	88004206	SD1043	須恵器	壺			6.2+	褐	褐	
図 41-230	88004136	SD1043	須恵器	壺	13.6*		8.0+	灰	灰	
図 41-231	88004137	SD1043	須恵器	壺	13.2*		6.9+	黒	黒	
図 41-232	88004151	SD1043	須恵器	壺	19.0*		5.7+	褐	褐	
図 41-233	22000299	SD1043	須恵器	壺		10.2*	3.1+	灰	灰	
図 41-234	88004138	SD1043	須恵器	壺		13.0*	8.3+	紫灰	紫灰	
図 41-235	88004134	SD1043	須恵器	壺			7.2+	青灰	青灰	
図 41-236	88004114	SD1043	須恵器	甗	24.6*		5.0+	暗灰	暗灰	
図 41-237	88004125	SD1043	須恵器	甗	21.0*		5.9+	青灰	青灰	
図 41-238	88004113	SD1043	須恵器	甗	30.4*		5.1+	青灰	青灰	
図 41-239	88004202	SD1043	須恵器	甗			4.2+	暗灰	暗灰	
図 41-240	88004140	SD1043	須恵器	平瓶		16.6*	13.5+	暗灰	暗灰	
図 41-241	88004264	SD1043	須恵器	鉢	14.4*		3.5+	灰	灰	
図 41-242	88004273	SD1043	須恵器	壺		11.8*	1.9+	灰	灰	内面に炭付着
図 41-243	88004207	SD1043	須恵器	把手			4.2+	灰	灰	
図 41-244	88004211	SD1043	土師器	蓋			1.4+	明褐	明褐	
図 41-245	88004170	SD1043	土師器	蓋	10.8*		2.4+	黄褐	黄褐	
図 41-246	88004209	SD1043	土師器	蓋	14.6*		1.8+	明褐	明褐	
図 41-247	88004208	SD1043	土師器	蓋	15.8*		2.0+	黒褐	黒褐	
図 41-248	88004159	SD1043	土師器	蓋	16.0*		2.2+	淡明	淡明	
図 41-249	22000300	SD1043	土師器	蓋	28.0*		2.9+	橙	橙	
図 41-250	22000298	SD1043	土師器	坏			3.0+	赤褐	浅黄	
図 41-251	88004218	SD1043	土師器	坏		7.8	2.8+	暗褐	淡褐	
図 41-252	22000297	SD1043	土師器	坏	12.0*		2.7+	にぶい赤褐	にぶい赤褐	
図 41-253	88004214	SD1043	土師器	坏	10.4*		3.4+	暗褐	暗褐	
図 42-254	88004212	SD1043	土師器	坏	10.4*		3.5	黄灰	黄灰	
図 42-255	88004176	SD1043	土師器	坏	11.8*		3.4+	淡褐	淡褐	内面に暗文
図 42-256	88004174	SD1043	土師器	坏	13.0		4.0	暗褐	暗褐	
図 42-257	88004216	SD1043	土師器	坏	13.0*		3.0+	黄褐	黄褐	
図 42-258	88004177	SD1043	土師器	坏	14.8*		3.3+	暗褐	暗褐	
図 42-259	88004215	SD1043	土師器	坏	15.6*		3.2+	赤褐	赤褐	
図 42-260	88004175	SD1043	土師器	坏	18.2*		4.7+	暗褐	暗褐	
図 42-261	22000296	SD1043	土師器	坏		7.9	2.8+	灰白	灰白	板状圧痕
図 42-262	88004162	SD1043	土師器	坏	12.2*	7.2	4.0	黄灰	黄灰	
図 42-263	88004164	SD1043	土師器	坏	13.2*	8.2*	3.5	褐	褐	

官道とその周辺

図 42-264	88004163	SD1043	土師器	坏	13.6*	7.8*	3.4	黄褐	黄褐	
図 42-265	88004165	SD1043	土師器	坏	14.0*	9.6	2.8	暗褐	淡褐	
図 42-266	88004161	SD1043	土師器	坏	13.8*	3.0*	2.8	暗褐	暗褐	板状圧痕
図 42-267	88004169	SD1043	土師器	坏	16.0*		4.6	淡褐	淡褐	
図 42-268	88004166	SD1043	土師器	皿	10.6		1.8	淡褐	淡褐	
図 42-269	88004167	SD1043	土師器	皿	12.4*		1.8	暗褐	暗褐	
図 42-270	88004154	SD1043	土師器	皿	14.0*	10.6*	1.9	黄灰	黄灰	
図 42-271	88004158	SD1043	土師器	皿	14.0*	10.2*	1.8	淡褐	淡褐	
図 42-272	88004178	SD1043	土師器	皿	14.4*		2.2	明黄	明黄	
図 42-273	88004153	SD1043	土師器	皿	15.0*	11.8*	2.2	黄褐	黄褐	
図 42-274	88004152	SD1043	土師器	皿	16.2	12.8	2.2	明褐	明褐	
図 42-275	88004156	SD1043	土師器	皿	19.0*	15.2	1.8	淡橙	淡橙	
図 42-276	88004155	SD1043	土師器	皿	19.0		2.4	明褐	明褐	
図 42-277	88004172	SD1043	土師器	皿		9.4*	1.2+	明褐	明褐	底部外面にヘラ記号
図 42-278	88004179	SD1043	土師器	鉢	6.0*		2.8+	淡褐	淡褐	
図 42-279	88004213	SD1043	土師器	鉢	9.0*		3.8+	橙	橙	
図 42-280	88004160	SD1043	土師器	鉢	10.0*		5.6+	明褐	明褐	
図 42-281	88004173	SD1043	土師器	鉢	11.4*		5.4+	淡明	淡明	
図 42-282	88004171	SD1043	土師器	鉢	14.0*		4.2+	褐	褐	
図 42-283	88004168	SD1043	土師器	鉢	14.0*		5.8+	淡褐	淡褐	
図 42-284	88004226	SD1043	土師器	壺	5.2*		4.5+	明褐	明褐	
図 42-285	88004227	SD1043	土師器	壺	9.2*		5.6+	淡橙	淡橙	
図 42-286	88004224	SD1043	土師器	壺	11.4*		5.2+	淡褐	淡褐	
図 42-287	88004223	SD1043	土師器	壺	13.4*		3.2+	赤褐	赤褐	
図 43-288	88004181	SD1043	土師器	高坏	12.8	9.8	10.5	明褐	明褐	
図 43-289	88004182	SD1043	土師器	高坏		9.8*	5.0+	明褐	明褐	脚内面に横様
図 43-290	88004183	SD1043	土師器	高坏		12.4*	3.0+	明褐	明褐	
図 43-291	88004180	SD1043	土師器	高坏	12.4*		4.6+	黄灰	黄灰	
図 43-292	88004228	SD1043	土師器	高坏			5.0+	暗褐	暗褐	
図 43-293	88004185	SD1043	土師器	高坏	15.0*		6.0+	黄褐	黄褐	
図 43-294	88004184	SD1043	土師器	高坏			6.2+	褐	褐	
図 43-295	88004143	SD1043	土師器	甗	15.0*		6.6+	淡明	淡明	
図 43-296	88004145	SD1043	土師器	甗	15.4*		4.4+	明褐	褐	
図 43-297	88004147	SD1043	土師器	甗	15.6*		9.0+	淡灰	淡灰	
図 43-298	88004150	SD1043	土師器	甗	17.2*		12.0+	明褐	褐	
図 43-299	88004144	SD1043	土師器	甗	16.0*		8.0+	明褐	明褐	
図 43-300	88004146	SD1043	土師器	甗	19.4*		5.2+	黄褐	黄褐	
図 43-301	88004148	SD1043	土師器	甗	22.0*		5.8+	明褐	明褐	
図 43-302	88004149	SD1043	土師器	甗	29.4*		7.0+	淡褐	淡褐	
図 43-303	88004142	SD1043	土師器	甗	28.2*		10.0+	暗褐	褐	
図 43-304	88004272	SD1043	土師器	坏		8.2+	2.2+	黄褐	黄褐	底部外面に墨書
図 44-305	88004335	SD1116	須恵器	坏		6.2*	1.6+	暗灰	暗灰	
図 44-306	88004336	SD1116	須恵器	鉢	13.0*		3.2+	灰	灰	
図 44-307	88004329	SD1162	須恵器	蓋	14.0*		1.7	灰	灰	
図 44-308	88004327	SD1162	須恵器	高坏	15.0*	10.0*	6.8	灰	灰	
図 44-309	88004328	SD1162	土師器	高坏			5.6+	橙	橙	
図 44-310	88004332	SD1163	須恵器	甗			7.6+	暗灰	暗灰	
図 44-311	22000301	SD1163	須恵器	甗			6.1+	灰白	灰	
図 44-312	88004331	SD1163	土師器	椀		10.2*	4.5+	橙	橙	
図 44-313	88004330	SD1163	土師器	坏	11.2*		4.2	明褐	明褐	
図 47-314	88004060	SE0807	須恵器	甗	22.2*		8.0+	灰	灰	
図 47-315	88004061	SE0807	土師器	把手			8.0+	灰褐	灰褐	
図 47-316	88004065	SE0808	須恵器	坏		7.0*	3.0+	淡灰	淡灰	
図 47-317	88004064	SE0808	須恵器	坏	13.4*		3.2	淡橙	淡橙	
図 47-318	88004066	SE0808	土師器	皿	16.0	10.3	2.0	明黄	明黄	
図 47-319	88004071	SE1039	須恵器	蓋	14.4*		2.4	灰	灰	
図 47-320	88004069	SE1039	須恵器	坏	9.6*		3.6+	暗灰	暗灰	
図 47-321	88004073	SE1039	須恵器	坏		11.2*	3.2+	淡灰	淡灰	
図 47-322	88004068	SE1039	須恵器	坏	14.0*		4.6+	淡灰	淡灰	
図 47-323	88004070	SE1039	須恵器	坏		9.8*	2.6+	灰	灰	
図 47-324	88004067	SE1039	須恵器	甗			12.2+	紫灰	紫灰	
図 47-325	22000304	SE1040	須恵器	蓋			1.9+	暗灰	灰	
図 47-326	22000303	SE1040	須恵器	蓋			2.4+	灰白	灰白	
図 47-327	87013419	SE1040	須恵器	蓋	11.2*		1.8+	黒灰	灰褐	
図 47-328	87013422	SE1040	須恵器	蓋	13.4*		2.6+	黒灰	暗灰	
図 47-329	87013420	SE1040	須恵器	蓋	15.6*		1.9+	灰	灰	
図 47-330	87013421	SE1040	須恵器	蓋	15.6*		1.6+	灰・暗灰	暗灰	
図 47-331	87013418	SE1040	須恵器	坏	10.0*	6.9*	4.4	灰・暗灰	青灰	
図 47-332	22000302	SE1040	須恵器	坏		8.4*	2.5+	灰	灰	
図 47-333	87013417	SE1040	須恵器	坏	14.2*	9.6*	5.7	暗灰	暗灰	
図 47-334	87013424	SE1040	須恵器	甗			5.7	灰褐	淡青灰	
図 48-335	87013427	SE1040	須恵器	甗	46.0*		6.8+	暗茶褐	灰白	
図 48-336	87013426	SE1040	土師器	坏			2.0+	黒・灰	茶褐	
図 48-337	87013425	SE1040	土師器	坏	15.6*		3.0+	灰白	灰白	

図 48-338	87013416	SE1040	土師器	甕	18.6*		6.9+	明橙色	褐	
図 48-339	87013423	SE1040	土師器	鍋	29.2*		9.9+	淡灰褐・褐	淡灰褐	
図 48-340	22000307	SE1119	須恵器	蓋	14.8*		2.9+	灰	黒褐	
図 48-341	22000308	SE1119	須恵器	坏	14.8*		4.1+	灰	灰	
図 48-342	92000626	SE1119	須恵器	坏	13.0	8.0	4.6	淡灰色	淡灰色	
図 48-343	22000305	SE1119	須恵器	坏	16.2*	8.8*	5.6	灰	灰	
図 48-344	22000306	SE1119	須恵器	坏	15.0*	8.4*	7.2	灰	灰	
図 48-345	22000309	SE1119	須恵器	把手			3.6+	灰	灰	
図 48-346	92000628	SE1119	土師器	坏	11.0*		3.6+	明褐	明褐	
図 48-347	92000627	SE1119	土師器	坏	14.4	7.8	4.7	明褐	明褐	
図 48-348	22000310	SE1119	土師器	高坏		12.6*	7.2+	にぶい橙	にぶい橙	
図 48-349	92000629	SE1119	土師器	把手			4.6+	明褐	明褐	
図 49-351	22000221	SF1008 検出面	須恵器	蓋	9.2		3.8	にぶい赤褐・赤灰	にぶい赤灰	天井部外面にヘラ記号
図 49-352	22000317	SF1008 検出面	須恵器	蓋			2.8+	灰	灰	
図 49-353	22000316	SF1008 検出面	須恵器	蓋	12.8*		3.4+	灰・灰白	灰	
図 49-354	22000311	SF1008 検出面	須恵器	坏	11.1*		3.7+	黄灰	黄灰	
図 49-355	22000312	SF1008 検出面	須恵器	坏	12.4*		2.8+	褐灰	赤灰	
図 49-356	22000313	SF1008 検出面	須恵器	坏		7.0*	2.0+	暗灰	灰	底部外面に突帯
図 49-357	22000315	SF1008 検出面	須恵器	坏		8.0*	2.3+	灰	黄灰	
図 49-358	22000302	SF1008 検出面	須恵器	坏		8.4*	2.5+	灰	灰	
図 49-359	22000314	SF1008 検出面	須恵器	坏		7.4*	3.3+	灰白	灰白	
図 49-360	22000318	SF1008 検出面	須恵器	甕	21.8*		7.8+	黄灰・灰白	灰白・黒	口縁部外面に線刻
図 49-361	22000222	SF1008 検出面	須恵器	硯			3.7+	灰	灰	
図 49-362	92000696	SF1008 検出面	土師器	坏		7.5	1.8+	淡灰	淡灰	底部外面に墨書
図 49-363	22000319	SF1008 検出面	土師器	坏	12.5*		5.2	浅黄橙	浅黄橙	
図 53-365	88003773	SH0802	須恵器	蓋			1.6+	灰	灰	天井部外面にヘラ記号
図 53-366	88003776	SH0802	須恵器	蓋	15.2*		1.4+	灰	灰	
図 53-367	88003772	SH0802	須恵器	坏	13.4*		3.2+	灰	灰	
図 53-368	88003771	SH0802	須恵器	坏	14.2*		3.2+	灰	灰	
図 53-369	88003775	SH0802	須恵器	坏		10.2*	1.8+	灰	灰	
図 53-370	88003774	SH0802	須恵器	坏	14.4*	8.6*	4.8	灰褐	灰褐	
図 53-371	88003803	SH1013	土師器	蓋	11.8*		1.0+	明褐	明褐	
図 53-372	88003802	SH1013	土師器	甕	21.8*		5.2+	黄褐	黄褐	
図 53-373	88003804	SH1016	土師器	坏		13.0*	1.5+	明褐	明褐	
図 53-374	88003805	SH1016	土師器	甕			3.4+	明褐	明褐	
図 53-375	88003833	SH1018	須恵器	蓋	12.8*		1.6+	灰～青灰	灰～青灰	
図 53-376	88003838	SH1018	須恵器	蓋	13.6*		2.0	青灰	青灰	
図 53-377	88003832	SH1018	須恵器	蓋	15.4*		1.4+	灰	青灰	
図 53-378	88003836	SH1018	須恵器	蓋	16.4*		2.1	淡青灰	淡灰褐	
図 53-379	88003837	SH1018	須恵器	蓋	17.0*		1.7+	青灰	青灰	
図 53-380	88003834	SH1018	須恵器	蓋	20.4*		1.9+	淡灰褐	灰	
図 53-381	88003825	SH1018	須恵器	坏			3.7+	青灰	青灰	
図 53-382	88003826	SH1018	須恵器	坏	12.0*		3.7+	青灰	青灰	
図 53-383	88003824	SH1018	須恵器	坏		8.6*	2.4+	暗灰	灰	
図 53-384	88003823	SH1018	須恵器	坏		12.8*	3.8+	淡灰褐	灰	
図 53-385	88003822	SH1018	須恵器	坏	19.0*	13.0*	6.0	暗灰	灰	
図 53-386	88003835	SH1018	須恵器	高坏			1.1+	灰	青灰	
図 53-387	88003830	SH1018	須恵器	高坏			5.4+	暗灰・淡青灰	暗灰	
図 53-388	88003831	SH1018	須恵器	高坏			2.5+	灰褐	灰褐	
図 53-389	88003828	SH1018	須恵器	壺	9.6*		2.1+	黄褐	黄褐	
図 53-390	88003827	SH1018	須恵器	甕			8.0+	暗茶	灰	
図 53-391	88003793	SH1018	土師器	蓋	15.0*		0.8+	明褐	明褐	
図 53-392	88003792	SH1018	土師器	蓋	15.8		1.2+	明褐	明褐	
図 53-393	88003794	SH1018	土師器	蓋	20.8*		3.0+	橙	橙	
図 53-394	88003790	SH1018	土師器	坏		5.2*	1.8+	黄褐	黄褐	
図 53-395	88003791	SH1018	土師器	坏	15.8*		3.6	明褐	明褐	
図 53-396	88003789	SH1018	土師器	坏		12.4*	4.2+	橙	橙	
図 53-397	88003788	SH1018	土師器	坏	16.6*	12.0	3.2	明褐	明褐	
図 53-398	88003787	SH1018	土師器	椀		11.2*	6.6+	黄褐	黄褐	
図 53-399	88003801	SH1018	土師器	高坏	21.2*		1.4	明褐	明褐	
図 53-400	88003796	SH1018	土師器	甕	24.0*		4.4+	褐	褐	
図 54-401	88003795	SH1018	土師器	甕	26.4*		7.8+	明褐	明褐	
図 54-402	88003798	SH1018	土師器	鉢		23.0*	10.2+	明褐	明褐	
図 54-403	88003800	SH1018	土師器	把手			10.0+	明褐	明褐	
図 57-404	87011090	SK1004	須恵器	蓋	12.6*		3.4+	青灰	青灰	
図 57-405	87011096	SK1004	須恵器	蓋	8.0*		2.4+	灰	灰	
図 57-406	87011108	SK1004	須恵器	蓋	14.6*		2.5+	暗灰	暗灰	
図 57-407	87011092	SK1004	須恵器	蓋	16.0*		2.0+	黒灰	黒灰	
図 57-408	87011089	SK1004	須恵器	蓋	11.8*		1.8+	青灰	青灰	
図 57-409	87011101	SK1004	須恵器	蓋	14.3		2.2	灰褐	暗灰	
図 57-410	87011097	SK1004	須恵器	蓋	14.6*		0.9+	灰	灰褐	
図 57-411	87011099	SK1004	須恵器	蓋	14.3*		2.4+	灰	灰・黒灰	
図 57-412	87011094	SK1004	須恵器	蓋	14.2*		3.3	暗灰	暗灰	
図 57-413	87011102	SK1004	須恵器	蓋	15.5*		2.6+	灰	灰	

官道とその周辺

図 57-414	87011115	SK1004	須恵器	蓋	16.8*		2.4+	灰	灰	
図 57-415	87011103	SK1004	須恵器	蓋	17.9		1.7	暗灰	暗灰	
図 57-416	87011104	SK1004	須恵器	蓋	18.3*		2.5+	青灰	青灰	
図 57-417	87011091	SK1004	須恵器	蓋	19.1*		2.6+	灰	灰	
図 57-418	87011059	SK1004	須恵器	坏	10.4*	7.0*	3.4+	灰	灰	
図 57-419	87011058	SK1004	須恵器	坏	12.3*	9.0*	3.9	灰	灰	
図 57-420	87011055	SK1004	須恵器	坏	12.2*	7.6*	4.2+	灰白	灰白	
図 57-421	87011060	SK1004	須恵器	坏	13.2*	7.4*	4.3	暗灰	暗灰	
図 57-422	87011065	SK1004	須恵器	坏	12.4	6.5	4.6	青灰	灰白	底部内面にヘラ記号
図 57-423	87011063	SK1004	須恵器	坏	12.8*	7.6	4.2	青灰	茶白	
図 57-424	87011066	SK1004	須恵器	坏	13.2	9.0	3.7	黒灰	暗灰	
図 57-425	87011056	SK1004	須恵器	坏	13.8*	9.6*	3.7+	暗灰	灰褐	
図 57-426	87011064	SK1004	須恵器	坏	14.4*	9.6*	3.6+	暗灰	暗灰	
図 57-427	87011054	SK1004	須恵器	坏	14.0*	9.0*	3.6+	暗灰	暗灰	
図 57-428	87011061	SK1004	須恵器	坏	15.4*	8.6*	5.4+	灰	灰白	
図 57-429	87011105	SK1004	須恵器	坏	16.0*	10.0*	5.6+	灰	灰	
図 57-430	87011068	SK1004	須恵器	坏	11.6	6.4	3.4	黄灰	黄灰	
図 57-431	87011106	SK1004	須恵器	坏	12.8*	7.0	3.7	暗灰	暗灰	
図 57-432	87011070	SK1004	須恵器	坏	13.4*	7.6*	4.3+	灰	暗灰	
図 57-433	87011069	SK1004	須恵器	坏	13.4*	10.0*	3.0+	茶灰	灰・暗灰	
図 57-434	87011067	SK1004	須恵器	坏	13.4	8.4	4.6	灰白・黒灰	灰白	
図 57-435	87011075	SK1004	須恵器	坏	14.0*	8.0*	4.0+	灰白・淡橙	茶白	
図 57-436	87011072	SK1004	須恵器	坏	15.8*	9.8*	3.9	茶灰	灰・暗灰	
図 57-437	87011076	SK1004	須恵器	坏	14.6	8.6	3.5	暗灰	灰褐	
図 58-438	87011074	SK1004	須恵器	坏	14.2*	11.3*	2.8+	暗灰	暗灰	
図 58-439	87011073	SK1004	須恵器	坏	14.4*	11.4*	4.0	灰白	灰白	
図 58-440	87011071	SK1004	須恵器	坏	15.8*	12.8*	3.3+	灰白	灰白	
図 58-441	87011085	SK1004	須恵器	皿	13.4*	10.6*	2.1	暗灰	暗灰	
図 58-442	87011081	SK1004	須恵器	皿	15.0*	11.6*	2.0	暗灰・灰褐	灰・灰褐	
図 58-443	87011079	SK1004	須恵器	皿	15.8*	12.0*	1.9	暗灰	暗灰	
図 58-444	87011077	SK1004	須恵器	皿	16.2	12.6	1.9	灰・暗灰	灰・暗灰	底部外面にヘラ記号
図 58-445	87011078	SK1004	須恵器	皿	17.2*	13.6*	2.4	灰・暗灰	灰・暗灰	
図 58-446	87011080	SK1004	須恵器	皿	17.4*	13.6*	2.4	灰・暗灰	灰・暗灰	
図 58-447	87011083	SK1004	須恵器	皿	18.0*	14.6*	2.7	灰	暗灰	
図 58-448	87011082	SK1004	須恵器	皿	18.8*	15.0*	2.2	暗灰	灰	
図 58-449	87011095	SK1004	須恵器	高坏	17.6*		1.2+	暗灰	暗灰	
図 58-450	87011100	SK1004	須恵器	高坏	21.8*		1.0+	暗灰	暗灰	
図 58-451	87011113	SK1004	須恵器	高坏			2.0+	暗灰	暗灰	
図 58-452	87011086	SK1004	須恵器	高坏			6.0+	青灰	青灰	
図 58-453	87011114	SK1004	須恵器	高坏			6.6+	灰	灰	
図 58-454	87011088	SK1004	須恵器	高坏			3.1+	灰褐・灰	灰褐	
図 58-455	87011087	SK1004	須恵器	高坏			12.6+	灰褐	灰褐	
図 58-456	87011098	SK1004	須恵器	蓋	9.0*		3.0	灰褐		
図 58-457	87011112	SK1004	須恵器	蓋	11.0		3.0	暗灰	暗灰	
図 58-458	87011111	SK1004	須恵器	壺	7.6*		4.0+	暗灰	暗灰	
図 58-459	87011107	SK1004	須恵器	壺			4.4+	暗灰	暗灰	
図 58-460	87011124	SK1004	須恵器	壺	15.4*		6.6+	灰	灰	
図 58-461	87011110	SK1004	須恵器	壺		7.0	7.8+	暗灰	暗灰	
図 58-462	87011123	SK1004	須恵器	壺	10.6*		11.2+	青灰	青灰	
図 58-463	87011121	SK1004	須恵器	壺		9.3+	2.7+	青灰	青灰	
図 58-464	87011122	SK1004	須恵器	壺		12.2*	4.6+	青灰	青灰	
図 58-465	87011125	SK1004	須恵器	鉢	22.8*		6.8+	青灰	青灰	
図 58-466	87011084	SK1004	須恵器	鉢		21.0*	2.8+	灰	灰	
図 59-467	87011128	SK1004	須恵器	甕	22.0*		3.6+	黒灰	黒灰	
図 59-468	87011129	SK1004	須恵器	甕	21.2*		3.4+	黒灰	灰	
図 59-469	87011134	SK1004	須恵器	甕			3.0+	暗灰	暗灰	
図 59-470	87011130	SK1004	須恵器	甕			10.8+	青灰	青灰	
図 59-471	87011132	SK1004	須恵器	甕			10.0+	灰	灰	
図 59-472	87011133	SK1004	須恵器	甕			7.0+	紫灰	紫灰	
図 59-473	87011127	SK1004	須恵器	甕	37.0*		4.4+	青灰	青灰	
図 59-474	87011126	SK1004	須恵器	甕	47.0*		3.4+	灰	灰	
図 59-475	87011131	SK1004	須恵器	壺			4.8+	灰	灰	
図 59-476	87013242	SK1004	須恵器	壺		7.8*	4.2+	暗灰	暗灰	内面に漆付着
図 59-477	87013245	SK1004	須恵器	蓋	16.2		3.2	暗灰	暗灰	内面に墨付着
図 59-478	87013248	SK1004	須恵器	蓋	13.6*		1.0	暗褐・灰	暗褐・灰	底部内面に墨書
図 59-479	87013252	SK1004	須恵器	蓋	15.0*		1.4+	灰	灰	外面上部に墨書
図 59-480	87013256	SK1004	須恵器	坏		9.2*	2.4+	灰	灰	底部外面に墨付着
図 59-481	87013254	SK1004	須恵器	坏	13.5	7.8	3.4	暗灰	暗灰	底部外面に墨付着
図 59-482	87013255	SK1004	須恵器	坏	12.0*	7.0*	4.1	暗灰	紫灰	底部外面に墨付着
図 60-483	87013253	SK1004	須恵器	坏	17.0*		3.2+	暗灰	暗灰	内面に墨付着
図 60-484	87013237	SK1004	須恵器	坏		8.0	3.8	青灰	青灰	底部外面に墨書
図 60-485	92000700	SK1004	須恵器	坏	13.0*	8.4	4.4	灰	灰	底部外面に墨書
図 60-486	87013238	SK1004	須恵器	坏		8.2*	4.6+	暗灰	暗灰	底部外面に墨書
図 60-487	87013236	SK1004	須恵器	坏		10.6	1.7+	灰	灰	底部内面に墨書

図 60-488	87013243	SK1004	須恵器	壺		9.6	3.8+	灰	灰	底部外面にヘラ記号	
図 60-489	87013240	SK1004	須恵器	坏	16.4	10.2	5.8	暗灰	暗灰	底部外面に墨書	
図 60-490	87013250	SK1004	須恵器	坏	12.3*	6.5*	4.6	淡灰	暗褐	底部外面に墨書	
図 60-491	87013241	SK1004	須恵器	坏	13.2*	7.6	3.4	明褐	明褐	底部外面に墨書	
図 60-492	87013247	SK1004	須恵器	皿	16.0*	13.6*	2.2	灰	灰	底部外面に墨書	
図 60-493	87013249	SK1004	須恵器	皿	13.8*	12.5*	2.7	灰	灰	底部外面に墨書	
図 60-494	04001476	SK1004	須恵器	皿	14.1	11.7	1.9	灰	灰	転用硯	
図 60-495	87013244	SK1004	須恵器	壺		16.8+	1.6+	灰	灰	底部内面に墨付着 硯に転用	
図 60-496	92000683	SK1004	須恵器	蓋			1.0+	黒褐・明褐	明褐	内面に墨痕	
図 60-497	87013239	SK1004	須恵器	皿			1.2+	灰	灰	底部外面に墨書	
図 60-498	87013251	SK1004	須恵器	壺		12.0*	1.7+	灰	灰	底部外面に墨書	
図 60-499	87013246	SK1004	須恵器	壺			1.0+	淡褐	暗褐	底部内面に墨痕	
図 60-500	87013258	SK1004	須恵器	皿			0.4+	暗灰	暗灰	底部内面に墨付着 転用硯	
図 61-501	87013257	SK1004	須恵器	皿		11.0*	1.4+	灰	灰	底部内面に墨付着	
図 61-502	92000682	SK1004	須恵器	壺		12.6*	2.0+	暗褐・明褐	明褐	内面に墨痕	
図 61-503	87011036	SK1004	土師器	蓋	15.0		2.0+	橙白・橙	橙白・橙		
図 61-504	87011035	SK1004	土師器	蓋	16.6*		3.6+	灰白	灰白		
図 61-505	87011093	SK1004	土師器	蓋	20.2*		3.0+	茶白・黒灰	茶白・灰褐		
図 61-506	87011031	SK1004	土師器	坏	11.6*	6.8*	3.0	暗橙	暗橙		
図 61-507	87011117	SK1004	土師器	坏	12.3*	8.4	4.1	灰白	灰白	底部外面にヘラ記号	
図 61-508	87011032	SK1004	土師器	坏	13.2*		4.0+	暗茶	暗茶		
図 61-509	87011025	SK1004	土師器	坏	14.4*		3.4	茶白	茶白		
図 61-510	87011030	SK1004	土師器	坏	14.6*	10.0*	3.0	暗灰・灰白	暗灰・灰白		
図 61-511	87011033	SK1004	土師器	坏	16.0*		3.0	灰白・黒	灰白・黒		
図 61-512	87011026	SK1004	土師器	坏	17.0*		3.0	橙白	灰白		
図 61-513	87011057	SK1004	土師器	坏		8.2*	4.4+	茶白	灰白		
図 61-514	87011029	SK1004	土師器	坏	12.4*	8.3*	4.5	淡茶	淡茶		
図 61-515	87011027	SK1004	土師器	皿	16.4*	11.0*	2.6	黄白	黄白		
図 61-516	87011028	SK1004	土師器	皿	16.8*	12.0*	2.3	黄白	黄白		
図 61-517	87011116	SK1004	土師器	皿	16.8	14.0*	2.1	淡白	淡白		
図 61-518	87011038	SK1004	土師器	甗	19.6*		6.6+	暗褐・黒	黒		
図 61-519	87011040	SK1004	土師器	甗	21.0*		5.3+	黄灰	黄灰		
図 61-520	87011042	SK1004	土師器	甗	22.6*		6.9+	灰褐	灰褐		
図 61-521	87011043	SK1004	土師器	甗	25.8		4.2	黄灰	黄灰		
図 61-522	87011039	SK1004	土師器	甗	24.2*		5.6+	暗褐・黒	黒		
図 62-523	87011041	SK1004	土師器	甗	28.6*		8.2+	黄灰	黄灰		
図 62-524	87011053	SK1004	土師器	把手			3.2+	浅黄橙	浅黄橙		
図 62-525	87011051	SK1004	土師器	把手			3.9+	灰白・にぶい橙	灰白・にぶい橙		
図 62-526	87011052	SK1004	土師器	把手			3.9+	灰黄	灰黄		
図 62-529	87011147	SK1011	須恵器	蓋	14.6*		2.9+	淡灰	淡灰		
図 62-530	87011142	SK1011	須恵器	蓋	10.2*		1.2	灰	灰		
図 62-531	87011144	SK1011	須恵器	蓋	11.2*		1.5	暗灰	暗灰		
図 62-532	87011146	SK1011	須恵器	蓋	11.4*		2.0	暗灰	暗灰		
図 62-533	87011143	SK1011	須恵器	蓋	11.0*		1.7	青灰	青灰		
図 62-534	87011141	SK1011	須恵器	蓋	13.6		1.4	青灰	青灰		
図 62-535	87011139	SK1011	須恵器	蓋	14.4*		1.2	青灰	青灰		
図 62-536	87011140	SK1011	須恵器	蓋	14.0*		3.1	灰	灰		
図 62-537	87011145	SK1011	須恵器	蓋	15.2*		1.7	暗灰	暗灰		
図 62-538	87011138	SK1011	須恵器	坏		7.0	2.8+	灰	灰		
図 62-539	87011137	SK1011	須恵器	坏	11.2*	7.0*	4.2	青灰	青灰		
図 62-540	87011136	SK1011	須恵器	坏	10.2*		7.2	4.4	灰	灰	
図 62-541	87011135	SK1011	須恵器	坏	12.0*	7.4*	4.8	灰	灰		
図 62-542	87011148	SK1011	須恵器	甗			6.6+	青灰	青灰		
図 62-543	87011188	SK1011	土師器	蓋	13.6*		2.0+	黄褐	黄褐		
図 62-544	87011182	SK1011	土師器	蓋	13.0		3.0	黄褐	黄褐		
図 63-545	87011181	SK1011	土師器	蓋	15.2*		2.5	黄褐	黄褐		
図 63-546	87011180	SK1011	土師器	蓋	16.4		3.0	黄褐	暗褐		
図 63-547	87011150	SK1011	土師器	坏	9.8	6.6	3.3	橙・橙白	橙・橙白		
図 63-548	87011151	SK1011	土師器	坏	12.0*	8.4*	3.6	橙白	橙白		
図 63-549	87011149	SK1011	土師器	坏	13.8	8.9	4.6	茶白	茶白		
図 63-550	87011152	SK1011	土師器	坏	18.6*	11.4*	5.9	灰白	灰白		
図 63-551	87011153	SK1011	土師器	坏	16.2*	8.8	5.2	暗橙	明橙		
図 63-552	87011154	SK1011	土師器	坏	19.2*	10.8*	7.8	黄灰	橙		
図 63-553	87011187	SK1011	土師器	皿	12.4*	9.8*	1.8	明褐	明褐		
図 63-554	87011185	SK1011	土師器	皿	13.6*	6.4*	2.8	淡橙褐	淡橙褐		
図 63-555	87011186	SK1011	土師器	皿	14.6*	11.0*	1.8	淡橙褐	淡橙褐		
図 63-556	87011183	SK1011	土師器	皿	14.6*	10.2*	2.2	橙	橙		
図 63-557	87011184	SK1011	土師器	皿	20.2*	14.4*	2.8	橙	橙		
図 63-558	87011179	SK1011	土師器	皿	24.0		2.8	橙	橙		
図 63-559	87011155	SK1011	土師器	高坏		11.4*	5.0+	暗黄灰	暗黄灰		
図 63-560	87011156	SK1011	土師器	高坏	25.6	12.6	9.0	茶白	茶白		
図 63-561	87011173	SK1011	土師器	甗	15.6*		6.2+	明褐	明褐		
図 63-562	87011175	SK1011	土師器	甗	14.6*		7.2+	橙	橙		
図 63-563	87011174	SK1011	土師器	甗	13.0*		7.2+	暗褐	暗褐		

官道とその周辺

図 63-564	87011176	SK1011	土師器	甕	24.2*		5.2+	淡橙	淡橙	
図 63-565	87011178	SK1011	土師器	鍋	32.0*		8.8+	橙	橙	
図 63-566	87011177	SK1011	土師器	把手			8.0+	黄褐・暗褐	黄褐・暗褐	
図 64-567	87011191	SK1012	須恵器	蓋	12.0*		3.6+	灰白	灰白	
図 64-568	87011197	SK1012	須恵器	蓋	13.4*		3.6+	灰	灰	
図 64-569	87011190	SK1012	須恵器	蓋	12.0*		3.8	暗灰	暗灰	
図 64-570	87011189	SK1012	須恵器	坏	11.0		4.1	灰褐	淡茶	
図 64-571	87011192	SK1012	須恵器	坏		8.0*	2.8+	灰	灰	
図 64-572	87011194	SK1012	須恵器	鉢	11.2*		4.4+	灰	灰	
図 64-573	87011196	SK1012	須恵器	壺	6.8*		8.3+	灰褐	灰褐	底部外面にヘラ記号
図 64-574	87011193	SK1012	須恵器	臚	10.4*		4.0	黒褐	灰	
図 64-575	87011195	SK1012	須恵器	臚	15.2*	9.0*	16.4	黒褐・暗褐	黒褐・暗褐	
図 64-576	87013002	SK1012	土師器	甕	15.4*		5.4+	褐	褐	
図 64-577	87011200	SK1012	土師器	甕	14.2*		9.6+	褐	褐	
図 64-578	87013004	SK1012	土師器	甕	15.4*		6.0+	明褐	明褐	
図 64-579	87011199	SK1012	土師器	甕	17.0*		6.2+	褐	褐	
図 64-580	87013001	SK1012	土師器	甕	18.2*		8.4+	褐	褐	
図 64-581	87013003	SK1012	土師器	甕	16.8*		12.2+	淡褐	淡褐	
図 64-582	87013005	SK1012	土師器	甕	24.6*		4.6+	明褐	明褐	
図 64-583	87013010	SK1012	土師器	把手			9.0+	淡褐	淡褐	
図 64-584	87013008	SK1012	土師器	把手			7.4+	淡褐	淡褐	
図 65-586	87011159	SK1014	須恵器	蓋	13.4*		1.6+	灰黒	灰黒	
図 65-587	87011157	SK1014	須恵器	坏	8.6*		1.1+	灰	灰	
図 65-588	87011160	SK1014	須恵器	鉢	11.2*		5.0+	暗灰	暗灰	
図 65-589	87011161	SK1014	土師器	皿	15.2*		2.9+	濃橙	濃橙	
図 65-590	87011162	SK1014	土師器	皿	18.0*		2.1+	茶黄	茶黄	
図 65-591	87011163	SK1014	土師器	皿			2.6+	橙	橙	
図 65-592	87011164	SK1014	土師器	高坏		12.0*	4.6+	濃橙	橙・褐	
図 65-593	87011165	SK1014	土師器	甕			14.8+	赤橙	赤橙	
図 65-594	87013017	SK1046	須恵器	蓋	14.7		3.9	暗灰	暗灰	
図 65-595	87013020	SK1046	須恵器	坏	11.4*		4.6	灰白	灰白	
図 65-596	87013018	SK1046	須恵器	平瓶		16.8*	10.4+	灰白・黒灰	青灰	
図 65-597	87013015	SK1046	土師器	高坏		10.4*	7.0+	淡褐	淡褐	
図 65-598	87013012	SK1046	土師器	甕	16.2*		16.0+	暗褐	暗褐	
図 65-599	87013014	SK1046	土師器	甕	20.8*		6.0+	黒灰・橙	淡褐	
図 65-600	87013011	SK1046	土師器	甕	20.8*		35.0	褐	褐	
図 66-601	87013013	SK1046	土師器	甕	20.0*		16.6+	暗褐	暗褐	
図 66-602	87013019	SK1046	土師器	甗				茶白	茶白	
図 66-603	87013016	SK1046	土師器	甗			14.7+	淡褐・茶白	淡褐	
図 66-604	87013261	SK1115	須恵器	蓋	14.8*		1.7+	灰	灰	
図 66-605	87013259	SK1115	須恵器	蓋	11.6*		2.2+	暗灰	暗灰	
図 66-606	87013267	SK1115	須恵器	蓋	13.6		1.6	淡灰	暗灰	
図 66-607	87013268	SK1115	須恵器	蓋	14.4*		1.8	淡灰	淡灰	
図 66-608	87013221	SK1115	須恵器	蓋	14.4		2.2	灰・灰白	灰・灰白	
図 66-609	87013220	SK1115	須恵器	蓋	14.2		2.4+	濃灰	濃灰	
図 66-610	87013226	SK1115	須恵器	蓋	14.6*		1.8+	暗灰	暗灰	
図 66-611	87013223	SK1115	須恵器	蓋	14.6		2.8	茶白・灰褐	茶白・灰褐	
図 66-612	87013265	SK1115	須恵器	蓋	16.0		1.8	灰	灰	
図 66-613	87013225	SK1115	須恵器	蓋	16.6*		3.0+	灰茶	灰茶	
図 66-614	87013216	SK1115	須恵器	蓋	17.0*		4.0	茶黄	茶黄	
図 66-615	87013224	SK1115	須恵器	蓋	17.4		3.0	暗青灰	暗青灰	
図 66-616	87013222	SK1115	須恵器	蓋	20.2*		3.0+	灰白	灰白	
図 66-617	87013266	SK1115	須恵器	蓋	19.6*		3.4	淡灰	淡灰	
図 66-618	87013306	SK1115	須恵器	坏	11.8*	8.2*	3.9	暗灰	暗灰	
図 66-619	87013307	SK1115	須恵器	坏	12.2*	8.0*	3.2	暗灰	暗灰	
図 66-620	87013275	SK1115	須恵器	坏	13.0*	9.0*	4.1	灰	灰	
図 66-621	87013305	SK1115	須恵器	坏	12.8	8.9	4.4	暗灰	暗灰	
図 66-622	87013278	SK1115	須恵器	坏	12.8*	8.8*	3.2	灰	灰	
図 66-623	87013274	SK1115	須恵器	坏	13.6*	9.8*	4.6	暗灰	暗灰	
図 66-624	87013276	SK1115	須恵器	坏	13.8*	9.0*	3.6	暗灰	灰	
図 66-625	87013277	SK1115	須恵器	坏	14.4*	9.6*	3.7	灰	灰	
図 67-626	87013304	SK1115	須恵器	坏	15.2*	10.6*	4.7	暗灰	暗灰	
図 67-627	87013303	SK1115	須恵器	坏	17.6*	11.2*	5.3	灰	灰	
図 67-628	87013300	SK1115	須恵器	坏	18.4*	12.0*	6.0	灰	灰	
図 67-629	87013301	SK1115	須恵器	坏	18.2*	11.6*	6.2	灰	灰	
図 67-630	87013302	SK1115	須恵器	坏	18.8*	11.2*	4.8	灰	灰	
図 67-631	22000272	SK1115	須恵器	坏	20.4*	14.2*	4.6	灰白	灰白	
図 67-632	87013279	SK1115	須恵器	坏	11.6*	7.5*	3.7	灰	灰	
図 67-633	87013291	SK1115	須恵器	坏	12.6*	6.6*	3.9+	灰	灰	
図 67-634	87013269	SK1115	須恵器	坏	13.4*	10.4*	4.0	灰白	灰白	
図 67-635	87013290	SK1115	須恵器	坏	13.3*	6.9*	3.5	淡灰	淡灰	
図 67-636	87013293	SK1115	須恵器	坏	13.2*	9.0*	3.9	灰・暗灰	灰・暗灰	
図 67-637	87013292	SK1115	須恵器	坏	13.6*	9.0*	4.2	灰	灰	
図 67-638	87013289	SK1115	須恵器	坏	14.2	10.8	3.6	灰	灰	

図 67-639	87013313	SK1115	須恵器	坏	15.0*		3.4+	灰	暗灰	
図 67-640	87013314	SK1115	須恵器	坏	14.6*		5.2+	灰	暗灰	
図 67-641	87013229	SK1115	須恵器	高坏		10.8*	6.0+	淡橙褐	淡橙褐	
図 67-642	87013310	SK1115	須恵器	高坏	15.0*	9.6	8.6	暗灰	暗灰	
図 67-643	87013288	SK1115	須恵器	皿	13.2*	11.2*	1.4	暗灰	暗灰	
図 67-644	87013264	SK1115	須恵器	皿	13.4*	11.6*	2.0+	灰	灰	
図 67-645	87013262	SK1115	須恵器	皿	18.0*	12.4*	2.5	淡灰	淡灰	
図 67-646	87013287	SK1115	須恵器	皿	18.2*	15.8*	2.1	灰	灰	
図 67-647	87013286	SK1115	須恵器	皿	19.5	15.4	2.7	灰	灰	
図 67-648	87013219	SK1115	須恵器	蓋	14.6		3.4	暗灰	暗灰	
図 67-649	87013280	SK1115	須恵器	壺	11.4*		4.0+	暗灰	暗灰	
図 67-650	87013271	SK1115	須恵器	壺			11.6+	暗灰	暗紫	
図 68-651	87013270	SK1115	須恵器	壺			17.8+	淡灰・暗灰	暗紫	
図 68-652	87013284	SK1115	須恵器	壺			5.4+	暗灰	暗灰	
図 68-653	87013273	SK1115	須恵器	壺	14.8*	14.8*	4.4+	灰	灰	
図 68-654	87013316	SK1115	須恵器	鉢		16.0*	11.4+	灰	灰	
図 68-655	87013282	SK1115	須恵器	鉢	24.2*	10.6*	13.0	暗灰	暗灰	
図 68-656	87013311	SK1115	須恵器	甕	19.4*		3.4+	灰	灰	
図 68-657	87013312	SK1115	須恵器	甕	22.2*		5.8+	紫灰	紫灰	
図 68-658	87013308	SK1115	須恵器	甕	15.6*		7.4+	黄灰	黄灰	
図 68-659	87013283	SK1115	須恵器	壺	22.4*		4.6+	灰	灰	
図 68-660	87013315	SK1115	須恵器	甕	27.0*		4.8+	灰・暗灰	灰・暗灰	
図 68-661	87013281	SK1115	須恵器	甕	35.4*		8.4+	灰	灰	
図 69-662	88004089	SK1115	須恵器	鉢	31.2*		22.0+	暗褐	暗褐	
図 69-663	87013285	SK1115	須恵器	盤	21.8	15.4	4.2	灰・黒灰	灰・黒灰	
図 69-664	92000684	SK1115	須恵器	坏	13.4*	9.8*	4.0	灰	灰	底部外面に墨書
図 69-665	92000686	SK1115	須恵器	坏		8.4*	3.6+	灰	灰	底部外面に墨書
図 69-666	92000685	SK1115	須恵器	坏	13.0*	9.4*	3.2	淡灰	淡灰	底部外面に墨書
図 69-667	92000680	SK1115	須恵器	蓋	25.8		3.6	灰	灰	蓋外面に墨書
図 70-668	92000688	SK1115	須恵器	高坏	26.8	15.2	15.0	乳灰	乳灰	坏部外面に墨書
図 70-669	87013202	SK1115	土師器	蓋	17.8*		1.6+	茶白・褐	茶白・褐	
図 70-670	87013201	SK1115	土師器	蓋	19.0*		1.4+	茶白	茶白	
図 70-671	87013192	SK1115	土師器	坏			6.0	橙	橙	
図 70-672	87013207	SK1115	土師器	坏	14.4	10.0	4.0	明褐	明褐	
図 70-673	87013190	SK1115	土師器	坏		12.2*	3.5+	灰・灰白	灰白	
図 70-674	87013191	SK1115	土師器	坏	16.6*	12.6*	3.0	橙白	橙白	
図 70-675	87013210	SK1115	土師器	坏	14.0*		3.4+	暗灰	暗灰	
図 70-676	87013199	SK1115	土師器	坏	14.8*		3.1+	橙・灰白	橙・灰白	
図 70-677	87013212	SK1115	土師器	坏	14.0*		4.2+	灰茶	灰茶	
図 70-678	87013214	SK1115	土師器	坏	15.0*		4.0+	灰褐	灰褐	
図 70-679	87013213	SK1115	土師器	坏	16.0*		3.2+	灰・黒	灰茶	
図 70-680	87013211	SK1115	土師器	坏	17.8*		3.8	茶白	灰白	
図 70-681	87013195	SK1115	土師器	坏	19.0*		2.5+	茶白	淡褐	
図 70-682	87013198	SK1115	土師器	坏	13.8*		4.6+	橙	橙	
図 70-683	87013209	SK1115	土師器	坏	14.6*		3.8	暗褐	褐	
図 70-684	87013206	SK1115	土師器	坏	14.4*		4.7+	明褐	明褐	
図 71-685	87013204	SK1115	土師器	坏	14.2	10.2	3.5	茶黄白	茶黄白	
図 71-686	87013205	SK1115	土師器	坏	13.8	10.0	3.5	灰白	茶黄白	
図 71-687	87013194	SK1115	土師器	坏	16.0*	11.2*	3.9	橙	橙白	
図 71-688	87013197	SK1115	土師器	坏	16.8*		3.0+	淡褐	淡褐	
図 71-689	87013200	SK1115	土師器	坏	13.8*	8.0*	3.5	暗灰	暗灰	
図 71-690	87013193	SK1115	土師器	坏	16.2*	13.0*	2.5	灰白	灰白	
図 71-691	87013218	SK1115	土師器	皿			2.2+	橙白	橙	
図 71-692	87013230	SK1115	土師器	皿	19.8*		3.0	淡橙	淡橙	
図 71-693	87013208	SK1115	土師器	皿	24.2*	21.4*	3.6	淡褐	淡褐	
図 71-694	87013196	SK1115	土師器	高坏	25.4*		1.5+	淡褐	淡褐	
図 71-695	87013217	SK1115	土師器	高坏	24.0*		1.5+	橙・淡褐	橙・淡褐	
図 71-696	87013203	SK1115	土師器	高坏	11.2*		4.3+	橙	橙	
図 71-697	87013227	SK1115	土師器	高坏		12.0*	6.4+	明橙	明橙	
図 71-698	87013228	SK1115	土師器	高坏		11.8*	6.0+	淡橙褐	淡褐	
図 71-699	87013309	SK1115	土師器	高坏	11.6*		5.0+	黄灰	黄灰	
図 71-700	87013215	SK1115	土師器	鉢	17.6*		5.2+	茶黄	茶黄	
図 71-701	87013298	SK1115	土師器	銅	31.6*		14.8	褐	褐	
図 71-702	87013231	SK1115	土師器	壺	18.0*		4.5+	淡橙褐	淡褐	
図 71-703	87013297	SK1115	土師器	甕	18.0*		9.4+	褐	褐	
図 71-704	87013296	SK1115	土師器	甕	18.2*		12.0+	褐	褐	
図 71-705	87013232	SK1115	土師器	甕	17.0*		8.6+	淡褐	淡褐	
図 72-706	87013234	SK1115	土師器	甕	22.0*		6.5+	淡褐・淡黄灰	淡褐	
図 72-707	87013233	SK1115	土師器	甕	24.2*		3.0+	橙褐	橙褐	
図 72-708	87013294	SK1115	土師器	甕	25.8*		8.4+	褐	褐	
図 72-709	87013299	SK1115	土師器	甕	23.0*		29.4+	淡褐	淡褐	
図 72-710	87013295	SK1115	土師器	甕	30.2*		9.8+	褐	褐	
図 72-711	87013235	SK1115	土師器	甕	33.0*		13.4+	灰	灰	
図 73-712	87013155	SK1165	須恵器	蓋			1.7+	灰	灰	

官道とその周辺

図 73-713	87013151	SK1165	須恵器	蓋	16.8*		2.4+	暗灰	暗灰	
図 73-714	87013153	SK1165	須恵器	坏	13.8*		5.1+	暗灰	暗灰	
図 73-715	87013154	SK1165	須恵器	坏	13.0*	8.6*	5.3	灰	灰	
図 73-716	87013152	SK1165	須恵器	高坏	16.4*		1.3+	暗灰	暗灰	
図 73-717	87013157	SK1165	土師器	坏	7.2*		3.6+	明褐	明褐	
図 73-718	87013156	SK1165	土師器	甗	17.2*		6.2+	明褐	明褐	
図 73-719	87013159	SK1166	須恵器	蓋	15.6*		3.4	灰	灰	
図 73-720	87013161	SK1166	須恵器	蓋	13.6*		1.0	灰	灰	
図 73-721	87013160	SK1166	須恵器	蓋	14.0*		1.8+	灰	灰	
図 73-722	87013164	SK1166	須恵器	坏		7.6*	2.8	灰	灰	
図 73-723	22000274	SK1166	須恵器	坏		11.0*	1.7+	灰白	灰白	
図 73-724	22000273	SK1166	須恵器	坏		12.2*	3.6+	灰白	灰	
図 73-725	87013163	SK1166	須恵器	坏	9.8*	6.6*	4.9+	灰褐	灰褐	
図 73-726	87013162	SK1166	須恵器	坏	13.4*		3.5+	淡灰	淡灰	
図 73-727	87013158	SK1166	須恵器	皿	22.6*		2.5	灰	灰	
図 73-728	87013167	SK1166	土師器	皿	15.0*		1.5	橙	橙	
図 73-729	87013166	SK1166	土師器	甗	23.1*		3.4+	赤褐	赤褐	
図 73-730	87013168	SK1166	土師器	把手			7.2+	橙	橙	
図 73-731	87013171	SK1167	須恵器	坏	9.4*		3.6+	淡灰	淡灰	底部外面にヘラ記号
図 73-732	87013174	SK1167	須恵器	坏	12.0*		2.6+	灰	灰	
図 73-733	87013170	SK1167	須恵器	坏	12.5*	9.0*	3.5	灰	灰	
図 73-734	87013176	SK1167	須恵器	坏	14.0*		3.0+	灰	灰	
図 73-735	87013169	SK1167	須恵器	鉢	8.3*		5.4+	淡灰	淡灰	
図 73-736	87013172	SK1167	須恵器	高坏	22.0*		1.8+	淡灰	淡灰	
図 73-737	87013177	SK1167	須恵器	高坏			5.8+	灰	灰	
図 73-738	87013173	SK1167	須恵器	壺	16.8*		2.6+	灰	灰	
図 73-739	87013175	SK1167	土師器	甗	11.0*		5.0+	明黄褐	明黄褐	
図 74-740	87010596	SX1015	須恵器	蓋			1.4+	灰	灰	
図 74-741	87010599	SX1015	須恵器	坏	12.4*		2.9+	茶灰色	茶灰色	
図 74-742	87010598	SX1015	須恵器	坏	14.6*		2.9+	茶灰色	茶灰色	
図 74-743	87010594	SX1015	須恵器	坏	14.8*		5.0+	暗灰	暗灰	
図 74-744	87010595	SX1015	須恵器	坏	15.4*		2.8+	暗灰	暗灰	
図 74-745	87010597	SX1015	須恵器	坏		10.0*	1.5+	灰	灰	
図 74-746	87010592	SX1015	須恵器	把手			6.2+	暗灰	暗灰	
図 74-747	87010606	SX1015	土師器	皿	8.8*		1.7	黄褐	黄褐	
図 74-748	87010605	SX1015	土師器	坏	16.2*		3.2+	黄橙	黄橙	
図 74-749	87010601	SX1015	土師器	甗	10.6*		3.4+	赤褐	赤褐	
図 74-750	87010607	SX1015	土師器	甗	15.8*		3.7+	明褐	明褐	
図 74-751	87010603	SX1015	土師器	甗	14.8*		4.8+	明褐	明褐	
図 74-752	87010602	SX1015	土師器	甗	16.2*		7.6+	明褐	明褐	
図 74-753	87010600	SX1015	土師器	甗	19.8		7.2+	黄褐	黄褐	
図 74-754	87010604	SX1015	土師器	甗	21.8*		6.8+	赤褐	赤褐	
図 74-755	22000276	SX1019	須恵器	蓋	15.4*		2.4+	灰	灰	
図 74-756	87010619	SX1019	須恵器	坏	12.4*	8.2*	3.8	黒灰	暗灰	
図 74-757	87010618	SX1019	須恵器	坏	12.8*	8.8*	3.4	暗灰	暗灰	
図 74-758	22000275	SX1019	須恵器	坏	13.8*		3.3+	灰	灰	
図 74-759	87010614	SX1019	土師器	蓋			1.6+	淡褐	淡褐	
図 74-760	87010612	SX1019	土師器	坏		9.4*	1.6+	淡橙褐	淡橙褐	
図 74-761	87010609	SX1019	土師器	坏		9.6*	1.6+	明褐	明褐	
図 74-762	87010613	SX1019	土師器	坏	15.2*		2.4+	淡橙褐	淡橙褐	
図 74-763	87010611	SX1019	土師器	甗	13.6*		6.8+	明褐	明褐	
図 74-764	87010616	SX1019	土師器	甗	24.0*		3.0+	明褐	明褐	
図 74-765	87010617	SX1019	土師器	甗	26.4*		4.6+	橙褐	橙褐	
図 74-766	87010615	SX1019	土師器	甗			5.2+	淡橙褐	淡橙褐	
図 74-767	87010608	SX1019	土師器	把手			4.8+	淡褐	淡褐	
図 75-768	87010636	SX1020	須恵器	蓋	13.6*		1.2	灰白	灰白	
図 75-769	87010637	SX1020	須恵器	蓋	16.4*		1.5+	灰	灰	
図 75-770	87010633	SX1020	須恵器	坏		10.0*	1.2+	紫灰	青灰	
図 75-771	87010629	SX1020	須恵器	坏	16.2*	11.0*	6.5	青灰	青灰	
図 75-772	87010630	SX1020	須恵器	坏	15.2*		3.4+	暗灰	暗灰	
図 75-773	87010631	SX1020	須恵器	鉢	14.9*		4.5	灰	灰	
図 75-774	87010624	SX1020	土師器	甗	14.4*		4.1+	暗橙	褐	
図 75-775	87010626	SX1020	土師器	甗	17.4*		3.0+	黄褐	黄褐	
図 75-776	87010623	SX1020	土師器	甗	20.0*		5.7+	淡茶	橙褐	
図 75-777	87010620	SX1020	土師器	甗	17.4*		9.5+	淡褐	淡橙	
図 75-778	87010628	SX1020	土師器	甗	25.2*		11.0+	黄褐	淡橙	
図 75-779	87010621	SX1020	土師器	甗	21.0*		16.3+	黄褐	黄褐	
図 75-780	87010622	SX1020	土師器	甗	32.9*		7.1+	黄褐・灰	淡茶	
図 75-781	87010627	SX1020	土師器	甗	36.0*		6.0+	淡茶	淡茶	
図 76-782	87010640	SX1029	須恵器	蓋			1.4+	暗灰	暗灰	
図 76-783	87010638	SX1029	須恵器	坏	9.2*	7.0*	4.3	灰白	灰白	内面にヘラ記号
図 76-784	87010639	SX1029	須恵器	坏		10.6*	2.4+	灰	灰	
図 76-785	87010642	SX1036	須恵器	蓋	15.6*		1.4	灰	灰	
図 76-786	87010643	SX1036	土師器	坏		9.0*	1.0+	明橙	明橙	

2 志波屋三の坪（乙）地区南部

（1）概要

志波屋三の坪（乙）地区は、神崎市神埼町大字志波屋字三の坪乙に所在している。この地区は、志波屋・吉野ヶ里段丘（志波屋四の坪地区）西側の谷水田を隔てた独立した小規模な低段丘上から南側の水田部（標高 10.0～14.6 m）に位置している。

工業団地造成に伴う発掘調査は、約 16,000㎡について全面発掘調査を行った。調査の結果、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落・墓地、奈良時代の官衙関連遺構、中世の墓地などが確認され、段丘西裾部の包含層から縄文時代早期の刺突文土器が出土している。このうち注目されるのは、奈良時代の官道や主軸方向を揃えた掘立柱建物群である。

なお、国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う調査を、工業団地造成に伴う調査区の北側に調査区を 2ヶ所（385・386区）設定して実施しているが、時期不明の溝跡が 1条確認されたのみである。

（2）遺構と遺構に伴う遺物

本書では官道付近より南側が対象であるため、志波屋三の坪（乙）地区の官道より南側について報告する。

A 溝

古代の溝は官道の側溝と考えられる溝も含めて、4条確認された。

SD0157 溝

調査区南側に位置し、全長 12.0m、幅 0.6～1.1m で東西に伸びる溝である。志波屋四の坪地区 I 区の SD1007 の延長線上にあると想定され、官道北の側溝と考えられる。東側延長は削平される。

SD0157 出土遺物（図 84）

1～3 は須恵器坏である。1 は口縁部で、口縁端部がやや外反する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。2 の高台は少し高く端部を外側に肥厚させる。壺の底部の可能性もある。外面は回転ナデ、ナデ、内面はナデ調整を行う。3 は底部で、外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。4 は須恵器高坏の脚部である。外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。5 は土師器坏である。やや強いヨコナデ調整によって外面にいくつか稜をもつ。内外面ともにヨコナデ調整を行う。6 は土師器皿である。口縁部がやや外反しながら開く。内外面ともにヨコナデ、ナデ調整を行う。7 は土師器甕である。外面はハケメ、内面はケズリ調整を行う。

SD0159 溝

調査区南側に位置し、全長 22.6m、幅 0.4～5.0m で波状に曲がる溝である。西側では SD0160 と合流し、No.3 トレンチまで確認できる。志波屋四の坪地区 I 区の SD1006 の延長線上にあると想定され、官道南の側溝と考えられる。

SD0159 出土遺物（図 84）

8 は須恵器壺口縁部破片である。口縁端部外面に 2 条の沈線を施す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。9 は黒色土器碗である。高台が欠損している。外面はケズリ、ヨコナデ、ナデ、内面は黒化处理を行う。

SD0160 溝

調査区南側に位置し、全長 25.4m、幅 1.0～5.0m の溝である。西側では SD0159 と合流するが、切り合い関係は不明である。

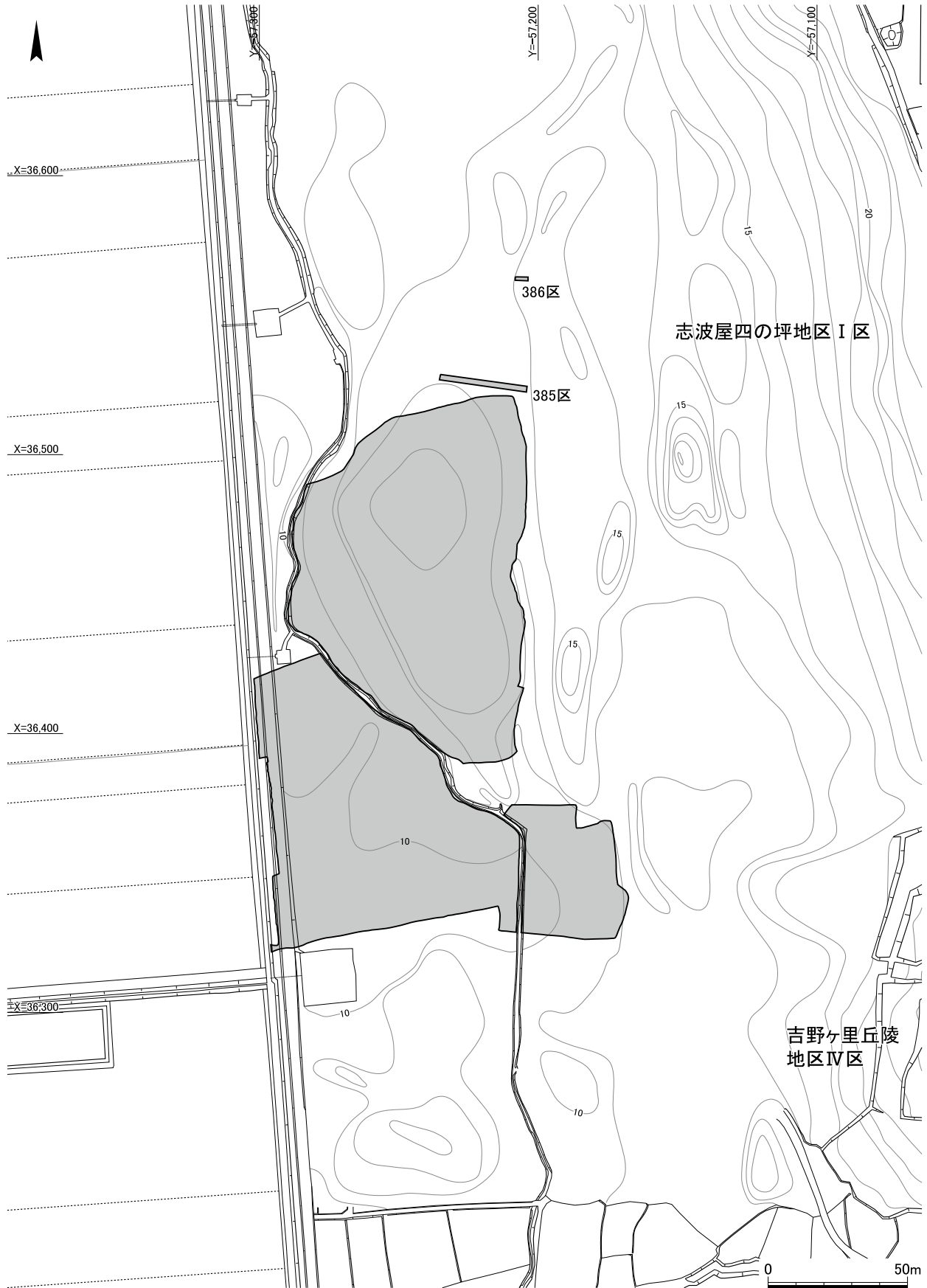


図 77 志波屋三の坪 (乙) 地区 調査区の位置 (1/2,000)



図78 志波屋三の坪(乙)地区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,000)



図 79 志波屋三の坪（乙）地区 古代の遺構分布（1/1,000）

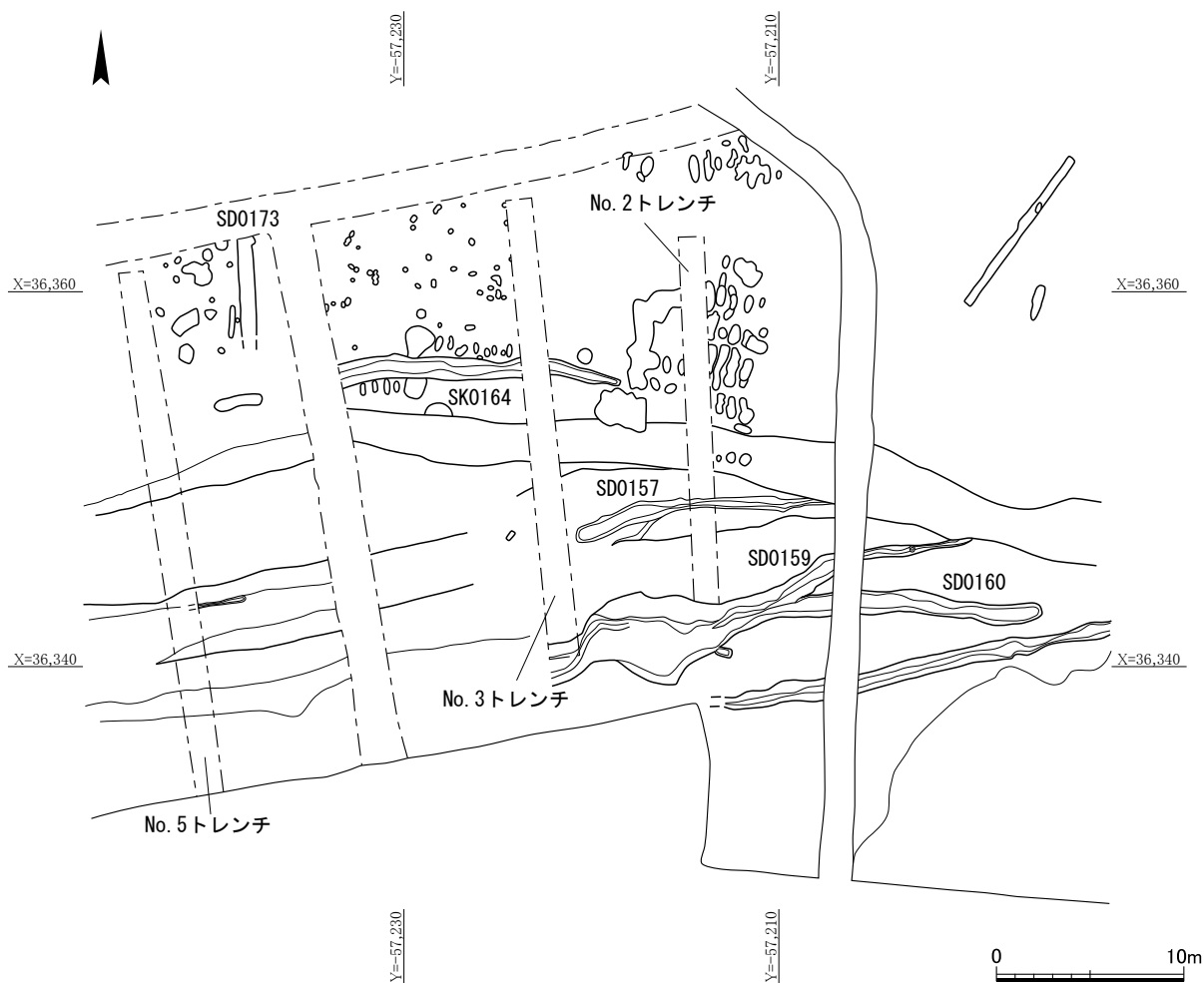


図80 志波屋三の坪(乙)地区 遺構分布詳細図1 (1/400)

SD0160 出土遺物 (図84)

10～14は土師器杯で、いずれも底部は丸く丸みを帯びた形状である。14の内面には口縁部に向かって放射状に暗文が施される。15は黒色土器椀である。

SD0173 溝

調査区南側に位置し、全長5.3m、幅0.9mの南北の溝である。

SD0173 出土遺物 (図84)

16は須恵器蓋である。かえりは口縁部より内側におさまり、天井部は平坦で、体部との境で稜をもつ。口縁端部に向かって細くなる。17は須恵器壺の底部と考えられる。底部の厚いつくりと、体部の開き方から壺の可能性が考えられる。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。

B 土坑

古代の土坑は1基確認された。

SK0164 出土遺物 (図84)

18は須恵器壺である。高台は高く、接地部分は面をなし、底部の器壁が厚い。19は須恵器皿である。器壁は薄く、

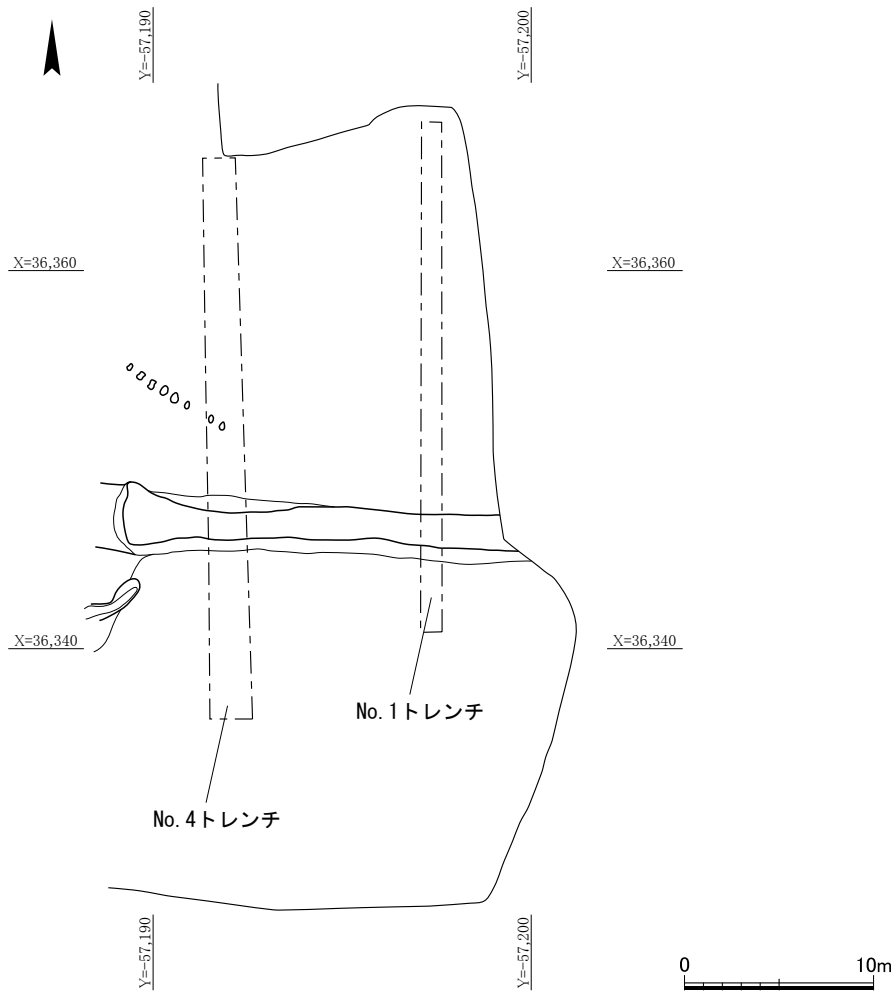


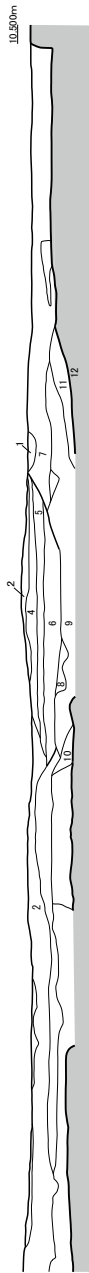
図 81 志波屋三の坪（乙）地区 遺構分布詳細図 2 (1/400)

口縁部は直線的に開く。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。20 は土師器蓋の口縁部破片である。外面は摩耗のため調整不明で、内面はヨコナデ調整を行う。21 ~ 26 は土師器坏で、23、25、26 は底部は平たく体部から直線的に口縁部にかけて開く形状である。21 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。22、24 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。23、25、26 の底部外面はヘラ切り離し後未調整、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。25 の内面は黒化処理を行う。27 は黒色土器碗である。外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。28 は土師器皿で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。29、30 は土師器甕で、いずれも外面に黒斑がみられる。胴部外面はハケメ、口縁部はヨコナデ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。

(3) 志波屋三の坪（乙）地区南部の古代の遺構について

志波屋三の坪（乙）地区南部では 8 世紀代から 9 世紀代にかけての遺構を確認し、溝 4 条、土坑 1 基が確認された。特にこの調査区では北側溝（SD0157）と南側溝（SD0159）がみられ、志波屋四の坪地区 I 区南部でも確認された北側溝（SD1007）と南側溝（SD1006）の続きであると推定される。遺物量が少なく、各溝の時期決定までには至らなかったが、出土遺物から概ねの時期は志波屋四の坪地区 I 区南部の北側溝（SD1007）と南側溝（SD1006）と同じと考えられる。

SS0 1Tr東壁



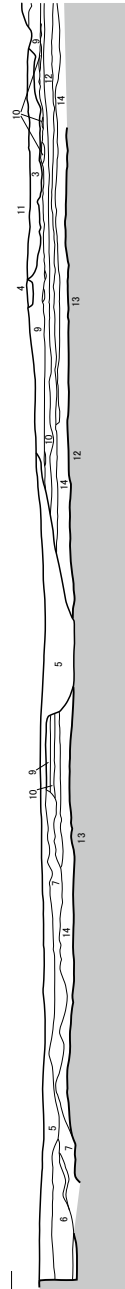
- 1 灰褐色粘質土
- 2 明褐色砂質土
- 3 灰色粘質土
- 4 暗灰色砂質土
- 5 黄灰色砂質土
- 6 黄灰色砂質土
- 7 灰色粘質土
- 8 灰黑色砂質土
- 9 灰黑色粘質土
- 10 灰黑色粘質土
- 11 灰色砂質土
- 12 灰白色粘質土 (地山)

SS0 2Tr東壁



- 1 黄色砂質土
- 2 暗灰色砂質土
- 3 暗灰色砂質土
- 4 灰色砂質土
- 5 灰色砂質土
- 6 灰褐色粘質土
- 7 暗灰色粘質土
- 8 暗黄色砂質土
- 9 暗灰色粘質土
- 10 暗灰色砂質土
- 11 暗灰色粘質土と地山 (黄色粘質土) の混入土
- 12 灰色砂質土
- 13 灰色砂質土
- 14 灰色砂質土
- 15 灰色砂質土
- 16 灰色砂質土

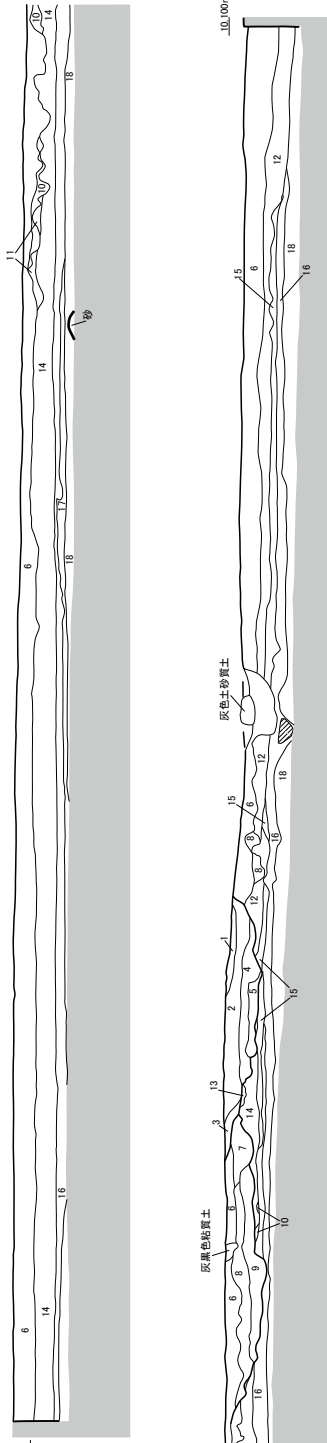
SS0 3Tr西壁



- 1 灰黑色粘質土
- 2 灰褐色粘質土
- 3 黄褐色砂質土
- 4 灰褐色粘質土
- 5 暗灰色粘質土
- 6 暗灰色粘質土
- 7 灰色砂質土
- 8 黄色粘質土
- 9 黄褐色粘質土
- 10 黄青色粘質土
- 11 黑褐色粘質土
- 12 暗灰褐色粘質土
- 13 灰白色粘質土
- 14 暗灰色粘質土

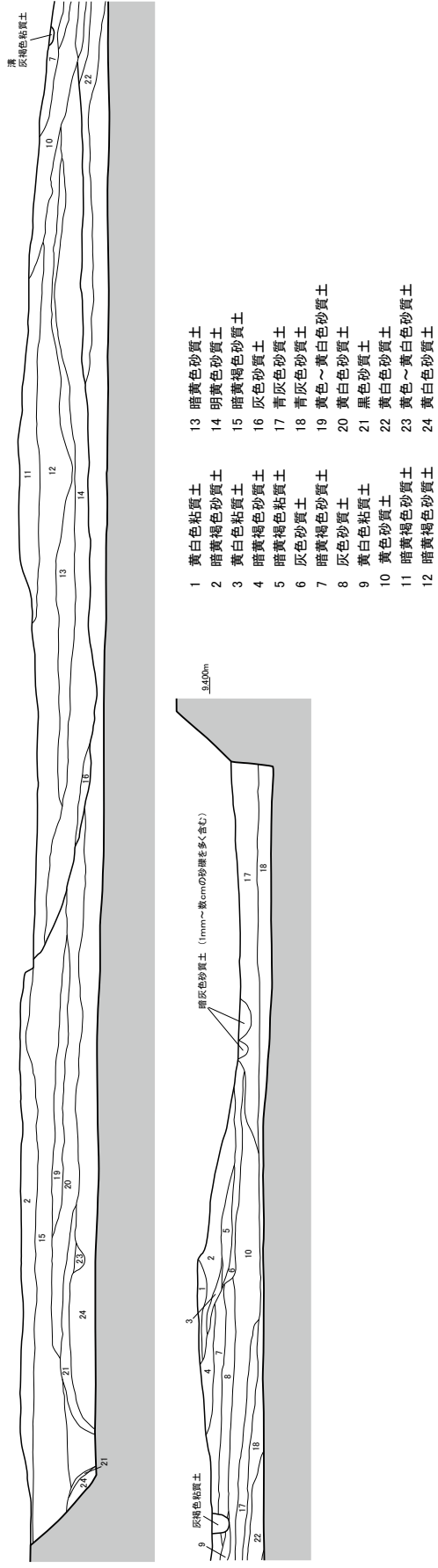
図 82 赤波扇川の坪 (乙) 地区 溝の土層 1 (1/80)

SS0 4Tr 東壁



- 1 黄色砂質土
- 2 黄白色砂質土
- 3 暗灰色砂質土
- 4 黄褐色砂質土
- 5 暗灰色砂質土
- 6 灰褐色粘質土
- 7 灰色粘質土 (砂礫を含む)
- 8 灰色粘質土
- 9 灰色砂質土
- 10 灰色砂質土 (青色粘土混じり)
- 11 灰黒色粘質土
- 12 灰黒色粘質土
- 13 暗灰色粘質土
- 14 暗灰色粘質土
- 15 灰色粘質土
- 16 灰色粘質土
- 17 黒色粘質土
- 18 灰白色粘質土

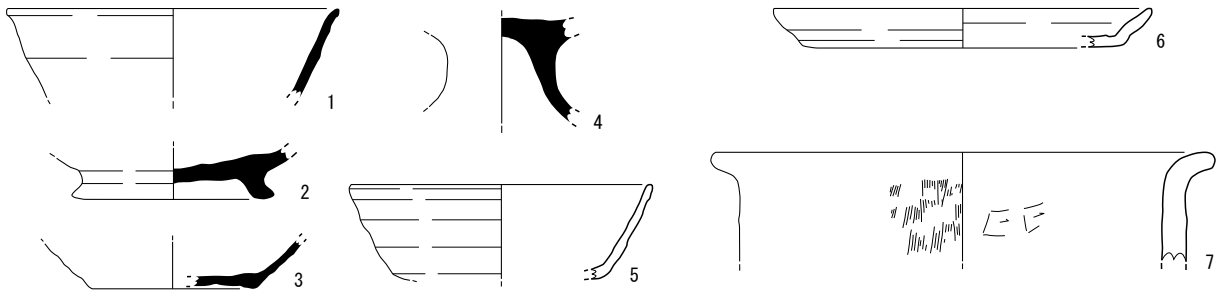
SS0 5Tr 東壁



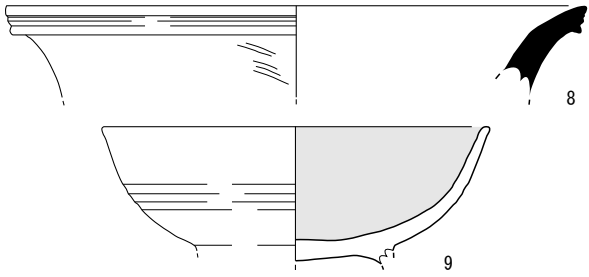
- 1 黄白色粘質土
- 2 暗黄褐色砂質土
- 3 黄白色粘質土
- 4 暗黄褐色砂質土
- 5 暗黄褐色粘質土
- 6 黄褐色粘質土
- 7 暗黄褐色砂質土
- 8 灰色砂質土
- 9 黄白色粘質土
- 10 黄色砂質土
- 11 暗黄褐色砂質土
- 12 暗黄褐色砂質土
- 13 暗黄色砂質土
- 14 明黄褐色砂質土
- 15 暗黄褐色砂質土
- 16 灰色砂質土
- 17 青灰色砂質土
- 18 青灰色砂質土
- 19 黄色~黄白色砂質土
- 20 黄白色砂質土
- 21 黒色砂質土
- 22 黄白色粘質土
- 23 黄色~黄白色砂質土
- 24 暗黄褐色砂質土

図83 赤波川三の坪(乙)地区 溝の土層2 (1/80)

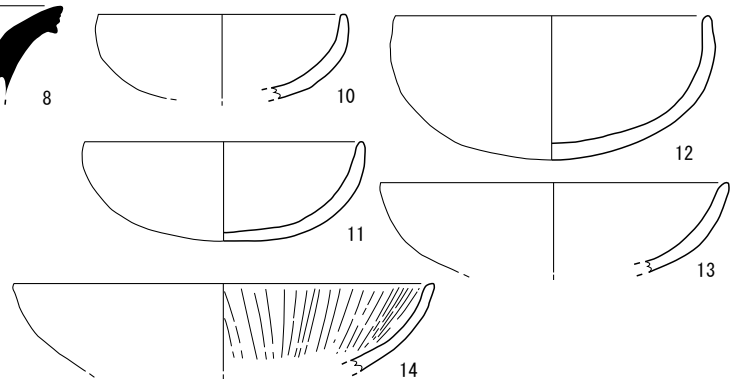
SD0157



SD0159



SD0160



SD0173



SK0164

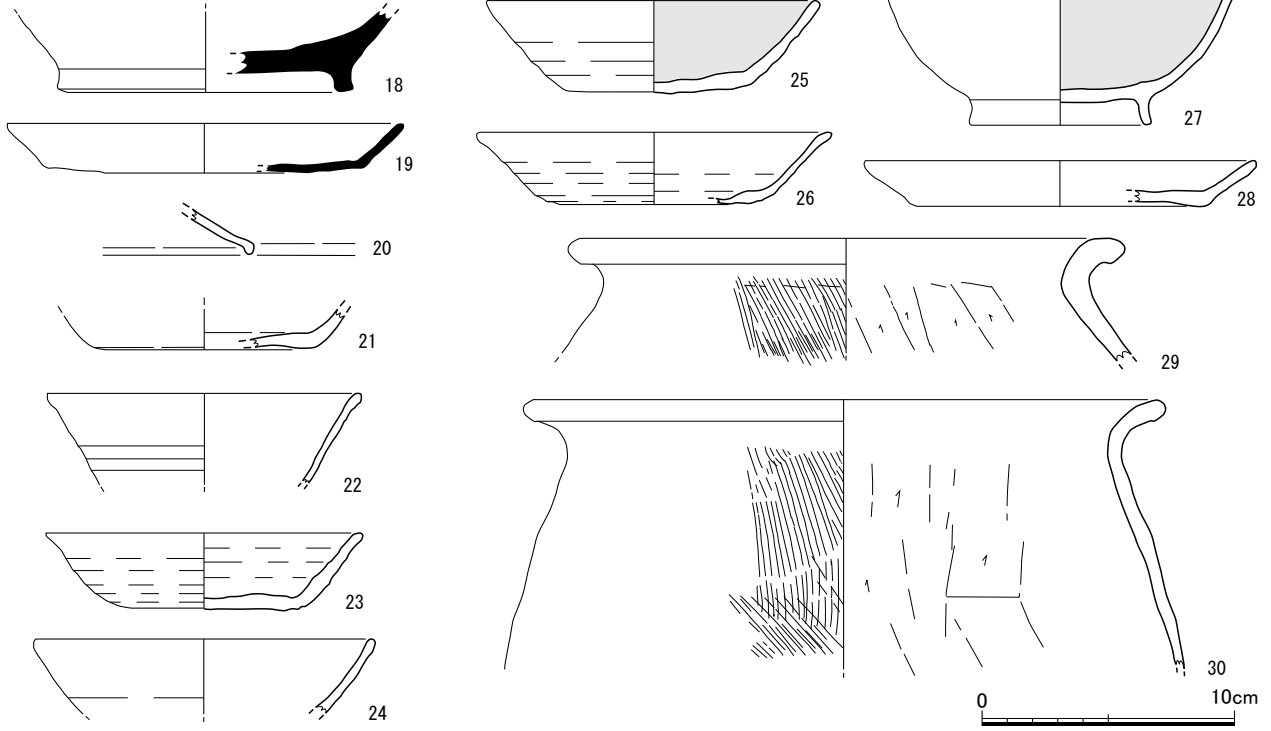


図84 志波屋三の坪(乙)地区 出土遺物(1/3)

表 6 志波屋三の坪地区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0164	隅丸方	1.8	1.6	-	-	-	-			8c 後半～9c	

表 7 志波屋三の坪地区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 84-1	88006854	SD0157	須恵器	坏	13.2*		3.6+	淡灰	淡灰	
図 84-2	88006859	SD0157	須恵器	坏		8.0*	2.0+	紫灰	紫灰	
図 84-3	88006851	SD0157	須恵器	坏		6.6+	2.0+	灰	灰	
図 84-4	88006855	SD0157	須恵器	高坏			4.1+	灰	灰	
図 84-5	88006852	SD0157	土師器	坏	12.0*		3.7+	淡褐	淡褐	
図 84-6	88006853	SD0157	土師器	皿	15.0*		1.5+	淡褐	淡褐	
図 84-7	88006856	SD0157	土師器	甗	20.0*		4.3+	淡褐	淡褐	
図 84-8	88006857	SD0159	須恵器	壺	23.0*		3.6+	灰	灰	
図 84-9	88006858	SD0159	黒色土器	椀	15.4*		5.4+	淡褐	黒	黒色土器 A 類
図 84-10	88006863	SD0160	土師器	坏	9.8*		3.3+	淡褐	淡褐	
図 84-11	88006865	SD0167	土師器	坏	11.0		3.9	淡橙	淡橙	
図 84-12	88006860	SD0167	土師器	坏	12.4		5.7	黄褐	黄褐	
図 84-13	88006862	SD0160	土師器	坏	13.8*		3.7+	赤褐	赤褐	
図 84-14	88006861	SD0160	土師器	坏	16.6*		3.5+	淡橙	淡橙	内面に暗文
図 84-15	88006864	SD0160	黒色土器	椀	13.6*	8.2	6.0	褐	黒	黒色土器 A 類
図 84-16	88006901	SD0173	須恵器	蓋		12.6*	1.3	褐灰	暗灰	
図 84-17	22000220	SD0173	須恵器	坏		10.0*	2.4+	灰白	灰白	
図 84-18	88006780	SK0164	須恵器	壺		11.8*	3.2+	紫灰	紫灰	
図 84-19	88006784	SK0164	須恵器	皿	15.8*		1.9	灰色	灰色	
図 84-20	22000219	SK0164	土師器	蓋			1.8+	浅黄橙	浅黄橙	
図 84-21	22000218	SK0164	土師器	坏		8.8*	1.6+	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
図 84-22	88006782	SK0164	土師器	坏	12.4*		3.6+	黄褐	黄褐	
図 84-23	88006787	SK0164	土師器	坏	12.6	7.4	3.1	暗褐	暗褐	底部内面に煤付着
図 84-24	88006783	SK0164	土師器	坏	13.6*		2.9	黄褐	黄褐	
図 84-25	88006785	SK0164	黒色土器	坏	13.2*		3.6	暗褐	暗褐	黒色土器 A 類
図 84-26	88006781	SK0164	土師器	坏	14.0*	8.4*	2.8	黄褐	黄褐	
図 84-27	88006786	SK0164	黒色土器	椀	13.4	7.2	5.2	明褐	暗褐	黒色土器 A 類
図 84-28	88006788	SK0164	土師器	皿	15.6*		1.8	明褐	明褐	
図 84-29	88006779	SK0164	土師器	甗	22.0*		4.5+	暗褐	暗褐	
図 84-30	88006778	SK0164	土師器	甗	25.4*		10.7+	暗褐	暗褐	

3 吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区

(1) 概要

吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区は、吉野ヶ里町大字田手字四本杉に所在しており、志波屋・吉野ヶ里段丘上に位置している。これらの調査区の東側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区、南側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区・吉野ヶ里地区Ⅰ・Ⅱ区が、いずれも小規模な谷を挟んで位置している。北側から西側にかけては志波屋四の坪地区が隣接しているが、Ⅸ区北側と志波屋四の坪地区の間は古代官道によって開削された切通しとなっている。したがって、本来は志波屋四の坪地区が立地している段丘の南端にあたる部分となる。また、Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区の間には日吉神社が鎮座しているが、神社境内跡を含めた一帯は「日吉城」に比定される山城跡であり、神社とⅨ区の間には東西方向の堀切が現存している。

Ⅰ区は段丘南端斜面(標高 14.0～18.5 m)、Ⅳ区は段丘西斜面(標高 18.6～21.0 m)、Ⅸ区は段丘上から東斜面(標高 18.0～23.0 m)に位置しており、Ⅰ・Ⅳ区が工業団地造成に伴う発掘調査、Ⅸ区(350調査区)が補助事業による確認調査である。なお、日吉神社境内は吉野ヶ里歴史公園未開園区域に含まれる。

調査の結果、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落・方形周溝墓、奈良時代の掘立柱建物群、平安時代の墓地、中世の山城関連遺構などが確認された。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

【吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区】

A 掘立柱建物

古代の総柱建物が1棟確認された。

SB0040 掘立柱建物(図91)

建物の構造は梁行2間(3.3m)、桁行2間(3.9m)の総柱建物である。梁行柱間は1.5～1.8m、桁行柱間は1.6～1.7mで、主軸方位はN25.4°Wである。柱掘方は円形を基調とする。志波屋四の坪地区Ⅰ区で確認されている2間×2間の総柱建物と規模や配置位置が似ていることから同時期の建物と判断した。

B 土坑

古代の土坑は5基確認された。

SK0029 出土遺物(図92)

1は土師器環で、高台は断面が逆三角形を呈す。底部外面はヘラ切り後未調整、口縁部はナデ、内面はナデ調整を行う。2は土師器皿で、やや内湾気味に開く。底部外面はヘラ切りの痕跡がみられ、他は摩耗のため調整不明である。

SK0031 出土遺物(図92)

3は須恵器蓋の口縁部破片で、端部を鳥嘴状につくる。外面は摩耗のため調整不明で、内面は回転ナデ調整を行う。4は高台付きの盤である。口径が大きく、やや内湾しながら開く。高台内はヘラ切り離した後ナデ、高台は回転ナデ、口縁部外面、内面は摩耗のため調整不明である。

SK0042 出土遺物(図92)

5は坏または椀の底部で、細長い高台をもつ。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

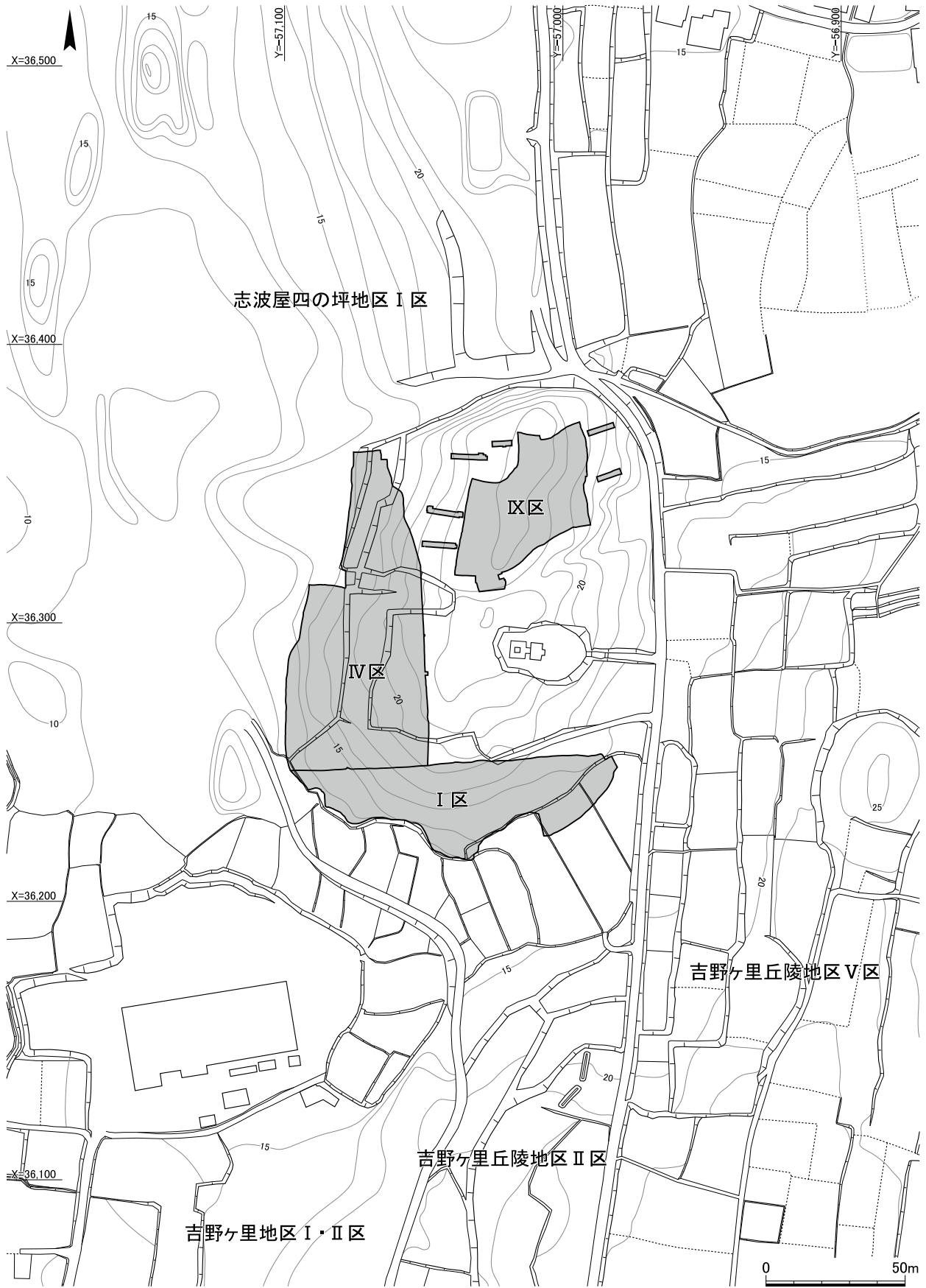


図 85 吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX 区 調査区の位置 (1/2,000)

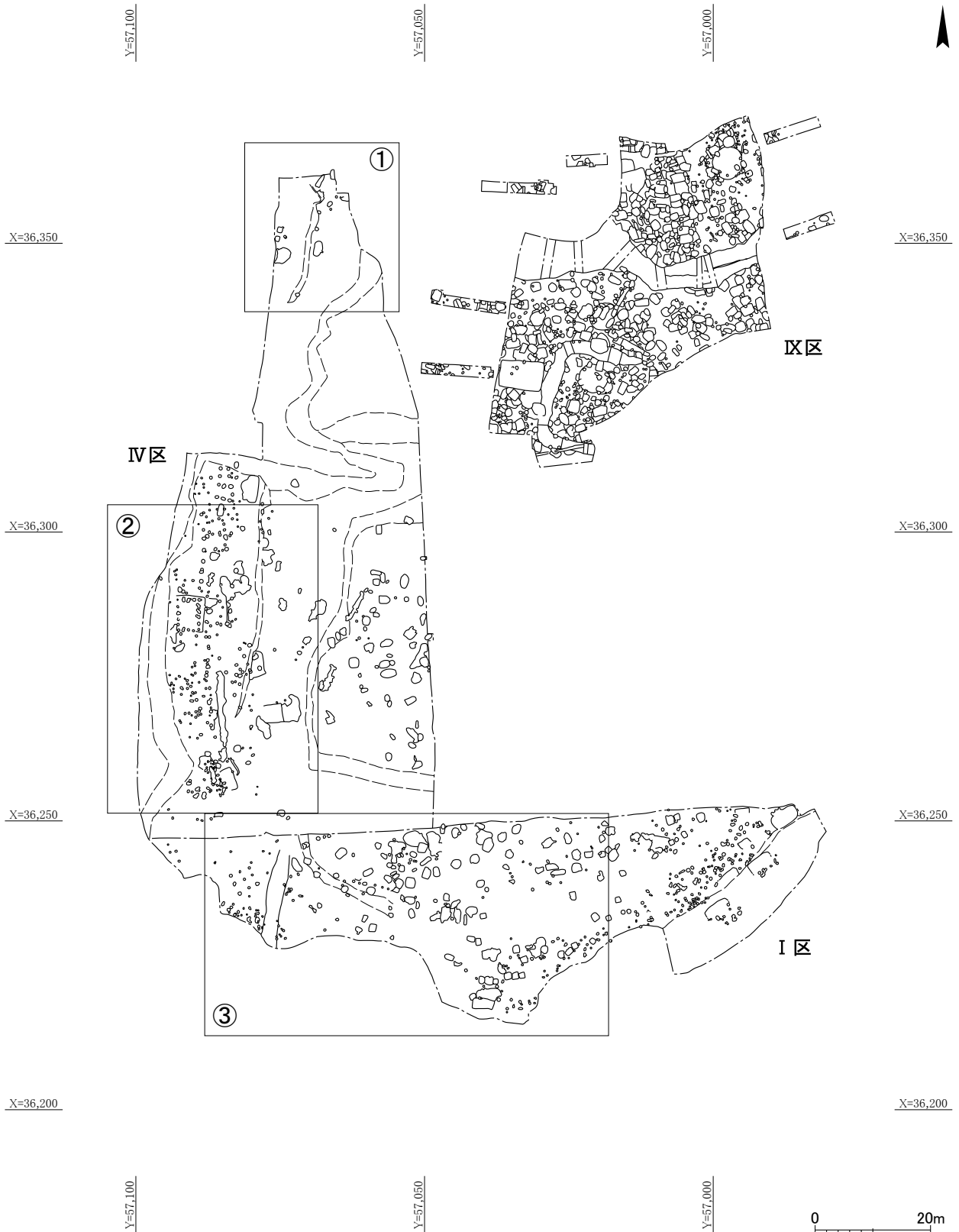


図86 吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,000)

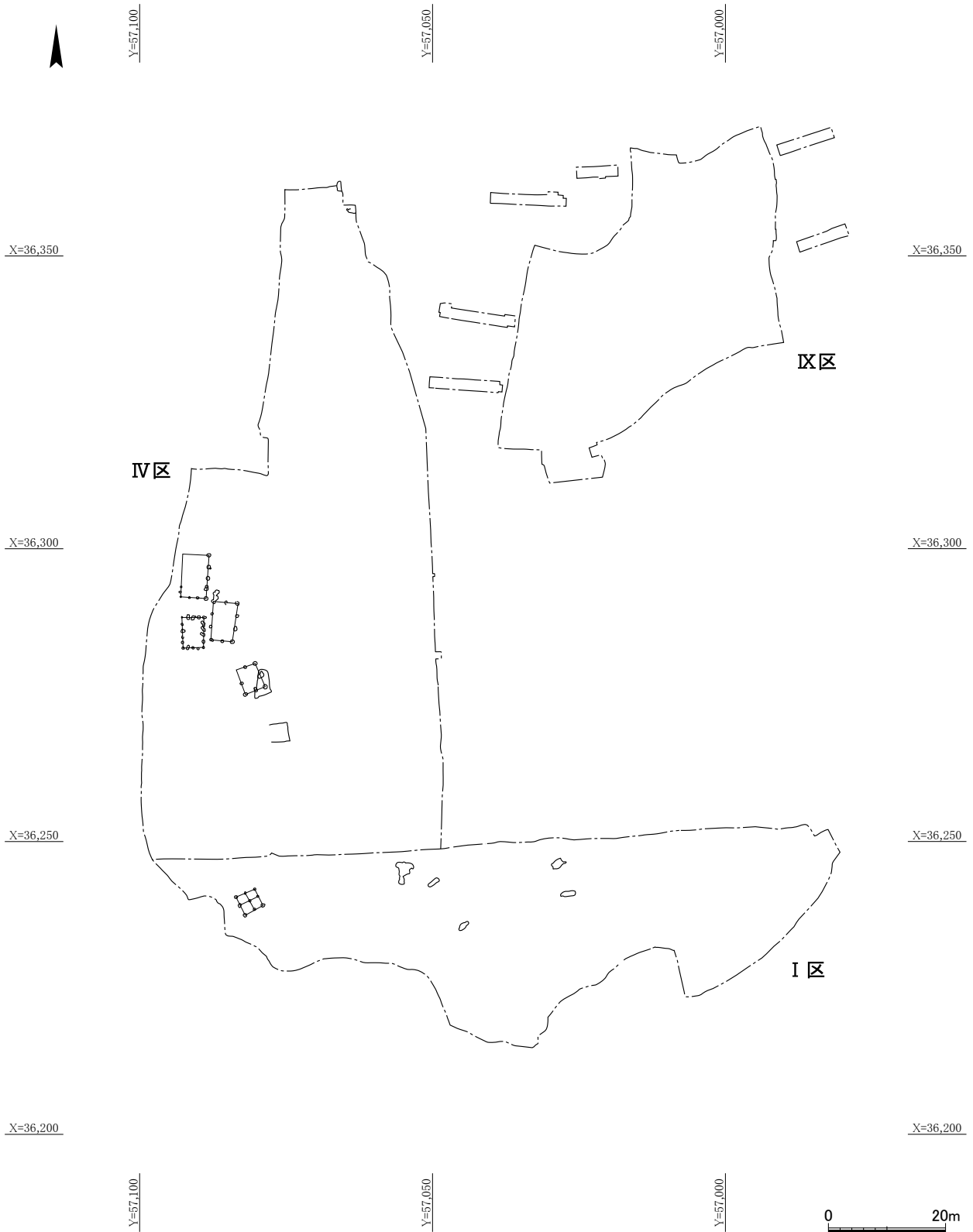


図 87 吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区 古代の遺構分布 (1/1,000)

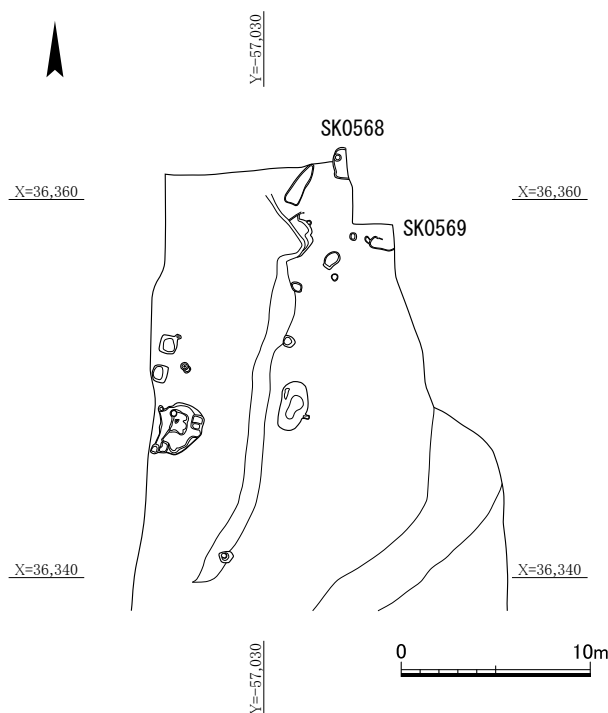


図 88 吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区 遺構分布詳細図 1 (1/400)

SK0043 出土遺物 (図 92)

6 は土師器皿で、底部の器壁は厚く、口縁端部が外反する。底部外面はヘラ切り離し、他は摩耗のため調整不明である。

SK0044 出土遺物 (図 92)

7 は須恵器蓋で、扁平なつまみをもつ。口縁端部を短く屈曲する。外面は回転ナデ、ナデ、内面は摩耗のため調整不明である。焼成不良である。内面に「T」字状のヘラ記号が認められる。

C 土坑墓

古代の土坑墓は 2 基確認され、いずれも 9 世紀代に下るものと考えられる。

SP0021 土坑墓

調査区中央、SK0044 の南側に位置し、長軸は東西方向に伸びる。遺物は北壁に寄って出土した。

SP0021 出土遺物 (図 92)

8 は土師器椀で、高台は細長く外側に張り出し、やや内湾気味に開く形状である。底部外面はヘラ切り離し、内面はナデ調整を行う。9 は黒色土器椀で、外面は摩耗のため調整不明で、内面はミガキを行う。10 は土師器坏で、口縁部に向かって器壁が薄くなる。底部外面はヘラ切り離し、他は摩耗のため調整不明である。

SP0022 土坑墓

調査区中央、SK0031 の南東側に位置し、長軸は北東 - 南西方向に伸びる。遺物は 2 点出ているが、出土状況から頭位方向は不明である。

SP0022 出土遺物 (図 92)

11 は土師器坏で、底部よりやや内湾しながら開く。内外面ともに摩耗のため調整不明である。内面にヘラ記号が

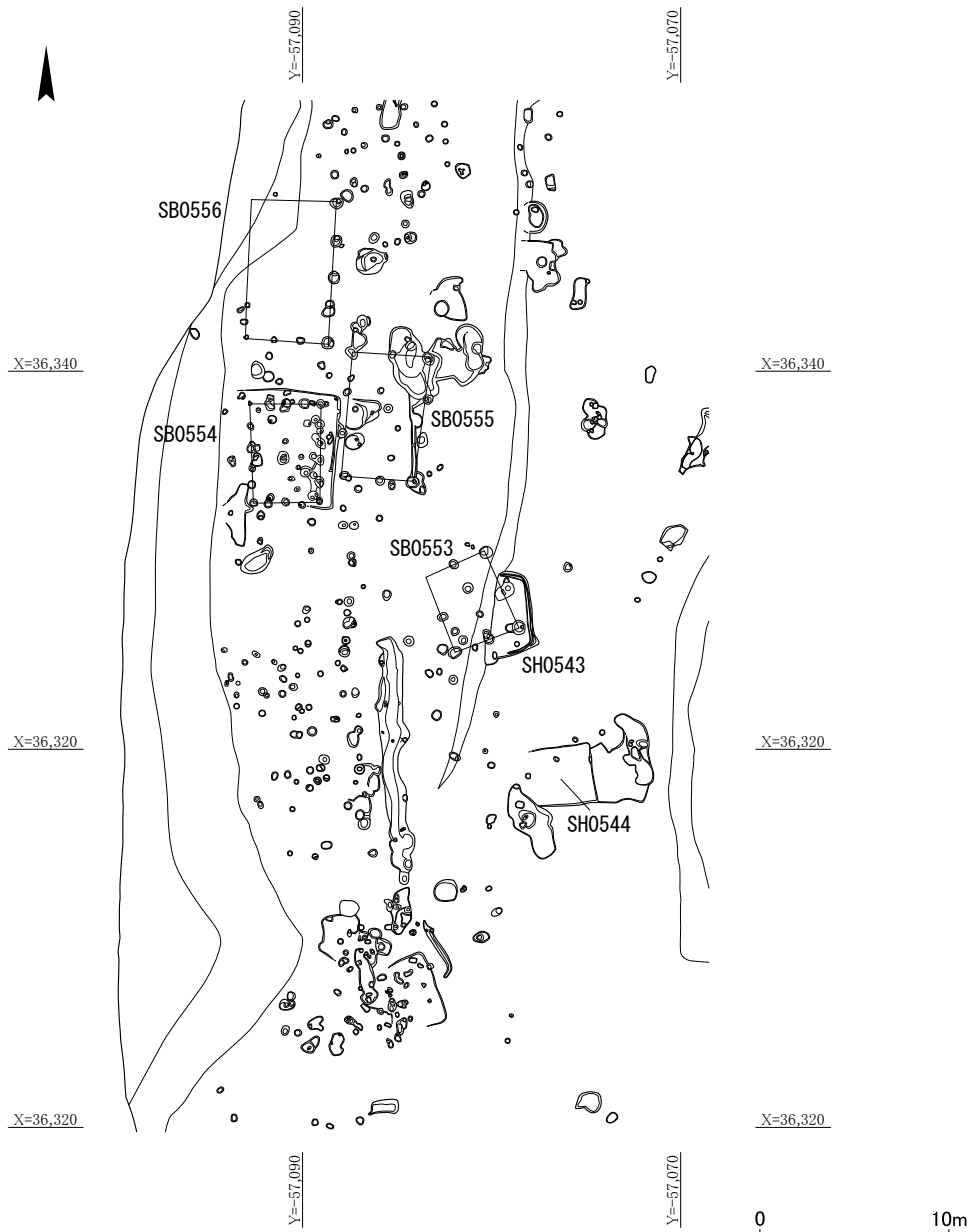


図 89 吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区 遺構分布詳細図 2 (1/400)

認められる。12は土師器碗で、高台は細長く外側に張り出すように伸び、口縁部は内湾しながら開く。底部外面に一部板状圧痕の痕跡がみられ、口縁部はヨコナデ、ナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。



図90 吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ・Ⅳ・Ⅸ区 遺構分布詳細図3 (1/400)

SB0040

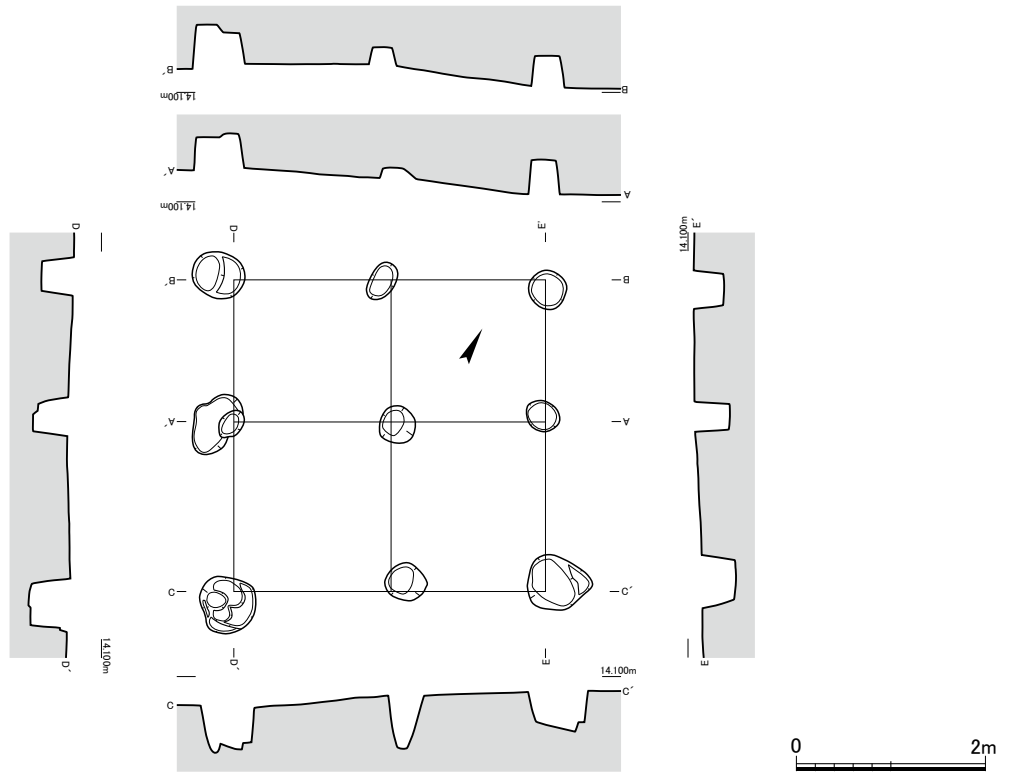


図91 吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区 掘立柱建物 (1/80)

表 8 吉野ヶ里丘陵地区 I 区 掘立柱建物

遺構番号	間数	梁行 (m)		桁行 (m)		主軸方位	平面積 (㎡)	柱穴 (m)		新旧関係		時期	特記事項
		全長	柱間	全長	柱間			平面形	規模	旧	新		
SB0040	2×2	3.3	1.5～1.8	3.3	1.6～1.7	N25.4° W	10.89	円	0.4～0.7			8c	総柱

表 9 吉野ヶ里丘陵地区 I 区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0029	不整形楕円	2.0	1.0	方	0.2	2.0	0.9			8c	
SK0031	不整形	3.1	2.4	台?	—	1.9	0.8			8c	
SK0042	隅丸方形	2.0	1.5	—	—	—	—			8c	
SK0043	隅丸長方形	2.0	1.6	—	—	—	—			8c	
SK0044	長方形	2.1	1.4	方	1.1	1.8	1.2			8c 後半	

表 10 吉野ヶ里丘陵地区 I 区 土坑墓

遺構番号	種類	平面形	主軸方位	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		深さ	時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸			
SP0021	土坑墓	隅丸長方	N98° W		2.6	0.8	0.3				9c	
SP0022	土坑墓	隅丸長方	N37° W		2.1	0.8	0.4				9c 後半?	

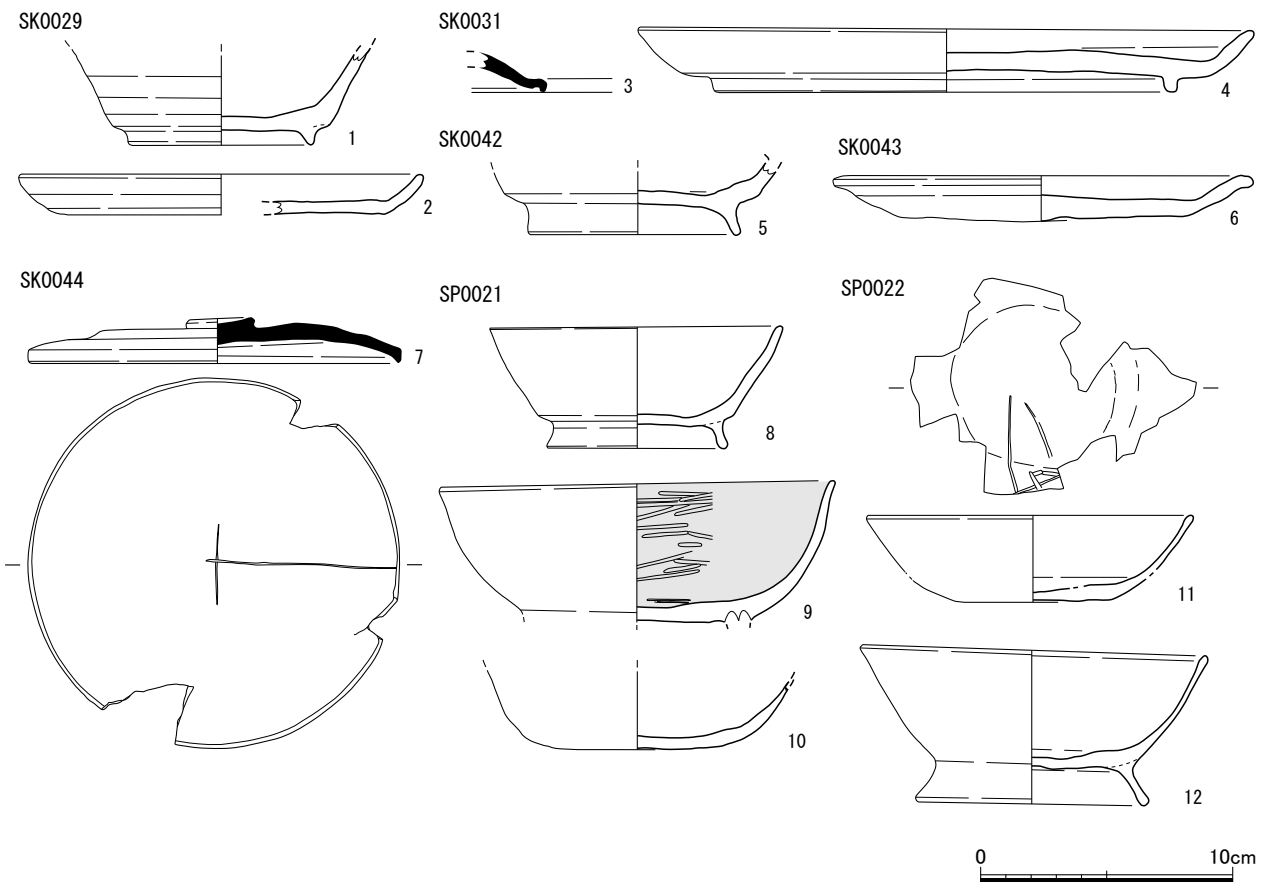
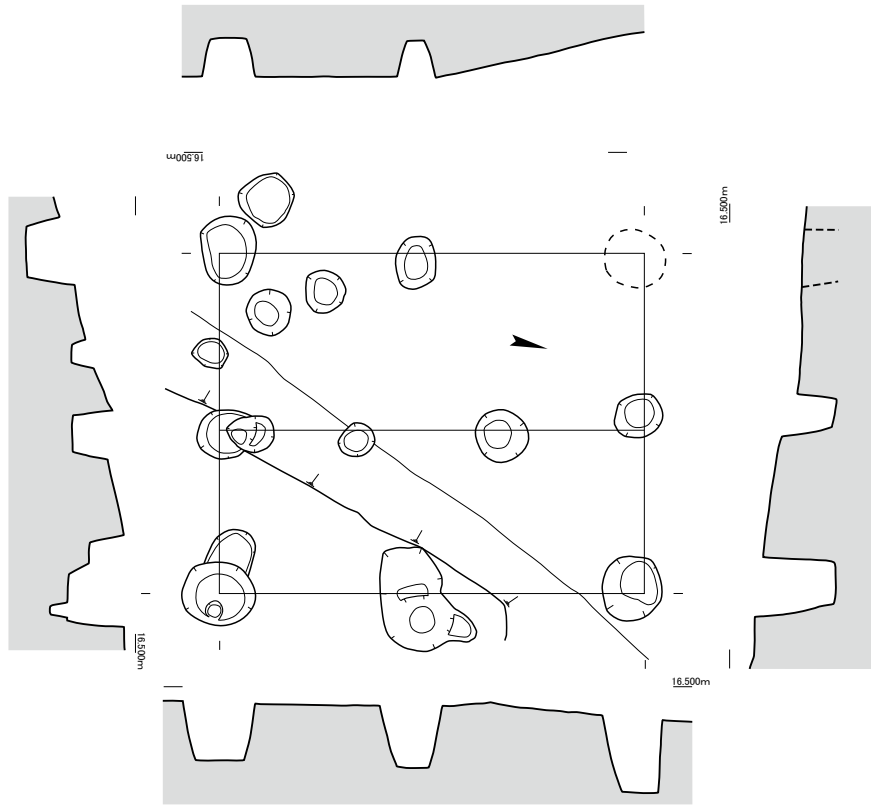


図 92 吉野ヶ里丘陵地区 I 区 出土遺物 (1/3)

表 11 吉野ヶ里丘陵地区 I 区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 92-1	22000002	SK0029	土師器	坏		7.4*	3.6+	灰黄・にぶい橙	灰黄・にぶい橙	
図 92-2	22000001	SK0029	土師器	皿	16.1*	13.1*	1.6	明黄褐	明黄褐	
図 92-3	22000004	SK0031	須恵器	蓋			1.6+	灰黄	灰黄	
図 92-4	22000003	SK0031	土師器	盤	24.5*	18.4	2.5	橙	橙	
図 92-5	22000005	SK0042	土師器	坏		8.4	2.5+	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
図 92-6	22000006	SK0043	土師器	皿	16.7	11.1	1.8	橙	橙	
図 92-7	22000007	SK0044	須恵器	蓋	14.8		1.8	黄灰	灰黄	内面にヘラ記号
図 92-8	01000876	SP0021	土師器	椀	11.6		4.8	明黄褐	明黄褐	
図 92-9	01000877	SP0021	黒色土器	椀	15.6		5.6+	明黄褐	黒褐	黒色土器 A 類
図 92-10	22000008	SP0021	土師器	坏		8.3	3.1+	にぶい橙	にぶい橙	
図 92-11	22000009	SP0022	土師器	坏	13.0*	6.2	3.4	橙・にぶい黄橙	橙・にぶい黄橙	内面にヘラ記号
図 92-12	04001501	SP0022	土師器	椀	13.8	9.3	6.4	明褐	明褐	

SB0553



SB0554

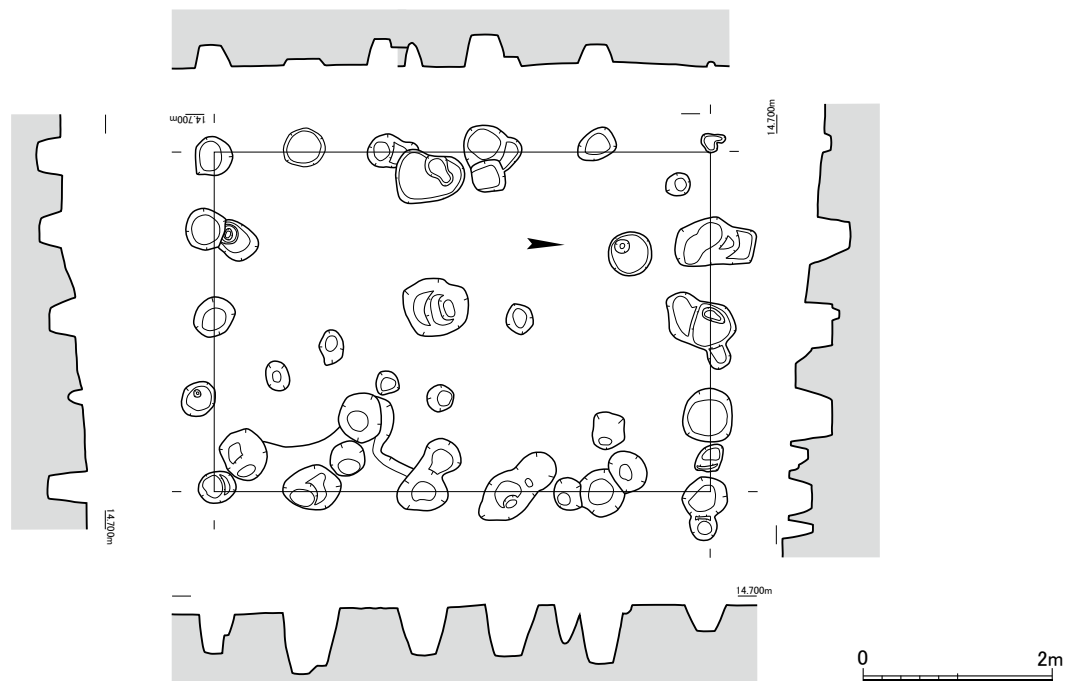


图93 吉野ヶ里丘陵地区IV区 掘立柱建物1 (1/80)

SB0555

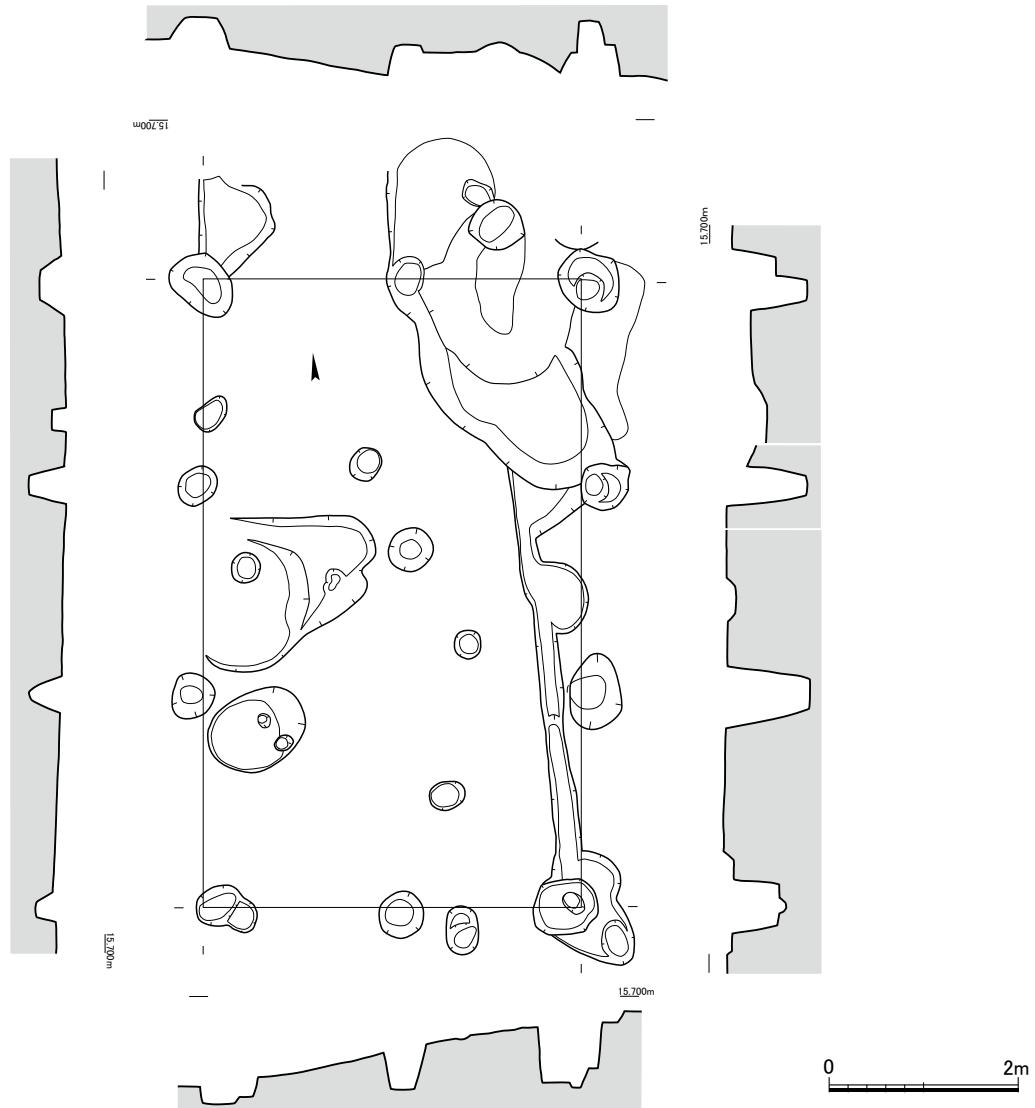


図94 吉野ヶ里丘陵地区IV区 掘立柱建物2 (1/80)

【吉野ヶ里丘陵地区IV区】

A 掘立柱建物

古代の側柱建物4棟が確認された。

SB0553 掘立柱建物 (図93)

建物の構造は梁行2間(3.6m)、桁行2間(5.5m)、梁行柱間は1.7～2.0m、桁行柱間は2.0～2.1mで、主軸方位がN23.8°Wの南北棟である。柱掘方は円形を基調とする。柱間の中央にはほぼ同規模の束柱が2つある。

SB0554 掘立柱建物 (図93)

建物の構造は梁行4間(3.6m)、桁行5間(5.25m)、梁行柱間は0.8～1.0m、桁行柱間は0.8～1.2mで、主軸方位がN0.5°Wの南北棟で、ほぼ真北を向く。柱掘方は円形を基調とする。東側はSB0555と近接しているため、別時期の建物と考えられる。

SB0556

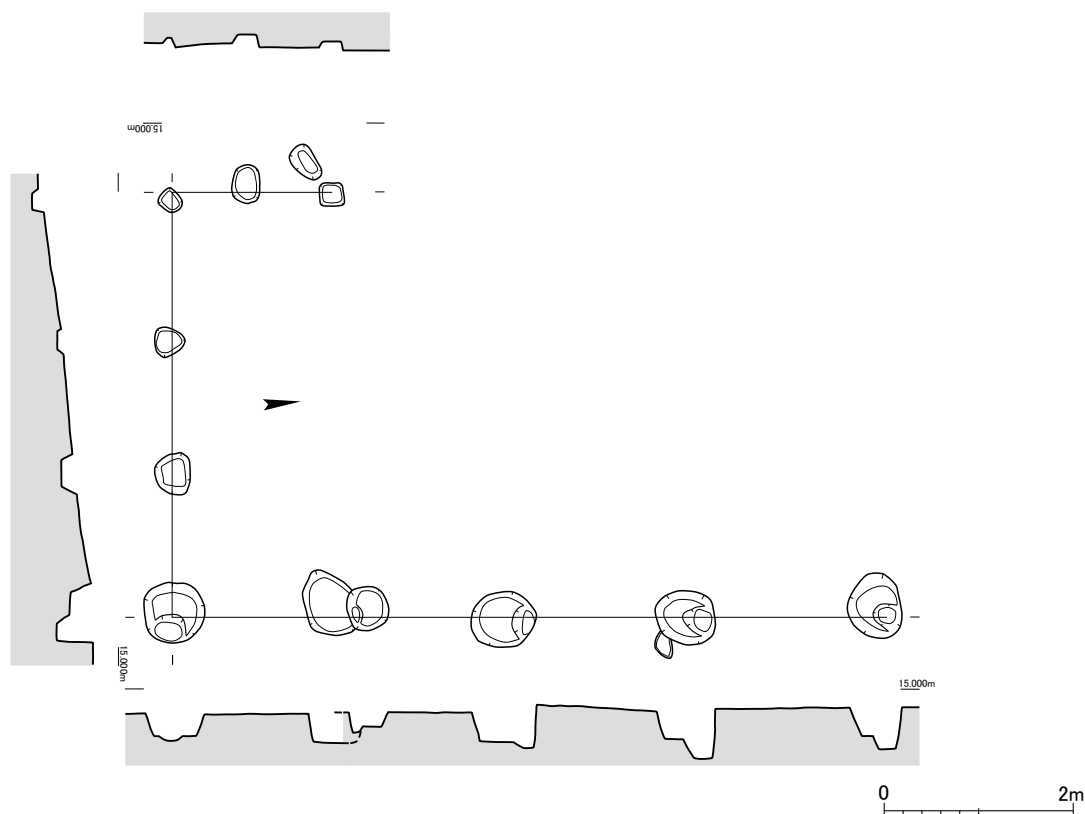


図95 吉野ヶ里丘陵地区IV区 掘立柱建物3 (1/80)

表12 吉野ヶ里丘陵地区IV区 掘立柱建物

遺構番号	間数	梁行 (m)		桁行 (m)		主軸方位	平面積 (m ²)	柱穴 (m)		新旧関係		時期	特記事項
		全長	柱間	全長	柱間			平面形	規模	旧	新		
SB0553	2×2	3.6	1.7～2.0	5.5	2.0～2.1	N23.8° W	19.8	円	0.5～0.8	SH0543		8c ?	側柱
SB0554	4×5	3.6	0.8～1.0	5.25	0.8～1.2	N0.5° W	18.9	円	0.3～0.6			8c ?	側柱
SB0555	2×3	4.0	1.7～2.1	6.6	2.1～2.2	N5.3° E	26.4	方・円	0.5～0.8			8c ?	側柱
SB0556	3×4 ?	4.5	1.4～1.8	7.5	1.7～2.0	N4.7° E	33.75	方・円	0.2～0.8			8c ?	側柱 ?

SB0555 掘立柱建物 (図94)

建物の構造は梁行2間(4.0m)、桁行3間(6.6m)、梁行柱間は1.7～2.1m、桁行柱間は2.1～2.2mで、主軸方位がN5.3°Wの南北棟である。柱掘方は円形や方形を基調とする。北西に位置するSB0556と主軸方位をほぼ同じにするもので、同時期に建てられた可能性が高い。

SB0556 掘立柱建物 (図95)

建物の構造は梁行3間(4.5m)、桁行4間(7.5m)になると考えられ、梁行柱間は1.4～1.8m、桁行柱間は1.7～2.0mで、主軸方位がN4.7°Wの南北棟である。柱掘方は円形や方形を基調とする。北西側は自然地形の落ち込みで、柱跡が残っていない。南東にはSB0555が位置しており、主軸方位がほぼ同じであるため、同時期に建てられた可能性が高い。

B 竪穴建物

古代の竪穴建物は2軒確認された。

SH0544 出土遺物 (図97)

1は土師器高坏の坏部で、口縁部は緩やかに広がる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。2は土師器皿で、

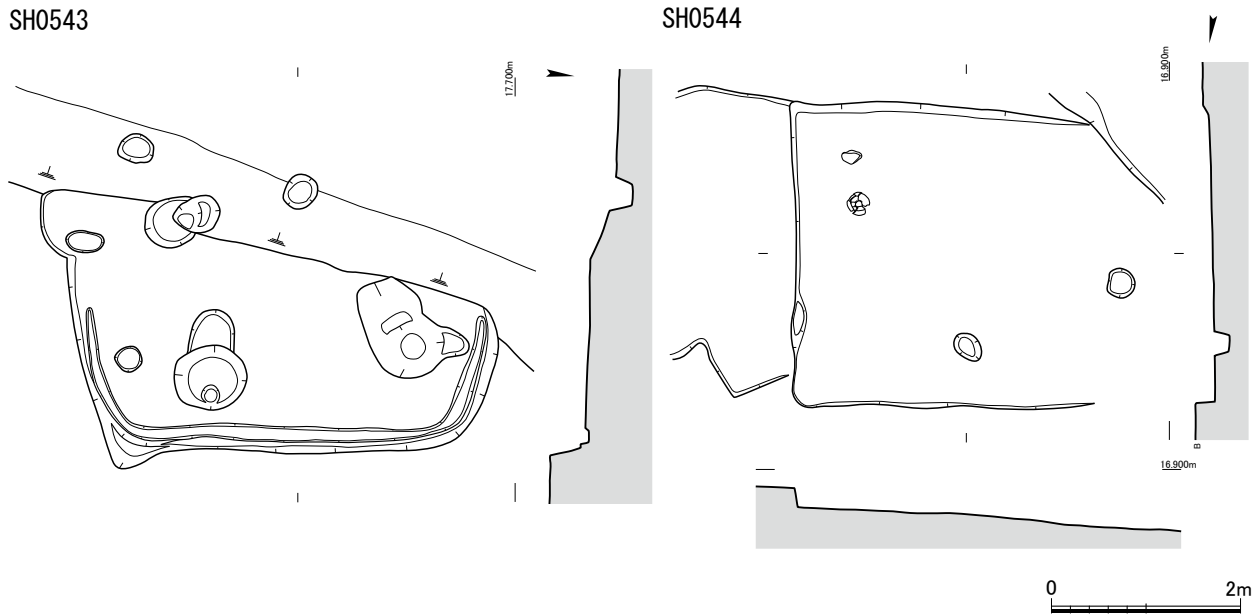


図 96 吉野ヶ里丘陵地区IV区 竪穴建物 (1/80)

表 13 吉野ヶ里丘陵地区IV区 竪穴建物

遺構番号	構造		規模 m		屋内施設	新旧関係		時期	特記事項
	平面形	支柱穴	長軸	短軸		旧	新		
SH0543	方形	3	4.5	2.1+			SB0553	8c ?	
SH0544	長方形		3.5+	3.1				8c	

表 14 吉野ヶ里丘陵地区IV区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0568	隅丸長方形	1.7	0.8	台	0.1	1.5	0.7+			8c 後半	
SK0569	不整形	1.7	0.7	台	0.1	1.3	0.5			8c 後半	

内外面ともに摩耗のため調整不明である。

C 土坑

古代の土坑は 2 基確認された。

SK0568 出土遺物 (図 97)

3 は須恵器高台付坏で、高台は低く底部外縁に付く。体部は直線的に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。

SK0569 出土遺物 (図 97)

4 は須恵器高台付坏の小型品で、内湾気味に立ち上がる。底部外面はヘラ切り離し後未調整、高台は回転ナデ、口縁部は摩耗のため調整不明で、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。5、6 は土師器の把手である。

(3) 吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区の古代の遺構について

吉野ヶ里丘陵地区 I・IV・IX区では、8 世紀代の遺構を確認した。掘立柱建物 5 棟、竪穴建物 2 軒、土坑 7 基、土坑墓 2 基を確認した。

吉野ヶ里丘陵地区 I 区やIV区の西側に掘立柱建物が複数棟建てられ、志波屋四の坪地区 I 区南東側の建物群との関

連性が考えられる。SB0554、0555、0556 は側柱建物で、SB0555、0556 は概ね主軸方向を北側に揃える。吉野ヶ里丘陵地区 I 区の調査区中央には土坑や 9 世紀代の土坑墓が位置している。吉野ヶ里丘陵地区 IX 区は切通す官道の南側に位置するが、古代の遺構は確認されず、空白地帯となる。

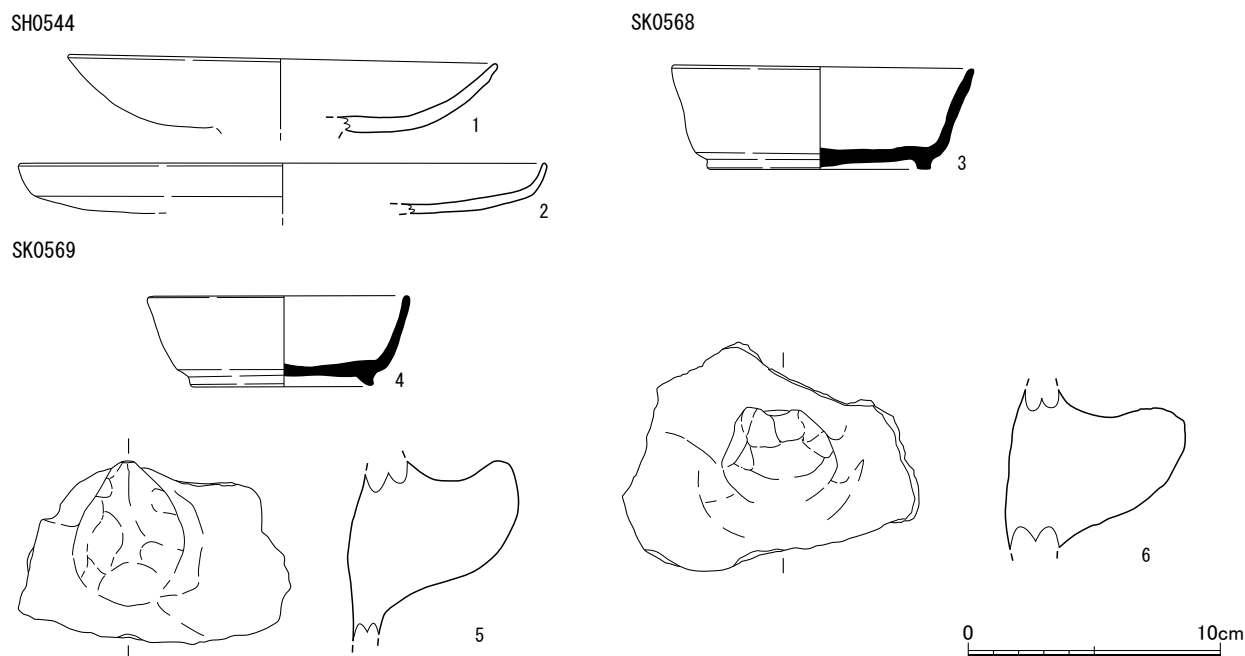


図 97 吉野ヶ里丘陵地区IV区 出土遺物 (1/3)

表 15 吉野ヶ里丘陵地区IV区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 97-1	91001538	SH0544	土師器	高坏	17.0		3.1+	赤褐	赤褐	
図 97-2	91001537	SH0544	土師器	皿	21.0*		2.0+	橙	橙	
図 97-3	22000019	SK0568	須恵器	坏	12.1	10.0	4.1	灰	灰	
図 97-4	22000020	SK0569	須恵器	坏	10.4	7.3	3.6	灰黄・灰	灰黄・灰	
図 97-5	22000021	SK0569	土師器	把手			7.2+	橙	にぶい黄褐	
図 97-6	22000022	SK0569	土師器	把手			6.3+	橙	橙	

第4章 遺跡南半部の遺構と遺物

1 吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区

(1) 概要

吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区は、神崎市神埼町大字鶴字日吉に所在しており、志波屋・吉野ヶ里段丘の西斜面から水田部に位置している。これらの地区の南側には県道吉田・鶴線を挟んで吉野ヶ里地区Ⅴ・Ⅵ区が、吉野ヶ里地区Ⅰ区の東側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区が隣接し、Ⅱ区の北側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅰ区・志波屋四の坪地区が小規模な谷を挟んで位置している。

工業団地造成に伴う発掘調査は、段丘の西斜面（最も高いⅠ区からⅢ区まで）から水田となっていた低地（Ⅳ区）にかけて（標高9.3～17.8m）の約33,000㎡を対象に実施した。また、国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う調査を、Ⅱ区にあたる旧神埼工業の工場敷地一帯に8箇所の調査区（330～337区）を設定して実施している。このほか、332・333調査区の南側で神埼工業の拡張工事に伴う発掘調査が当時の神埼町教育委員会によって行われている。

調査の結果、弥生時代前期後半～古墳時代初頭の集落・墓地、古墳時代後期の集落、平安時代前期の建物群などが確認された。しかし、Ⅰ区東側、吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区との間は、昭和28年の大雨による水害の復旧工事用の土取りがなされたところで、遺構は外環壕跡の一部を除き、削平されている。これらの地区で調査した遺構の中で、特に注目されるのは、Ⅱ・Ⅲ区にかけての古代の掘立柱建物群があげられる。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

【吉野ヶ里地区Ⅰ区】

A 土坑

古代の土坑は3基確認された。

SK0181 出土遺物（図108）

1は須恵器の小型の壺胴部である。最大径は上位にあり、全体的に丸みを帯びた形状である。胴部外面中位より下部は回転ヘラケズリ、胴部上位は回転ナデ、内面は回転ナデ、底部は同心円当て具痕がみられる。

SK0191 出土遺物（図108）

2は須恵器高台付坏である。低く逆台形状の高台が底部外縁付近に付く。立ち上がりは直線的に開き口縁部がわずかに外反する。底部外面はヘラ切り離し後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。

SK0704 出土遺物（図108）

3は須恵器の高台を持たない坏で、口縁部は直線的に開く。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。4は土師器坏で、底部は平坦になり、口縁端部が外反する。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

B 土坑墓

古代の土坑墓は1基確認された。



図 98 吉野ヶ里地区 I～IV 区 調査区的位置 (1/2,000)

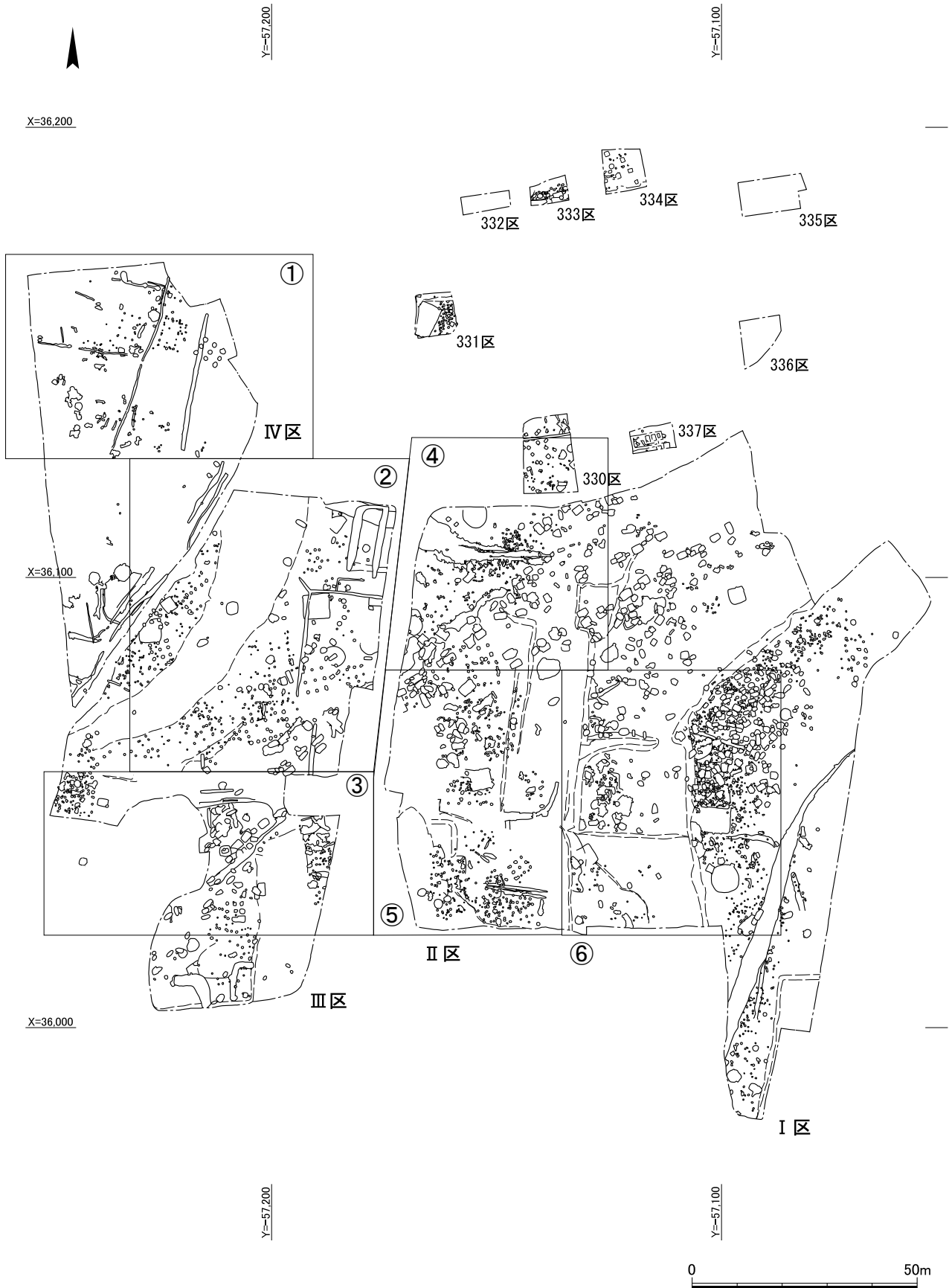


図 99 吉野ヶ里地区 I ~ IV区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,250)

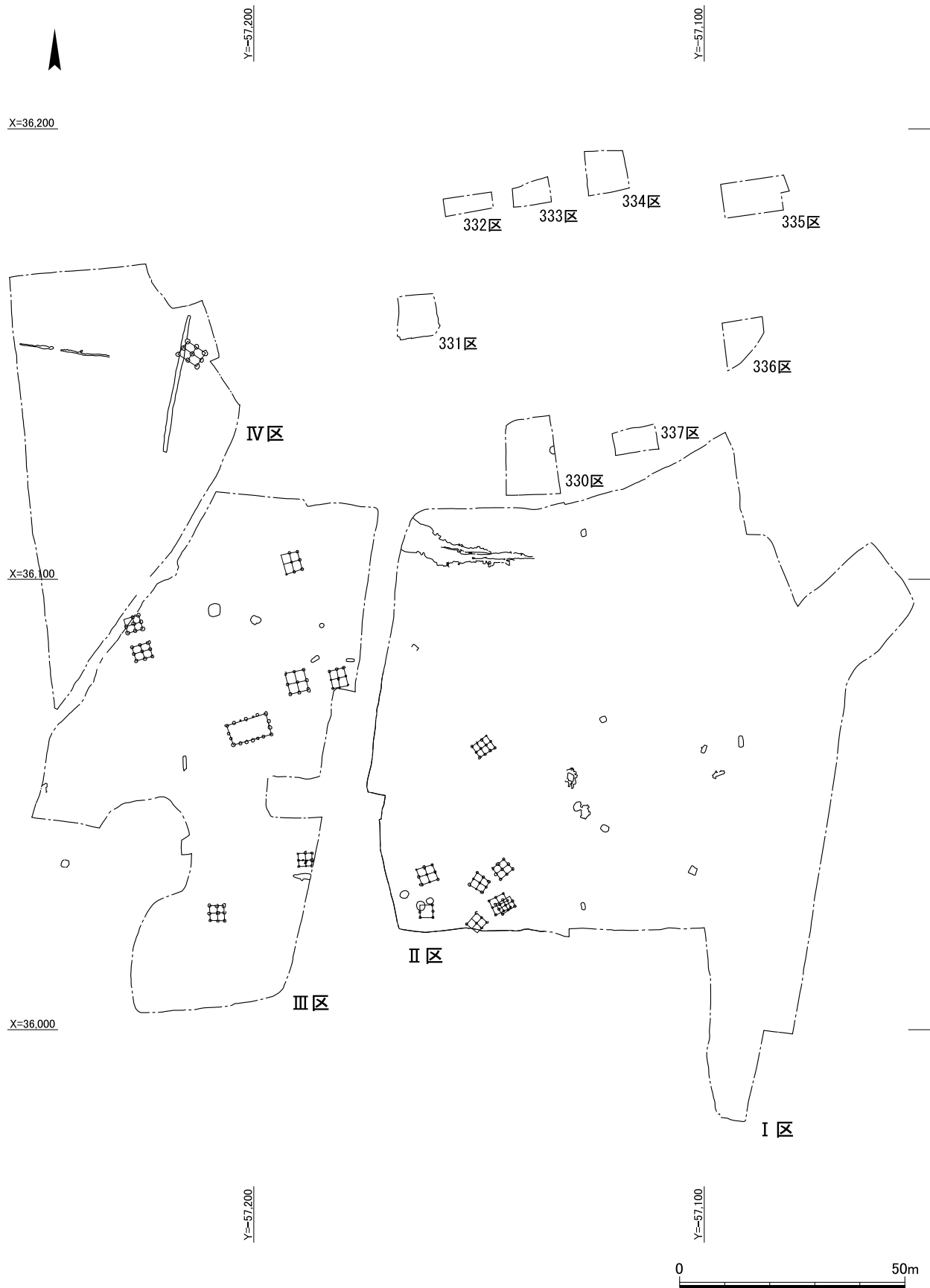


図100 吉野ヶ里地区I～IV区 古代の遺構分布 (1/1,250)

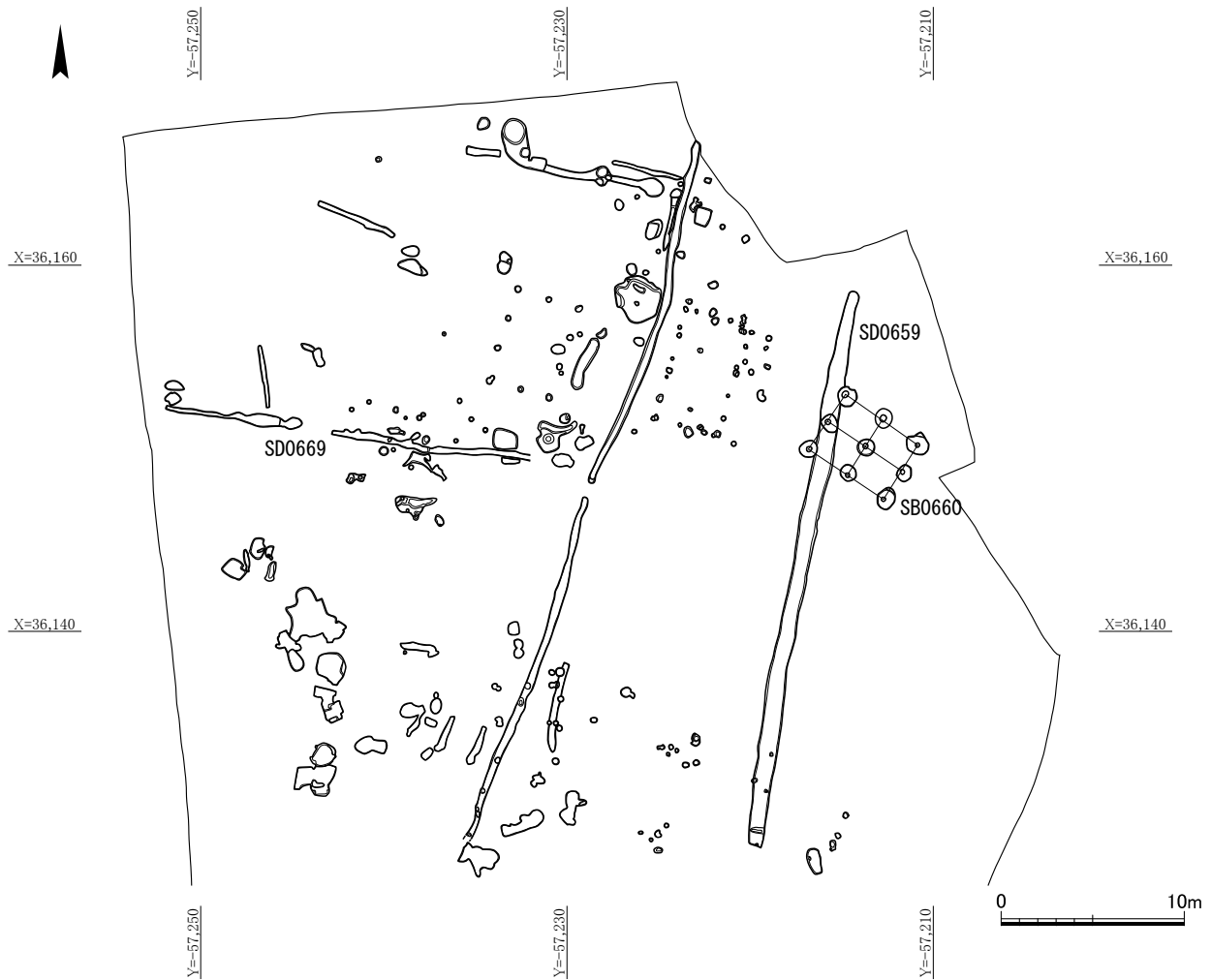


図 101 吉野ヶ里地区 I～IV区 遺構分布詳細図 1 (1/400)

SP0148 土坑墓 (図 106)

調査区中央、SK0181 の北西に位置し、長軸は北東 - 南西方向に伸びる。遺物は 2 点とも中央の西壁寄りより出土しているが、頭位方向は不明である。

SP0148 出土遺物 (図 108)

5、6 は土師器椀で、高台は細長く外側に張り出し、口縁部は直線的に開く形状である。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。

表 16 吉野ヶ里地区 I 区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0181	不整形に近い 隅丸長方形	2.8	0.9	台	0.3	2.2	0.6			8c	
SK0191	不整形に近い 隅丸長方形	1.6	1.4	台	0.4	1.4	1.2			8c 後半	
SK0704	隅丸長方形	2.5	1.1	方	0.4	2.4	0.9			8c 後半	



図102 吉野ヶ里地区I～IV区 遺構分布詳細図2 (1/400)

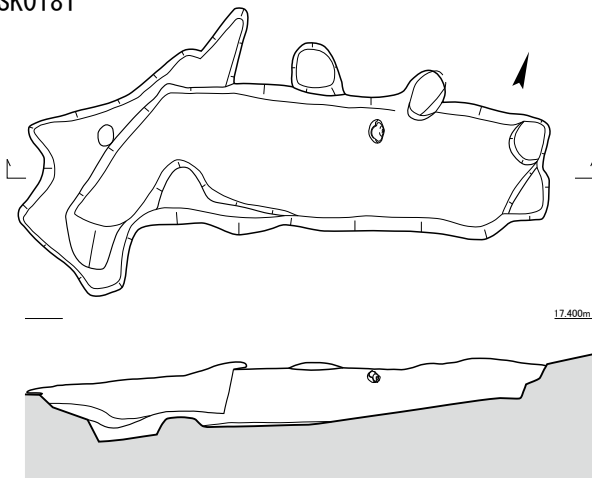
表17 吉野ヶ里地区I区 土坑墓

遺構番号	種類	平面形	主軸方位	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		深さ	時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸			
SP0148	土坑墓	長方形に近い	N22.9° E		1.8	0.9	0.1	0.4	0.3	0.1	9c 後半	



図 103 吉野ヶ里地区 I ~ IV 区 遺構分布詳細図 3 (1/400)

SK0181



SK0191

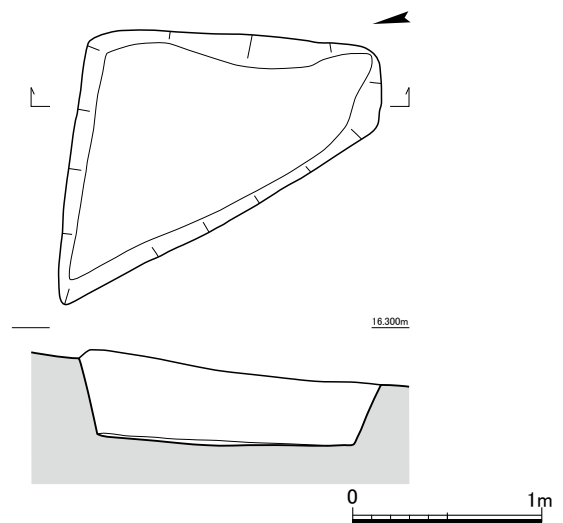


図 104 吉野ヶ里地区 I 区 土坑 (1/40)

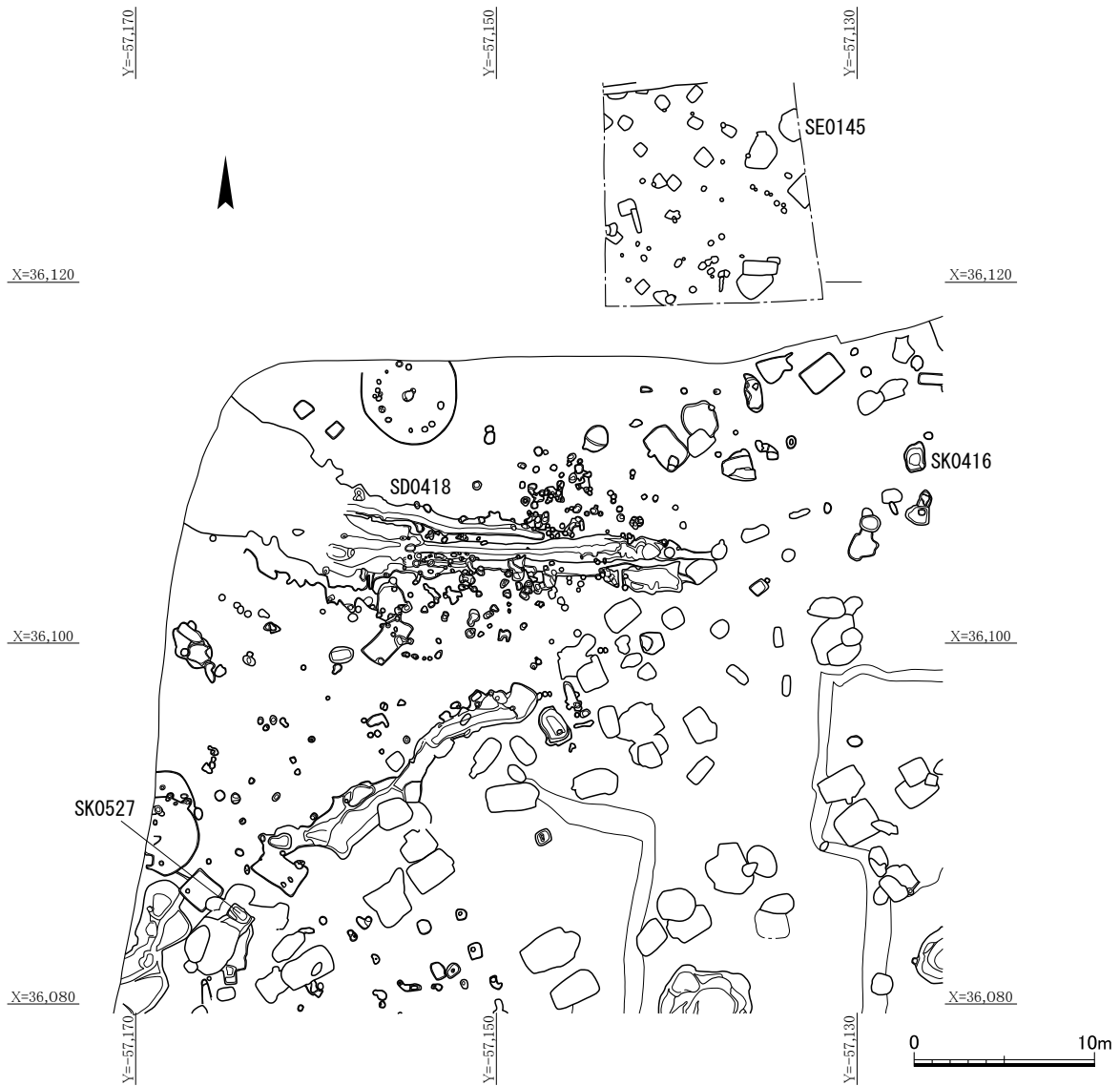


図105 吉野ヶ里地区I～IV区 遺構分布詳細図4 (1/400)

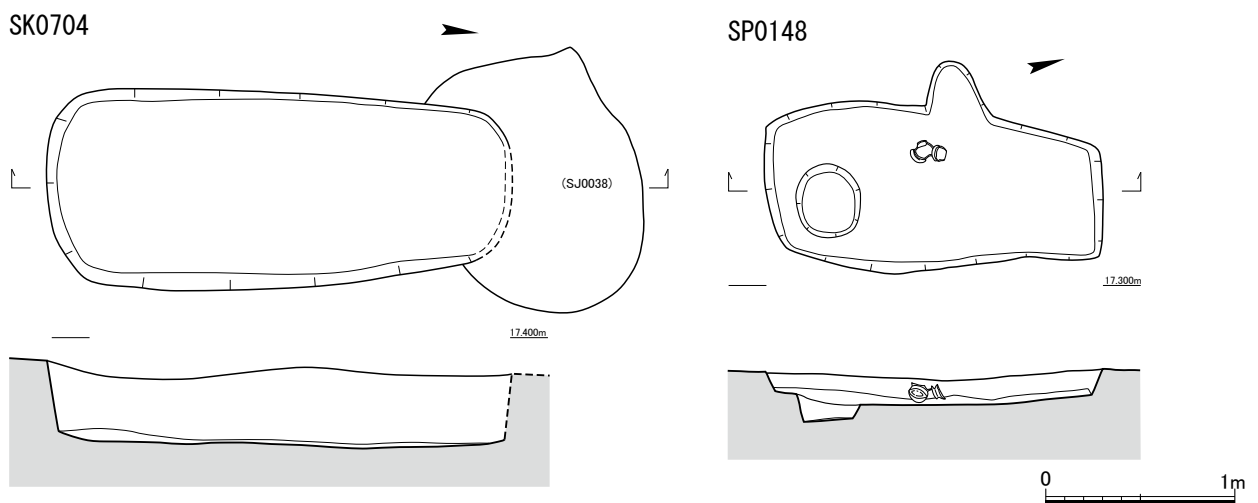


図106 吉野ヶ里地区I区 土坑・土坑墓 (1/40)



図107 吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区 遺構分布詳細図5 (1/400)

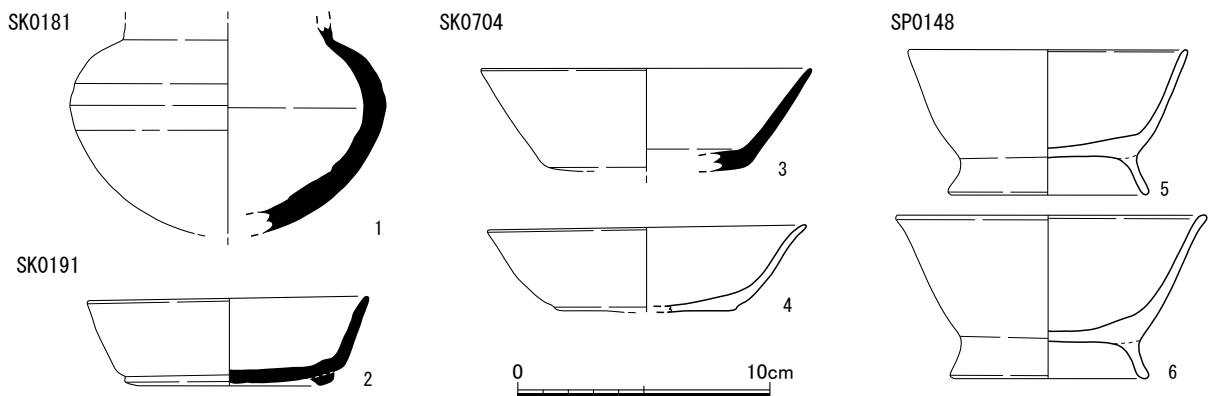


図108 吉野ヶ里地区Ⅰ地区 出土遺物 (1/3)



図 109 吉野ヶ里地区 I～IV区 遺構分布詳細図6 (1/400)

表 18 吉野ヶ里地区 I 区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 108-1	22000027	SK0181	須恵器	壺			8.4+	灰	灰	
図 108-2	22000028	SK0191	須恵器	坏	11.2	8.3	3.7	灰白	灰白	
図 108-3	22000030	SK0704	須恵器	坏	13.2*		4.1+	褐灰	褐灰	
図 108-4	22000029	SK0704	土師器	坏	12.6		3.6+	浅黄橙	浅黄橙	
図 108-5	22000026	SK0148	土師器	椀	11.0*	8.0	5.8	橙	明黄褐	
図 108-6	22000025	SK0148	土師器	椀	12.3*	7.9	6.5	橙	橙	

【吉野ヶ里地区Ⅱ区】

A 掘立柱建物

古代の掘立柱建物は8棟あり、その内総柱建物が7棟、側柱建物が1棟確認された。

SB0473 掘立柱建物

建物の構造は梁行1間(2.85m)、桁行2間(2.85m)で、梁行柱間は2.8m、桁行柱間は1.2～1.4mで、主軸方位はN0°である。柱掘方は円形を基調とする。北西隅の柱穴はSE0471に切られる。

SB0474 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.6m)、桁行2間(3.8m)の総柱建物である。梁行柱間は1.7～1.9m、桁行柱間は1.8～2.0mで、主軸方位はN17.3°Wである。柱掘方は円形を基調とする。

SB0475 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.2m)、桁行2間(3.5m)の総柱建物である。梁行柱間は1.6m、桁行柱間は1.7mで、主軸方位はN41.5°Eである。柱掘方は円形を基調とする。南側の2つの柱穴は調査区外にあり、不明である。

SB0476 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.0m)、桁行2間(3.5m)の総柱建物である。梁行柱間は1.4～1.7m、桁行柱間は1.5～1.7mで、主軸方位はN35.5°Eである。柱掘方は円形や方形を基調とする。

SB0477 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.0m)、桁行2間(3.6m)の総柱建物である。梁行柱間は1.3～1.6m、桁行柱間は1.5～2.0mで、主軸方位はN40.5°Wである。柱掘方は円形を基調とする。SB0478と重複するが切り合い関係は無い。

SB0478 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.5m)、桁行2間(3.6m)の総柱建物である。梁行柱間は1.7～1.8m、桁行柱間は1.6～1.9mで、主軸方位はN28.0°Wである。柱掘方は円形を基調とする。SB0477と重複するが切り合い関係は無い。

SB0479 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(2.7m)、桁行2間(3.5m)の総柱建物である。梁行柱間は1.4～1.6m、桁行柱間は1.6～1.8mで、主軸方位はN33.5°Wである。柱掘方は円形を基調とする。SB0488と主軸方位を同じくするため、同時期の建物である可能性が高い。

SB0488 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.1m)、桁行3間(4.0m)の総柱建物である。梁行柱間は1.4～1.7m、桁行柱間は1.3～1.5mで、主軸方位はN35.0°Wである。柱掘方は円形を基調とする。SB0479と主軸方位を同じくするため、同時期の建物である可能性が高い。

SD0418

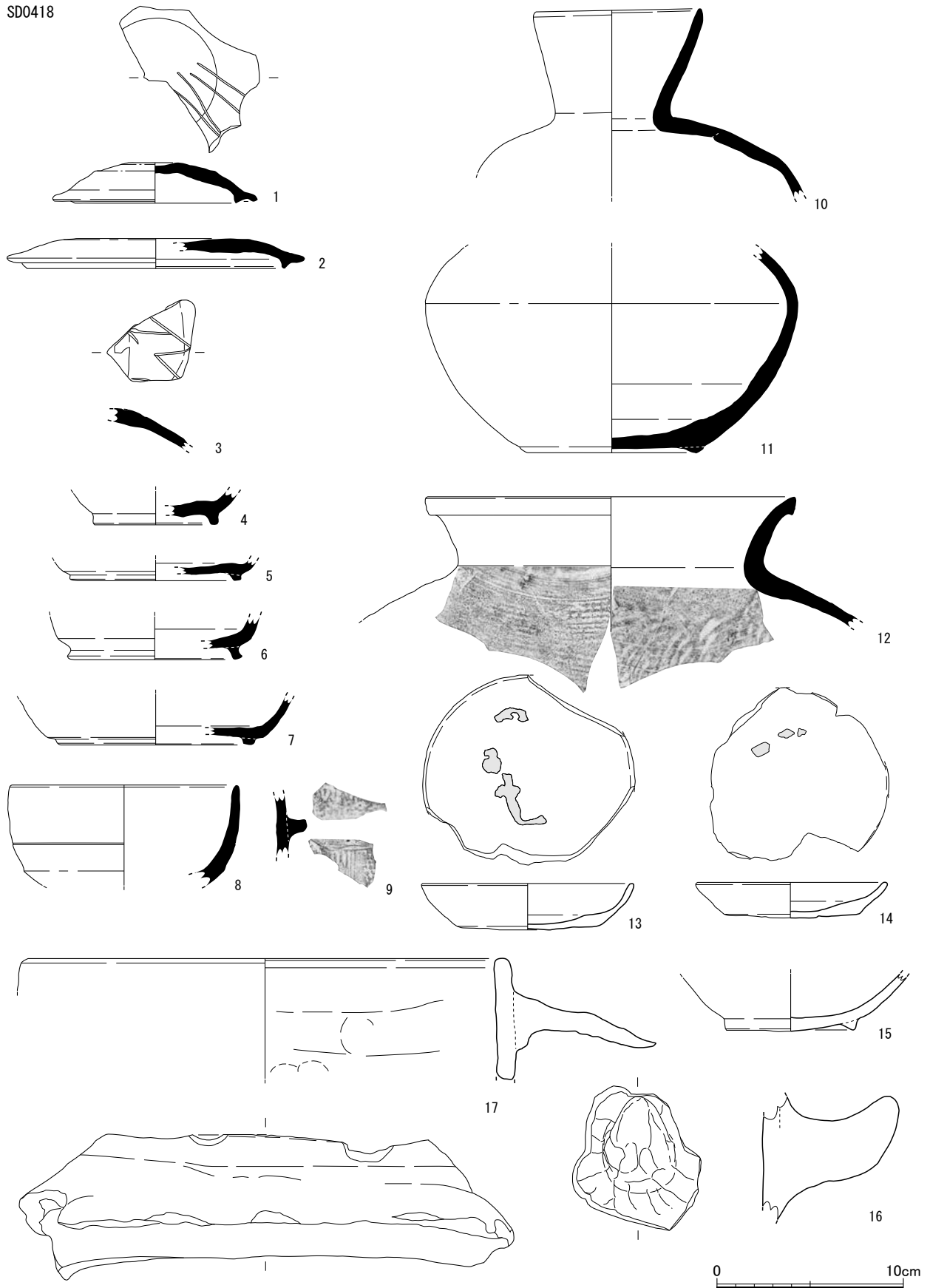
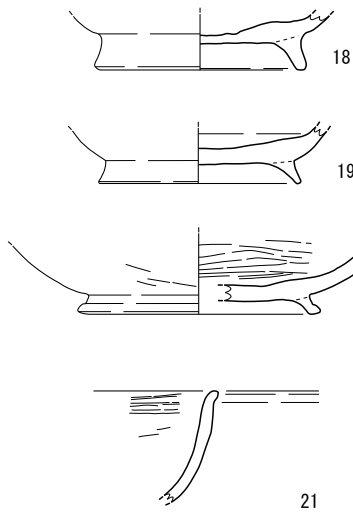
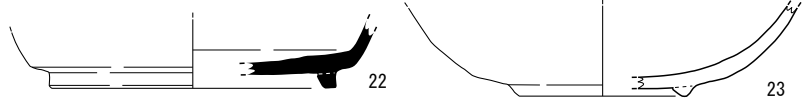


図110 吉野ヶ里地区II区 出土遺物1 (1/3)

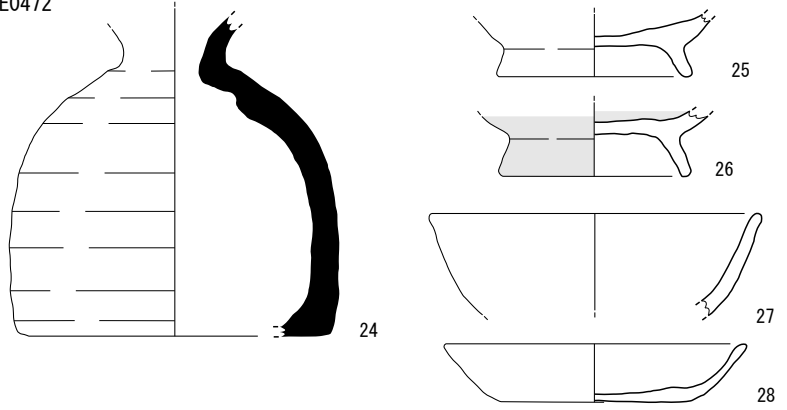
SE0470



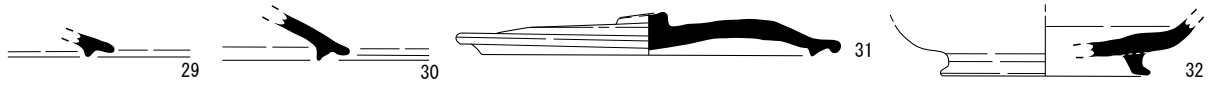
SE0471



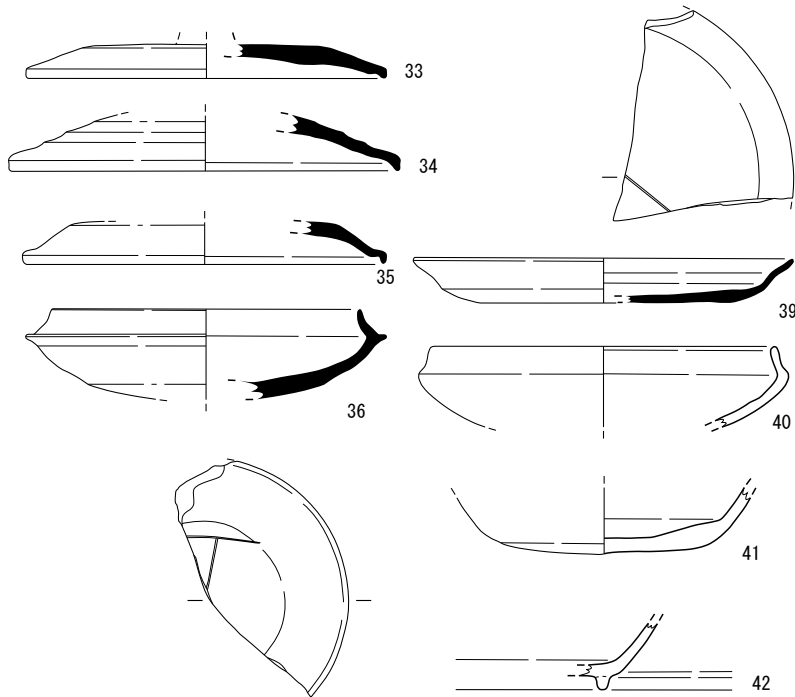
SE0472



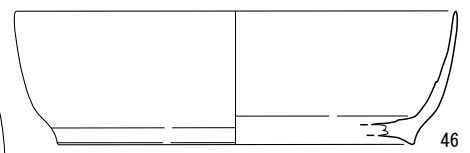
SK0387



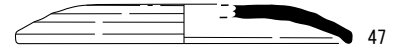
SK0389



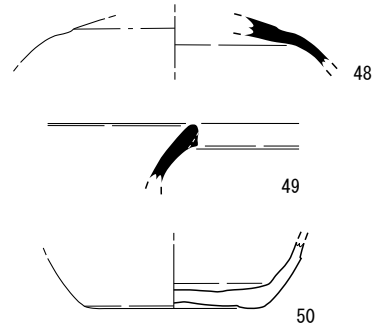
SK0393



SK0395



SK0397



SK0390

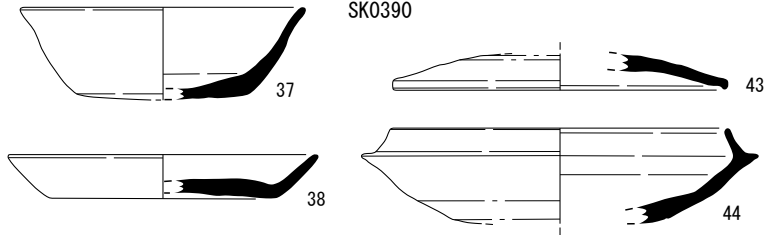


図 111 吉野ヶ里地区Ⅱ区 出土遺物 2 (1/3)

B 溝

古代の溝は1条確認された。

SD0418 溝

調査区北西端に位置し、全長 28.0m、幅 1.4～7.7m の不定形な溝状遺構である。西側は調査区外へと続き、東側は徐々に細くなる形状を示す。

SD0418 出土遺物 (図 110)

1は須恵器蓋で、かえりが口縁端部より下にやや出ており、天井部が高くなる。天井部外面はヘラ切り離し後未調整、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。天井部外面に放射状に伸びる4本のヘラ記号が認められる。2は須恵器蓋で、かえりが口縁端部より下へ出ており、天井部は水平近くに開く。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。3は須恵器蓋の天井部付近の破片で、外面に鋸状のヘラ記号が認められる。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。4～7は須恵器高台付坏である。4の高台は高く接地部分は面をなし、底部の器壁は厚い。5の高台は低く逆台形状を呈し、外側へやや張り出す。6の高台は高く外側に張り出す。7の高台は低く、接地部分はやや丸みを帯びる。4～7は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。8は須恵器碗である。口縁部は緩やかに内湾気味に立ち上がる。赤焼きである。底部外面付近に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。9は須恵器の破片で器種は不明で、外面に隅丸の突帯を付けており、突帯上部と下部に格子状のタタキ調整がみられる。10は須恵器平瓶で、口縁部は直線的に開き、端部が内湾する。肩部はやや張り出す。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。11は須恵器壺の胴部から底部片で、胴部は緩やかに張り、底部に断面逆三角形の高台をもつ。胴部外面上位は回転ナデ、胴部下位から高台まで回転ヘラケズリ、底部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。12は須恵器甕で、頸部より口縁部にかけて外反し、口縁端部を肥厚させる。口縁部外面は回転ナデ、胴部は平行タタキ、口縁部内面から頸部は回転ナデ、胴部は同心円当て具痕が認められる。13、14は土師器坏で、やや内湾気味に開く形状である。底部内面に煤の痕跡が認められる。13の底部外面はヘラ切り離し後未調整、板状圧痕後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は摩耗のため調整不明である。14は底部外面はヘラ切り離し後未調整、板状圧痕後ナデ、内面は摩耗のため調整不明である。15は土師器坏で、断面逆三角形の高台をもつ。内外面ともに摩耗のため調整不明である。16は土師器の把手である。外面は指オサエやナデ、内面はナデ調整を行う。17は土師器竈の鏝部破片である。鏝部は長く開いている。

C 井戸

古代の井戸は3基確認された。

SE0470 井戸

調査区南西、SE0471の北西側に位置する。平面は円形状で垂直気味に掘りこむ。土層の堆積状況から一度に埋没したものと考えられる。

SE0470 出土遺物 (図 111)

18～21は土師器坏である。18～20は底部片で、いずれも高台が外側に張り出している。21は口縁部片で、端部が外反する。18の底部外面は板状圧痕後ヨコナデ、体部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。19の底部外面は板状圧痕後ヨコナデ、ナデ、体部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。20の底部外面はヨコナデ、ナデ、体部はケズリ後ミガキ、内面はミガキ調整を行う。21の外面は摩耗のため調整不明で、内面はわずかにミガキ調整が残る。

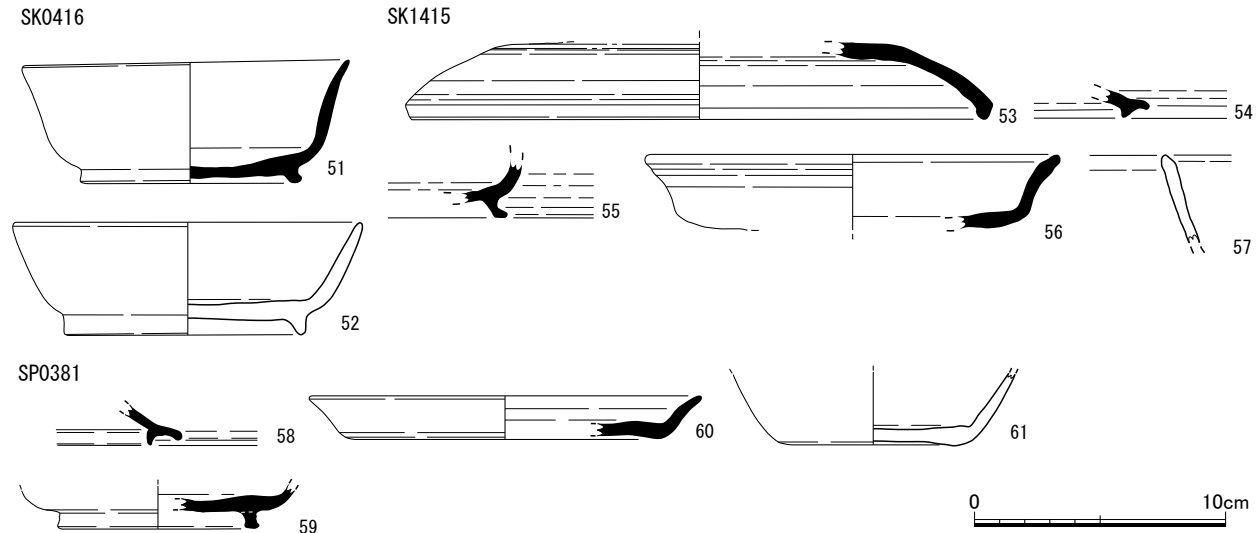


図 112 吉野ヶ里地区Ⅱ区 出土遺物 3 (1/3)

表 19 吉野ヶ里地区Ⅱ区 掘立柱建物

遺構番号	間数	梁行 (m)		桁行 (m)		主軸方位	平面積 (㎡)	柱穴 (m)		新旧関係		時期	特記事項
		全長	柱間	全長	柱間			平面形	規模	旧	新		
SB0473	1 × 2	2.9	2.8	2.9	1.2 ~ 1.4	N0°	8.41	円	0.4 ~ 0.5			7c ~ 8c ?	側柱
SB0474	2 × 2	3.6	1.7 ~ 1.9	3.8	1.8 ~ 2.0	N17.3° W	13.68	円	0.4 ~ 0.8			7c ~ 8c ?	総柱
SB0475	2 × 2	3.2	1.6	3.5	1.7	N41.5° E	11.2	円	0.4 ~ 0.7			7c ~ 8c ?	総柱
SB0476	2 × 2	3.0	1.4 ~ 1.7	3.5	1.5 ~ 1.7	N35.5° E	10.5	方・円	0.3 ~ 0.7			7c ~ 8c ?	総柱
SB0477	2 × 2	3.0	1.3 ~ 1.6	3.6	1.5 ~ 2.0	N40.5° W	10.8	円	0.3 ~ 0.6			7c ~ 8c ?	総柱
SB0478	2 × 2	3.5	1.7 ~ 1.8	3.6	1.6 ~ 1.9	N28.0° W	12.6	円	0.4 ~ 0.5			7c ~ 8c ?	総柱
SB0479	2 × 2	2.7	1.4 ~ 1.6	3.5	1.6 ~ 1.8	N33.5° W	9.45	円	0.5 ~ 0.8			7c ~ 8c ?	総柱
SB0488	2 × 3	4.0	1.4 ~ 1.7	3.1	1.3 ~ 1.5	N35° W	12.4	円	0.3 ~ 0.7			7c ~ 8c ?	総柱

表 20 吉野ヶ里地区Ⅱ区 井戸

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SE0470	楕円	1.7	1.7	台	1.7	1.3	1.0			8c ~ 9c	
SE0471	楕円	2.0	2.0	台	1.5	1.3	1.1			8c 後半	
SE0472	楕円に近い	1.5	1.3	台	1.4	0.7	0.6			8c ~ 9c	

表 21 吉野ヶ里地区Ⅱ区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0387	不整形	3.4	2.5	台?	0.6	1.1	0.5			7c 後半	
SK0389	楕円に近い	4.2	1.5	台	0.8	0.7	0.4			8c 後半	
SK0390	不整形	2.9	2.0	台	0.9	0.9	0.3			8c ?	
SK0393	隅丸長方形	2.4	1.3	台	0.8	0.5	0.5			8c ?	
SK0395	楕円に近い	1.6	0.9	台	0.1	0.1	0.5			8c 前半?	
SK0397	不整形	2 以上	1.8	台	0.2	0.4	0.4			8c	
SK0416	隅丸長方形	1.5	1.4	台	0.4	0.7	0.6			8c 後半	
SK1415	円形に近い	1.8	1.1+	台	-	1.6	0.9+			7c ~ 8c	

表 22 吉野ヶ里地区Ⅱ区 土坑墓

遺構番号	種類	平面形	主軸方位	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		深さ	時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸			
SP0381	土坑墓	隅丸長方形	N59.5° E	横口式?	1.4	1.2	0.5	1.4	0.8	0.2	8c 前半	

SE0471 井戸

調査区南西、SE0472 の西側に位置する。平面は楕円形状で垂直気味に掘りこむ。土層の堆積状況から一度に埋没したものと考えられる。

SE0471 出土遺物 (図 111)

22 は須恵器高台付坏で、断面が方形の高台で、底部と体部に明瞭な稜をもつ。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。23 は瓦器碗で、断面逆三角形の高台で、緩やかに開く。外面はヨコナデ、ナデ、内面はナデ調整を行う。

SE0472 井戸

調査区南西、SE0471の東側に位置する。平面は楕円形状で垂直気味に深く掘りこむ。

SE0472 出土遺物（図 111）

24は須恵器壺で、頸部はすぼまり、胴部はまっすぐで、肩部がやや張る。焼成不良である。外面の一部には煤状の痕跡が口縁部から垂れるように範囲状に確認でき、内面の一部に炭化物が付着している。外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。25、27、28は土師器坏で、25は高く、外側に張り出す高台をもち、27は口縁端部でわずかに外反する。25の外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。27は内外面ともにナデ調整を行う。28は内外面ともに摩耗のため調整不明である。26は黒色土器碗である。高く外側に張り出す高台をもち、内外面ともに黒化处理を施す。

D 土坑

古代の土坑は9基確認された。

SK0387 出土遺物（図 111）

29～31は須恵器蓋である。29、30は口縁部片で、かえりが口縁部より下へ出ている。31は器形が傾いている。扁平で低いつまみをもち、かえりが口縁端部より下へ出ている。29、30は内外面ともに回転ナデ調整を行う。31のつまみは回転ナデ、ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。32は須恵器高台付坏で、高台は高く端部を外側に屈曲するようにつくる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。

SK0389 出土遺物（図 111）

33～35は須恵器蓋である。33の天井部は水平に近い。口縁端部はわずかに下方へ屈曲する。34の天井部外面にロクロ成形痕が残る。35は口縁端部を鳥嘴状につくる。33は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。34の天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。35の天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。36、37は須恵器坏である。36は蓋坏の身で、受部はやや外反しながら立ち上がる。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。受部外面に重ね焼きの痕がみられる。37の底部は平たく、口縁端部がわずかに外反する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。焼成不良である。底部内面には「T」字状のヘラ記号が認められる。38、39は須恵器皿である。38の口縁部が直線的に開く。39は体部下端が丸みを帯びる。口縁部は外反しながら開く形状である。いずれも内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。底部内面には1本のヘラ記号が認められる。40～42は土師器坏である。40は口縁部から体部にかけて受部のような箇所をもち、古墳時代の須恵器坏に似た形状である。41は坏の底部片で、やや丸く湾曲する。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SK0390 出土遺物（図 111）

43は須恵器蓋で、天井部は低く、口縁端部はわずかに下方へ屈曲する。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。44は須恵器坏で、立上りが長く、受部はやや短い。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。底部内面に同心円当て具痕が認められる。45は土師器の把手で、やや小さいつくりをしている。

SK0393 出土遺物（図 111）

46は土師器坏で、低く断面逆三角形の高台をもち、体部から口縁部にかけて内湾気味に開く。内外面ともに摩

耗のため調整不明である。

SK0395 出土遺物 (図 111)

47 は須恵器蓋で、天井部から口縁部にかけて器壁が均一で、口縁端部はわずかに下方へ屈曲する。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。

SK0397 出土遺物 (図 111)

48 は須恵器蓋環の蓋で、天井部の器壁が厚くなる。天井部外面は回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。49 は須恵器壺の口縁部片で、端部外面に断面三角形の突帯を貼り付ける。内外面ともに回転ナデ調整を行う。50 は土師器環で、底部外面にわずかに高台状のものを付ける。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SK0416 出土遺物 (図 112)

51 は須恵器高台付環で、高台は低く外側に張り出し、口縁部は端部でやや外反する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。52 は土師器環で、器壁の厚さが均一で口縁部が直線的に開く形状である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SK1415 出土遺物 (図 112)

53 は須恵器蓋で、器壁は厚く、口縁端部は肥厚させ下方へ屈曲する。口径が大きいことから皿や盤などの大型食器の蓋と考えられる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。54 は須恵器蓋の口縁部破片で、かえりが口縁端部より下へ出ている。内外面ともに回転ナデ調整を行う。55 は須恵器高台付環の底部破片と考えられる。高台は高く端部を外側に屈曲するようにつくる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。56 は須恵器皿で、器高が高く口縁部は外反する。底部外面は回転ナデ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。57 は土師器の口縁部で、内傾する形をつくる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

E 土坑墓

古代の土坑墓は 1 基確認された。

SP0381 土坑墓

調査区中央西側、SK0387 の北東側に位置し平面は正形状を呈す。北側より階段状に掘りこみ、さらに南西に向かって横穴のように少し掘りこむ。

SP0381 出土遺物 (図 112)

58 は須恵器蓋環の蓋の口縁部破片で、かえりが口縁端部より下へ出ている。内外面ともに回転ナデ調整を行う。59 は須恵器高台付環で、高台の端部を肥厚させる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。60 は須恵器皿で、口縁部がやや外反しながら開く形状である。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。61 は土師器環の底部破片で、内外面ともに摩耗のため調整不明である。

表 23 吉野ヶ里地区Ⅱ区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 110-1	22000061	SD0418	須恵器	蓋	8.6*		2.1	灰	灰	底部外面にヘラ記号
図 110-2	22000060	SD0418	須恵器	蓋	13.9*		1.6	灰白	灰白	
図 110-3	22000065	SD0418	須恵器	蓋			2.2+	灰白	灰白	外面にヘラ記号
図 110-4	22000064	SD0418	須恵器	坏		6.7*	1.7+	灰白	灰白	
図 110-5	22000067	SD0418	須恵器	坏		9.2*	1.1+	灰白	灰白	
図 110-6	22000068	SD0418	須恵器	坏		9.4*	2.3+	灰	灰	
図 110-7	22000066	SD0418	須恵器	坏		10.6*	2.6+	灰	灰	
図 110-8	22000062	SD0418	須恵器	椀	12.3*		5.4+	赤褐	赤褐	
図 110-9	22000063	SD0418	須恵器	不明			3.2+	灰	灰	
図 110-10	22000057	SD0418	須恵器	平瓶	8.9		10.0+	灰褐	灰褐	
図 110-11	22000058	SD0418	須恵器	壺		9.0	11.0+	灰白	灰白	
図 110-12	22000059	SD0418	須恵器	甕	19.9*		7.0+	灰	灰	
図 110-13	22000070	SD0418	土師器	坏	11.4	7.4	2.5	橙	橙	
図 110-14	22000071	SD0418	土師器	坏	10.3*	7.2	1.9	橙	橙	内面に煤付着
図 110-15	22000072	SD0418	土師器	坏		7.0	3.1+	にぶい黄橙	灰黄褐	
図 110-16	22000073	SD0418	土師器	把手			6.6+	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
図 110-17	22000069	SD0418	土師器	籬	25.6*		6.6+	橙	橙	
図 111-18	22000077	SE0470	土師器	坏		8.4	2.2+	浅黄橙	浅黄橙	
図 111-19	22000078	SE0470	土師器	坏		8.0*	2.2+	にぶい黄橙	灰白	
図 111-20	22000079	SE0470	土師器	坏		9.6*	3.2+	にぶい橙	明褐灰	
図 111-21	22000080	SE0470	土師器	坏			4.4+	にぶい黄橙	暗灰	
図 111-22	22000081	SE0471	須恵器	坏		11.4*	2.7+	灰	灰	
図 111-23	22000082	SE0471	瓦器	椀		6.6*	3.6+	暗灰	暗灰	
図 111-24	92000649	SE0472	須恵器	壺		12.4*	13.0+	灰	灰	内面に炭化物付着
図 111-25	92000650	SE0472	土師器	坏		7.8	2.3+	灰褐	灰褐	
図 111-26	92000651	SE0472	黒色土器	椀		7.6*	2.9+	黒	黒	黒色土器 B 類
図 111-27	92000652	SE0472	土師器	坏	13.2*		4.0+	黄灰	黒褐	
図 111-28	92000653	SE0472	土師器	坏	12.0*	7.4	2.2+	赤褐	赤褐	
図 111-29	22000034	SK0387	須恵器	蓋			1.0+	黒褐	黒褐	
図 111-30	22000033	SK0387	須恵器	蓋			2.0+	黒褐	黒褐・暗青灰	
図 111-31	22000031	SK0387	須恵器	蓋	13.2		1.8	黒褐	黒褐	
図 111-32	22000032	SK0387	須恵器	坏		8.4*	2.4+	青灰	青灰	
図 111-33	22000035	SK0389	須恵器	蓋	14.3*		1.4+	灰白	灰白・黄灰	
図 111-34	22000036	SK0389	須恵器	蓋	15.6*		2.2+	灰白	黄灰	
図 111-35	22000037	SK0389	須恵器	蓋	14.6*		1.7+	灰	灰	
図 111-36	22000038	SK0389	須恵器	坏	12.3*		3.6+	黄灰	灰	
図 111-37	22000042	SK0389	須恵器	坏	11.4*	7.0*	3.7+	灰白	灰白	底部内面にヘラ記号
図 111-38	22000039	SK0389	須恵器	皿	12.4*	9.0	1.7	灰	灰	
図 111-39	22000041	SK0389	須恵器	皿	15.2*	10.2*	1.8	灰白・灰	灰白・灰	底部内面にヘラ記号
図 111-40	22000040	SK0389	土師器	坏	13.8*		3.2+	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
図 111-41	22000043	SK0389	土師器	坏		8.3	2.7+	浅黄橙	浅黄橙	
図 111-42	22000044	SK0389	土師器	坏			2.6+	浅黄橙	浅黄橙	
図 111-43	22000045	SK0390	須恵器	蓋	13.4*		1.4+	灰白	灰白	
図 111-44	22000046	SK0390	須恵器	蓋	13.6*		3.8+	黄灰	黄灰	
図 111-45	22000047	SK0390	土師器	把手			4.2+	橙	橙	
図 111-46	22000048	SK0393	土師器	坏	17.4*	14.0*		橙	橙	
図 111-47	22000049	SK0395	須恵器	蓋	13.4*		1.6+	灰	灰	
図 111-48	22000050	SK0397	須恵器	蓋			2.1+	黄灰	灰白	
図 111-49	22000051	SK0397	須恵器	壺			2.4+	黒褐	灰	
図 111-50	22000052	SK0397	土師器	坏		7.2*	2.6+	橙	にぶい黄橙・橙	
図 112-51	22000053	SK0416	須恵器	坏	13.1	8.9	4.9	灰	灰	
図 112-52	22000054	SK0416	土師器	坏	14.0*	9.6	4.5	黄橙	黄橙	
図 112-53	02004849	SK1415	須恵器	蓋	23.0*		3.1+	灰白	灰白	
図 112-54	02004848	SK1415	須恵器	蓋			1.2+	明灰	明灰	
図 112-55	02004850	SK1415	須恵器	坏			2.4+	灰	灰	
図 112-56	02004851	SK1415	須恵器	皿	16.6*	11.8*	3.0+	灰	灰	
図 112-57	02004847	SK1415	土師器	不明			3.5+	明黄褐	明黄褐	
図 112-58	22000086	SP0381	須恵器	蓋			1.6+	灰	灰	
図 112-59	22000085	SP0381	須恵器	坏		8.0*	1.7+	灰白	灰白	
図 112-60	22000083	SP0381	須恵器	皿	15.6*	12.6*	1.7	灰白	灰白	
図 112-61	22000084	SP0381	土師器	坏		7.6*	2.8+	灰黄褐	褐灰	

【吉野ヶ里地区Ⅲ区】

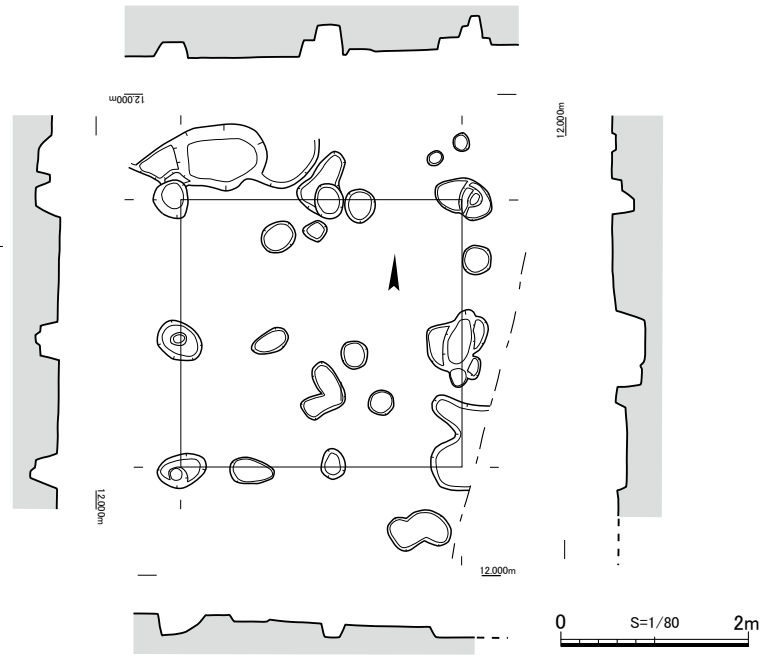
A 掘立柱建物

古代の掘立柱建物は 8 棟あり、その内総柱建物が 7 棟、側柱建物が 1 棟確認された。

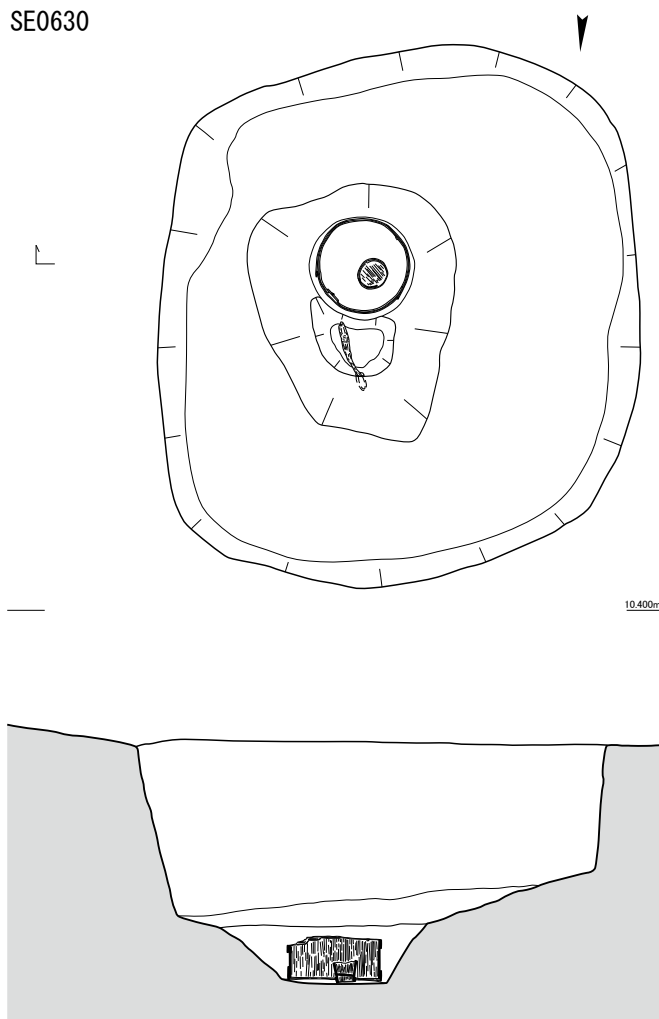
SBO618 掘立柱建物

建物の構造は梁行 2 間(3.5 m)、桁行 2 間(4.2 m)の総柱建物である。梁行柱間は 1.5～2.0 m、桁行柱間は 1.9～2.1 m

SB0671



SE0630



SE0675

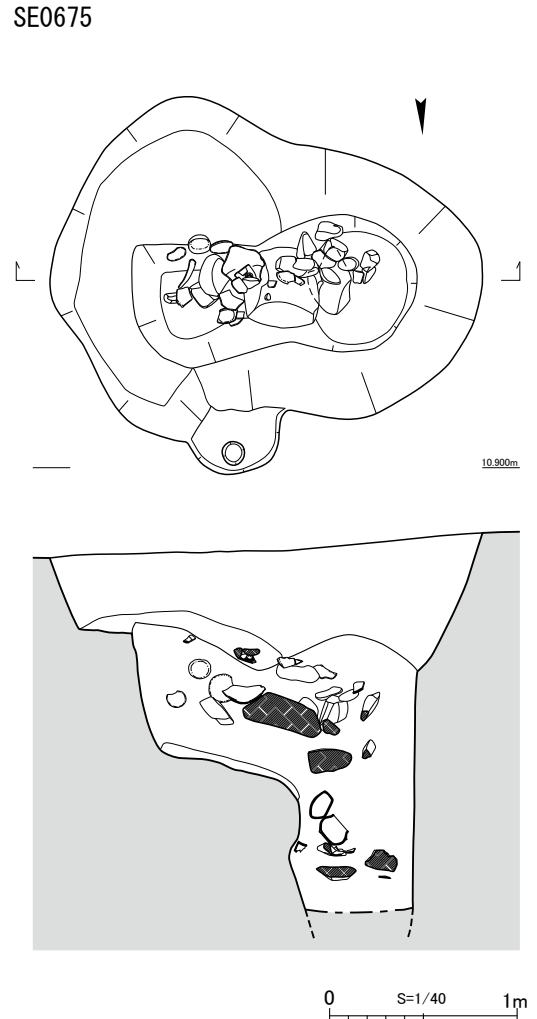


図 113 吉野ヶ里地区Ⅲ区 掘立柱建物 (1/80)・井戸 (1/40)

で、主軸方位はN13.3° Wである。柱掘方は円形や方形を基調とする。

SB0618 出土遺物 (図 114)

1は土師器甕の口縁部破片で、口縁端部は貼り付けによって肥厚する。外面はヨコナデ、内面はナデ調整を行う。

SB0619 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.7 m)、桁行2間(4.2 m)の総柱建物である。梁行柱間は1.8～2.0 m、桁行柱間は1.9～2.2 mで、主軸方位はN15.4° Wである。柱掘方は円形を基調とする。西側の柱穴2つは斜面地により削平される。

SB0620 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(4.2 m)、桁行2間(4.8 m)の総柱建物である。梁行柱間は2.1 m、桁行柱間は2.4～2.5 mで、主軸方位はN12.0° Wである。柱掘方は円形や方形を基調とする。

SB0621 掘立柱建物

建物の構造は梁行3間(4.8 m)、桁行6間(9.2 m)の側柱建物である。梁行柱間は1.3～1.6 m、桁行柱間は1.0～1.7 mで、主軸方位はN17.3° Wの東西棟である。柱掘方は円形を基調とする。

SB0621 出土遺物 (図 114)

2は須恵器蓋環の坏で、受部は短く、長い。焼成不良である。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。3は土師器坏で、高台は外側に張り出す。外面は回転ナデ、ナデ、内面はナデ調整を行う。4は土師器坏で、底部は平たく口縁部は内湾気味に開く形状である。底部外面はヘラ切り離し後未調整、板状圧痕後ナデ、他は摩耗のため調整不明である。

SB0622 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.3 m)、桁行2間(3.3 m)の総柱建物である。梁行柱間は1.6～1.8 m、桁行柱間は1.6～1.9 mで、主軸方位はN0.5° Wである。柱掘方は円形や方形を基調とする。

SB0623 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.3 m)、桁行2間(3.9 m)の総柱建物である。梁行柱間は1.4～1.8 m、桁行柱間は1.8～2.0 mで、主軸方位はN14.0° Wである。柱掘方は円形や方形を基調とする。

SB0624 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.2 m)、桁行2間(3.5 m)の総柱建物である。梁行柱間は1.5～1.8 m、桁行柱間は1.4～1.8 mで、主軸方位はN18.0° Wである。柱掘方は円形や方形を基調とする。北西隅の柱穴は斜面地により削平されている。

SB0671 掘立柱建物 (図 113)

建物の構造は梁行2間(2.9 m)、桁行2間(3.0 m)の総柱建物である。梁行柱間は1.4～1.6 m、桁行柱間は1.5～1.7 mで、主軸方位はN1.8° Eである。柱掘方は円形を基調とする。

表 24 吉野ヶ里地区Ⅲ区 掘立柱建物

遺構番号	間数	梁行 (m)		桁行 (m)		主軸方位	平面積 (㎡)	柱穴 (m)		新旧関係		時期	特記事項
		全長	柱間	全長	柱間			平面形	規模	旧	新		
SB0618	2×2	3.5	1.5～2.0	4.2	1.9～2.1	N13.3° W	14.7	円・方	0.3～0.7			7c～8c?	総柱
SB0619	2×2	3.7	1.8～2.0	4.2	1.9～2.2	N15.4° W	15.54	円	0.3～0.6			7c～8c?	総柱
SB0620	2×2	4.2	2.1	4.8	2.4～2.5	N12.0° W	20.16	円・方	0.5～1.0			7c～8c?	総柱
SB0621	3×6	4.8	1.3～2.1	9.2	1.0～1.7	N17.3° W	44.16	円	0.3～1.0			7c～8c?	側柱
SB0622	2×2	3.3	1.6～1.8	3.3	1.6～1.9	N0.5° W	10.89	円・方	0.5～1.2			7c～8c?	総柱
SB0623	2×2	3.3	1.4～1.8	3.9	1.8～2.0	N14.0° W	12.87	円・方	0.6～1.0			7c～8c?	総柱
SB0624	2×2	3.2	1.5～1.8	3.5	1.4～1.8	N18.0° W	11.2	円・方	0.7～0.9			7c～8c?	総柱
SB0671	2×2	2.9	1.4～1.6	3.0	1.5～1.7	N1.8° E	8.7	円	0.4～0.6			7c～8c?	総柱

表 25 吉野ヶ里地区Ⅲ区 井戸

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SE0630	隅丸長方形に近い	2.9	2.6	方	1.3	2.5	2.3			8c～9c?	
SE0675	楕円形に近い	2.3	2.0	台	2.0	1.3	0.6			8c後半	
SE0676	円	1.0	1.0	台	1.5	0.7	0.6			8c後半～9c前半	
SE0677	不整形	2.1	1.1	台	1.1	0.2	0.2			8c?	

表 26 吉野ヶ里地区Ⅲ区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0645	長方形に近い	3.2	0.7	方	0.2	3	0.6			9c?	

表 27 吉野ヶ里地区Ⅲ区 土坑墓

遺構番号	種類	平面形	主軸方位	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		深さ	時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸			
SP0631	土坑墓	隅丸長方形	N88.1° W		1.8	0.6	0.2				9c?	
SP0632	土坑墓	隅丸長方形	N50.0° E		2.0	0.9	0.3				9c?	鉄刀片出土

B 溝

古代の溝は 1 条確認された。

SD0672 溝

調査区南側に位置し、全長 3.8m、幅 1.3m の溝で東側は調査区外へと続いている。

SD0672 出土遺物 (図 114)

5 は須恵器環で、高台を持たず、底部は厚く口縁部に向かってやや丸みを帯びて立ち上がる。焼成不良である。底部外面はヘラ切り離し後未調整、体部は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。6 は土師器環で、高台は高く外側に張り出す。内外面ともに摩耗のため調整不明である。7 は土師器環で、底部は丸みを帯び、口縁部は内湾気味に開く器形である。底部外面はナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。内面の一部に墨の痕跡が残る。

C 井戸

古代の井戸は 4 基確認された。

SE0630 井戸 (図 113)

調査区北西部、周囲にはあまり遺構がない場所に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、中央よりやや南側で井戸枠が確認された。井戸の最下層からは 12、13 が出土した。

SE0630 出土遺物 (図 114)

8 は須恵器甕である。口縁部は肥厚し、外面が丸く仕上げられる。口縁部外面は回転ナデ、体部はタタキ後カキメ、内面は同心円当て具痕がみられる。9 は瓦器の坏で、底部は丸い。外面はミガキ、内面はナデ調整を行う。10～13 は土師器環で、いずれも内湾気味に開く器形である。10 の底部外面はヘラ切り離し後ナデ、口縁部は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。11、12 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。13 は底部外面は板状圧痕

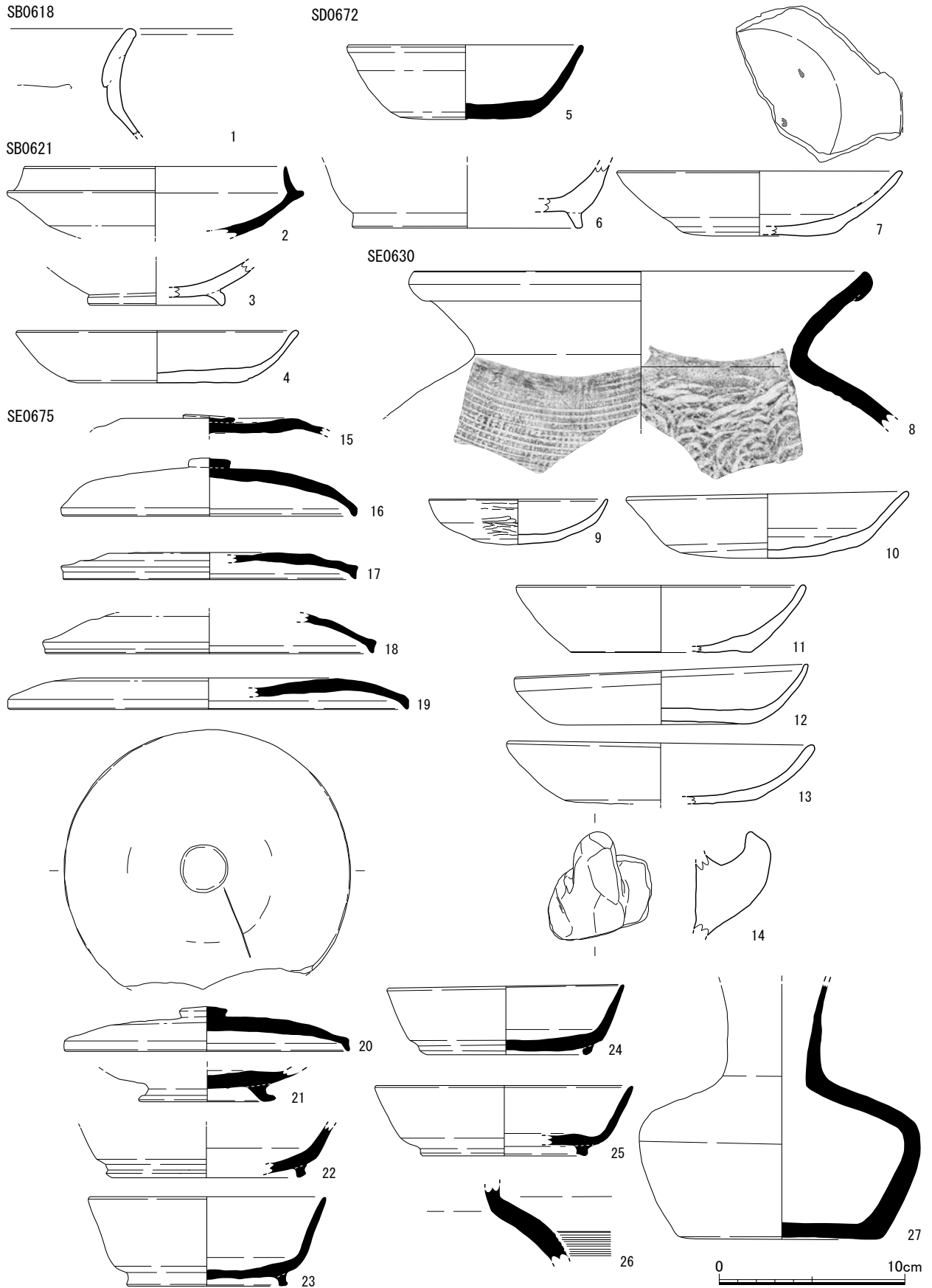


图 114 吉野ヶ里地区Ⅲ区 出土遺物 1 (1/3)

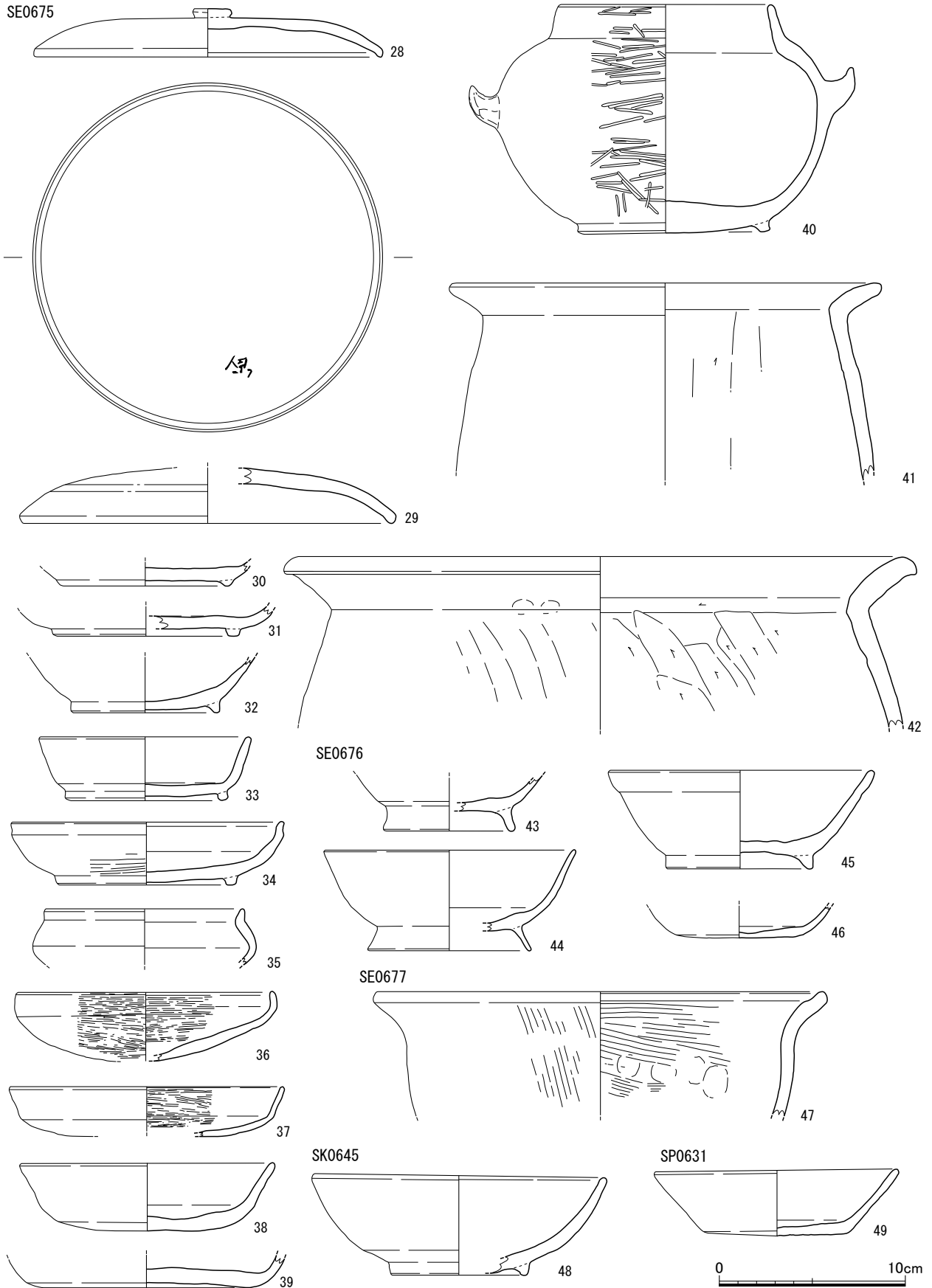


図 115 吉野ヶ里地区Ⅲ区 出土遺物 2 (1/3)

がみられ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。14は土師器の把手である。

SE0675 井戸 (図 113)

調査区北西部、SE0630の東に位置し、20～50cm大の礫とともに多くの須恵器や土師器が出土した。

SE0675 出土遺物 (図 114,115)

15～20は須恵器蓋である。15は極めて低いつまみをもち、中央がやや窪む。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ調整を行う。16は全体的に丸みを帯び、ボタン状の高いつまみをもつ蓋である。焼成不良である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。17は水平近くを開き、口縁端部を下方へ屈曲させる。天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。18は口縁部を下方へ屈曲させる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。19は中央が窪む。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。20はボタン状の低いつまみをもち、口縁端部は下方へ屈曲させる。焼成不良である。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。天井部外面に1本のヘラ記号が認められる。21～25は須恵器高台付坏である。21の高台は高く、端部を外側へ肥厚させる。底部外面はナデ、体部に回転ヘラケズリ、内面はナデ調整を行う。赤焼きである。22の高台は外側に位置し、外側に張り出す。焼成不良である。底部外面はナデ、体部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。23の高台は低く、口縁部はわずかに外反しながら開く形状である。焼成不良である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。24の高台は低く、断面形は丸く内傾する。底部と体部に明瞭な稜をもつ。底部外面はヘラ切り後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。25は直線的に口縁部が開く。底部外面はヘラ切り離した後ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。26は須恵器提瓶の胴部破片で、体部外面にカキメ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。27は須恵器壺である。胴部はやや張り、口頸部は延びるものと考えられる。内面はナデ、他は摩耗のため調整不明である。焼成不良である。28は土師器蓋である。ボタン状の低いつまみをもち、天井部から口縁部にかけて緩やかに広がる。つまみ、天井部外面、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。内面に「原」というヘラ描き文字がみられる。29は天井部から口縁部にかけて緩やかに広がる。天井部外面は回転ヘラケズリ、他は摩耗のため調整不明である。30～39は土師器坏である。30、31の高台は低い。内外面ともに摩耗のため調整不明である。32は高台が外側に張り出す。高台はヨコナデ、他は摩耗のため調整不明である。33の高台は断面形は方形で、口縁部は直線的に開く。内外面の底部はナデ、他は摩耗のため調整不明である。34は底部から口縁部にかけて緩やかに広がり、口縁端部はやや屈曲させる。底部外面はヘラ切り離した後ナデ、体部はミガキ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。35は体部が張り、口縁部が屈曲する。内外面ともに摩耗のため調整不明である。36はやや丸みを帯びる。内外面ともにわずかにミガキ調整が確認できる。37の底部は丸みを帯び、底部から口縁部にかけて直線的に広がる。外面は摩耗のため調整不明で、内面はミガキ調整を行う。38の底部は丸みを帯び、わずかに外反しながら開く。底部外面はヘラ切り、他は摩耗のため調整不明である。39は坏の底部破片である。底部外面はヘラ切り離した後ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。40は土師器壺で、高台をもち、最も張る胴部に把手を付ける。口縁部外面はヨコナデ後ミガキ、把手はナデ、胴部下位はミガキ、底部はナデ、口縁部内面はヨコナデ後ミガキ、胴部内面はナデ調整を行う。41、42は土師器甕で頸部から屈曲しながら開く。41は体部外面はナデ、内面にケズリ調整を行う。42の胴部外面はわずかにハケメ、内面はケズリ調整を行う。

SE0676 出土遺物 (図 115)

43、44 は土師器椀である。43、44 の高台は高く、44 の口縁端部はわずかに外反する。43 底部外面はナデ、口縁部はヨコナデ、体部は回転ナデ、内面は摩耗のため調整不明である。44 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。45 は土師器坏で、高台は断面三角形状を呈し、口縁部は直線的に開く形状である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。内面には一部煤が付着する。46 は坏の底部片である。底部外面は板状圧痕が残り、他は摩耗のため調整不明である。

SE0677 出土遺物 (図 115)

47 は土師器甕で、頸部が緩やかに開く。胴部外面はハケメ、口縁部はヨコナデ、内面はヨコナデ、指押さえ後ハケメ調整を行う。

表 28 吉野ヶ里地区Ⅲ区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 114-1	22000090	SB0618	土師器	甕			5.7+	橙	橙	
図 114-2	22000093	SB0621	須恵器	坏	14.1*		3.8+	灰白	灰白	
図 114-3	22000092	SB0621	土師器	坏		7.4	2.3+	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
図 114-4	22000091	SB0621	土師器	坏	15.2*	9.2*	2.8	浅黄橙	灰白	板状圧痕
図 114-5	22000144	SD0672	須恵器	坏	12.7*	7.0*	4.0	にぶい橙	にぶい橙	
図 114-6	22000146	SD0672	土師器	坏		12.4*	3.4+	にぶい黄橙	にぶい黄橙	底部外面に煤付着
図 114-7	22000145	SD0672	土師器	坏	15.4*	8.2*	3.5	橙	にぶい橙	底部内面に墨書
図 114-8	22000098	SE0630	須恵器	甕	25.0*		8.5+	青灰	青灰	
図 114-9	22000097	SE0630	瓦器	坏	9.6*	4.9*	2.4	灰	灰白	
図 114-10	22000094	SE0630	土師器	坏	15.2	10.0	3.6	浅黄橙	浅黄橙	
図 114-11	22000095	SE0630	土師器	坏	15.6*	9.6*	3.6	浅黄橙	浅黄橙	
図 114-12	22000099	SE0630	土師器	坏	15.8	10.2	2.8	浅黄橙	浅黄橙	
図 114-13	22000100	SE0630	土師器	坏	16.6	10.4*	3.4+	灰白	黄灰	板状圧痕
図 114-14	22000096	SE0630	土師器	把手			5.9+	橙	橙	
図 114-15	22000131	SE0675	須恵器	蓋			1.1+	灰	灰	
図 114-16	22000133	SE0675	須恵器	蓋	15.9*		3.1+	灰白	灰白	
図 114-17	22000130	SE0675	須恵器	蓋	15.8		1.4+	灰白	灰白	
図 114-18	22000129	SE0675	須恵器	蓋	17.7*		2.2+	灰白	にぶい黄橙	
図 114-19	22000132	SE0675	須恵器	蓋	21.6*		1.7+	にぶい黄橙	灰白	
図 114-20	22000137	SE0675	須恵器	蓋	15.4		2.4	灰白	灰白	天井部外面にヘラ記号
図 114-21	22000135	SE0675	須恵器	坏		7.4*	1.6+	にぶい橙	にぶい橙	
図 114-22	22000111	SE0675	須恵器	坏		10.8*	2.8+	灰黄	灰黄	
図 114-23	22000110	SE0675	須恵器	坏	12.8*	8.7*	4.8	灰白	灰白	
図 114-24	22000136	SE0675	須恵器	坏	12.8	9.3	3.8	灰白・灰	灰白	
図 114-25	22000134	SE0675	須恵器	坏	13.9*	9.0*	3.8+	灰	灰白	
図 114-26	22000108	SE0675	須恵器	提瓶			4.2+	灰	灰白	
図 114-27	22000138	SE0675	須恵器	壺		11.0	13.7+	灰白	灰白	
図 115-28	22000107	SE0675	土師器	蓋	18.8		2.6	橙	橙	内面へラ描き文字
図 115-29	22000121	SE0675	土師器	蓋	20.2*		3.0+	橙	橙	
図 115-30	22000120	SE0675	土師器	坏		8.8	1.3+	橙	橙	
図 115-31	22000123	SE0675	土師器	坏		10.0*	1.6+	橙	橙	
図 115-32	22000126	SE0675	土師器	坏		8.0	3.0+	橙	橙	
図 115-33	22000127	SE0675	土師器	坏	11.4	8.7*	3.4	橙	橙	
図 115-34	22000128	SE0675	土師器	坏	14.7	9.6	3.4	にぶい橙	にぶい橙	高台内に煤付着
図 115-35	22000122	SE0675	土師器	坏	10.8*		3.0+	にぶい橙	橙	
図 115-36	22000124	SE0675	土師器	坏	14.1		3.7	橙	橙	
図 115-37	22000125	SE0675	土師器	坏	14.8*		2.6+	橙	橙	
図 115-38	22000109	SE0675	土師器	坏	13.7*	9.4	3.6	灰黄	灰白	
図 115-39	22000119	SE0675	土師器	坏		12.8	1.8+	橙	褐灰	内面に煤付着
図 115-40	04000648	SE0675	土師器	壺	11.7	10.4	12.4	明黄褐	明黄褐	
図 115-41	22000118	SE0675	土師器	甕	23.2*		10.6+	橙	にぶい橙	
図 115-42	22000114	SE0676	土師器	甕	34.0*		9.2+	にぶい橙	にぶい橙	外面に煤付着
図 115-43	22000113	SE0676	土師器	椀		7.1*	3.0+	橙	橙	
図 115-44	22000115	SE0676	土師器	椀	13.6*	8.8*	5.4	浅黄橙	浅黄橙	
図 115-45	22000112	SE0676	土師器	坏	14.3*	7.9	5.3	橙	橙	内面に煤付着
図 115-46	22000116	SE0676	土師器	坏		6.8*	1.7+	浅黄橙	にぶい黄橙	内外面煤付着・板状圧痕
図 115-47	22000117	SE0677	土師器	甕	24.4*		6.7+	にぶい橙	にぶい橙	
図 115-48	22000105	SK0645	瓦器	椀	15.8	7.4*	5.4+	灰・灰白	灰・灰白	
図 115-49	22000106	SP0631	土師器	坏	13.2	8.0	3.6	橙	橙	板状圧痕

D 土坑

古代の土坑は1基確認された。

SK0645 出土遺物 (図 115)

48 は焼成不良の瓦器碗で、内外面ともに摩耗のため調整不明である。

E 土坑墓

古代の土坑墓は2基確認された。

SP0631 土坑墓

調査区北東部、SB0618 の北側に位置し、平面形は隅丸長方形で、東西に伸びる。西側約6mの場所に弥生時代の竪穴建物を切る形でSP0632が位置し、鉄刀片のみが出土している。主軸方向は異なるが、土坑墓の規模や形状からSP0631と類似するため、同時期頃の土坑墓と判断する。

SP0631 出土遺物 (図 115)

49 は土師器坏で、底部は平坦で口縁部は直線的に開く。底部外面は板状圧痕、他は摩耗のため調整不明である。

SB0660

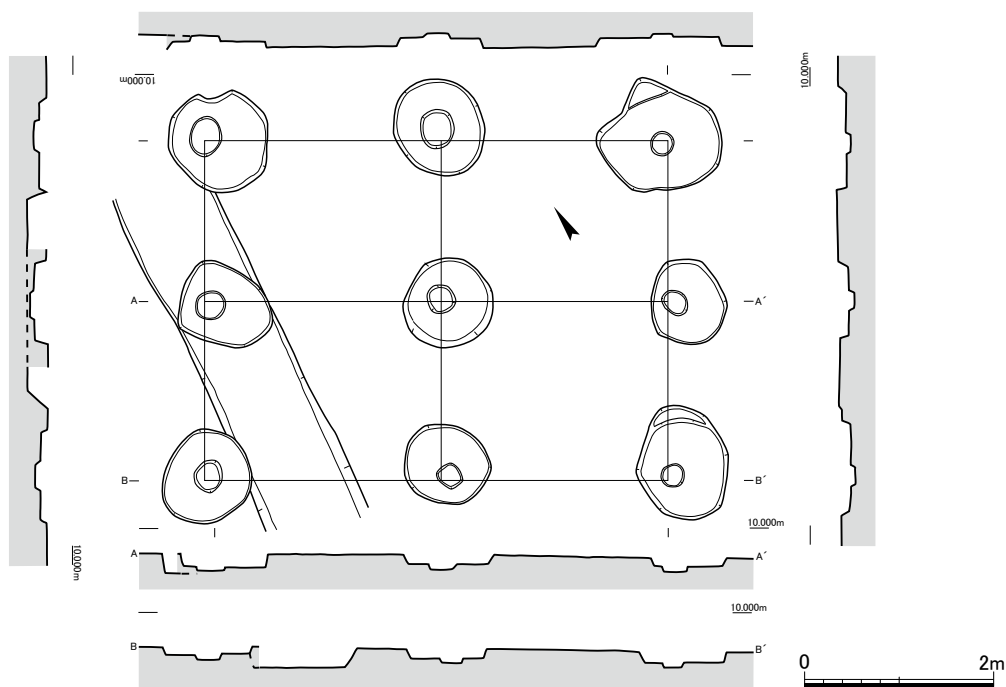


図 116 吉野ヶ里地区IV区 掘立柱建物 (1/80)

表 29 吉野ヶ里地区IV区 掘立柱建物

遺構番号	間数	梁行 (m)		桁行 (m)		主軸方位	平面積 (㎡)	柱穴 (m)		新旧関係		時期	特記事項
		全長	柱間	全長	柱間			平面形	規模	旧	新		
SB0660	2 × 2	3.6	1.7 ~ 1.8	4.8	2.4 ~ 2.6	N34.5° E	17.28	円	0.9 ~ 1.3	SD0659		8c ?	総柱

【吉野ヶ里地区IV区】

A 掘立柱建物

古代の掘立柱建物は1棟で、総柱建物が確認された。

SB0660 掘立柱建物 (図 116)

建物の構造は梁行2間(3.6m)、桁行2間(4.8m)の総柱建物である。梁行柱間は1.7~1.8m、桁行柱間は2.4~2.6mで、主軸方位はN34.5°Eである。柱掘方は円形を基調とする。南北に長く伸びるSD0659を切る。

SE0147

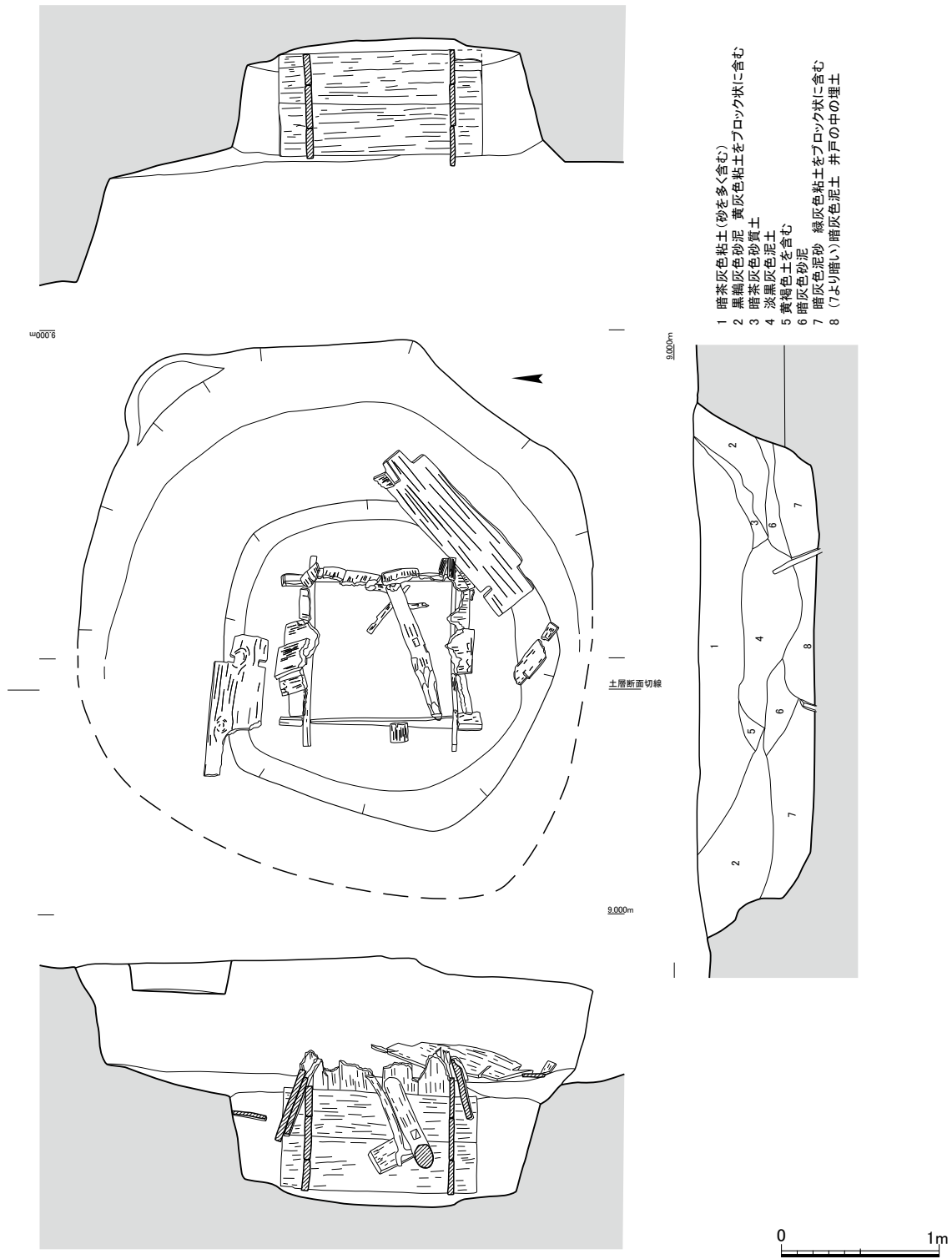


図 117 吉野ヶ里地区Ⅳ区 井戸・土層 (1/40)

表 30 吉野ヶ里地区Ⅳ区 井戸

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SE0147	円形	2.0	1.7	台	0.8	0.9	0.9			8c 後半	

B 溝

古代の溝は2条確認された。

SD0659 溝

調査区北西部に位置し、全長29.0m、幅1.0mの南北に延びる溝である。北側でSB0660に切られる。

SD0659 出土遺物 (図118)

1は須恵器高台付坏の底部破片で、高台はやや高く外側に肥厚する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。2は須恵器皿で、口縁端部が外反する。底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。3は須恵器高台の脚部で、裾部は短く広がり端部を下方へ屈曲させる。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。

SD0669 溝

調査区北西部に位置し、全長19.0m、0.2～0.8mの東西に伸びる溝である。中央辺りで一度切れているが、同一の溝と判断した。

SD0669 出土遺物 (図118)

4は須恵器皿の破片で、内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。5は須恵器盤と考えられる。外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。

C 井戸

古代の井戸は1基確認された。

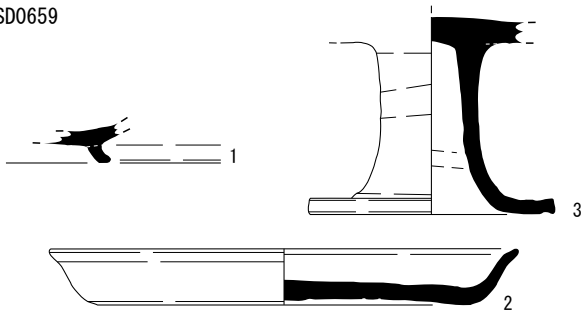
SE0147 井戸 (図117)

吉野ヶ里地区Ⅲ区の南西部、一部飛び地になっている箇所位置する。工事によって西側上部は削平される。井戸枠は井桁状にしっかりと組まれており、南北方向に2枚、東西方向に3枚重なっている。

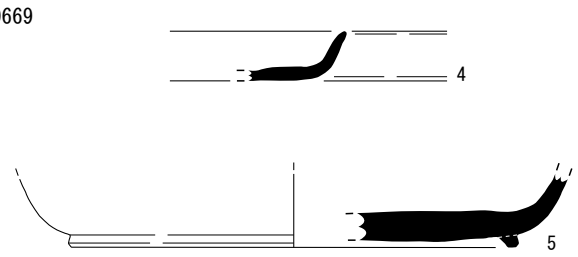
SE0147 出土遺物 (図118)

6～10は須恵器蓋である。6は中央が窪む低いつまみをもち、天井部は水平に開く。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。7は口縁部破片で、口縁端部を丸く仕上げる。外面一部に回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。8、9の口縁端部は下方へ屈曲する。10は口縁端部を鳥嘴状につくる。内外面に重ね焼きの痕がみられる。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。11～21は須恵器坏である。11、12、14～17は高台は低く、断面は台形状や方形状を呈す。18、19の高台はやや高い。20の口縁部は直線的に開き、高台端部は外側に肥厚する。21は高台をもたない坏である。11、12は外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。13は内外面ともに摩耗のため調整不明である。焼成不良である。14は底部外面はヘラ切り離し後ナデ、体部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。15～18、20は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。19は外面は回転ナデ、ナデ、内面は摩耗のため調整不明である。21の底部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。22は須恵器皿で、口縁部が大きく外反する。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。23は壺の底部、24は器壁が厚く、体部が大きく開くため大型の壺の底部と判断した。23は内外面ともに回転ナデ調整を行う。24の底部外面、体部は回転ヘラケズリ、高台は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。25は須恵器鉢で尖底になる鉄鉢形と考えられる。外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ、一部工具痕が残る。26は須恵器皿の墨書土器で、底部外面に書かれているが判読できない。底部外面に一部回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナ

SD0659



SD0669



SE0147

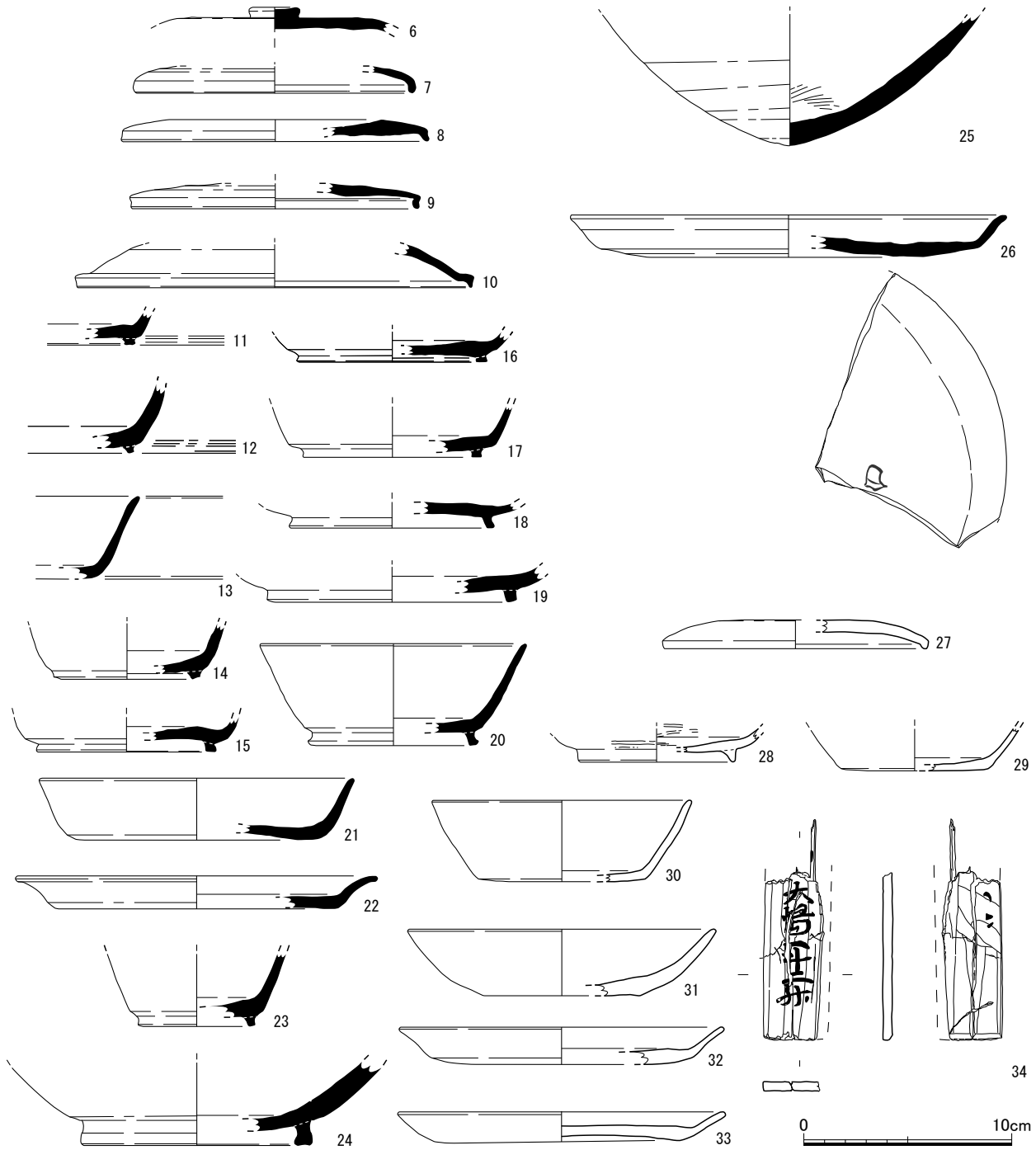


図 118 吉野ヶ里地区Ⅳ区 出土遺物 (1/3)

デ調整を行う。27は土師器蓋で、低く緩やかに開く形状である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。28～31は土師器坏である。28は高台は低く、断面が逆三角形を呈す。29～31は底部が平たく、箱型に近い形をする。28は体部外面にわずかにミガキがみられ、底部はナデ、内面もわずかにミガキ調整を行う。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。32、33は土師器皿である。どちらも焼成不良の須恵器の可能性はある。いずれも口縁部がやや外反しながら開く。32は内外面ともに摩耗のため調整不明である。33は口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。34は木筒である。板目材を使用し、上端部及び右側面は欠損している。墨書は両面にあり、一面には「□大嶋一斗二升」という文字が確認できる。裏面については判読できない。

(3) 吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区の古代の遺構について

吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区では、7世紀から9世紀代にかけての遺構を確認した。掘立柱建物17棟、溝4条、井戸8基、土坑15基、土坑墓3基が確認された。吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区の中央から西側にかけて遺構が集中しており、東側には土坑や土坑墓が点在する。吉野ヶ里地区Ⅰ区では土坑墓が中心に展開し、平面形からSK0181やSK0704も土坑墓の可能性はある。吉野ヶ里地区Ⅱ区では複数の掘立柱建物確認され、西側に位置する吉野ヶ里地区Ⅲ区の掘立柱建物と方向を揃える。SB0474、0478が一連の建物群に含まれる。他の建物については主軸方向等を揃えてはいないものの、建物規模や構造が似ているため、同時期頃と考えられる。吉野ヶ里地区Ⅲ区のSB0618、619、620、623、624は概ね主軸方向を同一にするため一連の建物群と考えられ、SB0621は主軸方向が同じであるが、建物規模や構造が異なる。また、SB0622、671はSB0618、619、620、623、624と規模や構造が同じであるが、主軸方向を北側に向ける配置となっている。吉野ヶ里地区Ⅱ区のSB0474、0478、吉野ヶ里地区Ⅲ区のSB0618、619、620、623、624の建物群は官道に方向を揃えているため、官道の敷設時または敷設後に建てられたと考えられる。

表31 吉野ヶ里地区Ⅳ区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 118-1	22000141	SD0659	須恵器	坏			1.5+	灰	灰	
図 118-2	22000140	SD0659	須恵器	皿	18.6*	14.8*	2.2	灰	灰	
図 118-3	22000139	SD0659	須恵器	高坏		9.8	7.8+	灰	灰	
図 118-4	22000143	SD0669	須恵器	皿			1.9	灰白	灰白	
図 118-5	22000142	SD0669	須恵器	皿		17.8*	2.9+	淡黄	灰白	
図 118-6	22000161	SE0147	須恵器	蓋			1.2+	灰	灰	
図 118-7	22000153	SE0147	須恵器	蓋	13.2*		1.3+	黄灰	黄灰	
図 118-8	22000173	SE0147	須恵器	蓋	14.8*		1.0+	灰白	灰白	
図 118-9	22000156	SE0147	須恵器	蓋	13.8*		1.2+	灰	灰	
図 118-10	22000162	SE0147	須恵器	蓋	19.0		2.1+	灰白	灰白	
図 118-11	22000171	SE0147	須恵器	坏			1.6+	灰白	灰白	
図 118-12	22000172	SE0147	須恵器	坏			3.3+	灰	灰白	
図 118-13	22000168	SE0147	須恵器	坏			4.0+	灰白	灰白	
図 118-14	22000166	SE0147	須恵器	坏		7.0*	2.6+	灰白	灰白	
図 118-15	22000159	SE0147	須恵器	坏		8.6*	1.7+	灰	灰	
図 118-16	22000167	SE0147	須恵器	坏		9.2*	1.5+	灰	灰白	
図 118-17	22000152	SE0147	須恵器	坏		8.6*	2.4+	灰	灰	
図 118-18	22000160	SE0147	須恵器	坏		9.8*	1.2+	暗灰	灰	
図 118-19	22000163	SE0147	土師器	坏		12.0*	1.7+	にぶい黄橙	にぶい橙	
図 118-20	22000158	SE0147	須恵器	坏	12.8*	8.2*	4.9	灰	灰	
図 118-21	22000170	SE0147	須恵器	坏	15.2*	12.4*	3.0+	灰	灰	
図 118-22	22000164	SE0147	須恵器	皿	17.4*	13.6*	1.6	灰白	灰	
図 118-23	22000154	SE0147	須恵器	壺		5.6*	3.5+	灰	灰	
図 118-24	22000157	SE0147	須恵器	壺鉢		11.1*	4.0+	灰	灰	
図 118-25	22000169	SE0147	須恵器	鉢			6.3+	灰白	灰白	
図 118-26	04001468	SE0147	須恵器	皿	21.0		2.0			底部外面に墨書
図 118-27	22000165	SE0147	土師器	蓋	12.7		1.4	にぶい黄橙	灰白	
図 118-28	22000174	SE0147	土師器	坏		7.6*	1.6+			
図 118-29	22000149	SE0147	土師器	坏		7.1*	1.9+	浅黄	灰黄	
図 118-30	22000151	SE0147	土師器	坏	12.4*	8.0*	3.9	浅黄橙	橙	口縁部内外面に煤付着
図 118-31	22000155	SE0147	土師器	坏	14.8*	7.6*	3.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
図 118-32	22000150	SE0147	土師器	皿	15.6*	12.4*	1.8	灰白	灰白	
図 118-33	22000148	SE0147	土師器	皿	15.8	11.8	1.5	浅黄橙	にぶい黄橙	

2 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区

(1) 概要

吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区は、吉野ヶ里町大字田手字四本杉に所在しており、Ⅵ区の北側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅴ区、西側には吉野ヶ里地区Ⅱ区が隣接する。Ⅵ区は志波屋・吉野ヶ里段丘上に立地しており、2重の環壕で囲まれた北内郭が位置する部分は標高約22～23mで、削平が著しいことを考慮すると、もともと周辺では最も高い場所であったことが推測されている。また、東側は段丘崖となり、直下を田手川が南流しており、南側は傾斜がやや強い斜面となっている。

Ⅵ区は神埼工業団地計画にあたって、遺構が濃密に存在する範囲として保存緑地となっていたが、その内容を知るため、平成2～7年度に補助事業による確認調査を実施した(『132集』)。調査の結果、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の集落・墳墓、平安時代の墓地、中世の濠跡などを検出した。ただ、みかん園造成など後世の削平によって全体的な遺構の残存状態は悪く、また確認調査であるため、詳細が不明な点もある。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

A 竪穴建物

古代の竪穴建物は1軒確認された。

SH1156 出土遺物 (図125)

1～3は須恵器蓋の口縁部破片である。1、2は口縁端部を下方へ屈曲させる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。3の天井部は厚く、口縁端部を肥厚させ、やや下方へ屈曲させる。天井部外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。4、5は須恵器杯の口縁部破片で、直線的に伸びる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。6は須恵器鉢で、口縁端部をやや肥厚させる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。7は土師器杯で、丸みを帯びた形状である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

B 土坑

古代の土坑は3基確認された。

SK1154 出土遺物 (図125)

8、9は須恵器蓋である。8は天井部が高くなる形状で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。9はかえりと口縁端部が同じ高さにある。外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。

SK1155 出土遺物 (図125～127)

10～18は須恵器蓋である。10は中央がやや膨らむつまみをもつ。11、18は口縁端部を下方へ屈曲させる。12、13はかえりが口縁端部より低い位置にある。14、15はかえりが口縁部の内側におさまる。16は口縁端部を下方へ長く屈曲させる。17は宝珠状のつまみをもち、天井部は丸みを帯び、口縁端部を下方へ屈曲させる。10の外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。11、15、16の天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。12、14は天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。13は内外面ともに回転ナデ調整を行う。17、18外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。19～26は須恵器杯である。19～25は高台付杯である。19、20の高台はやや高く接地部分は面をなす。22は高台端部を外側へ肥厚させる。23は器壁に対して高台が厚く、口縁部は直線的に開く形状である。外面に灰かぶりがみられる。

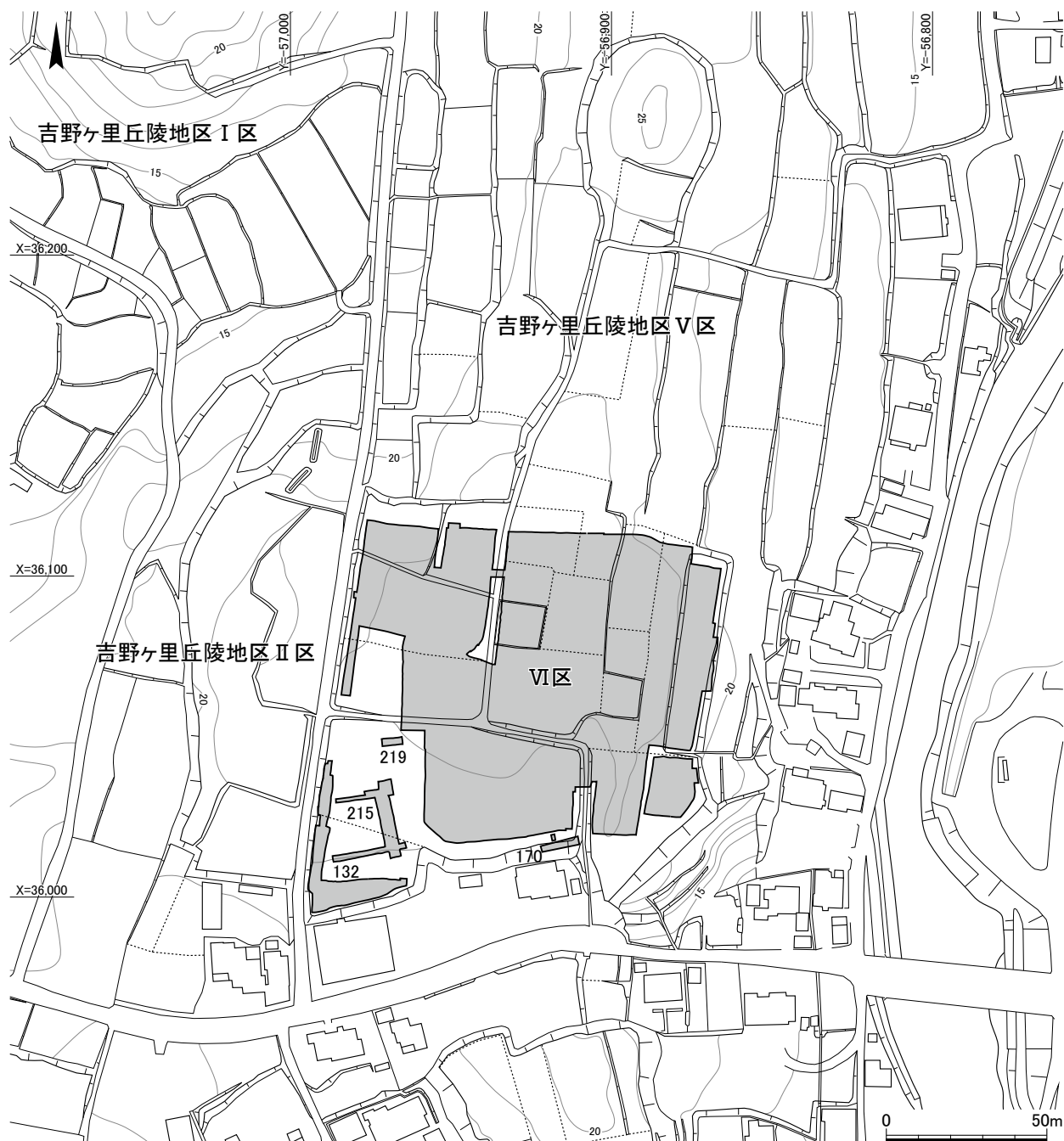


図 119 吉野ヶ里丘陵地区VI区 調査区の位置 (1/2,000)

24、25 は高台端部を外側へ肥厚させ、口縁部を外反させる。25 の体部下端に 2 本平行したヘラ記号が認められる。26 は高台をもたない坏で、底部は平たく口縁端部を丸く仕上げる。19、22、23 の内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。21、25 の底部外面はヘラ切り離し後末調整、回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。20 は外面の一部に回転ヘラケズリ、回転ナデ、ナデ、内面はナデ調整を行う。24 の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。26 の底部外面はヘラ切り離し後末調整、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。27 ~ 30 は須恵器鉢である。29 は口縁部がやや屈曲しながら開く。27 の外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。28 ~ 30 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。31、32 は須恵器高坏の脚部である。脚端部を下方へ屈曲させる。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。33 ~ 36 は須恵器壺である。33 は口縁部外面に突帯状のものが付く。34 のやや強い回転ナデにより口縁端部に段を有する。35 は胴部が最も張っており、緩やかに屈曲する。外面に灰か



図 120 吉野ヶ里丘陵地区VI区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,000)

ぶりがみられる。33、34、36 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。35 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。37～46 は土師器坏である。37 は高台付坏で、38～46 は底部が丸みを帯び、皿状の形状をもつ。38、39、41、43～45 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。40 の底部外面にヘラケズリ、他は摩耗のため調整不明である。42 の口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。46 の底部外面はヘラ切り離し後未調整、他は摩耗のため調整不明である。47～54 は土師器甕である。54 の口縁部はくの字状に屈曲し、胴部はやや長胴で、底部は丸くなる。底部外面に黒斑がみられる。47 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、内面は摩耗のため調整不明である。48、50 は外面の一部にハケメ、他は摩耗のため調整不明である。49 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。51、52 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。53 の口縁部外面はヨコナデ、胴部は摩耗のため調整不明で、内面胴部はケズリ調整を行う。54 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、底部は摩耗のため調整不明で、口縁部内面にはハケメ、胴部はナデ、ケズリ調整を行う。55 は土師器の把手付き鉢である。全体の器形に対して不釣り合いな大きめの把手を有し、底部は丸くなる。外面の一部にハケメ、他は摩耗のため調整不明である。

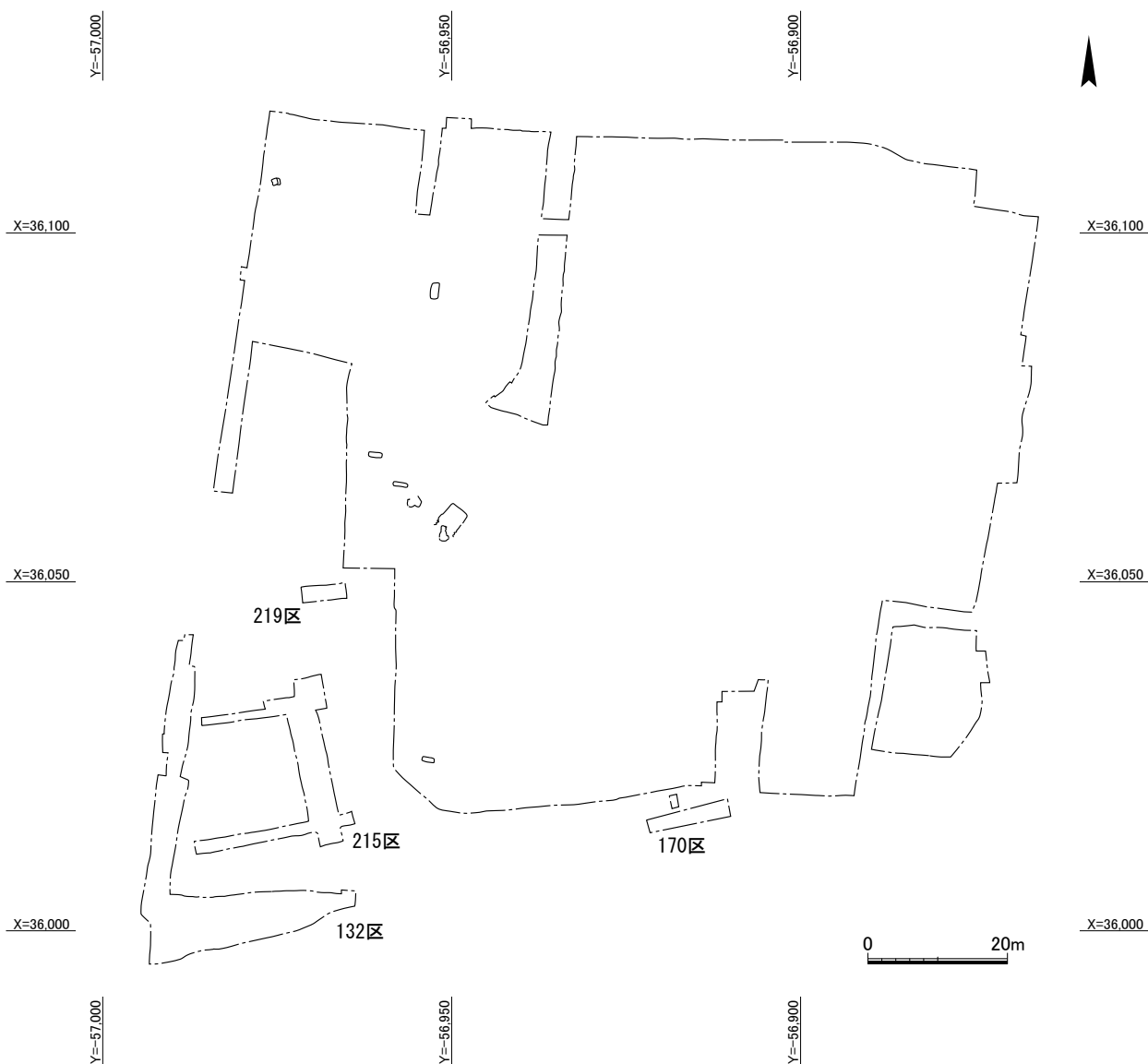


図 121 吉野ヶ里丘陵地区VI区 古代の遺構分布 (1/1,000)

SK1192 出土遺物 (図 127)

56 は須恵器蓋で、扁平で中央が窪むつまみをもつ。天井部は水平で、口縁端部は下方へ屈曲させる。つまみはナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、回転ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。57、58 は須恵器高台付坏で、57 は高台は低く接地部分は面をなす。58 は細くやや高い高台をもつ。いずれも外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。59 は土師器甕で、外面の一部にハケメ、他は摩耗のため調整不明である。60 は土師器の把手である。

C 土坑墓

古代の土坑墓は 5 基確認された。

SP1142 出土遺物 (図 127)

61～63 は土師器碗で、いずれも細く長い高台をもつ。63 はやや内湾気味に開く形状である。61、63 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。62 の底部外面は回転ナデ、ナデ、他は摩耗のため調整不明である。64 は土師器坏で、全体的に丸みを帯びた形状である。口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。底部外面に板



図 122 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 遺構分布詳細図1 (1/400)

状圧痕がみられる。65 は土師器皿で、内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SP1151 出土遺物 (図 127)

66、67 は土師器碗である。66～67 は細く長い高台をもち、やや内湾気味に開く形状である。66 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。67 の底部外面はヘラ切り離し後未調整、底部内面はナデ、他は摩耗のため調整不明である。68～70 は黒色土器碗である。68、69 は細く長い高台をもち、やや内湾気味に開く形状である。どちらも内面に黒化処理を施す。68 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。69 の外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行



図 123 吉野ヶ里丘陵地区VI区 遺構分布詳細図2 (1/400)

う。70の高台は低く、口縁端部はわずかに外反する。内外面に黒化処理を施す。口縁部外面はミガキ、底部はヘラ切り離し後未調整、内面はミガキ、ナデ調整を行う。71、72は土師器坏で、皿状の形状を呈す。71は内外面ともに摩耗のため調整不明である。72の外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。

SP1152 出土遺物 (図 127)

73、74は黒色土器碗である。73の口縁部外面はミガキ、底部はナデ、内面はミガキ調整を行う。74の底部はヨコナデ、ナデ、口縁部は摩耗のため調整不明で、内面はミガキ調整を行う。73は内面に、74は内外面に黒化処理を施す。

SP1187 出土遺物 (図 127)

75は黒色土器碗である。細く長い高台をもち、やや内湾気味に開く形状である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。内面に黒化処理を施す。76、77は土師器碗である。76は細く長い高台をもち、やや内湾気味に開く形状で、77は口縁部が直線的に開く形状である。76の底部外面はヨコナデ、ナデ、他は摩耗のため調整不明である。77は内外面ともにヨコナデ調整を行う。

SP1220 出土遺物 (図 127)

78、79は土師器坏である。78はやや内側に向かう高台をもち、79は端部に向かって器壁が薄くなる。

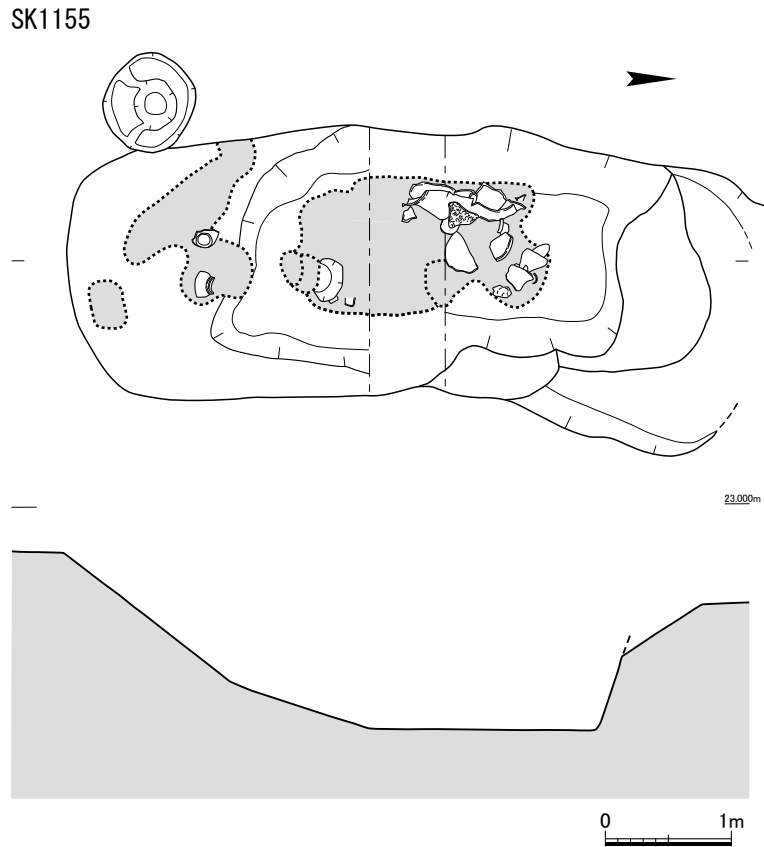


図 124 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 土坑 (1/60)

表 32 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 竪穴建物

遺構番号	構造		規模 m		屋内施設	新旧関係		時期	特記事項
	平面形	支柱穴	長軸	短軸		旧	新		
SH1156	長方形?		3.3+	3.0			SK1155	8c 前半	

表 33 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK1154	不整形	2.0	1.3+	台	0.3	0.8	0.5			7c 前半?	
SK1155	隅丸長方形に近い	2.5	1.0	台	0.6	1.4	0.7	SH1156		8c 前半	

表 34 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 土坑墓

遺構番号	種類	平面形	主軸方位	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		深さ	時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸			
SP1142	土坑墓	隅丸長方形	N5.2° W		2.3	1.2	0.4				9c ~ 10c	
SP1151	土坑墓	隅丸長方形	N82.9° W		2.0	0.8	0.3				9c ~ 10c	
SP1152	土坑墓	隅丸長方形	N80.7° W		2.1	0.6	0.4				9c ~ 10c	
SP1187	土坑墓	隅丸長方形	N76.6° W		1.8	0.7	0.2				9c ~ 10c	
SP1220	土坑墓	隅丸長方形	N76.0° W		1.2	0.9	0.6				9c ~ 10c	

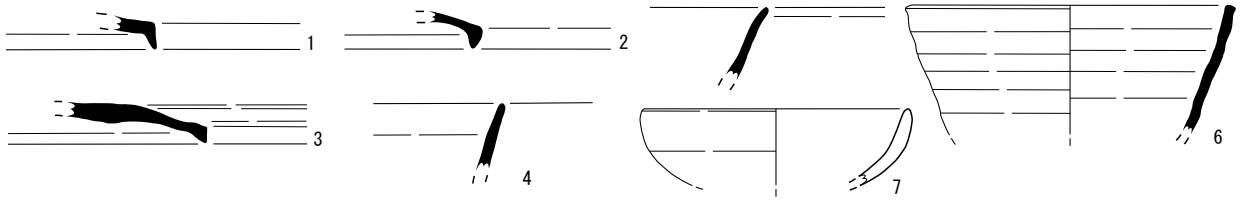
78の外面はヨコナデ、ナデ、内面はナデ調整を行う。79は内外面ともに摩耗のため調整不明である。

吉野ヶ里遺跡確認調査 124 トレンチ 表土層出土 (図 127)

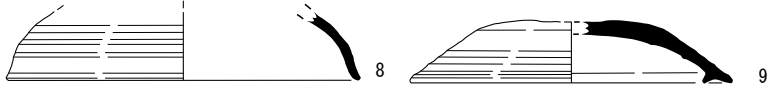
吉野ヶ里丘陵地区Ⅵより東に約 300 m の田手川を挟んだ場所に位置する確認調査の 124 トレンチの表土層より出土した遺物である。遺構に伴うものではないが、当該期の遺物に該当するため、ここで紹介する。

80 は 1 つの隅が欠損しているが、比較的良好な残存状態である。形態は平面方形をなす巡方で、裏面の四隅には二孔ずつがトンネル状に連結し貫通する孔を穿つ。表面及び側面は丁寧な面取り加工が行われている。

SH1156



SK1154



SK1155

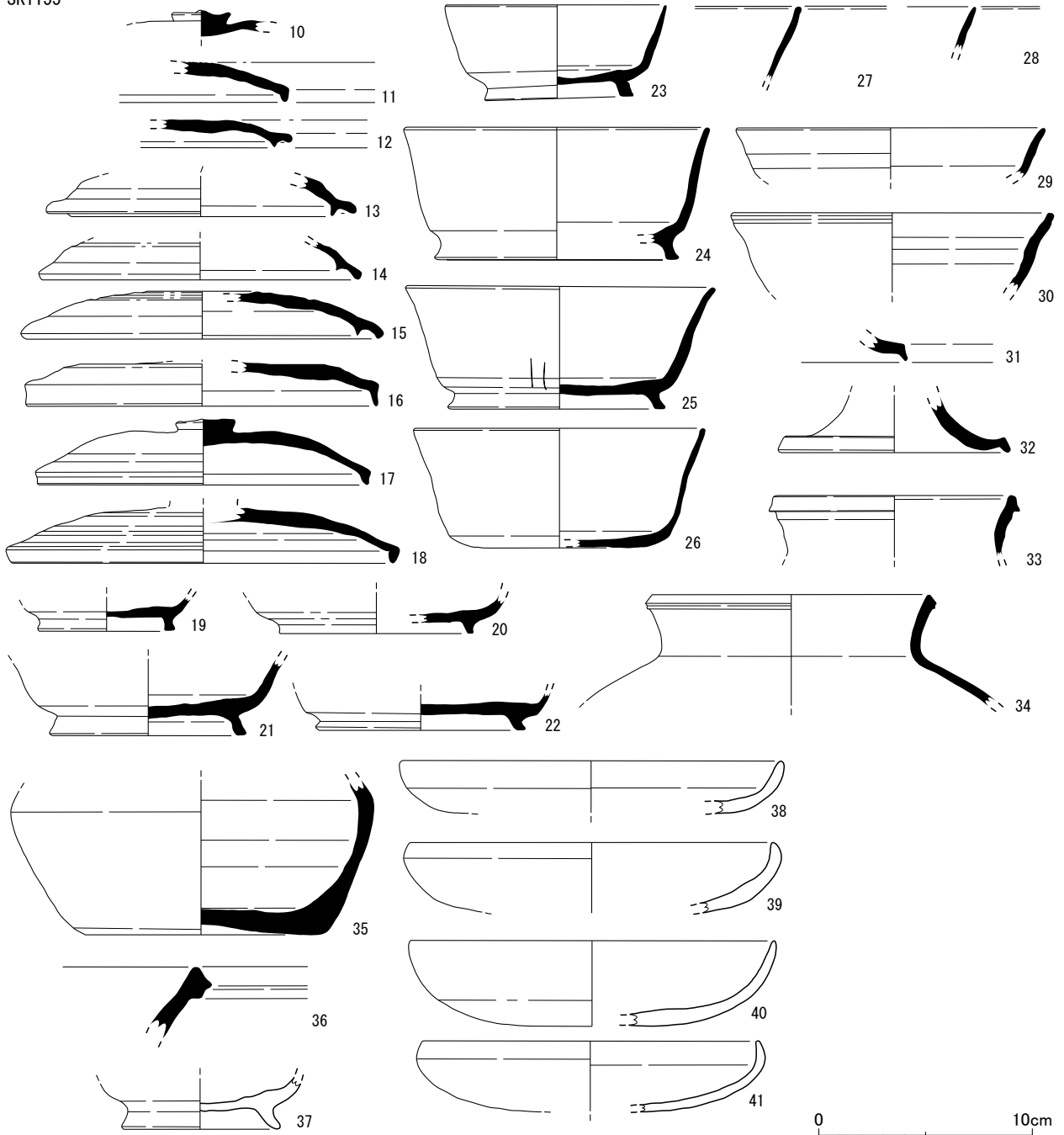


图 125 吉野ヶ里丘陵地区VI区 出土遺物 1 (1/3)

SK1155

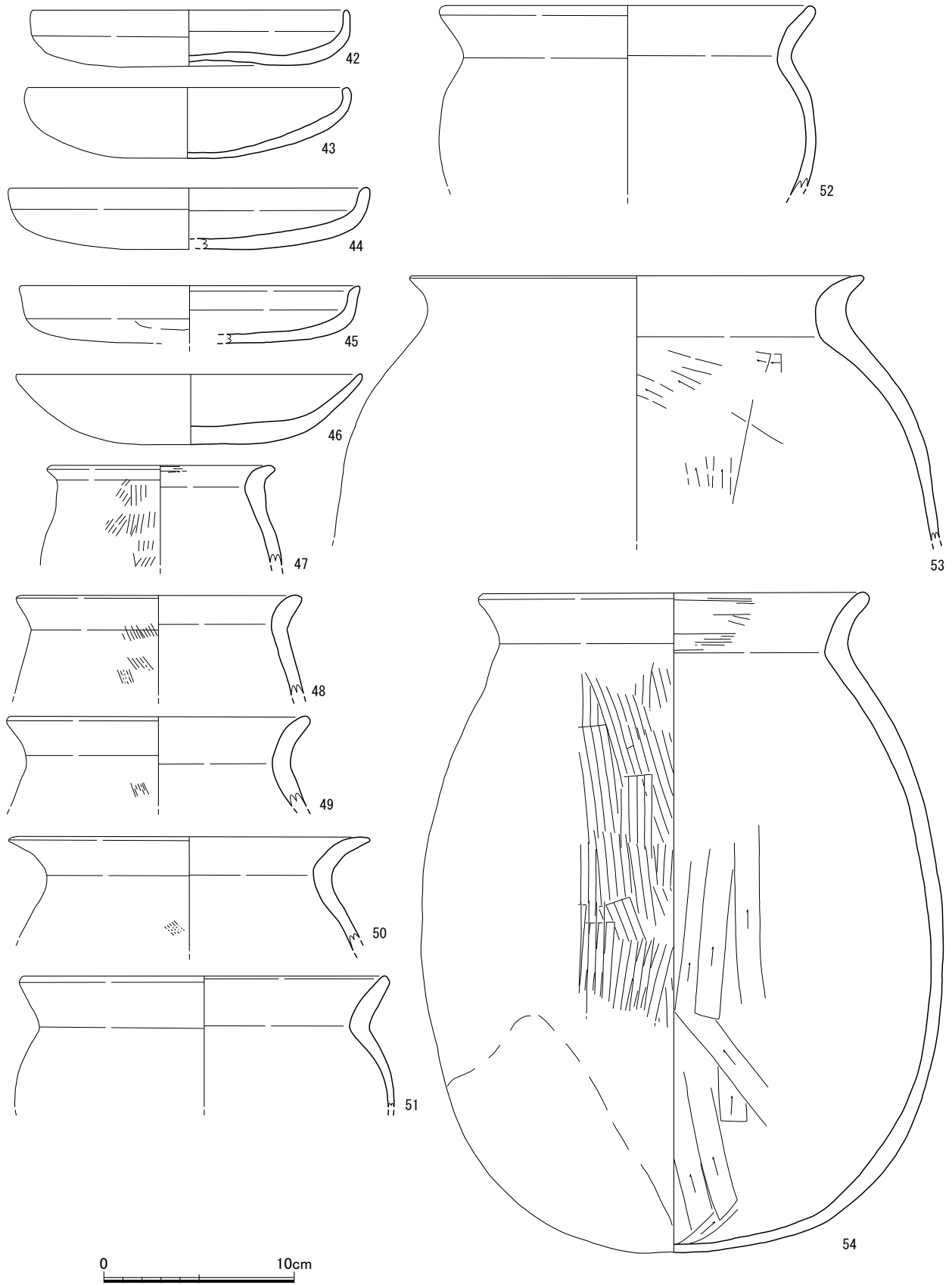


図 126 吉野ヶ里丘陵地区VI区 出土遺物 2 (1/3)

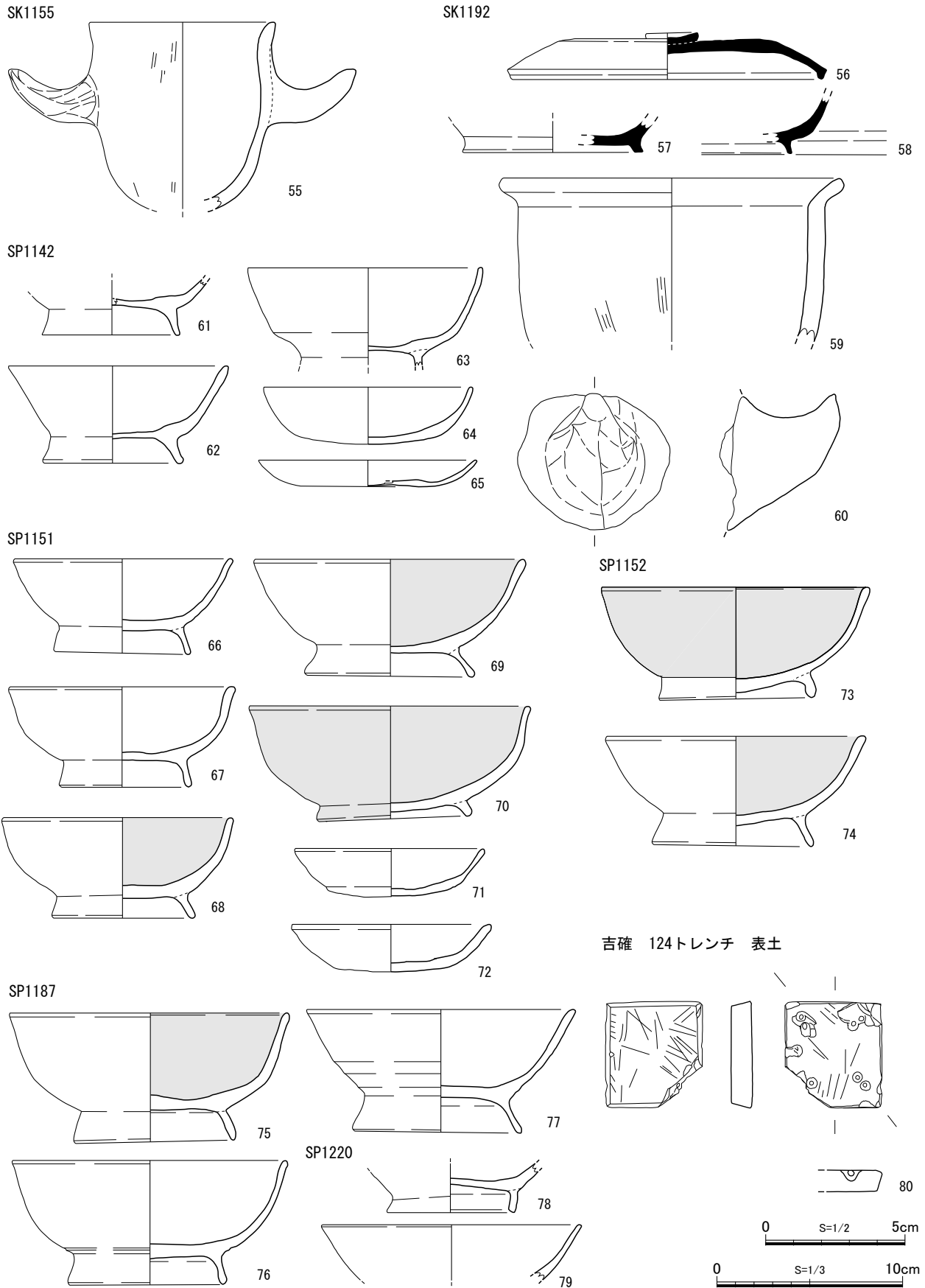


図127 吉野ヶ里丘陵地区VI区 出土遺物3 (80は1/2, 他は1/3)

(3) 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区の古代の遺構について

吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区では8世紀から10世紀代にかけての遺構を確認した。竪穴建物1軒、土坑3基、土坑墓5基が確認された。吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区では西側に遺構が偏り、9～10世紀代の土坑墓が複数確認され、SP1142の除く土坑墓は主軸方向を概ね揃える。

表 35 吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 125-1	95003420	SH1156	須恵器	蓋			1.3+	灰	灰	
図 125-2	95003421	SH1156	須恵器	蓋			1.5+	灰	灰	
図 125-3	95003422	SH1156	須恵器	蓋			1.6+	灰	灰	
図 125-4	95003417	SH1156	須恵器	坏			2.7+	灰	灰	
図 125-5	95003418	SH1156	須恵器	坏			2.9+	灰	灰	
図 125-6	95003419	SH1156	須恵器	鉢	12.5*		5.1+	灰	灰	
図 125-7	95003416	SH1156	土師器	坏	10.4*		3.0+	明黄褐	明黄褐	
図 125-8	96000881	SK1154	須恵器	蓋	13.8*		2.7+	灰	灰	
図 125-9	96000882	SK1154	須恵器	蓋	12.6*		2.5+	灰	灰	
図 125-10	96000920	SK1155	須恵器	蓋			1.2+	灰	灰	
図 125-11	96000914	SK1155	須恵器	蓋			1.9+	灰	灰	
図 125-12	96000919	SK1155	須恵器	蓋			1.3+	暗灰	暗灰	
図 125-13	96000917	SK1155	須恵器	蓋	12.2*		1.9+	灰	灰	
図 125-14	96000918	SK1155	須恵器	蓋	15.0*		1.8+	暗灰	灰	
図 125-15	96000916	SK1155	須恵器	蓋	16.4*		2.2+	灰	灰	
図 125-16	96000913	SK1155	須恵器	蓋	16.3*		2.1+	灰	灰	
図 125-17	96000887	SK1155	須恵器	蓋	15.4*		3.1+	灰	灰	
図 125-18	96000888	SK1155	須恵器	蓋	17.8*		2.6+	灰	灰	
図 125-19	96000909	SK1155	須恵器	坏		6.3	1.6+	灰	灰	
図 125-20	96000892	SK1155	須恵器	坏		9.1*	1.9+	暗褐	暗褐	
図 125-21	96000885	SK1155	須恵器	坏		9.0*	3.6+	灰	灰	
図 125-22	96000889	SK1155	須恵器	坏		9.6	1.8+	暗灰	暗灰	
図 125-23	96000890	SK1155	須恵器	坏	10.3	7.0	4.5	灰	灰	外面一部に灰かぶり有り
図 125-24	96000908	SK1155	須恵器	坏	14.1*	11.4*	6.2	灰	灰	
図 125-25	96000921	SK1155	須恵器	坏	14.3	10.0	5.8	暗灰	暗灰	外面体部下端にヘラ記号
図 125-26	96000884	SK1155	須恵器	坏	13.5*	9.4*	5.6	灰	灰	
図 125-27	96000923	SK1155	須恵器	鉢			3.6+	灰	灰	
図 125-28	96000924	SK1155	須恵器	鉢			2.1+	暗灰	暗灰	
図 125-29	96000912	SK1155	須恵器	鉢	14.4*		2.4+	灰	灰	
図 125-30	96000910	SK1155	須恵器	鉢	15.0		3.7+	黄灰	灰	
図 125-31	96000915	SK1155	須恵器	高坏			1.2+	灰白	灰白	
図 125-32	96000907	SK1155	須恵器	高坏		10.7	2.7+	灰	灰	
図 125-33	96000922	SK1155	須恵器	壺	11.4*		2.9+	暗灰	暗灰	
図 125-34	96000886	SK1155	須恵器	壺	13.0*		5.2+	灰白	暗灰	
図 125-35	96000891	SK1155	須恵器	壺		10.8	7.2+	暗灰	暗灰	
図 125-36	96000911	SK1155	須恵器	壺			3.4+	灰	灰	
図 125-37	96000906	SK1155	土師器	坏		7.2	2.4+	淡褐	淡褐	
図 125-38	96000896	SK1155	土師器	坏	17.7*		2.4+	淡褐	淡褐	
図 125-39	96000895	SK1155	土師器	坏	17.0*		3.3+	淡褐	淡褐	
図 125-40	96000894	SK1155	土師器	坏	17.0*		4.0	淡褐	淡褐	
図 125-41	96000893	SK1155	土師器	坏	15.7*		3.3+	淡褐	淡褐	
図 126-42	96000930	SK1155	土師器	坏	16.5	10.6	3.0	明黄褐	明黄褐	
図 126-43	96000931	SK1155	土師器	坏	16.8		3.7	淡褐	淡褐	
図 126-44	96000897	SK1155	土師器	坏	18.7*		3.2	淡褐	淡褐	
図 126-45	96000932	SK1155	土師器	坏	17.8*		3.0+	明黄褐	明黄褐	
図 126-46	96000929	SK1155	土師器	坏	18.1*		3.7	明黄褐	明黄褐	
図 126-47	96000904	SK1155	土師器	甗	11.4*		5.2+	明黄褐	明黄褐	
図 126-48	96000901	SK1155	土師器	甗	14.5*		5.2+	明黄褐	明黄褐	
図 126-49	96000902	SK1155	土師器	甗	15.4*		4.7+	暗褐	暗褐	
図 126-50	96000900	SK1155	土師器	甗	19.0*		5.9+	淡褐	淡褐	
図 126-51	96000898	SK1155	土師器	甗	19.0*		6.9+	淡褐	淡褐	
図 126-52	96000928	SK1155	土師器	甗	19.0*		9.9+	淡褐	淡褐	
図 126-53	96000927	SK1155	土師器	甗	23.7*		13.9+	淡褐	淡褐	
図 126-54	96000883	SK1155	土師器	甗	19.9		34.7	暗褐	暗褐	
図 127-55	96000934	SK1155	土師器	鉢	9.8*		10.1+	明黄褐	明黄褐	
図 127-56	96000983	SK1192	須恵器	蓋	16.6*		2.5	灰	灰	
図 127-57	96000985	SK1192	須恵器	坏		9.7*	1.7+	灰	灰	
図 127-58	96000984	SK1192	須恵器	坏			3.2+	灰	灰	
図 127-59	96000986	SK1192	土師器	甗	18.1*		8.8+	淡褐	淡褐	
図 127-60	96000987	SK1192	土師器	把手			7.4+	明黄褐	明黄褐	

図 127-61	96004099	SP1142	土師器	椀		7.4	2.9+	淡褐	淡褐	
図 127-62	96004101	SP1142	土師器	椀	11.8*	7.6*	5.2	淡褐	淡褐	
図 127-63	96004102	SP1142	土師器	椀	12.6*		5.2+	褐	褐	
図 127-64	96004100	SP1142	土師器	坏	11.2*		3.1+	淡褐	淡褐	
図 127-65	96004098	SP1142	土師器	皿	11.7*		1.5+	褐	褐	
図 127-66	96004109	SP1151	土師器	椀	11.7	7.1	5.1	淡褐	淡褐	
図 127-67	96004104	SP1151	土師器	椀	12.0*	6.9*	5.4+	淡褐	淡褐	
図 127-68	96004108	SP1151	黒色土器	椀	12.3*	7.5	5.4	明黄褐	明黄褐	黒色土器 A 類
図 127-69	96004105	SP1151	黒色土器	椀	14.4	9.2	6.3	淡褐	黒	黒色土器 A 類
図 127-70	96004106	SP1151	黒色土器	椀	15.0	8.4	6.2	淡褐	淡褐	黒色土器 B 類
図 127-71	96004107	SP1151	土師器	坏	10.2	6.7	2.6	淡褐	淡褐	
図 127-72	96004103	SP1152	土師器	坏	10.7	6.4	2.5	淡褐	淡褐	
図 127-73	96004110	SP1152	黒色土器	椀	14.4	8.2	6.1	黒	黒	黒色土器 B 類
図 127-74	96004111	SP1152	黒色土器	椀	13.9	8.8	5.9	淡褐	黒	黒色土器 A 類
図 127-75	96004112	SP1187	黒色土器	椀	14.9	8.5	7.0	明黄褐	明黄褐	黒色土器 A 類
図 127-76	96004114	SP1187	土師器	椀	14.7	8.4	6.7	明黄褐	淡褐	
図 127-77	96004113	SP1187	土師器	椀	14.4	9.0	6.6	明黄褐	明黄褐	
図 127-78	96004117	SP1220	土師器	坏		6.8	2.6+	明黄褐	明黄褐	
図 127-79	96004118	SP1220	土師器	坏	13.8*		3.0+	明黄褐	明黄褐	

3 吉野ヶ里地区V区

(1) 概要

吉野ヶ里地区V・VI区は、神崎市神崎町鶴字下ノ辻に所在しており、志波屋・吉野ヶ里段丘裾部（V区）から西側の水田部（VI区）に立地している。煩雑さを避けるため、吉野ヶ里地区V区については、SD0925 外環壕を境界として西側を報告する。したがって、正確には本項で報告するのはV区西部であるが、便宜上ここでは「V区」として記述していく。V・VI区の北側には県道吉田・鶴線を挟んで吉野ヶ里地区I～IV区が位置し、東側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区、南側には田手二本黒木地区I区が隣接している。

V区では、一部を神埼工業団地造成に伴って発掘調査を行い、遺跡保存決定後に補助事業による確認調査を実施した。平成元年度にトレンチ調査を行っているが（90～102調査区：『132集』）、ほとんどの範囲が平成10・11年度に調査を行った306・307調査区（『160集』）に含まれており、工業団地に伴う調査範囲と306・307調査区の成果を中心に報告する。また、平成9年度に調査を行ったV区南側に位置する247・248調査区（『156集』）は、その南側に隣接する田手二本黒木地区I区と一体として調査が行われ、247調査区で溝状遺構が確認されている。VI区では、平成9年度に補助事業及び県立吉野ヶ里歴史公園整備に伴う確認調査が行われ、壕などを検出した。

なお、V区の範囲では筑後川下流用水事業に伴う調査（佐賀県教委1994）が306調査区の南側で、VI区の範囲では圃場整備事業に伴う馬郡遺跡Ⅲ区の調査（神崎町教委2001）が306調査区の西側、筑後川下流用水事業に伴う馬郡遺跡1区の調査（佐賀県教委1989）が行われている。

調査の結果、弥生時代～古墳時代初頭の集落・墓地、古墳時代後期の集落、古代の集落、中世の溝・墳墓などを確認した。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

A 掘立柱建物

古代の掘立柱建物は8棟確認され、その内6棟が側柱建物、2棟が総柱建物である。

SB0907 掘立柱建物（図138）

建物の構造は梁行2間（3.75m）、桁行2間（4.2m）、梁行柱間は0.8～1.0m、桁行柱間は1.0～1.1mで、主軸方位がN6.2°Wの南北棟である。柱掘方は方形や円形を基調とする。

SB1013 掘立柱建物（図138）

建物の構造は梁行3間以上（3.8m以上）、桁行3間（5.1m）、梁行柱間は0.6～1.0m、桁行柱間は0.8mで、主軸方位がN4.5°Wの南北棟である。柱掘方は円形を基調とする。西側の一部が削平を受けている。

SB1014 掘立柱建物（図139）

建物の構造は梁行2間以上（3.3m以上）、桁行3間（5.0m）、梁行柱間は0.7～0.8m、桁行柱間は0.8mで、主軸方位がN5.8°Wの南北棟である。柱掘方は円形を25とする。西側の一部が削平を受けている。西側をSD0925に切られる。

SB1020 掘立柱建物（図139）

建物の構造は梁行3間（4.9m）、桁行5間（7.2m）、梁行柱間は0.8～0.9m、桁行柱間は0.6～0.9mで、主



図128 吉野ヶ里地区V区 調査区の位置 (1/2,000)

遺跡南半部の遺構と遺物



図 129 吉野ヶ里地区V区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,500)



図 130 吉野ヶ里地区V区 古代の遺構分布 (1/1,500)



図 131 古野ヶ里地区V区 遺構分布詳細図1 (1/400)



図132 吉野ヶ里地区V区 遺構分布詳細図2 (1/400)

軸方位が $N5.4^\circ W$ の南北棟である。柱掘方は円形を基調とする。南側に廂をもつ。

SB1083 掘立柱建物 (図140)

建物の構造は梁行1間(3.6m)、桁行2間(4.8m)、梁行柱間は1.7～1.8m、桁行柱間は1.1～1.2mで、主軸方位が $N0^\circ$ である。柱掘方は方形を基調とする。

SB1083 出土遺物 (図146)

1は須恵器坏で、丸みを帯びた形状である。底部外面には回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。2、3は土師器甕である。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SB1147 掘立柱建物 (図140)

建物の構造は梁行1間(3.2m)、桁行2間(5.6m)、梁行柱間は1.5～1.7m、桁行柱間は1.3～1.4mで、主軸方位が $N19.5^\circ W$ である。柱掘方は円形や方形を基調とする。

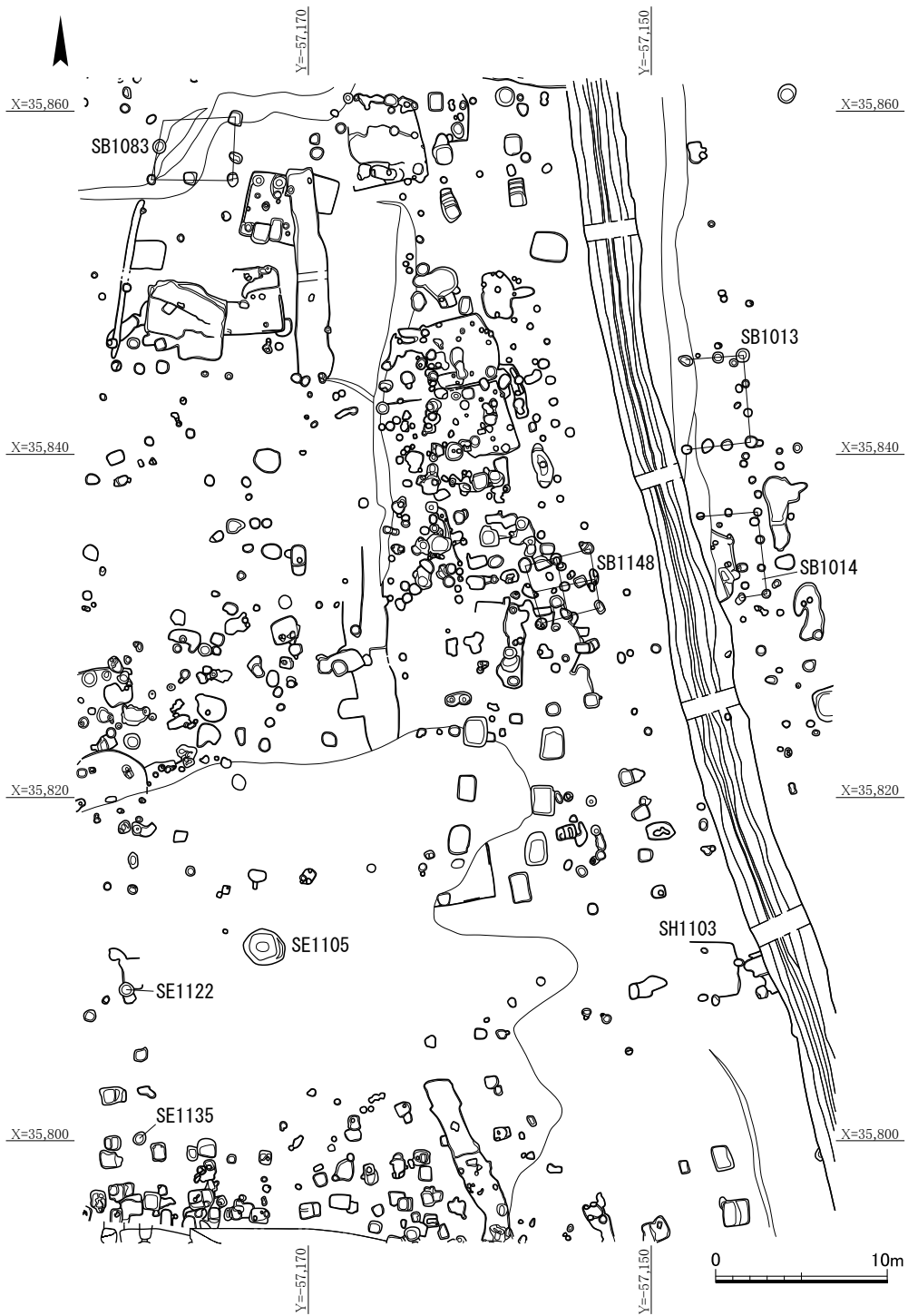


図 133 吉野ヶ里地区V区 遺構分布詳細図3 (1/400)

SB1148 掘立柱建物 (図 141)

建物の構造は梁行2間(3.5m)、桁行2間(3.8m)の総柱建物である。梁行柱間は0.8～1.0m、桁行柱間は0.8～1.0mで、主軸方位はN13.0°Wである。柱掘方は円形を基調とする。

SB1212 掘立柱建物

建物の構造は梁行2間(3.9m)、桁行2間(4.6m)の総柱建物である。梁行柱間は1.6～2.2m、桁行柱間は2.2



图 134 吉野ヶ里地区V区 遺構分布詳細図4 (1/400)



図 135 吉野ヶ里地区V区 遺構分布詳細図5 (1/400)

～2.3mで、主軸方位はN23.5°Eである。柱掘方は円形を基調とする。

SB1212 出土遺物 (図 146)

4は須恵器蓋で、内側にかえりを有する。内外面ともに回転ナデ調整を行う。5は須恵器高杯の口縁部破片である。口縁部は短く立上り、口縁端部を平坦に仕上げる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。6は土師器杯の口縁部破片である。内外面ともにヨコナデ調整を行う。

B 井戸

古代の井戸は11基確認された。

SE1024 出土遺物 (図 146)

7は土師器杯で、高台は細長く、口縁部は直線的に開く。外面は摩耗のため調整不明で、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。

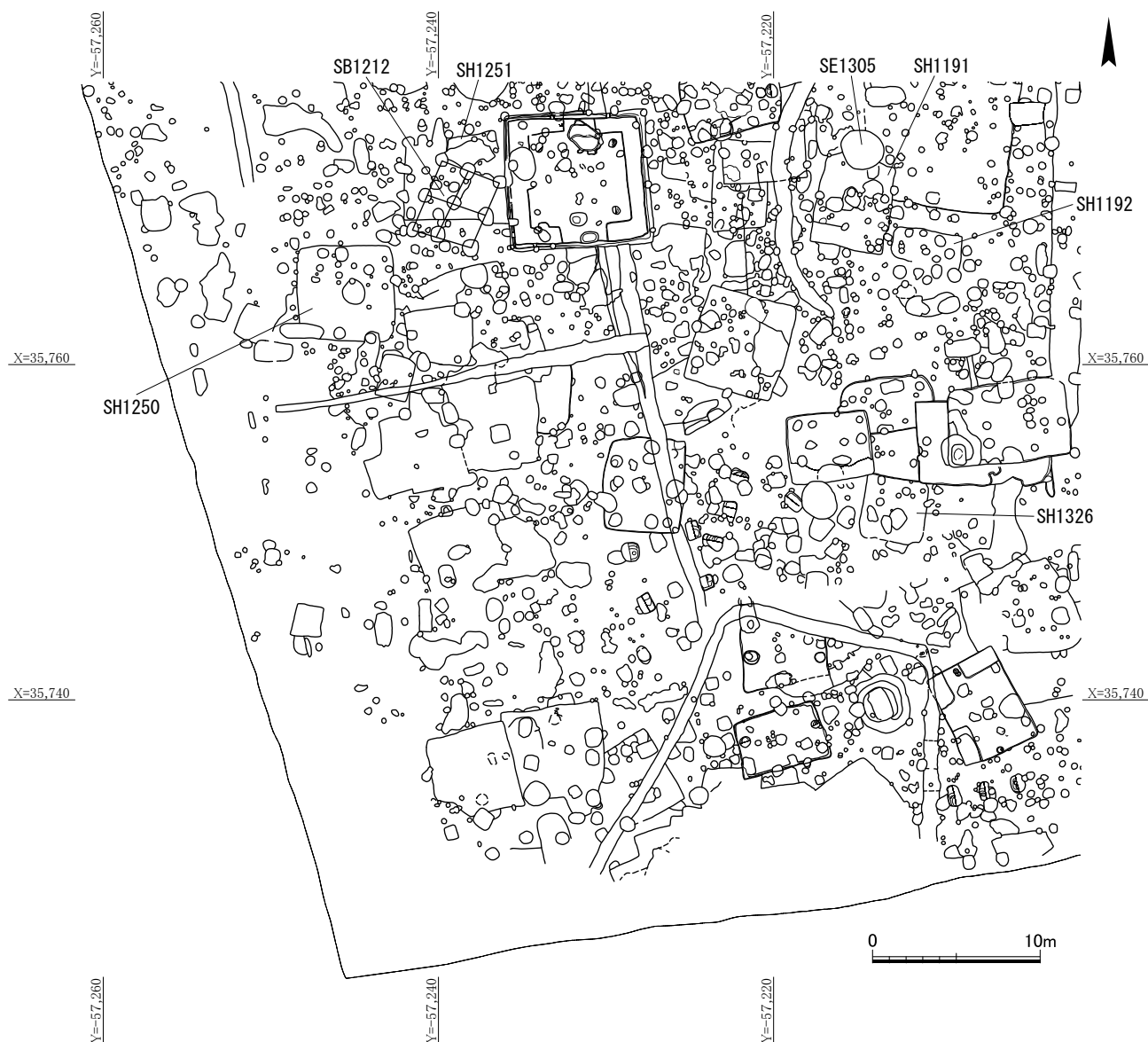


図 136 吉野ヶ里地区V区 遺構分布詳細図6 (1/400)

SE1105 出土遺物 (図 146)

8は須恵器蓋で、器高は低く、端部を下方へ屈曲させ、丸く仕上げる。外面に重ね焼きの痕がみられる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。内面に墨の痕跡が確認され、転用碗とみられる。9、10は須恵器坏で、器壁は全体的にやや厚く、口縁端部が少し肥厚する。口縁部の内外面は回転ナデ、他は摩耗のため調整不明である。9は焼成不良である。10の高台は低く、底部の内側におさまる。口縁部外面は回転ナデ、高台内は回転ヘラケズリ後ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。

SE1126 出土遺物 (図 146)

11～13は土師器坏である。12、13はやや深い器形であるが、14は皿状に近い器形となる。12、13の口縁部外面はヨコナデ、底部はナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。14の外面は摩耗のため調整不明で、内面は一部ヨコナデ調整を行う。

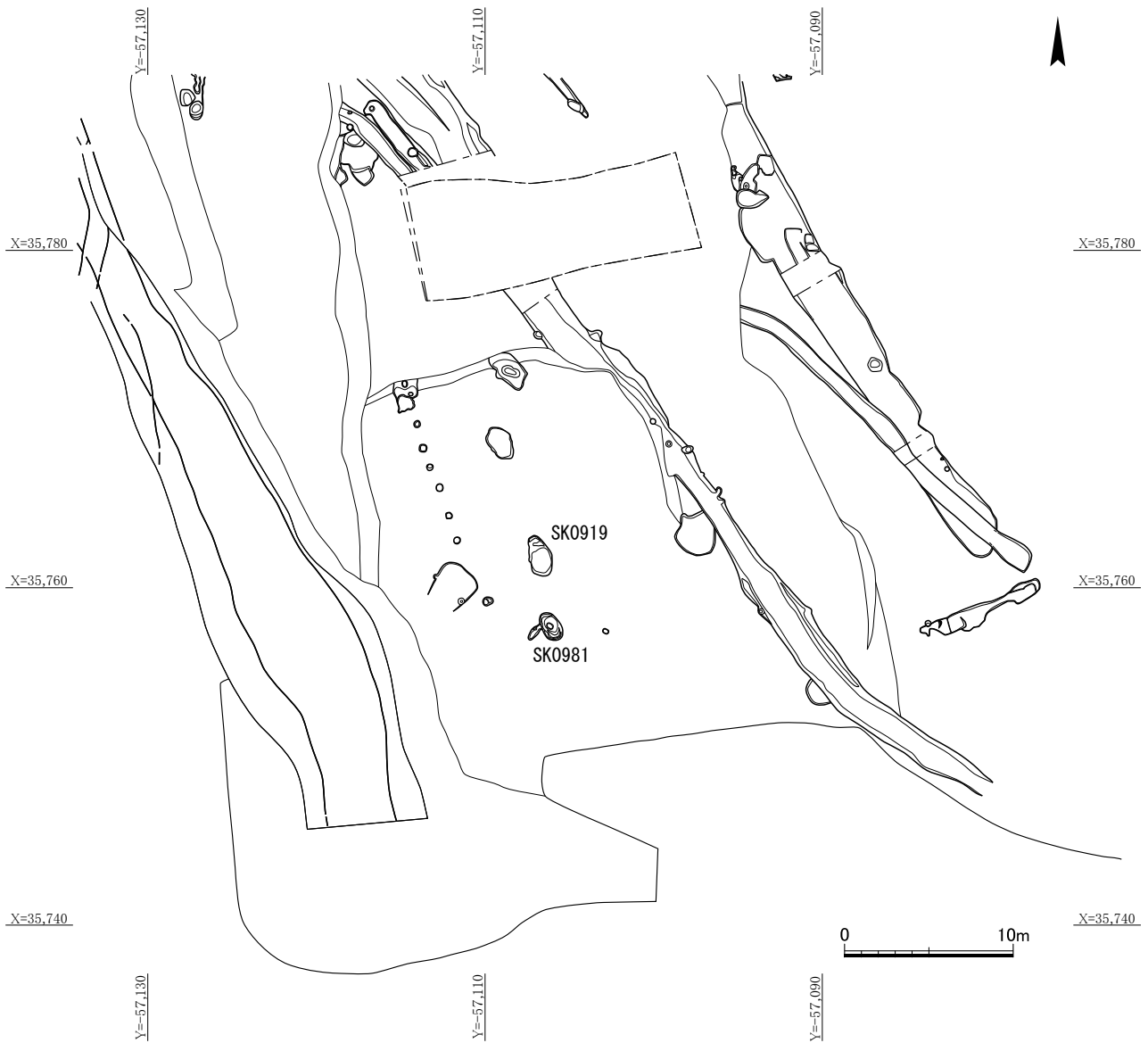


図 137 吉野ヶ里地区V区 遺構分布詳細図7 (1/400)

C 竪穴建物

古代の竪穴建物は 5 軒確認された。

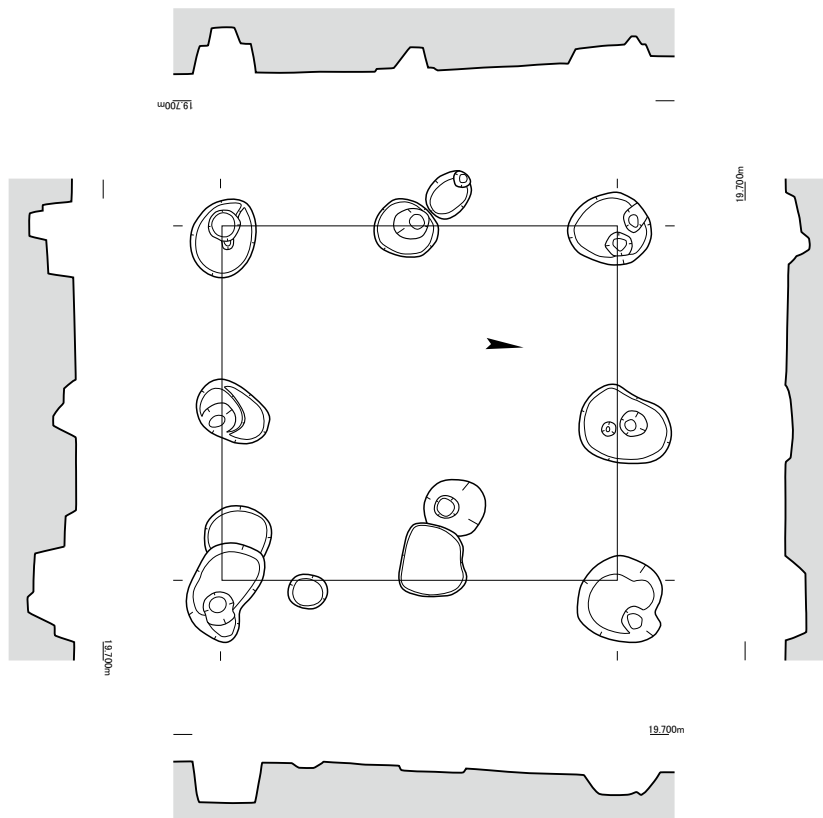
SH1080 出土遺物 (図 146)

15 は黒色土器碗である。高台は台形状を呈し、接地部分は面をなす。口縁部は緩やかに開いていく。内外面ともに摩耗のため調整不明である。内面に黒化処理を施す。16 は土師器の把手である。

SH1191 出土遺物 (図 146)

17、18 は土師器坏である。18 は皿状を呈し、やや深い器形である。17 の外面はヨコナデ、内面は摩耗のため調整不明である。底部外面に板状圧痕がみられる。18 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。19 は土師器の把手である。外面にはハケメ調整を行う。

SB0907



SB1013

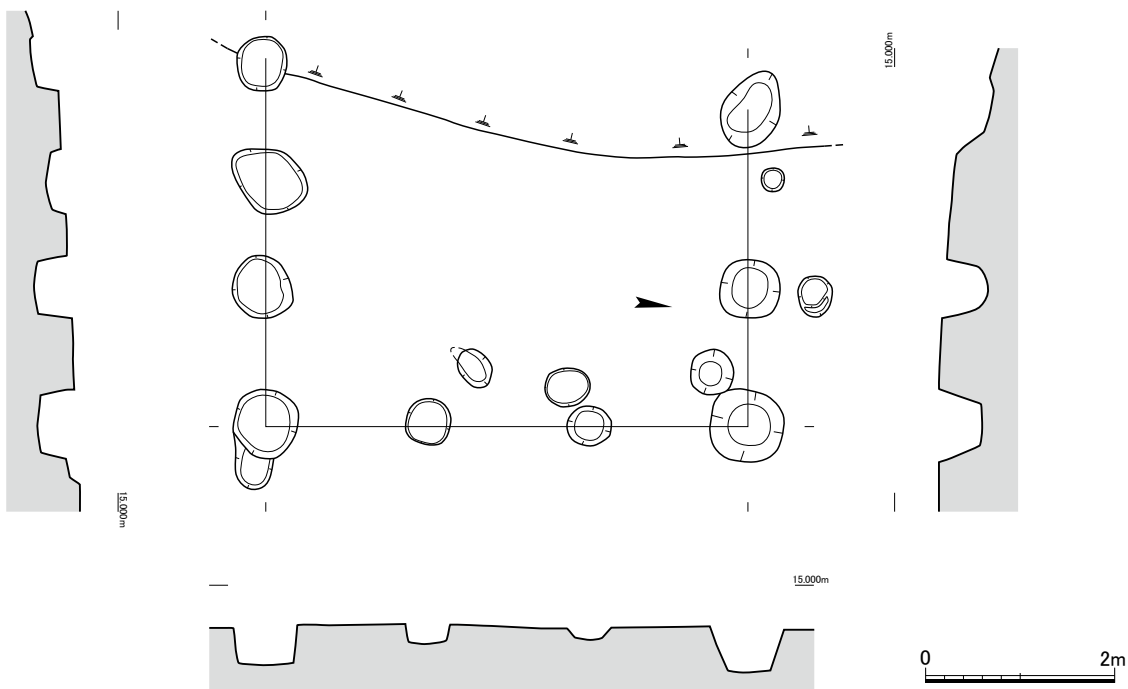
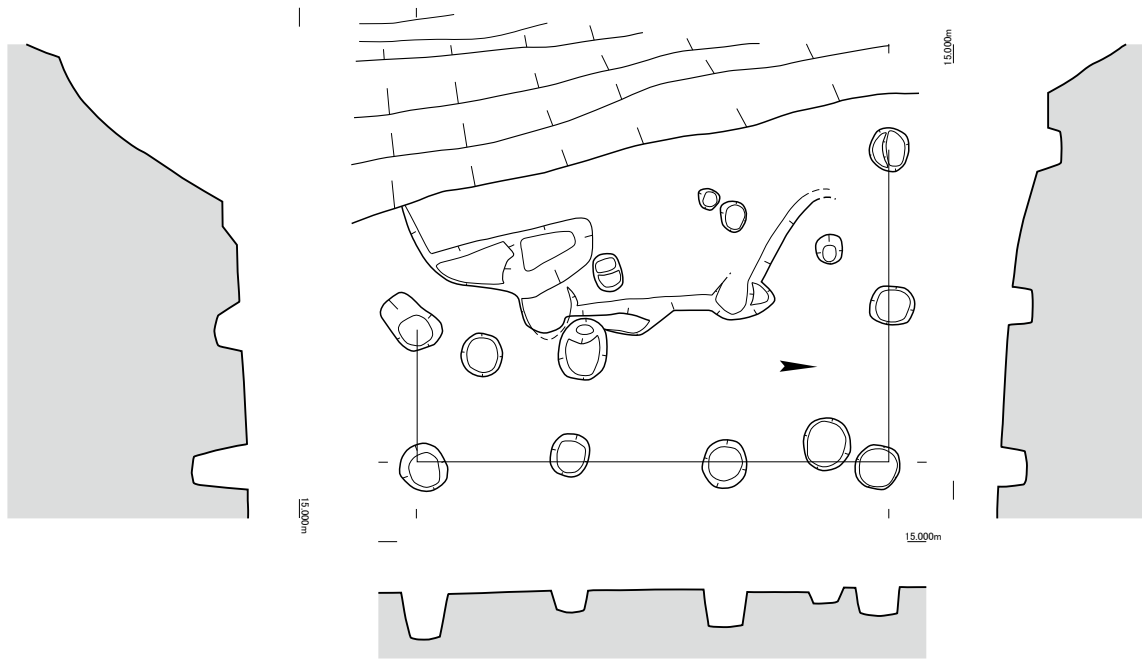


图 138 吉野ヶ里地区V区 掘立柱建物 1 (1/80)

SB1014



SB1020

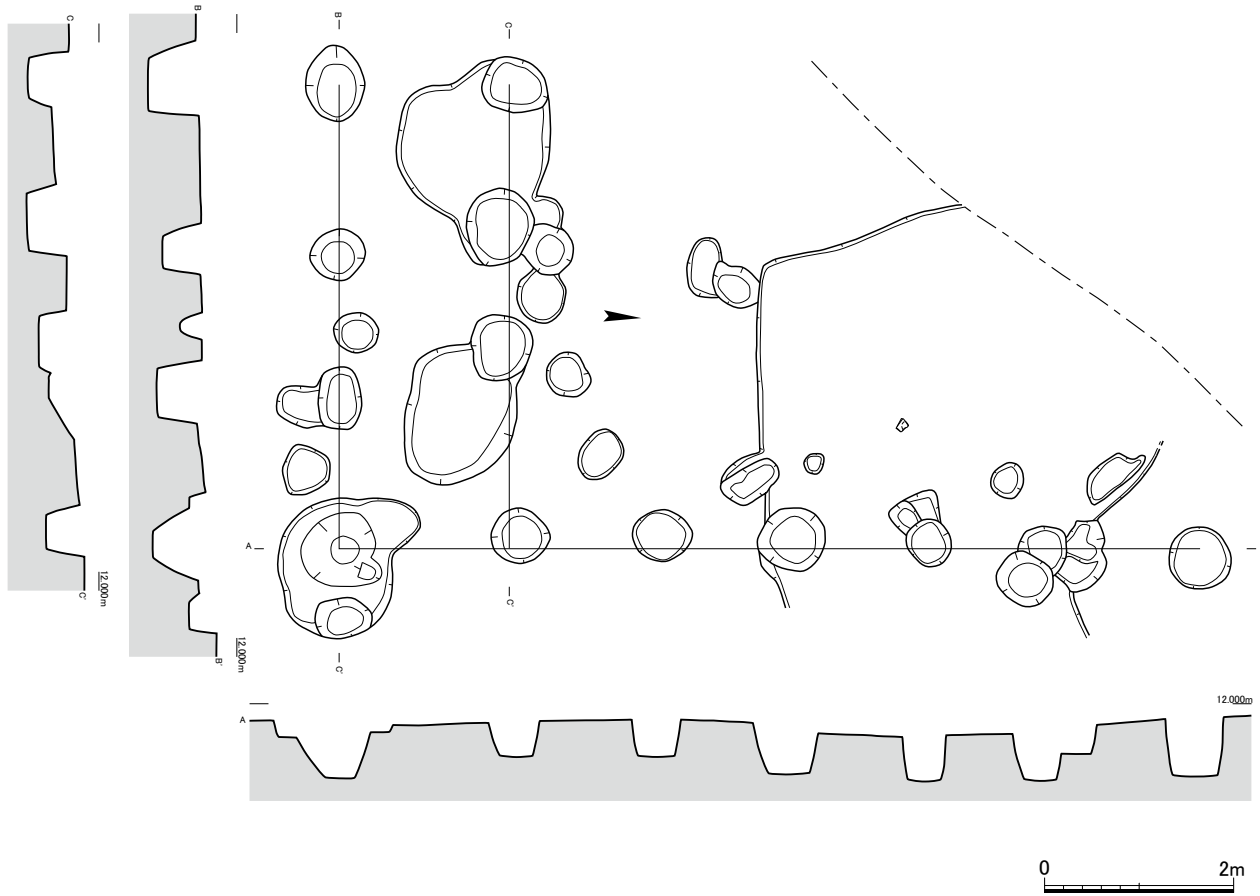
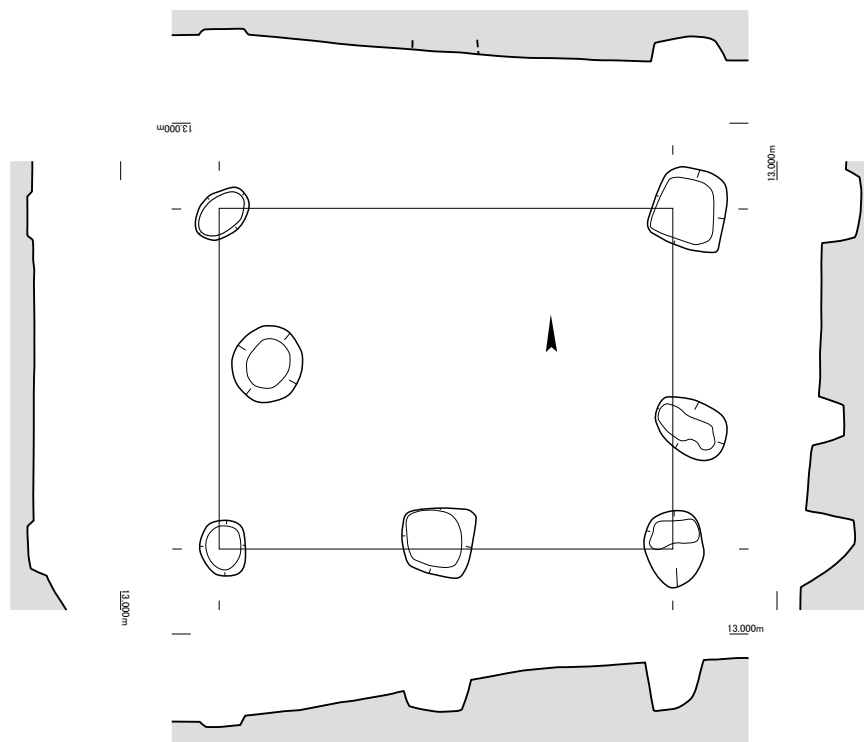


図 139 吉野ヶ里地区V区 掘立柱建物 2 (1/80)

SB1083



SB1147

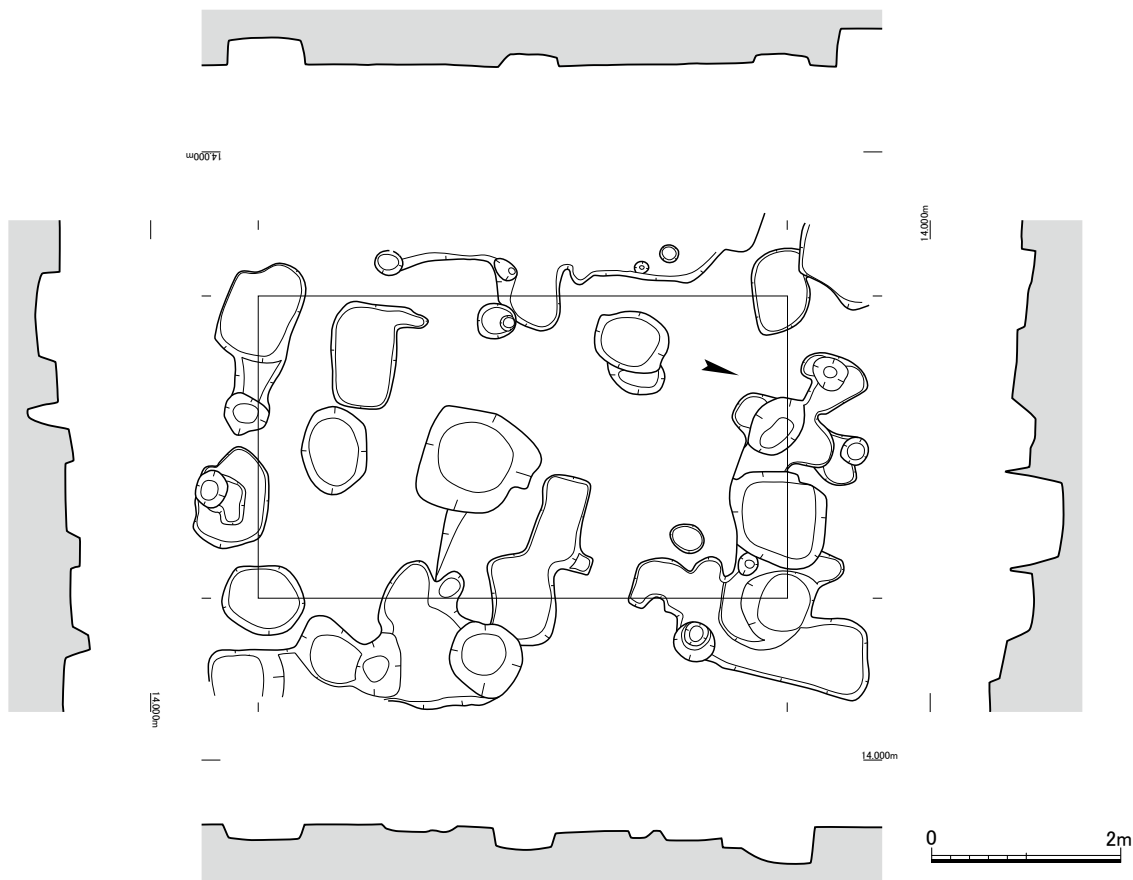


図140 吉野ヶ里地区V区 掘立柱建物3 (1/80)

SB1148

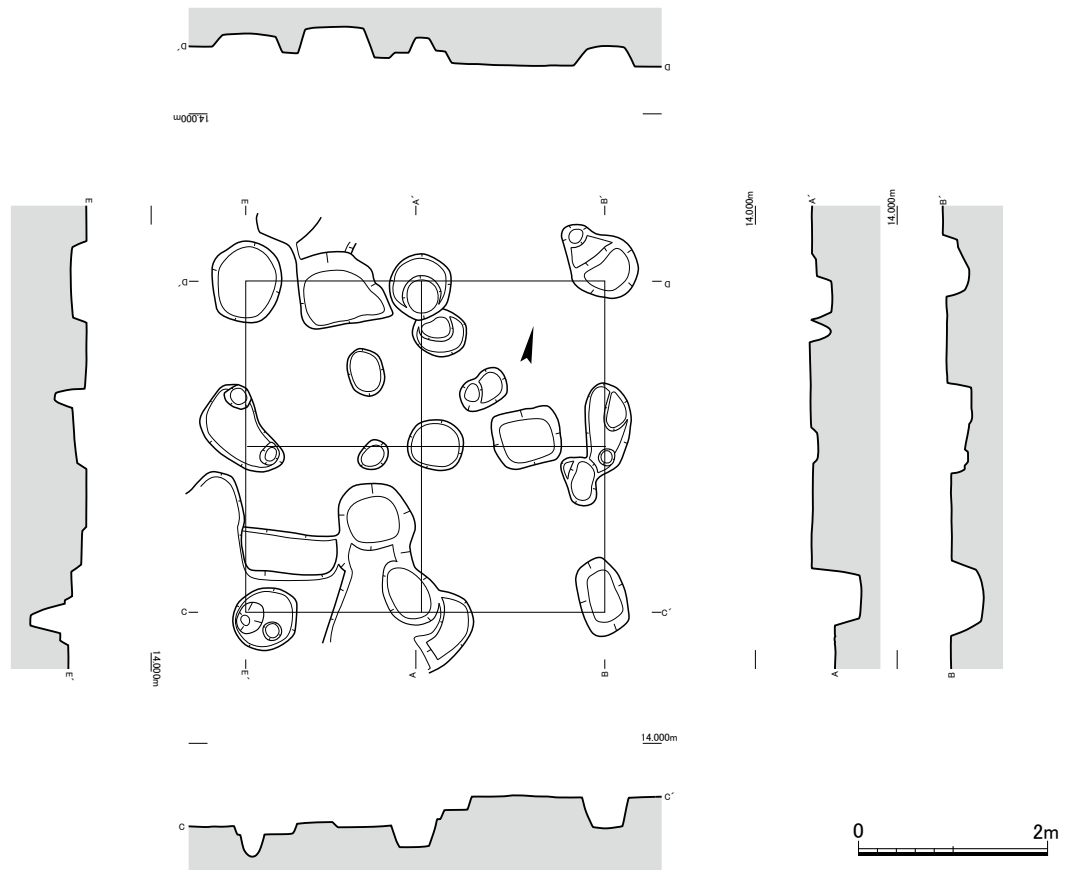


図 141 吉野ヶ里地区V区 掘立柱建物 4 (1/80)

表 36 吉野ヶ里地区V区 掘立柱建物

遺構番号	間数	梁行 (m)		桁行 (m)		主軸方位	平面積 (㎡)	柱穴 (m)		新旧関係		時期	特記事項
		全長	柱間	全長	柱間			平面形	規模	旧	新		
SB0907	2 × 2	3.75	0.8 ~ 1.0	4.2	1.0 ~ 1.1	N6.2°W	15.75	方・円	0.3 ~ 0.5			7c ~ 8c	側柱
SB1013	3 ? × 3	3.8+	0.6 ~ 1.0	5.1	0.8	N4.5°W	19.38+	円	0.2 ~ 0.4			7c ~ 8c	側柱
SB1014	2 ? × 3	3.3+	0.7 ~ 0.8	5.0	0.8	N5.8°W	16.5+	円	0.2 ~ 0.3			7c ~ 8c	側柱
SB1020	3 × 5	4.9+	0.8 ~ 0.9	7.2	0.6 ~ 0.9	N5.4°W	35.28	円	0.2 ~ 0.4			7c ~ 8c	側柱 南側に廂あり
SB1083	1 × 2	3.6	1.7 ~ 1.8	4.8	1.1 ~ 1.2	N 0°	17.28	方	0.3 ~ 0.4			8c	側柱
SB1147	1 × 2	3.2	1.5 ~ 1.7	5.6	1.3 ~ 1.4	N 19.5°W	17.92	円・方	0.3 ~ 0.5			7c ~ 8c	側柱
SB1148	2 × 2	3.5	0.8 ~ 1.0	3.8	0.8 ~ 1.0	N 13.0°W	13.3	円	0.3 ~ 0.5			7c ~ 8c	総柱
SB1212	2 × 2	3.9	1.6 ~ 2.2	4.6	2.2 ~ 2.3	N23.5° E	17.94	円	0.8 ~ 1.1			8c後半	総柱

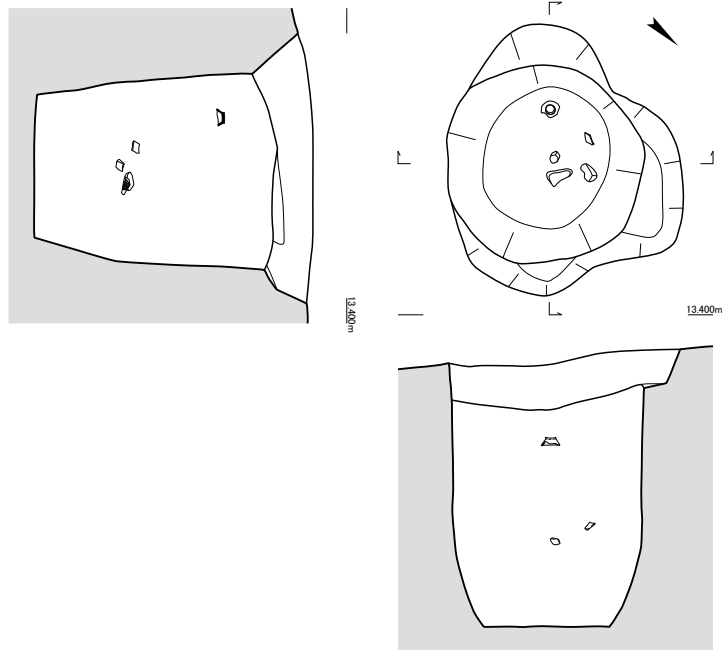
SH1192 出土遺物 (図 146)

20 は須恵器壺で、頸部より口縁部に向かって緩やかに開く。内外面ともに回転ナデ調整を行う。21 は土師器皿で、底部は平たく、口縁部にかけて緩やかに開く。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SH1251 出土遺物 (図 147)

22 は須恵器蓋の口縁部破片で、口縁端部を下方へ屈曲させる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。23、24 は須恵器高台付坏である。23 の高台は低く方形状を呈し、底部の器壁が厚い。底部外面は回転ナデ、高台内は回転ヘラケズリ、内面はナデ調整を行う。24 の高台は高く外側に張り出し、端部を肥厚させる。赤焼きである。口縁部から体部外面は回転ナデ、高台は回転ナデ、高台内はヘラ切り離した後ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。25、26 は土師器甕である。25 は内外面ともにナデ調整を行う。26 の胴部内面はケズリ、他は摩耗のため調整不明である。

SE1024



SE1049

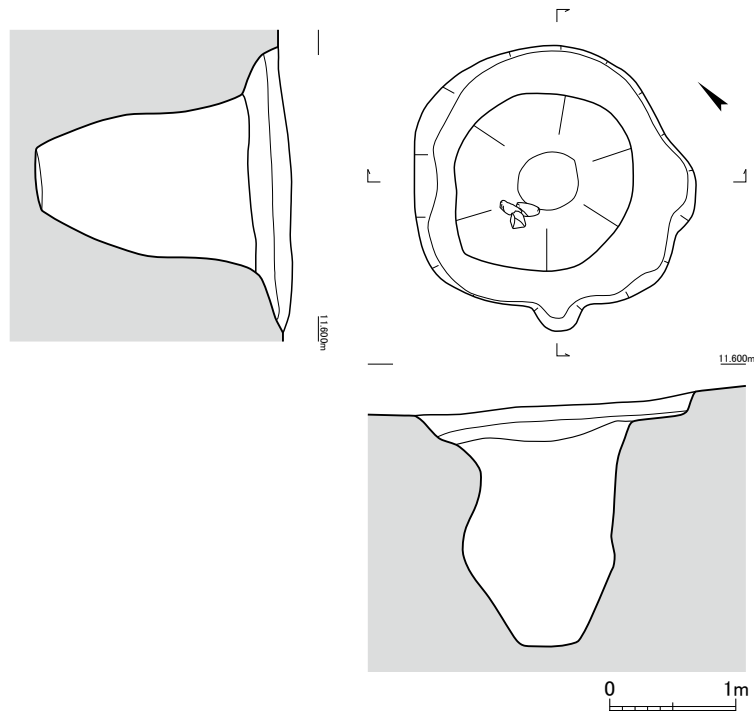
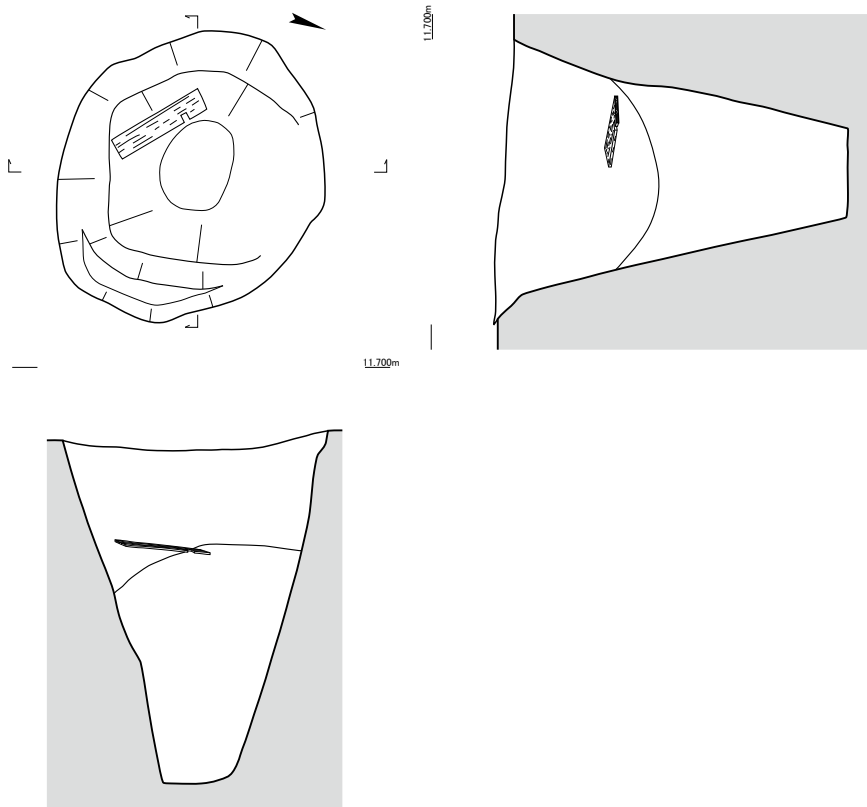


図 142 吉野ヶ里地区V区 井戸1 (1/60)

SH1326 出土遺物 (図 147)

27 は須恵器蓋で、蓋環である。天井部から口縁部にかけて丸みを帯び、口縁端部をわずかに外反させる。天井部外面に1本のやや曲がったヘラ記号が認められる。天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。28 はかえりを有する須恵器蓋である。口縁部外面にわずかに1本のヘラ記号が認められる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。29 は須恵器高台付坏で、高台端部を外側へ肥厚させる。体部外面は回転ナデ、底部はナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。30 は須恵器甕で、口縁部が欠損する。体部は楕円形状を呈し、中位ほ

SE1105



SE1126

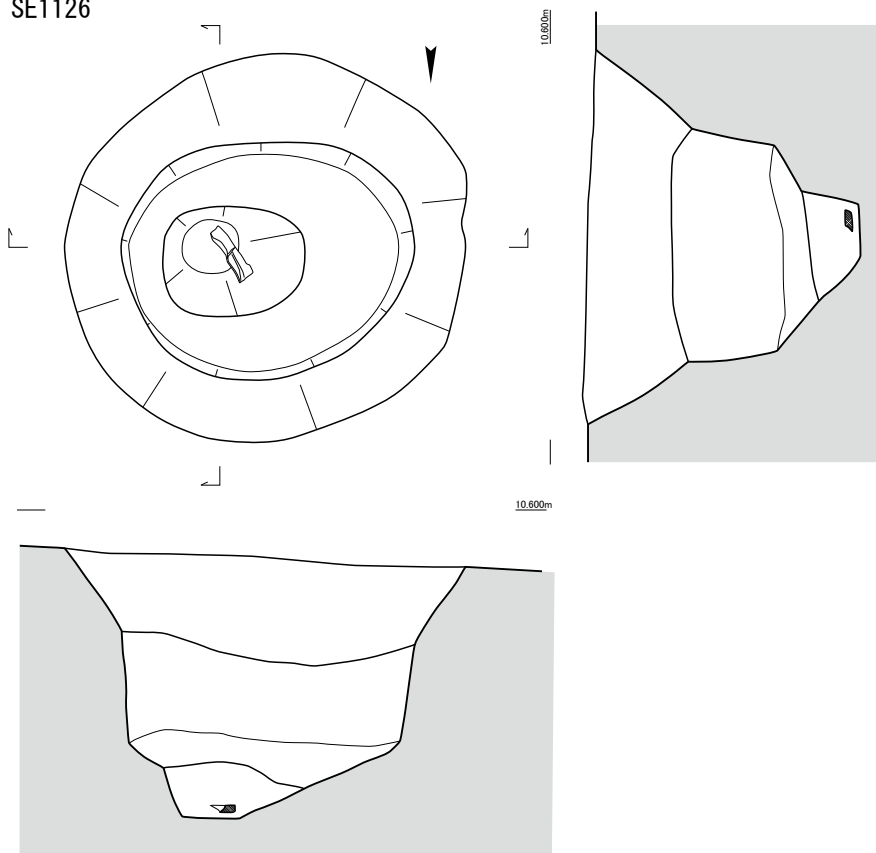
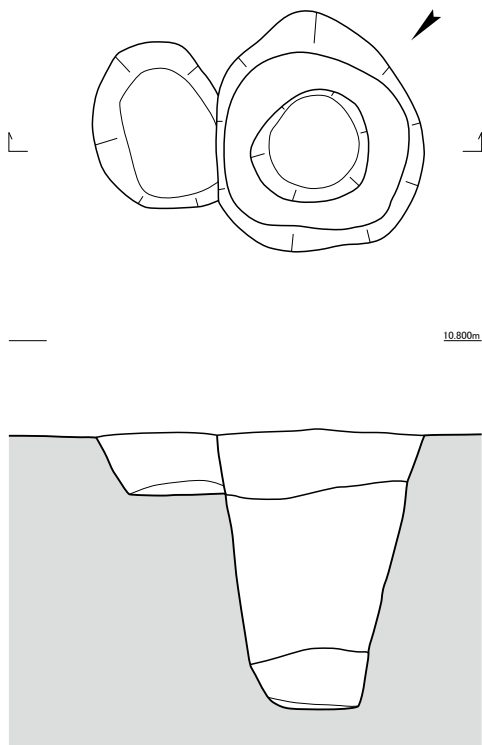
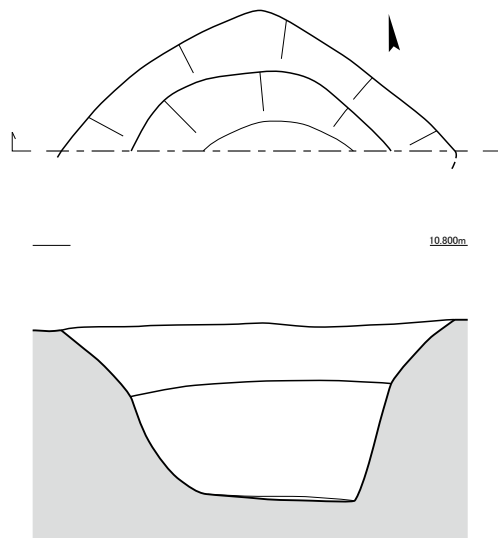


図 143 吉野ヶ里地区V区 井戸2 (1/60)

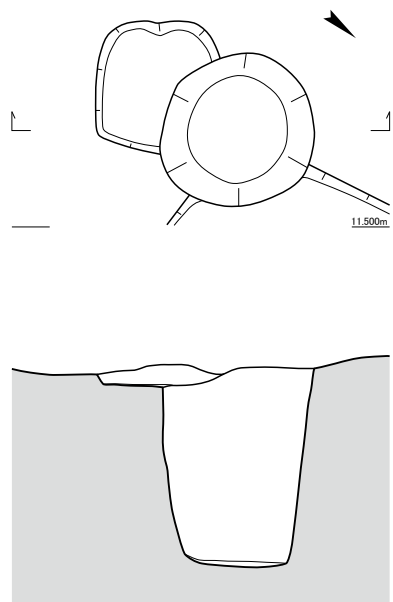
SE1128



SE1129



SE1132



SE1135

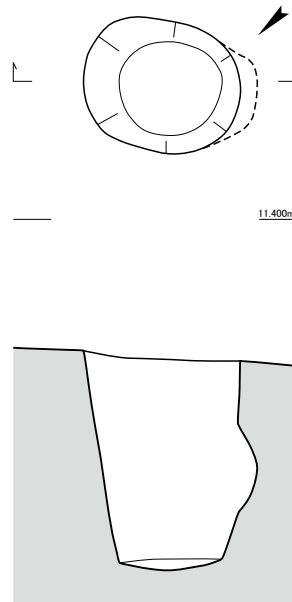


图 144 吉野ヶ里地区V区 井戸3 (1/40)

表 37 吉野ヶ里地区V区 井戸

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SE1024	円形に近い	2.15	1.85	方	2.2	1.1	1.0			9c	
SE1049	円	2.27	2.24	台	1.9	0.5	0.5			8c 前半	
SE1105	楕円に近い	2.2	2.1	台	2.7	0.7	0.6			8c ~ 9c	
SE1126	楕円	2.13	2.05	台	1.4	0.3	0.3			8c ~ 9c ?	
SE1127	円形に近い	0.99	0.89	台	1.0	0.6	0.5			8c ~ 9c ?	
SE1128	円形に近い	1.28	1.1	台	1.5	0.5	0.5			8c ~ 9c ?	
SE1129	円?	2.1	0.75+	台	0.9	0.8+	0.2+			8c ~ 9c ?	
SE1132	円	0.8	0.8	台	1.1	0.6	0.5			8c ~ 9c ?	
SE1135	楕円	0.83	0.7	台	1.1	0.5	0.5			8c ~ 9c ?	

どに穿孔する。口頸部外面には波状文、頸部直下にはカキメ、体部上位には櫛状の工具痕、穿孔部より下にはカキメを施し、底部は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。31は黒色土器の口縁部で、外面に黒化処理を施す。32は土師器壺で、底部に穿孔を行う。体部外面にハケメ、底部にケズリ、他は摩耗のため調整不明である。33は土師器鉢である。内外面ともにナデ調整を行う。34は土師器甌の口縁部である。外面はハケメ、ナデ、内面はナデ、ケズリ調整を行う。35は土師器甕で、鉢の可能性もある。外面は摩耗のため調整不明で、内面はケズリ調整を行う。36は滑石製の白玉で、中央よりややずれた場所に2mm程度の孔をあける。

D 土坑

古代の土坑は14基確認された。

SK0859 出土遺物 (図 147)

37は須恵器蓋で、口縁端部を下方へ長く屈曲させる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。

SK0861 出土遺物 (図 147)

38は土師器甌の底部で、全体的に器壁が厚い。外面には粗いハケメ、内面は摩耗のため調整不明である。

SK0863 出土遺物 (図 147)

39～43は須恵器蓋である。39は内側にかえりを有し、口縁端部より下に位置する。40～43は口縁端部を下方へ短く屈曲させる。42は器高が低くなる。39は内外面ともに回転ナデ調整を行う。40、41は天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。42、43は天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。44は須恵器高台付坏で、口縁部と高台下端を欠損する。体部は回転ナデ、下位に回転ヘラケズリ、底部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。45～47は土師器甕である。45の外面はハケメ、内面はナデ調整を行う。46の外面は摩耗のため調整不明で、内面はケズリ調整を行う。47の外面はハケメ、ヨコナデ、内面は摩耗のため調整不明である。48、49は土師器の把手である。

SK0870 出土遺物 (図 148)

50、51は須恵器蓋で、51は円柱状のつまみをもち、口縁端部をわずかに下方へ屈曲させる。50の天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。内面に灰かぶりが見られる。51のつまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。52～55は須恵器高台付坏である。54、55の高台は低く、底部の内側に付いており、口縁部は直線的に開く。いずれも内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。56は須恵器高台付坏の坏部である。蓋の可能性もある。外面は回転ヘラケズリ後回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。57は土師器坏の口縁部で、内外面ともに摩耗のため調整不明である。

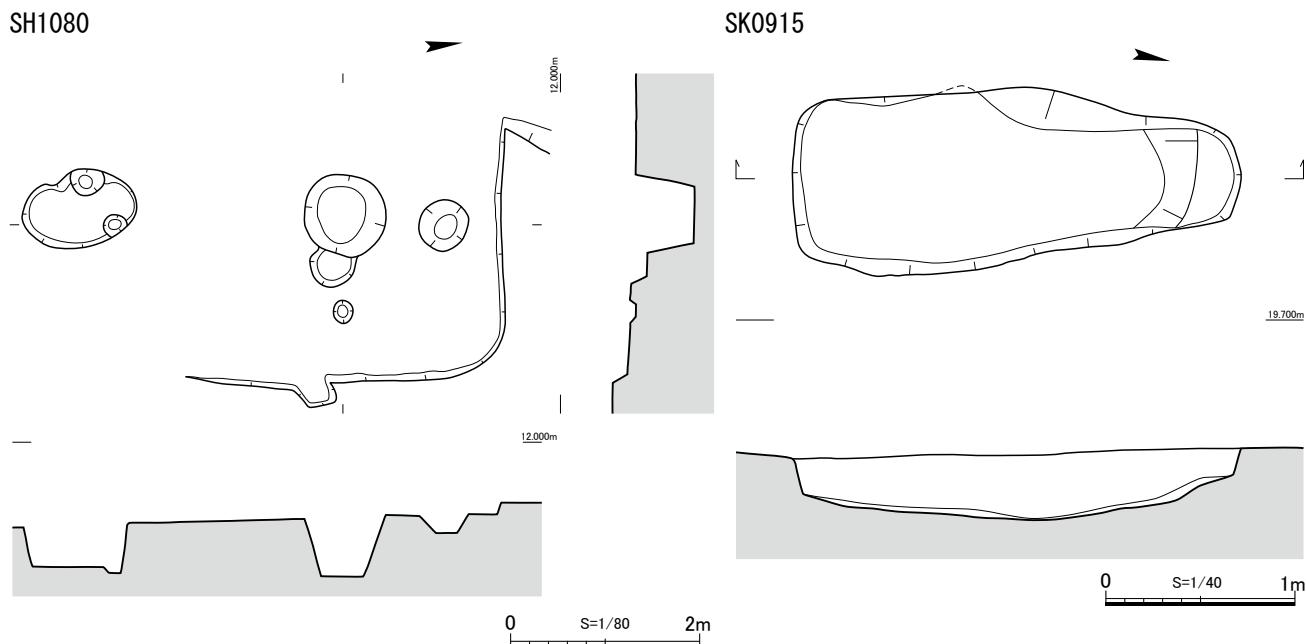


図 145 吉野ヶ里地区V区 竪穴建物 (1/80)・土坑 (1/40)

表 38 吉野ヶ里地区V区 竪穴建物

遺構番号	構造		規模 m		屋内施設	新旧関係		時期	特記事項
	平面形	支柱穴	長軸	短軸		旧	新		
SH1080	方形		3.5+	2.5+				8c ~ 9c	
SH1191	長方形		5.4	4.5				9c	
SH1192	隅丸長方形		4.2	2.1				8c	
SH1251	不整形		3.0	1.5				8c 後半	
SH1326	方形		3.8	3.7				8c ?	

表 39 吉野ヶ里地区V区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0859	隅丸長方	1.2	1.0	台	0.4	0.8	0.6			8c	
SK0861	円	1.4	1.2	台	0.3	1.2	1.1			7c ~ 8c ?	
SK0863	円に近い楕円	2.1	1.8	台	0.5	1.3	0.8			8c 前半	
SK0870	不整形	1.9	1.9?	台	0.2	1.9	1.1			8c 後半	
SK0881	不整形	2.1	1.9	台	0.8	2.1	1.9			7c ~ 8c	
SK0915	不整形に近い隅丸長方	2.4	1.0	台	0.3	2.3	0.9			8c	
SK0918	楕円に近い	1.8	1.1	台	1.2	0.4	0.2			8c 前半	
SK0919	楕円に近い	2.5	1.4	台	0.8	1.5	1.2			7c 後半 ~ 8c 前半	
SK0942	円	1.9	1.9	—	—	—	—			8c	
SK0980	円	1.1	1.1	台	0.9	0.7	0.7			9c ~ 10c	
SK0987	不整形	1.9 ?	1.5	台	0.3	1.8+	1.1			7c 後半	
SK1028	隅丸長方形に近い	2.6	1.4	台	0.2	2.6+	1.3			8c ?	
SK1030	不整形	4.9	2.4	台	0.6	3.4	2.4			7c 後半	
SK1064	不整形	1.9	1.5	—	—	—	—			7c 後半	
SK1073	隅丸長方形に近い	2.7	1.5	台	0.6	1.2	1.1			7c 後半 ~ 8c 前半	
SK1097	楕円に近い	2.6	1.7	台	0.7	0.8	0.6			8c 前半	

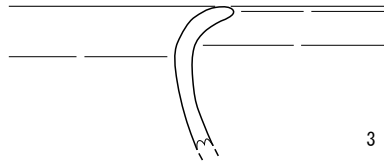
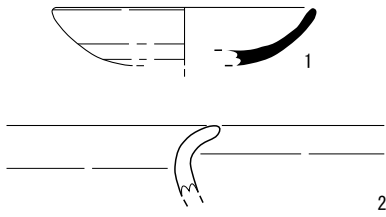
SK0881 出土遺物 (図 148)

58 は須恵器蓋で、蓋坏である。口縁端部やかえりの境が明瞭ではなく、天井部外面に矩形のヘラ記号が認められる。外面は摩耗のため調整不明で、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。59 は須恵器坏の口縁部片で、内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。60 は須恵器高坏の脚部で、脚部上位に透かしを入れる。外面は摩耗のため調整不明で、内面は回転ナデ調整を行う。61 は土師器高台付皿である。大型の皿と考えられる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。62 ~ 66 は土師器甕である。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。

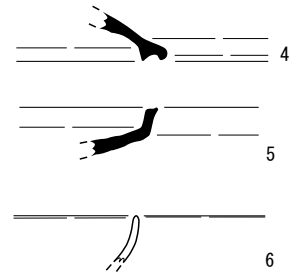
SK0915 出土遺物 (図 148)

67 は須恵器蓋の破片である。天井部は平坦で、天井部外面に「×」のヘラ記号が認められる。天井部外面はナデ、

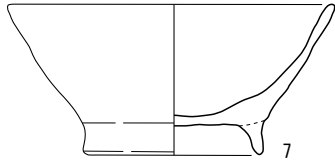
SB1083



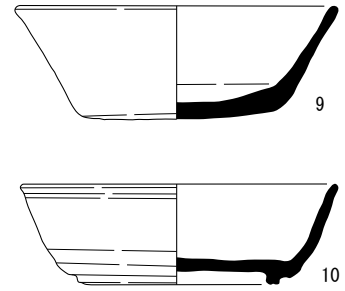
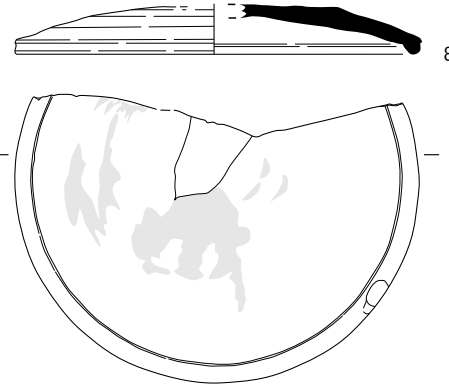
SB1212



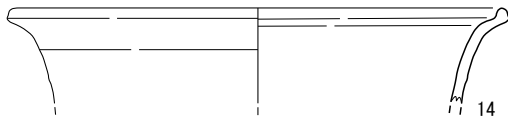
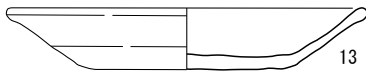
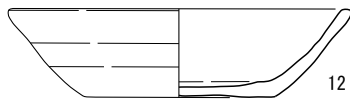
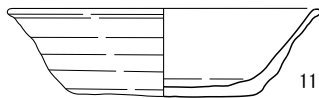
SE1024



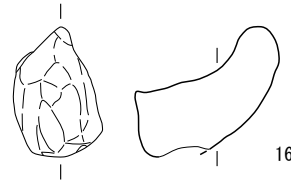
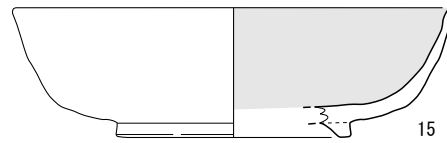
SE1105



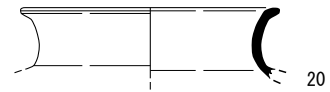
SE1126



SH1080



SH1192



SH1191

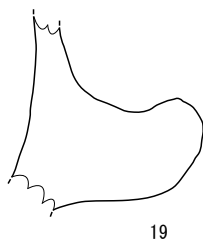
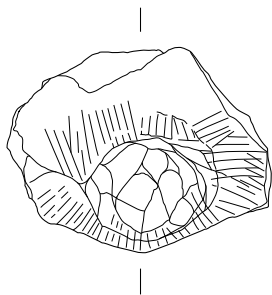
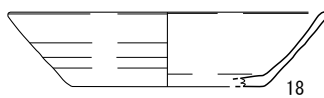
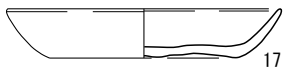
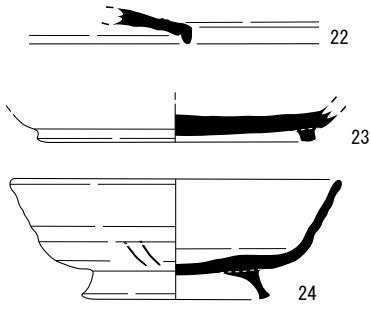
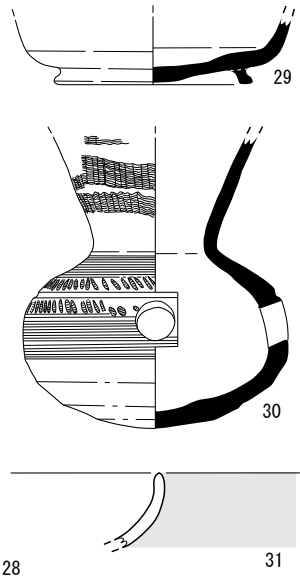
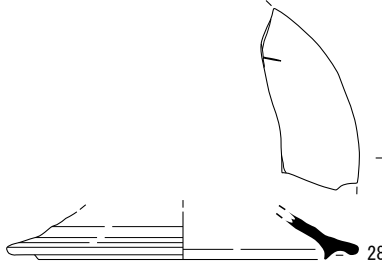
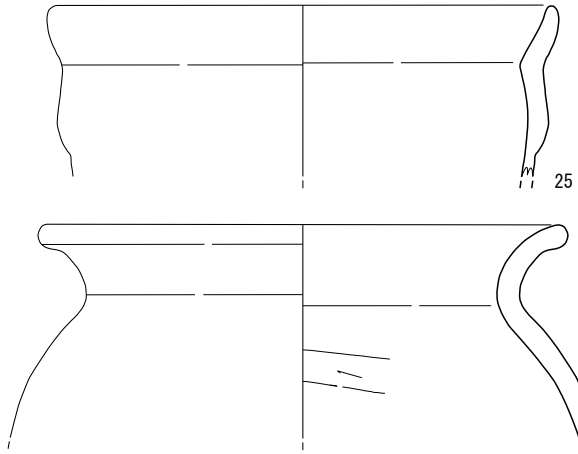
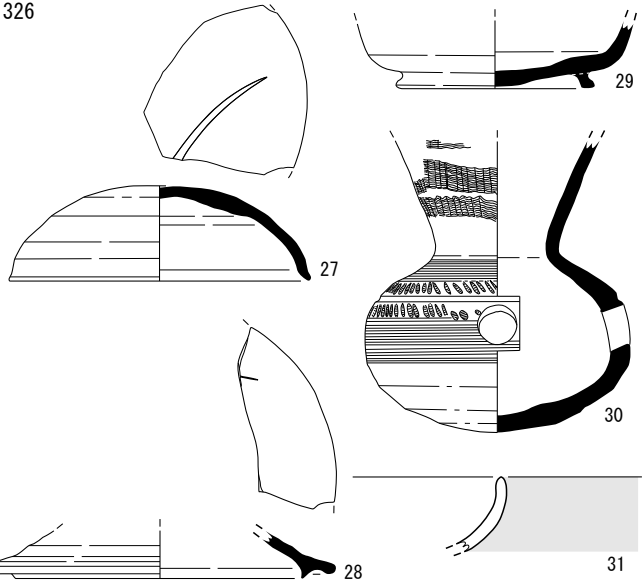


図 146 吉野ヶ里地区V区 出土遺物 1 (1/3)

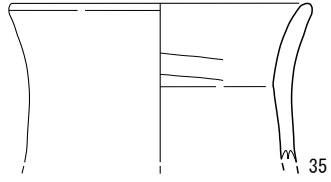
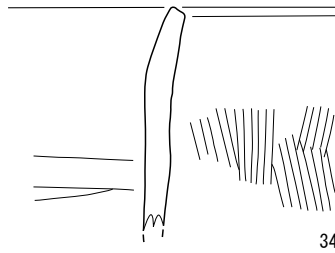
SH1251



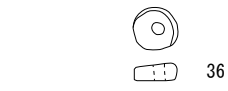
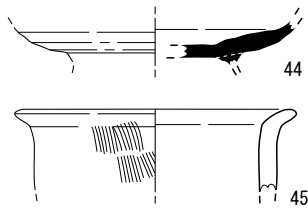
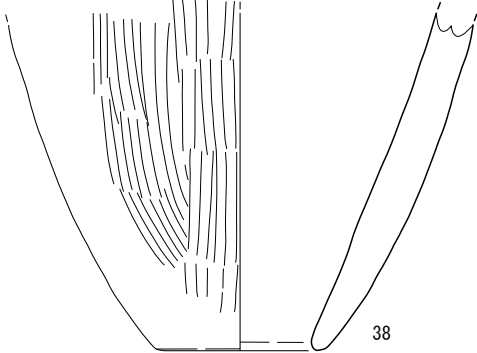
SH1326



SK0859



SK0861



SK0863

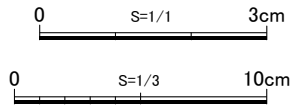
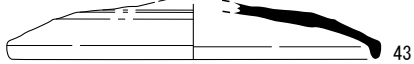
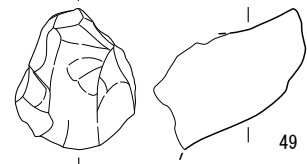
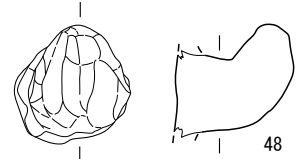
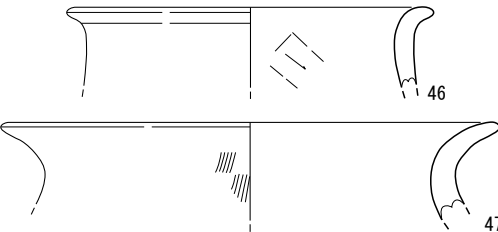
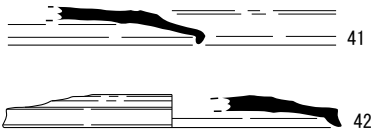
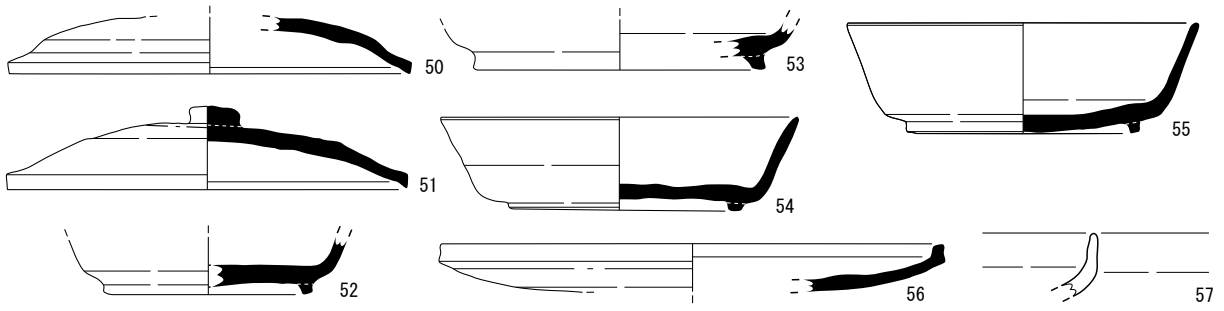
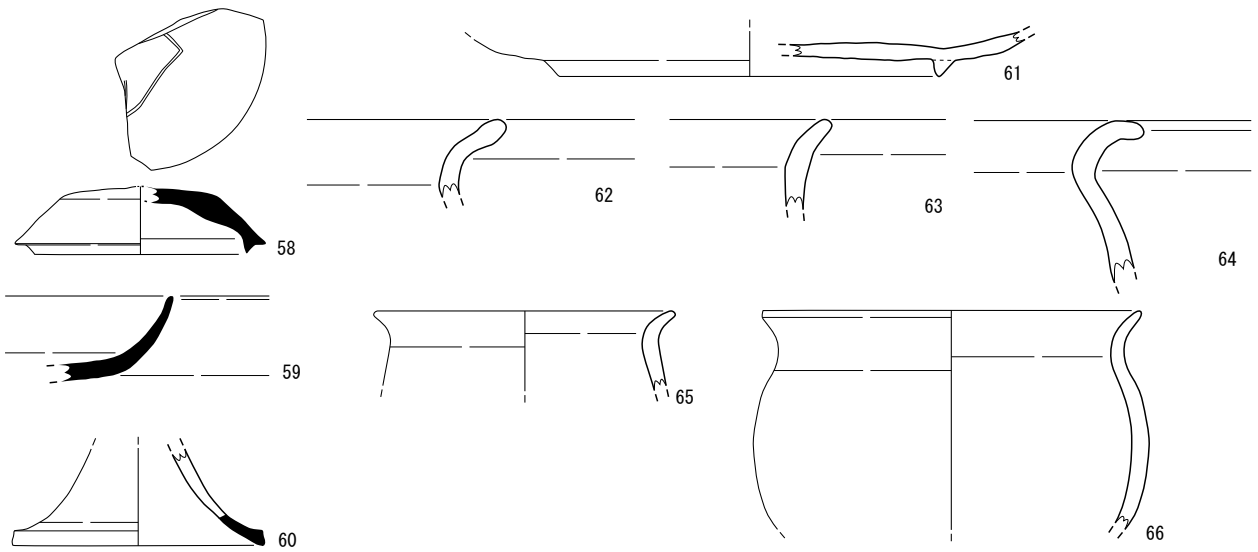


图147 吉野ヶ里地区V区 出土遺物2 (36は1/1, 他は1/3)

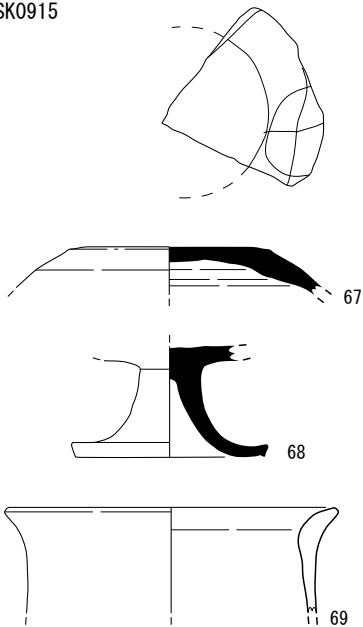
SK0870



SK0881



SK0915



SK0918

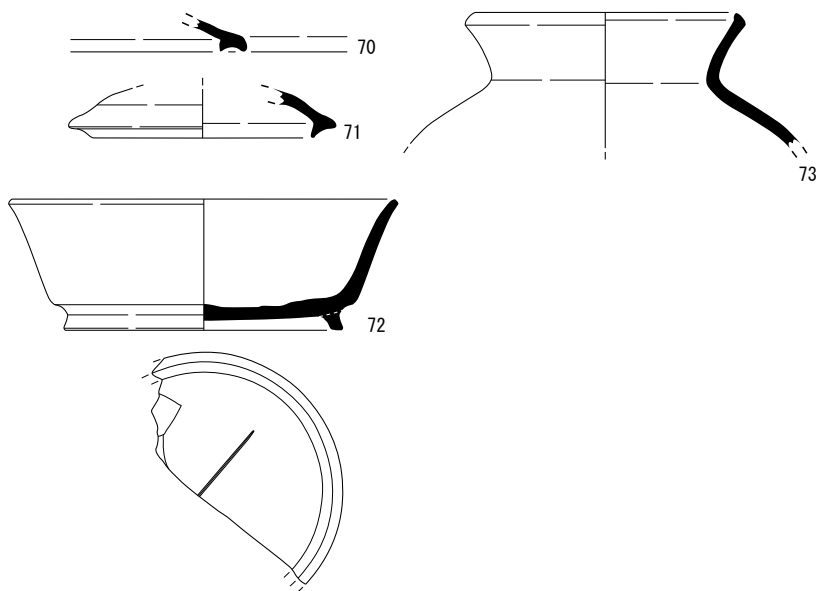
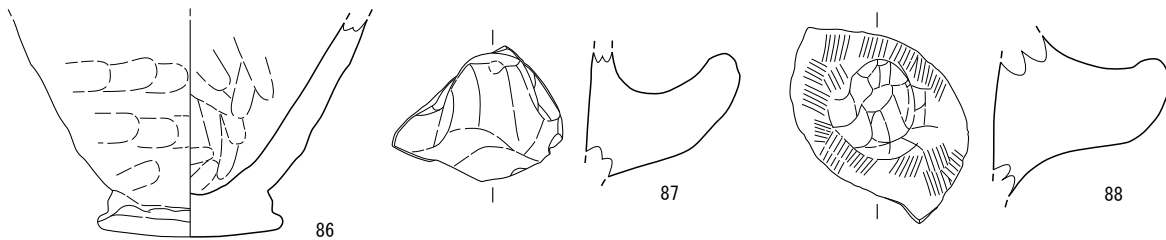
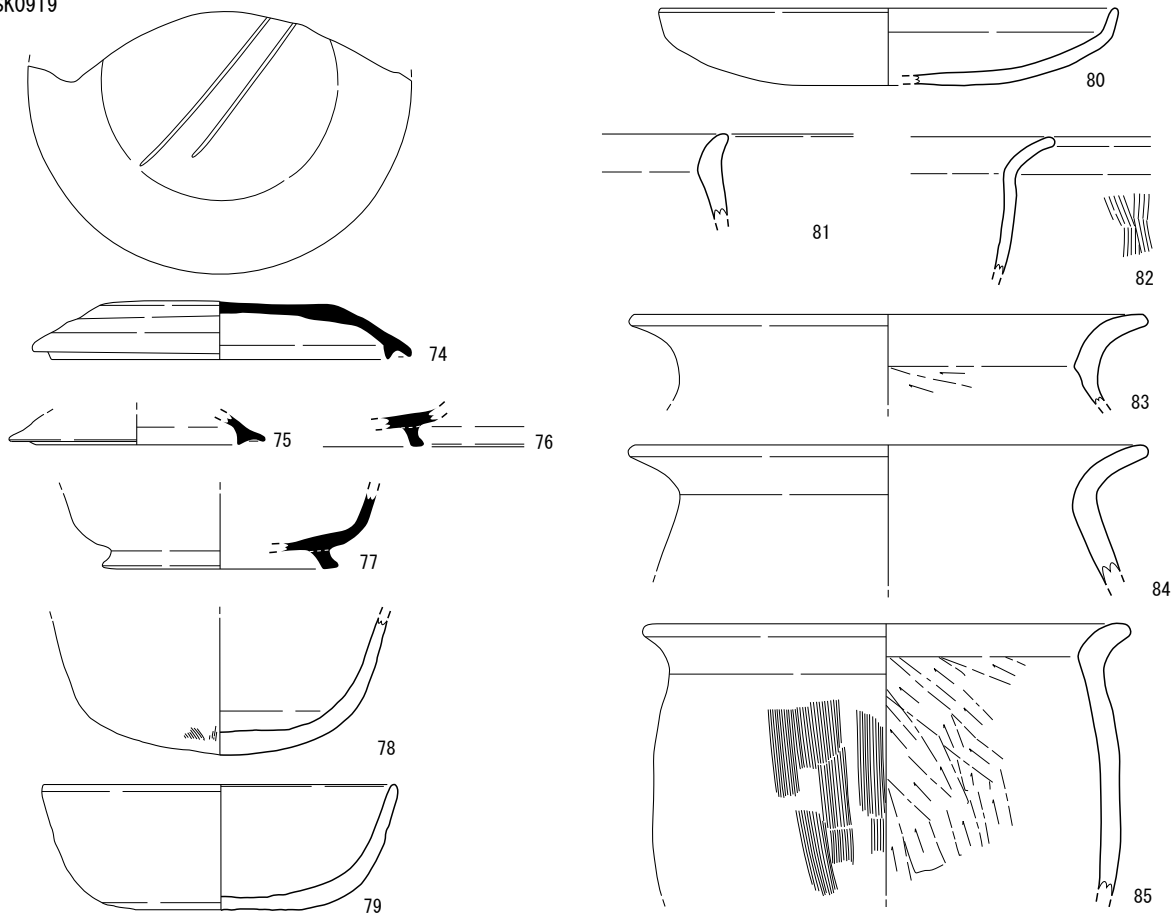
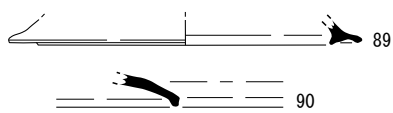


図 148 吉野ヶ里地区V区 出土遺物 3 (1/3)

SK0919



SK0942



SK0980

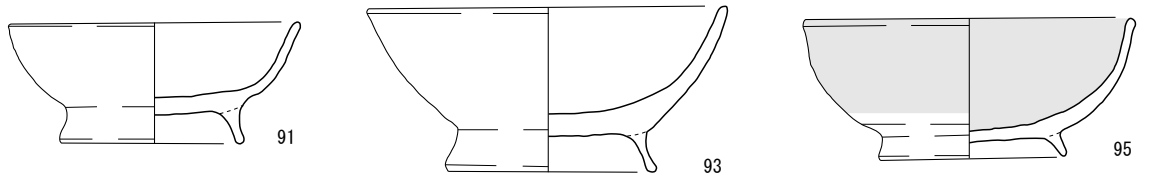


图 149 吉野ヶ里地区V区 出土遺物 4 (1/3)

回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。68は須恵器高坏の脚部で、裾部が短く開く。脚部外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、坏部内面はナデ調整を行う。69の土師器甕である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SK0918 出土遺物（図 148）

70、71は須恵器蓋で、かえりを有する。70はかえりと口縁端部が同じ高さに位置する。71はかえりが口縁端部より下に位置する。いずれも内外面ともに回転ナデ調整を行う。72は須恵器高台付坏である。高台は低く断面は台形状を呈し、接地部分は面をなす。口縁部はわずかに外反する。高台内に1本のヘラ記号が認められる。73は須恵器壺で、頸部から口縁部にかけて「く」の字状に屈曲し、口縁端部を内側に肥厚させる。口縁部外面は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。

SK0919 出土遺物（図 149）

74、75はかえりを有する須恵器蓋である。74は天井部が平坦で、かえりと口縁端部がほぼ同じ高さに位置する。75はかえりが口縁端部より下に位置し、口縁端部は外側に開く。74の天井部外面に2本の平行するヘラ記号が認められる。74は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。75は内外面ともに回転ナデ調整を行う。76、77は須恵器高台付坏である。高台はやや高く、外側に張り出し、端部を外側へ肥厚させる。76の外面は回転ナデ、ナデ調整を行う。77は体部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデ、底部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。78～80は土師器坏で、78は底部が丸く、79は平坦になる。80は皿状に近い形を呈する。78の底部外面に一部ハケメ、他は摩耗のため調整不明である。79の底部外面はヘラ切り離し後未調整、他は摩耗のため調整不明である。80は内外面ともに摩耗のため調整不明である。81～85は土師器甕である。81、84は内外面ともに摩耗のため調整不明である。82の外面はハケメ、内面はナデ調整を行う。83の外面はヨコナデ、内面はヨコナデ、ケズリ調整を行う。85の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、内面はケズリ調整を行う。86は土師器鉢である。底部は平底で、裾が張る。内面には使用痕があり、こね鉢として使用したと考えられる。内外面ともに強いナデ調整を行う。87、88は土師器の把手である。88の外面にはハケメ調整がみられる。

SK0942 出土遺物（図 149）

89、90は須恵器蓋で、89はかえりを有する。90は口縁端部を下方へやや屈曲させ、端部を丸く仕上げる。89は内外面ともに回転ナデ調整を行う。90の天井部外面に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。

SK0980 出土遺物（図 149）

91～94は土師器椀である。いずれも高台は細長く、口縁部は内湾気味に開く。いずれも底部内外面はナデ、他は摩耗のため調整不明である。95は黒色土師器椀である。口縁部は内湾気味に開く。内外面ともに黒化处理を施す。口縁部から体部外面はヨコナデ、底部はナデ、内面は摩耗のため調整不明である。

SK0987 出土遺物（図 150）

96はかえりを有する須恵器蓋である。かえりと口縁端部が同じ高さに位置する。天井部外面に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。97は須恵器高台付坏で、高台が細長く、接地部分は面をなす。底

部は内側に向かって低くなる。体部下半にカキメを施す。外面に灰かぶりがみられる。体部下端外面に回転ヘラケズリ、高台は回転ナデ、高台内は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。98は須恵器鉢で、口縁部は内湾し、端部を肥厚させ、上端部を平坦に仕上げる。体部外面下半に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。99、100は土師器甕である。99の外面は摩耗のため調整不明で、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。100は内外面ともに摩耗のため調整不明である。101、102は土師器甕で、胴部下半から底部を欠損し、胴部に厚手の把手を付ける。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SK1028 出土遺物 (図 150)

103は土師器蓋のつまみである。宝珠状を呈す。内外面ともに摩耗のため調整不明である。104は土師器鉢である。内外面ともに摩耗のため調整不明である。体部外面に黒斑が残る。105は土師器甕である。内外面ともにヨコナデ調整を行う。106は輪の羽口で、体部の下半に被熱痕がみられる。

SK1030 出土遺物 (図 151)

107、108はかえりを有する須恵器蓋である。いずれもかえりと口縁端部が同じ高さに位置する。107は内外面ともに回転ナデ調整を行う。108の天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。109は須恵器高台付坏で、高台は低く外側に張り出す。外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。110、111は須恵器高坏である。110は坏部で、脚部を欠損する。体部外面中位に1本の沈線が巡る。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。111は脚部片で坏部が欠損する。焼成不良である。脚部外面中位に3本の沈線が巡る。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。112は須恵器甕の口縁部片で、口縁部外面上半にカキメを施す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。

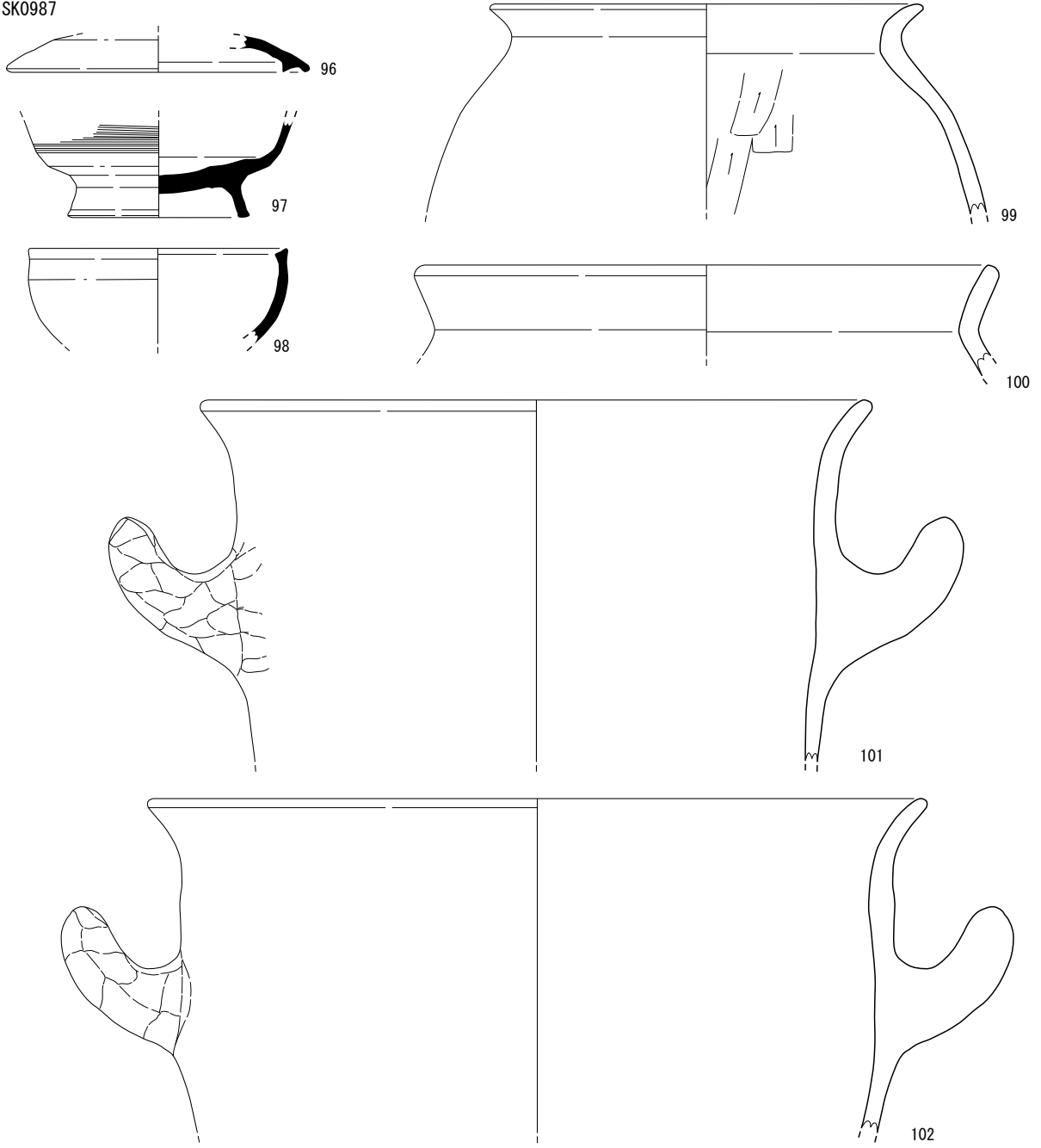
SK1064 出土遺物 (図 151)

113、114、115はかえりを有する須恵器蓋である。113は天井部外面に放射状に伸びる2本のヘラ記号が認められる。115の天井部は平坦で、かえりがわずかにみられる。外面には1本の曲がったヘラ記号が認められる。113、114の天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。115の天井部外面はナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。116は土師器坏で、丸みを帯びた形状である。117、118は土師器甕の口縁部破片である。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。

SK1073 出土遺物 (図 151)

119、120はかえりを有する須恵器蓋で、口縁端部とかえりが同じ高さに位置する。120は歪みのため、天井部がやや凹む。119、120の天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。121～123は須恵器坏である。121、122は高台付坏である。123は高坏の坏部の可能性がある。121は高台が太く長く伸び、断面長方形を呈す。121はやや高い高台を有し、口縁部は少し外反しながら開く。123は底部は平坦で、口縁部は直利気味に開き、箱型を呈す。121の体部外面は回転ナデ、体部下端は回転ヘラケズリ後回転ナデ、高台は回転ナデ、高台内はヘラ切り離し後回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。122の外面は回転ナデ、高台内はヘラ切り離し後回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。123は口縁部外面は回転ナデ、体部下端は回転ヘラケズリ、底部は回転ヘラケズリ後ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。124～126は土師器甕である。124の外面は摩耗のため調整不明で、胴部内面はケズリ調整を行う。125は口縁端部が一部剥離しており、外面はハケメ、

SK0987



SK1028

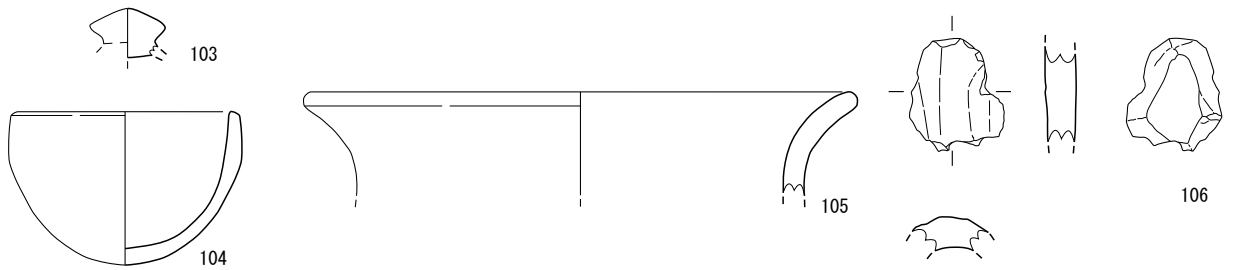


図150 吉野ヶ里地区V区 出土遺物5 (1/3)

内面はケズリ調整を行う。126は外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。

SK1097 出土遺物 (図 151 ~ 152)

127 ~ 129は須恵器蓋である。127は扁平で低いつまみをもつ。128は扁平で低いつまみをもち、歪みにより器形全体が傾く。129は口縁端部を下方へ屈曲させ、端部を丸く仕上げる。127のつまみは回転ナデ、ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。128のつまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。129は内外面ともに回転ナデ調整を行う。130、131は須恵器高台付坏である。130の高台は低く、口縁部は直立気味に開く器形である。131は全体的に器壁が厚く、高台はやや高い。130の口縁部外面は回転ナデ、体部下端は回転ヘラケズリ後回転ナデ、高台は回転ナデ、高台内はヘラ切り離し後未調整、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。131の外面は回転ナデ、ナデ、内面はナデ調整を行う。132は土師器蓋で、少し高い宝珠状のつまみをもつ。つまみはナデ、回転ナデ、天井部外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。133 ~ 135は土師器坏である。133は高台付坏の底部である。134は全体的に丸みを帯びた形状である。135は口縁部が直立しながら開く。いずれも内外面ともに摩耗のため調整不明である。136は土師器の把手である。137、138は土師器甕である。137の胴部外面は粗いハケメ、内面はケズリ調整を行う。138は内外面ともに摩耗のため調整不明である。139は土師器甕で、把手をもたないタイプである。口縁部が短く屈曲し、胴部から底部にかけて緩やかに内傾する。底部には蒸気孔のスノコ支えが一部確認できる。外面全体を2 ~ 3mm四方が集めたタタキがわずかに確認できる。口縁部内外面はヨコナデ、内面はナデ調整を行う。140、141は甕の底部分である。140の外面にはハケメ調整がみられる。

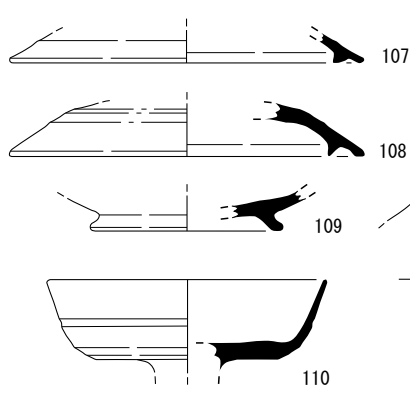
(3) 吉野ヶ里地区V区の古代の遺構について

吉野ヶ里地区V区では7世紀から10世紀代にかけての遺構を確認した。掘立柱建物8棟、竪穴建物5棟、井戸9基、土坑16基が確認された。当地区では、掲載されている他にも弥生時代ではない他時代の掘立柱建物が複数見つかっている。ただ、出土遺物の少なさや周囲の遺構との関係性からは時期を特定することは難しい。

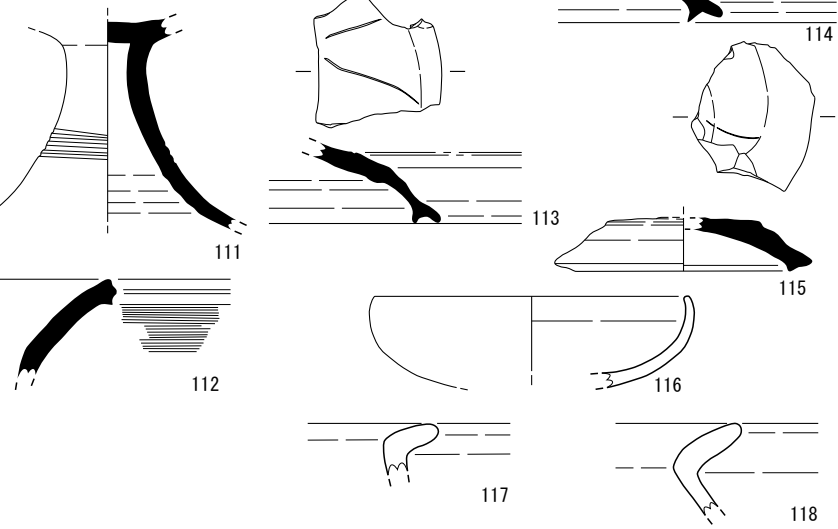
吉野ヶ里地区V区では掘立柱建物がいくつか見つかっているが、中でもSB1020は南側に廂をもち、他の総柱建物とは性格が異なる建物と考えられる。また、SB1013、1014と主軸方向を揃えているので同時期に建てられたものと推測される。周囲の竪穴建物や土坑の時期から当地区の建物群は7 ~ 8世紀代のものと考えられる。

調査区中央には素掘りの井戸が切り合うことなく集中する。湧水地点を求めて何度も掘りこんだ様子がうかがえる。

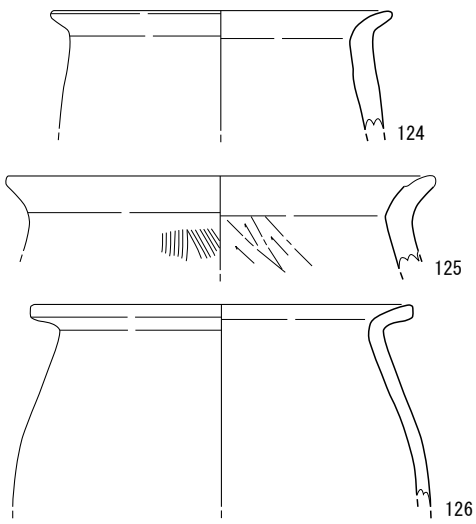
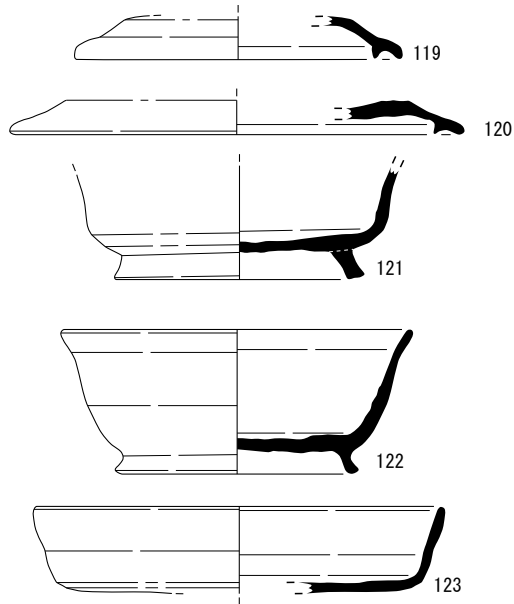
SK1030



SK1064



SK1073



SK1097

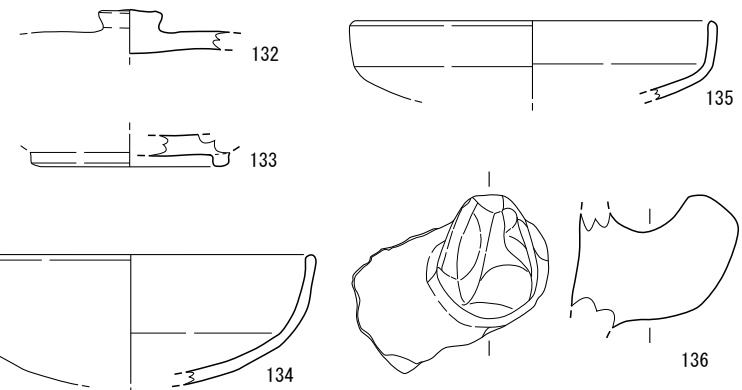
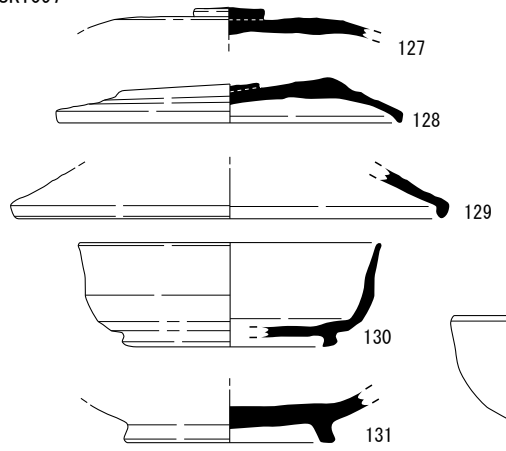


図 151 吉野ヶ里地区V区 出土遺物 6 (1/3)

SK1097

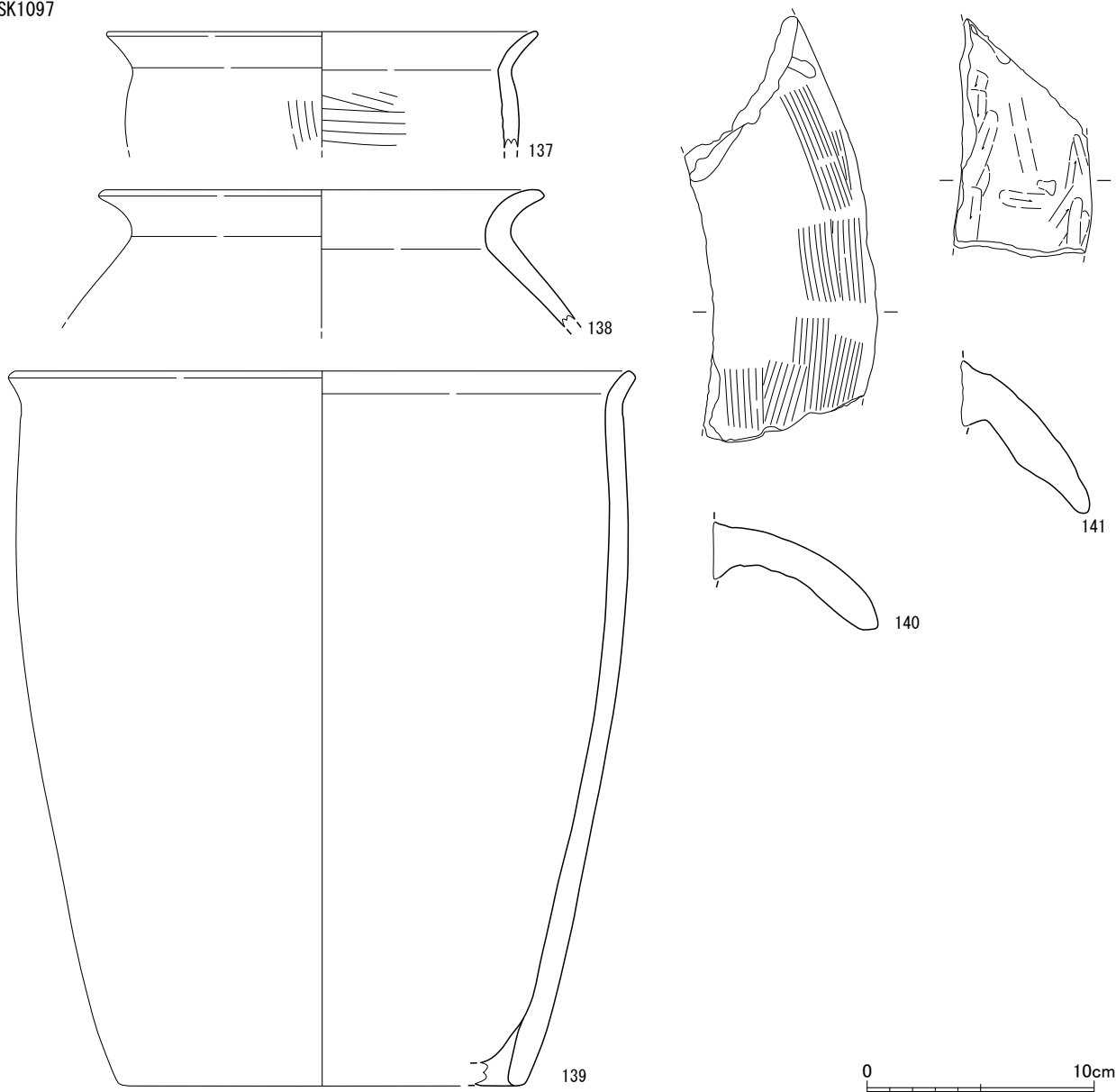


図152 吉野ヶ里地区V区 出土遺物7 (1/3)

表 40 吉野ヶ里地区V区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 146-1	02003600	SB1083	須恵器	坏	10.5*		2.3	灰	灰	
図 146-2	02003599	SB1083	土師器	甗			2.8+	淡褐	淡褐	
図 146-3	02003598	SB1083	土師器	甗			5.7+	淡褐	淡褐	
図 146-4	02003912	SB1212	須恵器	蓋			1.9+	灰	灰	
図 146-5	02003911	SB1212	須恵器	高坏			1.9+	灰	灰	
図 146-6	02003926	SB1212	土師器	坏			1.8+	淡明褐	淡明褐	
図 146-7	22000197	SE1024	土師器	坏	13.0*	7.1	6.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
図 146-8	22000198	SE1105	須恵器	蓋	16.1		2.0	灰	灰	転用硯
図 146-9	22000199	SE1105	須恵器	坏	12.8	7.8	4.5	灰白	灰白	
図 146-10	22000200	SE1105	須恵器	坏	12.6	8	4.0	灰	灰	
図 146-11	22000205	SE1126	土師器	坏	12.4*	7.2	3.5	にぶい橙・褐灰	にぶい橙・褐灰	
図 146-12	22000206	SE1126	土師器	坏	13.6*	7.6*	3.5	にぶい橙	にぶい橙	
図 146-13	22000207	SE1126	土師器	坏	14.3*	7.6*	2.4	灰白	灰白	
図 146-14	22000208	SE1126	土師器	坏	20.0*		3.8+	浅黄橙	浅黄橙	
図 146-15	93000221	SH1080	黒色土器	椀	17.2*	9.3*	5.1+	黄褐	黒褐・黄褐	黒色土器A類
図 146-16	93000220	SH1080	土師器	把手			4.9+	明褐	明褐	
図 146-17	04001021	SH1191	土師器	坏	10.8*	7.4*	1.9+	明黄褐	明黄褐	
図 146-18	04001022	SH1191	土師器	坏	12.6*	3.0*	7.8+	淡褐	淡褐	
図 146-19	04001023	SH1191	土師器	把手			7.7+	淡褐	淡褐	
図 146-20	04001028	SH1192	須恵器	壺	9.8*		2.8+	灰	灰	
図 146-21	04001027	SH1192	土師器	皿	19.0		3.0	明黄褐	明黄褐	
図 147-22	04001099	SH1251	須恵器	蓋			1.4+	灰	灰	
図 147-23	04001100	SH1251	須恵器	坏		11.1	1.5+	灰	灰	
図 147-24	04001101	SH1251	須恵器	坏	13.2*	7.4	4.8	赤褐	赤褐	外面にヘラ記号
図 147-25	04001104	SH1251	土師器	甗	20.0*		6.8+	明褐	明褐	
図 147-26	04001105	SH1251	土師器	甗	21.0*		8.4+	褐	褐	
図 147-27	04001185	SH1326	須恵器	蓋	12.0*		3.7	青灰	青灰	天井部外面ヘラ記号
図 147-28	04001186	SH1326	須恵器	蓋	11.4*		1.9+	暗灰	茶褐	口縁部外面にヘラ記号
図 147-29	04001187	SH1326	須恵器	坏		7.9*	2.8+	灰	灰	
図 147-30	04001184	SH1326	須恵器	甗			11.6+	灰	灰	
図 147-31	04001180	SH1326	黒色土器	坏			3.0+	黒褐	褐	
図 147-32	04001188	SH1326	土師器	壺			6.3+	淡褐	淡褐	底部に穿孔
図 147-33	04001181	SH1326	土師器	鉢	9.2*		5.9	黄褐	黄褐	
図 147-34	04001182	SH1326	土師器	甗			8.8+	褐	褐	
図 147-35	04001179	SH1326	土師器	甗	12.0*		6.3+	白褐	白褐	
図 147-37	93000277	SK0859	須恵器	蓋	14.9*		1.4+	灰	灰	
図 147-38	93000274	SK0861	土師器	甗		6.0*	13.4+	淡明褐	淡明褐	
図 147-39	22000196	SK0863	須恵器	蓋			1.2+	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
図 147-40	22000195	SK0863	須恵器	蓋			1.5+	黄灰	黄灰	
図 147-41	22000194	SK0863	須恵器	蓋			1.5+	灰	黄灰	
図 147-42	93000280	SK0863	須恵器	蓋	13.7*		1.3+	乳灰	乳灰	
図 147-43	93000281	SK0863	須恵器	蓋	14.4*		2.3+	暗灰	暗灰	
図 147-44	93000282	SK0863	須恵器	坏			1.9+	暗灰	暗灰	
図 147-45	93000285	SK0863	土師器	壺	11.2*		3.3+	明褐	暗褐	
図 147-46	93000284	SK0863	土師器	壺	14.6*		3.2+	明褐	暗褐	
図 147-47	93000283	SK0863	土師器	壺	19.2*		3.9+	淡明褐	淡明褐	
図 147-48	93000286	SK0863	土師器	把手			4.8+	明黄褐	明黄褐	
図 147-49	93000287	SK0863	土師器	把手			5.6+	短明褐	短明褐	
図 148-50	93000317	SK0870	須恵器	蓋	16.0*		2.2+	灰	灰	
図 148-51	93000313	SK0870	須恵器	蓋	15.8		3.3	灰	灰	天井部外面に重ね焼きの 溶着痕
図 148-52	93000318	SK0870	須恵器	坏		8.4*	2.3+	暗灰	灰	
図 148-53	93000319	SK0870	須恵器	坏		11.6*	2.0+	灰	灰	
図 148-54	93000315	SK0870	須恵器	坏	14.2	9.3	3.7	灰	灰	
図 148-55	93000316	SK0870	須恵器	坏	13.8*	9.2*	4.4	灰	灰	
図 148-56	93000314	SK0870	須恵器	高坏	20.0*		1.9+	灰	灰	
図 148-57	93000320	SK0870	土師器	坏			2.5+	明黄褐	明黄褐	
図 148-58	93000389	SK0881	須恵器	蓋	8.4*		2.7+	褐灰	灰	天井部外面にヘラ記号
図 148-59	93000390	SK0881	須恵器	坏			3.4+	灰	灰	
図 148-60	93000388	SK0881	須恵器	高坏		10.0*	3.8+	明灰	暗灰	
図 148-61	93000391	SK0881	土師器	皿		15.0*	1.8+	明黄褐	明黄褐	
図 148-62	93000395	SK0881	土師器	甗			3.1+	褐	褐	
図 148-63	93000396	SK0881	土師器	甗			3.6+	黄褐	黄褐	
図 148-64	93000392	SK0881	土師器	甗			6.4+	明褐	明褐	
図 148-65	93000394	SK0881	土師器	甗	12.0*		3.2+	淡褐	淡褐	
図 148-66	93000393	SK0881	土師器	甗	15.0*		8.7+	淡褐	淡褐	
図 148-67	93000463	SK0915	須恵器	蓋		7.8*	1.9+	灰	灰白	天井部外面にヘラ記号
図 148-68	93000462	SK0915	須恵器	高坏		7.5	4.4+	暗灰	暗灰	
図 148-69	93000460	SK0915	土師器	壺	13.2*		4.2+	明褐	明褐	
図 148-70	93000466	SK0918	須恵器	蓋			1.3+	灰	灰	

図 148-71	93000467	SK0918	須恵器	蓋		8.6*	2.0+	灰	灰	
図 148-72	93000464	SK0918	須恵器	坏	15.2*	11.2*	5.2+	灰	灰	底部外面にヘラ記号
図 148-73	93000468	SK0918	須恵器	壺	10.3*		5.4+	暗灰・灰	青灰	
図 149-74	93000475	SK0919	須恵器	蓋	13.3		2.3	灰	灰	天井部外面にヘラ記号
図 149-75	22000187	SK0919	須恵器	蓋	8.2*		1.2+	灰白	灰白	
図 149-76	22000186	SK0919	須恵器	坏			1.4	灰	灰	
図 149-77	93000474	SK0919	須恵器	坏		8.2*	3.0+	灰	灰	
図 149-78	22000188	SK0919	土師器	坏			5.4+	橙	橙	
図 149-79	22000189	SK0919	土師器	坏	14.1*	8.0*	5.0	橙	橙	
図 149-80	93000476	SK0919	土師器	坏	18.0*	9.0*	3.0+	明黄褐	明黄褐	
図 149-81	93000481	SK0919	土師器	甗			3.4+	明褐	明黄褐	
図 149-82	93000480	SK0919	土師器	甗			5.6+	黄褐	黄褐	
図 149-83	93000478	SK0919	土師器	甗	20.6*		3.5+	明褐	明褐	
図 149-84	93000479	SK0919	土師器	甗	20.6*		5.6+	明褐	明褐	
図 149-85	93000482	SK0919	土師器	甗	18.0*		10.8+	明黄褐・暗褐	明黄褐	
図 149-86	93000477	SK0919	土師器	鉢		7.0*	8.6+	明黄褐・褐	明褐	
図 149-87	93000483	SK0919	土師器	把手			5.4+	黄褐	黄褐	
図 149-88	93000484	SK0919	土師器	把手			7.8+	黄褐	黄褐	
図 149-89	22000190	SK0942	須恵器	蓋	11.6*		1.0+	灰	黄灰	
図 149-90	22000191	SK0942	須恵器	蓋			1.3+	灰	灰白	
図 149-91	93003078	SK0980	土師器	椀	11.5	7.0	4.8	黄褐	黄褐	
図 149-92	93003077	SK0980	土師器	椀	13.8	9.0	5.9	明黄褐	明黄褐	
図 149-93	93003076	SK0980	土師器	椀	14.3	8.4	6.6	黄褐	黄褐	
図 149-94	93003075	SK0980	土師器	椀	14.7	9.0	5.4	黄褐	黄褐	
図 149-95	93003079	SK0980	黒色土器	椀	13.0	7.2	5.6	黄褐・黒	黒	黒色土器B類
図 150-96	93003069	SK0987	須恵器	蓋	14.0*		1.7+	青灰	青灰	
図 150-97	93003070	SK0987	須恵器	坏		8.4	4.5+	暗灰	青灰	
図 150-98	93003068	SK0987	須恵器	鉢	11.8*		4.4+	青灰	青灰	
図 150-99	93003072	SK0987	土師器	甗	20.0*		9.5+	明淡褐	明淡褐	
図 150-100	93003071	SK0987	土師器	甗	26.0*		4.2+	淡褐	淡褐	
図 150-101	93003073	SK0987	土師器	甗	30.2*		16.7+	明黄褐	明黄褐	
図 150-102	93003074	SK0987	土師器	甗	35.4*		15.4+	明黄褐	明黄褐	
図 150-103	93003100	SK1028	土師器	蓋			1.5+	明黄褐	明黄褐	
図 150-104	93003103	SK1028	土師器	鉢	8.4*		6.1	黒・淡褐	淡褐	
図 150-105	93003102	SK1028	土師器	甗	21.4*		4.1+	淡褐	淡褐	
図 150-106	93003101	SK1028	土師器	鞆の羽口			4.1+	褐・暗褐	淡褐	
図 151-107	93003106	SK1030	須恵器	蓋	14.0*		1.2+	青灰	青灰	
図 151-108	93003105	SK1030	須恵器	蓋	14.0*		2.1+	暗灰	暗灰	
図 151-109	93003104	SK1030	須恵器	坏		7.6*	1.3+	暗灰	暗灰	
図 151-110	93003108	SK1030	須恵器	高坏	11.0*		3.6+	灰	灰	
図 151-111	93003109	SK1030	須恵器	高坏			8.9+	灰	灰	
図 151-112	93003107	SK1030	須恵器	甗			3.8+	暗灰	灰	
図 151-113	93003120	SK1064	須恵器	蓋			3.2+	暗灰	暗灰	天井部外面にヘラ記号
図 151-114	93003122	SK1064	須恵器	蓋			2.0+	灰	灰	
図 151-115	93003121	SK1064	須恵器	蓋	8.4		2.1+	灰	灰	天井部外面にヘラ記号
図 151-116	93003123	SK1064	土師器	坏	12.4		3.0+	明黄褐	明黄褐	
図 151-117	93003124	SK1064	土師器	甗			2.1+	淡褐	淡褐	
図 151-118	93003125	SK1064	土師器	甗			3.3+	淡褐	淡褐	
図 151-119	93003151	SK1073	須恵器	蓋	13.0*		1.7+	暗灰	灰	
図 151-120	93003152	SK1073	須恵器	蓋	18.0*		1.4+	灰	灰	
図 151-121	93003149	SK1073	須恵器	坏		9.9	4.4+	灰	灰	
図 151-122	93003148	SK1073	須恵器	坏	13.6*	9.6	5.7+	暗灰	灰	
図 151-123	93003150	SK1073	須恵器	坏	16.0*		3.4+	灰	灰	
図 151-124	93003154	SK1073	土師器	甗	13.5*		4.7+	明黄褐	暗褐	
図 151-125	93003155	SK1073	土師器	甗	17.0*		3.6+	明黄褐	暗褐	
図 151-126	93003153	SK1073	土師器	甗	15.2*		8.0+	明褐	明褐	
図 151-127	93004030	SK1097	須恵器	蓋			1.2+	灰褐	灰褐	
図 151-128	93004029	SK1097	須恵器	蓋	13.5		1.8	灰	灰	
図 151-129	93004028	SK1097	須恵器	蓋	16.6*		2.0+	暗灰	灰	
図 151-130	93004026	SK1097	須恵器	坏	11.8*	8.6*	4.1+	灰	灰	
図 151-131	93004027	SK1097	須恵器	坏		8.1*	2.1+	灰	灰	
図 151-132	93004031	SK1097	土師器	蓋			1.7+	暗灰	明褐	
図 151-133	93004033	SK1097	土師器	坏		7.8*	1.3+	明黄褐	明黄褐	
図 151-134	93004032	SK1097	土師器	坏	14.4*		5.1+	褐	褐	
図 151-135	93004034	SK1097	土師器	坏	14.0*		3.1+	褐	褐	
図 151-136	93004037	SK1097	土師器	把手			5.2+	明褐	明褐	
図 152-137	93004035	SK1097	土師器	甗	19.0*		5.1+	黄褐	黄褐	
図 152-138	93004036	SK1097	土師器	甗	19.0*		6.0+	褐	褐	
図 152-139	93004041	SK1097	土師器	甗	27.0*		31.5+	黄褐・淡明褐	淡明褐・褐	
図 152-140	93004039	SK1097	土師器	竈			4.7+	淡明褐	暗褐	
図 152-141	93004040	SK1097	土師器	竈			6.7+	明褐	明褐	

4 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区

(1) 概要

ここでは、南内郭とその周辺について報告するが、地区としては吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区と、吉野ヶ里地区Ⅴ区東部が該当する。市町境が段丘上を南北に通っているため、地区名が異なっているが、遺跡としては一連のものである。吉野ヶ里地区Ⅴ区については、煩雑さを避けるために、SD0925 外環壕を境にして東側の部分を本項で述べる。

吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区は、吉野ヶ里町大字田手字三本杉に、吉野ヶ里地区Ⅴ区は神埼市神埼町鶴字下ノ辻に所在しており、志波屋・吉野ヶ里段丘上に立地している。両地区の北側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅱ区・吉野ヶ里地区Ⅰ～Ⅳ区が県道吉田・鶴線を挟んで位置しており、東側は吉野ヶ里丘陵地区Ⅷ区、南東側は吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区、南西側は田手二本黒木地区Ⅰ区、西側は吉野ヶ里地区Ⅵ区が隣接している。

この区域では工業団地造成に伴う発掘調査の他に、吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区では、筑後川下流用水事業に伴う調査（佐賀県教委 1994）、補助事業による確認調査（117～119 調査区：『132 集』、351 調査区）、国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う調査（319・329 調査区：『173 集』）が行われている。また、吉野ヶ里地区Ⅴ区では、国営吉野ヶ里公園整備に伴う調査（308 調査区：『173 集』）が行われている。本項で報告するのは、この地区でもっとも面積が広い工業団地造成に伴う発掘調査の範囲を中心として、その他の調査区については必要な部分を報告するが、詳細についてはそれぞれの報告書を参照にされたい。

これまでの調査の結果、弥生時代の集落・墓地、古墳時代前期の墳墓、古墳時代後期の集落、中世の溝・道路状遺構などが確認された。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

A 竪穴建物

古代の竪穴建物は 1 軒確認された。

SH0860 竪穴建物（図 158）

調査区南東部に位置し、平面は隅丸方形形状を呈し、支柱穴は 4 本確認され、規模は一辺が 6.0m を超える大型の建物である。

SH0860 出土遺物（図 159）

1、2 は須恵器蓋である。1 は低く扁平なつまみをもつ。つまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は摩耗のため調整不明である。2 は天井部から緩やかに広がり端部を丸く仕上げる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。3、4 は須恵器高台付坏である。3 は高台は低く、外側に張り出す。内外面ともに回転ナデ調整を行う。4 は高台は低く端部を丸く仕上げ、口縁部は外反しながら開く。

B 土坑

古代の土坑は 5 基確認された。

SK0627 出土遺物（図 159）

5、6 は須恵器坏である。5 は高台をもたない坏で、箱型を呈す。赤焼きである。内外面ともに回転ナデ調整を行う。6 は底部片で、高台はやや高く、外側に張り出す。外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。



図 153 吉野ヶ里丘陵地区 III 区 調査区の位置 (1/2,500)

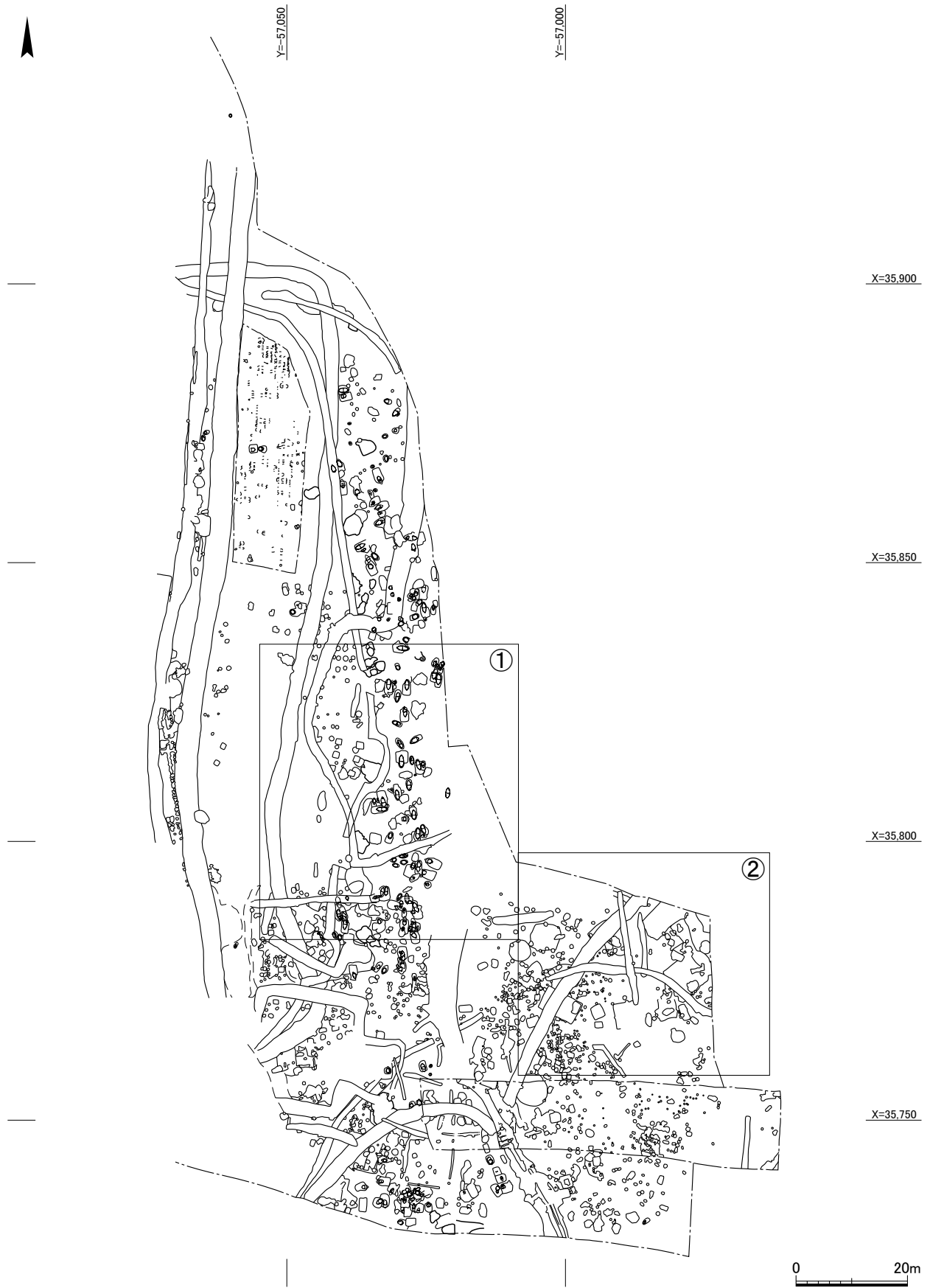


図 154 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,000)



図 155 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 古代の遺構分布 (1/1,000)

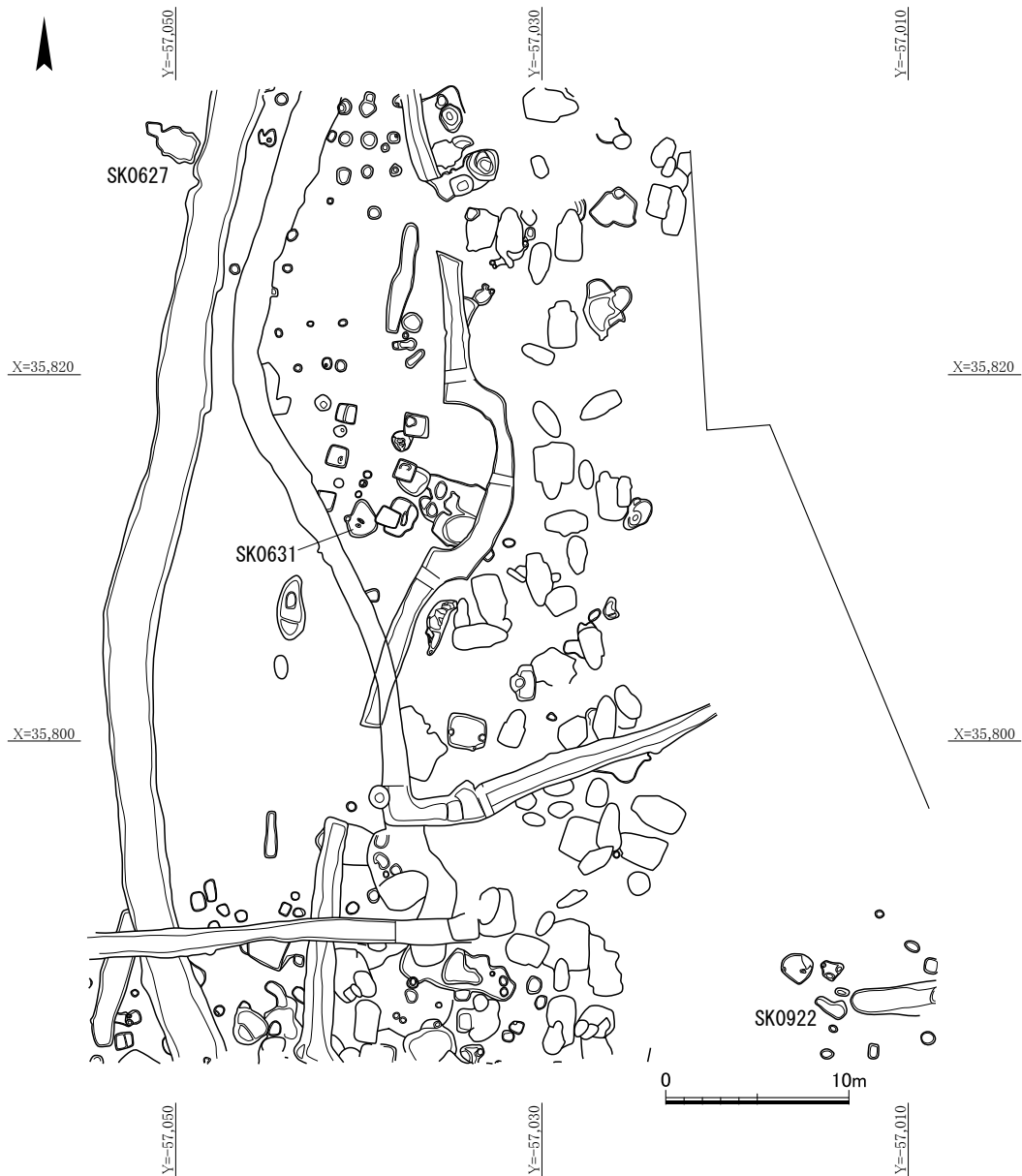


図 156 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 遺構分布詳細図1 (1/400)

SK0631 出土遺物 (図 159)

7、8は須恵器高台付坏で、口縁部の形状は似ているが、7は高台が高く端部は外側に肥厚し、8は低く断面が台形状を呈す。7、8の外側は回転ナデ、内側は回転ナデ、ナデ調整を行う。9は土師器坏で、底部はやや丸みを帯び、口縁部は短く立ち上がる。内外面ともにヨコナデ、ナデ調整を行う。10は土師器甕で、胴部外面にハケメがみられるのみである。

SK0842 出土遺物 (図 159)

11は須恵器蓋で、つまみは宝珠状で、口縁端部を下方へ屈曲させ、丸く仕上げる。焼成不良である。つまみは回転ナデ、ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内側は回転ナデ、ナデ調整を行う。



図157 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 遺構分布詳細図2 (1/400)

SK0858 出土遺物 (図159)

12～14は須恵器蓋で、14は皿などの大型食器系の蓋と考えられる。12は内外面ともに摩耗のため調整不明である。焼成不良である。13は内外面ともに回転ナデ調整を行う。外面に重ね焼きの痕がみられる。14のつまみは回転ナデ、ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、他は摩耗のため調整不明である。焼成不良である。15は須恵器高台付坏で、高台は低く、口縁部は直線的に開く。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。16は高坏の口縁部片で、口縁部を短く立ち上げ、上端部は平坦に仕上げる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。17は土師器蓋で、口縁部が少し屈曲し、やや外反しながら開く。18、19は土師器坏である。17～19は内外面ともに摩耗のため調整不明である。

表41 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 竪穴建物

遺構番号	構造		規模 m		屋内施設	新旧関係		時期	特記事項
	平面形	主柱穴	長軸	短軸		旧	新		
SH0860	隅丸方形	4	6.4	6.0 ?				8c 前半	

表42 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0627	不整形	3.1	1.4	方	0.8	3.0	1.5			8c 前半	
SK0631	隅丸方形に近い	2.1	1.8	台	0.3	1.8	1.5			8c 前半	
SK0842	楕円形	2.4	1.1	台	—	0.9	0.4			8c 前半	
SK0858	隅丸長方形	2.1	1.7	方	—	3.3+	2.9			8c 前半	
SK0922	隅丸長方形	1.6	0.7	台	0.1	1.7	0.6			9c	

SH0860

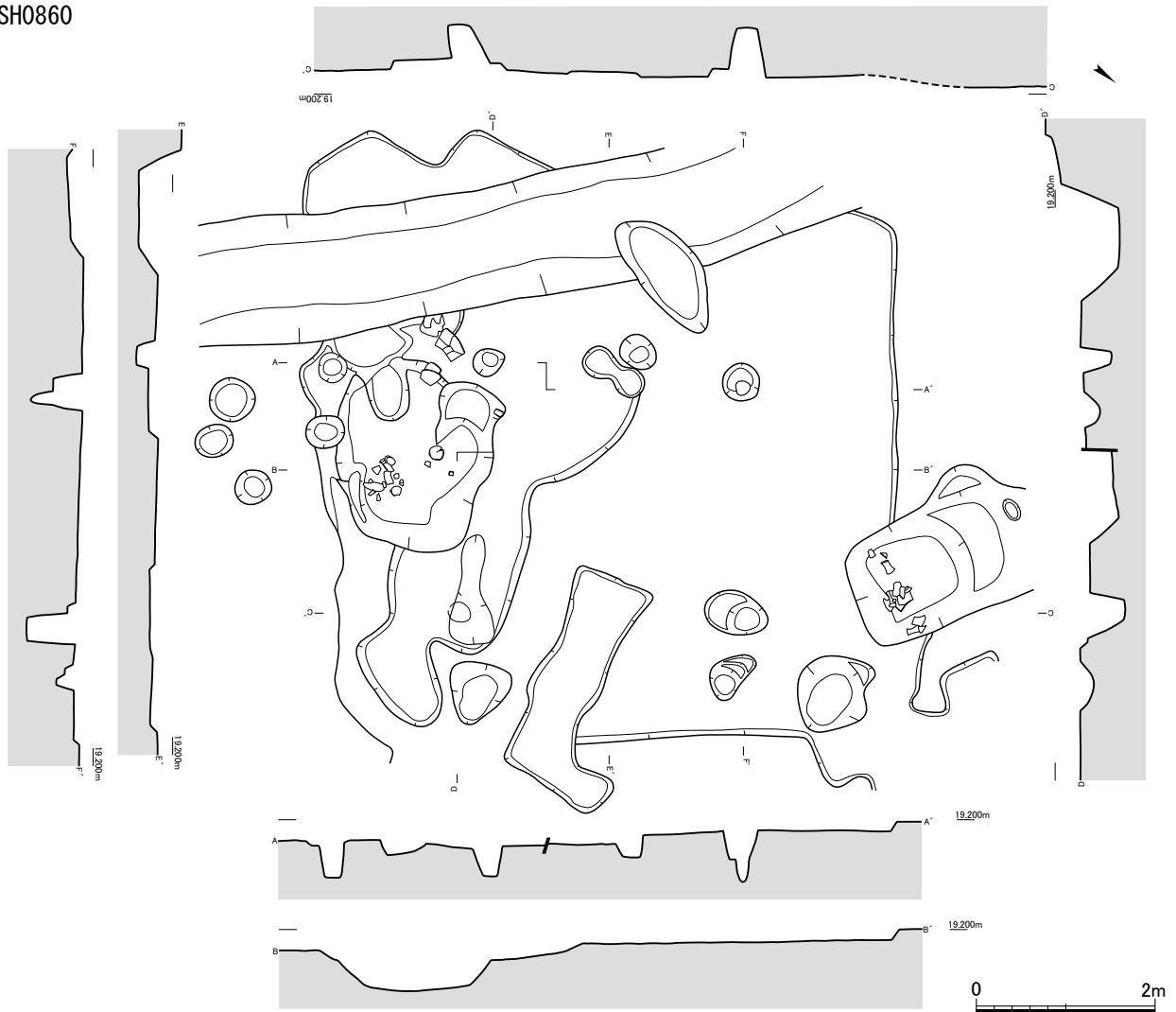


図 158 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 竪穴建物 (1/80)

表 43 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 159-1	91002498	SH0860	須恵器	蓋			2.1+	淡暗褐	黄褐	
図 159-2	91002497	SH0860	須恵器	蓋	17.8*		1.8+	暗褐	暗褐	
図 159-3	91002495	SH0860	須恵器	坏		8.4*	4.1+	暗褐	暗褐	
図 159-4	91002494	SH0860	須恵器	坏	15.2*		11.0	黄褐	黄褐	
図 159-5	13001950	SK0627	須恵器	坏	15.8*	12.9*	4.2	褐灰	にぶい赤	
図 159-6	13001951	SK0627	須恵器	坏		8.6*	1.7+	灰	灰	
図 159-7	13001956	SK0631	須恵器	坏	12.8*	9.2*	5.3	灰	灰	
図 159-8	13001957	SK0631	須恵器	坏	13.2*	9.0*	5.9	灰	灰	
図 159-9	13001954	SK0631	土師器	坏	16.7*		3.4+	橙		
図 159-10	13001955	SK0631	土師器	甕	20.3*		7.7+	にぶい橙	にぶい橙	
図 159-11	22000010	SK0842	須恵器	蓋	15.0*		3.5	灰	灰	
図 159-12	22000013	SK0858	須恵器	蓋			2.0+	灰白	灰白	
図 159-13	22000011	SK0858	須恵器	蓋	14.0*		1.2+	灰	灰白	
図 159-14	22000012	SK0858	須恵器	蓋	22.6		3.1	灰白・浅黄	灰白・浅黄	
図 159-15	22000015	SK0858	須恵器	坏	14.6*	9.4*	4.4	灰白	灰白	
図 159-16	22000014	SK0858	須恵器	高坏			2.4+	灰	灰	
図 159-17	22000016	SK0858	土師器	蓋	15.2*		4.2	浅黄	浅黄	
図 159-18	22000018	SK0858	土師器	坏	15.4*		3.4+	浅黄橙	浅黄橙	
図 159-19	22000017	SK0858	土師器	坏		12.2*	4.4+	橙	橙	
図 159-20	22000024	SK0922	土師器	坏		7.2	4.9+	橙	橙	
図 159-21	22000023	SK0922	黒色土器	椀	14.1	8.4	6.8	浅黄橙	黒	黒色土器 A 類

SK0922 出土遺物 (図 159)

20は土師器坏で、高台は高く口縁部も長く立ち上がるものと考えられる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。
21は黒色土器碗で、口縁部外面は一部ミガキ調整がみられ、内面は黒化処理を施す。

(3) 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区の古代の遺構について

吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区では、8世紀から9世紀代にかけての竪穴建物1軒、土坑5基を確認した。竪穴建物(SH0860)は一辺が6mを超える建物であり、遺跡南半部の中では数少ない大型の竪穴建物である。SK0922は平面形がやや乱れるが、隅丸長方形の土坑墓の可能性も考えられる。

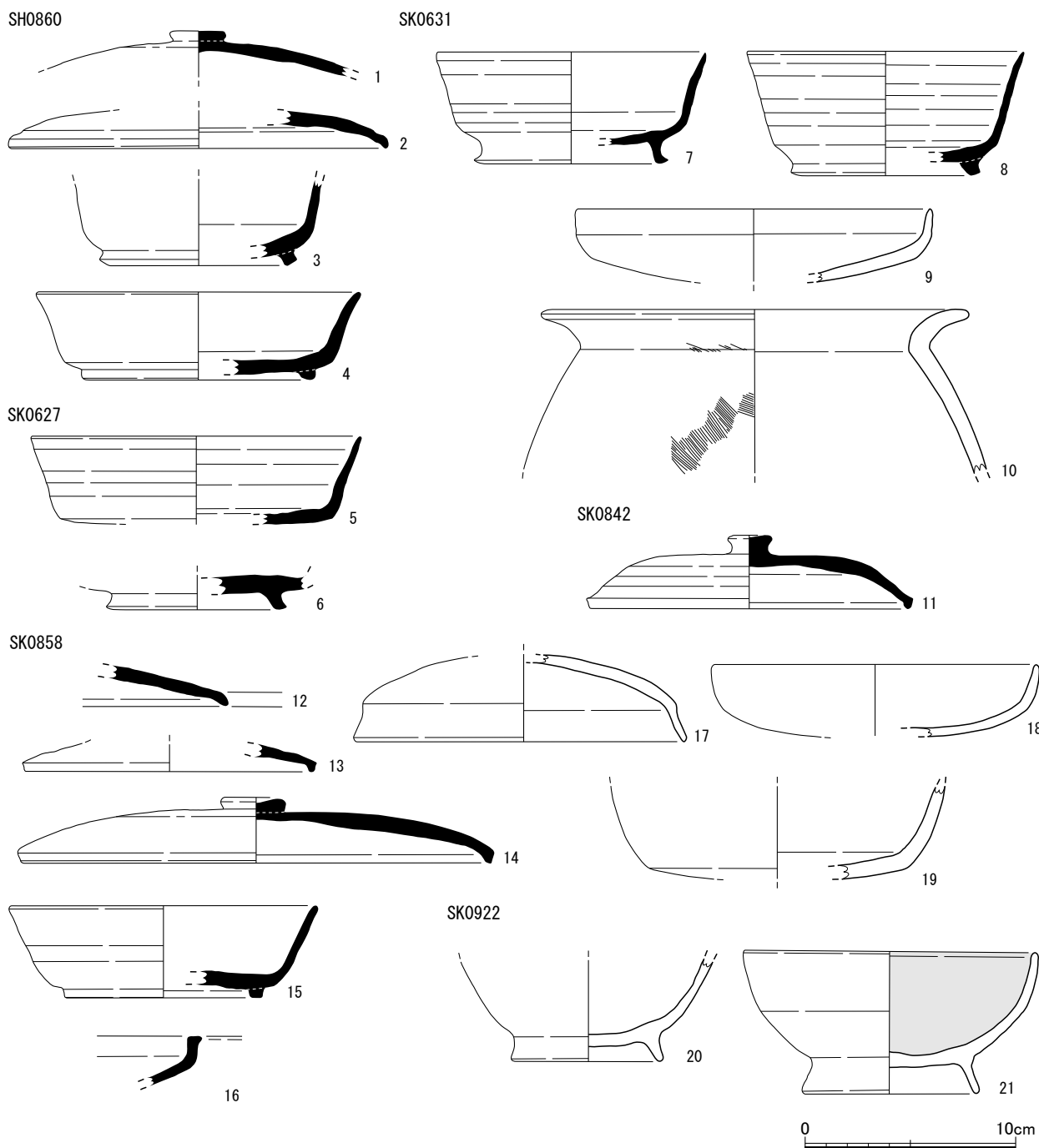


図 159 吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区 出土遺物 (1/3)

5 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区

(1) 概要

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区は吉野ヶ里町大字田手字三本杉に所在し、南北に延びる志波屋・吉野ヶ里段丘の南部に立地している。北には吉野ヶ里丘陵地区Ⅲ区、東には吉野ヶ里丘陵地区Ⅷ区、南には田手二本黒木地区Ⅲ区、西には田手二本黒木地区Ⅰ・Ⅱ区が隣接する。

Ⅶ区では、補助事業による確認調査の他に、国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う調査(『211集』)が行われている。Ⅶ区は平成元(1989)年の吉野ヶ里遺跡保存決定以降に発掘調査が開始されていることから、調査は基本的に遺構の検出までにとどめており、遺構を完掘しているものはほとんどない。本項で報告対象とするのは、古代の遺構が確認された調査区(309区、316区)である。

これまでの調査の結果、弥生時代の集落・墓地、古墳時代の方形周溝墓、中世の掘立柱建物・溝などが確認されている。遺構密度は極めて高い。

なお、Ⅶ区では同一箇所について複数回の調査が行われ、調査区が重複している箇所がある。同一遺構を重複して掘削しているものについては、一つの遺構を二つとカウントすることがないように、調査記録を確認した上で、後から付与された遺構番号を表記している。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

A 土坑

古代の土坑は2基確認された。

SK2151 出土遺物(図165)

1、2は須恵器蓋である。1は口縁端部を鳥嘴状につくる。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。2は宝珠状のつまみをもち、口縁端部は丸く仕上げる。つまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。3は須恵器皿で、口縁部が直線的に開く。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。4は土師器蓋のつまみで、中央がやや窪む。外面はヨコナデ、内面はナデ調整を行う。5～7は土師器甕である。5～7は口縁部外面はヨコナデ、胴部はナデ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。

SK2493 土坑(図165)

調査区南側に位置し、平面は隅丸方形を呈す。当遺構は半裁に留めており、半裁箇所からは須恵器や土師器とともにまとまった粘土(図165網掛け部分)が確認されている。

SK2493 出土遺物(図165)

8、9は須恵器蓋である。8は中央が少し膨らむ低いつまみをもち、口縁端部を下方へ屈曲させる。9は宝珠状のつまみをもち、天井部はやや低く口縁端部は鳥嘴状につくる。いずれもつまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。10、11は須恵器高台付坏である。10の高台は高く、端部を外側へ肥厚させる。11は高台の接地部分は面をなし、口縁部は直線的に開く形状である。10の外面は回転ナデ、ナデ、内面はナデ調整を行う。11の外面は回転ナデ、ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。12は土師器蓋である。つまみが欠損しており、やや強い回転ナデにより外面にすこし段がみられる。天井部外面はヘラ切り離し後ナデ、内面はナデ調整を行う。13～16は土師器坏である。13は高台が高く、口縁部はやや短く立ち上がる。外面はミガキ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。14の外面は摩耗のため調整不明で、内面はヨコナデ調整を行う。

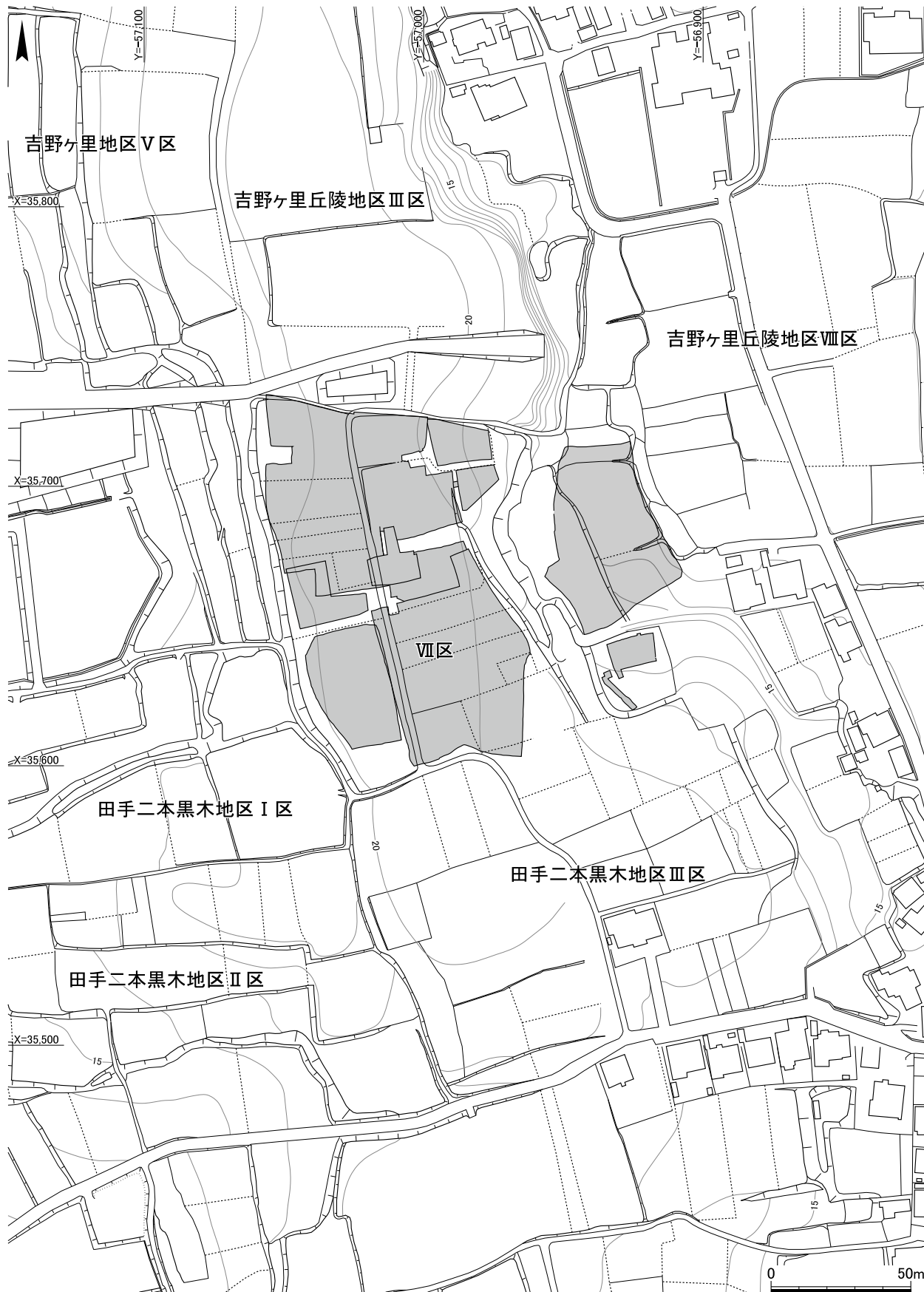


図 160 吉野ヶ里丘陵地区VII区 調査区の位置 (1/2,000)



図 161 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 遺構分布詳細の位置 (1/1,000)

15、16 は皿に近い形状をしており、底部から口縁部にかけて丸く立ち上がる。15 は内外面ともにナデ調整を行う。16 の外面は摩耗のため調整不明で、内面はヨコナデ調整を行う。17 は土師器皿で、全体的に器壁が厚く、やや強いヨコナデにより段を有する。内外面ともにヨコナデ、ナデ調整を行う。

18 は 316 調査区の包含層より出土し、長さ 5.7cm、幅 2.7cm、厚さ 2.4cm、重量 52.3g の滑石製の権である。縦に細長い釣鐘状の体部と、半円状の鈕を明確に作り出す。鈕の表裏には径 2.5cm の孔を有する。体部の裏面には面取り加工がみられ、他の面は曲線となる。この権は滑石製石鍋の二次加工品として作られ、時期を特定することは難しいが、9 世紀以降の所産と考えられる。

(3) 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区の古代の遺構について

吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区では、8 世紀代の遺構を確認し、土坑 2 基を確認した。他の調査区に比べると遺構密度に対し、古代の遺構はほとんど無く、土坑のみとなっている。



図 162 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 古代の遺構分布 (1/1,000)

表 44 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 165-1	00003458	SK2151	須恵器	蓋	13.8*		1.4+	灰	灰	
図 165-2	00003459	SK2151	須恵器	蓋	14.2		2.8	灰	灰	
図 165-3	00003457	SK2151	須恵器	皿	16.0*	12.6*	2.0	褐灰	褐灰	
図 165-4	00003455	SK2151	土師器	蓋			1.8+	淡褐	淡褐	
図 165-5	00003454	SK2151	土師器	甕	18.2*		8.8+	明黄褐	明黄褐	
図 165-6	00003453	SK2151	土師器	甕	21.4*		5.1+	暗褐	暗褐	
図 165-7	00003456	SK2151	土師器	甕	28.5*		8.2+	明黄褐	明黄褐	
図 165-8	04000691	SK2493	須恵器	蓋		13.6	2.2	灰	灰	
図 165-9	04000694	SK2493	須恵器	蓋		16.9	2.3	黄橙	黄橙	
図 165-10	04000693	SK2493	須恵器	坏		7.4*	1.7	灰	灰	
図 165-11	04000692	SK2493	須恵器	坏	14.8	10.0	5.7	灰	灰	
図 165-12	04000695	SK2493	土師器	蓋	18.1*		2.9+	浅黄橙	橙	
図 165-13	04000700	SK2493	土師器	坏	13.7*	9.0*	3.6	橙	橙	
図 165-14	04000699	SK2493	土師器	坏		9.4*	3.7+	浅黄橙	浅黄橙	
図 165-15	04000697	SK2493	土師器	坏	17.8*	9.4	3.4+	浅黄橙	浅黄橙	
図 165-16	04000696	SK2493	土師器	坏	18.1*	10.4*	3.4	浅黄橙	浅黄橙	
図 165-17	04000698	SK2493	土師器	皿	22.3*	19.0*	1.9	淡橙	淡橙	



図 163 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 遺構分布詳細図 1 (1/400)

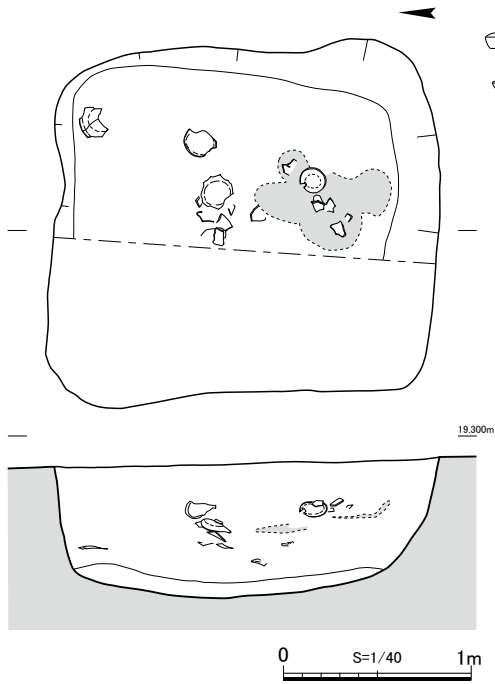
表 45 吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK2151	不整形	2.8+	1.0	台	—	0.9+	0.3			8c 後半	
SK2493	隅丸方形	2.1	1.8	台	0.7	1.7	1.0			8c 後半	

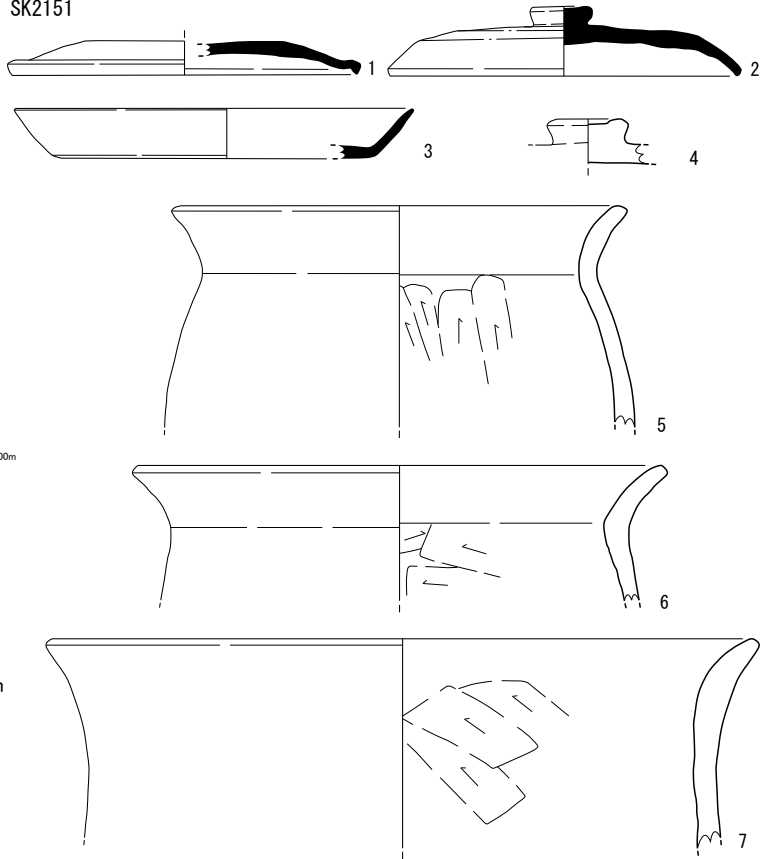


図164 吉野ヶ里丘陵地区VII区 遺構分布詳細図2 (1/400)

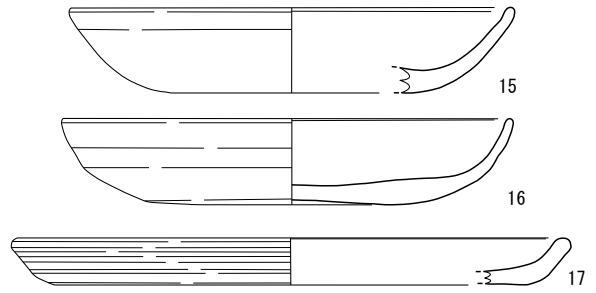
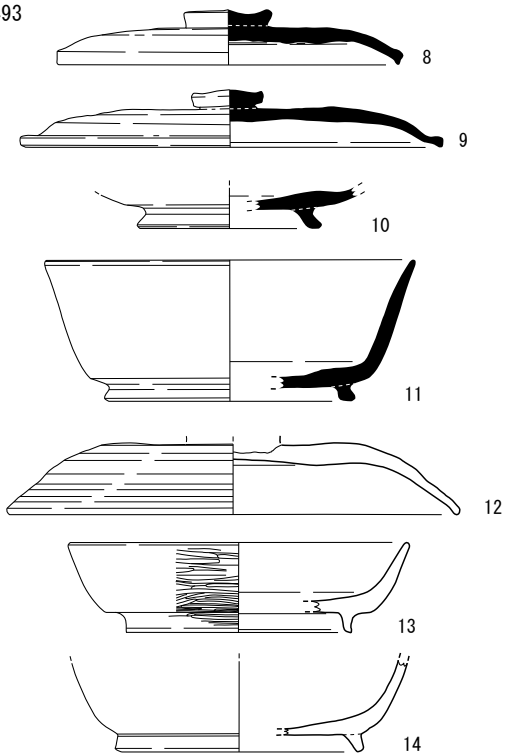
SK2493



SK2151



SK2493



包含層

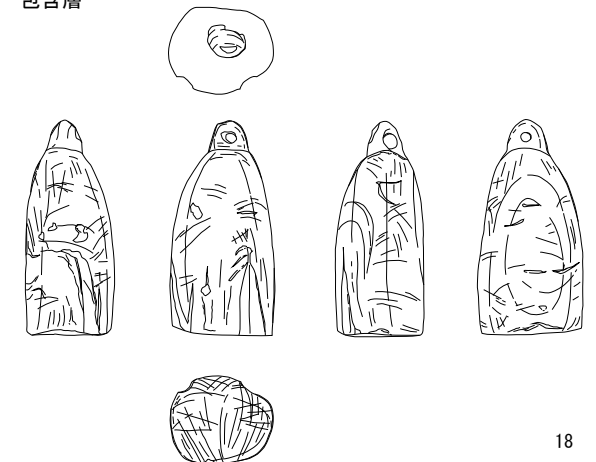


図 165 吉野ヶ里丘陵地区VII区 土坑 (1/40) 出土遺物 (18は 1/2、他は 1/3)

6 田手二本黒木地区Ⅱ区

(1) 概要

田手二本黒木地区Ⅱ区は吉野ヶ里町大字田手字二本黒木に所在する。Ⅱ区は、主に志波屋・吉野ヶ里段丘南部の段丘上から裾部にかけて立地しており、標高は9.3～19.3 mである。Ⅱ区北側の谷部及び西側の沖積低地には田手二本黒木地区Ⅰ区が、段丘尾根上の平坦部にあたる東側には田手二本黒木地区Ⅲ区と吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区が隣接している。

Ⅱ区では、工業団地造成に伴う発掘調査が主であるが、それ以外に補助事業による確認調査(221・338～341・375調査区)が行われており、221調査区については概要が報告されている(『132集』)。本項では両者を合わせて報告する。

調査の結果、弥生時代の集落・墓地、中世の墓地などが確認された。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

A 土坑

古代の土坑は2基確認された。

SK0131 出土遺物(図171)

1、2は須恵器蓋の口縁部で、いずれも口縁端部とかえりが同じ高さに位置する。1は内外面ともに回転ナデ調整を行う。2の天井部外面の一部に回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。3は土師器坏で、丸みを帯び、口縁部が内傾しながら立ち上がる。内外面ともに摩耗のため調整不明である。4は土師器甕で、口縁部外面はヨコナデ、胴部にはハケメ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。5は土師器甕の底部で、底面には不規則に孔が空けられている。外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。6は土師器の把手である。

SK0185 出土遺物(図171)

7～10は須恵器蓋である。7は口縁部片で、端部を下方へ屈曲させる。内外面ともに回転ナデ調整を行う。8は天井部破片で、外面には2本のヘラ記号が認められる。天井部外面は回転ヘラケズリ、回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。9は中央がやや膨らむつまみをもち、天井部は低く、口縁端部を下方へ屈曲させる。つまみは回転ナデ、天井部外面は回転ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。10は極めて低い扁平なつまみをもち、口縁端部を丸く仕上げる。内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。11は須恵器壺の底部で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。12は土師器蓋のつまみで、ヨコナデ調整を行う。13は土師器蓋で、天井部より緩やかに下降し、口縁端部は丸く仕上げる。内外面ともに摩耗のため調整を不明である。14は土師器坏で、底部は丸く、口縁部にかけてはやや屈曲しながら開く。内外面ともに摩耗のため調整を不明である。15～17は土師器甕である。15は外面はハケメ、内面は摩耗のため調整不明である。16の外面の一部にヨコナデ、内面の一部にハケメ、ケズリ調整がみられる。17は外面一部はハケメ、内面は摩耗のため調整不明である。18は土師器の鉢の口縁部で、器壁の厚さからかなり大型の鉢と考えられる。外面は摩耗のため調整不明で、内面はナデ調整を行う。

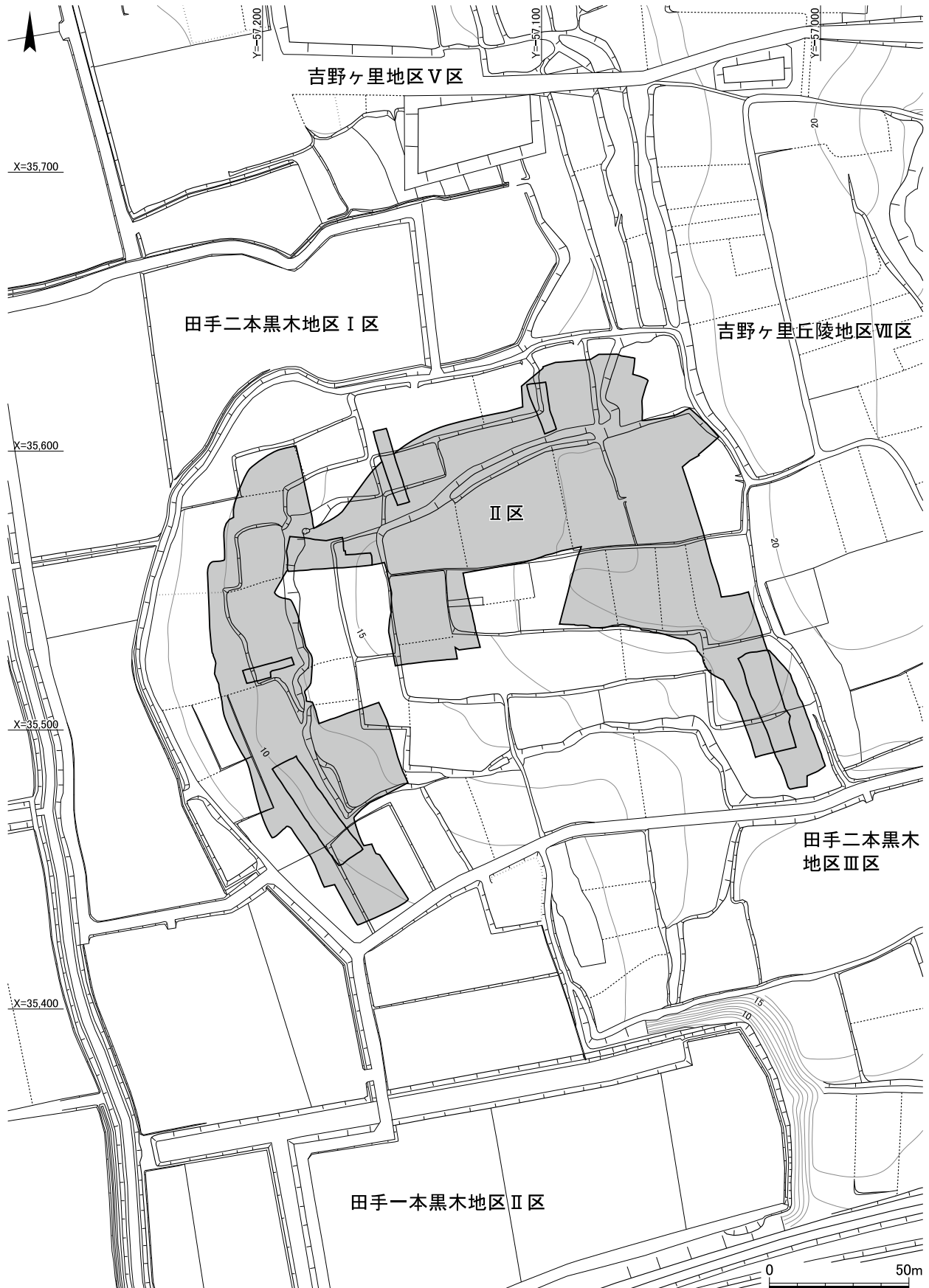


図 166 田手二本黒木地区II区 調査区の位置 (1/2,000)



図 167 田手二本黒木地区Ⅱ区 遺構分布詳細の位置 (1/1,500)

B 不明遺構

古代の不明遺構は 1 基確認された。

SX0261 不明遺構 (図 171)

19、20 は土師器坏である。19 は皿に近い形状をしている。底部外面はヘラ切り離し後未調整、他は摩耗のため調整不明である。20 は高台付坏で、内外面ともに摩耗のため調整不明である。

(3) 田手二本黒木地区Ⅱ区の古代の遺構について

田手二本黒木地区Ⅱ区では、8世紀代の遺構を確認し、土坑 2 基、不明遺構 1 基が確認された。東に位置する吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区と同様に、遺構密度に対し、古代の遺構はほとんど無く、土坑や不明遺構が点在している。



図 168 田手二本黒木地区Ⅱ区 古代の遺構分布 (1/1,500)

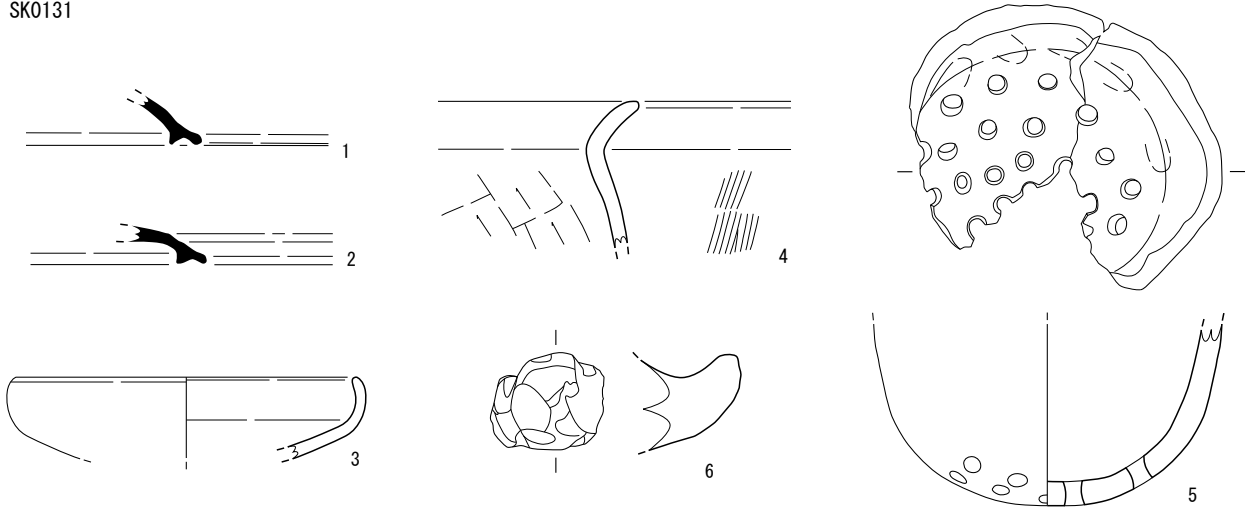


図169 田手二本黒木地区Ⅱ区 遺構分布詳細図1 (1/400)

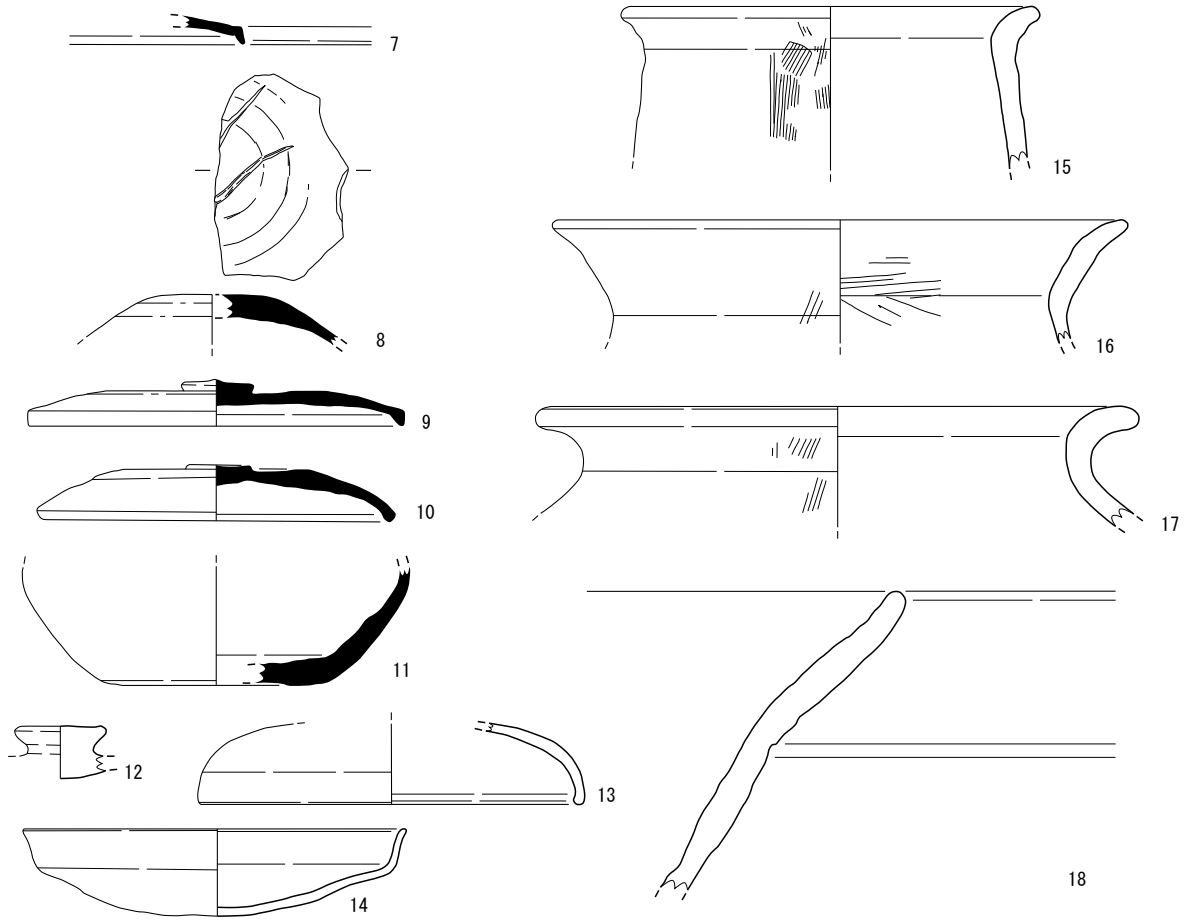


図170 田手二本黒木地区Ⅱ区 遺構分布詳細図2 (1/400)

SK0131



SK0185



SX0261

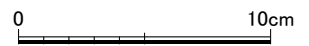
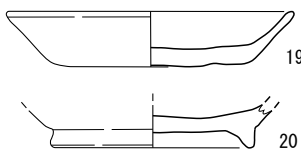


图 171 田手二本黒木地区II区 出土遺物 (1/3)

表 46 田手二本黒木地区Ⅱ区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0131	円形に近い不整形	1.7	1.7	方	0.6	1.4	1.3			7c 後半	
SK0185	円形に近い	1.5	1.45	台	—	1.0	0.8			8c 前半	

表 47 田手二本黒木地区Ⅱ区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 171-1	22000223	SK0131	須恵器	蓋			2.0+	灰黄	灰黄	
図 171-2	09003829	SK0131	須恵器	蓋			1.6+	灰	灰	
図 171-3	09003826	SK0131	土師器	坏	13.5*		3.2+	淡褐	淡褐	
図 171-4	09003825	SK0131	土師器	甗			5.8+	明褐	明褐	
図 171-5	09003828	SK0131	土師器	甗			7.2+	明褐	明褐	
図 171-6	09003827	SK0131	土師器	把手			3.8+	淡褐	淡褐	
図 171-7	22000225	SK0185	須恵器	蓋			1.1+	黒	灰	
図 171-8	22000226	SK0185	須恵器	蓋			2.0+	灰	灰	天井部外面にヘラ記号
図 171-9	09004210	SK0185	須恵器	蓋	14.9*		1.8+	褐灰	褐灰	
図 171-10	09004209	SK0185	須恵器	蓋	14.2		2.2	灰	灰	
図 171-11	09004211	SK0185	須恵器	壺		9.2*	4.6+	灰	灰	
図 171-12	22000224	SK0185	土師器	蓋			2.1+	橙	橙	
図 171-13	09004212	SK0185	土師器	蓋	15.3*		3.2+	明黄褐	明黄褐	
図 171-14	09004213	SK0185	土師器	坏	15.2*		3.4	淡褐	淡褐	
図 171-15	09004218	SK0185	土師器	甗	16.6*		6.5+	明黄褐	暗褐	
図 171-16	09004216	SK0185	土師器	甗	22.7*		4.9+	明黄褐	明黄褐	
図 171-17	09004217	SK0185	土師器	甗	24.0*		4.7+	明黄褐	明黄褐	
図 171-18	09004214	SK0185	土師器	鉢			11.8+	淡褐	淡褐・黒褐	
図 171-19	22000238	SX0261	土師器	坏	11.5*	7.5	2.2	浅黄橙	浅黄橙	
図 171-20	22000239	SX0261	土師器	坏			8.1	にぶい黄橙	にぶい橙	

7 田手二本黒木地区Ⅲ区

(1) 概要

田手二本黒木地区Ⅲ区は、吉野ヶ里町大字田手字二本黒木に所在しており、志波屋・吉野ヶ里段丘上に立地している。西側には田手二本黒木地区Ⅱ区、南側は田手一本黒木地区、北側には吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区が隣接しており、東側には田手川を挟んで杉籠地区が位置している。

Ⅲ区では、工業団地造成に伴う発掘調査が一部実施された他に、補助事業による確認調査（154・191・192 調査区：『132集』、224・225・268 調査区：『156集』、318 調査区：『160集』、346・367 調査区）や、国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う調査（323～345・347・354～357 調査区：『173集』、376 調査区）が行われている。本項では、段丘上に立地する前期の環壕とその内部にあたる318・345～346 調査区を中心とした部分について報告する。

これまでの調査の結果、弥生時代の集落・墓地、古墳時代前期の集落・墳墓、古代の溝・墳墓、中世の道路状遺構・溝などが確認された。なかでも、弥生時代前期の環壕と、その内部に集中的に分布する竪穴建物や貯蔵穴などが特徴である。なお、Ⅲ区は遺跡保存決定後に調査を行った箇所が主体であることから、発掘調査では遺構保存のため基本的に遺構を完掘せず、部分的な掘削に留めている。

なお、当地区の古代の遺構、遺物については一部が『国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書』（221集）、『墓地総括・補遺編』（222集）にて報告されており、重複する箇所もあるが、改めて古代の遺物について検討を行う。

(2) 遺構と遺構に伴う遺物

A 溝

古代の溝は1条確認された。

SD1533 溝

355 調査区東側に位置し、全長 7.0m、幅 3.4～4.4m の南北の溝である。断面は緩やかな V 字形で、深さは 0.95m である。両端は調査区外に伸びており、真ん中を中世の溝によって切られる。最下層に砂利や土器を多く含むという土層の観察所見から道路状遺構の可能性が指摘されている。（『211集』）

SD1533 出土遺物（図 179）

1～3 は土師器碗の底部である。いずれも底部外面はヘラ切り離し後未調整、高台内に板状圧痕がみられる。体部から高台にかけてヨコナデ、底部内面はナデ調整を行う。4、5 は黒色土器で、4 は内面に黒化処理、5 は内外面に黒化処理を施す。4 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。5 は内外面ともにミガキ調整を行う。6 は韃の羽口である。

B 土坑

古代の土坑は13基確認された。

SK0352 出土遺物（図 180）

7 は土師器高坏である。坏部は皿状に平たく、脚部は裾部に向かって広がる。坏部外面はヨコナデ、内面はナデ、脚部は摩耗のため調整不明である。

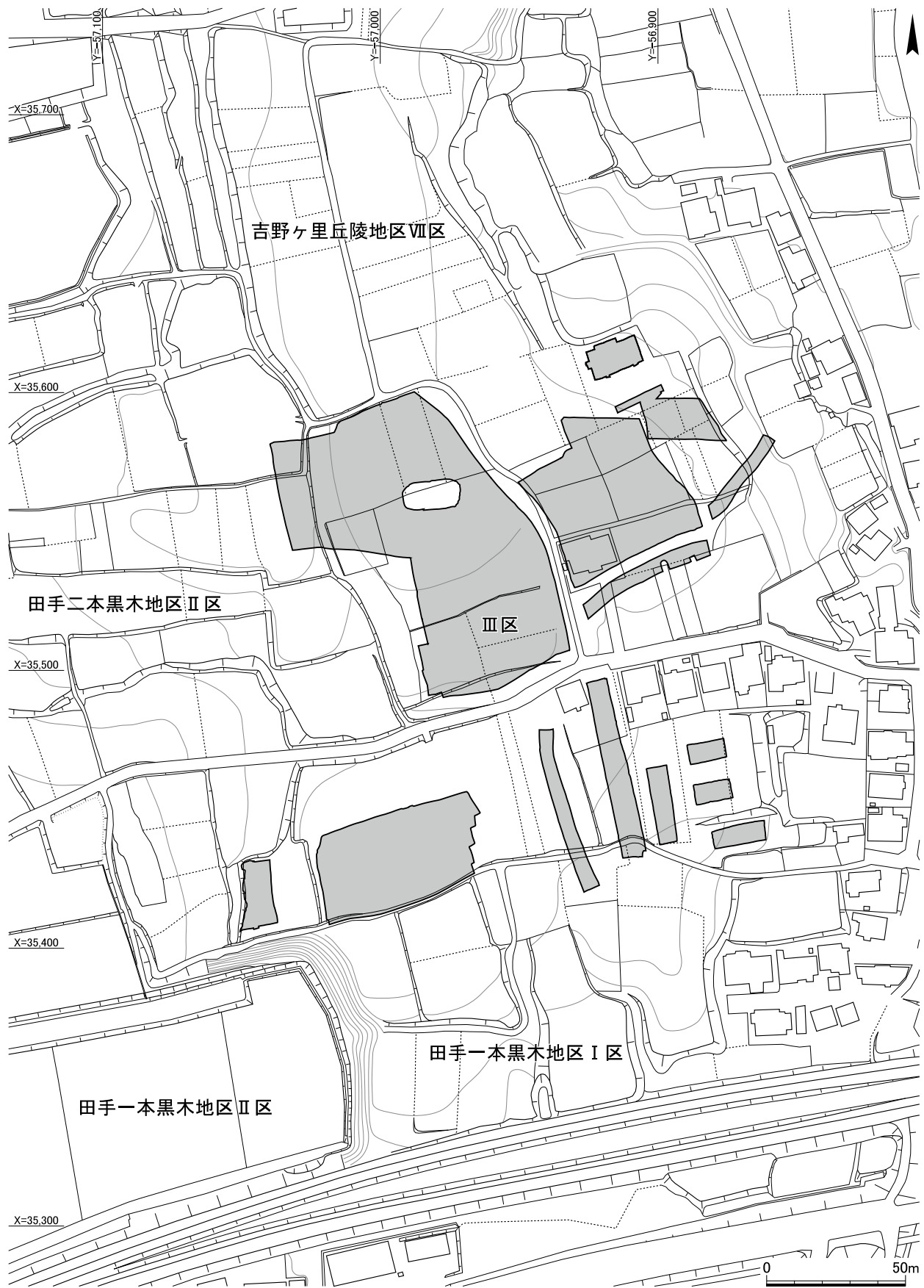


図 172 田手二本黒木地区Ⅲ区 調査区の位置 (1/2,000)

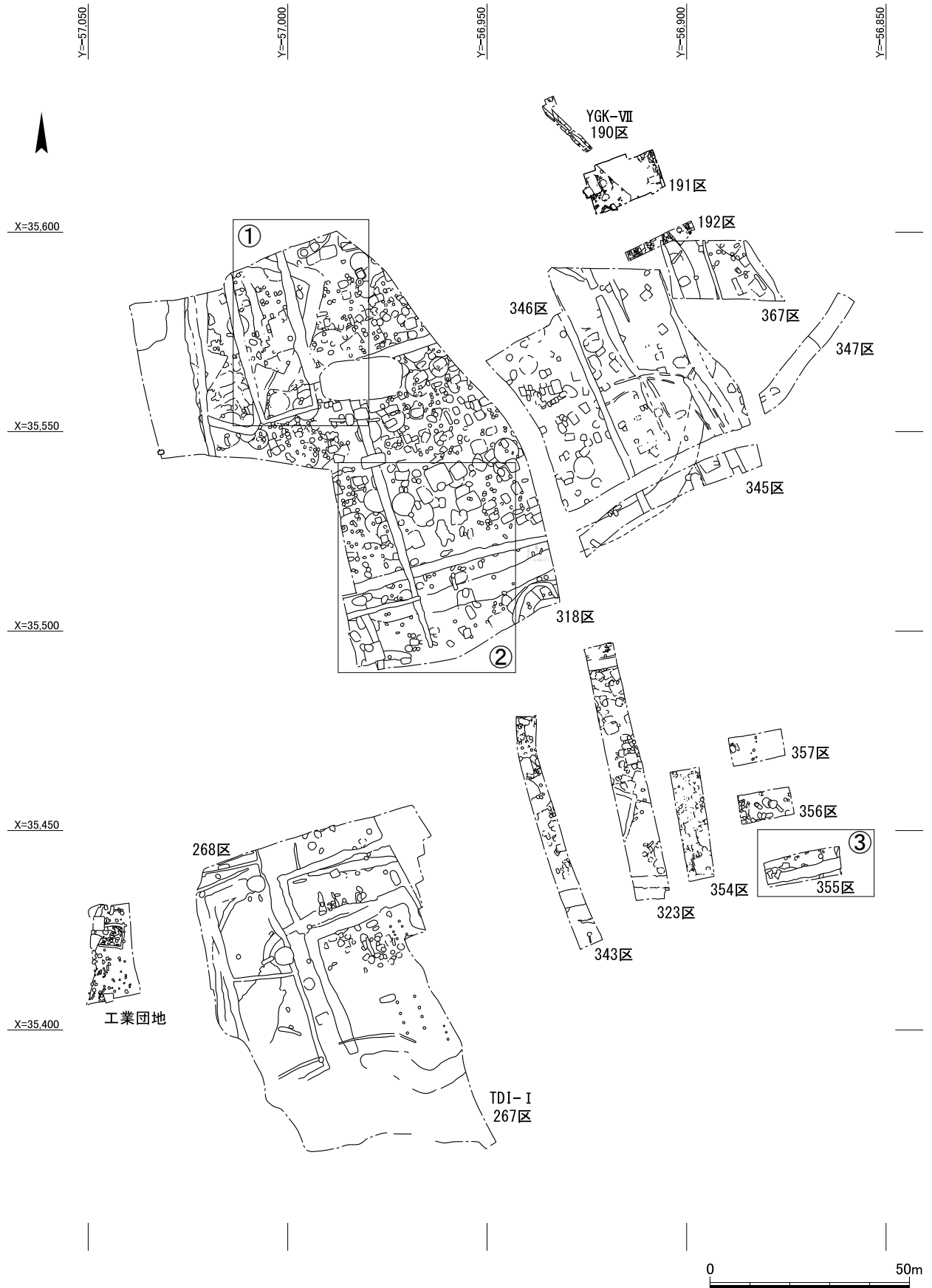


図 173 田手二本黒木地区Ⅲ区 遺構分布詳細図の位置 (1/1,400)

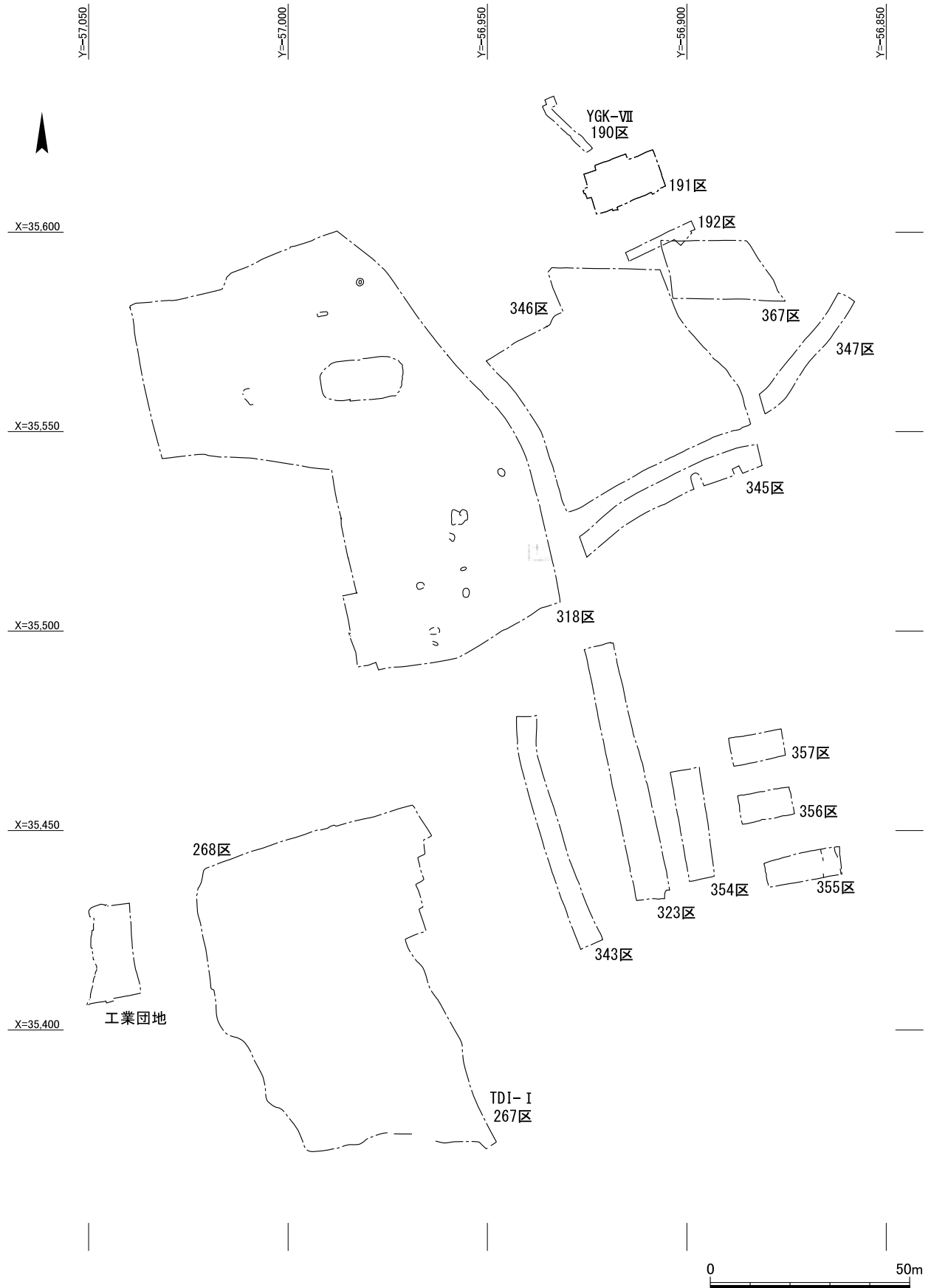


図 174 田手二本黒木地区Ⅲ区 古代の遺構分布 (1/1,400)

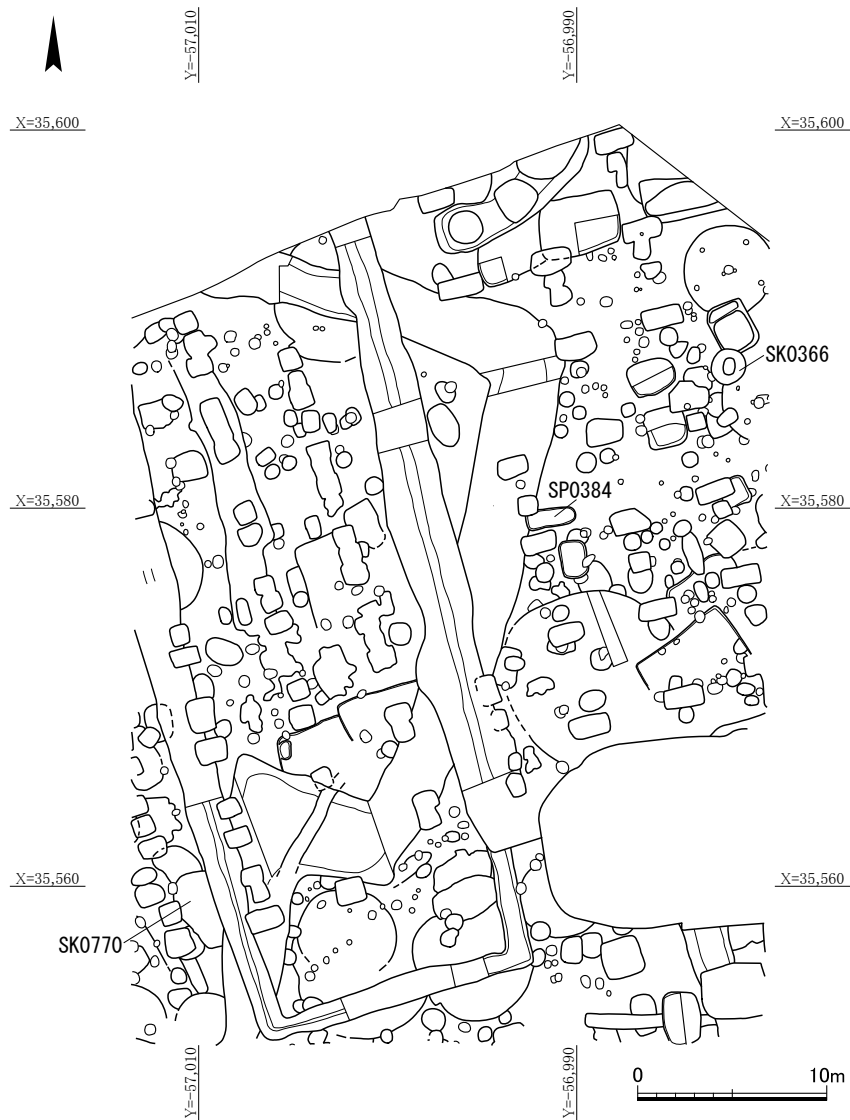


図 175 田手二本黒木地区Ⅲ区 遺構分布詳細図1 (1/400)

SK0366 出土遺物 (図 180 ~ 182)

8 ~ 15 は須恵器蓋である。8、10、11 はかえりを有する蓋である。8 は口縁部破片で、かえりと口縁端部が同じ高さに位置する。9 は天井部外面に 3 本がそれぞれ交差するヘラ記号が認められる。10 はかえりが口縁端部よりせり出ており、内側を向く。11 は天井部は水平になり、かえりが口縁端部より低い位置にある。12 は扁平で低いつまみをもつ。13 は口縁端部を肥厚させ、端部を平坦に仕上げる。14、15 は天井部が低く、水平に近い形で開く器形で、15 は口縁端部を下方へ長く突出させる。8、13 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。9 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。10、12、14、15 の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。11 は天井部外面は回転ヘラケズリ、口縁部は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。16 ~ 22 は須恵器坏である。16 ~ 20、22 は高台付坏である。16 の高台は低く、口縁部は直線的に開く。17 ~ 20 は底部で、低い高台をもつ。21 は口縁部が屈曲し、直口する形となる。22 は口縁端部がやや外反しながら開く。16、22 の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。17、18 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。19、20 の外面は回転ナデ、内面はナデ調整を行う。21 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。23 は須恵器甕で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。24 ~ 27 は土師器蓋である。26 は宝珠状のつまみをもち、口縁部が外反気味に開く。27 は器高が低く、水平に近い形で開く。

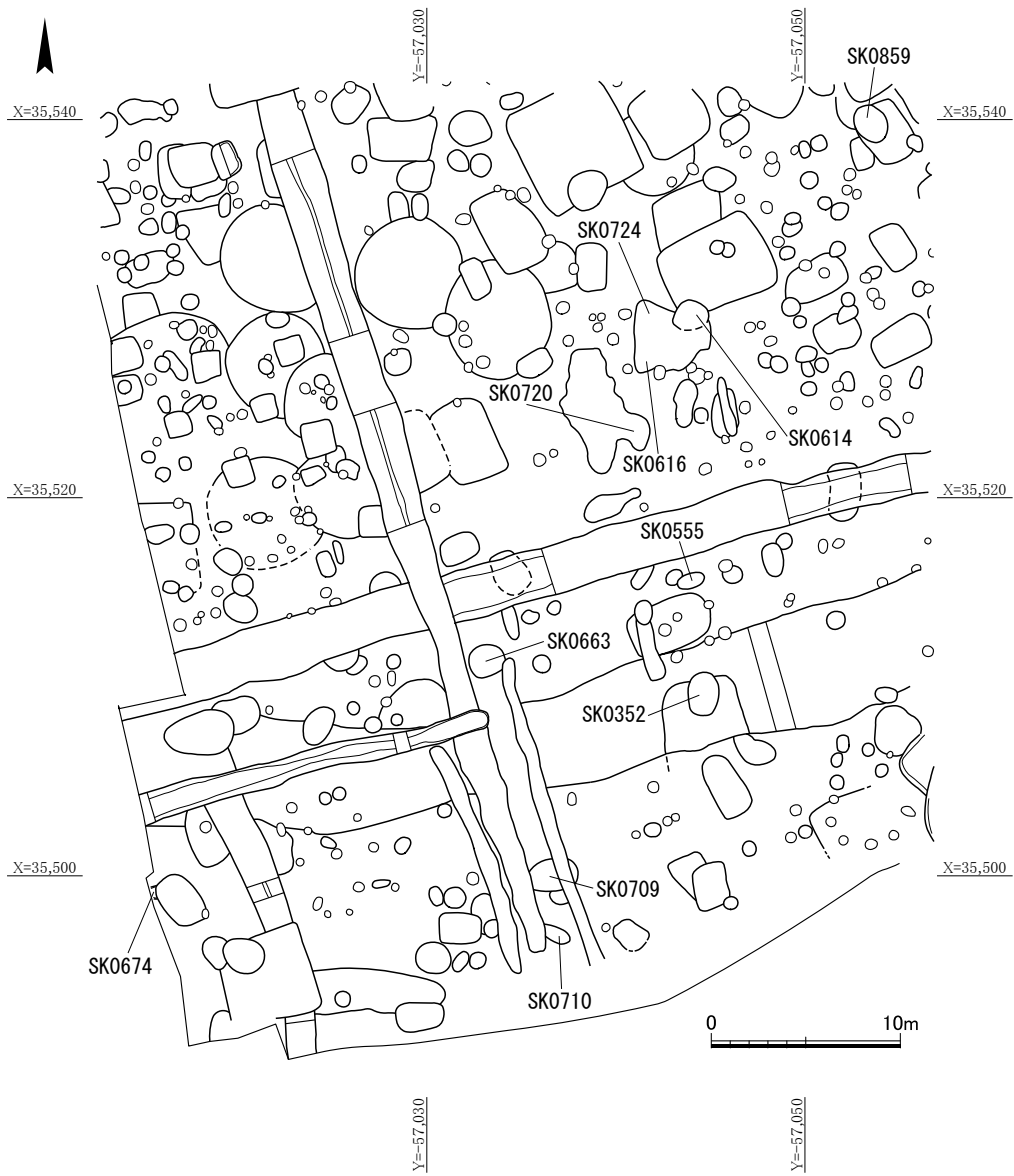


図 176 田手二本黒木地区Ⅲ区 遺構分布詳細図 2 (1/400)

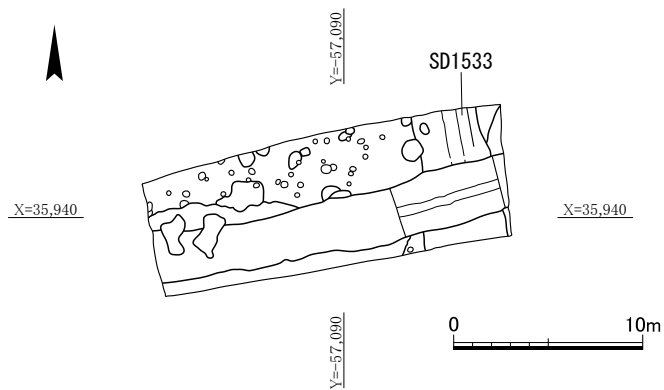


図 177 田手二本黒木地区Ⅲ区 遺構分布詳細図 3 (1/400)

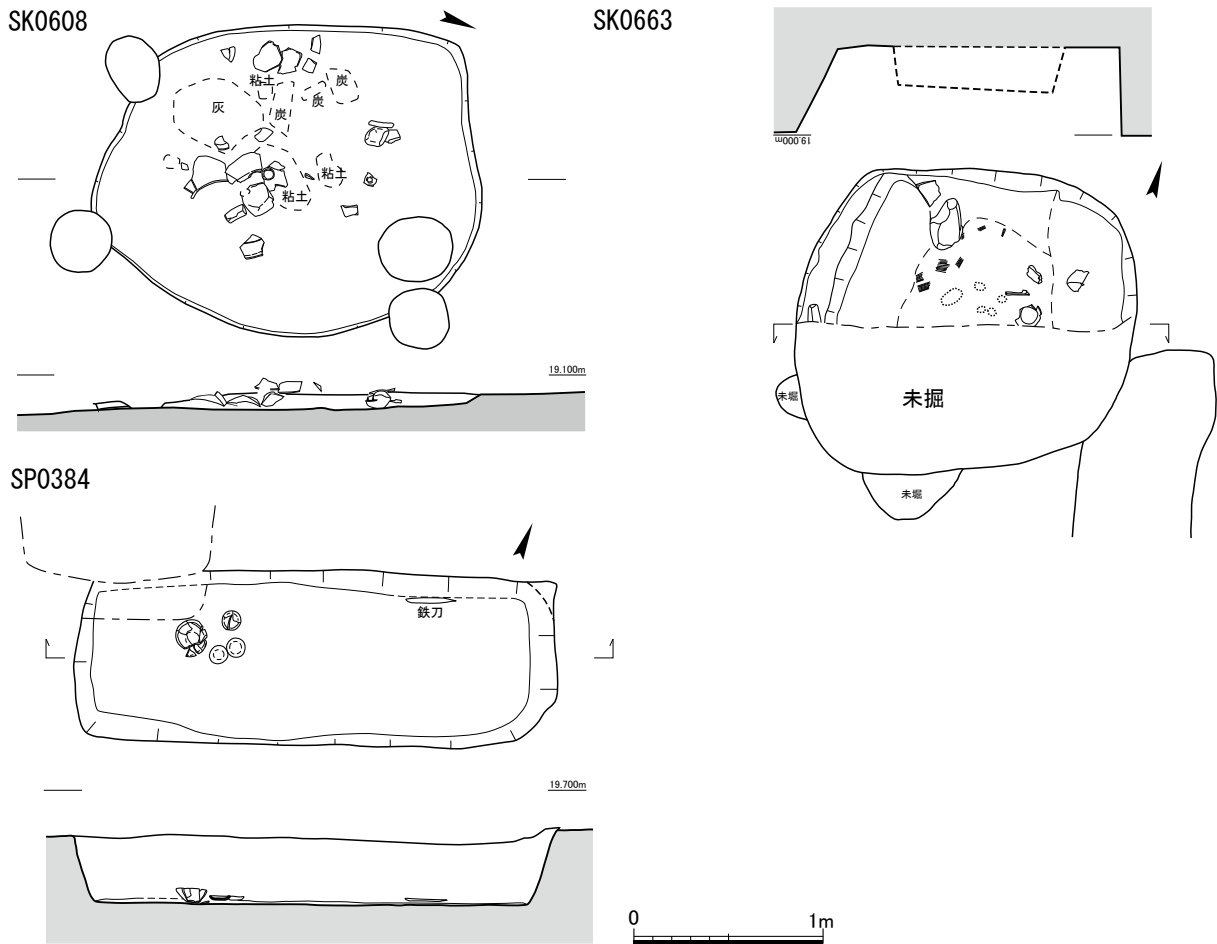


図 178 田手二本黒木地区Ⅲ区 土坑・土坑墓 (1/40)

表 48 田手二本黒木地区Ⅲ区 土坑

遺構番号	上面			断面形	深さ	底面		新旧関係		時期	特記事項
	平面形	長軸	短軸			長軸	短軸	旧	新		
SK0352	楕円	2.3	1.6	—	—	—	—			8c 前半?	
SK0366	円	1.9	1.8	台	0.9	0.7	0.3			7c 後半～8c 前半	
SK0555	楕円	1.5	0.8	—	—	—	—			古代?	
SK0608	楕円	2.1	1.7	—	—	—	—			8c 後半～9c 前半	
SK0614	楕円	1.9	1.6	台	0.6	1.2	0.8	SK0616 SK0724		8c ?	
SK0616	不整形	4.0	2.1+	—	0.6	—	—		SK0614	8c 前半	
SK0663	隅丸方形に近い	1.8	1.6	台	0.5	1.6	0.5+			8c	
SK0674	不整形	0.7	0.2+	台	-	0.5	0.2+			8c～9c	
SK0709	楕円	2.5	1.7	—	—	—	—			7c 後半	
SK0710	楕円	1.4	0.8	台	0.3	1.0	0.4			8c ?	
SK0720	不整形	0.4+	0.4	—	—	—	—			8c 後半	
SK0724	不整形	2.0	1.7+	—	0.7	—	—		SK0614	8c 後半	
SK0770	楕円	4.2	2.0+	—	—	—	—			7c～8c	

表 49 田手二本黒木地区Ⅲ区 土坑墓

遺構番号	種類	平面形	主軸方位	構造	一次墓坑		深さ	二次墓坑		深さ	時期	特記事項
					長軸	短軸		長軸	短軸			
SP0384	土坑墓	隅丸長方形	N67.2° E		2.5	0.9	0.4				10c 後半	

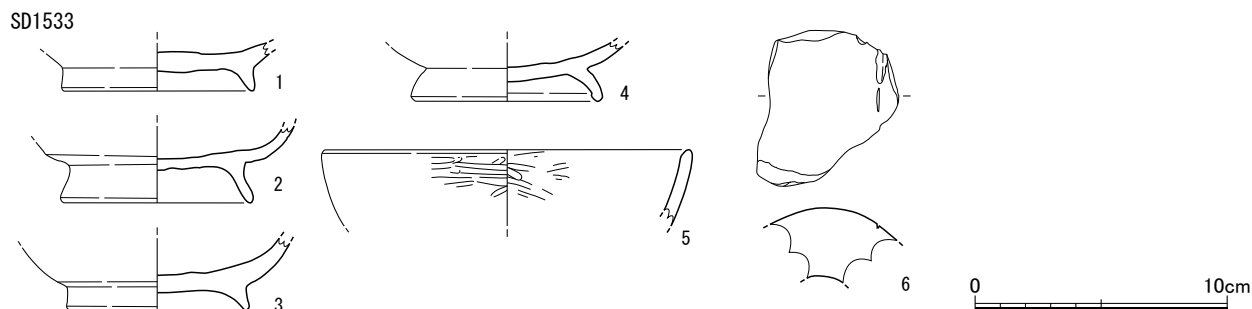


図 179 田手二本黒木地区Ⅲ区 出土遺物 1 (1/3)

24 は内外面ともに回転ナデ、ナデ調整を行う。25 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。26、27 の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。28～33 は土師器坏である。29、33 は皿状の形状を呈しており、32 は皿の可能性もある。28 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。29 の外面はヨコナデ、内面は摩耗のため調整不明である。30、31 の外面はヨコナデ、ナデ、内面はナデ調整を行う。32 は内外面ともにヨコナデ、ナデ調整を行う。33 の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。34 は土師器鉢である。口縁部は短く伸び、底部は丸くなる。口縁部外面はヨコナデ、胴部から底部はハケメ、内面はヨコナデ、ケズリ調整を行う。35～39 は土師器甕である。39 は厚手の把手が胴部に付く。35、37、38 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、口縁部内面にハケメ、胴部はケズリ調整を行う。36 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はナデ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。39 の外面はナデ、内面はケズリ調整を行う。40 は土師器甕である。口縁部はやや外反し、胴部から底部にかけて少し内傾する。胴部中位ほどに把手が付く。口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、把手はナデ、口縁部内面はヨコナデ、胴部から底部にかけてハケメ調整を行う。胴部の 1/4 に黒斑がみられる。41 は土師器の把手である。外面にハケメ、内面にケズリ調整を行う。

SK0555 出土遺物 (図 182)

42 は土師器甕で、底部が欠損する。口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、内面はケズリ調整を行う。

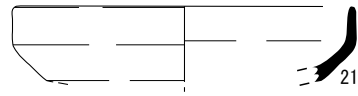
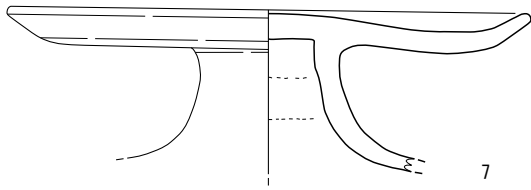
SK0608 土坑 (図 178)

平面は楕円形で、床面には灰や粘土とともに炭化物が混ざる。上部が大きく削平されており、床面がわずかに残る。

SK0608 出土遺物 (図 182,183)

43、44 は須恵器坏蓋の身である。いずれも内傾気味に口縁部が立ち上がる。43 の外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。底部外面にヘラ記号が認められる。44 の口縁部外面は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。45 は須恵器甕で、口縁部内外面ともに回転ナデ、胴部外面は格子目のタタキ、内面は同心円当て具痕がみられる。46、47 は土師器坏で、46 は高台を持たない坏で、47 の口縁部は直線的に開く器形である。46 の外面はヨコナデ、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。47 は内外面ともに摩耗のため調整不明である。48～50 は土師器甕である。48 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ後ナデ調整を行う。外面の一部に黒斑がみられ、内面には煤が付着する。49 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ調整を行う。50 の口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケメ、口縁部内面はヨコナデ、内面はケズリ調整を行う。内面には煤が付着する。51 は鉄鎌で、刃部は内湾し、刃先を欠損する。折り返し部は明瞭に見えない。

SK0352



SK0366

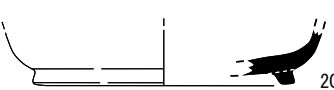
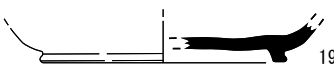
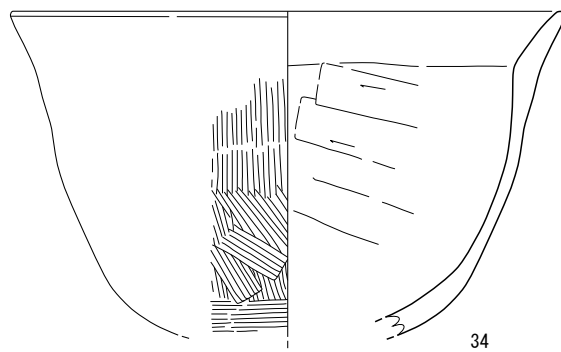
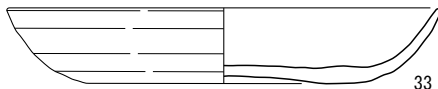
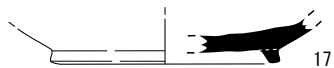
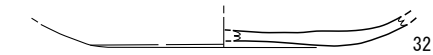
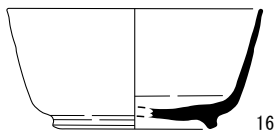
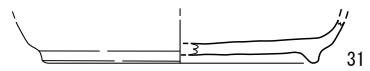
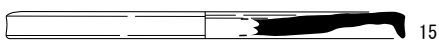
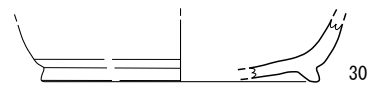
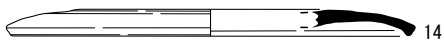
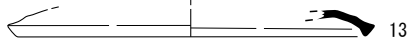
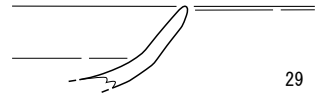
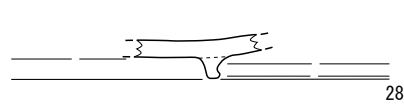
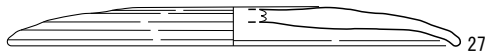
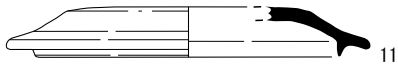
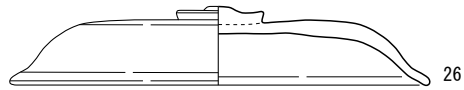
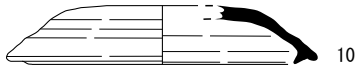
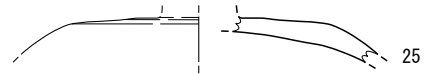
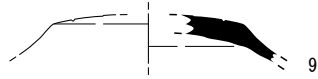
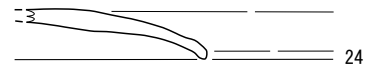
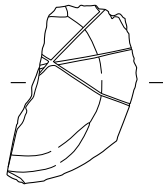
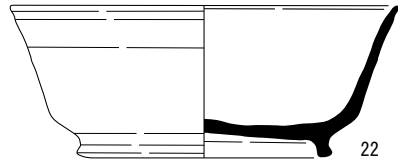


図 180 田手二本黒木地区Ⅲ区 出土遺物 2 (1/3)

SK0366

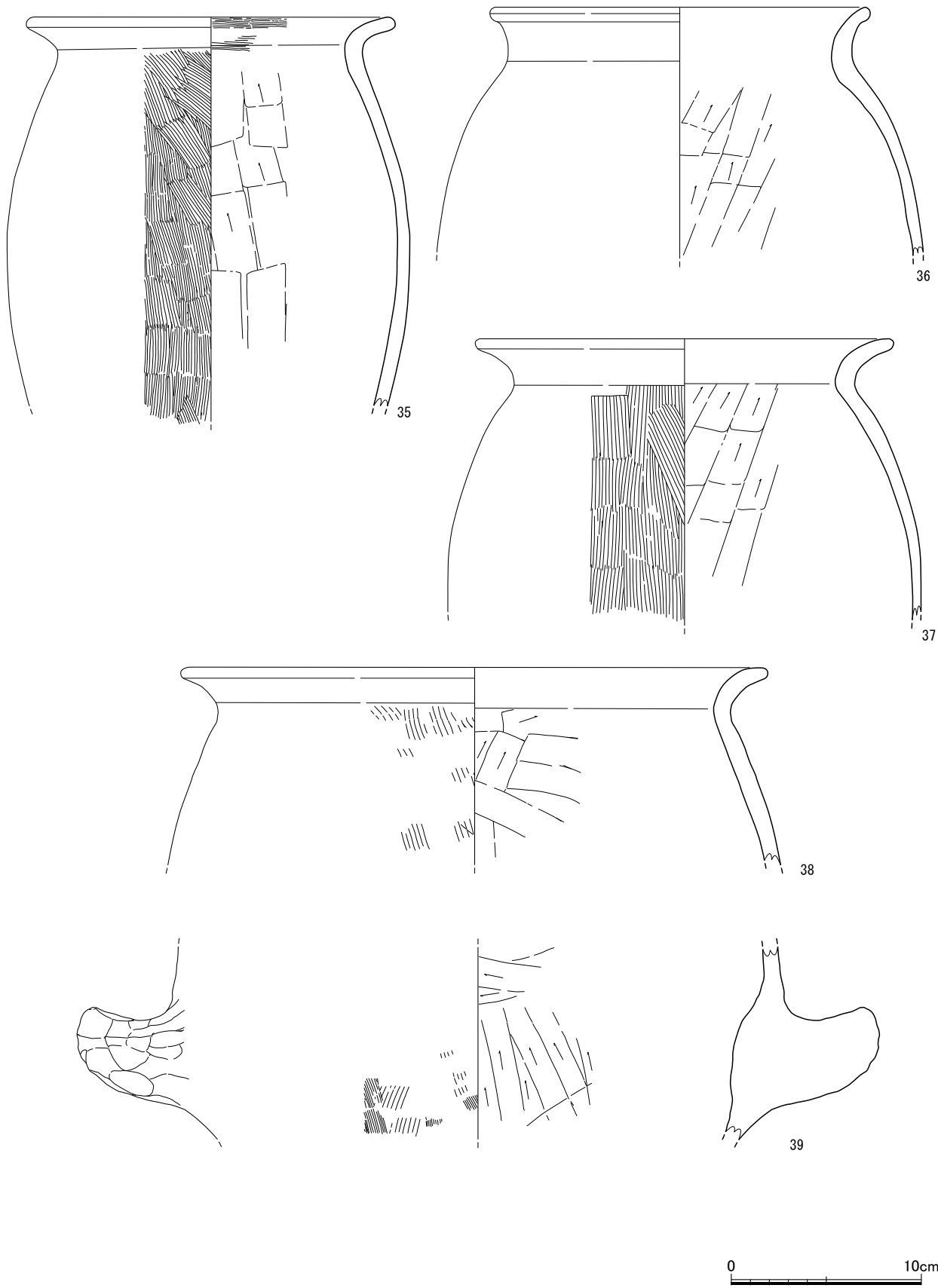
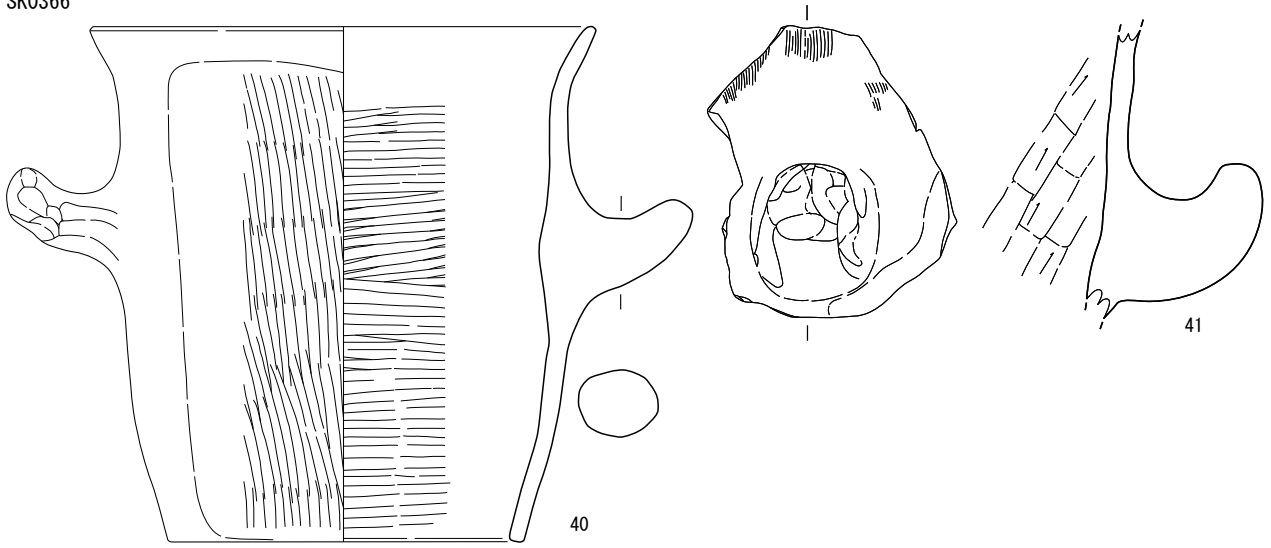
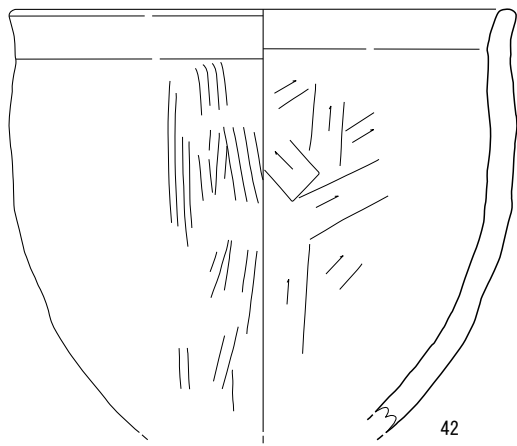


图 181 田手二本黒木地区Ⅲ区 出土遺物 3 (1/3)

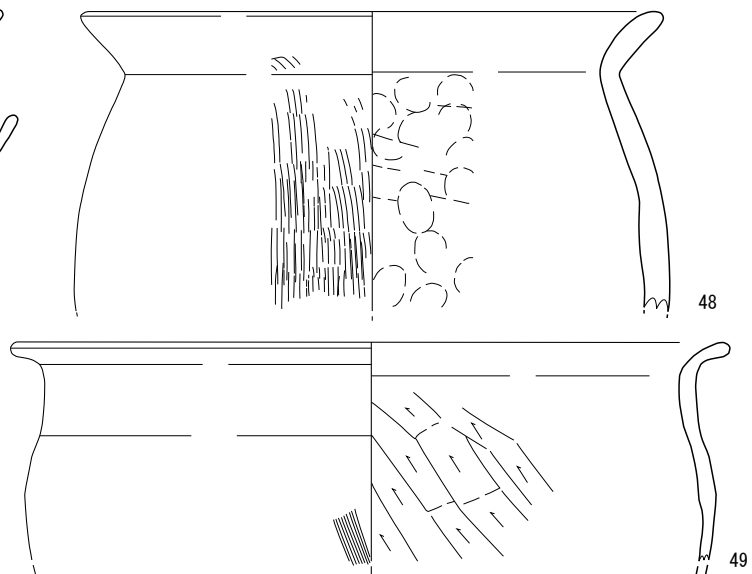
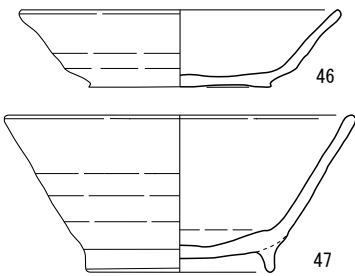
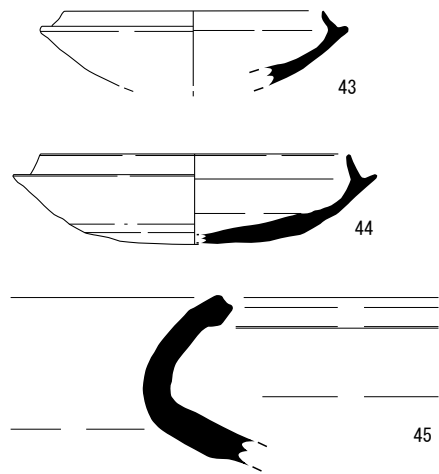
SK0366



SK0555



SK0608



0 10cm

図 182 田手二本黒木地区Ⅲ区 出土遺物 4 (1/3)

SK0614 出土遺物 (図 183)

52 は須恵器環で、体部外面に 2 本の沈線が巡る。高環の環部の可能性もある。口縁部外面は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ調整を行う。53 は土師器鉢である。外面は摩耗のため調整不明で、内面にはわずかにハケ状の工具痕がみられる。54 は土師器の把手である。

SK0616 出土遺物 (図 183)

55 は須恵器蓋で、天井部が低く、口縁端部は下方へやや屈曲する。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。56 は須恵器高台付環で、高台の接地部分は面をなし、口縁端部が外反する。口縁部外面は回転ナデ、高台に灰かぶり、高台内はヘラ切り離し後未調整、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。57 は須恵器甕の口縁部片である。口縁端部を強いナデ調整によって突帯状につくりだす。外面は回転ナデ、口縁部下半に波状文、内面は回転ナデ調整を行う。58～60 は土師器環で、いずれも丸みを帯びた形状である。58 の口縁部外面は回転ナデ、体部から底部にかけて回転ヘラケズリ、内面は摩耗のため調整不明である。59 の外面は摩耗のため調整不明で、内面は回転ナデ調整を行う。60 は内外面ともに回転ナデ調整を行う。

SK0663 土坑 (図 178)

318 区中央よりやや南に位置する。平面は楕円形で、床面には礫や粘土とともに炭化物が混ざる。調査は半裁までに留めている。

SK0663 出土遺物 (図 183)

61 は土師器環で、高台付近は回転ナデ、高台内はヘラ切り離し後ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。

SK0674 出土遺物 (図 183)

62 は土師器環で、底部が平たく口縁部が短く開く形状である。口縁部外面はヨコナデ、底部は板状圧痕、内面はヨコナデ、ナデ調整を行う。

SK0709 出土遺物 (図 183)

63 は須恵器環蓋の身で、口縁部は短く立ち上がり、底部は器壁がやや厚くなる。口縁部外面は回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデ調整を行う。64 は須恵器高台付環で、高台はやや高く外側に張り出す。高台付近は回転ナデ、高台内はヘラ切り離し後ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。

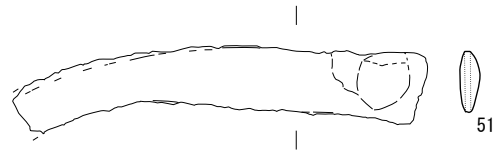
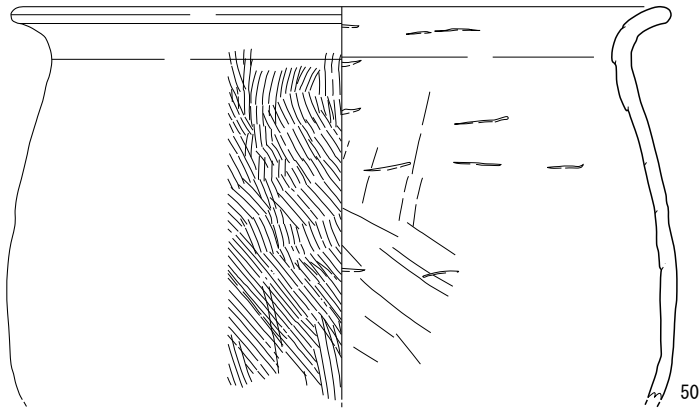
SK0710 出土遺物 (図 183)

65 は土師器甕で、口縁部内外面ともにヨコナデ、胴部外面はハケメ、内面はケズリ調整を行う。

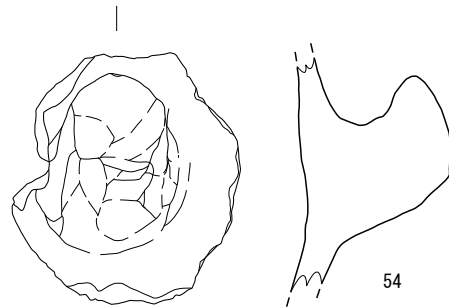
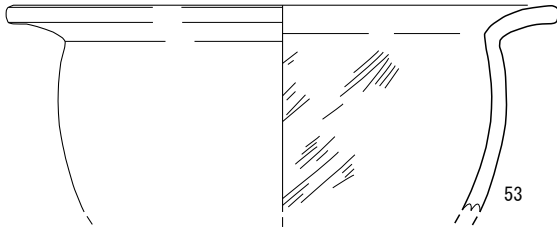
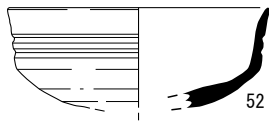
SK0720 出土遺物 (図 184)

66 は須恵器蓋で、歪みにより中央部分が緩やかに凹む。扁平で低いつまみをもち、口縁端部を下方へ屈曲させる。つまみはナデ、天井部から口縁部外面は回転ナデ、内面は回転ナデ調整を行う。67 は土師器甕で、外面はヨコナデ、ナデ、内面はヨコナデ、ナデ、ケズリ調整を行う。

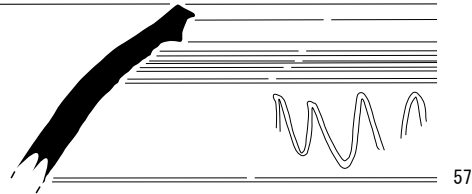
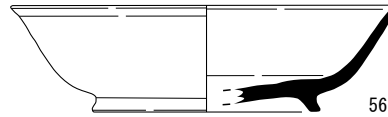
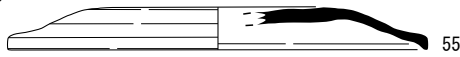
SK0608



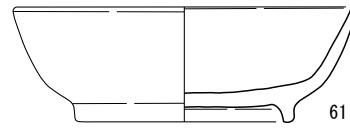
SK0614



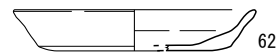
SK0616



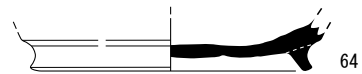
SK0663



SK0674



SK0709



SK0710

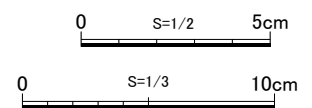
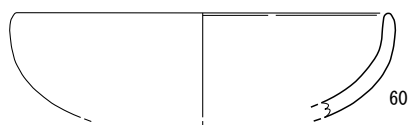
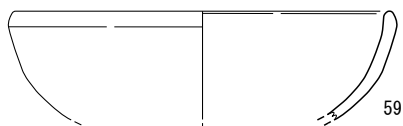
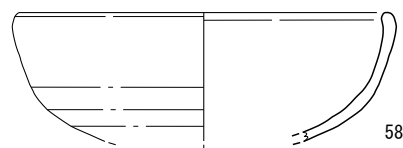
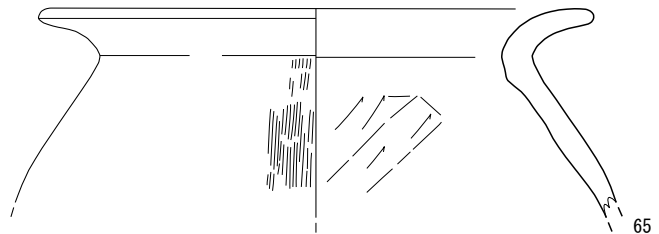
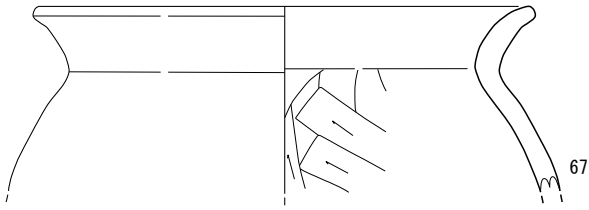


図 183 田手二本黒木地区Ⅲ区 出土遺物 5 (51 は 1/2, 他は 1/3)

SK0720



66

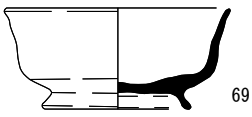


67

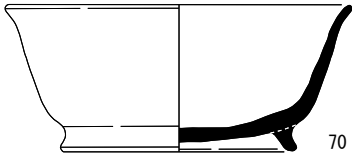
SK0724



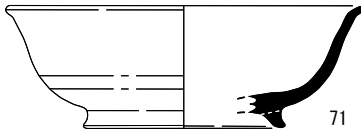
68



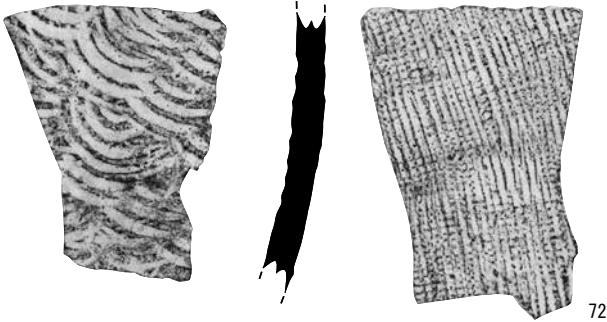
69



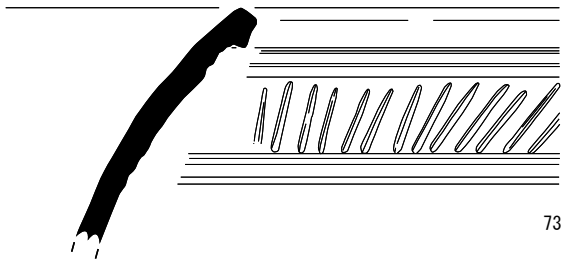
70



71

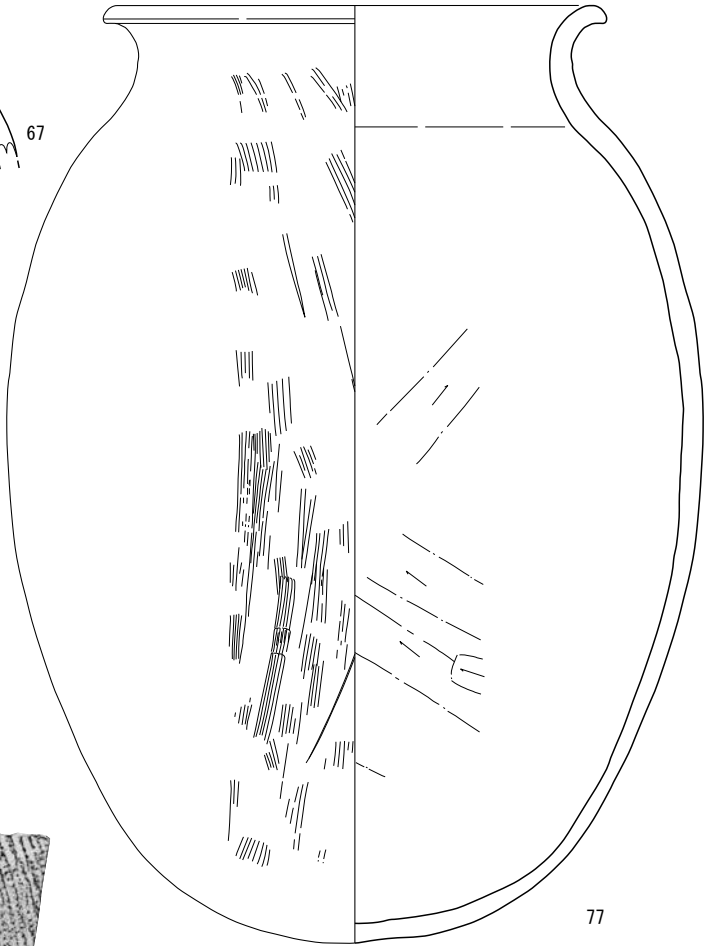


72

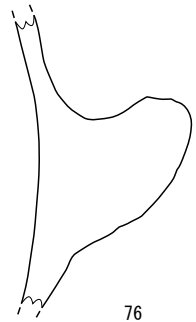
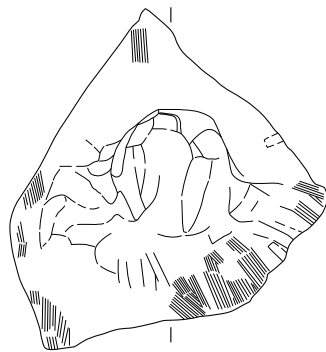


73

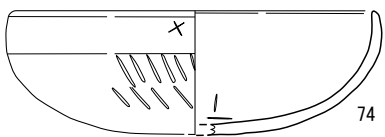
SK0770



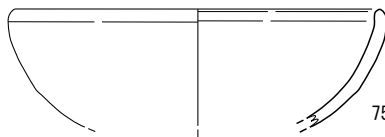
77



76



74



75



图 184 田手二本黒木地区Ⅲ区 出土遺物 6 (1/3)

SK0724 出土遺物 (図 184)

68 は須恵器蓋で、口縁端部を下方へ屈曲させる。外面は回転ナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。69～71 は須恵器高台付坏で、69 は小型品である。いずれも高台は外側に張り出し、口縁端部を外反させる。口縁部外面は回転ナデ、体部下端に回転ヘラケズリ、高台は回転ナデ、高台内はナデ、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。70、71 の外面は回転ナデ、高台内はヘラ切り離し後未調整、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。72 は須恵器甕の胴部片で、外面は目が細かい格子状のタタキ、内面は同心円当て具痕がみられる。73 は須恵器甕の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を行う。口縁部外面には棒状の工具痕がみられる。74、75 は土師器坏で、全体的に丸みを帯びた形状である。74 の口縁部外面はヨコナデ、体部から底部にかけてタタキ後ナデ、内面はヨコナデ、底部に工具痕がみられる。75 の口縁部外面はヨコナデ、体部から底部はナデ、内面は摩耗のため調整不明である。76 は土師器の把手である。

SK0770 出土遺物 (図 184)

77 は土師器甕で、口縁部は強く外反し、胴部は楕円状に長くなり、底部は丸くなる。口縁部外面はヨコナデ、ハケメ後ナデ、体部はハケメ後ナデ、底部はナデ、口縁部内面はヨコナデ、胴部はケズリ、底部はナデ調整を行う。外面の一部に黒斑がみられる。

C 土坑墓

古代の土坑墓は 1 基確認された。

SP0384 土坑墓 (図 178)

318 区北西部に位置する。平面隅丸長方形で、北西部の一部を攪乱に切られる。床面西側から土師器皿 3 点と黒色土器椀がまとめて出土し、少し離れた東の北壁で鉄刀が出土した。

SP0384 出土遺物 (図 185)

78～80 は土師器皿である。いずれも口縁部外面は回転ナデ、底部はヘラ切り離し後未調整、内面は回転ナデ、ナデ調整を行う。81 は黒色土器椀で、高台は外側に張り出し、口縁端部を外反させる。口縁部外面はミガキ、高台付近は回転ナデ、高台内はナデ、内面はミガキ調整を行う。内外面ともに黒化処理を施す。82 は完形の鉄刀で、刀身中央より先にかけて木質が残っており、鞘入りの状態であった可能性が高い。

SP0384

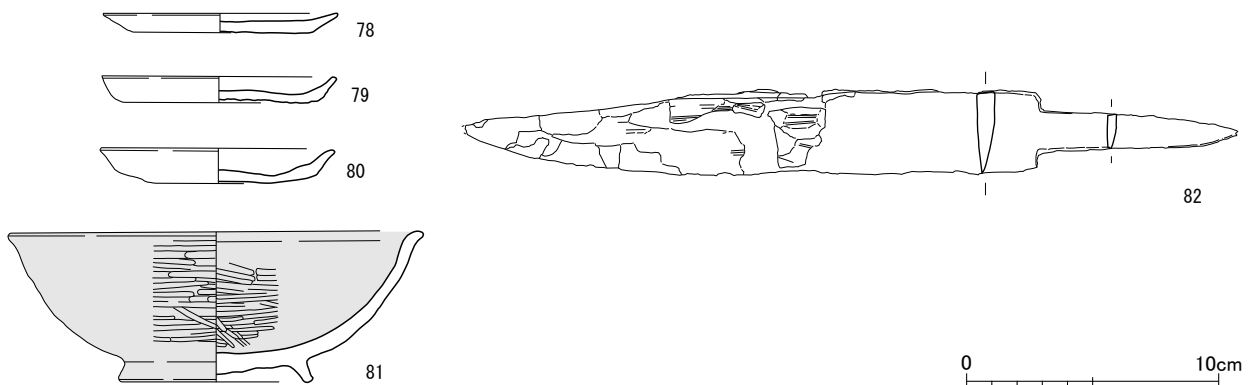


図 185 田手二本黒木地区Ⅲ区 出土遺物 7 (1/3)

(3) 田手二本黒木地区Ⅲ区の古代の遺構について

田手二本黒木地区Ⅲ区では、8世紀～9世紀代の遺構を確認し、土坑13基、土坑墓1基を確認した。

古代の遺構は318区に集中しており、北側には土坑墓が1基、南側には土坑が複数位置している。周辺の調査区も含めて遺跡南端部は古代の遺構分布が希薄である。

表50 田手二本黒木地区Ⅲ区 出土土器

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	出土位置	種別	器種	寸法 cm			色調		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
図 179-1	15001380	SD1533	土師器	椀		7.7*	1.8+	橙	にぶい橙	板状圧痕
図 179-2	15001378	SD1533	土師器	椀		7.6	3.5+	橙	橙	板状圧痕
図 179-3	15001379	SD1533	土師器	椀		7.3*	2.8+	橙	橙	板状圧痕
図 179-4	15001382	SD1533	黒色土器	椀		7.6*	2.4+	浅黄橙	黄灰	黒色土器A類
図 179-5	15001383	SD1533	黒色土器	椀		14.7*	2.0+	黒褐	黒褐	黒色土器B類
図 179-6	15001385	SD1533	土製品	鞆の羽口			6.0+	浅黄橙	浅黄橙	
図 180-7	06000284	SK0352	土師器	高坏	20.8*		6.4+	浅黄橙	浅黄橙	
図 180-8	22000248	SK0366	須恵器	蓋			1.4+	灰	灰	
図 180-9	22000254	SK0366	須恵器	蓋			1.8+	にぶい橙	明褐	天井部外面に ヘラ記号
図 180-10	06000773	SK0366	須恵器	蓋	10.6*		2.3	灰	灰白	
図 180-11	06000772	SK0366	須恵器	蓋	12.0*		2.0	灰白	灰白	
図 180-12	22000247	SK0366	須恵器	蓋			1.4+	灰黄	灰黄	
図 180-13	22000249	SK0366	須恵器	蓋	14.6*		1.1+	褐灰	褐灰	
図 180-14	06000771	SK0366	須恵器	蓋	15.9*		1.1	灰	灰	
図 180-15	06000770	SK0366	須恵器	蓋	15.9*		1.1	暗褐	暗褐	
図 180-16	06000776	SK0366	須恵器	坏	10.2*	6.5*	4.8	灰	灰	
図 180-17	22000244	SK0366	須恵器	坏		9.2*	1.8+	灰	灰	
図 180-18	22000246	SK0366	須恵器	坏		9.2*	1.9+	灰白	灰白	
図 180-19	22000245	SK0366	須恵器	坏		9.8*	1.7+	灰	灰	
図 180-20	22000243	SK0366	須恵器	坏		10.4*	2.2+	灰	灰	
図 180-21	06000775	SK0366	須恵器	坏	13.2*		3.0+	灰	灰	
図 180-22	06000774	SK0366	須恵器	坏	15.4*	10.2*	6.0	灰	灰	
図 180-23	22000250	SK0366	須恵器	甕			2.0+	灰	灰	
図 180-24	07001726	SK0366	土師器	蓋			2.0+	黄褐	黄褐	
図 180-25	22000253	SK0366	土師器	蓋			1.8+	明赤褐	明赤褐	
図 180-26	06000765	SK0366	土師器	蓋	16.7*		3.1	褐	褐	
図 180-27	06000766	SK0366	土師器	蓋	18.0*		1.5	褐	褐	
図 180-28	22000251	SK0366	土師器	坏			1.8+	浅黄橙	浅黄橙	
図 180-29	22000252	SK0366	土師器	坏			3.2+	浅黄橙	浅黄橙	
図 180-30	06000769	SK0366	土師器	坏		11.0*	2.5+	淡褐	淡褐	
図 180-31	06000768	SK0366	土師器	坏		11.0*	1.8+	褐	褐	
図 180-32	07001727	SK0366	土師器	坏		9.8*	1.2+	黄褐	黄褐	
図 180-33	06000767	SK0366	土師器	坏	17.2	11.4	3.0	褐	褐	
図 180-34	07001728	SK0366	土師器	鉢	22.0*		12.8+	明褐	淡褐	
図 181-35	07001725	SK0366	土師器	甕	19.2*		21.4	褐	褐	
図 181-36	07001729	SK0366	土師器	甕	20.0*		13.1+	淡黄褐	暗褐	
図 181-37	07001730	SK0366	土師器	甕	22.0*		14.8+	褐	褐	
図 181-38	06000763	SK0366	土師器	甕	30.9*		10.4+	褐	褐	
図 181-39	06000764	SK0366	土師器	甕			10.2+	褐	褐	
図 182-40	07001723	SK0366	土師器	甕	20.0*	14.2	20.4	淡褐	明褐	
図 182-41	07001724	SK0366	土師器	把手			11.6+	明黄褐	明黄褐	
図 182-42	06001043	SK0555	土師器	甕	20.2*		16.8+	明黄褐	明黄褐	
図 182-43	06001217	SK0608	須恵器	坏	10.3*		3.0+	灰	灰	底部外面にヘラ記号
図 182-44	06001218	SK0608	須恵器	坏	12.4*		3.5	灰	灰	
図 182-45	06001216	SK0608	須恵器	甕			6.6+	灰	灰	
図 182-46	06000366	SK0608	土師器	坏	12.8*	7.2*	3.0	にぶい黄橙	浅黄橙	
図 182-47	06000365	SK0608	土師器	坏	13.9*	7.5	6.2	赤橙	赤橙	
図 182-48	06000363	SK0608	土師器	甕	23.1*		11.9+	橙・灰褐	褐	内面に煤付着
図 182-49	06001213	SK0608	土師器	甕	28.5*		8.7+	明茶褐	明茶褐	
図 183-50	06000364	SK0608	土師器	甕	26.2*		15.6+	橙	橙	内面に煤付着
図 183-52	06001259	SK0614	須恵器	坏	10.3*		3.9+	灰	灰	
図 183-53	06001257	SK0614	土師器	鉢	21.8*		8.2+	淡褐	淡褐	
図 183-54	06001258	SK0614	土師器	把手			9.7+	明黄褐	明黄褐	
図 183-55	06001266	SK0616	須恵器	蓋	16.7*		1.7+	灰白	灰白	
図 183-56	06001264	SK0616	須恵器	坏	15.6*	9.0*	4.2+	灰	灰	
図 183-57	06001265	SK0616	須恵器	甕			7.1+	灰	灰	
図 183-58	06001261	SK0616	土師器	坏	14.8*		5.1+	明黄褐	明黄褐	
図 183-59	06001262	SK0616	土師器	坏	15.0*		4.3+	明黄褐	明黄褐	
図 183-60	06001263	SK0616	土師器	坏	14.9*		4.1+	明黄褐	明黄褐	

遺跡南半部の遺構と遺物

図 183-61	06001362	SK0663	土師器	坏	13.6*	8.7	4.6	淡明褐	淡明褐	
図 183-62	06001394	SK0674	土師器	坏	9.6*	6.2*	1.6	灰白・淡褐	灰白・淡褐	
図 183-63	06001448	SK0709	須恵器	坏	8.3*		2.4+	灰白	灰白	
図 183-64	06001449	SK0709	須恵器	坏		11.2*	2.1+	灰	灰	
図 183-65	06001451	SK0710	土師器	甕	22.0*		8.0+	淡褐	淡褐	
図 184-66	06001472	SK0720	須恵器	蓋	16.9*		1.5+	灰	灰	
図 184-67	06001471	SK0720	土師器	甕	20.0*		7.4+	褐	淡褐	
図 184-68	06001494	SK0724	須恵器	蓋	14.6*		1.8+	灰	灰	
図 184-69	06001493	SK0724	須恵器	坏	9.0*	6.0	4.0	灰	灰	
図 184-70	06001491	SK0724	須恵器	坏	13.8*	9.4*	5.8	灰	灰	
図 184-71	06001492	SK0724	須恵器	坏	14.2*	8.0*	4.9	灰	灰	
図 184-72	22000255	SK0724	須恵器	甕			11.2+	黒	黄灰	
図 184-73	06001495	SK0724	須恵器	甕			9.2+	暗灰	暗灰	
図 184-74	06001489	SK0724	土師器	坏	14.7*		5.0	淡褐	淡褐	口縁部外面に線刻
図 184-75	06001490	SK0724	土師器	坏	14.3		4.6+	明黄褐・淡褐	淡褐	
図 184-76	22000256	SK0724	土師器	把手			11.6+	浅黄橙	浅黄橙	
図 184-77	06000450	SK0770	土師器	甕	20.0*		37.2	明赤褐・にぶい黄褐	明赤褐	
図 185-78	18000830	SP0384	土師器	皿	9.2	7.4	0.8	浅黄橙	浅黄橙	
図 185-79	18000831	SP0384	土師器	皿	9.3	8.0	1.0	灰白	灰白	
図 185-80	18000832	SP0384	土師器	皿	9.3	7.9	1.4	灰白	灰白	
図 185-81	18000833	SP0384	黒色土器	椀	16.6	7.7	6.0	黒	黒褐	黒色土器B類

表 51 各地区 出土石製品・鉄製品・木製品

挿図・番号	佐賀県遺物 登録番号	地区名	出土位置	種別	器種	寸法 cm			重量 g	材質	備考
						長さ	幅	厚さ			
図 48-350	92000630	志波屋四の坪地区Ⅰ区	SE1119	石製品	紡錘車	3.7	3.7	1.1	26.7		
図 49-364	22000778	志波屋四の坪地区Ⅰ区	官道南	石製品	石権	4.4	2.6	1.7	26	真岩	
図 62-527	92004027	志波屋四の坪地区Ⅰ区	SK1004	木製品	木筒	9.0+	3.0	0.6			
図 62-528	92004026	志波屋四の坪地区Ⅰ区	SK1004	木製品	木筒	20.7+	3.8+	0.5			
図 64-585	23000648	志波屋四の坪地区Ⅰ区	SK1012	石製品	紡錘車	3.8	2.0+	1.5	15.9	滑石	
図 118-34	92004025	吉野ヶ里地区Ⅳ区	SE0147	木製品	木筒	10.6+	2.8+	0.5			
図 127-80	01000919	吉野ヶ里丘陵地区Ⅵ区	No.124 トレンチ	石製品	石帯	3.8	3.5	0.8	20.4		
図 147-36	12002557	吉野ヶ里地区Ⅴ区	SH1326	石製品	白玉	0.6	0.6	0.3			
図 165-18	22000779	吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区	P522	石製品	石権	5.7	2.7	2.4	52.3	滑石	
図 183-51	18000973	田手二本黒木地区Ⅲ区	SK0608	鉄製品	鉄鎌	11.0+	2.3+	0.5		-	
図 185-82	18000864	田手二本黒木地区Ⅲ区	SP0384	鉄製品	鉄刀	30.7+	3.4	0.7		-	

第5章 まとめ

(1) 吉野ヶ里遺跡における古代官道について (表 52)

佐賀県内の古代官道については平成3年度(1991年度)から平成6年度(1994年度)にかけて佐賀県教育委員会(現:文化財保護・活用室)が国庫補助事業をうけ、肥前西海道跡発掘調査事業を実施し、1995年に「古代官道・西海道肥前路」刊行された。この報告書では、佐賀平野を直線で約17kmにわたる佐賀市から吉野ヶ里町までの道路痕跡を含めた発掘調査成果がまとめられている。ここでは先の報告書の内容と概ね相違無いものの、現段階での成果をまとめておく。

志波屋四の坪地区I区南部、志波屋三の坪地区の両地区をまたがるように官道が確認され、これに伴う両側の側溝も確認された。また、東側の段丘部では切通しとなっており、現在でも見ることができる。切通し部分について調査は行われていない。北側面は水平から約35°の傾斜で切られており、段丘頂部から切通しの路面までは約5mの差がある。段丘切通しの道路幅は約7m前後で、段丘東側裾部までの約80mの区間で切通しが形成されたと考えられる。志波屋四の坪地区I区南部の遺存状態が比較的良いが、丘陵裾部ということもあり遺構の上部は後世の水田等によって削平されていた。北側溝(SD1007)が最も残りが良く、幅が1.9～5.0m、深さは0.5mで、直線距離にして65mほど検出された。一方、南側溝(SD1006)は北側溝に比べて小規模で、幅1.8～3.3m、深さは0.2mで、直線距離にして48mほどが検出された。両溝の西側は削平によって残っておらず、東側は切通し部分の手前で途切れている。北側溝(SD1007)内からは6世紀後半から8世紀後半に至るまでの遺物が出土しており、この北側溝が長く使用されたことや8世紀後半または末頃に埋没したことも想定できる。また、出土量は少ないが、南側溝(SD1006)からも6世紀後半代と8世紀代の遺物が出ている。これら両溝に挟まれた部分が官道(SF1008)であると考えられるが、道路幅は側溝の芯々距離で約13～16mである。官道面の路面には波板状痕跡や硬化面などはみられず、上部が削平されたものと推測される。官道検出面からの出土ではあるが、遺構上部が削平されていることを考えれば、官道構築時の盛土内の出土とも捉えることができ、6世紀後半や7世紀代、8世紀代と多くの遺物が確認されている。官道が6世紀後半の土坑(SK1009)を切っていることや、検出面(盛土内)から出土した遺物、官道南側の建物群

表 52 佐賀県内道路跡一覧(1995『古代官道・西海道肥前路』を一部改変)

遺跡名(地区名)	所在地	道路幅(m) 芯々距離	北側溝(m)		南側溝(m)		工法	
			幅	深さ	幅	深さ		
鍵尼	佐賀市大和町		0.6	0.2			Ala	
東古賀	佐賀市大和町	地山を皿状に深さ約0.6m掘り窪める。						Cc
松原	佐賀市	10.5	0.8	0.2	1.4	0.15	Ca	
大野原A	佐賀市	10.5	2.5～1.5	0.3	1.0	0.25	Ca	
大野原B	佐賀市	地山を幅12～16m、深さ0.2～0.3m掘り窪める。						Cc
大野原	佐賀市	8	0.6～0.9	0.2～0.3m	1.5	0.3	Ca	
東高田	佐賀市	9.7	3.8	1.0	2.4	1.0	Cac	
迎田	神埼市	地山を幅5.2m、深さ0.4m掘り窪める。						Cc1
迎田Ⅲ	神埼市	幅15mの硬化面、側溝なし。						Ca
迎田Ⅳ	神埼市	14.4	1.3	0.4	0.6	0.1	Ca	
迎田Ⅳ	神埼市	5.6	2.1	0.35	0.6	0.1	Ca	
野島	神埼市	8	硬化面の検出。					Cb
唐香原・祇園原	神埼市	地山を皿状に幅約8m掘り窪める。						Alc1
鶴籠	神埼市	硬化面の検出。						Cb
鶴前田	神埼市	16～17	2～2.5		2～2.5		Ca	
中園	神埼市	8.8	2～3.2	0.4	1.2	0.4	Ca	
中園	神埼市	8.8	0.7	0.25	4～5	0.5	Ca	
吉野ヶ里	神埼市	13～16	1.9～5.0	0.5	1.8～3.3	0.2	AⅡ、Cac2	
鳥の隈	吉野ヶ里町	5.3	0.6～0.7	0.1	0.3	0.1	AⅡa	

まとめ

は7世紀後半に造られることから7世紀のうちには官道が敷設された可能性が考えられる。ここでは7世紀代の前半か後半かという厳密な時期についての言及は避けるが、官道より北側の多数の建物群の詳細な検討によって結果が得られることに期待したい。北側溝（SD1007）に続く溝（SD1043）の中からは、6世紀後半から8世紀後半までの幅広い遺物が多数出土しており、北側溝（SD1007）と併存していた可能性が高い。また、溝（SD1043）の北側の先にある井戸（SE1119）からは8世紀末から9世紀初頭と考えられる須恵器、土師器が出土しており、官道の下限を示す一つの遺構と言える。

官道は7世紀代に造られ、9世紀初頭には終わりを迎える。官道としての機能は失われてしまうが、道路としての機能は中世頃まで残り、現代でも一部利用されている場所もある。

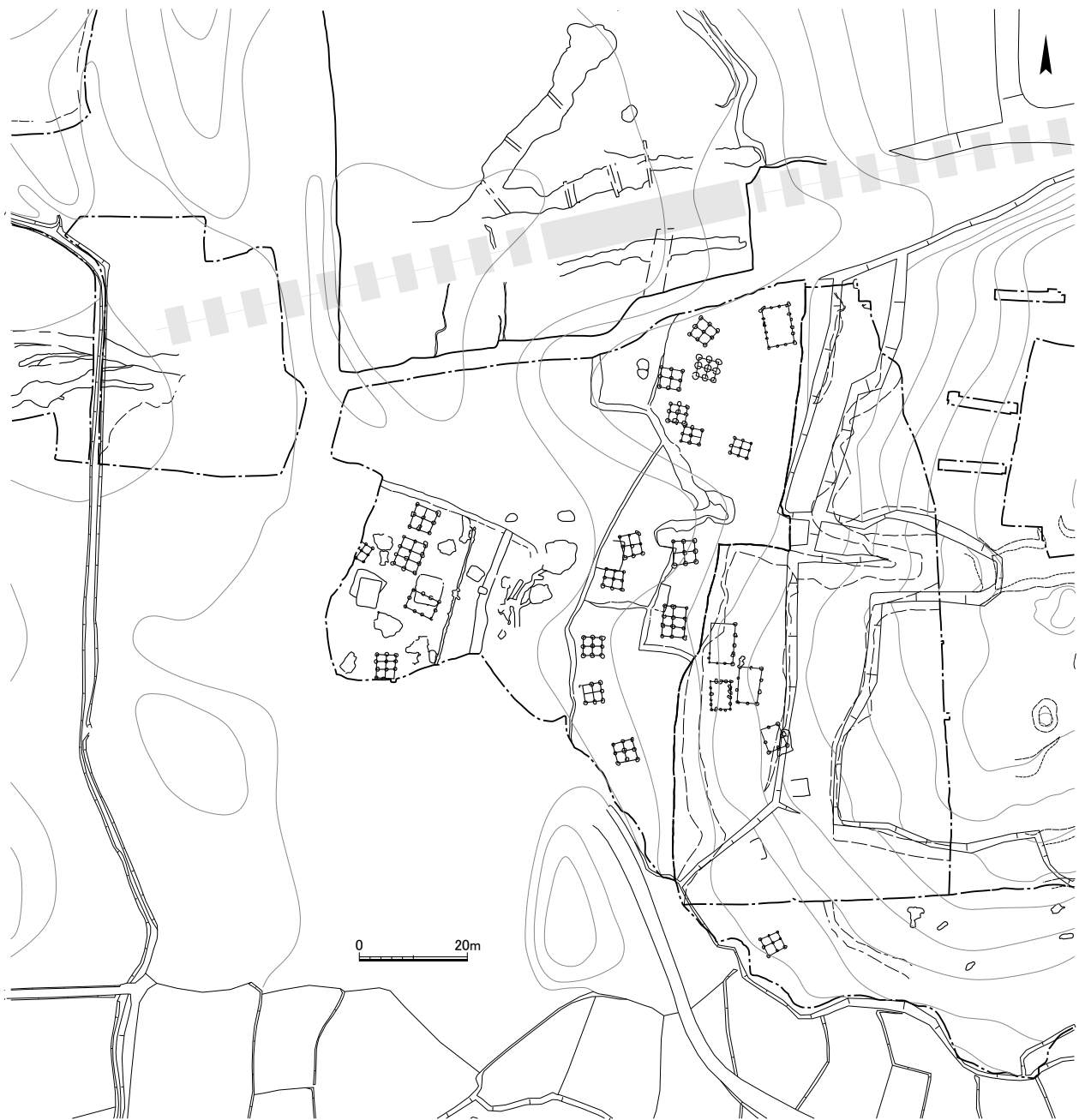


図 186 古代官道周辺の遺構配置 (1/1,200)

(2) 官道周辺及び遺跡南半部の遺構について (図 186、187)

官道より以南の遺構については、掘立柱建物 49 棟 (うち、総柱建物は 34 棟、側柱建物は 14 棟)、竪穴建物 15 軒、溝 17 条、道路 1 条、井戸 13 基、土坑 68 基、土坑墓 12 基が確認できる。

掘立柱建物は総柱建物と側柱建物に分けられるが、総柱建物の造りは 2 間×2 間を基本とし、平面積は 10㎡前後となる。対して、側柱建物は梁行は 2～4 間×2～5 間、平面積は 15～44㎡と建物によって規模や構造が異なる。また、総柱建物の梁行の柱間は 1.3～2.1m、桁行は 0.8～2.6 で、柱穴の規模は 0.3～1.1 とやや柱間や大きさに振れ幅はあるものの、突出した規模をもつ建物は存在しない。側柱建物の梁行、桁行それぞれの柱間は 0.6～2.1m、柱穴の規模は 0.2～0.9m と総柱建物と同様、振れ幅はあるものの突出した規模をもつ建物は存在しない。出土遺物が少なく、時期決定をするには困難な建物も存在するが、周囲の遺構の時期や官道との関連性から 7 世紀後半～9 世紀代までとした。

竪穴建物は基本的に掘立柱建物の近く、または重なるように位置しており、官道周辺から吉野ヶ里地区 V 区までの間に存在しており、吉野ヶ里地区 V 区より以南には出現しない。一辺が 3m 以上を基本とし、最大でも 5.9m である。平面は長方形・方形を基調とし、屋内施設をもつものはほとんどない。時期は 8 世紀代を中心とする。

土坑は遺跡南半部の全体に点在しており、規模も大小様々である。その中でも特に注目したのが、志波屋四の坪地区 I 区南部の SK1004 と SK1115 の土坑である。官道より南に約 60m の場所に位置しており、東側と西側に掘立柱建物が複数配置される。SK1004 は長軸 7.7m、短軸 6.2m、深さ 1.1m、SK1115 は長軸 4.4m、短軸 3.6m、深さ 1.0m と他の土坑に比べて大きいことが分かる。志波屋四の坪地区 I 区南部でも述べた通り、時期的には幅をもつものの両土坑とも 8 世紀後半を主体とするものである。多量の須恵器、土師器、墨書土器、木簡が出土することから廃棄土坑と考えられる。

土坑墓については官道より離れた場所に位置し、多くとも 2 基が近接して配置される傾向がある。平面隅丸長方形を基本形とし、素掘りを行い主軸方向を東西方向に向けるものが多い。高台が細長く、器高が高い土師器や黒色土器を副葬する例がほとんどである。時期は 9～10 世紀代と推定される。

官道周辺の建物配置 (図 186) について、志波屋四の坪地区 I 区南部および吉野ヶ里丘陵地区 I・IV 区を中心に見ていく。通常、遺構配置図からだと主軸方向を揃えない建物群という見方になるが、地形測量図と併せて見ると掘立柱建物が平坦地であったり、同じ標高に沿って位置していることが分かる。つまり、これらの建物群は主に官道の敷設時又は敷設後に建てられ、官道に主軸を揃えた建物配置ではなく、変化する地形の中で平坦部や地形に沿った場所を選択し建てたと考えられる。さらに官道周辺より南の建物群へ目を向けると、吉野ヶ里地区 II、III 区の建物群の主軸は官道に合わせており、これら建物群が官道の存続期間に計画性をもって建てられたことがいえるであろう。

建物群の単位としては北から①志波屋四の坪地区 I 区南部、吉野ヶ里丘陵地区 I、IV 区、②吉野ヶ里地区 II～IV 区、③吉野ヶ里地区 V 区の 3 つに分けられる。③の吉野ヶ里地区 V 区より以南には掘立柱建物は確認されず、南端に向かうにつれて古代の遺構は希薄になる。①、②、③それぞれに建物群が位置する中、平面積が 30㎡を超える側柱建物が各単位 (①～③) ごとに 1 棟存在しており、建物群内における側柱建物の位置づけを考える必要がある。

(3) その他、特筆すべき遺物等について (図 188)

本書内において特筆すべき古代の出土遺物について紹介する。志波屋四の坪地区 I 区の官道の北側溝 (SD1007) やそれに接続する溝 (SD1043) からは硯の破片が出土しており、いずれも円面硯の一部と考えられる。官道より北側でも残りの良い円面硯や硯に伴う筆立て片も出土している。また、官道南側より頁岩製の権が見つかり、さらに南側の吉野ヶ里丘陵地区 VII 区でも滑石製の権が見つかった。これら石製の権は物の重さをはかる際に用いるもの

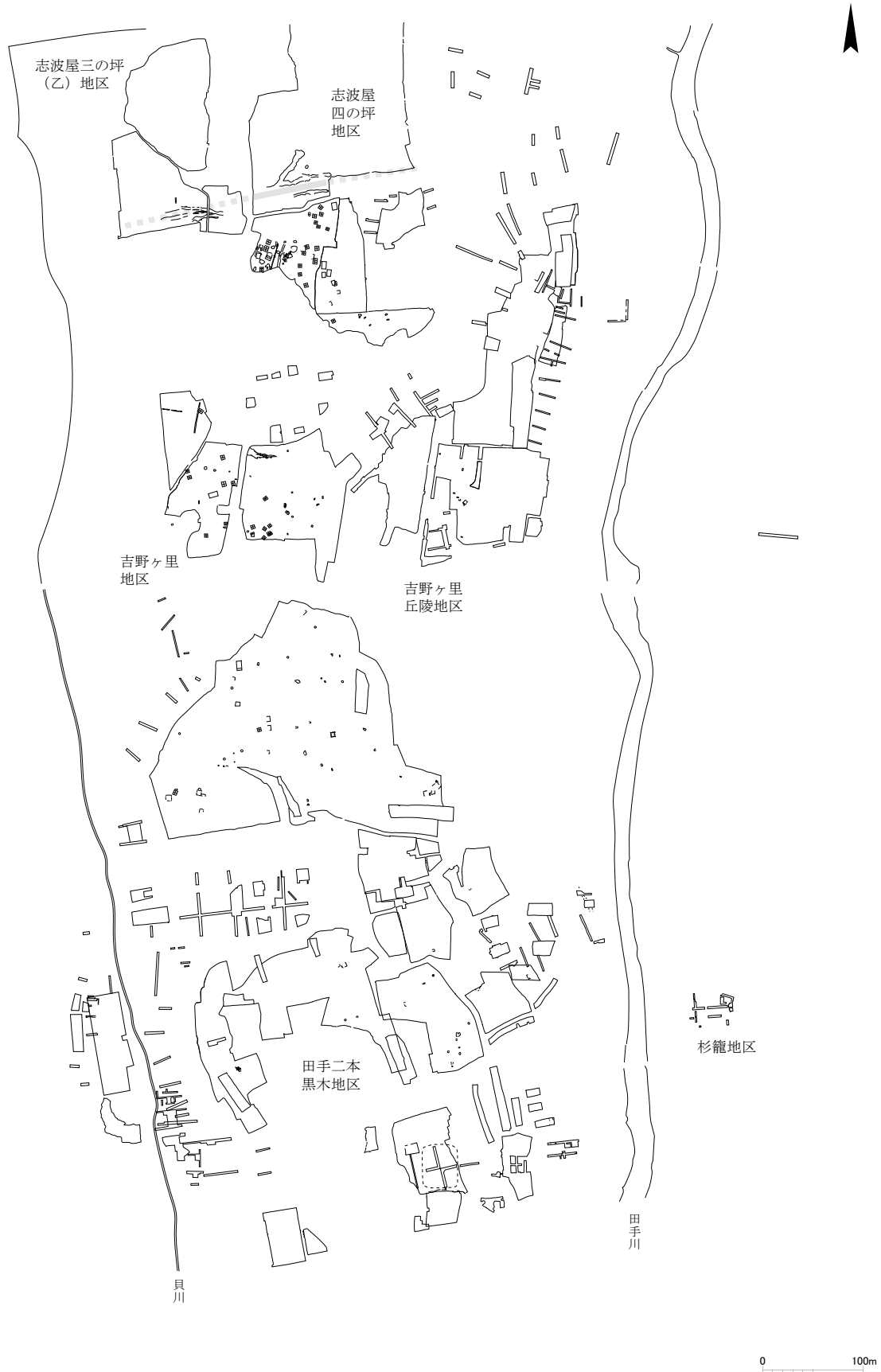


図 187 遺跡南半部の古代の遺構配置 (1/6,000)

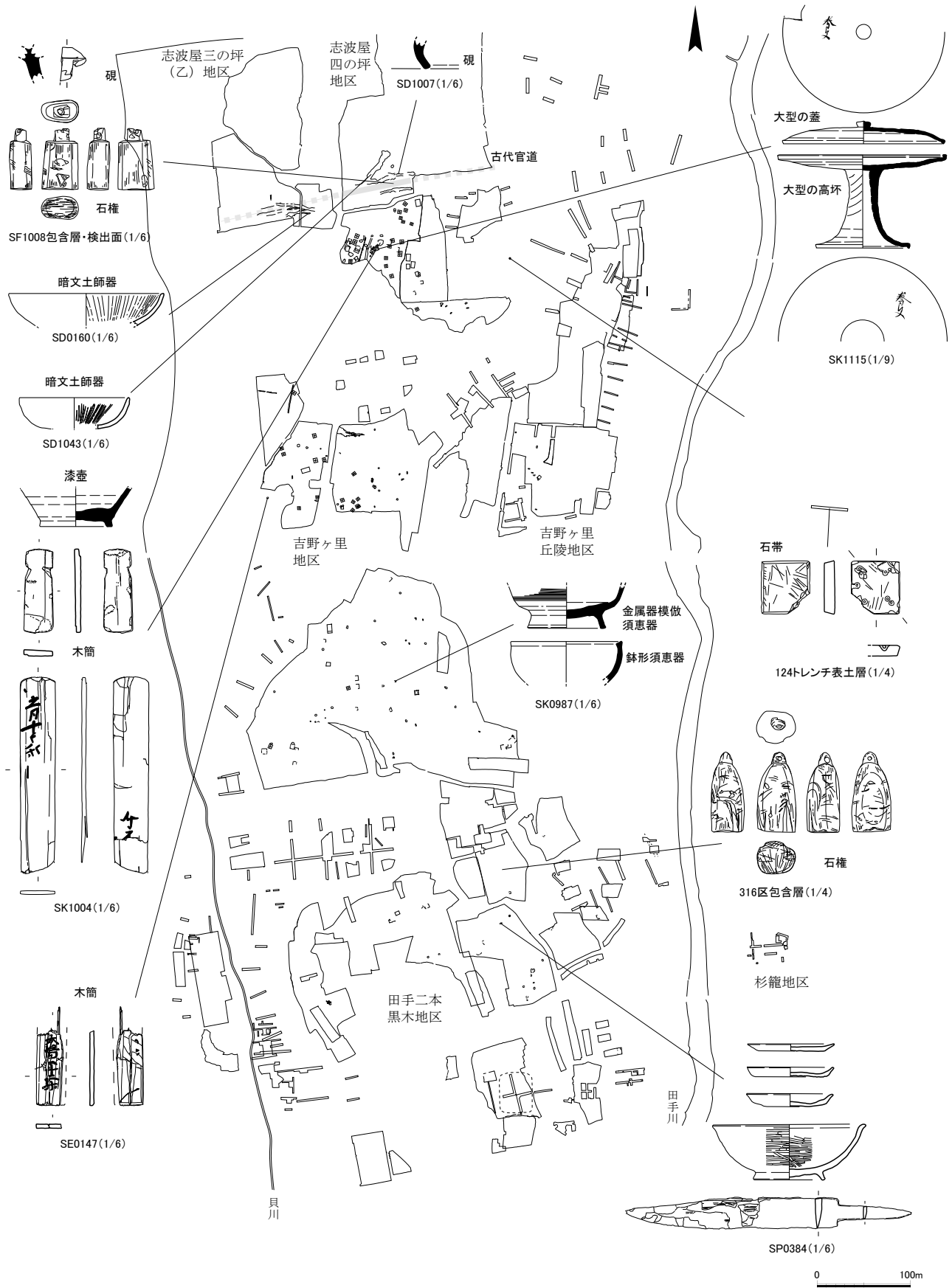


図 188 古代の特筆すべき遺物の出土位置 (1/6,000)

で、中国より朝鮮半島を経由して日本に伝来したと考えられ、材質は金属製、石製、土製、須恵質と様々である。佐賀県内では15例ほど権が確認される。吉野ヶ里丘陵地区Ⅶ区で見つかった権は滑石製の石鍋の転用によって作られたものと考えられ、中世まで時期が下る可能性もある。官道周辺では溝内からではあるが、志波屋四の坪地区Ⅰ区の溝（SD1043）、志波屋三の坪地区の溝（SD0160）より内面に放射状に付ける暗文土師器が出土している。佐賀県内でも暗文土師器は少なく、基本的には官衛に関連する場所から出土する。官道南側の土坑（SK1004）内からは多くの須恵器、土師器、墨書土器と一緒に漆壺と木簡が確認された。この漆壺は須恵器で、底径から小型から中型の大きさと推定され、破断面にも漆が付着していることから、漆の容器として使用した後も内面に付いている漆を余すことなく取り出そうとした様子がうかがえる。近くの土坑（SK1115）からは遺跡内では最も大きい須恵器の蓋（口径25.8cm）と高坏（口径26.8cm、器高15.0cm）が出ている。その2つの須恵器には「養父」という墨書がみられ、肥前国東部に位置する「養父郡」との関連性が考えられる。両者とも8世紀後半の所産と考えられる。確認調査時ではあるが、北墳丘墓より南東より約300mに位置する124トレンチより石製の巡方が出土している。なお、銚帯や石帯は佐賀県で20例を超える数が発見されている。吉野ヶ里地区Ⅳ区の井戸（SE0147）からは「・・大嶋一斗二升」と書かれた木簡が出土し、後半の記載内容から支給関連の文書と考えられ、この辺り一帯で支給や配給が行われていたことを示す。吉野ヶ里地区Ⅴ区の土坑（SK0987）からは須恵器椀と鉢が出土している。須恵器椀は高台の高さや形状、体部にカキメを付けることから金属器模倣の須恵器椀と考えられる。南側に位置する田手二本黒木地区Ⅲ区の調査区内において平安時代まで時期は下るが、土師器小皿3枚と黒色土器B類、鉄刀を副葬した土坑墓（SP0384）が見つかっている。時期が特定でき、副葬品が充実している例は少なく珍しい。

通常、窯内において還元焰によって焼成された須恵器の器面は黒灰色等になる。しかし、本書で紹介した須恵器の中には一定数、器面が灰白色または白色系の焼成不良の須恵器がみられる。調整技法や細かな部分的な形状によって須恵器と判断できるが、官衛的な遺跡の中において焼成不良、つまりは失敗品の須恵器を搬入することがあるのだろうかという疑問が残る。使用する階層差によるものなのか、単純に歪んでいなければ器として使用するのか、注目したい。

第5章 参考文献

- 小松讓（1997）「佐賀平野の古代官道」『佐賀県における古代官衛遺跡の調査』
- 小松讓（2004）「肥前国」『日本古代道路事典』
- 佐賀県教育委員会（1995）『古代官道・西海道肥前路』
- 重藤輝行（2020）「佐賀平野の古代の官道」『長崎街道2・竹崎街道』佐賀県文化財調査報告書第226集
- 吉村靖徳（1995）「九州歴史資料館 研究論集20」『権衛に関する一考察 福岡県内出土権状製品の検討と課題』

写真図版



吉野ヶ里遺跡全景（南から）



志波屋三の坪地区、志波屋四の坪地区Ⅰ区 古代官道 全景（西から）



志波屋四の坪地区Ⅰ区 古代官道とその周辺 全景（上が北）



志波屋四の坪地区Ⅰ区 南部 全景（上が北）



志波屋四の坪地区Ⅰ区 南部1（上が北）



志波屋四の坪地区1区 南部2 (上が北)



志波屋四の坪地区1区 南部3 (上が北)

写真図版6



SYT SB0791 (北から)



SYT SB0792 (北から)



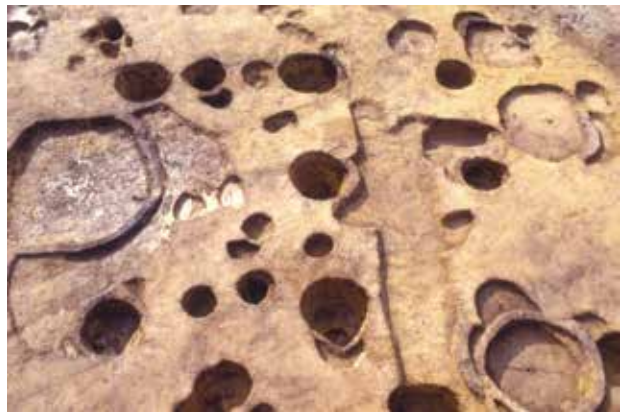
SYT SB0793 (北から)



SYT SB0794 (東から)



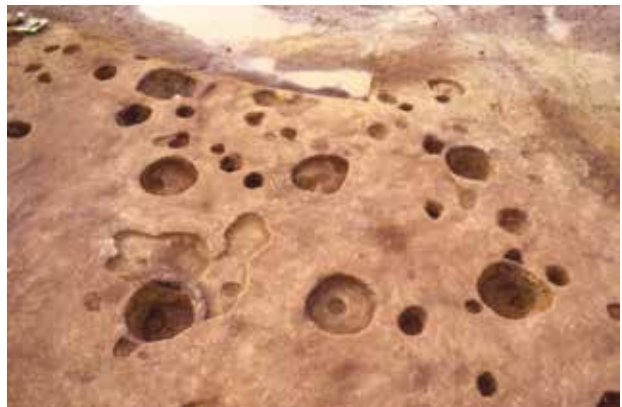
SYT SB0795 (北から)



SYT SB0796 (北から)



SYT SB0797 (東から)



SYT SB0798 (東から)



SYT SB0799 (北から)



SYT SB0800 (東から)



SYT SB0803 (東から)



SYT SB0804 (東から)



SYT SB0805 (東から)



SYT SB0806 (東から)



SYT SB1022 (南から)



SYT SB1023 (北から)

写真図版 8



SYT SB1024 (東から)



SYT SB1025 (北から)



SYT SB1026 (西から)



SYT SD1006 西アゼ土層 (西から)



SYT SD1007 1アゼ土層 (西から)



SYT SD1021・1028 (北から)



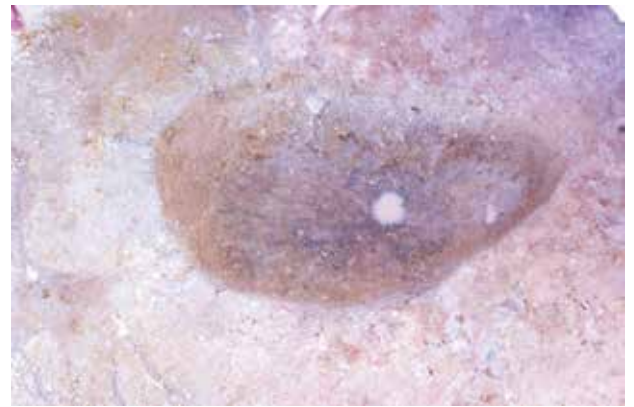
SYT SD1043 (北から)



SYT SE0807 (左)・SE0808 (右) (東から)



SYT SE1039 (北から)



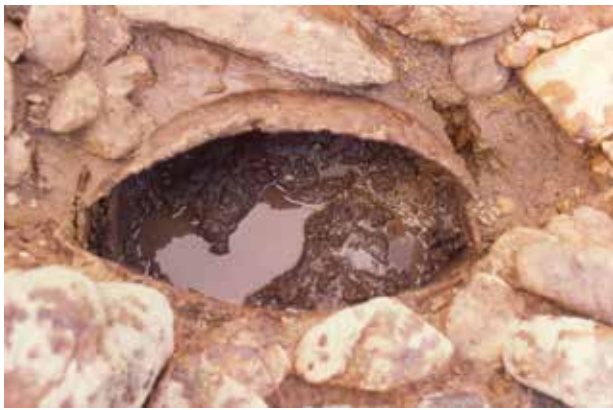
SYT SE1040 (北から)



SYT SE1119 全景 (北東から)



SYT SE1119 近景 (北東から)



SYT SE1119 井戸枠 (北東から)



SYT SE1119 井戸枠取り上げ後 (北から)



SYT SH1013 (西から)



SYT SH1017 (東から)



SYT SH1018 (北から)



SYT SK1004 (西から)



SYT SK1046 木器出土状況 (西から)



SYT SK1115 出土状況 1 (東から)



SYT SK1115 出土状況 2 (東から)



SYT SX1015 (東から)



SYT SX1019 (西から)



SYT SX1020 (西から)



SYT SX1029 (西から)



SYT SX1036 (西から)



SSO SD0157 (西から)



SSO SK0164 (北から)



YGK- I SB0040 (東から)



YGK- I SK0029 (南から)



YGK- I SK0031 (西から)



YGK- I SK0042 (南から)



YGK- I SK0043 (東から)



YGK- I SK0044 (南から)



YGK- I SP0021 (西から)



YGK- I SP0022 (北西から)



YGK- IV SB0553 (南から)



YGK- IV SB0554 (西から)



YGK- IV SB0555 (北から)



YGK- IV SB0556 (北から)



YGK-IV SH0543 (北から)



YGK-IV SH0544 (西から)



YGK-IV SK0568 (西から)



YGK-IV SK0569 (西から)



YNG-I SK0181 (北から)



YNG-I SK0191 (北から)



YNG-I SK0704 (西から)



YNG-I SP0148 (西から)



YNG- II SB0473 (北から)



YNG- II SB0474 (東から)



YNG- II SB0475 (北から)



YNG- II SB0476 (東から)



YNG- II SB0477 (南から)



YNG- II SB0478 (東から)



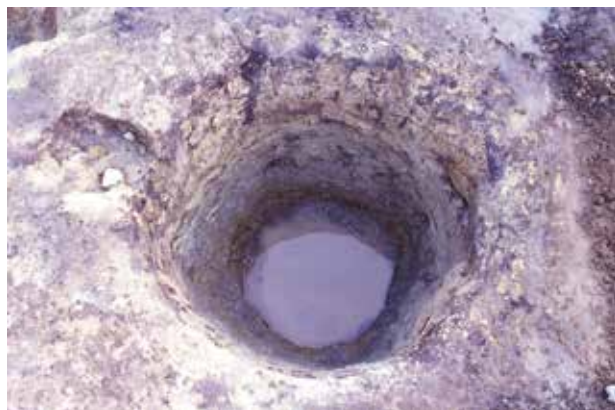
YNG- II SB0479 (東から)



YNG- II SB0488 (南から)



YNG- II SD0418 (東から)



YNG- II SE0470 (北から)



YNG- II SE0470 土層



YNG- II SE0471 (北から)



YNG- II SE0471 土層



YNG- II SE0472 (西から)



YNG- II SK0387 (東から)



YNG- II SK0389 (西から)



YNG- II SK0390 (西から)



YNG- II SK0393 (北から)



YNG- II SK0395 (西から)



YNG- II SK0397 (西から)



YNG- II SK0416 (東から)



YNG- II SK1415 (東から)



YNG- II SP0381 (東から)



YNG- III SB0618 (北から)



YNG- III SB0619 (北から)



YNG- III SB0620 (南から)



YNG- III SB0621 (東から)



YNG- III SB0622 (西から)



YNG- III SB0623 (西から)



YNG- III SB0624 (東から)



YNG- III SE0630 (北から)



YNG- III SE0675 出土状況 (南から)



YNG- III SE0675 最下層出土状況 (西から)



YNG- III SK0645 (東から)



YNG- III SP0631 (南から)



YNG- IV SB0660 (北から)



YNG- IV SD0659 (北から)



YNG- IV SE0147 (北から)



YNG- IV SE0147 土層



YGK- VI SK1154 出土状況 (西から)



YGK- VI SK1192 出土状況 (北東から)



YGK- VI SP1142 出土状況 (北から)



YGK- VI SP1151 出土状況 (北東から)



YGK- VI SP1152 出土状況 (北東から)



YGK- VI SP1187 出土状況 (北から)



YGK- VI SP1220 (西から)



YNG- V SB1083 (北から)



YNG- V SE1024 (北から)



YNG- V SE1049 (北から)



YNG- V SE1117 (北から)



YNG- V SE1126 (西から)



YNG- V SE1129 (北から)



YNG- V SE1132 (東から)



YNG- V SE1135 (東から)



YNG- V SH1080 (北から)



YNG- V SH1191 (北から)



YNG- V SH1192 (北から)



YNG- V SH1250 (北から)



YNG- V SH1251 (北から)



YNG- V SK0870 (東から)



YNG- V SK0915 (東から)



YNG- V SK0918 (北から)



YNG- V SK0919 (西から)



YNG- V SK0987 (東から)



YNG- V SK1073 (南から)



YGK- III SH0647 (東から)



YGK- III SH0860 (北から)



YGK- III SK0627 (南から)



YGK- III SK0631 (北から)



YGK- III SK0842 (西から)



YGK- III SK0858 (西から)



YGK- VII SK2493 (東から)



TDN- III SD1533 土層 (南から)



TDN- III SK0608 (西から)



TDN- III SK0614 (北から)



TDN- III SK0663 (西から)



TDN- III SK0720 (南から)



TDN- III SP0384 (南から)



TDN- III SP0384 出土状況



SYT SK1004 集合 (墨書土器、転用碗)



SYT SK1115 集合 (墨書土器、転用碗)



SYT SE1119 集合



YGK- VI SP1151 集合



YGK- VI SP1152 集合



YGK- VI SP1187 集合



SYT SD1007 42



SYT SD1028 127



SYT SD1007 62



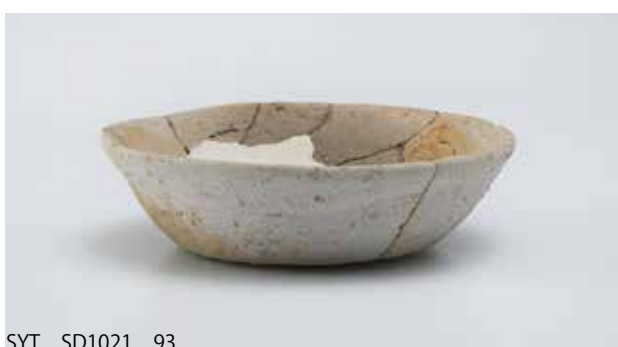
SYT SD1043 136



SYT SD1007 75



SYT SD1043 158



SYT SD1021 93



SYT SD1043 180



SYT SD1028 118



SYT SD1043 227



SYT SD1043 240



SYT SD1043 288



SYT SD1043 255



SYT SD1043 304



SYT SD1043 256



SYT SD1043 308



SYT SD1043 266



SYT SE0808 318



SYT SD1043 274



SYT SE1040 333



SYT SF1008 検出面 351



SYT SK1004 409



SYT SF1008 検出面 361



SYT SK1004 415



SYT SF1008 検出面 362



SYT SK1004 416



SYT SF1008 検出面 363



SYT SK1004 422



SYT SF1008 検出面 364



SYT SK1004 423



SYT SK1004 424



SYT SK1004 430



SYT SK1004 437



SYT SK1004 431



SYT SK1004 444



SYT SK1004 432



SYT SK1004 456



SYT SK1004 434



SYT SK1004 457



SYT SK1004 436



SYT SK1004 476



SYT SK1004 478



SYT SK1004 488



SYT SK1004 485



SYT SK1004 489



SYT SK1004 486



SYT SK1004 492



SYT SK1004 487



SYT SK1004 493



SYT SK1004 506



SYT SK1011 531



SYT SK1004 514



SYT SK1011 534



SYT SK1004 515



SYT SK1011 540



SYT SK1004 516



SYT SK1011 544



SYT SK1004 517



SYT SK1011 546



SYT SK1011 530



SYT SK1011 547



SYT SK1011 551



SYT SK1011 558



SYT SK1011 560



SYT SK1012 569



SYT SK1012 570



SYT SK1012 575



SYT SK1046 600



SYT SK1115 606



SYT SK1115 608



SYT SK1115 609



SYT SK1115 611



SYT SK1115 642



SYT SK1115 615



SYT SK1115 647



SYT SK1115 617



SYT SK1115 648



SYT SK1115 621



SYT SK1115 651



SYT SK1115 628



SYT SK1115 663



SYT SK1115 664



SYT SK1115 665



SYT SK1115 667-1



SYT SK1115 668-1



SYT SK1115 667-2



SYT SK1115 668-2



SYT SK1115 685



SYT SK1115 709



SYT SK1115 686



YGK- I SK0044 7



YNG- II SE0472 24-1



YGK- IV SK0568 3



YNG- II SE0472 24-2



YGK- IV SK0569 4



YNG- II SK0416 51



YNG- I SK0191 2



YNG- II SK0416 52



YNG- I SP0148 5



YNG- III SE0630 10



YNG- I SP0148 6



YNG- III SE0630 12



YNG- III SE0630 13



YNG- III SE0675 20



YNG- III SE0675 24



YNG- III SE0675 27



YNG- III SE0675 28-1



YNG- III SE0675 28-2



YNG- III SE0675 34



YNG- III SE0675 40



YNG- III SP0631 49



YGK- VI SK1155 23



YGK- VI SK1155 25



YNG- V SE1105 10



YGK- VI SK1192 56



YNG- V SE1105 11



YGK- VI 124 トレンチ 80-1



YNG- V SE1105 12



YGK- VI 124 トレンチ 80-2



YNG- V SH1251 24



YNG- V SE1105 8



YNG- V SK0870 51



YNG- V SE1105 9



YNG- V SK0870 54



YNG- V SK0987 97



TDN- II SK0131 5



YNG- V SK0987 98



TDN- III SK0366 40



YGK- III SK0858 14



TDN- III SK0608 47



YGK- VII SK2151 2



TDN- III SK0608 51



YGK- VII 包含層 18



TDN- III SK0724 69



TDN- III SK0724 74



TDN- III SP0384 82

報告書抄録

ふりがな	よしのがりいせき こだいへん2						
書名	吉野ヶ里遺跡 古代編2						
副書名	官道及び遺跡南半部						
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書						
シリーズ番号	第234集						
編著者名	塩見恭平						
編集機関	佐賀県						
所在地	〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号 TEL: 0952-25-7233						
発行年月日	2024(令和6)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘原因
		市町村	遺跡番号				
よしのがりいせき 吉野ヶ里遺跡	さがけん 佐賀県 かんざきしおおあざしわや 神埼市大字志波屋・ つるたみちがり 鶴・田道ヶ里 よしのがりちようおおあざたて 吉野ヶ里町大字田手	412104	0215	33° 19' 37"	130° 23' 10"	1986～2012	工業団地計画 遺跡の内容の把握、歴史公園整備に係る資料を得るため
		413275	0081	日本測地系 (33° 19' 25")	日本測地系 (130° 23' 18")		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
吉野ヶ里遺跡	集落 墓 交通	古代	竪穴建物 15 掘立柱建物 49 井戸 13 土坑 68、土坑墓 11 溝 17、道路 1	須恵器、土師器、石製品、木製品、 鉄器		官道および関連遺構 掘立柱建物	
要約	<p>本書は、これまで実施された吉野ヶ里遺跡の発掘調査における古代についてまとめた報告書である。吉野ヶ里遺跡は、地元 の教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が主体となり、継続して調査が行われてきた。平成4年に神埼工業団地計画に 伴う調査の概要報告書が刊行されているが、それ以降の調査成果を含めて総括した報告書は刊行できていない。本書では、古 代の官道や遺跡南半部における様相について、掘立柱建物などの基礎的なデータを報告して、現段階での調査成果をまとめて いる。また出土遺物の分析などに課題が残されており、今後の総括報告の中でできる限り解明していく必要がある。</p>						

佐賀県文化財調査報告書第 234 集
吉野ヶ里遺跡 古代編 2
—官道及び遺跡南半部—

令和6年(2024)年3月

発行 佐賀県

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号

印刷 株式会社佐賀印刷社

〒849-0921 佐賀市高木瀬西6丁目11番7号
